

付表Ⅱ

文献気象史料一覧表

凡例

- | | |
|---------------------|------------------------|
| 1. 日本書紀 (1～3) | 10. 大日本史 (本紀) (71～103) |
| 2. 続日本紀 (4～8) | 11. 本朝通鑑 (104～130) |
| 3. 日本後紀 (9～10) | 12. 続史愚抄 (131～147) |
| 4. 続日本後紀 (11～14) | 13. 大日本野史 (148～158) |
| 5. 日本文徳天皇実録 (15～17) | 14. 徳川実紀 (159～205) |
| 6. 日本三代実録 (18～30) | 15. 続徳川実紀 (206～216) |
| 7. 日本紀略 (31～59) | 16. 武江年表 (217～238) |
| 8. 扶桑略記 (60～66) | 17. 泰平年表 (239～243) |
| 9. 貞信公記抄 (67～70) | 18. 三国史記 (244～250) |

凡例

1. 文献史料は下記の注釈書籍から抽出し、巻・ページ数もこれによる記載。

(1) 日本書紀

黒板勝美・国史大系編修会編 1952『日本書紀』新訂増補/国史大系第1巻下 吉川弘文館

(2) 続日本紀

黒板勝美・国史大系編修会編 1934『続日本紀』新訂増補/国史大系第2巻 国史大系刊行会・吉川弘文館・日用書房

(3) 日本後紀

黒板勝美・国史大系編修会編 1934『日本後紀・続日本後紀・日本文徳天皇実録』新訂増補/国史大系第3巻 国史大系刊行会・吉川弘文館・日用書房

(4) 続日本後紀

黒板勝美・国史大系編修会編 1934『日本後紀・続日本後紀・日本文徳天皇実録』新訂増補/国史大系第3巻 国史大系刊行会・吉川弘文館・日用書房

(5) 日本文徳天皇実録

黒板勝美・国史大系編修会編 1934『日本後紀・続日本後紀・日本文徳天皇実録』新訂増補/国史大系第3巻 国史大系刊行会・吉川弘文館・日用書房

(6) 日本三代実録

黒板勝美・国史大系編修会編 1934『日本三代実録』新訂増補/国史大系第4巻 国史大系刊行会・吉川弘文館・日用書房

(7) 日本紀略

①黒板勝美・国史大系編修会編 1934『日本紀略(前篇)』新訂増補/国史大系第10巻 国史大系刊行会・吉川弘文館・日用書房

②黒板勝美・国史大系編修会編 1929『日本紀略(後篇)・百鍊抄』新訂増補/国史大系第11巻 国史大系刊行会・吉川弘文館・日用書房

(8) 扶桑略記

黒板勝美・国史大系編修会編 1932『扶桑略記・帝王編年記』新訂増補/国史大系第12巻 国史大系刊行会・吉川弘文館・日用書房

(9) 貞信公記抄

東京大学史料編纂所 1956『貞信公記』大日本古記録 岩波書店

(10) 大日本史(本紀)

①吉川弘文館発行 1911『大日本史 一』

②吉川弘文館発行 1911『大日本史 二』

(11) 本朝通鑑

①国書刊行会編 1918『本朝通鑑 第三』

②国書刊行会編 1918『本朝通鑑 第四』

③国書刊行会編 1918『本朝通鑑 第五』

- ④国書刊行会編 1919『本朝通鑑 第六』
- ⑤国書刊行会編 1919『本朝通鑑 第七』
- ⑥国書刊行会編 1919『本朝通鑑 第八』
- ⑦国書刊行会編 1919『本朝通鑑 第九』
- ⑧国書刊行会編 1919『本朝通鑑 第十』
- ⑨国書刊行会編 1919『本朝通鑑 第十一』
- ⑩国書刊行会編 1919『本朝通鑑 第十二』
- ⑪国書刊行会編 1919『本朝通鑑 第十三』
- ⑫国書刊行会編 1919『本朝通鑑 第十四』
- ⑬国書刊行会編 1919『本朝通鑑 第十五』

(12) 続史愚抄

- ①黒板勝美・国史大系編修会編 1930『続史愚抄(前篇)』新訂増補/国史大系第13巻 国史大系刊行会・吉川弘文館・日用書房
- ②黒板勝美・国史大系編修会編 1931『続史愚抄(中篇)』新訂増補/国史大系第14巻 国史大系刊行会・吉川弘文館・日用書房
- ③黒板勝美・国史大系編修会編 1931『続史愚抄(後篇)』新訂増補/国史大系第15巻 国史大系刊行会・吉川弘文館・日用書房

(13) 大日本野史

漆山又四郎訳 1943『訳文大日本野史 一』 春秋社

(14) 徳川実紀

- ①黒板勝美・国史大系編修会編 1929『徳川実紀 第一篇』新訂増補/国史大系第38巻 国史大系刊行会・吉川弘文館・日用書房
- ②黒板勝美・国史大系編修会編 1930『徳川実紀 第二篇』新訂増補/国史大系第39巻 国史大系刊行会・吉川弘文館・日用書房
- ③黒板勝美・国史大系編修会編 1930『徳川実紀 第三篇』新訂増補/国史大系第40巻 国史大系刊行会・吉川弘文館・日用書房
- ④黒板勝美・国史大系編修会編 1932『徳川実紀 第四篇』新訂増補/国史大系第41巻 国史大系刊行会・吉川弘文館・日用書房
- ⑤黒板勝美・国史大系編修会編 1931『徳川実紀 第五篇』新訂増補/国史大系第42巻 国史大系刊行会・吉川弘文館・日用書房
- ⑥黒板勝美・国史大系編修会編 1931『徳川実紀 第六篇』新訂増補/国史大系第43巻 国史大系刊行会・吉川弘文館・日用書房
- ⑦黒板勝美・国史大系編修会編 1932『徳川実紀 第七篇』新訂増補/国史大系第44巻 国史大系刊行会・吉川弘文館・日用書房
- ⑧黒板勝美・国史大系編修会編 1933『徳川実紀 第八篇』新訂増補/国史大系第45巻 国史大系刊行会・吉川弘文館・日用書房
- ⑨黒板勝美・国史大系編修会編 1934『徳川実紀 第九篇』新訂増補/国史大系第46巻 国史大系刊行会・吉川弘文館・日用書房

⑩黒板勝美・国史大系編修会編 1935『徳川実紀 第十篇』新訂増補/国史大系第47巻
国史大系刊行会・吉川弘文館・日用書房

*『徳川実紀』は長大で、ページ数が本ごとに切り替わるため、一覧表に“本”とした列で国史大系の巻数(38~47)を示した。

(15) 続徳川実紀

①黒板勝美・国史大系編修会編 1933『続徳川実紀 第一篇』新訂増補/国史大系第48巻
国史大系刊行会・吉川弘文館・日用書房

②黒板勝美・国史大系編修会編 1934『続徳川実紀 第二篇』新訂増補/国史大系第49巻
国史大系刊行会・吉川弘文館・日用書房

③黒板勝美・国史大系編修会編 1935『続徳川実紀 第三篇』新訂増補/国史大系第50巻
国史大系刊行会・吉川弘文館・日用書房

④黒板勝美・国史大系編修会編 1936『続徳川実紀 第四篇』新訂増補/国史大系第51巻
国史大系刊行会・吉川弘文館・日用書房

⑤黒板勝美・国史大系編修会編 1936『続徳川実紀 第五篇』新訂増補/国史大系第52巻
国史大系刊行会・吉川弘文館・日用書房

*『続徳川実紀』は長大で、ページ数が本ごとに切り替わるため、一覧表に“本”とした列で国史大系の巻数(48~52)を示した。

(16) 武江年表

①金子光晴校訂 1968『増訂 武江年表1』東洋文庫116 平凡社

②金子光晴校訂 1968『増訂 武江年表2』東洋文庫118 平凡社

(17) 泰平年表

竹内秀雄校訂 1974『泰平年表』続群書類従完成会

(18) 三国史記

金 思燁訳 1997『完訳 三国史記』明石書店

2. 和暦からグレゴリオ暦への変換は、1600年までを以下の文献(1)~(5)、1601年以降を同(6)に準拠した。なお、1582年までは和暦を一旦、ユリウス暦に変換したのち、グレゴリオ暦に変換したが、一覧表には和暦とグレゴリオ暦のみ表記している。

(1) 大谷光男・古川麒一郎・岡田芳朗・伊東和彦 1992『日本暦日総覧』古代後期 本の友社

(2) 大谷光男・古川麒一郎・岡田芳朗・伊東和彦 1993『日本暦日総覧』古代中期 本の友社

(3) 大谷光男・古川麒一郎・岡田芳朗・伊東和彦 1994『日本暦日総覧』古代前期 本の友社

(4) 大谷光男・古川麒一郎・岡田芳朗・伊東和彦 1992『日本暦日総覧』中世前期 本の友社

(5) 大谷光男・古川麒一郎・岡田芳朗・伊東和彦 1997『日本暦日総覧』中世後期 本の友社

(6) 井上大介編 1995『日本暦綴』下巻 辻通商

3. 三国史記における韓国・朝鮮暦からグレゴリオ暦への変換は、韓国・朝鮮暦が中国暦に準拠することから、以下の文献に準拠した。ただし、紀元前1年以前については変換していない。

方诗铭・方小芬編著 2007『中國史暦日と中西暦日對照表』上海人民出版社

4. 文献史料一覧表には気象関連の記載を示した。本文では長雨、大雨、洪水、干ばつ、暴風を分析対象としたが、一覧表には、雷、霜、大雪、砂じん、その他気象に関連すると想定されるイベント（サクラの遅咲き、大火など）も含めた。
5. 文献史料一覧表の各現象は 1A, 1B, 1C, 2A, 2B, 2C, 3 に細分した。意味は下記のとおりである。
 - 1A イベントの発生が直接的に記載され、月日が明記されている。
 - 1B イベントの発生が直接的に記載され、月のみ明記されている。
 - 1C イベントの発生が直接的に記載され、季節・年のみ明記されている。
 - 2A イベントの発生が間接的に記載され、月日が明記されている。
 - 2B イベントの発生が間接的に記載され、月のみ明記されている。
 - 2C イベントの発生が間接的に記載され、季節・年のみ明記されている。
 - 3 イベントに対する事後処置（賑給）のみが記載されている。
6. 史料の気象関連記載のうち、長雨 2A, 大雪 1C などの項目区分に影響を与えない部分については、前略、中略、後略というように略記した。
7. 地域は表中右端の“L”とした列で 0 と 1 で示した。なお、地域について明記がない場合は、史料が編纂された場所、あるいは主たる記述対象である場所についての記載とみなした。
 - (1) 徳川実紀・続徳川実紀・武江年表
 - ① 0 は関東地方、1 は関東地方以外でのイベントであることを示す。
 - ② 地域について、史料に記載がない場合は、すべて関東地方でのイベントとみなした。
 - (2) 泰平年表
 - ① “L”列のうち“関”列：0 は関東地方、1 は関東地方以外でのイベントとみなした。
 - ② “L”列のうち“近”列：0 は近畿地方中部、1 は近畿地方中部以外でのイベントとみなした。上記①②に限らず、地域について、記載がない場合は、すべて関東地方でのイベントとみなした。
 - (3) 上記 (1)・(2) 以外
 - ① 0 は近畿地方中部、1 は近畿地方中部以外でのイベントとみなした。
 - ② 地域について、史料に記載がない場合は、すべて関東地方でのイベントとみなした。
8. ■は史料の文字が欠落している箇所である。

1. 日本書紀

(1) ページは下記による。

黒板勝美・国史大系編修会編 1952『日本書紀』新訂増補/国史大系第1巻下 吉
川弘文館

(2) 地域（“L”列）は下記による。

0：近畿地方中部

1：近畿地方中部以外

日本書紀

No.	グレゴリイ暦		和暦		項目	記載内容	備考	該当箇所		L
	年	月日	年号	年 月日				卷	頁	
1	567	-	欽明	28 -	洪水1C	群国大水。飢。或人相食。転傍郡穀以相救。		19	96	0
2	587	08.12-09.09	用明	2 07	大雨1B・雷1B	(前略)臨新鼻。時雷鳴大雨。(後略)		21	128	0
3	601	06.09-07.08	推古	9 05	大雨1B・洪水1B	夏五月。天皇居于耳梨行宮。是時大雨。河水漂蕩滿于宮庭。		22	139	0
4	609	05.15	推古	17 04.04	強風3	(前略)(庚子)以遣於吳国。其国有亂不得入。更返於本郷忽。逢暴風漂蕩海中。(後略)		22	152	1
5	616	01.27-02.25	推古	24 01		春正月。桃李実之。		22	157	0
6	617	-	推古	25 -		是歲。五穀登之。		22	158	0
7	618	-	推古	26 -	大雨1C・雷1C	是年遣河辺臣。於安芸国造船。(中略)大雨雷電之。(後略)		22	158	1
8	623	02.08-10.31	推古	31 春-秋	長雨1C・洪水1C	自春至秋。霖雨大水。五穀不登焉。		22	164	0
9	626	02.05-03.06	推古	34 01		春正月。桃李華。		22	166	0
10	626	04.05-05.04	推古	34 03	霜1B・低温1B	三月。寒以霜降。		22	166	0
11	626	07.03-07.31	推古	34 06		六月雪也。		22	166	0
12	626	04.05-08.30	推古	34 03-07	長雨1B	自三月至七月霖雨。天下大飢之。		22	166	0
13	628	05.26	推古	36 04.15	ひょう1A	四月壬午朔辛卯。雹降。大如桃子。		22	167	0
14	628	02.13-08.08	推古	36 春-夏	干ばつ1C・ひょう1C	壬辰。雹零。自春至夏旱之。		22	167	0
15	636	06.12-07.11	舒明	8 05	長雨1B・洪水1B	夏五月。霖雨大水。		23	182	0
16	636	-	舒明	8 -	干ばつ1C	是歲。大旱。天下飢之。		23	182	0
17	638	09.05	舒明	10 07.19	暴風1A	乙丑。大風。折木発屋。		23	184	0
18	638	10.16-11.14	舒明	10 09	長雨1B	九月霖雨。桃李華。		23	184	0
19	639	03.05	舒明	11 01.22	強風1A	大風而雨。		23	184	0
20	642	04.08-05.07	皇極	1 03	長雨1B	是月。霖雨。		24	191	0
21	642	05.08-06.05	皇極	1 04	長雨1B	是月。霖雨。		24	191	0
22	642	07.21	皇極	1 06.16		(庚子)微雨。		24	192	0
23	642	06.06-07.05	皇極	1 06	干ばつ1B	是月。大旱。		24	192	0
24	642	08.28	皇極	1 07.25	干ばつ2A	戊寅。群臣相謂之曰。隨村々祝部所教。或殺牛馬祭諸社神。或頻移市。或禱河伯。既無所効。蘇我大臣報曰。可於寺寺轉説大乘經典。悔過仏所説敬而祈雨。		24	192	0
25	642	08.31	皇極	1 07.28		辛巳。微雨。		24	193	0
26	642	09.01	皇極	1 07.29	干ばつ2A	壬午。不能祈雨。		24	193	0
27	642	09.03	皇極	1 08.01	大雨1A・雷1A	天皇幸南淵河上。跪拜四方。仰天而祈。即雷大雨遂雨「五日溥潤天下。於是。天下百姓俱稱万歳曰至徳天皇」。		24	193	0
28	642	09.08	皇極	1 08.06	強風1A・雷1A	(己丑)是日。夜半雷鳴於西南角而風雨。参官等所乘船舶觸岸而破。		24	193	0
29	642	11.11	皇極	1 10.08		冬十月癸未朔庚寅。地震而雨。		24	194	0
30	642	11.12	皇極	1 10.09		辛卯。地震。是夜。地震而風。		24	194	0
31	642	12.01	皇極	1 11.02	大雨1A・雷1A	癸丑。大雨雷。		24	194	0
32	642	12.04	皇極	1 11.05	雷1A	丙辰。夜半雷一鳴於西北角。		24	194	0
33	642	12.07	皇極	1 11.08	雷1A	己未。雷五鳴於西北角。		24	194	0
34	642	12.08	皇極	1 11.09	高温1A	庚申。天暖。如春氣。		24	194	0
35	642	12.09	皇極	1 11.10		辛酉。雨下。		24	194	0
36	642	12.10	皇極	1 11.11	高温1A	壬戌。天暖如春氣。		24	194	0
37	642	12.12	皇極	1 11.13	雷1A	甲子。雷一鳴於北方而風発。		24	194	0
38	642	12.30	皇極	1 12.01	高温1A	天暖如春氣。		24	194	0
39	643	01.01	皇極	1 12.03	雷1A	甲申。雷五鳴於昼。二鳴於夜。		24	194	0
40	643	01.18	皇極	1 12.20	雷1A	辛丑。雷三鳴於東北角。		24	195	0
41	643	01.07	皇極	1 12.09	雷1A	庚寅。雷二鳴於東而風雨。		24	195	0
42	643	01.21	皇極	1 12.23	雷1A	甲辰。雷一鳴於夜。其聲若裂。		24	195	0
43	643	01.28	皇極	1 12.30	高温1A	辛亥。天暖如春氣。		24	195	0
44	643	02.07	皇極	2 01.10	強風1A	辛酉。大風。		24	196	0
45	643	03.18	皇極	2 02.20		庚子。桃華始見。		24	196	0
46	643	03.23	皇極	2 02.25	ひょう1A	乙巳。雹傷草木華葉。		24	196	0
47	643	02.27-03.38	皇極	2 02	雷1A	是月風雷雨水行冬令。		24	196	0
48	643	04.22	皇極	2 03.25	霜1A	乙亥。霜傷草木華葉。		24	196	0

日本書紀

49	643	03.29-04.26	皇極	2	03	雷1A・ひょう1A	是月風雷水。行冬令。		24	196	0
50	643	05.03	皇極	2	04.07	強風1A	丙戌。大風而雨。		24	196	0
51	643	05.04	皇極	2	04.08	低温1A	丁亥。風起天寒。		24	196	0
52	643	05.16	皇極	2	04.20	ひょう1A・低温1A	己亥。西風而雹。天寒人著絛袍三頭。		24	196	0
53	643	05.21	皇極	2	04.25	ひょう3	甲辰。近江国言。雹下。其大徑一寸。		24	196	0
54	643	11.08	皇極	2	09.19	大雨1A・雹1A	是日。大雨而雹。		24	198	0
55	645	07.13	皇極	4	06.12	大雨1A・洪水1A	(戊申)(前略)稚犬養連網田斬入鹿臣。是日雨下潦水溢庭。(後略)		24	209	0
56	652	06.05-06.13	白雉	3	04.20-04.28	長雨1B・洪水1B	(4月20日)(丁未)自於此日初連雨水。至于九日。損壞宅屋傷災田苗。人及牛馬溺死者衆。	9日連続してイベントがあったとも解釈できるが、気候学的に稀で、ここでは断続的に発生したととった。	25	252	0
57	652	06.05	白雉	3	04.20	長雨1A・洪水1A	(4月20日)(丁未)自於此日初連雨水。至于九日。損壞宅屋傷災田苗。人及牛馬溺死者衆。	6月5日はAとしても集計。	25	252	0
58	665	08.09-09.06	天智	5	07	洪水1B	秋七月。大水。		27	290	0
59	669	08.06-11.01	天智	8	秋	雷1A	是秋。霹靂於藤原内大臣家。		27	295	0
60	670	05.27	天智	9	04.30	大雨1A・雷1A	(前略)大雨雷震。		27	297	0
61	672	07.27	天武	1	06.24	雷1A・低温1A	(甲申)(前略)是寒之雷雨已甚。徒駕者衣裳湿以不堪寒。(後略)		28	312	0
62	672	07.30	天武	1	06.27	雷1A	(前略)(丁亥)此夜。雷電雨。(後略)		28	316	0
63	675	09.19	天武	4	08.22	暴風1A	癸巳。大風飛沙破屋。		29	339	0
64	676	05.21-08.17	天武	5	夏	干ばつ1C	是夏大旱。(中略)由是五穀不登。百姓飢之。		29	341	0
65	677	06.09-07.08	天武	6	05	干ばつ1B	是月。旱之。於京及畿内零之。		29	344	0
66	677	12.03	天武	6	11.01		雨不告朔。		29	345	0
67	678	01.02	天武	6	12.01		雪不告朔。		29	346	0
68	678	05.12	天武	7	04.13	雷1A	己亥。霹靂新宮西斤柱。		29	346	0
69	679	07.17	天武	8	06.01	ひょう1A	氷零。大如桃子。		29	350	0
70	679	08.08	天武	8	06.23	干ばつ2A	壬申。零。		29	350	0
71	679	08.20	天武	8	07.06	干ばつ2A	甲申零。		29	350	0
72	680	07.12	天武	9	06.08		辛亥。灰零。		29	354	0
73	680	07.18	天武	9	06.14	雷1A	丁巳。雷電之甚也。		29	354	0
74	680	08.08	天武	9	07.05	干ばつ2A	(戊寅)是日。零之。		29	354	0
75	680	09.06	天武	9	08.05	大雨1A・洪水1A	是日。始之三日雨。大水。		29	354	0
76	680	09.15	天武	9	08.14	暴風1A	丙辰。大風折木破屋。		29	354	0
77	680	12.09	天武	9	11.10	雷1A	辛巳。雷於西方。		29	355	0
78	681	07.11	天武	10	06.17	干ばつ2A	乙卯。零之。		29	358	0
79	682	08.12-09.10	天武	11	07	強風1B・霜1B	信濃国。吉備国並言。霜降。亦大風。五穀不登。		29	365	1
80	683	08.01-09.28	天武	12	07-08	干ばつ1B	(7月)是月。始至八月旱之。百濟僧道蔵零之得雨。		29	368	0
81	683	09.30	天武	12	09.02	暴風1A	丙戌。大風。		29	368	0
82	684	07.24	天武	13	06.04	干ばつ2A	甲申。零之。		29	372	0
83	684	12.27	天武	13	11.03	(津波)	庚戌。土佐国司言。大潮高騰。海水飄蕩。由是運調船多放失焉。	「白鳳南海地震」	29	374	1
84	686	04.11	朱鳥	1	03.10	低温1A	庚戌。雪之。		29	382	0
85	686	07.10	朱鳥	1	06.12	干ばつ2A	庚辰。零之。		29	384	0
86	686	08.07	朱鳥	1	07.10	雷1A	戊申。雷光南方而一大鳴。則天災於民部省蔵庸舍屋。忍壁皇子宮失火延燒民部省。		29	385	0
87	688	08.15	持統	2	07.11	干ばつ1A	秋七月丁巳朔丁卯。大零。旱也。		30	397	0
88	688	08.24	持統	2	07.20	干ばつ1A	丙子。命百濟沙門道蔵請雨。不崇朝遍雨天下。		30	397	0
89	690	05.28	持統	4	04.22	干ばつ1A	戊辰。始祈雨於所々。旱也。		30	405	0
90	691	07.04-08.02	持統	5	06	大雨1B・洪水1B	六月京師及群国冊雨水。		30	410	0
91	691	05.06-08.02	持統	5	04-06	長雨1B	戊子。詔曰。此夏陰雨過節。(中略)「補焉。自四月雨。至于是月(後略)」。	和暦干支に該当する日付がない。黒板・国史大系編修会(1952)によると日付は誤りか?/ここでは日付けを特定せず、和暦4月~6月とした。	30	410	0
92	692	06.09	持統	6	05.17	干ばつ2A	辛巳。遣大夫謁者祠名山岳請雨。		30	415	0
93	692	06.25	持統	6	閏05.03	洪水1A	丁酉。大水。遣使循行郡国稟貸災害不能自存者。令得漁採山林池沢。詔。令京師及四畿内。講説金光明經。		30	415	0

日本書紀

94	692	08.01	持統	6	06.11	干ばつ2A	甲戌。遣大夫謁者。詣四畿内請雨。		30	416	0
95	693	05.30	持統	7	04.17	干ばつ2A	丙子。遣大夫謁者。詣諸社祈雨。		30	418	0
96	693	08.23	持統	7	07.14	干ばつ2A	辛丑。遣大夫謁者詣諸社祈雨。		30	419	0
97	693	08.25	持統	7	07.16	干ばつ2A	癸卯。遣大夫謁者詣諸社祈雨。		30	419	0
98	695	07.22	持統	9	06.13	干ばつ2A	己卯。遣大夫謁者詣京師及四畿内諸社請雨。		30	424	0
99	697	06.05	持統	11	05.08	干ばつ2A	癸卯。遣大夫謁者詣諸社請雨。		30	428	0
100	697	?	持統	11	06.28?	干ばつ2A	癸卯。遣大夫謁者詣諸社請雨。	干支日付に該当する日付が存在しない。	30	428	0

2. 続日本紀

(1) ページは下記による。

黑板勝美・国史大系編修会編 1934『続日本紀』新訂増補/国史大系第2巻 国史大系刊行会・吉川弘文館・日用書房

(2) 地域(“L”列)は下記による。

0 : 近畿地方中部

1 : 近畿地方中部以外

続日本紀

No.	グレゴリイ暦		和暦		項目	記載内容	備考	該当箇所		L	
	年	月日	年号	年月日				巻	頁		
1	698	06.15	文武	2	04.29	干ばつ2A	戊午。奉馬于芳野水分峯神。祈雨也。		1	3	0
2	698	06.17	文武	2	05.01	干ばつ1A	諸国旱。因奉幣帛諸社。		1	3	0
3	698	06.21	文武	2	05.05	干ばつ2A	甲子。遣使于京畿。祈雨於名山大川。		1	3	0
4	698	08.12	文武	2	06.28	干ばつ2A	丙辰。奉馬于諸社祈雨也。		1	3	0
5	698	10.19	文武	2	09.07	暴風1A	甲子。下総国大風。壊百姓廬舎。	畿内からみて遠隔地からの「言上」であるなら、10月18日以前の出来事である可能性もある。以下の記載も同様。	1	3	1
6	701	05.31	大宝	1	04.15	干ばつ2A	戊午。奉幣帛于諸社。祈雨于名山大川。		2	10	0
7	701	08.07	大宝	1	06.25	干ばつ1A	丙寅。以時雨不降。令四畿内祈雨焉。		2	11	0
8	701	09.24	大宝	1	08.14	暴風1A・高潮1A	甲寅。播磨。淡路。紀伊三国言。大風潮漲。田園損傷。	10月1日にも同じイベントによる可能性のある記載がある。	2	12	0
9	701	10.01	大宝	1	08.21	暴風1A	辛酉。三河、遠江、相模、近江、信濃、越前、佐渡、但馬、伯耆、出雲、備前、安芸、周防、長門、紀伊、讃岐、伊予十七国蝗。大風壊百姓廬舎損秋稼。	17ヶ国の情報が1日のうちに入ってくるとは考えにくく、賑給に準じたものと解釈した。暴風は9月24日(以前)のイベントに対応する可能性もある。	2	12	0
10	702	09.05	大宝	2	08.05	暴風1A	庚子。駿河下総二国大風。壊百姓廬舎。損禾稼。		2	15	1
11	702	09.08	大宝	2	08.08	雷1A	癸卯。震倭建命墓。遣使祭之。		2	15	0
12	703	09.06	大宝	3	07.17	干ばつ2A	丙午。近江山火自焚。遣使祈雨于名山大川。		3	18	0
13	704	08.01	大宝	4	06.22	干ばつ2A	丙子。奉幣祈雨于諸社。		3	21	0
14	704	08.17	大宝	4	07.09	干ばつ1A	壬辰。以時雨不降。遣使祈雨於諸社。		3	21	0
15	704	10.05	大宝	4	08.28	暴風1A	辛巳。周防国大風。拔樹傷秋稼。		3	21	1
16	704	11.10	慶雲	1	10.05	洪水3・干ばつ3	冬十月丁巳。有詔。以水旱失時。年穀不稔。免課役并当年田租。		3	21	0
17	704	08.09-11.05	慶雲	1	秋	暴風1C	(12月20日)辛未。太宰府言。去秋大風。拔樹傷年穀。		3	21	1
18	705	07.26	慶雲	2	06.27	干ばつ2A	乙亥。奉幣帛于諸社。以祈雨焉。		3	22	0
19	705	07.27	慶雲	2	06.28	干ばつ1A	丙子。太政官奏。比日亢旱。田園憔悴。雖久霽。未蒙嘉澍。請遣京畿淨行僧寺祈雨。及罷出市塵。開塞南門。奏可之。		3	22	0
20	705	08.26	慶雲	2	07.29	暴風1A	丙午。大倭国大風。損壊百姓廬舎。		3	22	0
21	705	09.07	慶雲	2	08.11	干ばつ1A	戊午。詔曰。陰陽失度。炎旱弥旬。百姓飢荒。		3	22	0
22	706	07.22	慶雲	3	06.04	干ばつ2A	丙子。令京畿祈雨于名山大川。		3	26	0
23	706	09.09	慶雲	3	07.24	雷1A	乙丑。丹波。但馬。二国山火。遣使奉幣帛于神祇。即雷聲忽應。不撲不滅。		3	26	0
24	706	09.13	慶雲	3	07.28	暴風3	(己巳)大宰府言。所部九国三嶋亢旱大風。拔樹損稼。遣使巡省。回免被災尤甚者調収役。		3	26	1
25	706	09.18	慶雲	3	08.03		甲戌。越前国言。山災不止。遣使奉幣部内神救之。		3	26	1
26	707	06.29	慶雲	4	05.21	長雨1A	戊午。畿内霖雨損苗。		3	28	0
27	708	08.08	和銅	1	07.14	長雨1A・暴風1A	甲辰。隱岐国霖雨大風。		4	36	1
28	709	07.05	和銅	2	05.20	長雨3	乙亥。河内。摂津。山背。伊豆。甲斐五国。連雨損苗。	河内・摂津・山背・伊豆・甲斐の状況が同時に記載され、「損苗」という被害に関する記載もあることから賑給を意図したものと解釈した。	4	39	0
29	709	07.31	和銅	2	06.16	干ばつ2A	辛丑。遣使霽于畿内。		4	39	0
30	710	05.28	和銅	3	04.22	干ばつ2A	壬寅。(中略)祈雨于名山大川。		5	43	0
31	710	07.15	和銅	4	06.21	干ばつ3	乙未。詔曰。去年霖雨。麦穂既傷。今夏亢旱。稻田殆損。		5	45	0
32	713	09.22	和銅	6	08.24	暴風1A	乙卯。大風拔木斃屋。		6	53	0
33	713	11.27	和銅	6	11.01	強風3	辛酉。伊賀。伊勢。尾張。三河。出羽等国言。大風傷秋稼。調庸並免。但已輸者。以稅給之。	9月22日のイベントに対応する可能性もある。	6	54	0
34	714	08.11	和銅	7	06.23	干ばつ1A	戊寅。詔曰。頃者陰陽殊謬。氣序乖違。南畝方興。膏澤未降。百姓田園。往々損傷。宜以幣帛。奉諸社。祈雨于名山大川。庶致嘉澍。勿虧農桑。		6	56	0
35	714	11.16	和銅	7	10.01	強風3	美濃。武蔵。下野。伯耆。播磨。伊予六国大風斃屋。		6	56	0
36	715	07.21	靈龜	1	06.12	干ばつ1A	壬戌。太政官奏。懸像失度。亢旱弥旬。恐東臯不耕。南畝損。(後略)		6	60	0

続日本紀

37	715	07.22	靈龜	1	06.13	干ばつ1A	(癸亥)詔遣使奉幣帛于諸社。祈雨于名山大川。於是經數澍雨滂沱。		6	60	0
38	716	05.12	靈龜	2	04.13	あられ1A	戊午。雨霰。		7	64	0
39	717	06.04	養老	1	04.17	干ばつ2A	丙戌。祈雨于畿内。		7	68	0
40	717	05.19-08.14	養老	1	04-06	干ばつ1B	自四月不雨至是月。		7	69	0
41	719	01.29	養老	3	01.01	強風1A	癸卯。大風也。		8	75	0
42	719	11.12	養老	3	09.22	干ばつ3	(丁丑)六道諸国遭旱飢荒。開義倉賑恤之。		8	77	0
43	721	02.07	養老	5	01.03	雷1A	庚戌。雷。		8	83	0
44	720	-	養老	5	-	-	詔曰。世謬云。歲在申年~(中略)~水旱~:」	申年は720年。	8	85	0
45	722	02.12	養老	6	01.18	雷1A	庚申。西方雷。		9	91	0
46	722	08.27	養老	6	07.07	干ばつ1A	丙子。詔曰。陰陽錯謬。災旱頻臻。(後略)		9	93	0
47	722	06.22-09.18	養老	6	05-07	干ばつ1B	(7月)自五月不雨至是月。		9	94	0
48	724	02.04	神龜	1	01.01	-	癸卯。雨也。		9	97	0
49	727	01.24	神龜	3	12.24	洪水1A	(12月24日)丁丑。尾張国民惣二千二百卅二戸。稼傷飢饉。遠江国五郡被水災。	記載された日付から見て、前年のイベントを受けたものである可能性が高い。	9	107	1
50	727	03.14	神龜	4	02.13	強風1A・雷1A	丙辰。夜雷兩大風。		10	109	0
51	727	11.23	神龜	4	10.02	暴風3	(10月2日)庚午。安房国言。大風拔木斃屋。損破秋稼。上総国言。山崩死百姓七十人。並加賑恤。		10	110	1
52	728	07.01	神龜	5	05.16	洪水1A	辛亥。左右京百姓遭滂被損七百余烟。	被害に関する記載があり、賑給を意図した記載であるとも考えられる。	10	113	0
53	728	12.10	神龜	5	11.01	雷1A	雷。		10	114	0
54	730	07.20	天平	2	06.27	干ばつ3	庚辰。緣早令檢校四畿内水田陸田。		10	123	0
55	730	07.22	天平	2	06.29	雷1A	壬午。雷雨。神祇官屋災。往々人畜震死。		10	123	0
56	730	08.19	天平	2	閏06.27	干ばつ1A	庚戌。比者亢旱稍盛。思量。年穀不登。宜遣使者四畿内。令檢百姓産業矣。		10	123	0
57	730	12.24	天平	2	11.07	強風1A・雷1A	丁巳。雷雨大風。折木斃屋。		10	123	0
58	732	06.23	天平	4	05.23	干ばつ2A	甲子。遣使者于五畿内祈雨焉。		11	128	0
59	732	05.03-07.28	天平	4	夏-06.28	干ばつ1C	(6月28日)己亥。此夏陽早。百姓不佃。雖數雩祭遂不得雨。		11	128	0
60	732	02.05-08.04	天平	4	春-07.05	干ばつ1C	(和暦7月5日/ケレコリ暦8月4日)丙午。令兩京四畿内及二監依内典法以請雨焉。詔曰。徒春亢旱。至夏不雨。百川減水。五穀稍彫。(後略)	干ばつは8月4日(旧暦7月5日)までとして集計した。	11	128	0
61	732	09.01	天平	4	08.04	大雨1A・暴風1A	甲戌。始大風雨。		11	129	0
62	732	09.24	天平	4	08.27	大雨1A・暴風1A	丁酉。大風雨。壞百姓廬舍及處々堂塔。是夏。少雨。秋稼不稔。		11	129	0
63	733	01.31	天平	5	01.07	雷1A	丙午。雷風。		11	131	0
64	733	03.01	天平	5	02.07	干ばつ3	乙亥。紀伊国旱損。賑給之。		11	131	0
65	733	04.24	天平	5	閏03.02	干ばつ3	己巳。勅和泉監。紀伊。淡路。阿波等国。遭旱殊甚。五穀不登。宜今年之間借貸大稅令統百姓産業。		11	131	0
66	737	02.08-05.08	天平	9	春	大雪1C	(前略)是春大雪。		12	144	0
67	737	05.09-06.25	天平	9	04-05.19	干ばつ1B	(5月19日)壬辰。詔曰。四月以来。疫旱並行田苗焦萎。由是祈禱山川。(後略)		12	145	0
68	741	07.21-10.17	天平	13	06-08.15	長雨1B	(8月)佐渡国自去六月至今月。霖雨不止。		14	166	1
69	742	03.08	天平	14	01.23	-	己巳。陸奥国言。部下黒川郡以北十一郡。雨赤雪平地二寸。		14	167	1
70	742	06.13	天平	14	05.03	洪水3	丙午。遣使畿内。檢校遭滂百姓産業。		14	168	0
71	742	10.18	天平	14	09.12	大雨1A・暴風1A	癸丑。大風雨。壞宮中屋墻及百姓廬舍。		14	169	0
72	743	04.03-06.03	天平	15	03-05.03	干ばつ1B	(5月3日)辛丑。自三月至今月不雨。奉幣帛于畿内諸・神社祈雨焉。		15	172	0
73	743	07.23	天平	15	06.24	干ばつ1A	癸巳。山背国司言。今月廿四日自酉至戌。宇治河水涸竭。行人揭涉。	「河水涸竭」という記載から、降水量が少ないことが示唆される。	15	174	0
74	743	08.03	天平	15	07.05	大雨1A・洪水1A・雷1A	壬寅。出雲国司言。楯縫出雲二郡雷雨異常。山岳頽崩。壞廬舍埋田畝。		15	175	1
75	743	09.05	天平	15	08.09	大雨1A・暴風1A	乙亥。上総国司言。去七月大風雨數箇日。雜木長三四丈已下二三尺已上一万五千許株漂着部内海浜也。		15	175	1

続日本紀

76	744?	天平	16	05.??	洪水1C・雷1C	五月庚戌。肥後国雷雨地震。八代。天草。葦北三郡官舎。并田二百九十余町。民家四約七十余区。人千五百余口被水漂没。山崩。二百八十余所。压死人卅余人。	庚戌はなく、日付を特定できない。	15	177	1
77	744 08.07	天平	16	06.21	ひょう1A	壬子。雨氷。		15	178	0
78	745 05.10	天平	17	04.01		市西山火。		16	182	0
79	745 05.22	天平	17	04.13		庚子。夜微雨。火乃滅止。		16	182	0
80	745 05.10-07.07	天平	17	04-05.08	干ばつ1B	自四月不雨。不得種芸。		16	183	0
81	745 08.10	天平	17	07.05	干ばつ2A	庚申。遣使祈雨焉。		16	183	0
82	746 11.26	天平	18	10.05	大雨1A・強風1A	癸丑。日向国風雨共発。養蚕損傷。仍免調庸。		16	189	1
83	747 05.31	天平	19	04.14	干ばつ3	己未。紀伊国疫旱。賑給之。		17	192	0
84	747 07.16-08.21	天平	19	06-07.07	干ばつ1B	(7月7日)辛巳。詔曰自去六月。京師亢旱。(後略)		17	193	0
85	749 01.30	天平勝宝	1	01.04	干ばつ1A	己巳。比年類遭亢旱陽。五穀不登。		17	196	0
86	749 03.02	天平勝宝	1	02.05	干ばつ3	(2月5日)庚子。下総国旱蝗飢饉。賑給之。		17	197	1
87	750 07.06	天平勝宝	2	05.24	大雨1A・洪水1A・雷1A	辛亥。震中山寺。(中略)京中驟雨。水潦汎溢。又伎人。茨田等堤々決壊。		18	210	0
88	752 10.09	天平勝宝	5	09.05	暴風1A・高潮1A	壬寅。摂津国御津村南風大吹。潮水暴溢。(後略)		19	218	0
89	753 01.19	天平勝宝	5	12.07		己卯。西海道諸国。秋稼多損。仍免今年田租。		19	218	1
90	754 08.27-09.24	天平勝宝	6	08	洪水1B・暴風1B	是年八月。風水。畿内及諸国一十。百姓産業損傷。並加賑恤。		19	223	0
91	756 04.06	天平勝宝	8	02.28	大雨1A	壬子。大雨。		19	224	0
92	756 12.25-12.30	天平勝宝	8	11.25-12.01	雷1A	(12月1日)十二月庚辰朔。自去月雷六日。	6日連続で雷があったと解釈した。	19	226	0
93	759 09.28	天平宝字	3	08.29	暴風1A	(9月13日)丙子。大宰府言。去八月二十九日南風大吹。壞官舎及百姓廬舎。		22	265	1
94	759 10.30-11.27	天平宝字	3	10	強風1B	(11月2日)十一月甲子。詔曰。如聞。去十月大風。百姓廬舎並被破壊。(後略)		22	266	0
95	761 08.27	天平宝字	5	07.19	洪水1A	辛丑。遠江国荒玉河堤決三百余丈。(後略)		23	279	1
96	762 05.01	天平宝字	6	03.29	干ばつ1A	戊申。參河。尾張。遠江。下総。美濃。能登。備中。備後。讃岐等九国旱。		24	286	1
97	762 05.10	天平宝字	6	04.08	洪水1A	丁巳。河内国狭山池堤決。		24	287	0
98	762 07.20	天平宝字	6	06.21	洪水1A	戊辰。河内国長瀬堤決。		24	288	0
99	763 07.17	天平宝字	7	05.28	干ばつ1A	(前略)旱也。		24	294	0
100	763 09.16	天平宝字	7	08.01	干ばつ3	(8月1日)勅曰。如聞。去歲霖雨。今年亢旱。五穀不熟。米価踊貴。(後略)		24	294	0
101	764 05.25	天平宝字	8	04.16	干ばつ1A	癸未。遣使奉幣帛於畿内群神。旱也。		25	301	0
102	764 09.27	天平宝字	8	08.09	干ばつ1A	戊子。山陽。南海等道諸国旱。		25	303	0
103	764 09.17	天平宝字	8	08.14		己卯。遣使築池於大和。河内。山背。近江。丹波。播磨。讃岐等国。		25	303	0
104	765 03.31	天平神護	1	03.02	干ばつ3	三月癸巳。勅。比年遭旱。歲穀不登。(後略)		26	319	0
105	765 04.02	天平神護	1	03.04	干ばつ3	乙未。參河。下総。常陸。上野。下野等五国旱。詔復今年調庸十分之七八。		26	319	1
106	765 11.17	天平神護	1	10.26	大雨1A・強風1A	甲申。至和泉国日根郡深日行宮。于時西方暗暝。異常風雨。		26	324	0
107	766 07.02	天平神護	2	05.17	干ばつ2A	辛未。奉幣帛於大和国丹生川上神。及五畿内群神。以祈澍雨也。		27	332	0
108	766 07.18	天平神護	2	06.03	暴風1A	丁亥。日向。大隈。薩摩三国大風。		27	333	1
109	767 02.05	天平神護	2	12.28	雷1A	己酉。震大安寺東塔。		27	338	0
110	768 01.14	神護景雲	1	12.16	干ばつ3	壬辰。美濃国比年亢旱。五穀不稔。除百姓所負租稅。		28	349	1
111	768 06.16	神護景雲	2	05.23	干ばつ1A	丙寅。奉幣於畿内群神。旱也。		29	354	0
112	769 09.17	神護景雲	3	08.09	洪水1A	甲辰。尾張国海部。中嶋二郡大水。		30	367	1

続日本紀

113	770	02.24	宝亀	1	01.20	強風3	甲申。太宰府管内大風。壞官舎并百姓廬舎一千卅余口。賑給被損百姓。	前年以前の台風によるものをさしている可能性もある。	30	374	1
114	770	07.09	宝亀	1	06.08	暴風3	己亥。志摩国大風。賑給被害百姓。		30	377	1
115	770	07.15	宝亀	1	06.14	長雨3	乙巳。美濃国霖雨。賑給被損之民。		30	377	1
116	770	08.27	宝亀	1	07.28	ひょう1A	戊子。出羽国雨水。		30	378	1
117	771	07.30	宝亀	2	06.10	干ばつ1A	六月乙丑。奉黒毛馬於丹生川上神。旱也。		31	392	0
118	772	04.05	宝亀	3	02.24	干ばつ1A	乙亥。奉黒毛馬於丹生川上神旱也。		32	401	0
119	772	07.31	宝亀	3	06.23	干ばつ1A	壬申。奉幣帛於畿内群神旱也。		32	404	0
120	772	09.11	宝亀	3	08.06	大雨1A・暴風1A	(八月甲寅)是日異常風雨。拔樹斃屋。	降水量は少なかった可能性がある。	32	405	0
121	772	09.06-10.04	宝亀	3	08.01-08.29	大雨1B・洪水1B・暴風1B	是月。自朔日雨。加以大風。河内国茨田堤六處。渋川堤十一處。志紀郡五處並決。	「自朔日雨」から、長雨と解釈した。	32	405	0
122	772	09.06	宝亀	3	08.01		是月。自朔日雨。加以大風。河内国茨田堤六處。渋川堤十一處。志紀郡五處並決。	8月1日に雨が降ったことは確かと言えるが、大雨であったかどうかは不明。	32	405	0
123	772	10.25	宝亀	3	09.21	暴風1A・波浪1A	(戊戌)送渤海客使武生・烏守等解纜入海。忽遭暴風。漂能登国。客主僅得免死。便於福良津安置。		32	405	1
124	772	09.06-10.04	宝亀	3	08	暴風1B	(11月11日)去八月大風。産業損壊。擧士百姓。被災者衆。詔免京畿七道田租。	120・121番と同じイベントと解釈した。	32	407	0
125	773	04.05	宝亀	4	03.05	強風3	近江。飛驒。出羽三国大風人飢。並賑給之。	前年以前の台風によるものをさしている可能性もある。	32	409	0
126	773	04.13	宝亀	4	03.13	干ばつ1A	戊子。奉黒毛馬於丹生川上神旱也。		32	409	0
127	773	04.17	宝亀	4	03.17	強風3	参河国大風。民飢賑給之。	前年以前の台風によるものをさしている可能性もある。	32	409	1
128	773	05.22	宝亀	4	04.23	干ばつ1A	丁卯。奉黒毛馬於丹生川上神旱也。		32	410	0
129	773	05.30	宝亀	4	05.01	干ばつ1A	五月乙亥朔。奉幣帛於畿内群神。旱也。		32	410	0
130	773	05.31	宝亀	4	05.02		丙子。充丹生川上神戸四烟。以德嘉澍也。		32	410	0
131	773	06.30	宝亀	4	06.02	長雨1A	丙午。霖雨。		32	410	0
132	773	09.03	宝亀	4	08.08	長雨1A	辛亥。霖雨。		32	411	0
133	774	06.09	宝亀	5	04.22	干ばつ1A	庚寅。奉黒毛馬於丹生川上神。旱也。		33	416	0
134	774	07.21	宝亀	5	06.05	干ばつ1A	(壬申)奉黒毛馬於丹生川上神。旱也。		33	417	0
135	775	07.31	宝亀	6	06.25	干ばつ1A	丁亥。奉黒毛馬於丹生川上神。旱也。		33	421	0
136	775	08.23	宝亀	6	07.19	ひょう1A	庚戌。雨雹。大者如碁子。		33	422	0
137	775	09.25	宝亀	6	08.22	大雨3・暴風3	癸未。伊勢。尾張。美濃三国言。「九月有」異常風雨。漂没百姓三百余人。馬牛千余。及壞国分并諸寺塔十九。其官私廬舎不可勝数。遣使修理伊勢齋宮。又分頭案檢諸国被害百姓。」		33	422	0
138	775	10.23	宝亀	6	09.20	長雨1A	辛亥。遣使奉白馬及幣丹生川上。畿内群神。霖雨也。		33	423	0
139	775	11.25	宝亀	6	10.24	大雨3・強風3	甲申。大祓。以風雨及地震也。	「大祓」を同年の暴風・大雨等を受けて行われたものと解釈した。	33	424	0
140	775	12.08	宝亀	6	11.07	大雨1A・強風1A	丁酉。大宰府言。日向薩摩両国風雨。桑麻損盡。	台風による可能性もある。	33	424	1
141	776	07.12	宝亀	7	06.18	干ばつ1A	甲戌。大祓京師及畿内諸国。奉黒毛馬於丹生川上神。旱也。		34	428	0
142	776	08.11	宝亀	7	07.19	雷1A	甲辰。震西大寺西塔。		34	429	0
143	776	09.04	宝亀	7	08.13	暴風1A	戊辰。大風。		34	429	0
144	776	09.22-10.19	宝亀	7	閏08	暴風3	壹伎嶋風。損苗子。免当年調。		34	429	1
145	777	05.20	宝亀	8	04.05	ひょう1A	丙戌。雨雹。		34	433	0
146	777	05.28	宝亀	8	04.13	雷1A・ひょう1A	甲午。雨水。震。太政官内裏応。		34	433	0
147	777	06.26	宝亀	8	05.13	長雨1A	(癸亥)奉白馬於丹生川上神。霖雨也。		34	434	0
148	777	08.25	宝亀	8	07.14	雷1A	癸亥。震。但馬国国分寺塔。		34	435	1
149	777	09.17	宝亀	8	08.08	長雨1A	(丙戌)奉白馬於丹生川上神。霖雨也。		34	436	0
150	777	11.09-02.05	宝亀	8	冬	干ばつ1C	是冬不雨。井水皆涸。出水宇治等川並可揭厲。		34	438	0
151	777	08.12-09.09	宝亀	8	07	大雨1B・洪水1B・暴風1B	(宝亀9年3月/778年)土佐国言。去年七月。風雨大。四郡百姓。産業損傷。加以。人畜流亡。廬舎破壊。詔加賑給焉。		35	441	1
152	779	05.13	宝亀	10	04.19	大雨1A・強風1A	夏四月己丑。夜暴風雨。折木斃屋。		35	448	0

続日本紀

153	779	08.19	宝亀	10	06.29	大雨1A・洪水1A	八月己亥。因幡国言。去六月十九日暴雨。山崩水溢。岸谷失地。人畜漂流。田宅損災。飢饉百姓三千余人者。遣使賑恤之。		35	450	1
154	779	09.02	宝亀	10	07.14	大雨1A・洪水1A	(11月)辛巳。駿河国言。以去七月十四日大雨汎溢決二郡堤防壊百姓廬舍。又口田流埋。(後略)		35	453	1
155	780	02.28	宝亀	11	01.14	雷1A	庚辰。大雷。災於京中数寺。(後略)。		36	456	0
156	781	08.03	天応	1	07.05	干ばつ1A	壬戌。詔曰。朕以不徳陰陽未和。普天之下。炎旱經月。(後略)		36	475	0
157	782	06.05	延暦	1	04.16	干ばつ2A	戊辰。遣使畿内祈雨焉。		37	484	0
158	782	08.20	延暦	1	07.03	雷1A	甲申。雷雨。大蔵東長蔵災。内厩寮馬二疋震死。		37	486	0
159	784	09.27	延暦	3	09.05	大雨1A・洪水1A	癸酉。京中大雨。壊百姓廬舍。		38	501	0
160	784	11.01	延暦	3	閏09.10	洪水3	戊申。河内国茨田郡堤。決。一十五處。単功六万四千余人。給粮築之。		38	501	0
161	785	07.12	延暦	4	05.26	干ばつ2A	庚申。遣使五畿内祈雨焉。		38	508	0
162	785	07.16	延暦	4	06.02		六月乙丑。出羽。丹波。年穀不登。百姓飢饉。並賑給之。		38	508	0
163	785	10.21	延暦	4	09.10	洪水3	壬寅。河内国言。洪水汎溢。百姓漂蕩或乘或乘船。(後略)		38	512	0
164	785	08.14-09.11	延暦	4	07	強風1B	(10月10日)壬申。遠江。下総。常陸。能登等国。去七月大風。五穀損傷。百姓飢饉。並遣使賑給之。		38	513	1
165	785	12.07	延暦	4	10.27	洪水3	己丑。河内国破壊堤防州處。単功卅万七千余人。給粮修築之。		38	514	0
166	788	05.16	延暦	7	04.03	干ばつ2A	夏四月庚辰遣使畿内祈雨焉。		39	529	0
167	788	05.23	延暦	7	04.10	干ばつ2A	丁亥。奉黒馬於丹生川上神。祈雨也。		39	529	0
168	788	05.24	延暦	7	04.11	干ばつ1A	戊子。勅五畿内。頃者亢旱累月。溝池乏水。百姓之間不得耕種。		39	529	0
169	787	12.30-05.29	延暦	7	11.13-04.16	干ばつ1B	癸巳。自去冬不雨。既經五箇月。灌溉已竭。	「五箇月」から和暦5月25日を含む5ヶ月間を1Bとした。	39	529	0
170	788	06.14	延暦	7	05.02	大雨1A・干ばつ2A	(旧暦5月2日/グレゴリヤ暦6月14日)五月己酉。詔群臣曰。宜差使祈雨於伊勢神宮及七道名神。是夕大雨。其後雨多。遠近周匝。遂得耕殖矣。		39	529	0
171	788	11.08	延暦	7	10.02	強風1A・雷1A	丙子。雷雨暴風。壊百姓廬舍。		39	531	0
172	790	07.19	延暦	9	05.29	干ばつ1A	甲午。以炎旱經月。公私焦損。詔奉幣畿内名神。以祈嘉澍焉。		40	546	0
173	790	07.11	延暦	9	05.21	干ばつ2A	丙戌。遣使五畿内祈雨焉。		40	546	0
174	790	10.29	延暦	9	09.13	干ばつ1A	(丙子)炎旱為災。田疇不修。(後略)		40	548	0
175	791	06.15	延暦	10	05.05	干ばつ1A	乙丑。天皇以天下諸国頻苦旱疫。詔停節宴。		40	553	0
176	791	08.04	延暦	10	06.26	干ばつ1A	乙卯。霽之。奉黒馬於丹生川上神。旱也。		40	554	0
177	791	08.09	延暦	10	07.01	干ばつ1A	七月庚申朔。以炎旱經旬。奉幣畿内諸名神。		40	554	0

3. 日本後紀

(1) ページは下記による。

黒板勝美・国史大系編修会編 1934『日本後紀・続日本後紀・日本文徳天皇実録』新訂増補/国史大系第3巻 国史大系刊行会・吉川弘文館・日用書房

(2) 地域（“L”列）は下記による。

0：近畿地方中部

1：近畿地方中部以外

No.	グレゴリオ暦		和暦		項目	記載内容	備考	該当箇所		L
	年	月	年	月				頁	頁	
1	796	09.15	延暦	15	08.06	洪水1A	甲子。大和国山崩水溢。東大寺塔垣倒頽。	5	4	0
2	796	09.16	延暦	15	08.07	長雨1A・ 寡照1A	乙丑。縁淫雨不晴。奉幣於畿内諸■。筑後国滂。詔令賑恤。	5	4	0
3	796	09.17	延暦	15	08.08	長雨3	遣使賑給京中百姓。以霖雨経日。穀価騰躍也。	5	4	0
4	799	04.04	延暦	18	02.21	雷1A	(前略)道鏡又追将殺清麻呂於道。雷雨晦暝。未即行。(後略)	8	18	1
5	799	04.14	延暦	18	03.01	雷1A	震。民部省廩。	8	19	0
6	799	05.22	延暦	18	04.09	洪水3	癸未。勅。滂水経日。苗稼腐損。窮弊之民。不得更播。宜令山城。河内、摂津等国巡檢貧民。以正稅給之。	8	20	0
7	799	07.26	延暦	18	06.15	暴風2A	戊子。勅祭祀之事。在徳興敬。心致敬。神寧享之。広瀬龍田祭。所以鎮弭風災。禱祈年穀也。	8	22	0
8	799	09.01	延暦	18	07.23	干ばつ1A	(乙丑)免備中国去年租。以風旱為災。五穀不登也。	8	23	1
9	799	09.12	延暦	18	08.05	-	(旧暦8月5日/グレゴリオ暦9月12日)丙子。常陸国言。鹿嶋。那加。久慈。多珂四郡。今月十一日。自晨至晚。海潮去来凡十五度。満則過常漕一町許。涸則踰常限廿余町。海畔父老僉云。古来所未遂見聞也。	8	24	1
10	799	10.14	延暦	18	09.07	暴風1A	戊申。暴風。京中屋舎倒壊者多。	8	24	0
11	799	12.13	延暦	18	11.08	洪水3	免淡路国今年調庸。以風水為災。百姓被害也。	8	25	0
12	799	12.19	延暦	18	11.14	洪水3	(前略)淡路国滂。以播磨国随近郡穀。賑給乏絶戸。	8	25	0
13	800	01.07	延暦	18	12.04		癸酉。勅。山城国葛野川。近在都下。每有洪水。不得徒涉。大寒之節。人馬共凍。(後略)	8	26	0
14	804	03.09	延暦	23	01.20	低温1A	丙申。遊獵水生野。是日天寒。於野中賜五位已上衣。	12	30	0
15	804	04.05	延暦	23	02.18	干ばつ3	(癸亥)免大和国租并地子。縁旱災也。	12	31	0
16	804	05.03	延暦	23	03.16	長雨1A	辛卯。賜五位以上米各有差。以霖雨也。	12	31	0
17	804	07.07	延暦	23	05.23	洪水3	(前略)摂津国言。頻歲不登。百姓乏食。加以春夏水害。資粮亦盡。(後略)	12	33	0
18	804	09.21	延暦	23	08.10	大雨1A・ 暴風1A	壬子。暴雨大風。中院西樓倒。打死牛。又墮壊神泉苑左右閣京中廬舎。諸国多蒙其害。(後略)	12	34	0
19	805	08.06	延暦	24	07.04	暴風1A・ 波浪1A	(7月16日)癸未。太宰府言。遣唐使第三船。今月四日発自肥前国松浦郡庇良嶋。指遠值嘉嶋。忽遭南風漂著孤嶋。船居巖間。淦水盈溢。(後略)	13	45	1
20	805	08.28	延暦	24	07.26	干ばつ2A	癸巳。遣使奉幣於畿内名神。祈雨也。	13	46	0
21	806	04.18	大同	1	03.22		丙戌。日赤無光。兵庫夜鳴。是夜月食之。	13	54	0
22	806	04.19	大同	1	03.23		(丁亥)此日。日赤無光。大井。比叡。小野。栗栖之等山共燒。煙灰四滿。京中昼昏。(後略)	13	55	0
23	806	07.30	大同	1	閏06.08		(己巳)(前略)又山城国葛野郡大井山者。河水暴流。則堰堤淪没。採材遠處。還失灌溉。	14	64	0
24	806	09.22	大同	1	08.03	長雨1A・ 洪水1A	(癸亥)(前略)而誠未動天。卑聽日照。陰陽僭度。霖雨為災。(中略)何用招此漂損。害及黎元。(後略)	14	65	0
25	806	09.23	大同	1	08.04	洪水3	甲子。免畿内被水害百姓調徭。其正稅者。聽明年納之。七道諸国。且令賑給。	14	66	0
26	806	09.20- 10.18	大同	1	08	長雨1B・ 洪水1B	是月。霖雨不止。洪流汎濫。天下諸国。多被其害。	14	67	0
27	806	10.22	大同	1	09.04	洪水3	癸巳。勅水之浸損。積微為害。属于小决。(後略)	14	67	0
28	806	11.10	大同	1	09.23	洪水3・干 ばつ3	壬子。遣使封左右京及山崎津難波津酒家壺。以水旱成災。穀米騰躍也。	14	67	0
29	808	06.06	大同	3	05.05	洪水3	(大同3年5月5日)(丙戌)(前略)勅。如聞。大同元年被水損七分已上戸。所奉正稅未納。悉徒免除。	17	70	0
30	808	06.22	大同	3	05.21	干ばつ2A	壬寅。奉黑馬於丹生川上雨師神。以祈雨也。	17	71	0
31	808	06.24	大同	3	05.23		甲辰。雨群臣言。今日甘雨。不可不賀。(後略)	17	71	0
32	808	12.31	大同	3	12.07	大雪1A	甲寅。大雪。宴飲終日。五位已上賜綿有差。	17	79	0
33	809	01.22	大同	3	12.29	洪水3	丙子。免伊賀国大同元年正稅未納一万九千束。以水害殊甚百姓彫弊也。	17	80	0
34	809	01.24	大同	4	01.01	強風1A・ 低温1A	癸卯。風寒異常也。(後略)	17	80	0
35	809	04.30	大同	4	03.09	雷1A・ひよ う1A	甲寅。雷雨雹。	17	82	0
36	810	12.22	弘仁	1	11.18	雷1A	甲寅。雷。	20	92	0
37	811	06.06	弘仁	2	05.08	干ばつ3	(弘仁2年5月8日/811年6月6日)辛丑。勅。諸国所進春米庸米。去大同三四年兩年。遭旱不得悉進。(後略)	21	100	0
38	811	06.10	弘仁	2	05.12		乙巳。幸神泉苑。帝自茲以後。每至假日。避暑於此。	21	100	0
39	811	06.18	弘仁	2	05.20	干ばつ3	癸丑。勅。天下諸国。昔遭疫病。統以旱災。百姓彫弊。于今未復。(後略)	21	101	0
40	811	10.06	弘仁	2	09.12	暴風1A	癸卯。大風破。京中廬舎。	21	105	0
41	811	10.07	弘仁	2	09.13	暴風3	甲辰。被風損者。給米有差。	21	105	0
42	811	09.25- 10.24	弘仁	2	09		是月。桃李華。	21	105	0

日本後紀

43	812 02.01	弘仁	2	閏12.11	洪水3	辛丑。征夷將軍參議徒三位行大藏卿兼陸奥出羽按察使文室朝臣綿麻呂奏言。(中略)其志波城。近于河浜。屬被水害。(後略)	21	106	1
44	812 05.16	弘仁	3	03.28	ひょう1A	丙戌。雨雹。	21	112	0
45	812 08.10	弘仁	3	06.26	干ばつ1A	壬子。勅。甘沢不降。稍涉旬日。眷彼南畝。深軫于懷。所冀神靈垂祐。早致嘉雨。宜走幣畿內。祈於名神。	21	115	0
46	812 08.15	弘仁	3	07.01	干ばつ1A	勅。頃者疫旱並行。(後略)	21	116	0
47	812 08.16	弘仁	3	07.02	干ばつ1A	戊午。御大極殿。奉幣於伊勢大神宮。為救疫旱也。	21	116	0
48	814 08.18	弘仁	5	07.25	干ばつ1A	庚午。勅。畿內。近江。丹波等國。頃年旱災頻發。稼苗多損。國司默然。百姓受害。其孝婦含冤。東海蒙枯旱之憂。能吏行泉。徐州致甘雨之喜。然則禍福所興。必由國吏。自今以後。其有旱者。官長潔齊。自禱嘉澍。務致肅敬。不得狎汙。如不応者。乃言上之。立為恒例。	24	125	0
49	814 11.23	弘仁	5	10.04	大雪1A	丁未。大雪。	24	128	0
50	815 01.19	弘仁	5	12.02	大雪1A	甲辰。大雪。	24	129	0
51	815 07.16	弘仁	6	06.03	雷1A	(壬寅)是日。大雷。內舍人並四衛府舍人以上賜祿有	24	132	0
52	815 07.29	弘仁	6	06.16	洪水3	乙卯。河內國澇。賑給乏絶戸。	24	133	0
53	815 08.06	弘仁	6	06.24	強風1A・雷1A	(癸亥)是日。山城國乙訓郡物集。國背兩鄉雷風。壞百姓廬舍。人或被震死。先是。有大蛇入人屋。即殺之。未幾其人被震。	24	133	0
54	815 08.25	弘仁	6	07.13	大雨1A・洪水1A・雷1A	(壬午)是日。暴雨雷鳴。庭潦泛溢。(後略)	24	134	0
55	815 06.15-09.07	弘仁	6	05-07.25	長雨1B・大雨1B・洪水1B	(7月25日)(甲午)詔曰。天生黎元。樹之司牧。所以阜財利用。化成天下。是以欲濟弊俗。達旦不已。思使農夫有稔熟之歎。婦功無杼軸之歎。而去五月以降。雨水迸溢。田疇不修。夫百姓不足。君孰興足。宜俾左右京畿內無出今年田租。務存優恤。副朕意焉。	24	135	0
56	815 09.13	弘仁	6	08.03	長雨1A・寡照1A	遣使奉幣於伊勢大神宮并併賀茂大神。以下霖雨不晴也。	24	135	0
57	815 06.15-11.08	弘仁	6	05-09	長雨2A	是歲。自五月及九月霖雨。諸國多被其害焉。	24	137	0

4. 続日本後紀

(1) ページは下記による。

黒板勝美・国史大系編修会編 1934『日本後紀・続日本後紀・日本文徳天皇実録』新訂増補/国史大系第3巻 国史大系刊行会・吉川弘文館・日用書房

(2) 地域（“L”列）は下記による。

0：近畿地方中部

1：近畿地方中部以外

続日本後紀

No.	グレゴリイ暦		和暦		項目	記載内容	備考	該当箇所		L
	年	月日	年号	年 月日				巻	頁	
1	833	04.30	天長	10 04.03	霜1A	庚申。隕霜。		1	10	0
2	833	06.10	天長	10 05.15	低温1A	辛丑。北山玄雲黯霧。山嶺不見。終日天寒。衆人多着襖子。		1	11	0
3	833	07.27	天長	10 07.03	干ばつ1A	戊子。越後国蒲原郡伊夜比古神預之名神。以彼郡每有旱疫。致雨救病也。		2	14	1
4	833	08.23	天長	10 閏07.01	洪水2A・ 暴風2A	勅。至于秋序。洪水敗稼。大風害物。古来尚在。宜令天下諸国。奉幣名神。予為攘防。勿損年穀。		2	14	0
5	833	09.15	天長	10 閏07.24	低温1A	戊寅。越後国言。去年疫癘旁兇。花耕失時。寒氣早侵。秋稼不稔。今兹飢疫相仍。死亡者衆。凶年之弊。雖賑猶乏。望請被許糴糶。資此窮民。聽之。		2	15	1
6	833	09.19	天長	10 閏07.28	長雨1A	壬午。霖雨涉旬不息。仍令大和山城二国介以上親奉幣於丹生川上雨師神。松尾。賀茂上下及貴布祢社。以祈霽焉。		2	15	0
7	833	12.20	天長	10 11.02	雷1A	甲寅。雷。		2	17	0
8	833	12.22	天長	10 11.04	雷1A	丙辰。雷電良久。		2	17	0
9	833	12.27	天長	10 11.09	雷1A	辛酉。雷電。		2	17	0
10	834	07.30	承和	1 06.17	干ばつ1A	丙申。走幣群神。以祈甘雨。早也。		3	27	0
11	834	08.10	承和	1 06.28	干ばつ2A	丁未。奉伊勢大神宮及畿内七道名神幣。以祈雨也。		3	27	0
12	834	08.12	承和	1 06.30	干ばつ 2A・暴風 2A	己酉。延百僧於大極殿。限三ケ日。轉読大般若經。為祈甘澍。兼防風災也。		3	27	0
13	834	08.14	承和	1 07.02	干ばつ2A	辛亥。初為祈雨。轉読大般若經。期日已滿。晴而無応。由是。轉經更延二日。以効精誠。		3	27	0
14	834	08.20	承和	1 07.08	干ばつ1A	丁巳。天無片雲。炎氣如熏。比及晡辰。天陰雨零。徒此漸至滂沛。		3	27	0
15	834	08.24	承和	1 07.12	大雨1A・ 洪水1A	辛酉。雨水汎溢。		3	28	0
16	834	08.25	承和	1 07.13	長雨2A	壬戌。走幣畿内名神。亦令諸大寺及諸国講師修法。以防淫霖。		3	28	0
17	834	10.01	承和	1 08.21	大雨1A・ 暴風1A	己亥。暴風大雨相并。折樹木壞民廬舍。由是走幣畿内名神。祈止風雨。		3	29	0
18	834	10.02	承和	1 08.22	大雨1A・ 暴風1A	庚子。夜裏風雨猶切。達旦不罷。城中人家往々倒壞。	17番と同一の台風によるものと考えられる。	3	29	0
19	835	02.01	承和	1 12.25	雷1A	辛丑。雷聲鼓動。		3	32	0
20	835	02.27	承和	2 01.22	雷1A	(戊辰)是日。雷三聲。		4	36	0
21	835	08.03	承和	2 07.02	大雨2A・ 暴風2A	乙巳。走幣於天下名神預攘風雨之災。		4	40	0
22	835	08.06	承和	2 07.05	大雨2A・ 洪水2A・ 暴風2A	戊申。奉幣於伊勢大神宮。亦為防風雨之災也。		4	40	0
23	835	09.01	承和	2 08.01	長雨1A	是日。霖雨霽焉。頒幣畿内名神。以賽于禱。其丹生川上社。殊奉白馬一疋。		4	41	0
24	835	09.01	承和	2 08.01	大雨1A・ 暴風1A	佐渡国言。去歲風雨為災。年穀不登。今兹飢疫相仍。死亡者多。詔賑恤之。		4	41	1
25	835	11.23	承和	2 10.26	雷1A	丁酉。雷電殊切。四衛府陣于清涼殿前。計見參賜祿。		4	43	0
26	836	01.15	承和	2 12.20	干ばつ3	(庚寅)能登国言。旱疫相仍。人民飢苦。賑給之。		4	44	1
27	836	-	承和	3 -	洪水2A・ 雷3	(承和3年5月9日/836年5月31日)(丁未)是日。勅。去歲冬雷。恐有水害疫氣之災。(後略)	835年11月23日のイベントを指す	5	51	0
28	836	06.09	承和	3 05.18	大雨1A・ 洪水1A・ 暴風1A	丙辰。夜裏大風。暴雨交切。折樹斃屋。城中人家不壞者希。斯時人唐使船寄宿撰津国輪田泊。遣看督近衛一人於船處。河水汎溢不得通行。更遣左兵衛少志田辺吉備成問安危。	季節的に温帯低気圧によるものとも考えられる。	5	53	0
29	836	07.21	承和	3 06.01	干ばつ1A	太政官牒僧綱曰。奉勅。日者。陰雨不降。陽早擲旬。不有預慎。恐損百姓。宜告東西二寺并十三大寺。畿内諸寺。轉読經王。令祈甘雨。		5	55	0
30	836	07.26	承和	3 06.06	干ばつ2A	癸卯。奉松尾。賀茂御祖。住吉。垂水等社幣。祈雨也。		5	55	0
31	836	09.03	承和	3 07.15	大雨2A・ 暴風2A	壬午。勅日。方今時属西成。五穀垂種。如有風雨愆序。恐損秋稼。宜令五畿内七道諸国奉幣名神。攘灾未萌。其幣綿料用正稅。長官率僚属。自親齋戒。祭如神在。必致懲応。		5	56	0
32	836	09.09	承和	3 07.21	雷1A	戊子。雷雨殊切。人皆讙伏。至于夜分。震朱雀柳樹。		5	56	0
33	836	09.20	承和	3 08.02	干ばつ3	(己亥)「又案」又案同府別奏言。彫幣未復。旱疫相仍。使人等六百有余不堪供給。(後略)		5	57	1
34	836	12.24	承和	3 11.09		甲戌。有怪異之。雲竟天。其端涯在艮坤兩角。經二剋程。稍以銷滅。		5	59	0
35	837	01.19	承和	3 12.06	雷3	(庚子)是日。勅。頃者霹靂仍于四天王寺。破壞塔廟。恐是咎懲。(後略)		5	60	0
36	837	03.11	承和	4 01.27	干ばつ3	辛卯。在石見国五ヶ郡中神惣十五社。始預官社。以能応吏民之禱。久救旱疫之灾也。		6	63	1
37	837	04.19	承和	4 03.07	洪水3	庚午。詔。尾張国課口三分之一。特徒優復。河流漲溢。民多病水。故降此恩。		6	65	1
38	837	05.04	承和	4 03.22		(乙酉)是日。天皇不御大極殿。雨也。(後略)		6	65	0

続日本後紀

39	837	08.06	承和	4	06.28	大雨2A・干ばつ2A・暴風2A	己未。勅云々。宜遣使山城大和等。奉幣名山。以祈甘雨。又勅令五畿内七道諸國奉幣名神。予防風雨。莫損年穀。	6	67	0
40	837	08.30	承和	4	07.22	暴風3	癸未。太宰府馳傳言。遣唐三ヶ船。共指松浦郡受楽埼發行。第一第四船。忽遇逆風。流着壱伎嶋。第二船左右方便漂着值賀嶋。	6	68	1
41	837	11.06	承和	4	10.01	長雨3	是日。喚左右京亮左右衛門。檢非違使佐并四人。於殿前宣勅。遣勘録東西兩京飢病百姓。特加賑恤。以陰霖終日。穀價踊貴也。	6	69	0
42	837	01.14	承和	4	12.11	強風1A	庚子。自旭旦至戌時大風。京中屋舍往々破壊。	6	70	0
43	838	08.15	承和	5	07.18	あられ1A	癸酉。有物如粉。徒天散霧。逢雨不銷。或降或止。	7	77	0
44	838	09.10	承和	5	08.14	雷1A	己亥。霹靂於監物前柳樹。往人休于樹下。一男震死。一女傷脛。一童纒存。一女無恙。	7	78	0
45	838	09.15	承和	5	08.19	長雨2A	甲辰。奉幣綿并白馬於貴布祢神。丹生河上雨師神。以祈止雨也。	7	78	0
46	838	09.16	承和	5	08.20	大雨1A・暴風1A	乙巳。暴風大雨。壞民廬舍。	7	78	0
47	838	09.24	承和	5	08.28	大雨1A・暴風1A	癸丑。降雨殊切。奉幣賀茂上下。松尾。乙訓。垂水。住吉等名神。以祈止風雨也。	7	78	0
48	838	10.04	承和	5	09.08	大雨2A・暴風2A	癸亥又奉幣馬於貴布祢。丹生河上雨師神。以祈止風雨也。	7	78	0
49	838	07.29-10.25	承和	5	07-09	長雨1B	(9月29日)甲申。徒去七月至今月。河内。參河。遠江。駿河。伊豆。甲斐。武蔵。上総。美濃。飛騨。信濃。越前。加賀。越中。播磨。紀伊等十六國。一一相統言。有物如灰。徒天而雨。累日不止。但雖似恠異。無有損害。今茲畿内七道。俱是豐稔。五穀價賤。老農名此物米花云。 記載のあった地域すべてで同時並行的に長雨があつたか否かは不明であるが、ここでは地域による差はないものとした。	7	78	0
50	839	05.19	承和	6	03.29	干ばつ2A・雷1A	庚戌。奉幣貴布祢雨師二神。以祈雨也。比及晚頭。雷雨。賜諸衛府等祿有差。	8	86	0
51	839	05.30	承和	6	04.10	干ばつ2A	辛酉。遣使祈雨於丹生川上雨師神。	8	86	0
52	839	01.23-06.06	承和	6	春-04.17	干ばつ1C	(4月17日)(戊辰)勅頒幣於松尾。賀茂上下。貴布祢。丹生川上雨師。住吉諸社。令祈澍雨。又限七箇日。令誦仁王經於十五大寺。兼通城外崇山有驗之寺。同俾轉誦。並以自春迄今不雨也。	8	87	0
53	839	06.09	承和	6	04.20	干ばつ2A	辛未。一向令七道諸國宰奠幣名神。零致甘雨。	8	87	0
54	839	06.10	承和	6	04.21	干ばつ2A	壬申。遣徒五位下高原王等。奉幣於伊勢大神宮。令祈雨。	8	87	0
55	839	06.14	承和	6	04.25	干ばつ1A	丙子。遣勅使於神功皇后山陵。宣詔曰。(中略)比日之間旱災有畏。(中略)是日。終日密雲。	8	87	0
56	839	06.16	承和	6	04.27	干ばつ2A	戊寅。會百濟法師於八省院。限三箇日。轉・大般若經。以祈雨焉。諸司為之醋食。是日。晚來雨降。終宵不休。遣使於丹貴二社祈雨。	8	88	0
57	839	07.18	承和	6	06.01	干ばつ2A	遣使於丹貴二社祈雨。	8	88	0
58	839	07.21	承和	6	06.04	干ばつ1A	癸丑。勅令。頃者。亢旱涉旬。宜告諸寺。三日三夜誦經悔過。今致甘雨。	8	88	0
59	839	07.23	承和	6	06.06	干ばつ2A	乙卯。驅東西市人於朱雀路中令雩。	8	88	0
60	839	08.02	承和	6	06.16	干ばつ1A	乙丑。勅。頃緣旱涸。頒使祈雨。頗似有応。未能普潤。宜請七大寺僧於東大寺。三日三夜間。令稱讚竜自在王如来名号。	8	88	0
61	839	08.14	承和	6	06.28		(丁丑)是夜。有赤氣。方冊丈。(後略)	8	89	0
62	839	09.02	承和	6	07.17	暴風1A・波浪1A	丙申。令太宰府造新羅船。以能堪風波也。云々。	8	89	1
63	839	09.22	承和	6	08.07	長雨2A	丙辰。遣使奉幣丹生川上雨師神。祈止雨也云々。	8	90	0
64	839	09.18-10.04	承和	6	08.03-08.19?	長雨1B・雷1B	(10月17日)乙丑。出羽国言。去八月十九日管田川郡司解備。此郡西浜達府之程五十里。本自無石。而徒今月三日。霖雨未止。雷電鬩聲。經十余日。乃見晴天。自向海畔。自然隕石。其数不少。或似鐵。或似鋒。或白或黑。或青或赤。(後略)	8	93	1
65	839	-	承和	7	-	干ばつ1C	(承和7年2月26日/840年4月6日)(癸酉)(前略)去年炎旱作災。(後略)	9	99	0
66	840	04.07	承和	7	02.27	雷1A	甲戌。夜中雷雨交切。遣中使左近近衛少将橘朝臣岑繼於嵯峨院。右近衛中將藤原朝臣助於淳和院。祇候先後太上天皇起居。	9	99	0
67	840	06.02	承和	7	04.25	干ばつ1A・暴風2A	庚午。勅。頃者。炎旱未幾。嘉苗殆枯。宜奉幣松尾。賀茂。乙訓。貴布祢。丹生川上雨師。垂水等社。祈甘雨防風災焉。	9	101	0
68	840	07.15	承和	7	06.09	干ばつ1A	癸丑。勅。比來亢陽涉旬。陰雨不下。不預祈禱。恐損國家。宜奉幣於貴布祢丹生川上雨師諸社。祈霽沢於名山大川。	9	104	0
69	840	07.07-07.19	承和	7	06.01-06.13	干ばつ1B	(6月13日)丁巳。勅。去年秋稼不登。諸國告飢。今茲疫癘間發。天傷未弭。加以季夏不雨。嘉苗擬焦。夫銷殃受祐。長官精進。必致靈感。修善之間。禁斷殺生。	9	105	0

続日本後紀

70	840 07.21	承和 7	06.15	干ばつ2A	己未。奉幣綿於伊勢大神宮及賀茂上下。松尾等社。祈霈沢。又令内外諸國奉幣神祇。祈請甘雨。 (辛酉)是日。夜分雨稍降。	9	105	0
71	840 07.23	承和 7	06.17			9	106	0
72	840 07.24	承和 7	06.18	大雨1A	壬戌。大雨快降。	9	106	0
73	840 05.09-08.01	承和 7	夏-06.26	干ばつ1C	庚午。勅報公卿論奏曰。(中略)去年炎旱。鳴蟬之稔不昇。今夏霽陽。(後略)	9	107	0
74	840 08.04	承和 7	06.29	大雨2A・暴風2A	癸酉。勅。頃者澍雨頻降。嘉穀滋茂。如有風災。恐損農業。宜令五畿内七道諸國。奉幣於名神。予防風雨焉。	9	107	0
75	840 10.23	承和 7	09.21	洪水3・干ばつ3	癸巳。太宰府言。在肥後國阿蘇郡健磐竜命神靈池。洪水大旱未嘗增減。而涸竭卅丈。	9	110	1
76	840 11.05	承和 7	10.04	干ばつ1A	丙午。皇太子御膳。准弘仁九年例。每物減四分之一。以旱也。	9	112	0
77	840 11.27	承和 7	10.26		戊辰。天中西方有聲如鼓。一聲而止。	9	112	0
78	841 05.01	承和 8	04.03		癸卯。日色赤如血。湏臾復常。	10	119	0
79	841 05.27	承和 8	04.29	干ばつ1A・暴風2A	己巳。勅。頃者時雨不降。農夫輟耕。如非祈禱。恐傷嘉苗。宜奉幣松尾。賀茂。乙訓。貴布祢。垂水。住吉。雨師神。令祈甘雨。兼防風災。	10	119	0
80	841 06.08	承和 8	05.12	干ばつ1A	辛巳。重奉神功皇后御陵宣命曰。(中略)頃者涉旬不雨。(中略)是夜暁。雨降。	10	120	0
81	841 06.10	承和 8	05.14	干ばつ2A	癸未。請名僧於八省院。誦經禱雨。是日雨降。	10	120	0
82	841 06.27	承和 8	06.01		是日。勅。頃者甘雨屬降。苗稼滋茂。此則修善之功。時致感応。宜令内外諸道。准去四月二日格旨。迄于秋收。國司講師。學園分・僧轉讀金剛般若經。令祈豐年。	10	121	0
83	841 08.09	承和 8	07.15	雷1A・ひょう1A	癸未。雷震于大極殿東樓南角柱。雨雹。大如碁子。	10	122	0
84	841 09.22	承和 8	08.30	長雨1A・大雨1A	丁卯。雨水殊甚。奠幣雨師。以祈止雨。	10	123	0
85	841 09.23	承和 8	09.01	洪水1A	有洪水。漂流百姓廬舍。京中橋梁及山崎橋盡斷絕焉。	10	123	0
86	842 04.29	承和 9	03.11	干ばつ1A	丙午。勅。比者春雨降少。枯旱日多。百姓輟耕。不能播種。(後略)	11	130	0
87	842 05.02	承和 9	03.15	干ばつ2A	庚戌。是日。遣使頒幣貴布祢。住吉。垂水。丹生川上等諸社。同祈甘雨。	11	130	0
88	842 05.10	承和 9	03.22	干ばつ2A	丁巳。使奉幣松尾。鴨御祖。鴨別雷。乙訓等名神。祈雨也。是日雨降。通宮不綴。	11	130	0
89	842 08.07	承和 9	06.23		丙戌。澍雨滂沱。百姓皆喜。	11	133	0
90	842 08.19	承和 9	07.06	干ばつ2A	戊戌。勅。奉幣於貴布祢。乙訓。丹生川上雨師神社。令祈雨也。是夕。雨降。	12	135	0
91	842 09.01	承和 9	07.19	干ばつ1A	(辛亥)頃者炎旱涉旬。秋稼焦枯。詢諸卜筮。伊勢八幡等大神為崇。令神祇伯大中臣朝臣淵魚祈禱焉。	12	138	0
92	842 09.02	承和 9	07.20	干ばつ1A	壬子。請百姓於大極殿。限三ヶ月。轉讀大般若經。以旱也。	12	138	0
93	842 09.03	承和 9	07.21		癸丑。雨快降。湏臾晴。更延誦經二日。	12	138	0
94	842 12.30	承和 9	11.21	雷1A	辛亥。坤天雷聲。	12	147	0
95	843 01.23	承和 9	12.15	雷1A	乙亥。坤角雷響。	12	148	0
96	843 06.06	承和 10	05.01		日赤先光。終日不復。非雲非霧。黑氣五天。至于午後。時々日見。其色黃赤。	13	156	0
97	843 09.09	承和 10	08.08		甲子。信濃國言。瑞雲見。	13	160	1
98	844 01.27	承和 11	01.01	大雪1A	癸朝賀。大雪也。(後略)	14	165	0
99	844 08.03	承和 11	07.12	干ばつ2A	癸巳請百僧於八省院。轉讀大般若經。祈甘雨。是日雨	14	168	0
100	844 09.11	承和 11	閏07.21	大雨2A・洪水2A・暴風2A	壬申。奉幣伊勢大神宮。祈防風雨災。	14	169	0
101	844 10.20	承和 11	09.01	干ばつ1A	雨快降。先是。不雨已久。井泉涸竭。故今人人以為嘉澍。	14	170	0
102	845 02.14	承和 12	01.01	大雪1A	癸朝賀。大雪也。(後略)	15	173	0
103	845 06.09	承和 12	04.27	干ばつ2A	癸卯。奉幣於畿内名神祈雨。	15	177	0
104	845 06.13	承和 12	05.01	干ばつ2A	請百僧於大極殿。限以三箇日。轉讀大般若經。以祈甘雨。	15	177	0
105	845 06.15	承和 12	05.03	干ばつ1A	己酉。緣雨未降。更延誦經二箇日。	15	177	0
106	845 06.17	承和 12	05.05	干ばつ2A	辛亥。停五日節。亦更延誦經二箇日。	15	177	0
107	845 06.18	承和 12	05.06		壬子。澍雨快降。	15	177	0
108	845 06.19	承和 12	05.07		癸丑。雨猶不休。誦經事畢。衆僧却廻。布施有差。	15	177	0
109	845 06.22	承和 12	05.10	長雨2A・干ばつ1A	丙辰。勅。比者涉旬不雨。新苗却燉。時當播種。恐今嘉雨稍降。并邑赴農。不知畿内之國。如渥潤何。宜仰五畿内七道諸國。奉幣於名神。兼每社零。令祈甘雨。若有雨降過度。應致淫害。復須奉幣祈止如初儀。	15	177	0
110	845 08.11-09.06	承和 12	07.01-07.27	長雨1B	壬申。遣民部大輔正五位下長田王等。奉幣於伊勢大神宮。令祈止雨也。此月。雨降。數々難晴。故有此祈也。	15	179	0
111	845 10.29	承和 12	09.21	大雨1A・暴風1A	乙丑。暴雨大風。拔樹斃屋。	15	180	0
112	846 06.14	承和 13	05.13	干ばつ2A	癸丑。請百僧於八省院。限三箇日誦經。以祈雨也。	16	186	0
113	847 01.25	承和 14	01.01	大雪1A	癸朝賀。大雪也。(後略)	17	195	0
114	847 04.26	承和 14	閏03.04		己巳。天有鳴聲。余響殷々。良久而止。	17	197	0

続日本後紀

115	847	06.08	承和	14	05.18	長雨1A	壬午。賑給左右京飢民。以久雨不止也。	賑給とある一方で、雨が現在でも止んでいないと解釈される。	17	199	0
116	847	07.22	承和	14	06.03	大雨1A・暴風1A	丙申。大風。発屋折木。雨亦降。入夜弥猛。		17	199	0
117	847	07.31	承和	14	06.12	大雨1A	乙巳。暴雨如懸河。此夜。月暈之外有白氣繞之。		17	199	0
118	847	08.08	承和	14	06.20	長雨1A	(和暦6月21日/グレゴリヲ暦8月9日)甲寅。霖雨止息。		17	199	0
119	847	09.10	承和	14	07.23	長雨2A	丙戌。奉白馬幣帛於丹生川上雨師神。令祈止雨。		17	200	0
120	847	12.24	承和	14	11.09		辛未。天北有聲如雷。		17	201	0
121	848	07.08	承和	15	06.01	長雨1A・大雨1A	連雨不停。雨勢如建瓴水。		17	210	0
122	848	07.09	承和	15	06.02	長雨2A	己丑。奉幣雨師神社。以祈止霖雨。		17	210	0
123	848	07.17	承和	15	06.10	長雨2A	丁酉。勅曰。陰陽寮申云。今茲秋雨應為害者若不予防。恐損年穀。宜令五畿内七道諸国。奉幣於名神。以防止雨害。		18	213	0
124	848	08.08	嘉祥	1	07.02	干ばつ2A	己未。奉幣帛於松尾。賀茂上下社。貴布祢。雨師社。以祈甘雨。		18	214	0
125	848	08.12	嘉祥	1	07.06	干ばつ2A	癸亥。請百僧於八省院。轉誦大般若經。以祈甘雨。		18	214	0
126	848	08.13	嘉祥	1	07.07	暴風1A	甲子。有颶風。起自春興殿庭。轉至紫震殿東北頭。更經清涼殿東。便向右近衛陣。簸揚炬屋。離地數尺。到版位前。披悉摧。		18	214	0
127	848	08.16	嘉祥	1	07.10	干ばつ2A	丁卯。奉幣畿内名神。令祈甘雨。		18	214	0
128	848	09.04	嘉祥	1	07.29	雷1A	丙戌。雷電非常。震于東西二京。凡十一處。(後略)		18	215	0
129	848	09.07	嘉祥	1	08.03		己丑。雨降。通宵不止。		18	215	0
130	848	09.08	嘉祥	1	08.04	大雨1A	庚寅。雨勢如倒井。終日不息。		18	215	0
131	848	09.09	嘉祥	1	08.05	洪水1A	辛卯。洪水浩々。人畜流損。河陽橋斷絶。僅殘六間。宇治橋傾損。茨田堤往々隕絶。故老僉曰。倍于大同元年水。可四五尺。		18	215	0
132	848	09.10	嘉祥	1	08.06	洪水3	甲午。遣使攝津河内兩国。巡檢於被水災者。開便近倉庫。賑給之。		18	215	0
133	848	10.13	嘉祥	1	09.09		乙丑。(中略)是日。同賦雨洗白菊。以応製。宴訖賜祿。		18	216	0
134	848	-	嘉祥	2	01.01	洪水1C	(嘉祥2年1月1日/849年)廢朝賀。緣去年天下有洪水害。秋稼不登也。		19	219	0
135	849	05.09	嘉祥	2	04.10	霜1A・低温1A	癸巳。天隕霜焉。風景之寒。宛似二月。		19	225	0
136	849	06.28	嘉祥	2	06.01	長雨3	遣使巡檢京城飢民。開倉廩以賑恤。緣霖雨也。		19	227	0
137	849	12.28	嘉祥	2	12.07	雷1A	丙戌。天西北有雷光。數十度。		19	230	0
138	850	02.18	嘉祥	2	12.29	大雨1A	(嘉祥3年1月1日/850年2月20日)終日雨降。先是。去月廿九日亦大雨焉。因停朝賀。		20	233	0
139	850	02.20	嘉祥	3	01.01		(嘉祥3年1月1日/850年2月20日)終日雨降。先是。去月廿九日亦大雨焉。因停朝賀。		20	233	0
140	850	02.23	嘉祥	3	01.04		癸未。北風切吹。白雪紛紛。		20	233	0

5. 日本文徳天皇実録

(1) ページは下記による。

黒板勝美・国史大系編修会編 1934『日本後紀・続日本後紀・日本文徳天皇実録』新訂増補/国史大系第3巻 国史大系刊行会・吉川弘文館・日用書房

(2) 地域（“L”列）は下記による。

0：近畿地方中部

1：近畿地方中部以外

日本文徳天皇実録

No.	グレゴリイ暦		和暦		項目	記載内容	備考	該当箇所		L
	年	月日	年号	年月日				巻	頁	
1	850	05.16	嘉祥	3 03.27	雷1A・強風1A	(乙巳)是日。嵯峨山陵。暴風雷雨。樹木倒仆。遣中納言徒三位安部朝臣安仁。就加察視。		1	4	0
2	850	05.26	嘉祥	3 04.08	雷1A	乙卯。大雷雨。諸衛警陣。賜陣頭侍徒及衛士以上祿。各有差。		1	7	0
3	850	06.04	嘉祥	3 04.17		甲子。帝即位於大極殿。其日晨旦快雨。百官以雨日儀徒事。至日中時天晴。(後略)		1	7	0
4	850	05.19-06.17	嘉祥	3 04	低温1B	是月。天寒。		1	9	0
5	850	06.19	嘉祥	3 05.02	暴風1A	己卯。大風。折木殺草。記災也。		1	9	0
6	850	06.26	嘉祥	3 05.09	干ばつ2A	丙戌。莊嚴清涼殿。安置金光明經地藏經各一部。及新造地藏菩薩像一軀。屈請百僧。修先皇七々日御齊會。解座之後。便於大極殿。限三ヶ所。轉読大般若經。以祈甘雨也。応時雨降。		1	11	0
7	850	06.27	嘉祥	3 05.10		丁亥。終日陰雲。入夜雨降。		1	12	0
8	850	06.28	嘉祥	3 05.11	大雨1A・洪水1A	戊子。加雨。水潦奔溢。時人以為。諸僧苦請之誠感動竜王也。		1	12	0
9	850	07.08	嘉祥	3 05.21		戊戌。石見国言上。甘露降。		1	13	1
10	850	07.13	嘉祥	3 05.26	ひょう1A	癸卯。雨雹。大如鴨卵。		1	13	0
11	850	07.19	嘉祥	3 06.03	雷1A	己酉。雷震。西寺刹柱剥取其竿。中央一許丈。去落於右馬頭藤原朝臣春津宅。		1	13	0
12	850	09.07	嘉祥	3 07.24	大雨1A・洪水1A	己亥。大雨。大極殿前竜尾道十二丈。為水潦所決壊。		2	16	0
13	850	10.07	嘉祥	3 08.24		己巳。天南有聲。如雷。		2	18	0
14	850	08.15-09.13	嘉祥	3 07	洪水1B	(9月23日)(乙未)(前略)先是。七月大水。山崎橋断。(後略)		2	19	0
15	851	01.23	嘉祥	3 12.14	雷1A	丁巳。雷。何以書之。記異也。		2	23	0
16	851	06.08	仁寿	1 05.02	雷1A	癸酉。雷雨。		3	28	0
17	851	06.10	仁寿	1 05.04		乙亥。加雨。		3	28	0
18	851	06.14	仁寿	1 05.08		己卯。雨水。	大雨・洪水とも考えられるが、実態は不明。	3	28	0
19	851	06.12	仁寿	1 05.09	長雨2A	庚辰。遣使者。向丹生川上雨師社。奉幣馬。以祈霽。		3	28	0
20	851	07.03	仁寿	1 05.27	長雨2A	甲辰。遣使者向伊勢。賀茂。松尾。乙訓等神社。以祈霽。策文曰。天皇我詔旨止。掛畏支大神之広前尔申久。近来雨降已止涉旬天。百姓乃農業流損奴倍之。(中略)去五月二十七日尔御馬牟。雨止女賜止禱申賜比之。(後略)		3	28	0
21	851	07.09	仁寿	1 06.03	長雨1A・洪水1A	甲辰。遣使者向伊勢。賀茂。松尾。乙訓等神社。以祈霽。策文曰。天皇我詔旨止。掛畏支大神之広前尔申久。近来雨降已止涉旬天。百姓乃農業流損奴倍之。(中略)去五月二十七日尔御馬牟。雨止女賜止禱申賜比之。(後略)		3	28	0
22	851	07.10	仁寿	1 06.04		乙巳。天霽。		3	29	0
23	851	07.11	仁寿	1 06.05	洪水3	丙午。遣使者分赴五畿内。賑給病水者。		3	29	0
24	851	08.26	仁寿	1 07.22		壬辰。夜。有如火光者。墜於殿前。左右驚乱。須臾乃定。		3	29	0
25	851	09.12	仁寿	1 08.10	大雨1A・洪水1A	己酉。大雨水。		3	30	0
26	851	09.17	仁寿	1 08.15	洪水3	甲寅。遣左右檢非違使廉実。京師被水害者賑給。		3	30	0
27	851	10.11	仁寿	1 09.09	洪水3	戊寅。以有水災。廢重陽宴。(後略)		3	30	0
28	851	12.06	仁寿	1 11.06		甲戌。日無精光。中有黒點。大如李子。		3	32	0
29	851	11.01-01.28	仁寿	1 冬	高温1C	冬温。何以書之。記異也。		3	33	0
30	852	02.04	仁寿	2 01.07		甲戌。幸豊楽院。以覽青馬。助陽氣也。賜宴群臣如常。		4	35	0
31	852	05.27-06.24	仁寿	2 05		是月。甘露降。於京師樹上。及大和。越前。加賀。但馬。因幡。伯耆。隱岐。播磨。長門等九国並言。甘露降。		4	40	0
32	852	08.03	仁寿	2 07.10	干ばつ2A	乙亥。遣使者。向賀茂。松尾。稻荷。貴布祢等名神。奉幣祈雨。即日得甘澍。		4	40	0
33	852	08.21	仁寿	2 07.28	大雨1A・暴風1A	癸巳。暴風雨。傷禾稼。		4	40	0
34	852	08.23	仁寿	2 08.01	大雨2A・洪水2A・暴風2A	遣少納言徒五位上鎌蔵王向伊勢太神宮奉幣。請止風雨。		4	40	0
35	852	10.02	仁寿	2 閏08.12	暴風1A	乙亥。大風発屋抜木。		4	41	0
36	852	10.06	仁寿	2 閏08.16	暴風3	己卯。以麩院米。賑給京師被風災者。	10月2日のイベントを受けたものか。	4	41	0
37	852	10.17	仁寿	2 閏08.27	大雨1A	庚寅。大雨。		4	41	0
38	852	10.19	仁寿	2 閏08.29	長雨2A	壬辰。遣左近衛少将徒五位上藤原朝臣仲統。右近衛少将徒五位上在原朝臣行平等。向賀茂松尾大神等社奉幣。請以止雨。		4	41	0
39	853	10.10	仁寿	3 09.01	暴風1A	大風。発屋抜木。		5	55	0
40	853	11.10	仁寿	3 10.02		(己未)是日。虹見於太政官庁前。		5	55	0

日本文徳天皇実録

41	854	01.21	仁寿	3	12.27		(丁丑)(前略)阿波。美馬両郡。常罹旱災害。古嗣殊廻方略。築陂蓄水頼灌漑。人用温給。(後略)		5	57	1
42	854	02.05	斉衡	1	01.01		停朝賀。以雨後泥深也。		6	59	0
43	854	03.21	斉衡	1	02.15	洪水3	庚午。詔。尾張国謀口三分之一。特徒優復。河流漲溢。民多病水。故降此恩。		6	60	1
44	854	02.05-05.04	斉衡	1	春	低温1A・霜1A	(3月23日)(丁未)春寒殞霜。何以書之。記災也。		6	61	0
45	854	05.06	斉衡	1	04.02		丙辰。授河内国大雷火明神徒五位下。		6	61	0
46	854	06.03-07.02	斉衡	1	05	低温1B	是月甚寒。山北微雪。記災也。	季節的に降雪があったことは疑わしい。	6	62	0
47	854	08.28	斉衡	1	07.27	大雨1A・洪水1A・暴風1A	庚戌。遣使者向伊勢太神宮。予請止風雨。是日。暴風。発屋拔木。須臾甚雨。洪水汎溢。當時有識甚有疑恠。		6	63	0
48	855	01.27	斉衡	2	01.01		帝不御大極殿。以雪後泥深。(後略)		7	69	0
49	855	04.11	斉衡	2	03.17	大雨1A・強風1A	丙申。大風雨。		7	72	0
50	855	04.24-05.23	斉衡	2	04	低温1A・霜1A	是雪。寒殞霜。記災也。		7	72	0
51	855	06.07	斉衡	2	閏04.15	大雨1A・洪水1A	癸巳。大雨水。		7	73	0
52	855	06.15	斉衡	2	閏04.23	長雨1A	辛丑。遣使者向丹生川上雨師神社。奉幣馬。請止淫雨。		7	73	0
53	855	07.27	斉衡	2	06.06	雷1A	癸未。靈建礼門前柳樹。		7	73	0
54	855	10.29	斉衡	2	09.11	大雨1A	丁巳。大雨。		7	75	0
55	856	02.14	斉衡	3	01.01		停朝賀。以陰雨也。		8	79	0
56	856	04.15	斉衡	3	03.03	ひょう1A	丙午。雨雹。記災也。		8	80	0
57	856	07.07	斉衡	3	05.28		己巳。雨水。	大雨あるいは洪水とも考えられるが、実態は不明。	8	82	0
58	856	08.08	斉衡	3	07.01	干ばつ2A	遣使者。向諸神社奉幣祈雨。		8	82	0
59	856	08.18	斉衡	3	07.11	干ばつ3	辛亥。越中国言。旱。		8	83	1
60	856	08.24	斉衡	3	07.17	雷1A	丁巳。雷雨。		8	83	0
61	856	08.27	斉衡	3	07.20	干ばつ3	庚申。若狭国言。旱。		8	83	1
62	857	01.07	斉衡	3	12.04	大雪1A	癸酉。大雪。		8	86	0
63	857	02.07	天安	1	01.05	強風1A	甲辰。風雪。		8	86	0
64	857	02.17	天安	1	01.15	干ばつ1A	(癸丑)近來處々井泉涸盡。左京三四条間。枯渴尤甚。今朝始雨降。		8	88	0
65	857	03.23	天安	1	02.20	大雨1A	(戊子)是夜大雨。達旦不霽。		9	92	0
66	857	05.21	天安	1	04.20		丁亥。終日雨。通宵不休。		9	97	0
67	857	06.19	天安	1	05.20	長雨1A・大雨1A・洪水1A・雷1A	丙辰。地震。雷雨。近來霖雨不霽。今日京中水溢。		9	98	0
68	857	06.28	天安	1	05.29	長雨1A・洪水1A	乙丑晦。淫雨未霽。洪水汎溢。道橋流絶。河堤断決。		9	99	0
69	857	07.09	天安	1	06.11	大雨1A・強風1A・雷1A	丙子。風雨迅雷。		9	99	0
70	857	08.01	天安	1	07.04	雷1A	己亥。雷雨。巽維有聲。如雷四五度。		9	100	0
71	857	08.03	天安	1	07.06	雷1A	辛丑。乾維有聲。如雷五六度。又巽維時々有聲。如雷。		9	101	0
72	857	08.05	天安	1	07.08		癸卯。地大震。乾巽兩維有聲。如雷。		9	101	0
73	857	07.19-08.11	天安	1	06.21-07.14	干ばつ1B	(7月15日)庚戌。雷雨。自去月下旬不雨。田間頗憂。今日適得膏沢。		9	101	0
74	857	08.12	天安	1	07.15	雷1A	(7月15日)庚戌。雷雨。自去月下旬不雨。田間頗憂。今日適得膏沢。		9	101	0
75	857	09.09	天安	1	08.14	濃霧1A	戊寅。天氣濛々。如苦霧之朝。		9	101	0
76	857	?-09.22	天安	1	?-08.27	干ばつ1C	壬辰。夜快雨。先是。数月不雨。田畝頗苦。今日人間歡喜。以為冥感也。		9	101	0
77	857	09.23	天安	1	08.28		壬辰。夜快雨。先是。数月不雨。田畝頗苦。今日人間歡喜。以為冥感也。		9	101	0
78	857	10.04	天安	1	09.09	干ばつ3	癸卯。重陽節也。天皇不御南殿。命公卿賦詩賜祿如常儀。雖開宴筵不举音楽。緣旱雲不霽秋稼為害也。		9	102	0
79	857	11.02	天安	1	10.08		壬申。雨。		9	103	0
80	857	11.07	天安	1	10.13	雷1A	丁丑。雷雨。		9	103	0
81	857	11.09	天安	1	10.15		(己卯)是日。有白雲。広四丈許。東西竟天。		9	103	0
82	857	11.21	天安	1	10.27		辛卯。風雨。		9	104	0
83	857	11.23	天安	1	10.29	低温1A	癸巳。天寒雨雪。		9	104	0
84	858	01.10	天安	1	12.18	雷1A	(辛巳)是夜。雷雨。		9	106	0
85	858	01.14	天安	1	12.22	雷1A	乙酉。夜雷。		9	106	0
86	858	01.23	天安	2	01.01		天皇不聽朝賀。以陰雪也。		10	109	0
87	858	02.19	天安	2	01.28	大雨1A・強風1A	辛酉。暴風大雨。		10	110	0
88	858	03.03	天安	2	02.10		(癸酉)日暮陰雨。入夜風雨。		10	111	0
89	858	03.04	天安	2	02.11	大雪1A	甲戌。大雪。		10	111	0
90	858	04.04	天安	2	閏02.13	ひょう1A	乙巳。雨雹。		10	112	0
91	858	04.11	天安	2	閏02.20		(壬子)是日。雨下。通宵不止。		10	112	0

92	858	04.25	天安	2	03.05	雷1A	丙寅。雷雨。		10	112	0
93	858	05.18	天安	2	03.28	雷1A	(己丑)是日無雲而雷。		10	113	0
94	858	05.20	天安	2	03.30		辛卯晦。雨。		10	113	0
95	858	05.26	天安	2	04.06	雷1A・ひょう1A	(丁酉)天陰雷雨。夜雨雹。大如碁石。須臾而止。通夜快雨。		10	114	0
96	858	05.21-05.28	天安	2	04.01-04.08	長雨1B	(4月9日)庚子。天晴。自今月壬辰。至于己亥連雨。今日初霽。	5月21日～5月28日に連続してイベントがあったとも解釈できるが、気候学的に稀で、ここでは断続的に発生したととった。	10	114	0
97	858	05.21, 05.28	天安	2	04.01, 04.08	長雨1A	(4月9日)庚子。天晴。自今月壬辰。至于己亥連雨。今日初霽。	5月21日～5月28日に連続してイベントがあったとも解釈できるが、気候学的に稀で、ここでは断続的に発生したととった。	10	114	0
98	858	05.31	天安	2	04.11	雷1A	壬寅。終日雨。空中有聲。如雷一度。		10	114	0
99	858	06.14	天安	2	04.25	雷1A	丙辰。雷雨。		10	115	0
100	858	07.02	天安	2	05.14		甲戌。雨終夜不止。		10	115	0
101	858	07.03	天安	2	05.15	大雨1A・洪水1A	乙亥。陰雨不止。洪水汎溢。東西兩河。人馬不通。		10	115	0
102	858	07.08	天安	2	05.20	大雨1A	庚辰。雨下如注。通宵不止。		10	116	0
103	858	07.09	天安	2	05.21	大雨1A	辛巳。大雨。		10	116	0
104	858	07.10	天安	2	05.22	大雨1A・洪水1A	壬午。大雨。洪水汎溢。河流盛溢。水勢滔々。平地浩々。橋梁断絶。道路成川。東堀川水入冷然院。庭中如池。左衛門陣直廬浮流。公卿諸司百寮。各學僚下。或草屨。或徒跣。競赴水畔。堀決禦流。池魚浮蕩。鰓尾甚多。亦左右京被水害。流死者衆矣。		10	116	0
105	858	07.11	天安	2	05.23	長雨1A	(旧暦5月24日/グレゴリオ暦7月12日)甲申。霖雨初止。天景新晴。	7月12日以前から多雨傾向が継続か。イベント日を7月11日とした。	10	116	0
106	858	07.14	天安	2	05.26	雷1A	丙戌。地震。無雲而雷。		10	116	0
107	858	07.15	天安	2	05.27	洪水3	(丁亥)遣勅使。令巡檢兩京洪水之害。		10	116	0
108	858	07.16	天安	2	05.28	雷1A	戊子。無雲而雷。暹明有星。入月魄中。		10	116	0
109	858	07.17	天安	2	05.29	長雨3	己丑。出穀倉院穀二千斛。民部慶院米五百斛。大膳職塩廿五斛。賑給左右兩京苦霖之窮民。		10	116	0
110	858	07.20	天安	2	06.03	雷1A	壬辰。雷雨。		10	117	0
111	858	07.22	天安	2	06.05	雷1A	甲午。雷雨。		10	117	0
112	858	07.24	天安	2	06.07	雷3	丙申。和泉国言。霹靂破官舎六十余宇。民「室」屋卅宇。被震死者二人。傷支體者三人。拔折木圍木十九株。殘廢田苗廿許町。		10	117	0
113	858	07.28	天安	2	06.11		庚子。早旦有白雲自艮亘坤。時人謂之旗雲。		10	117	0
114	858	08.04	天安	2	06.18	大雨1A・洪水1A・干ばつ1A・雷1A	丁未。雷雨。近來陽旱。炎氣盛蒸。是日加雨。河水頗溢。		10	117	0
115	858	06.19	天安	2	05.01	大雨1A・暴風1A・高潮1A	(6月20日)(己酉)大宰府言。去五月一日。大風暴雨。官舎悉破。青苗朽失。九国二嶋盡被損傷。又肥後国菊池城院兵庫鼓自鳴。同城不動倉十一宇火。		10	117	1
116	858	08.07	天安	2	06.21	強風1A・雷1A・濃霧1A	庚戌。暹明。濁霧濛々。無雲而雷。大風。		10	118	0
117	858	08.28	天安	2	07.12	干ばつ2A	辛未。宣命兩師。乙訓。水主。貴布祢神等。為祈雨也。入夜天陰小雨。		10	119	0
118	858	08.31	天安	2	07.15		甲戌。小雨。良久而止。入夜亦雨。		10	119	0
119	858	09.02	天安	2	07.17		丙子。天陰微雨。通宵不止。		10	119	0
120	858	09.04	天安	2	07.19	雷1A	戊寅。雷雨。		10	119	0
121	858	09.10	天安	2	07.25		甲申。小雨。		10	119	0
122	858	09.12	天安	2	07.27	大雨1A	丙戌。大雨。		10	119	0
123	858	09.13	天安	2	07.28	濃霧1A	丁亥。陰霧。		10	119	0
124	858	09.15	天安	2	08.01	濃霧1A	早旦陰霧。須臾天晴。		10	119	0
125	858	10.03	天安	2	08.19		(丁未)是夜。有雲竟天。自艮至坤。人謂之旗雲。		10	120	0

6. 日本三代実録

(1) ページは下記による。

黑板勝美・国史大系編修会編 1934『日本三代実録』新訂増補/国史大系第 4
巻 国史大系刊行会・吉川弘文館・日用書房

(2) 地域（“L”列）は下記による。

0：近畿地方中部

1：近畿地方中部以外

No.	グレゴリイ暦		和暦		項目	記載内容	備考	該当箇所		L
	年	月日	年号	年 月日				巻	頁	
1	858	10.17	天安	2 09.03		夜。月中有黒色。須臾月色赤如血。		1	5	0
2	858	10.28	天安	2 09.14		是夜。空中有聲如雷。		1	6	0
3	859	03.22	貞観	1 02.11		有赤黄白氣。形如車輪繞日。	黄砂とも考えられるが、断定できない。	2	20	0
4	859	05.10	貞観	1 04.01	雷1A	雷雨。震東京民居二・家。		2	23	0
5	859	05.16	貞観	1 04.07	-	武蔵国去秋水湧。下野国大風。陸奥国洪水。出羽国霜雹。加賀国水旱。出雲国秋寒。並賑給之。	日付が特定できず、集計しない。	2	24	1
6	859	06.02	貞観	1 04.24	大雨1A・洪水1A	是日夜大雨。流潦奔突。(後略)		2	28	0
7	859	06.25	貞観	1 05.17	雷1A・ひょう1A	雷電雨雹。		2	30	0
8	859	07.07	貞観	1 05.29	大雨1A	大雨。		2	31	0
9	859	07.08	貞観	1 06.01	長雨1A・洪水1A	霖雨大水。		3	33	0
10	859	07.11	貞観	1 06.04	長雨1A	霖雨未霽。賑京邑飢乏者。	「未霽」という記載から、長雨が継続中であることが示唆される。	3	33	0
11	859	07.29	貞観	1 06.22	強風1A・雷1A	雷雨大風。折木発屋。	台風・台風とは無関係の積乱雲に伴う突風による可能性があるが、雷の発生はとくに後者に特徴的であり、他に被害の記載もなく、被害地域が限定的で小規模と受け取ることができるため、後者によるものと解釈した。	3	33	0
12	859	08.24	貞観	1 07.19	雷1A	雷雨。震内教坊柿樹。		3	35	0
13	859	08.06-09.04	貞観	1 07		雅院桜樹華。京中李樹皆華。		3	35	0
14	859	09.07	貞観	1 08.03	大雨1A	大雨。		3	36	0
15	859	06.09-09.13	貞観	1 05-08.09	長雨1B	(8月9日)自五月至今月霖雨。仍遣使者於大和国丹生河上兩師社。奉幣青馬等。祈止雨也。		3	36	0
16	859	09.16	貞観	1 08.12	大雨1A・暴風1A	大風雨交殺。京師人居被風壞者多。	降水量は少なかった可能性が	3	36	0
17	859	10.07	貞観	1 09.04	長雨1A	分頭遣使。奉幣賀茂御祖。別雷。松尾。貴布祢。乙訓。稻荷等神社。祈止霖雨也。		3	37	0
18	859	10.11	貞観	1 09.08	大雨2A・暴風2A	山城国月読神。木嶋神。(中略)垂水神。名次神等遣使奉幣。為風雨祈焉。		3	37	0
19	859	10.12	貞観	1 09.09	大雨1A・暴風1A	此日。大風暴雨。発屋折樹。		3	38	0
20	859	10.21	貞観	1 09.18	雷1A・強風1A	大風雷雨大殺。		3	38	0
21	859	11.02	貞観	1 09.30		雨。大祓於八省院東廊。為大嘗会近也。依雨行事。故用東廊。		3	38	0
22	859	11.17	貞観	1 10.15		天東南有異雲。中有赤色。如電光激。		3	39	0
23	859	12.24	貞観	1 11.23	大雪1A	大雨雪。		3	42	0
24	859	12.30	貞観	1 11.29		雪未止。		3	42	0
25	860	01.31	貞観	2 01.01		天皇不受歳賀。雨也。(後略)		4	45	0
26	860	03.29	貞観	2 02.29	雷1A	雷雨晦合。		4	48	0
27	860	04.27	貞観	2 03.29	大雨1A・雷1A	迅雷暴雨。		4	49	0
28	860	05.04	貞観	2 04.06	霜1A	殞霜殺草。		4	49	0
29	860	05.01	貞観	2 05.05	雷1A・ひょう1A	地震。雷電雨雹。		4	51	0
30	860	06.14	貞観	2 05.18	雷1A・ひょう1A	地震。雷電。雨雹。		4	51	0
31	860	05.28-06.29	貞観	2 05-06.03	長雨1B	(6月3日)自五月霖雨。至是大水。		4	51	0
32	860	06.29	貞観	2 06.03	洪水1A	(6月3日)自五月霖雨。至是大水。		4	51	0
33	860	08.15	貞観	2 07.21	大雨1A・暴風1A	大風暴雨。		4	52	0
34	860	09.22	貞観	2 08.30		雨水。	大雨あるいは洪水とも考えられるが、実態は不明。	4	54	0
35	860	10.06	貞観	2 09.14	暴風1A	大風。折樹発屋。京師百姓廬舍破損者甚多。		4	54	0

日本三代実録

36	860	10.07	貞観	2	09.15	大雨1A・洪水1A・暴風1A・高潮1A	風雨未止。都城東西両河洪水。人馬不通。諸国浜海之地。潮水漲溢。人畜被害。		4	54	0
37	860	12.10	貞観	2	閏10.20		雨雪。録見在禁中五位以下及諸衛府宿者。賜綿有差。		4	57	0
38	861	01.05	貞観	2	11.16	雷1A・強風1A	是日。夜烈風雷雨。		4	61	0
39	861	01.06	貞観	2	11.17	強風1A	風猶不止。多壞人廬舍。		4	61	0
40	861	02.18	貞観	3	01.01		天皇不受朝賀。雨也。(後略)		5	65	0
41	861	03.06	貞観	3	01.17		降雨。		5	66	0
42	861	04.18	貞観	3	03.01	霜1A	殞霜。		5	69	0
43	861	04.18-04.21	貞観	3	03.01-03.04	霜1A	(3月4日)自一日霜頻降。	4月18日~4月21日に連続してイベントがあったと解釈した。	5	69	0
44	861	05.31	貞観	3	04.14		空中有聲如雷。		5	74	0
45	861	06.30	貞観	3	05.15	干ばつ1A	遣使者於近京名神七社。奉幣祈雨。告文曰。天皇詔旨止掛畏八幡大菩薩広前申賜中。頃者終日不雨。百姓農業可損。掛畏大菩薩矜賜依。甘雨普降。五穀豊熟念行。(後略)		5	75	0
46	861	07.01	貞観	3	05.16	干ばつ2A	請諸大寺僧六十口於御在所。轉読大般若經。限三箇日訖。祈甘雨也。		5	75	0
47	861	07.03	貞観	3	05.18	雷1A	雷。少雨微澍。		5	75	0
48	861	07.04	貞観	3	05.19	干ばつ1A	地震。微雨即止。読経更延二箇日。為未得嘉澍也。		5	75	0
49	861	07.06	貞観	3	05.21	干ばつ1A・雷1A	晩間。不雨而雷。(中略)而頃者炎旱連日。有妨農時。(後略)		5	75	0
50	861	07.18	貞観	3	06.03	雷1A	無雲而雷。		5	76	0
51	861	07.24	貞観	3	06.09	洪水3	去年九月遭水災。百姓被損者多。詔。復優二箇年。		5	76	0
52	861	08.06	貞観	3	06.22	低温1A・濃霧1A	天寒降霧。		5	77	0
53	861	08.24	貞観	3	07.11	大雨1A・暴風1A	大風雨。		5	78	0
54	861	10.08	貞観	3	08.27		空中有聲如雷。		5	80	0
55	861	10.10	貞観	3	08.29	雷1A	日晚雷雨。		5	80	0
56	861	09.12-10.11	貞観	3	08		是月。京邑往々梨李華或実。		5	80	0
57	862	02.07	貞観	4	01.01		天皇不受朝賀。雨也。(後略)		6	85	0
58	862	-	貞観	4	02.16	暴風3・霜3	(貞観4年2月16日/862年)出雲国・出雲。大原両郡。去年風水殞霜。多被損傷。詔復課役一年。		6	87	1
59	862	04.22	貞観	4	03.16		天東有聲。如雷。		6	89	0
60	862	04.25	貞観	4	03.19	ひょう1A	雨雹。		6	89	0
61	862	05.08	貞観	4	04.02	大雨1A・洪水1A	大雨。河水汎溢。行路難通。		6	90	0
62	862	07.01	貞観	4	05.27	長雨1A・大雨1A・洪水1A・雷1A	淫霖未止。是日。雷電大雨。庭潦奔溢。		6	93	0
63	862	06.05-07.22	貞観	4	05-06.18	長雨1B	(6月18日)自去五月霖雨。京邑飢饉。頒遣使者振給之。		6	93	0
64	862	08.05	貞観	4	07.02	-	常陸国河内。信太。鹿嶋。那賀。多珂五ヶ郡。頻年水旱疾病。給復二年。		6	93	1
65	862	09.10	貞観	4	08.09		但馬国言。慶雲見。		6	94	1
66	862	10.18	貞観	4	09.17	干ばつ1A	(9月17日)是月。京師人家井泉皆悉枯竭。所有水之處。人相借汲用。(後略)		6	95	0
67	863	01.23	貞観	4	12.26	大雨1A・雷1A	雷。大雨。		6	98	0
68	863	01.27	貞観	5	01.01		天皇不受歲賀。雨也。(後略)		7	101	0
69	863	02.01	貞観	5	01.06	雷1A	雷雨。		7	102	0
70	863	02.05	貞観	5	01.10	雷1A	雷雨。		7	103	0
71	863	03.11	貞観	5	02.14	強風1A	大風。壞民廬舍。		7	107	0
72	863	03.16	貞観	5	02.19		自十六日。至十八日。日初昇。白無光。月初出。赤如丹。今日並復舊。		7	108	0
73	863	03.28	貞観	5	03.02		空中有聲如雷。		7	108	0
74	863	04.10	貞観	5	03.15	干ばつ1A・霜1A	霜降。宣詔五畿七道諸国云。迺者。陰陽寮勘奏狀稱。檢卜筮。今茲可有天行之疫。予能修善。可防将来者。加以春雨未遍。水泉涸乏。思民与歳。忘寝与食。(後略)		7	109	0
75	863	05.06	貞観	5	04.11	強風1A・低温1A	天寒大風。		7	110	0
76	863	04.26-05.25	貞観	5	04	長雨1B	(4月29日)是月。霖雨未霽。		7	111	0
77	863	06.01	貞観	5	05.07	低温1A・霜1A	天寒殞霜。		7	112	0
78	863	06.24-07.23	貞観	5	06	長雨1B	是月霖雨。人民愁焉。		7	113	0
79	863	07.23	貞観	5	06.30	長雨1A	(閏6月1日/グレゴリヲ曆7月24日)霖雨始霽。		7	113	0

日本三代実録

80	863	07.25	貞観	5	閏06.02		大和国言。石上神社南。見五色雲。		7	113	0
81	863	09.11	貞観	5	07.21	暴風1A	大風。折樹斃屋。		7	114	0
82	863	10.01	貞観	5	08.11		晨日無光。		7	115	0
83	863	10.02	貞観	5	08.12		晨日無光。		7	115	0
84	863	11.19	貞観	5	10.01	雷1A	是日夜。雷雨。諸衛陣於殿前。		7	118	0
85	863	12.03	貞観	5	10.15	雷1A・強風1A	大風雷雨。		7	118	0
86	864	02.15	貞観	6	01.01	大雪1A	大雨雪。		8	121	0
87	864	04.18	貞観	6	03.05	雷1A	雷雨。		8	133	0
88	864	07.06	貞観	6	05.25	長雨1A	霖雨。京師隱居飢病者特加賑恤。	賑給のみをさしている可能性もある。	8	135	0
89	864	11.13	貞観	6	10.07		夜。北山有光。如電。又朱雀門前見赤光。長五尺許。		8	141	0
90	864	12.02	貞観	6	10.26	雷1A	夜。雷三聲。		9	142	0
91	864	12.28	貞観	6	11.22		勅復下総国葛餅。印幡。相馬。埴生。猿嶋五郡百姓調庸二年。以往頻憂水旱也。		9	143	1
92	865	01.01	貞観	6	11.26	雷1A	雷雨。		9	143	0
93	865	01.15	貞観	6	12.10	干ばつ3	駿河国言。駿河郡帶三駅二傳。横走。永倉。柏原駅家は也。物差點丁駅子四百人。傳子六十人。年来疫旱荐臻。(後略)		9	143	1
94	865	02.04	貞観	7	01.01		天皇不受朝賀。以雨雪地湿也。(後略)		10	145	0
95	865	02.06	貞観	7	01.03		雨雪。		10	145	0
96	865	04.11	貞観	7	03.08	雷1A	雷雨。		10	151	0
97	865	05.05	貞観	7	04.03	霜1A	殞霜殺草。		10	153	0
98	865	05.06	貞観	7	04.04	霜1A	殞霜不止。		10	153	0
99	865	05.09	貞観	7	04.07	霜1A	殞霜。		10	153	0
100	865	05.10	貞観	7	04.08	霜1A	殞霜。		10	153	0
101	865	05.16	貞観	7	04.14	霜1A	殞霜。		10	153	0
102	865	05.19	貞観	7	04.17	雷1A	雷雨。諸衛陣於殿庭。		10	154	0
103	865	06.04	貞観	7	05.02	雷1A	雷雨。諸衛陣於殿庭。		10	155	0
104	865	06.30	貞観	7	05.29	長雨1A・雷1A	大電雷雨。諸衛陣於殿前。是日。淫霖猶未止。		10	157	0
105	865	07.16	貞観	7	06.16	大雨1A・暴風1A	大風暴雨。壞廬舍。折樹木。建礼門扉二枚倒仆。		11	160	0
106	865	07.21	貞観	7	06.21		暹明。月色正黃。有赤雲覆之。		11	160	0
107	865	08.16	貞観	7	07.17	大雨1A・暴風1A	大風雨。折樹斃屋。		11	161	0
108	865	08.30	貞観	7	08.02		雨水。	大雨あるいは洪水とも考えられるが、実態は不明。	11	161	0
109	865	09.12	貞観	7	08.15	長雨3・洪水3	大宰府言。対馬嶋銀穴在下県郡。自高山底。穿鑿巖。掘入卅許丈。白屋執炬而入。頃年以來。處々崩塞。屬費人功。而去夏霖雨。穴底水湛。(後略)		11	162	1
110	865	09.14	貞観	7	08.17	干ばつ3	備後国神石。奴可。甲努。惠禰。世良。三谿。三次。三上八郡僻居山間。土宜採鐵。連年旱疾。黎庶幣亡。四年之間。毎年四郡。更復課役。	恒常的な干ばつの発生を述べたもので、特定の年月日に関するものではないと解釈される。	11	162	1
111	866	01.21	貞観	7	12.27		尾張国言。黄広野河流。向美濃国。当于斯時。百姓無害。而頃年河口壅塞。忽落此国。每遭雨水。動被巨害。望請。掘開河口。令趨舊流。太政官処分。依請。		11	169	1
112	866	04.14	貞観	8	03.21	霜1A	殞霜。		12	179	0
113	866	04.23	貞観	8	閏03.01		鸞輿幸太政大臣東京染殿第。觀櫻花。王公已下及百官扈徒。		12	179	0
114	866	05.30	貞観	8	04.09	洪水3・強風3	尾張阿波両国風湧。百姓飢饉。借貸尾張国正稅稻六万束。阿波国八万束。以救民弊也。		12	181	1
115	866	05.22-06.19	貞観	8	04.01-04.29	長雨1B	是月。自朔至今。霖雨未止。		12	182	0
116	866	05.22, 06.19	貞観	8	04.01, 04.29	長雨1A	是月。自朔至今。霖雨未止。		12	182	0
117	866	06.27	貞観	8	05.08	長雨1A	霖雨。請六十僧於紫雲殿。限以三日。轉読大般若經。		12	182	0
118	866	07.02	貞観	8	05.13	雷1A	雷雨。諸衛人仗陣於殿下。		12	183	0
119	866	07.16	貞観	8	05.27	干ばつ3	備前国旱疫。以正稅十万束假貸窮民。		12	184	1
120	866	06.20-07.19	貞観	8	05	長雨1B	是月。淫霖。		12	184	0
121	866	07.28	貞観	8	06.09	干ばつ1A	五畿七道奉幣境内諸神兼轉読金剛般若經早也。		13	188	0
122	866	08.01	貞観	8	06.13	干ばつ3	武蔵国去年風雨。今年飢旱。賑給之。		13	188	1
123	866	08.06	貞観	8	06.18	干ばつ2A・雷1A	請六十八僧於大極殿。限以三日。轉読大般若經。以祈雨也。是日。雷而不雨。大赦於建礼門前。		13	188	0
124	866	08.16	貞観	8	06.28	干ばつ1A	是月。天下大旱。民多飢餓。東堀河多鮎魚。京師人捕噉之。		13	189	0

日本三代実録

125	866	08.17	貞観	8	06.29	干ばつ3	先是。大和国言。楯列山陵守・等多伐樹木。神祇官卜云。炎旱之灾。突因伐木。是日。遣使申謝。告文云。天皇掛畏御陵恐恐申賜申。比来涉旬不雨。農業失便。(後略)	13	189	0
126	866	08.20	貞観	8	07.03	干ばつ2A	班幣宮城中及京畿七道諸神。黒馬一疋奉大和国丹生川上雨師神。並以祈雨也。	13	189	0
127	866	08.22	貞観	8	07.05	雷1A	雷雨。諸仗陣於殿前。	13	189	0
128	866	08.30	貞観	8	07.13	雷1A	雷雨。	13	191	0
129	866	08.31	貞観	8	07.14	干ばつ1A	班幣賀茂御祖別雷。松尾。丹生川上。稻荷。水主。貴布祢神。賽前日禱。兼祈嘉澍也。告文云。天皇詔旨掛畏松尾大神広前恐恐申給申。不慮之外天下旱灾。農稼枯損。(後略)	13	191	0
130	866	08.31	貞観	8	07.14	干ばつ3	備前国飢旱。賑給之。	13	192	1
131	866	09.18	貞観	8	08.02	干ばつ3	下総国飢旱。賑給之。	13	192	1
132	866	10.09	貞観	8	08.23	雷1A・強風1A	暴風雷雨。	13	194	0
133	866	11.22	貞観	8	10.08	干ばつ3	備中国哲多郡英賀兩郡百姓給復二年。以旱疫也。	13	199	1
134	867	-	貞観	9	-	干ばつ3	(貞観9年2月17日/867年)承去年之灾旱。京邑飢儉。詔以米三百廿石。粗二千石。塩州五斛。新錢一百貫。賑恤東西京乏絶之人。	14	211	0
135	867	-	貞観	9	-	干ばつ3	(貞観9年2月23日/867年)(前略)承去年旱儉之弊。(後略)	14	212	0
136	867	05.31	貞観	9	04.20	大雨1A	大雨。	14	215	0
137	867	06.01	貞観	9	04.28	雷1A	夜雷雨。諸衛陣於殿前。	14	216	0
138	867	05.12-06.09	貞観	9	04	長雨1B	是月。霖雨。	14	216	0
139	867	06.12	貞観	9	05.03	長雨1A	班幣畿内諸神。祈止霖雨告文曰。(中略)而自去四月霖雨不止。農業流損。(後略)	14	216	0
140	867	05.12-06.12	貞観	9	04-05.03	長雨1A	班幣畿内諸神。祈止霖雨告文曰。(中略)而自去四月霖雨不止。農業流損。(後略)	14	216	0
141	867	06.13	貞観	9	05.04	大雨1A・洪水1A	大雨洪水。往還難通。	14	216	0
142	867	05.12-07.08	貞観	9	04-05	長雨1B	自去月迄此月霖雨。人頗苦之。	14	218	0
143	867	10.05	貞観	9	08.30	大雨1A	大雨。	14	220	0
144	867	10.19	貞観	9	09.14	大雨1A・暴風1A	大風雨。拔樹斃屋。	14	221	0
145	868	02.01	貞観	9	12.30		日上有冠。左右成珥。色黃白。	14	225	0
146	868	04.19	貞観	10	03.19	雷1A	雷雨。諸衛陣于殿前。	15	232	0
147	868	05.27	貞観	10	04.27	雷1A	雷而不雨。諸衛陣於殿前。	15	233	0
148	868	05.30-06.27	貞観	10	05	長雨1B	是月霖雨。	15	233	0
149	868	07.20	貞観	10	06.23	干ばつ2A	奉幣賀茂以下諸社十所。祈嘉澍也。	15	233	0
150	868	08.13	貞観	10	07.18	雷1A	雷雨。諸衛陣於殿前。	15	234	0
151	868	08.26-09.23	貞観	10	08	長雨1B	是月霖雨。	15	234	0
152	868	09.24	貞観	10	09.01	大雨1A	大雨。	15	234	0
153	868	09.30	貞観	10	09.07	長雨2A	今日。遣使於十四箇神。奉幣。祈止雨。	15	234	0
154	868	10.02	貞観	10	09.09		雨始霽。	15	234	0
155	868	12.19	貞観	10	11.28	雷1A	雷三聲。	15	235	0
156	869	03.21-04.19	貞観	11	02	長雨1B	(2月29日)是月。霖雨。至今未止。	16	245	0
157	869	04.19	貞観	11	02.30	長雨1A	(2月29日)是月。霖雨。至今未止。	16	245	0
158	869	04.27	貞観	11	03.08	大雨1A・雷1A	雷電暴雨。諸衛陣於殿前。	16	245	0
159	869	07.31	貞観	11	06.15	雷1A	不雨而雷。	16	248	0
160	869	08.02	貞観	11	06.17	干ばつ1A	遣使者於伊勢大神宮奉幣告文曰(中略)頃間有旱災百姓農業燒損。(後略)	16	248	0
161	869	08.11	貞観	11	06.26	干ばつ1A	勅曰。(中略)而今旱雲涉旬。農民失望。(後略)	16	248	0
162	869	08.28	貞観	11	07.13	雷1A	雷雨。震武德殿前松樹。諸衛陣於殿前。	16	250	0
163	869	08.29	貞観	11	07.14	大雨1A・暴風1A	風雨。	16	250	0
164	869	08.29	貞観	11	07.14	大雨1A・暴風1A・高潮1A	是日。肥後国大風雨。飛瓦拔樹。官舍民居顛倒者多。人畜死不可勝計。潮水漲溢。漂没六郡。水退之後。搜摭官物。十失五六焉。自海至山。其間田園數百里。陷而為海。	16	250	1
165	869	10.09	貞観	11	08.26	大雨1A・暴風1A	夜。大風暴雨。拔樹斃屋。宮城京邑損傷甚多。	16	250	0
166	869	11.17	貞観	11	10.06	雷1A	雷雨。	16	251	0
167	869	12.13	貞観	11	11.03	大雨1A・強風1A・雷1A	雷電風雨。	16	252	0
168	869	12.31	貞観	11	11.21	干ばつ3	安芸国旱。詔免当年田租五分。	16	253	1
169	870	01.11	貞観	11	12.02	干ばつ3	山城国旱。免当年田租五分。	16	253	0

日本三代実録

170	870	06.07-07.16	貞観	12	05-06.10	長雨1B	(6月10日)自五月霖雨。至此未止。奉幣賀茂。貴布祢神祈止雨。(後略)		18	275	0
171	870	07.16	貞観	12	06.10	長雨1A	(6月10日)自五月霖雨。至此未止。奉幣賀茂。貴布祢神祈止雨。(後略)		18	275	0
172	870	07.16	貞観	12	06.10		是日。夜。白虹見東北。首尾着地。		18	275	0
173	870	07.23	貞観	12	06.17	長雨1A	類月淫霖。京師飢饉。賑給之。		18	275	0
174	870	07.28	貞観	12	06.22	長雨1A	奉幣賀茂御祖。別雷兩社。祈止霖雨。告文曰。(中略)近來霖雨難晴天百姓乃農業頗流損世利。(後略)		18	275	0
175	870	08.06	貞観	12	07.02	洪水3	以徒五位少納言兼侍從和氣朝臣宗範為河内国水害堤使。判官一人。主典二人。		18	276	0
176	870	08.26	貞観	12	07.22	大雨3・洪水3	是日。遣朝使築河内国堤。恐成功未畢重有水害也。由是奉幣大和国三歳神。大和神。広瀬神。龍田神。祈無雨滂。以河内水源出自大和国也。		18	276	0
177	871	01.15	貞観	12	12.17	干ばつ3	是日。復常陸国信太郡那珂郡百姓一千二百人。以旱飢也。		18	280	1
178	871	01.29	貞観	13	01.01		天皇不受朝賀。依雨也。(後略)		19	285	0
179	871	02.21	貞観	13	01.24	大雪1A	大雨雪。		19	285	0
180	871	04.23	貞観	13	03.26	洪水3・干ばつ3	河内国去年水旱。農民失業。詔以撰津国正稅稻五万束賜之。		19	286	0
181	871	03.29-04.27	貞観	13	03	長雨1A	是月。霖雨。京師多偷兒。詔遣左右近衛府官人已下十人。騎左右馬寮細馬。警夜監察。		19	286	0
182	871	06.14	貞観	13	05.19	干ばつ2A	遣使於丹生川上兩師神社奉幣祈雨也。		19	289	0
183	871	06.17	貞観	13	05.22	干ばつ1A	勅秀良親王家池水渙城南百姓田。旱也。		19	290	0
184	871	07.05	貞観	13	06.10	干ばつ1A	自朔不雨。至是班幣諸神社。祈雨也。是日。無雲而雷。		20	291	0
185	871	07.08	貞観	13	06.13	干ばつ2A	勅東海。東山。北陸。山陰。山陽。南海道諸国。班幣境内名山大沢諸神。并轉讀大般若金剛般若等經典。祈甘雨也。		20	291	0
186	871	07.10	貞観	13	06.15	干ばつ2A	延六十僧於大極殿。限以三日。轉讀大般若經。苦請澍雨。		20	291	0
187	871	07.11	貞観	13	06.16	雷1A	大雷微雨。		20	291	0
188	871	07.12	貞観	13	06.17	干ばつ1A	更延講經三箇日。縁不快雨也。		20	291	0
189	871	07.26	貞観	13	07.02	雷1A	雷雨。諸衛陣於殿前。		20	291	0
190	871	08.04	貞観	13	07.11	雷1A	雷雨。東京有人震死。		20	292	0
191	871	09.28	貞観	13	閏08.07	大雨1A・洪水1A・雷1A	雷。大雨。諸衛陣於殿前。河水暴溢。京師道橋流損者衆。壞人廬舍不知其數。頒遣使者班幣諸神社。請止雨。		20	293	0
192	871	10.02	貞観	13	閏08.11	長雨1A・洪水3	霖雨未止。東京居水損者卅五家百卅八人。西京六百卅家三千九百九十五人。賜穀塩各有差。		20	293	0
193	871	10.05	貞観	13	閏08.14		勅。夫積土築堤。尤為避水也。堤絶河決。其害難防。而今有聞。細民之愚昧於遠慮。或公請空閑之明驗。或私逐地利之膏腴。開發田疇。穿築溉灌。霧潤之漸。遂及壞堤河。濡郊之地者。京邑及諸國輸貢之徒。古來所芻牧也。而求利之輩。占為田園。遂令遠近百姓專失放牧之便。寧恣一家之所利。永忘万民之為愁。宜禁止鴨川堤迎除公田之外諸所耕營水陸田。縱雖公田可成堤害者。莫令耕作。犯者罪之。	洪水防止のため、築堤のほか、堤防内に農地を開くことを禁止した旨を記載。	20	293	0
194	871	10.22-11.19	貞観	13	09		是月。桜梨桃李皆華。		20	295	0
195	871	12.17	貞観	13	10.28	雷1A	雷一聲。		20	300	0
196	871	?	貞観	13	11.壬寅	雷1A	壬寅雷雨。		20	300	0
197	871	12.29	貞観	13	11.10	雷1A	雷電。		20	300	0
198	872	01.10	貞観	13	11.22	雷1A	雷。地震。大鳥一集于神泉苑乾臨殿東鴉鳥尾上。		20	301	0
199	872	01.18	貞観	13	12.01	雷1A	雷雨。		20	301	0
200	872	02.04	貞観	13	12.18	大雪1A	大雨雪。		20	301	0
201	872	04.25	貞観	14	03.10	大雨1A・強風1A	大風雨。賑給京師絶乏者。		21	305	0
202	872	05.15	貞観	14	04.01	大雨1A	大雨。		21	306	0
203	872	06.02	貞観	14	04.19	洪水3・干ばつ3	尾張国去年滂旱。乏絶者賑給之。		21	306	1
204	872	08.21	貞観	14	07.10		申時。白雲氣起東北。亘西南。形如疋布。		22	311	0
205	872	08.29	貞観	14	07.18	干ばつ2A	延六十僧於大極殿。限以三日。轉讀大般若經。祈雨也。		22	311	0
206	872	09.01	貞観	14	07.21	干ばつ1A	降雨。天皇以百姓罹旱。依佻祈雨。不御葷鮮。果得甘澍。時人以為。感之至也。		22	311	0
207	872	09.04	貞観	14	07.24	大雨1A	大雨。		22	311	0
208	872	09.05	貞観	14	07.25	大雨1A	大雨。		22	311	0
209	872	09.07	貞観	14	07.27	雷1A	雷雨。地震。		22	311	0
210	872	09.14	貞観	14	08.04	大雨1A・暴風1A	大風雨。多壞民人廬舍。	降水量は少なかった可能性がある。	22	312	0
211	872	10.22	貞観	14	09.13	大雨1A	大雨。		22	314	0
212	872	10.25	貞観	14	09.16		日赤無光。即日宿在氐。		22	314	0
213	872	12.15	貞観	14	11.08	大雪1A	通夕。雪未止。(後略)		22	317	0
214	872	05.15-08.11	貞観	14	夏	干ばつ3	(旧曆11月17日/グレゴリオ曆12月24日)詔。大和因幡兩國。当年田租收不四得六段。以夏旱魃。秋風水。苗稼連損也。		22	318	0

日本三代実録

215	872	08.12-11.08	貞観	14	秋	洪水3・暴風3	(旧暦11月17日/グレゴリヲ暦12月24日)詔。大和因幡兩國。当年田租收不四得六段。以夏旱魃。秋風水。苗稼連損也。	22	318	0
216	873	01.05	貞観	14	11.29		天南有聲。如雷。	22	318	0
217	873	02.06	貞観	15	01.01	大雨1A・雷1A	天皇不受朝賀。以雨後湿也。(中略)是日申時。飄風暴雨。雷二聲。	23	321	0
218	873	05.31	貞観	15	04.27	雷1A・ひょう1A	雷電雨雹。諸衛府近屯殿前。	23	324	0
219	873	06.05	貞観	15	05.03	雷1A・ひょう1A	雷電雨雹。其大如雞子。或如梅実。	23	324	0
220	873	06.22	貞観	15	05.20	干ばつ2A	轉読経卷。更延二日。奉幣於賀茂。松尾。乙訓。稻荷。貴布祢。丹生川上兩師神並祈嘉澍也。	23	325	0
221	873	06.25	貞観	15	05.23	雷1A	雷而不雨。	23	325	0
222	873	06.25	貞観	15	05.23	干ばつ2A	於十五大寺。読経請雨。	23	325	0
223	873	06.26	貞観	15	05.24	雷1A	雷雨。	23	325	0
224	873	07.03-07.16	貞観	15	06.01-06.14	長雨1B	(和暦6月15日/グレゴリヲ暦7月17日)自今月一日霖雨。是日始霽。	24	327	0
225	873	07.03, 07.16	貞観	15	06.01, 06.14	長雨1A	(和暦6月15日/グレゴリヲ暦7月17日)自今月一日霖雨。是日始霽。	24	327	0
226	873	08.08	貞観	15	07.08	大雨1A・雷1A	雷電暴雨。諸衛府近屯殿前。	24	327	0
227	873	08.09	貞観	15	07.09	干ばつ2A	遣使於賀茂。松尾。稻荷。乙訓。貴布祢神社奉幣。祈雨也。	24	328	0
228	873	08.19	貞観	15	07.19	干ばつ2A・雷1A	遣散位徒五位下好風王。神祇大祐正六位上大中臣朝臣常道於伊勢大神宮。奉幣。祈甘雨。是日。雷雨。	24	328	0
229	873	08.20	貞観	15	07.20		降雨。	24	328	0
230	873	11.17	貞観	15	10.20		時加辰。日重暈。左右耳珥。其下雲氣如竜。	24	330	0
231	874	01.13	貞観	15	12.17	洪水3・干ばつ3	但馬国城崎郡滂旱。百姓窮困者漆佰肆拾漆人給復一年。	24	334	1
232	874	01.27	貞観	16	01.01		天皇不受朝賀。雨後地湿也。(後略)	25	337	0
233	874	04.28	貞観	16	04.05	霜1A	殞霜。	25	340	0
234	874	04.30	貞観	16	04.07		時加未。日有五重暈。白虹貫日。(後略)	25	340	0
235	874	05.01	貞観	16	04.08	大雨1A	暴雨。	25	341	0
236	874	05.08	貞観	16	04.15	濃霧1A	四方陰霧。終日不晴。	25	341	0
237	874	05.11	貞観	16	04.18		申時日赤無光。	25	341	0
238	874	05.13	貞観	16	04.20	大雨1A・雷1A	是日。雷電暴雨。諸陣屯殿前。	25	341	0
239	874	05.17	貞観	16	04.24		日在畢宿。薄食如不復而隱没。是日。有片雲。如墨染紗而掩日。又非雲非霞。黃赤色氣。延蔓蔽天。	25	341	0
240	874	06.16	貞観	16	閏04.24	雷1A	雷雨。諸衛陣於殿前。	25	342	0
241	874	07.09-07.19	貞観	16	05.18-05.28	雷1B	(旧暦5月28日/グレゴリヲ暦7月19日)徒去十八日。頻雷雨。是日大雷雨。諸衛陣屯於殿前。	25	343	0
242	874	07.19	貞観	16	05.28	雷1A	(旧暦5月28日/グレゴリヲ暦7月19日)徒去十八日。頻雷雨。是日大雷雨。諸衛陣屯於殿前。	25	343	0
243	874	06.22-07.20	貞観	16	05	長雨1B	是月。霖雨。	25	343	0
244	874	08.03	貞観	16	06.14	雷1A	是日雷雨。東京牛震死。	25	343	0
245	874	08.13	貞観	16	06.24	雷1A	大雷雨。陣屯殿前。	25	343	0
246	874	09.19-10.05	貞観	16	08.01-08.17	長雨1B	(8月17日)是月霖雨。奉幣丹生川上兩師神。祈止雨。	26	346	0
247	874	10.12	貞観	16	08.24	大雨1A・洪水1A・暴風1A	大風雨。折樹斃屋。紫震殿前椽。東宮紅梅。侍從局大梨等樹木有名皆吹倒。内外官舎。人民居廬。罕有全者。京邑衆水。暴長七八尺。水流迅激。直衝城下。大小橋梁無有子遺。朱雀大路豐財坊門倒覆。抱閔兵士并妻子四人压死。東西河流汎溢蕩々。百姓及牛馬没溺。死者不知其數。与度渡口四辺卅余家。山崎橋南四十余家流。土人居屋中。隨流蕩去者甚多。一婦人提携兩兒。在小倉中排扉隨河水而流下。拳手招呼岸上人云。來救我。人々號哭。百万相計。水勢奔湧。遂不能授手。至觸橋柱。倉壞人没。權律師法橋上人位宗叡予造御願寺。在山城国愛宕郡栗栖野。堂舎顛覆。佛像元在北山高岑寺。貞観十三年大雨水。自然以大巖石。塞其道路。行人不通。去高岑寺。移立於栗栖野。又去年京師大雨雹。時人皆曰。此三度灾因彼像而発焉。是日。班幣畿内諸神。祈止風雨。時論或云。今年洪水。増於嘉祥元年六尺有余。	26	347	0
248	874	10.24	貞観	16	09.07	洪水3・暴風3	東京被風水損。尤甚者三千一百五十九家。開倉廩賑給。	26	349	0
249	874	08.22-11.16	貞観	16	秋		(9月29日)是秋。桃李華。	26	351	0
250	875	02.02	貞観	16	12.19	大雪1A	大雨雪。	26	354	0
251	875	02.20	貞観	17	01.07	大雨1A	是日。早朝。天色晴朗。及亭午。暴雨滂沱。庭礼忽变。雨儀徒事。式兵二省官人侍立承明門内壇上。	27	357	0
252	875	03.06	貞観	17	01.21		是日巳時。日暈而有珥。	27	358	0
253	875	03.08	貞観	17	01.23		酉時。日暈而有珥。	27	358	0
254	875	05.25	貞観	17	04.13	雷1A	雷雨。諸衛陣於殿前。	27	361	0

255	875	05.30	貞観	17	04.18	大雨1A・雷1A	雷電大雨。諸衛陣於殿前。		27	361	0
256	875	06.26	貞観	17	05.16		夜有雲氣。竟天。形如幡。頭挿西山尾掛東山。		27	362	0
257	875	07.13	貞観	17	06.03	干ばつ2A	是日。分遣使者於山城國賀茂御別雷。松尾。稻荷。乙訓。貴布祢。大和国丹生川上七社奉幣。丹生川上奉黒馬。以祈嘉澍也。		27	362	0
258	875	07.18	貞観	17	06.08	干ばつ1A	遣徒四位下行左馬頭藤原朝臣秀道於春日神社奉幣兼禱。欲奉育女以祈甘雨也。告文曰。天皇詔旨。掛畏春日大神広前恐恐申賜申。近来経日渡旬。雨沢不降。百姓農業枯損。(後略)		27	362	0
259	875	07.19	貞観	17	06.09	干ばつ2A	遣徒四位下大舍人頭有佐王。向伊勢大神宮奉幣。以祈甘雨也。		27	363	0
260	875	07.23	貞観	17	06.13	干ばつ2A	分遣使者於十五大寺。轉読大般若經。每寺充新錢。或二貫。或三貫。祈雨也。		27	363	0
261	875	07.25	貞観	17	06.15	干ばつ1A	屈六十僧於大極殿。限三箇日。轉読大般若經。十五僧於神泉苑。修大雲輪請雨經法。並祈雨也。遣參議正四位下行勘解由長官兼式部大輔播磨守菅原朝臣是善。徒四位上行左右京大夫輔世王。向深草山陵。謝過祈恩。以神祇官言不雨之崇在伐山陵樹也。		27	363	0
262	875	07.26	貞観	17	06.16	雷1A	申時黒雲四合。俄而微雨。雷數聲。小選開霽。入夜小雨。即晴。(後略)		27	363	0
263	875	07.27	貞観	17	06.17	雷1A	未時雷電微雨。食頃乃霽。		27	363	0
264	875	07.28	貞観	17	06.18	干ばつ1A	大極殿読經。神泉苑修法。更延二日。未得快澍也。	「未得快澍也」から干ばつが原因の雨乞いであることは明らか。	27	363	0
265	875	08.02	貞観	17	06.23	干ばつ1A	不雨數旬。農民失業。轉經走幣。祈請仏神。猶未得嘉澍。(後略)		27	364	0
266	875	08.03	貞観	17	06.24	雷1A	寅時微雷細雨。須臾乃霽。未時雷數聲降雨。但京城之外及濕塵。		27	364	0
267	875	08.04	貞観	17	06.25	雷1A	申時雷電小雨。少時天晴。		27	364	0
268	875	08.08	貞観	17	06.29	雷1A	雷雨。小選乃止。大祓於朱雀門前例也。		27	364	0
269	875	08.09	貞観	17	07.01	雷1A	午時雷數聲。小雨。食頃而晴。申時降雨。入夜乃霽。		27	364	0
270	875	08.10	貞観	17	07.02	干ばつ2A	遣使班幣賀茂御祖別雷。松尾。稻荷。乙訓。木嶋。貴布祢。丹生川上八神社。祈雨也。		27	364	0
271	875	08.11	貞観	17	07.03	干ばつ2A	遣徒四位上行民部大輔潔世王。散位徒步五位下有能王。向橘列山陵。申謝百姓伐「樹」陵中樹。兼祈甘雨。		27	364	0
272	875	08.18	貞観	17	07.10	大雨1A・暴風1A・雷1A	雷電風雨。拔樹木壞滅廬舎。	「拔樹木壞滅廬舎」から台風によるものと解釈した。	27	364	0
273	875	08.20	貞観	17	07.12	雷1A	雷雨未止。		27	364	0
274	875	09.03	貞観	17	07.26	長雨1A	霖雨不止。遣使大和国丹生川上神社。奉幣白馬。祈止雨也。		27	364	0
275	875	12.18	貞観	17	11.13	洪水3	但馬国去年水損。借貸正稅充四分之一。		27	366	1
276	875	12.29	貞観	17	11.24		親王公卿於神嘉殿。行新嘗祭之事。天皇不御以雨也。		27	367	0
277	876	01.02	貞観	17	11.28	洪水3・暴風3	勅免伊勢国去年田租八分。風水為災也。		27	367	0
278	876	02.03	貞観	18	01.01		天皇不受朝賀。雨也。(後略)		28	369	0
279	876	02.05	貞観	18	01.03	砂じん1A	日色変赤。西京三条降霧陰蒙。往還之人弁其形。須臾開霽。日色復常。		28	369	0
280	876	04.23	貞観	18	03.21	長雨1A	霖雨。京城人飢。賑給之。	「賑給」の記載の前に「霖雨」とあり、これに続く「是月霖雨」という記載から、4月23日時点で「霖雨」であることをうけた「賑給」と解釈した。	28	372	0
281	876	04.03-05.01	貞観	18	03	長雨1B	(3月29日)是月霖雨。至今未止。		28	373	0
282	876	05.01	貞観	18	03.29	長雨1A	(3月29日)是月霖雨。至今未止。		28	373	0
283	876	06.11	貞観	18	05.12		颶風起紫雲殿前。轉出脩明門。		28	375	0
284	876	06.28	貞観	18	05.29	長雨1A	(5月29日)是月霖雨。至此未止。		28	375	0
285	876	05.31-06.28	貞観	18	05-05.29	長雨1B	(5月29日)是月霖雨。至此未止。		28	375	0
286	876	07.02	貞観	18	06.04	低温1A	風吹氣冷。宛然似秋。		29	377	0
287	876	07.05	貞観	18	06.07	濃霧1A	卯時霧降。至巳而霽。		29	377	0
288	876	07.13	貞観	18	06.15	長雨1A	霖雨。		29	377	0
289	876	07.14	貞観	18	06.16	雷1A	雷雨。諸衛陣於殿前。		29	378	0
290	876	07.16	貞観	18	06.18	ひょう1A・霧1A	晨旦霧降。申雨雹。酉時地震。		29	378	0
291	876	08.11	貞観	18	07.14	雷1A	大雷雨。諸衛陣於殿前。		29	379	0
292	876	08.15	貞観	18	07.18	雷1A	雷雨。是日。大安寺塔震動。		29	379	0

日本三代実録

293	876	08.18	貞観	18	07.21	雷1A	申時。天無雲而雷。		29	379	0
294	876	08.20	貞観	18	07.23	洪水3・干ばつ3	丹後国比年水旱。百姓飢餓。詔以穀類三万斛。借貸絶乏戸。		29	380	1
295	876	08.24	貞観	18	07.27		申一刻。東山下見五色雲。傍山根亘南北。形如虹而非虹。(後略)		29	380	0
296	876	09.01	貞観	18	08.06		日入之時。赤雲八条起自東方。(後略)		29	380	0
297	876	12.29	貞観	18	12.06	雷1A・ひょう1A	雷雷雨雹。		30	388	0
298	876	12.30	貞観	18	12.07	雷1A	雷雨。		30	388	0
299	877	-	元慶	1	01.27	干ばつ3	(元慶元年1月27日/877年2月17日)去年亢旱。京師及畿内諸国飢饉。河内和泉為尤甚。公卿會議。東西京中置常平司。出売官米。亦遣使河内和泉兩國。賑給絶乏戸。		30	393	0
300	877	06.24	元慶	1	05.06		是日午後雨殺。四府不供馬上雜芸。		31	406	0
301	877	07.21	元慶	1	06.04	干ばつ2A	奉幣黑馬於丹生川上神。并奉幣貴布祢神。祈甘雨也。		31	406	0
302	877	07.26	元慶	1	06.09	雷1A	雷而不雨。		31	406	0
303	877	07.29	元慶	1	06.12	干ばつ2A	令京城側近諸寺誦經。祈雨也。		31	407	0
304	877	07.31	元慶	1	06.14	干ばつ2A	奉幣石清水八幡大菩薩宮并賀茂御祖。別雷。松尾。稲荷。木嶋。乙訓。大依羅。垂水。広田。生田。長田神社。祈甘雨也。		31	407	0
305	877	08.01	元慶	1	06.15	雷1A	雷而不雨。		31	407	0
306	877	08.02	元慶	1	06.16	雷1A	大雷微雨。		31	407	0
307	877	08.09	元慶	1	06.23	干ばつ2A	詔授大和国徒三位丹生川上雨師神正位。即奉幣黑馬。以祈雨。告文云々。(後略)		31	407	0
308	877	08.12	元慶	1	06.26	干ばつ2A	屈傳燈大法師位教日於神泉苑。攀廿一僧。修金翅鳥王經法。祈雨法。		31	407	0
309	877	08.13	元慶	1	06.27	干ばつ1A	勅遣權律師法橋上人位延壽。正五位上行式部大輔兼美濃權守橘朝臣於東大寺大仏前。限以三日。修法祈雨。遂不得嘉澍。	「遂不得嘉澍」から干ばつが原因の雨乞いであることは明らか。	31	407	0
310	877	07.18-08.16	元慶	1	06	干ばつ1B	(和暦6月30日/グレゴリオ暦8月16日)是月大旱。民廢農業。走幣修法。未有効驗。		31	407	0
311	877	08.16	元慶	1	06.30	干ばつ1A	(和暦6月30日/グレゴリオ暦8月16日)是月大旱。民廢農業。走幣修法。未有効驗。		31	407	0
312	877	08.18	元慶	1	07.02	干ばつ1A・雷1A	平曉。西南遠聞雷五六聲。雲氣冥密。然而不雨。右大臣徒步二位藤原朝臣基經以久旱不雨。上表請罷撰政言云々。優詔不聽。		32	409	0
313	877	08.19	元慶	1	07.03	干ばつ1A	比月炎旱。神功皇后楯列山陵成崇。遣使巡檢守喪儀倉。於倉下解鹿喫肉。百姓伐取南北二陵樹木三百卅二株。守倉人及諸陵官人科罪。		32	409	0
314	877	08.23	元慶	1	07.07	干ばつ2A	請一百僧於紫雲殿。限以三日。轉誦大般若經。即是秋季誦經。兼祈甘雨也。		32	409	0
315	877	08.25	元慶	1	07.09	干ばつ1A・雷1A	雷動晦合。微雨灑落。是日誦經將竟。早氣猶盛。更延二日。轉仁王經。		32	409	0
316	877	08.26	元慶	1	07.10	(干ばつ1A)	引神泉苑池水。灌溉城南民田。一日一夜而水脉涸竭。	干ばつへの対応策を記載したものと解釈される。	32	409	0
317	877	08.28	元慶	1	07.12	干ばつ2A	轉經五日。請雨不驗。僧中或有慙愧不受嚩物而潛遁		32	409	0
318	877	08.29	元慶	1	07.13		先是。内供奉十禪師傳燈大法師位德龍言。弟子僧乘縁。有咒験致雨之術。請試令修之。仍徵乘縁於武徳殿。限以五日。誦咒祈請。是日。未時暴雨。乍陰乍霽。雨沢不治。	「是日。未時暴雨。」とあるが、「雨沢不治。」という記載から、大雨には該当しないと解釈した。	32	409	0
319	877	08.30	元慶	1	07.14	雷1A	申時地震。酉時雷電激動。雲雨晦合。		32	409	0
320	877	08.31	元慶	1	07.15	雷1A	申時雷雨。		32	409	0
321	877	09.01	元慶	1	07.16	雷1A	暹明遍雨。未時雷激雨殺。諸衛及内舍人陣於殿前。宮中大夫稱慶歎呼。		32	409	0
322	877	09.04	元慶	1	07.19	干ばつ1A	(前略)天皇朝廷寶位無動常盤堅磐守幸賜甲。辞別申。頃月不雨。百姓農業皆悉燒損由。先申奉出已了。而至今未雨。(後略)		32	410	0
323	877	09.09	元慶	1	07.24		快雨。		32	410	0
324	877	10.24	元慶	1	09.10	干ばつ1A・雷1A	雷動雲合微雨灑落是誦經將竟早氣猶盛更延二日轉仁王經。		32	411	0
325	877	12.21	元慶	1	11.09	大雪1A	大雨雪。		32	412	0
326	878	02.10	元慶	2	01.01		天皇不受朝賀。澍雨降雪也。(後略)		33	419	0
327	878	-	元慶	2	01.15	干ばつ3	(元慶2年1月15日/878年2月24日)勅。以播磨国不動穀六千斛。轉充和泉国。班給百姓。以去年旱飢也。		33	420	0
328	878	-	元慶	2	01.27	干ばつ3	(元慶2年1月27日/878年3月8日)去年亢旱。京師及畿内諸国飢饉。河内和泉為尤甚。公卿會議。東西京中置常平司。出売官米。且遣使河内和泉兩國。賑給絶乏戸。		33	420	0
329	878	03.12	元慶	2	02.01	雷1A	雷二三聲。降雨。		33	420	0
330	878	-	元慶	2	02.28	干ばつ3	(元慶2年2月28日/878年4月8日)勅備前国不動穀一万斛運充河内国。班給百姓。以去年旱損民多飢饉也。		33	423	1
331	878	(05.02)	元慶	2	03.23	洪水3	丹後国與謝郡仁寿元年洪水流損田三百廿五町三百五十步奉充清和院。	仁寿元年是851年。	33	424	1
332	878	05.18	元慶	2	04.09	霜1A	殞霜。		33	426	0

333	878	06.08	元慶	2	04.30	干ばつ1A	先是。炎旱殊甚。農夫弃耒。朝廷為憂。是日膏雨快澍。溝渠皆溢。天下以為。仁王經之驗力。故記之。		33	428	0
334	878	06.10	元慶	2	05.02	干ばつ3	摂津国旱飢。詔轉運播磨備前兩國不動穀各三千斛。班賦百姓。	飢饉を伴うため、 賑給と判断した。	33	428	0
335	877	-	元慶	2	05.08	干ばつ3	(元慶2年5月8日/878年6月16日)大和国去年大旱。百姓飢饉。詔以正税三万束。賑給絶乏戸七万八千八百一十人。		33	428	0
336	878	06.09- 07.10	元慶	2	05- 06.03	干ばつ1B	(和暦6月3日/グレゴリイ暦7月10日)自去月至此。亢陽不雨。名山大川能興雲致雨。並班幣祈雨。賀茂御祖別雷。松尾。稻荷。貴布祢。丹生川上。乙訓。水主八社は也。丹生川上加黒馬一疋。		33	429	0
337	878	07.10	元慶	2	06.03	干ばつ1A	(和暦6月3日/グレゴリイ暦7月10日)自去月至此。亢陽不雨。名山大川能興雲致雨。並班幣祈雨。賀茂御祖別雷。松尾。稻荷。貴布祢。丹生川上。乙訓。水主八社は也。丹生川上加黒馬一疋。		33	429	0
338	878	07.11	元慶	2	06.04	濃霧1A	晨旦霧降。		33	429	0
339	878	07.23	元慶	2	06.16	雷1A	雷電。雨下如倒井。京城之内。溝渠皆溢。霹靂於東寺幡竿。		33	431	0
340	878	07.26	元慶	2	06.19	雷1A	雷不雨。夜蛩惑守天江。終二ケ日。		33	431	0
341	878	07.30	元慶	2	06.23	干ばつ3	河内国旱飢。不堪貢進御酒米六十五斛。太政官處分。当年停而莫貢。	酒米を「貢進」でできないという文脈から、干ばつは前年に発生したものと推測される。	33	432	0
342	878	08.03	元慶	2	06.27	干ばつ3	摂津国頻年災旱。道瑾盈路。以糶一百斛賑給之。		33	432	0
343	878	08.05	元慶	2	06.29	雷1A	大雷雨。諸衛陣於弘徽殿前。天皇御此殿故也。		33	432	0
344	878	08.06	元慶	2	07.01	雷1A	早旦。雷聲隱々。至未一尅。忽発一聲。其勢非常。諸衛警陣殿前。(後略)		34	433	0
345	878	09.22	元慶	2	08.18	大雨1A・ 洪水・暴風 1A	大風雨。流潦泛溢。頗損田疇。		34	436	0
346	878	09.29	元慶	2	08.25	長雨1A	雨猶不止。遣使於貴布祢。丹生河上兩社。奉白馬各一疋田。折止雨也。		34	436	0
347	878	10.24	元慶	2	09.21	洪水1A	河水漲溢。		34	438	0
348	878	10.29	元慶	2	09.26	大雨1A・ 雷1A	夜雷電大雨。諸衛警陣殿前。		34	438	0
349	878	10.29	元慶	2	09.26	雷1A	(9月28日)紀伊国司言。今月廿六日亥時。風雨晦暝。雷電激發。震於国府応事及学校并舍屋。被破官舎廿一字。縁辺百姓卅三家。權掾口在宗姊一人。掾紀利永妻一人。女子一人。徒男女各一人。合六人圧死。掾利永男女各一人。国掌漢人貞魚合三人震死支解。大木倒仆者千余株。		34	438	0
350	878	10.04- 11.02	元慶	2	09	長雨1B・ 寡照1B	是月。陰雨連澍。略無霽日。多有損者。收穫殆罷。		34	438	0
351	879	02.08	元慶	3	01.10	大雪1A	大雨雪。		35	444	0
352	879	03.23	元慶	3	02.23	霜1A・低 温1A	殞霜。天氣寒烈。		35	446	0
353	879	05.05	元慶	3	04.07	大雨1A	式部兵部二省奏擬階短冊。雨殺滂沱。仍停常儀。		35	451	0
354	879	06.14	元慶	3	05.17	雷1A	雷而不雨。		35	452	0
355	879	06.18	元慶	3	05.21	干ばつ2A	奉幣賀茂御祖。別雷。松尾。稻荷。貴布祢。乙訓等神社。祈膏雨也。		35	452	0
356	879	06.19- 06.27	元慶	3	05.22- 05.30		(5月30日)自去廿二日。甘雨頻降。苗稼滋茂。至是未止。農民無憂。		35	453	0
357	879	07.15	元慶	3	06.18	大雨1A・ 洪水1A	甚雨。河水溢。		36	455	0
358	879	07.28	元慶	3	07.02	大雨1A・ 雷1A	雷電大雨。諸衛陣於清涼殿前。		36	456	0
359	879	08.25- 09.23	元慶	3	08		是月。京邑往々梨李華或実。		36	457	0
360	880	02.18	元慶	4	01.01		天皇不受朝賀。雨也。(後略)		37	469	0
361	880	03.29	元慶	4	02.11		卯時。天東空中有聲。一聲而止。		37	470	0
362	880	04.10	元慶	4	02.23		東方有聲。如雷。		37	471	0
363	880	05.11	元慶	4	03.25	霜1A・低 温1A	殞霜。天氣凄寒。		37	473	0
364	880	07.01	元慶	4	05.16	干ばつ1A	迺膏雨難得。農民稍憂。是日。遣使者於賀茂御祖。別雷。松尾。稻荷。乙訓。貴布祢。丹生川上等社。奉幣祈雨。丹生川上加奉黒馬。告文曰云々。		37	474	0
365	880	07.05	元慶	4	05.20		快雨。勅録(中略)有勅議定。始自廿二日。三ケ日間。於賀茂松尾等社。將修灌頂經法。為祈雨也。崇朝遍雨。故暫停止。(後略)	雨乞いを中止する という趣旨。	37	475	0
366	880	07.05- 07.07	元慶	4	05.20- 05.22	長雨1A・ 大雨1A・ 洪水1A	(5月22日)自廿日大雨。漸没苗稼。由是於神泉苑。修灌頂經法。限以三日。折止雨也。		37	475	0

日本三代実録

367	880	07.08	元慶	4	05.23	長雨1A	(旧暦5月24日/グレゴリア暦7月9日)霖雨始霽。	7月5日～7月8日を「長雨」期間と見ることできる。	37	475	0
368	880	08.04	元慶	4	06.22	干ばつ1A	涉旬不雨。旱気焦草。遣使賀茂等十一社。奉幣祈雨。告文云々。但丹生川上加奉黒馬。		37	476	0
369	880	08.09	元慶	4	06.26	干ばつ2A	延七十五僧於紫震殿。限以三日。轉読大般若經。請雨也。		37	476	0
370	880	08.15	元慶	4	07.02	大雨1A	自酉時大雨。通夜不止。		38	479	0
371	880	08.16	元慶	4	07.03	大雨1A・干ばつ2A	終日大雨。入夜方霽。先是。令七大寺及諸定額寺。轉經請雨。		38	479	0
372	880	11.10-02.06	元慶	4	冬	高温1C	(元慶5年1月1日/881年2月7日)天皇不受朝賀。諒闇也。七耀曆付内侍奏。蔵氷厚薄不奏。以去冬不泯寒凌室空虚也。(後略)	376番と同じイベント。	39	491	0
373	881	03.05	元慶	5	01.27	強風1A・大雪1A	大雨雪。大風。		39	492	0
374	881	03.06	元慶	5	01.28	大雪1A	大雨雪。去冬気温。无宿雪。今春多雪。寒氣肅烈。屋溜垂漸長尺余。		39	492	0
375	880	11.10-02.06	元慶	4	冬	高温1C	(元慶5年1月28日/881年3月6日)大雨雪。去冬気温。无宿雪。今春多雪。寒氣肅烈。屋溜垂漸長尺余。	372番と同じイベント。	39	492	0
376	881	02.07-03.06	元慶	5	01.01-01.28	大雪1B・低温1B	(元慶5年1月28日/881年3月6日)大雨雪。去冬気温。无宿雪。今春多雪。寒氣肅烈。屋溜垂漸長尺余。		39	492	0
377	881	03.06	元慶	5	01.28	大雪1A	(元慶5年1月28日/881年3月6日)大雨雪。去冬気温。无宿雪。今春多雪。寒氣肅烈。屋溜垂漸長尺余。		39	492	0
378	881	06.20	元慶	5	05.16		午時日有二十暈。内黒外赤。		39	499	0
379	881	07.10	元慶	5	06.07	雷1A	雷雨。諸衛警陣。		39	499	0
380	881	07.11	元慶	5	06.08	雷1A	霹靂於西京右弁官史生若倭部常世宅。両女被震。不死。		39	499	0
381	881	07.04-07.17	元慶	5	06.01-06.14	長雨1B	(6月14日)自今月朔霖雨。至今未止。是日賑給京師困乏者。		39	499	0
382	881	07.04, 07.17	元慶	5	06.01, 06.14	長雨1A	(6月14日)自今月朔霖雨。至今未止。是日賑給京師困乏者。		39	499	0
383	881	12.16	元慶	5	11.18		雨雪。		40	506	0
384	881	12.17	元慶	5	11.19	大雪1A	雪猶未止。勅賜六府少将佐已下見在陣座。及五位已上在侍徒所者綿各有差。外記内記亦預之。慶新雪也。		40	506	0
385	882	01.27	元慶	6	01.01	強風1A・大雪1A	烈風大雨雪。平地二尺。		41	511	0
386	882	01.28	元慶	6	01.02	大雪1A	雪未止。		41	511	0
387	882	05.25-06.23	元慶	6	05	長雨1B	是月霖雨。賑給京師貧病患之輩。		41	520	0
388	882	07.13	元慶	6	06.20	雷1A	雷雨。諸衛入陣。		42	523	0
389	882	11.19	元慶	6	10.01	雷1A	夜雷電。		42	526	0
390	882	11.20	元慶	6	10.02	雷1A	夜雨雷電。		42	526	0
391	882	12.02	元慶	6	10.14	雷1A	降雨。雷三聲。		42	527	0
392	882	12.13	元慶	6	10.25	雷1A	能登国金光明寺遭激雷迴颺。堂舍多壞。充通三寶布施福。		42	527	1
393	883	01.02	元慶	6	11.16	雷1A	卯時雷電。申尅地震。		42	528	0
394	883	02.02	元慶	6	12.17	雷1A・強風1A	子時暴風雨。至丑天南雷電。地中有聲。		42	528	0
395	883	02.15	元慶	7	01.01		天皇不受朝賀。雨也。(後略)		43	531	0
396	883	03.02	元慶	7	01.16		踏歌之節。於紫震殿宴于侍臣。雅楽寮奏音楽。宮人踏歌於殿上。以雪落地湿也。賜祿有差。是日。天皇不御紫震殿。		43	532	0
397	883	05.11	元慶	7	03.27	洪水3・強風3	大風洪水。賑給西東飢民。	5月11日の時点ですでに飢餓にあるという内容から、これを前年の台風によるものと解釈した。	43	534	0
398	883	06.17	元慶	7	05.05	大雨1A	(前略)勅賜大使已下録事已上統命縷。品官已下菖蒲縷。是日大雨。勅所司。若遇雨殺。須停節会勿喚客徒。改日行事。而掌客使等速引客徒。入於宮城。故雨中成礼焉。		43	535	0
399	883	07.04	元慶	7	05.22	干ばつ1A	夜分遣使者於松尾。賀茂御祖。別雷。稻荷。貴布祢。水主。乙訓七社。奉幣而雩。以旱也。		43	536	0
400	883	07.08	元慶	7	05.26	大雨1A	大雨。		43	536	0
401	883	07.12-08.10	元慶	7	06	長雨1B	是月。霖雨。		43	537	0
402	883	08.13	元慶	7	07.03	長雨1A	(旧暦7月13日/グレゴリア暦8月23日)遣徒四位上行神祇伯棟貞王。奉幣於伊勢大神宮。賀茂御祖別雷。稻荷。貴布祢。丹生河上。大和等神社。遣使班幣。丹生河上加奉白馬。先是。六月廿七日鷺集大極殿鷄尾。今月三日已往霖雨淹旬。河水溢漲。内外略愁。陰陽寮占奏言。主上可患疾病。且天下將憂風水。故予祈神明。至是霽焉。	記載対象日(旧暦7月3日)以降も、長雨が継続したか否かは不明。	44	539	0
403	883	09.05	元慶	7	07.26		申時。日右有珥。上下有白雲。日即宿翼。		44	540	0
404	883	09.06	元慶	7	07.27		申時。日左右有珥。(後略)		44	540	0

日本三代実録

405	883	10.10	元慶	7	09.02	長雨2A	奉幣於賀茂御祖。別雷。松尾。貴布祢。稲荷。乙訓。丹生川上神社。祈止雨也。		44	541	0
406	883	10.23	元慶	7	09.15	大雨1A	大雨。		44	541	0
407	883	11.06	元慶	7	09.29	長雨1A	霖雨未止。		44	541	0
408	883	12.04	元慶	7	10.27	強風1A・ 雷1A	雷。大風。		44	543	0
409	884	02.05	元慶	8	01.01		天皇不受朝賀。雪也。(後略)		44	546	0
410	884	02.05- 02.06	元慶	8	01.01- 01.02	大雪1A	(和暦1月2日)自昨大雨雪。		44	546	0
411	884	02.08	元慶	8	01.04	雷1A	巳時天南雷八聲。降雨。始雷発聲於離。行鳴於坤。其後暴風雨雹。占云。正月有雷。春穀不平。雷起火門。夏旱蝗。		44	546	0
412	884	02.27	元慶	8	01.23		日有冠。右耳珥。色黃。左有白虹向日。是名日抱。		44	547	0
413	884	02.28	元慶	8	01.24		自辰至巳。日有冠。左右有珥。色白。即日宿危。即日宿危。夜。天東南有星見。長可一丈。		44	547	0
414	884	02.29- 03.03	元慶	8	01.25- 01.28	大雪1A	(1月28日)自廿五日雨雪。至是猶未止。	2月29日～3月3日に連続してイベントがあったと解釈した。	44	547	0
415	884	03.11	元慶	8	02.07	強風1A・ 低温1A	風雪寒烈。		45	550	0
416	884	03.29	元慶	8	02.25	濃霧1A	霧氣晦合。		45	552	0
417	884	04.12	元慶	8	03.09	雷1A	辰時雷雨。諸衛陣於殿雨。		45	553	0
418	884	04.14	元慶	8	03.15	雷1A	夜大雷雨。震常住寺塔。(後略)		45	554	0
419	884	04.22	元慶	8	03.19	大雨1A	大雨。		45	554	0
420	884	04.27	元慶	8	03.24	大雨1A	大雨。		45	554	0
421	884	04.29	元慶	8	03.26	霜1A	殞霜。		45	554	0
422	884	05.07	元慶	8	04.05	雷1A・ひょう う1A	自辰降雨。至申雷雨雹。		45	556	0
423	884	05.11	元慶	8	04.09	雷1A・ひょう う1A	申時雷雨雹。摧傷草木之葉。占曰。凡雹者冬之過陽。夏之伏陰也。過温冬温。伏陰夏寒矣。		45	557	0
424	884	05.12	元慶	8	04.10	低温1A・ 霜1A	天寒殞霜。		45	557	0
425	884	05.13	元慶	8	04.11	霜1A	霜降。		45	557	0
426	884	05.16	元慶	8	04.14	大雨1A・ 強風1A	大風雨。亥時地震有聲。月在房宿。		45	557	0
427	884	05.17	元慶	8	04.15	大雨1A・ 強風1A	風雨不止。		45	557	0
428	884	05.18	元慶	8	04.16	雷1A・低 温1A・霜 1A	霜降氣寒。未時雷雨。申時地震。		45	557	0
429	884	05.19	元慶	8	04.17	低温1A・ 霜1A	夜寒霜降。草木葉彫。		45	557	0
430	884	02.05- 05.31	元慶	8	春-夏 (01-04)	長雨1C	(5月1日)大宰府年貢綿十萬屯。其内二萬屯。以絹相博進之。彼府申請。春夏連雨。蚕養不利。作綿是乏。輸貢可闕。望相換進之。太政官處分。依請焉。		45	558	1
431	884	06.30	元慶	8	05.30	大雨1A	大雨。		45	563	0
432	884	08.17	元慶	8	07.19	雷1A	雷雨。諸衛陣於階下。		46	569	0
433	884	08.25	元慶	8	07.27	雷1A	雷雨。震燒山城国愛宕郡委穀倉一宇。		46	569	0
434	884	08.29	元慶	8	08.01	雷1A	辰時天西南有聲。如雷一度。		46	569	0
435	884	10.14	元慶	8	09.18	雷1A・ひょう う1A	申時雷雨雹摧傷草木之葉占曰凡雹者冬之過陽夏之伏陰也過陽冬温伏陰夏寒矣。		46	572	0
436	884	10.17	元慶	8	09.21	雷1A	出羽国司言。今年六月廿六日秋田城雷雨晦冥。雨石鏃廿三枚。七月二日飽波郡海浜雨石似鏃。其鋒皆向南。陰陽寮占云。彼国之憂。応在兵賊疾病。		46	573	1
437	885	05.12	仁和	1	閏03.20	大雨1A・ 強風1A	是日。大風暴雨。		47	586	0
438	885	06.21- 07.04	仁和	1	05.01- 05.14	長雨1B	(旧暦5月14日/ケレコリ才暦7月4日)霖雨未止。奉幣丹生河上神。祈止雨也。告文曰。天皇詔旨。丹生河上坐雨師大神広前申賜申。方今百姓耕種時。而自今月一日霖雨不止。農業流損。(後略)	長雨1Aとしても、6月21日・7月4日に集計。	47	589	0
439	885	06.21, 07.04	仁和	1	05.01, 05.14	長雨1A	(旧暦5月14日/ケレコリ才暦7月4日)霖雨未止。奉幣丹生河上神。祈止雨也。告文曰。天皇詔旨。丹生河上坐雨師大神広前申賜申。方今百姓耕種時。而自今月一日霖雨不止。農業流損。(後略)	長雨1Aとしても、6月21日・7月4日に集計。	47	589	0
440	885	07.10	仁和	1	05.20	長雨3	賑給京城飢民。以霖雨也。	6月21日～7月4日の長雨イベントを受けたもの？	47	589	0
441	885	07.12	仁和	1	05.22		酉時。日色変黒。光散如射。		47	589	0
442	885	08.30	仁和	1	07.13	干ばつ2A	遣使大和国丹生川上雨師神。奉幣黒馬祈雨也。		48	593	0
443	885	09.16	仁和	1	07.30		天有青雲。自東北竟西南。		48	593	0
444	885	11.20	仁和	1	10.06		雨雪。有虹。降亘陽殿西廂。		48	596	0

日本三代実録

445	885	08.28-09.28	仁和	1	07.11-08.12	(火山噴火?)	(旧暦11月9日)先是。大宰府上言。管肥前国。自六月澍雨不降。七月十一日。国司奉幣諸神。延僧轉經。十三日夜。陰雲晦合。聞如雨聲。遲明見雨粉土屑砂交下境内。水陸「田」苗稼。草木枝葉。皆悉焦枯。俄然降雨。洗去塵砂。枯苗更生。薩摩国言。同月十二日夜。晦冥。衆星不見。砂石如雨。撿之故矣。穎娃郡正四位下開闡明神発怒之時。有如此事。国宰潔齊奉幣。雨砂乃。八月十一日震聲如雷。燒炎甚熾。雨砂滿地。昼而猶夜。十二日自辰至子雷電。砂降・未止。砂石積地。或處一尺已下。(後略)		48	596	1
446	885	12.05	仁和	1	10.21	雷1A	雷二三聲。不雨。		48	597	0
447	886	01.26	仁和	1	12.14	大雪1A	大雨雪。		48	600	0
448	886	03.11	仁和	2	01.28		日右有珥。		49	605	0
449	886	03.18	仁和	2	02.05		是日。辰時。日上有冠。左右成珥。		49	605	0
450	886	03.27	仁和	2	02.14		辰時日有冠綬。其色黃白。日即宿奎。	黃砂?	49	606	0
451	886	04.19	仁和	2	03.08	強風1A・雷1A	大風雷電。		49	607	0
452	886	04.24	仁和	2	03.13	強風1A・雷1A	暴風雷雨。東寺新造塔火。時人謂雷火也。		49	607	0
453	886	05.29	仁和	2	04.18	低温1A	比日。天氣陰寒。人着綿衣。是日。天顔清明。有温氣。		49	608	0
454	886	05.31	仁和	2	04.20	雷1A	是日。雷雨。諸衛陣於殿前。有路女避雨。隱立東京三条前近江大目台助範宅。忽然震死。		49	609	0
455	886	06.16-06.19	仁和	2	05.07-05.10	大雨1A・洪水1A	(5月10日)自去七日大雨。河水漲溢。人馬不通。	記載どおりであれば、4日間大雨が継続したことになるが、長雨に関する記載(霖雨・連雨等)がなく、大雨とした。	49	609	0
456	886	07.02	仁和	2	05.23	大雨1A	大雨。		49	610	0
457	886	07.05	仁和	2	05.26		降雨。天東南有聲。如雷。		49	610	0
458	886	07.10-07.22	仁和	2	06.01-06.13	長雨1B	(6月13日)自今月朔霖雨。京師飢困。開倉廩賑之。	長雨1Aとしても、7月10日・13日に集計。	49	611	0
459	886	07.10, 07.22	仁和	2	06.01, 06.13	長雨1A	(6月13日)自今月朔霖雨。京師飢困。開倉廩賑之。	長雨1Aとしても、7月10日・13日に集計。	49	611	0
460	886	07.28	仁和	2	06.19	雷1A	是日。不雨而雷。		49	612	0
461	886	07.03-07.05	仁和	2	05.24-05.26	強風1A・雷1A	(8月4日)勅令安房。上総。下総等国。重警不虞。先是。安房国言上。去五月廿四日夕。有黑雲。自南海群起。其中現雷光。雷鳴地震。通夜不止。廿六日暁。雷電風雨。巳時天色晴朗。砂石粉土遍滿地上。山野田園無所不降。或處厚二三寸。或處僅蔽地。稼苗草木皆悉凋枯。馬牛食黏粉草。死斃其多。(後略)		49	615	1
462	886	09.09-09.12	仁和	2	08.04-08.07	長雨1A	(8月7日)自去四日霖雨。至此大雨風雨洪水。分遣使者於賀茂上下。松尾。稻荷。貴布祢。丹生河上六社。奉幣祈止雨。告文曰。(中略)丹生河上貴布祢二社加奉白馬各一疋。	4日連続降雨。これを長雨と見るかは疑いが残るが「霖雨」という記載がある以上、長雨として集計した。	49	616	0
463	886	09.12	仁和	2	08.07	大雨1A・洪水1A・暴風1A	(8月7日)自去四日霖雨。至此大雨風雨洪水。分遣使者於賀茂上下。松尾。稻荷。貴布祢。丹生河上六社。奉幣祈止雨。告文曰。(中略)丹生河上貴布祢二社加奉白馬各一疋。	長雨と大雨・洪水は分離。	49	616	0
464	886	10.02	仁和	2	08.27	大雨1A	大雨。		49	617	0
465	886	10.08	仁和	2	09.04	雷1A	辰時雷雨。		49	617	0
466	886	11.29	仁和	2	10.26	大雨1A・雷1A	雷電暴雨。		49	620	0
467	887	01.15	仁和	2	12.14	強風1A	是日。自朝至夕。風雪慘烈矣。		49	621	0
468	887	02.01	仁和	3	01.01		麤朝。雨也。(後略)		50	623	0
469	887	03.02	仁和	3	01.30	大雨1A	大雨。		50	625	0
470	887	04.15	仁和	3	03.14		是夜。始自戌一尅。月有冠綬。左右為珥。至于亥時。為白暈氣。及將消滅。猶耳兩珥。		50	629	0
471	887	05.31-07.09	仁和	3	05-06.11	長雨1B	(和暦6月11日/グレゴリイ暦7月9日)自去五月霖雨。至此未止。京師飢饉。開倉廩賑給兩京乏絶之民。		50	635	0
472	887	07.09	仁和	3	06.11	長雨1A	(和暦6月11日/グレゴリイ暦7月9日)自去五月霖雨。至此未止。京師飢饉。開倉廩賑給兩京乏絶之民。		50	635	0
473	887	07.20	仁和	3	06.22	長雨1A	(和暦6月23日/グレゴリイ暦7月21日)霖雨始霽。		50	635	0
474	887	07.25	仁和	3	06.27	大雨1A・洪水1A・雷1A・ひょう1A	自昨雷雨。至今未止。諸衛警陣。雷電雨雹。雨況交殺。水潦奔溢。人不通行。雹積地上。移時不消。		50	636	0
475	887	07.27	仁和	3	06.29	雷1A	太政大臣侍殿上。納言參議侍仗下。忽有雷大鳴。諸衛陣於殿前。賜太政大臣及諸公卿祿。(後略)		50	636	0
476	887	08.11	仁和	3	07.15	長雨1A	雨水。奉進白馬於丹生川上兩師神。祈止霖雨也。		50	636	0

日本三代実録

477	887	08.26	仁和	3	07.30		夜中東西有聲。如雷者二。	50	636	0
478	887	09.15	仁和	3	08.20	大雨1A・ 洪水1A・ 暴風1A	自卯及酉。大風雨。拔樹斃屋。東西京中居人廬舍。顛倒甚多。被压殺者衆矣。内膳司檜皮葺屋顛仆。采女一人宿其中。邂逅免害。時人奇之。鴨水葛河洪波汎溢。人馬不通。	50	639	0

7. 日本紀略

(1) ページは下記による。

No. 1～823：黒板勝美・国史大系編修会編 1934『日本紀略（前篇）』新訂増補/
国史大系第10巻 国史大系刊行会・吉川弘文館・日用書房

No. 824～1344：黒板勝美・国史大系編修会編 1929『日本紀略（後篇）・百鍊抄』
新訂増補/国史大系第11巻 国史大系刊行会・吉川弘文館・日用書房

(2) 地域（“L”列）は下記による。

0：近畿地方中部

1：近畿地方中部以外

日本紀略

No.	グレゴリオ暦		和暦			項目	記載内容	備考	該当箇所		L
	年	月日	年号	年	月日				巻	頁	
1	567	-	欽明	28	-	洪水1C	群国大水。飢。或人相食。		前6	107	0
2	587	08.12-09.09	用明	2	07	大雨1B・雷1B	(前略)河内国司即依符旨。臨斬臬。時雷鳴大雨。(後略)		前7	116	0
3	601	06.09-07.08	推古	9	05	大雨1B・洪水1B	夏五月。天皇居于耳梨行宮。是時大雨。河水漂蕩滿于宮庭。		前7	118	0
4	616	01.27-02.25	推古	24	01		春正月。桃李実。		前7	122	0
5	617	-	推古	25	-		是歲。五穀登之。		前7	122	0
6	622	02.13-08.08	推古	30	春-秋	長雨1C・洪水1C	自春至秋。霖雨大水。五穀不登焉。		前7	123	0
7	626	02.05-03.06	推古	34	01		春正月。桃李華。		前7	123	0
8	626	04.05-05.04	推古	34	03	霜1B・低温1B	三月。寒以霜降。		前7	123	0
9	626	07.03-07.31	推古	34	06		六月。雪也。	季節的に7月に降雪があったとは考えられない。	前7	123	0
10	626	04.05-08.30	推古	34	03-07	長雨1B	自三月至七月霖雨。天下大飢。		前7	123	0
11	628	05.26	推古	36	04.15	ひょう1A	辛卯。雹降。大如桃子。		前7	123	0
12	628	05.27	推古	36	04.16	ひょう1A	壬辰。霽霽。大如李子。		前7	123	0
13	628	02.13-08.08	推古	36	春-夏	干ばつ1C	自春至夏旱之。		前7	123	0
14	636	06.12-07.11	舒明	8	05	長雨1B・洪水1B	夏五月。霖雨大水。		前7	125	0
15	636	-	舒明	8	-	干ばつ1C	是歲。大旱。天下飢之。		前7	125	0
16	638	09.05	舒明	10	07.19	暴風1A	乙丑。大風之。折木斃屋。		前7	126	0
17	638	10.16-11.14	舒明	10	09	長雨1B	九月。霖雨。桃李花		前7	126	0
18	639	02.23	舒明	11	01.12	雷1A	丙辰。无雲而雷。		前7	126	0
19	639	03.05	舒明	11	01.22	強風1A	丙寅。大風而雨。		前7	126	0
20	642	04.10	皇極	1	03.03		無雲而雨。		前7	127	0
21	642	04.08-05.07	皇極	1	03	長雨1B	是月。霖雨。		前7	127	0
22	642	06.06-07.05	皇極	1	06	干ばつ1B	六月。大旱。		前7	127	0
23	642	08.28	皇極	1	07.25	干ばつ1A	戊寅。(中略)可寺々轉読大乘經典而祈雨。		前7	127	0
24	642	08.31	皇極	1	07.28		辛巳。微雨。		前7	127	0
25	642	09.03	皇極	1	08.01	大雨1A・雷1A	八月甲子朔。天皇幸南淵河上。跪拜四方。仰天而祈。則雷大雨。遂雨五日。溥潤天下。	雨乞い後に、まとまった降水があったと解釈した。	前7	127	0
26	642	12.01	皇極	1	11.02	大雨1A・雷1A	(癸丑)大雨雷。		前7	127	0
27	642	12.10	皇極	1	11.09	高温1A	庚申。天暖如春氣。		前7	127	0
28	642	12.30	皇極	1	12.01	高温1A	十二月壬午朔。天暖如春。		前7	127	0
29	643	02.07	皇極	2	01.10	強風1A	辛酉。大風。		前7	128	0
30	643	03.18	皇極	2	02.20		庚子。桃花始見。		前7	128	0
31	643	03.23	皇極	2	02.25	ひょう1A	乙巳。雹傷草木花葉。		前7	128	0
32	643	02.27-03.28	皇極	2	02	強風1A・雷1A・ひょう1A	是月風雷雨水。		前7	128	0
33	643	04.22	皇極	2	03.25	霜1A	乙亥。霜傷草木花葉。		前7	128	0
34	643	05.03	皇極	2	04.07	強風1A	丙戌。大風而雨。		前7	128	0
35	643	05.04	皇極	2	04.08	低温1A	丁亥。風起天寒。		前7	128	0
36	643	05.17	皇極	2	04.20	強風1A・低温1A	己亥。西風而雹。天寒人著繇袍三頭。		前7	128	0
37	643	05.21	皇極	2	04.25	ひょう1A	甲辰。近江国言。雹下。其大徑一寸。		前7	128	0
38	643	11.08	皇極	2	09.19	大雨1A・ひょう1A	是日。大雨而雹。		前7	128	0
39	645	07.13	皇極	4	06.12	大雨1A・洪水1A	(戊申)稚犬養連網田斬入鹿臣。是日雨下。潦水溢庭。(後略)		前7	130	0
40	652	06.05-06.13	白雉	3	04.20-04.28	洪水1B・ひょう1B	(4月20日)(丁未)自於此日初連雨水。至于九日。損壞宅屋。傷害田苗。人及牛馬溺死者衆。	「自於此日初連雨水。」に該当する部分は『日本書紀』では「自於此日初連雨水」。ここでは、『日本紀略』の記載を尊重して「氷(雹)」と解釈した。	前7	134	0
41	652	06.05	白雉	3	04.20	洪水1A・ひょう1A	(4月20日)(丁未)自於此日初連雨水。至于九日。損壞宅屋。傷害田苗。人及牛馬溺死者衆。		前7	134	0
42	666	08.09-09.06	天智	5	07	洪水1B	秋七月。大水。		前8	140	0

日本紀略

43	666	-	天智	5	-			是秋。優租調。		前8	140	0
44	669	08.06-11.01	天智	8	秋	雷1C		是秋。霹靂於藤原内大臣家。		前8	142	0
45	670	05.27	天智	9	04.30	大雨1A・雷1A		(前略)大雨雷震。		前8	142	0
46	672	07.27	天武	1	06.24	雷1A		(甲申)雷雨已甚。		前8	144	0
47	672	07.30	天武	1	06.27	大雨1A・雷1A		(丁亥)此夜。雷雨雨甚。		前8	144	0
48	675	09.19	天武	4	08.22	暴風1A		癸巳。大風飛沙破屋。		前8	149	0
49	676	05.21-08.17	天武	5	夏	干ばつ1C		(六月)是夏大旱。遣使四方。以捧綿祈諸神祇。亦祈三宝。然不雨。由是五穀不登。百姓飢之。		前8	149	0
50	677	06.09-07.08	天武	6	05	干ばつ1B		是月旱之。於京及畿内霽之。		前8	149	0
51	678	01.02	天武	6	12.01			雪。不告朔。		前8	150	0
52	678	05.12	天武	7	04.13	雷1A		己亥。霹靂新宮西庁柱。		前8	150	0
53	678	-	天武	7	-	暴風3・波浪3		是年。新羅送使奈末加良井山到于筑紫曰。貢上当年之調。仍遣臣井山。送消勿等。俱逢暴風於海中。皆散之。不知所如。		前8	150	1
54	679	07.17	天武	8	06.01	ひょう1A		六月庚戌朔。氷零。大如桃子。		前8	150	0
55	680	02.28	天武	9	01.20			丙申。撰津国言。活田村桃李実。		前8	150	0
56	680	07.12	天武	9	06.08			辛亥。灰零。		前8	151	0
57	680	09.06	天武	9	08.05	大雨1A・洪水1A		是日。始之三日雨。大水。		前8	151	0
58	680	09.15	天武	9	08.14	暴風1A		丙辰。大風折木破屋。		前8	151	0
59	683	08.15	天武	12	07.15	干ばつ2A		庚子。霽之。		前8	152	0
60	683	08.01-09.28	天武	12	07-08	干ばつ1B		(七月)是月始至八月旱之。百濟僧道蔵等之得雨。		前8	152	0
61	683	09.30	天武	12	09.02	暴風1A		丙戌。大風。		前8	152	0
62	686	08.07	朱鳥	1	07.10	雷1A		戊申。雷光南方而一大鳴。則天災於民部省蔵庸舎屋。或曰。忍壁皇子宮失火延燒民部省。		前8	154	0
63	688	08.15	持統	2	07.11	干ばつ1A		秋七月丁巳朔丁卯。大霽。旱也。		前8	156	0
64	688	08.24	持統	2	07.20	干ばつ1A		丙子。命百濟沙門道蔵請雨。不崇朝遍雨天下。		前8	156	0
65	691	05.06-08.02	持統	5	06	洪水1B・ひょう1B		六月京師及群国卅雨水。	「氷」に該当する部分は『日本書紀』では「水」となっている。ここでは、『日本紀略』の記載を尊重して「氷」(雹)と解釈した。	前8	157	0
66	692	06.09	持統	6	05.17	干ばつ2A		辛巳。名山岳流請雨。		前8	158	0
67	692	06.25	持統	6	閏05.03	洪水1A		閏五月乙未朔丁酉。大水。詔令京師及四畿内講説金光明經。		前8	158	0
68	692	08.01	持統	6	06.11	干ばつ2A		甲戌。遣大夫謁者。詣四畿内請雨。		前8	158	0
69	693	05.30	持統	7	04.17	干ばつ2A		夏四月庚申朔丙子。遣使諸社祈雨。		前8	158	0
70	693	08.23	持統	7	07.14	干ばつ2A		辛丑。遣使諸社祈雨。		前8	158	0
71	693	08.25	持統	7	07.16	干ばつ2A		癸卯。又祈雨。		前8	158	0
72	695	07.22	持統	9	06.03	干ばつ2A		六月丁丑朔己卯。遣使詣京師及四畿内諸社請雨。		前8	159	0
73	697	06.05	持統	11	05.08	干ばつ2A		五月丙申朔癸卯。遣使詣諸社請雨。		前8	160	0
74	697	×	持統	11	06.一	(干ばつ2A)		癸卯遣使詣諸社請雨。	黒板・国史大系編修会(1934)の脚注によると日付は五月癸卯?	前8	160	0
75	698	06.15	文武	2	04.29	干ばつ2A		(四月)戊午。奉馬于芳野水分峯神祈雨。		前9	161	0
76	698	06.17	文武	2	05.01	干ばつ1A		五月庚申朔。諸国旱。因奉幣諸社。		前9	162	0
77	698	06.21	文武	2	05.05	干ばつ2A		甲子。遣使于京畿。祈雨於名山大川。		前9	162	0
78	698	08.12	文武	2	06.28	干ばつ2A		丙辰。奉馬于諸社祈雨。		前9	162	0
79	701	05.31	大宝	1	04.15	干ばつ2A		戊午。奉幣帛于諸社祈雨于名山大川。		前9	164	0
80	701	08.07	大宝	1	06.25	干ばつ2A		丙寅。祈雨。免当年調。		前9	164	0
81	701	09.24	大宝	1	08.14	暴風3・高潮3		甲寅。播磨。淡路。紀伊三国言。大風潮漲。田園損傷。(後略)		前9	165	0
82	701	10.01	大宝	1	08.21	暴風3		十七国蝗。大風壞百姓廬舎損秋稼。	9月24日のイベントをさしている可能性が高い。	前9	165	0
83	702	-	大宝	2	06.19	強風3		(大宝2年6月19日/702年)遣唐使等去年徒筑紫而入海。風浪暴險。不得渡海。至是乃免。		前9	165	1
84	703	09.06	大宝	3	07.17	干ばつ2A		丙午。近江国山火自焚。遣使祈雨于名山大川。	山火事は乾燥・少雨によって発生したとも取れるが、因果関係は不明。ここでは雨乞いがあったという解釈にとどめた。	前9	167	0
85	704	08.01	慶雲	1	06.22	干ばつ2A		丙子。奉幣祈雨于諸社。		前9	168	0
86	704	08.17	慶雲	1	07.09	干ばつ2A		壬辰。遣使祈雨於諸社。		前9	168	0
87	704	10.05	慶雲	1	08.28	暴風1A		辛巳。周防国大風。拔樹傷秋稼。		前9	168	1

日本紀略

88	704	11.10	慶雲	1	10.05		冬十月丁巳。有詔。以水旱失時。年穀不稔。(後略)	特定のイベントを指したのではないと解釈した。	前9	168	0
89	704	08.09-11.05	慶雲	1	秋	暴風1A	(十二月辛未)大宰府言。去秋大風拔樹傷年穀。		前9	168	1
90	705	07.26	慶雲	2	06.27	干ばつ2A	(六月)乙亥。奉幣於諸社。以祈雨。		前9	169	0
91	705	08.26	慶雲	2	07.29	暴風1A	丙午。大倭国大風。損壞百姓廬舍。		前9	169	0
92	706	07.22	慶雲	3	06.04	干ばつ2A	丙子。令京畿祈雨于名山大川。		前9	170	0
93	706	09.06	慶雲	3	07.24		乙丑。丹波但馬二国山火。(後略)	山火事は乾燥・少雨によって発生したと取れるが、因果関係は不明。	前9	170	0
94	706	09.18	慶雲	3	08.03		越前国言。山災不止。使奉幣部内神救之。	山火事は乾燥・少雨によって発生したと取れるが、因果関係は不明。	前9	170	1
95	707	06.29	慶雲	4	05.21	長雨1A	戊午。畿内霖雨損苗。使振貸之。	賑給を指している可能性もある。	前9	170	0
96	708	08.08	和銅	1	07.14	長雨3・暴風3	甲辰。隱岐国霖雨大風。使賑恤之。		前9	172	1
97	710	05.28	和銅	3	04.22	干ばつ2A	壬寅。奉幣於諸社。祈雨于名山大川。		前9	173	0
98	711	07.15	和銅	4	06.21		乙未。詔曰。云々。賜文武百寮物。依有膏雨之応也。		前9	174	0
99	713	09.22	和銅	6	08.24	暴風1A	乙卯。大風。拔木発屋。		前9	175	0
100	713	11.27	和銅	6	11.01	強風3	冬十一月辛酉朔。伊勢。尾張。参河。出羽等国言。大風傷秋稼。調庸並免。		前9	175	0
101	714	08.11	和銅	7	06.23	干ばつ1A	六月戊寅。詔曰。云々。膏沢未降。田園損傷。宜以幣帛奉諸社祈雨于名山大川。		前9	176	0
102	714	11.16	和銅	7	10.01	暴風1A	(10月1日)美濃。武蔵。下野。伯耆。播磨。伊予六国大風発屋。仍免当年租調。		前9	176	0
103	715	07.22	靈龜	1	06.13	干ばつ2A	(癸亥)詔遣使奉幣帛於諸社。祈雨于名山大川。是未經数日。澍沱。		前9	177	0
104	716	02.02	靈龜	2	01.01		廢朝。雨也。		前9	178	0
105	717	06.04	養老	1	04.17	干ばつ2A	丙戌。祈雨于畿内。		前9	180	0
106	717	05.19-08.14	養老	1	04-06	干ばつ1B	自四月不雨至是月(六月)。		前9	180	0
107	719	01.29	養老	3	01.01	強風1A	大風也。		前9	181	0
108	721	02.07	養老	5	01.03	雷1A	庚戌。雷。		前9	183	0
109	722	08.27	養老	6	07.07	干ばつ1A	丙子。詔曰。陰陽錯謬。災旱頻臻。(後略)		前9	185	0
110	722	06.22-09.18	養老	6	05-07	干ばつ1B	(旧暦7月)自五月不雨。至是月。(後略)		前9	185	0
111	722	10.02	養老	6	08.14	干ばつ3	壬子。詔曰。如聞。今年少雨。禾稻不熟。其京師及天下諸国。当年田租。並宜免之。		前9	185	0
112	724	02.04	神龜	1	01.01		廢朝。雨也。		前9	186	0
113	726	10.16	神龜	3	09.12		(和暦9月12日/ケレゴリ暦10月16日)(丁亥)今秋大稔。		前10	188	0
114	727	01.31	神龜	4	01.01		廢朝。雨也。		前10	188	0
115	732	06.23	天平	4	05.23	干ばつ2A	甲子。使于五畿内祈雨焉。		前10	192	0
116	732	05.03-07.28	天平	4	夏	干ばつ1C	(6月28日)(己亥)此夏陽早。百姓不佃。雖数雩祭遂不得雨。		前10	192	0
117	732	08.04	天平	4	07.05	干ばつ2A	丙午。令兩京四畿内及二監依内典法以請雨焉。		前10	192	0
118	732	09.01	天平	4	08.04	大雨1A・暴風1A	八月甲戌。始大風雨。		前10	192	0
119	732	09.24	天平	4	08.27	大雨1A・暴風1A	丁酉。大風雨。壞百姓廬舍及處々堂塔。		前10	193	0
120	732	05.03-07.30	天平	4	夏	干ばつ1C	是夏。少雨。秋稼不稔。		前10	193	0
121	733	01.15	天平	5	01.07	雷1A	丙午。雷風。		前10	193	0
122	737	05.21	天平	9	04.08	雷1A	壬子。律師道慈申請。大安寺每年令輸大般若經一部。因此雖有雷声。先所災害。		前10	195	0
123	737	06.25	天平	9	05.19	干ばつ3	壬辰。大赦天下。依旱疫也。		前10	195	0
124	742	02.16	天平	14	01.23		己巳。陸奥国言。部下黒川郡以北十一郡雨雪。平地二寸。		前10	201	1
125	742	10.18	天平	14	09.12	大雨1A・暴風1A	癸丑。大風雨。壞宮中屋墻及百姓廬舍。		前10	201	0
126	743	06.03	天平	15	05.03	干ばつ2A	辛丑。奉幣帛于畿内諸神社祈雨焉。		前10	202	0
127	743	07.23	天平	15	06.24	干ばつ1A	六月癸巳。山背国司言。今月廿四日自酉至戌。宇治河水涸竭。行人揭涉。		前10	202	0
128	743	08.03	天平	15	07.05	大雨3・洪水3・雷3	壬寅。出雲国司言。楯縫出雲二郡雷雨異常。山岳頽崩。壞廬舍埋田畝。		前10	202	1
129	743	07.30-	天平	15	07	暴風1C・波浪1C	(8月9日)乙亥。上総国司言。去七月大風雨数ヶ日。雜木長三四丈已下。二三尺已上。一万五千許株。漂着部内海浜也。		前10	202	1
130	744	07.06	天平	16	05.18	雷1A	五月庚戌。肥後国雷雨地震。(後略)	黒板註:日付は庚辰か。	前10	203	1

日本紀略

131	745	05.10-07.07	天平	17	04-05.08	干ばつ1B	(乙丑)自四月不雨。不得種芸。因奉幣諸国神社祈雨。		前10	204	0
132	745	08.10	天平	17	07.05	干ばつ2A	庚申。遣使祈雨焉。		前10	204	0
133	747	07.16-08.21	天平	19	06-07.07	干ばつ1B	秋七月辛巳。詔曰自去六月。京師亢旱。免左右京今年田租。		前10	205	0
134	750	07.06	天平勝宝	2	05.24	雷1A	辛亥。震中山寺塔。步廊盡燒。		前10	207	0
135	750	07.06	天平勝宝	2	05.24	大雨1A・洪水1A	京中驟雨。水潦汎溢。云々。		前10	207	0
136	752	10.09	天平勝宝	5	09.05	暴風1A・高潮1A	壬寅。撰津国御津村南風大吹飛家。潮水暴溢。損人五百六十余人。		前10	209	0
137	754	08.27-09.24	天平勝宝	6	08	洪水1B・暴風1B	是年八月。風水。畿内及諸国一十。百姓産業損傷。並加賑恤。		前10	210	0
138	756	04.06	天平勝宝	8	02.28	大雨1A	壬子。大雨。		前10	211	0
139	759	02.12	天平宝字	3	01.07		甲戌。停節会。雨也。		前11	218	0
140	759	10.30-11.27	天平宝字	3	10	強風1A	十一月甲子。詔曰。如聞。去十月中大風。百姓廬舍並被破壞。(後略)		前11	219	0
141	762	05.01	天平宝字	6	03.29	干ばつ1A	戊申。參河等九国旱。		前11	224	1
142	762	05.10	天平宝字	6	04.08	洪水1A	丁巳。河内国狭山池堤決。以単功八万三千人修造。	145番:763年の時点で「去歲霖雨。」との記載あり。	前11	224	0
143	762	07.20	天平宝字	6	06.21	洪水1A	戊辰。河内国長瀬堤決。発単功二万二千二百余人修造焉。		前11	224	0
144	763	07.17	天平宝字	7	05.28	干ばつ1A	庚午。奉幣帛于四畿内群神。其丹生河上神者。加黒毛馬。旱也。		前11	226	0
145	763	09.16	天平宝字	7	08.01	干ばつ3	八月辛未朔。勅曰。如聞。去歲霖雨。今年亢旱。五穀不熟。米価踊貴。(後略)	「今年亢旱。五穀不熟。米価踊貴。」からタイムラグが大きいと解釈。	前11	226	0
146	764	05.25	天平宝字	8	04.16	干ばつ1A	癸未。遣使奉幣帛于畿内群神。旱也。		前11	227	0
147	764	09.13	天平宝字	8	08.09	干ばつ1A	(八月甲戌)山陽南海二道諸国旱疫。		前11	227	0
148	764	-	天平宝字	8	-	干ばつ1C	是年。兵旱相仍。米石千錢。		前11	230	0
149	765	03.31]	天平神護	1	03.02	(干ばつ3)	三月癸巳。勅。比年遭旱。歲穀不登。其去年不熟之國。今年得稔。云々。	特定の年月日を指したのではないと解釈した。	前11	231	0
150	765	04.02	天平神護	1	03.04	干ばつ3	乙未。參河国等国旱。詔復今年調庸十分之七八。		前11	231	1
151	766	07.02	天平神護	2	05.17	干ばつ2A	辛未。奉幣帛於大和国丹生川上神。及五畿内群神。以祈澍雨也。		前11	233	0
152	766	07.18	天平神護	2	06.03	暴風1A	丁亥。日向。大隈。薩摩三国大風。桑麻損盡。		前11	233	1
153	767	02.05	天平神護	2	12.28	雷1A	己酉。震大安寺東塔。		前11	234	0
154	767	01.14	神護景雲	1	12.16	干ばつ3	壬辰。美濃国比年亢旱。五穀不稔。除百姓所負物。	特定の年月日を指したのではないと解釈した。	前11	235	1
155	768	06.16	神護景雲	2	05.23	干ばつ1A	丙寅。奉幣於畿内群神。旱也。		前11	236	0
156	769	02.15	神護景雲	3	01.01		癸卯。雨也。		前11	237	0
157	770	02.25	宝亀	1	01.21	強風1A	甲申。太宰管内大風。壞官併百姓并舍一千冊余口。賑給被損百姓等。	前年以前の台風に原因を求めることもできる。	前11	239	1
158	770	07.09	宝亀	1	06.08	暴風1A	己亥。志摩国大風。賑給被害百姓。		前11	240	0
159	770	07.15	宝亀	1	06.14	長雨3	乙巳。美濃国霖雨。賑給被損之民。		前11	240	1
160	770		宝亀	1	08.01		(庚寅朔)(前略)奉幣帛及赤毛馬二疋於伊勢太神宮云々。		前11	240	0
161	772	07.31	宝亀	3	06.23	干ばつ1A	壬申。奉幣畿内群神。旱也。		前12	246	0
162	772	09.11	宝亀	3	08.06	大雨1A・暴風1A	(八月甲寅)是日異常風雨。抜樹発屋。	降水量は多くなかった可能性がある。	前12	246	0
163	772	07.02	宝亀	3	05.23	洪水1A	十月丁巳。大宰府言。去年五月廿三日。豊後国速見郡。山崩填洞。水爲不流。積十余日。忽決漂没百姓卅七人。被埋家卅二。		前12	246	1
164	773	05.30	宝亀	4	05.01	干ばつ1A	五月乙亥朔。奉幣於畿内群神。旱也。		前12	247	0
165	775	08.23	宝亀	6	07.19	ひょう1A	庚戌。雨雹。		前12	248	0
166	775	09.25	宝亀	6	08.22	暴風1A	(八月)癸未。伊勢尾張美濃三国大風。		前12	248	0
167	775	10.02	宝亀	6	08.30	暴風1A	辛卯。大祓。以伊勢等国風雨之灾也。	9月25日のイベント起因？	前12	248	0

日本紀略

168	775	10.23	宝亀	6	09.20	長雨1A	(辛亥)奉白馬幣於丹生。霖雨也。		前12	248	0
169	775	11.25	宝亀	6	10.24	大雨3・暴風3	(十月)甲申。大祓。以風雨及地震也。	「大祓」の原因は断定できないが、新暦11月25日であることから、この年(775年)にあったイベントを受けたものであると解釈した。	前12	249	0
170	776	08.11	宝亀	7	07.19	雷1A	甲辰。震西大寺西塔。		前12	249	0
171	776	09.04	宝亀	7	08.13	暴風1A	戊辰。大風。		前12	249	0
172	777	05.20	宝亀	8	04.05	ひょう1A	四月丙戌。雨雹。		前12	250	0
173	777	05.30	宝亀	8	04.13	雷1A	甲午。雨水。震。太政官内裏応。	「雨水」は大雨・洪水の可能性もある。	前12	250	0
174	777	09.17	宝亀	8	08.08	長雨1A	八月丙戌。奉白馬於丹生神。霖雨也。		前12	251	0
175	777	11.09-02.05	宝亀	8	冬	干ばつ1C	是冬不雨。井水皆涸。出水宇治等川並可揭厲。		前12	251	0
176	779	05.13	宝亀	10	04.19	大雨1A・強風1A	己丑。夜暴風雨。折木発屋。	降水量は多くなかった可能性がある。	前12	252	0
177	779	08.19	宝亀	10	06.25	大雨1A・洪水1A	八月己亥。因幡国言。去六月廿五日暴雨。山崩水溢。岸谷失地。		前12	253	1
178	779	09.02	宝亀	10	07.14	大雨1A・洪水1A	(11月)辛巳。駿河国言。以去七月十七日大雨。壊百姓廬舎。(後略)	原文では「辛巳。駿河国言。以去七月十七日大雨。壊百姓廬舎。となっているが、注釈(黒板・国史大系編修会(1934))は続日本紀から七月十七日としている。本稿もこれにしたがった。	前12	253	1
179	780	02.15	宝亀	11	01.01		廢朝。雨也。		前12	254	0
180	780	02.28	宝亀	11	01.14	雷1A	庚辰。大雷。災於京中数寺。		前12	254	0
181	782	06.05	延暦	1	04.16	干ばつ2A	戊辰。遣使畿内祈雨。		前13	257	0
182	784	09.27	延暦	3	09.05	大雨1A・洪水1A	九月癸酉。京中大雨。壊百姓廬舎。		前13	259	0
183	784	11.01	延暦	3	閏09.10	洪水3	閏九月戊申。河内国茨田郡堤決。十五處。单功六万四千余人。給粮築之。		前13	259	0
184	785	07.16	延暦	4	05.26	干ばつ2A	庚申。祈雨。		前13	260	0
185	788	05.16	延暦	7	04.03	干ばつ2A	庚辰遣使畿内祈雨。		前13	262	0
186	788	05.23	延暦	7	04.10	干ばつ2A	丁亥。奉黒馬於丹生。祈雨也。		前13	262	0
187	787	11.18-05.28	延暦	7	前冬-04.15	干ばつ1C	(旧暦4月16日/グレゴリヲ暦5月29日)癸巳。自去冬不雨。是日早朝。天皇沐浴。出庭親祈。有頃。天闇雲合。雨降滂沱。		前13	262	0
188	788	06.14	延暦	7	05.02	大雨1A・干ばつ2A	己酉。詔群臣曰。宜差使祈雨於伊勢神宮及七道名神。是夕大雨遂得耕殖。		前13	262	0
189	788	11.08	延暦	7	10.02	強風1A・雷1A	冬十月丙子。雷雨暴風。壊百姓廬舎。		前13	262	0
190	790	07.11	延暦	9	05.21	干ばつ2A	丙戌。遣使五畿内祈雨。		前13	263	0
191	790	07.19	延暦	9	05.29	干ばつ1A	甲午。炎旱経月。公私焦損。詔奉幣畿内名神。祈嘉澍。		前13	263	0
192	791	08.09	延暦	10	07.01	干ばつ1A	七月庚申朔。以炎旱経旬。奉幣畿内諸名神。		前13	264	0
193	792	06.03	延暦	11	05.06	(干ばつ3)	五月己未。停馬射。以頻年有旱災也。	「頻年」は特定の年(792年)を指したのではないと解釈した。	前13	265	0
194	792	06.28	延暦	11	06.01	低温1A	甲申朔。寒。人或著絮。		前13	265	0
195	792	07.19	延暦	11	06.22	大雨1A・洪水1A・雷1A	六月乙巳。雷雨。潦水潦沱。式部省南門為之倒仆。		前13	266	0
196	792	09.03	延暦	11	08.09	大雨1A・洪水1A	辛卯。大雨洪水。		前13	266	0
197	792	09.05	延暦	11	08.11	洪水1A	癸巳。赤目埜。雹洪水。		前13	266	0
198	792	09.06	延暦	11	08.12	洪水3	甲午。遣使賑贖百姓。以遇水害也。		前13	266	0
199	793	07.24	延暦	12	06.08	干ばつ2A	乙卯。祈雨。		前13	267	0
200	793	08.07	延暦	12	06.22	干ばつ1A	己巳。炎旱経日。		前13	267	0
201	794	08.13	延暦	13	07.10	雷1A	庚辰。震于宮中併京畿官舎及人家。或有震死者。		前13	267	0
202	795	09.02	延暦	14	閏07.11	暴風1A	乙巳。大風。官舎京中屋破壊。		前13	269	0
203	796	05.30	延暦	15	04.15	ひょう1A	丙子。雹。		前13	270	0
204	796	06.25	延暦	15	05.12	大雨1A・洪水1A	壬寅。大雨。洪水。		前13	270	0
205	796	09.15	延暦	15	08.06	洪水1A	甲子。大和国山崩水溢。東大寺壇垣倒頽。		前13	270	0
206	797	09.13	延暦	16	08.14	暴風1A	丁卯。地震。暴風。		前13	272	0
207	798	07.17	延暦	17	閏05.25	干ばつ2A	甲戌。祈雨於丹生。		前13	272	0

日本紀略

208	798	07.25	延暦	17	06.04	干ばつ2A	壬午。祈雨於丹生。		前13	272	0
209	798	09.13	延暦	17	07.25	長雨2A	七月壬申。奉幣於丹生祈霽。		前13	272	0
210	798	09.27	延暦	17	08.09	暴風1A	丙戌。大風。壞京中百姓廬舍。		前13	273	0
211	799	04.14	延暦	18	03.01	雷1A	三月乙巳朔。農民部省廩。		前13	274	0
212	799	07.26	延暦	18	06.15	暴風1A	戊子。勅云々。広瀬龍田祭。所以鎮弭風災。		前13	274	0
213	799	10.14	延暦	18	09.07	暴風1A	戊申。暴風。京中屋舍倒壞。		前13	275	0
214	800	05.24	延暦	19	04.23	ひょう1A	辛卯。和泉国雨雹。大如桃李。		前13	275	0
215	800	09.10	延暦	19	08.14	長雨2A	庚辰。奉白馬於丹生祈晴。		前13	275	0
216	801	01.25	延暦	20	01.04		(丁酉)是日。雨雪。(後略)		前13	276	0
217	801	07.05	延暦	20	05.17	干ばつ2A	戊寅。奉幣丹生。祈雨。		前13	276	0
218	802	02.10	延暦	21	01.01		正月戊午朔。廢朝。雪也。		前13	277	0
219	803	01.31	延暦	22	01.01		正月癸丑朔。廢朝。雨也。		前13	278	0
220	803	05.19	延暦	22	04.21	大雨1A・ 強風1A	暴雨疾風。沈石不禁。未初。風變打破舟。云々。(後略)		前13	279	0
221	803	07.17	延暦	22	06.21	長雨1A	庚子。奉幣丹生。為止霖雨也。		前13	279	0
222	804	05.03	延暦	23	03.16	長雨1A	辛卯。賜五位以上米。以霖雨也。		前13	280	0
223	804	09.21	延暦	23	08.10	大雨1A・ 暴風1A	壬子。暴雨大風。中院西樓倒。打死牛又墮壞神泉苑左右閣。京中廬舍。諸国多蒙其害。		前13	281	0
224	805	08.28	延暦	24	07.26	干ばつ2A	癸巳。奉幣畿内名神祈雨。		前13	283	0
225	807	06.14	大同	2	05.01	ひょう1A	五月戊子朔。雨雹。		前13	286	0
226	807	07.27	大同	2	06.15	ひょう1A	六月辛未。雨雹。		前13	286	0
227	807	11.08- 02.03	大同	2	冬		是冬。鳥雀乳。桃李華。		前13	287	0
228	808	02.04	大同	3	01.01	強風1A・ 低温1A	正月癸未朔。廢朝。以風寒異常也。		前13	287	0
229	808	04.25	大同	3	03.22	砂じん1A	甲辰。黃雨。	黃砂?	前13	287	0
230	808	05.01	大同	3	03.28	砂じん1A	庚戌。黃雨。	黃砂?	前13	287	0
231	808	06.22	大同	3	05.21	干ばつ2A	壬寅。奉黑馬於丹生川上雨師祈雨。又任官。		前13	287	0
232	808	06.24	大同	3	05.23		甲辰。雨。群臣言。今日甘雨。不可不賀。皇帝曰。(後略)	この時点(6月24日)まで干ばつが続いていたとも解釈できる。	前13	287	0
233	808	12.31	大同	3	12.07	大雪1A	甲寅。大雪。宴飲終日。		前13	288	0
234	809	01.24	大同	4	01.01	強風1A・ 低温1A	正月戊寅朔。廢朝。風寒異常也。		前13	288	0
235	809	07.12	大同	4	05.22	長雨3	丁卯。賑給京中人民。依霖雨也。		前14	290	0
236	809	07.15	大同	4	05.25	長雨1A	庚午。奉幣於松尾。鴨御祖。鴨別雷等社。為止霖雨也。		前14	290	0
237	809	07.27	大同	4	06.08	干ばつ2A	壬午。遣使奉幣於吉野丹生川上雨師神。祈雨也。		前14	290	0
238	809	08.21	大同	4	07.03	干ばつ1A	(丁未)遣使於吉野山陵。掃除陵内併誦。以亢旱累旬山陵為崇也。		前14	290	0
239	809	09.04	大同	4	07.17	干ばつ1A	辛酉。勅。頃来亢旱為災。水陸焦枯。(後略)		前14	290	0
240	809	09.06	大同	4	07.19	暴風1A	癸亥。大風。		前14	290	0
241	809	09.21	大同	4	08.05	暴風1A	戊寅。大風。		前14	290	0
242	809	10.21	大同	4	09.05	暴風1A	戊申。暴風倒屋。压折太上皇之輿。		前14	290	0
243	810	06.29	弘仁	1	05.20	長雨1A	己未。遣使奉幣於大和国吉野郡丹生川上雨師神。以霖雨終日也。		前14	292	0
244	810	12.21	弘仁	1	11.17	雷1A	甲寅。雷。		前14	294	0
245	811	10.06	弘仁	2	09.12	暴風1A	癸卯。大風。破京中廬舍。		前14	296	0
246	811	10.07	弘仁	2	09.13	暴風1A	甲辰。被風損者給米有差。		前14	296	0
247	811	09.25- 10.24	弘仁	2	09		是月。桃李華。		前14	296	0
248	812	08.10	弘仁	3	06.26	干ばつ1A	壬子。勅。甘沢不降。稍涉旬日。云々。(後略)		前14	297	0
249	812	08.15	弘仁	3	07.01	干ばつ1A	七月丁巳朔。勅。頃者疫旱並行。		前14	297	0
250	812	08.16	弘仁	3	07.02	干ばつ1A	戊午。御大極殿。奉幣於伊勢大神宮。為救疫旱也。		前14	297	0
251	814	11.23	弘仁	5	10.04	大雪1A	冬十月丁未。大雪。		前14	301	0
252	815	08.06	弘仁	6	06.24	強風1A・ 雷1A	(癸亥)是日。山城国乙訓郡物集国背両郷雷風。壞百姓廬舍。人或震死。		前14	302	0
253	815	08.25	弘仁	6	07.13	大雨1A・ 洪水1A・ 雷1A	(壬午)是日。暴雨雷鳴。庭潦泛溢。		前14	302	0
254	815	06.15- 09.06	弘仁	6	05- 07.25	長雨1B・ 大雨1B・ 洪水1B	甲午。詔曰。云々。去五月以降。雨水汎溢。田疇不修。	「霖雨」という直接的記載はないが、「去五月以降。」との記載から、長雨とみなした。	前14	302	0
255	815	09.13	弘仁	6	08.03	長雨1A・ 寡照1A	辛丑。遣使奉幣於伊勢大神宮併賀茂大神。以霖雨不晴也。		前14	302	0
256	815	06.15- 11.08	弘仁	6	05-09	長雨1B	是年。自五月及九月霖雨。諸国多被其害也。		前14	303	0
257	816	02.06	弘仁	7	01.01		春正月丁卯朔。廢朝。雨也。		前14	303	0
258	816	03.01	弘仁	7	01.25	砂じん1A	辛卯。雨沙。	黄砂?	前14	303	0
259	816	09.15	弘仁	7	08.16	暴風1A	己酉。夜大風。倒羅城門。京中諸国亦多被害。賜諸衛見侍者祿。		前14	304	0
260	817	07.23	弘仁	8	06.02	干ばつ2A	庚申。遣律師傳燈大法師修圓於室生山祈雨。		前14	305	0
261	817	07.25	弘仁	8	06.04	干ばつ2A	壬戌。遣使天下諸国祈雨。		前14	305	0

日本紀略

262	817	09.05	弘仁	8	07.17	高潮1A	(甲辰)撰津国言。海潮暴溢。漂殺二百廿人。		前14	305	0
263	818	01.09	弘仁	8	11.25	大雪1A	庚戌。大雪。賜左右近衛綿有差。		前14	306	0
264	818	01.27	弘仁	8	12.14	大雪1A	(戊辰)是日。大雪。		前14	306	0
265	818	05.25	弘仁	9	04.13	干ばつ2A	丙戌。遣使京畿祈雨。	黒板・国史大系編修会(1934):日付は『日本逸史』では丙寅。	前14	306	0
266	818	06.03	弘仁	9	04.22	干ばつ2A	乙亥。奉幣伊勢大神宮。又令諸大寺及畿内諸寺山林禪場等轉經禮仏。祈雨也。		前14	306	0
267	818	06.04	弘仁	9	04.23	干ばつ1A	(前略)(丙子)又詔。比者陰陽愆候。炎旱淹旬。		前14	307	0
268	818	06.05	弘仁	9	04.24	干ばつ2A	丁丑。河内国飢。遣使賑給。大和国吉野郡雨師神奉授徒五位下。以祈雨也。		前14	307	0
269	818	06.07	弘仁	9	04.26	干ばつ1A	己卯。遣使柏原山陵祈雨。庚辰。於前殿講仁王經緣旱災也。		前14	307	0
270	818	06.08	弘仁	9	04.27	干ばつ1A	庚辰。於前殿講仁王經緣旱災也。		前14	307	0
271	818	08.16	弘仁	9	07.07	干ばつ1A	己丑。停節。為旱也。		前14	307	0
272	818	08.23	弘仁	9	07.14	干ばつ2A	丙申。遣使山城貴布禰神社。大和国室生山上龍穴等處。祈雨也。		前14	307	0
273	818	11.14	弘仁	9	10.09		己未。霰山城国愛宕郡貴布禰神。以祈雨有驗也。		前14	307	0
274	819	02.03	弘仁	10	01.01	低温1A	春正月庚辰朔。廢朝。縁風寒急殺也。		前14	308	0
275	819	06.17	弘仁	10	05.17	干ばつ2A	(甲午)奉幣貴布禰神社。祈雨。		前14	308	0
276	819	07.08	弘仁	10	06.09	長雨1A	乙卯。奉白馬於丹生川上雨師神併貴布禰神。為止霖雨也。		前14	309	0
277	819	07.31	弘仁	10	07.02	干ばつ2A	戊寅。奉黒馬丹生川上雨師神祈雨。		前14	309	0
278	819	08.15	弘仁	10	07.17	干ばつ2A	癸巳。遣使於伊勢大神宮。大和国大后山陵。並奉幣祈雨。		前14	309	0
279	819	08.16	弘仁	10	07.18	干ばつ1A	甲午。詔曰。頃者。炎旱積旬。甘露無施。(後略)		前14	309	0
280	819	08.18	弘仁	10	07.20	大雨1A・暴風1A	丙申。京中白龍見。有暴風雨損民屋。		前14	309	0
281	819	05.02-08.27	弘仁	10	夏-07	干ばつ1C	是月。自夏不雨。諸国被害者衆。		前14	309	0
282	819	07.30-08.27	弘仁	10	07	干ばつ1B	是月。自夏不雨。諸国被害者衆。		前14	309	0
283	819	09.24	弘仁	10	08.28	長雨1A	癸酉。奉幣貴布禰神。為止霖雨也。		前14	309	0
284	819	09.26	弘仁	10	08.30	長雨2A	乙亥。奉幣丹生川上雨師神。祈晴也。		前14	309	0
285	820	06.27	弘仁	11	05.10	干ばつ3	庚戌。讃岐国旱。賑給之。		前14	310	1
286	820	08.12	弘仁	11	06.26	干ばつ2A	丙申。走幣名神。祈雨也。		前14	310	0
287	820	08.13	弘仁	11	06.27	干ばつ1A	丁酉。令諸国轉讀大雲經。為救旱也。	286番に「祈雨」をしていることから、現況を指したものと判断した。	前14	310	0
288	821	07.11	弘仁	12	06.05	長雨2A	己巳。奉幣貴布禰丹生二神。祈霽也。		前14	312	0
289	822	07.30	弘仁	13	07.05	干ばつ2A	癸巳。遣使畿内諸国祈雨。		前14	313	0
290	822	07.31	弘仁	13	07.06	干ばつ1A	甲午。詔曰。云々。炎旱淹旬。走幣群神。(後略)		前14	313	0
291	823	06.16	弘仁	14	05.01	長雨1A	(五月甲寅朔)奉幣山城国愛宕郡貴布禰神社。為止霖雨也。		前14	315	0
292	823	06.18	弘仁	14	05.03	長雨1A	丙辰。依霖雨不止。差使奉幣併馬大和国雨師神社。		前14	315	0
293	823	07.19	弘仁	14	06.04	干ばつ2A	丁亥。差使奉幣貴布禰。乙訓。広湊。龍田四神。又奉幣帛馬吉野上雨師神社。祈雨也。		前14	316	0
294	823	08.17	弘仁	14	07.04	干ばつ2A	丙辰。奉和泉国大鳥。積川兩社幣。以祈雨也。		前14	317	0
295	823	08.20	弘仁	14	07.07	干ばつ2A	己未。奉幣伊勢大神宮。祈雨也。		前14	317	0
296	823	08.30	弘仁	14	07.17	干ばつ2A	己巳。奉幣雨師神。祈雨。		前14	317	0
297	824	01.16	弘仁	14	12.08	大雪1A	戊子。停止存問渤海使。今年雪深。往還不通。(後略)		前14	318	0
298	824	06.03	天長	1	04.28	干ばつ2A	丁未。令十五大寺併五畿七道諸国奉讀大般若經。防疫旱也。	「防疫旱也。」から雨乞いと同样に予防的措置と解釈した。	前14	319	0
299	824	09.01	天長	1	08.01	暴風1A	八月丁丑朔。奉幣名神。祈除風雨損也。		前14	319	0
300	824	09.17	天長	1	08.17	暴風1A	癸巳。奉幣伊勢大神宮。為調風雨也。		前14	319	0
301	825	06.26	天長	2	06.03	大雨1A・雷1A	六月乙亥。暴雨雷動。霹靂中務北門柳。		前14	321	0
302	826	10.06	天長	3	08.27	洪水3	壬戌。賑給左右京飢病及被水害百姓。		前14	323	0
303	827	06.15	天長	4	05.14	雷1A	甲戌。亥剋雷鳴雨降。		前14	324	0
304	827	06.22	天長	4	05.21	干ばつ2A	辛巳。遣使畿内七道諸国走幣祈雨。屈一百僧於大極殿轉讀大般若經三ヶ日。		前14	325	0
305	827	06.27	天長	4	05.26	(干ばつ2A)	丙戌。命少僧都空海。請仏舍利内裏。禮拜灌浴。亥後天陰雨降。数剋而止。(後略)	雨乞い記載である可能性が高いが、直接的記載がなく、断定できない。	前14	325	0
306	827	09.19	天長	4	08.21	暴風1A	庚戌。大風。屋宇顛覆。		前14	325	0

日本紀略

307	828	07.12	天長	5	05.23	大雨1A・洪水1A	五月丁未。降雨殊甚。京住人路汎溢。或川決山崩水潰。人物多漂。遣使賑給左右京。	賑給の可能性もあるが、降水イベントに対する具体的記載があり、イベントがあったその日のうちに賑給が行われたと解釈した。	前14	326	0
308	828	08.11	天長	5	06.23	大雨1A・洪水1A・雷1A	(六月丁丑)雷鳴雨降。山崩水溢。囑口清行僧州人於野寺。轉誦大般若經。防水害也。		前14	327	0
309	829	01.13	天長	5	12.01		十二月壬子朔。雨雪。		前14	327	0
310	829	04.01	天長	6	02.20	干ばつ2A	庚午。奉幣五畿七道諸国名神。祈春雨也。		前14	327	0
311	829	04.09	天長	6	02.28	干ばつ2A	戊寅。請僧百口沙弥百口於大極殿。奉誦大般若經。三ヶ日。以祈甘雨也。		前14	327	0
312	829	06.14	天長	6	05.06	雷1A	五月甲申。自寅時至于未時。雷動雨降。		前14	327	0
313	829	10.02	天長	6	08.27	長雨1A	甲戌。奉幣貴布禰社。丹生河上雨師社。但雨師神副以白毛御馬。為停霖雨也。		前14	328	0
314	830	02.01	天長	7	01.01		春正月丙子朔。停朝賀。雨也。		前14	328	0
315	830	08.12	天長	7	07.16	雷1A	(戊子)申剋。雷雨。西剋霹靂内裏西北角曹司。左近衛乘御馬。馳入内裏。撲滅神火。戌尅。雷声乃止。即帝還宮。見參諸司官人巳上。衛門々部巳上賜祿。不覽相撲。肅霹靂也。		前14	329	0
316	831	02.22	天長	8	01.03		(壬寅)終日雨雪。		前14	331	0
317	831	09.18	天長	8	08.05	大雨2A・暴風2A	庚午。奉幣名神。為防風雨之災也。		前14	332	0
318	831	09.26	天長	8	08.13	大雨2A・暴風2A	戊寅。御大極殿。奉幣伊勢大神宮。祈防風雨之災也。		前14	332	0
319	831	01.14	天長	8	12.04	雷1A	十二月戊辰。雷電。		前14	332	0
320	832	06.22	天長	9	05.17	干ばつ2A	戊申。皇帝避正寝。請百僧於八省院。誦大般若經祈雨也。又遣使於練行僧所住之山誦經。		前14	333	0
321	832	06.24	天長	9	05.19	干ばつ1A	庚戌。八省院誦經。澍雨不降。		前14	333	0
322	832	06.25	天長	9	05.20		辛亥。卯時。零雨。即晴。		前14	333	0
323	832	08.18	天長	9	07.15	大雨2A・暴風2A	乙巳。奉幣五畿内七道諸国名神。防風雨也。		前14	333	0
324	832	08.25	天長	9	07.22	大雨2A・暴風2A	壬子。御八省院。奉幣伊勢太神宮。防風雨也。		前14	333	0
325	832	09.12	天長	9	08.11	長雨2A	庚午。頒幣明神。以祈止雨。		前14	334	0
326	832	09.21	天長	9	08.20	大雨1A・洪水1A・強風1A	己卯。大雨。大風。河内摂津兩國洪水汎溢。堤防決壊。		前14	334	0
327	832	10.08	天長	9	09.07	洪水3	九月丙申。賑給摂津国逢洪水百姓。		前14	334	0
328	833	01.29	天長	10	01.01		春正月己丑朔。停朝賀。雨也。		前14	334	0
329	833	04.30	天長	10	04.03	霜1A	庚申。隕霜。		前15	336	0
330	833	08.23	天長	10	閏07.01	洪水1B・暴風1B	閏七月乙卯朔。勅。至于秋序。洪水敗稼。大風害。物宜令天下諸国。奉幣名神。予為攘防。勿損年穀。		前15	338	0
331	833	09.19	天長	10	閏07.28	長雨1A	壬午。霖雨涉旬不息。仍令大和山城二国介巳上。親奉幣帛於丹生川上雨師神。松尾。賀茂上下。及貴布禰社。以祈霽焉。		前15	338	0
332	833	12.20	天長	10	11.02	雷1A	甲寅。雷。		前15	338	0
333	833	12.22	天長	10	11.04	雷1A	丙辰。雷電。		前15	338	0
334	833	12.27	天長	10	11.09	雷1A	辛酉。雷電。		前15	338	0
335	834	07.30	承和	1	06.17	干ばつ1A	丙申。奉幣群神。以祈甘雨。旱也。		前15	341	0
336	834	08.10	承和	1	06.28	干ばつ2A	丁未。奉伊勢太神宮。及畿内七道名神幣。以祈雨也。		前15	341	0
337	834	08.12	承和	1	06.30	干ばつ2A・暴風	己酉。延百僧於大極殿。限三箇日。轉誦大般若經。為祈甘澍防風災也。		前15	341	0
338	834	08.20	承和	1	07.08	干ばつ1A	丁巳。天無片雲。炎氣如熏。比及晡辰。天陰雨零。徒此漸至沛々。		前15	341	0
339	834	08.24	承和	1	07.12	大雨1A・洪水1A	辛酉。雨水泛溢。		前15	341	0
340	834	08.25	承和	1	07.13	長雨2A	壬戌。走幣畿内名神。亦令諸大寺修法。以防淫霖。		前15	341	0
341	834	10.01	承和	1	08.21	大雨1A・暴風1A	己亥。暴風大雨相併。折拔樹木。壞民廬舍。由是走幣畿内名神。祈止風雨。		前15	341	0
342	834	10.02	承和	1	08.22	大雨1A・暴風1A	庚子。夜風雨猶切。達旦不罷。城中人家。往々倒壊。	341番と同じ台風によるものと考えられる。	前15	341	0
343	835	08.03	承和	2	07.02	大雨2A・洪水2A・暴風2A	乙巳。走幣於天下名神。予攘風雨之災。		前15	344	0
344	835	08.06	承和	2	07.05	大雨2A・洪水2A・暴風2A	戊申。奉幣於伊勢大神宮。為風雨之災也。		前15	344	0
345	835	08.31	承和	2	07.30	長雨1A	(和暦7月1日/ケレリ才暦9月1日)(八月甲戌朔)是日。霖雨霽焉。頒幣畿内名神。以賽于禱。其丹生川社殊奉白馬一疋。		前15	344	0

日本紀略

346	835	11.23	承和	2	10.26	雷1A	丁酉。雷電殊切四衛府陣于清涼殿前。		前15	344	0
347	836	01.15]	承和	2	12.20	干ばつ3	庚寅。能登国旱疫。人民飢苦。賑給之。		前15	345	1
348	836	06.09	承和	3	05.18	大雨1A・ 強風1A・ 波浪1A	丙辰。夜大風暴雨。折樹斃屋。城中人家不壞者希。時入唐使船寄撰津国輪田泊。遣使唐其安危。		前15	346	0
349	836	07.26	承和	3	06.06	干ばつ2A	癸卯。奉松尾。賀茂御祖。住吉。垂水等社幣。祈雨也。		前15	347	0
350	836	09.09	承和	3	07.21	雷1A	戊子。雷雨殊切。人皆驚伏。至于亥分。朱雀柳樹震之。		前15	347	0
351	836	10.08	承和	3	08.20	高潮1A	丁巳。大宰府奏曰。(中略)潮溢人溺。(後略)		前15	348	1
352	837	01.19	承和	3	12.06	雷3	(庚子)是日。勅。頃者霹靂于四天王寺。(後略)		前15	348	0
353	837	03.11	承和	4	01.27	干ばつ3	辛卯。石見国五个郡中神惣十五社。始預官社。以能応吏民之禱。久救旱疫之灾也。		前15	349	1
354	837	05.03	承和	4	03.22		(乙酉)是日。天皇不御大極殿。雨也。		前15	349	0
355	837	08.06	承和	4	06.28	大雨2A・ 洪水2A・ 干ばつ 2A・暴風	己未。勅云々。宜遣使山城大和等。奉幣名山。以祈甘雨。又勅。令五畿内七道諸国。奉幣名神。予防風雨。		前15	350	0
356	837	11.06	承和	4	10.01	長雨3	(辛卯)(前略)特加賑恤。以陰霖經日穀價踊貴也。		前15	351	0
357	838	01.14	承和	4	12.11	強風1A	庚子。大風。京中屋舎破壊。		前15	351	0
358	838	08.15	承和	5	07.18	あられ1A	癸酉。有物如粉。徒天霽零。逢雨不消。		前15	352	0
359	838	09.10	承和	5	08.14	雷1A	己亥。霹靂於監物前柳。(後略)		前15	352	0
360	838	09.15	承和	5	08.19	長雨2A	甲辰。奉幣併白馬於貴布禰丹生河上師神。以祈止雨也。		前15	352	0
361	838	09.16	承和	5	08.20	大雨1A・ 暴風1A	乙巳。暴風大雨。壞民廬舎。		前15	352	0
362	838	09.24	承和	5	08.28	長雨2A	癸丑。奉幣賀茂松尾乙訓垂水住吉等名神祈霽焉。		前15	352	0
363	838	10.04	承和	5	09.08	大雨2A・ 暴風2A	九月癸亥。奉幣馬場於貴布禰丹生河上雨師神。以止風雨也。		前15	352	0
364	838	07.29- 10.25	承和	5	07-09		(九月)甲申。徒去七月至今月。河内等十六国。十一相統言。有物如灰。徒天雨云々。		前15	353	0
365	839	05.19	承和	6	03.29	干ばつ2A	庚戌。奉幣貴布禰雨師二神。以祈雨也。		前15	354	0
366	839	05.30	承和	6	04.10	干ばつ2A	辛酉。遣使祈雨於丹生雨師神。		前15	354	0
367	839	06.06	承和	6	04.17	干ばつ2A	(戊辰)丹生河上。住吉諸社。令祈澍雨。又限。七ヶ日。令詔仁王經於十五大寺。		前15	355	0
368	839	06.10	承和	6	04.21	干ばつ2A	壬申。遣使奉幣於伊勢大神宮。令祈雨。		前15	355	0
369	839	06.16	承和	6	04.27	干ばつ2A	戊寅。会百法師於八省院。限三ヶ日。轉大般若經。以祈雨焉。是日雨降。終宵不休。		前15	355	0
370	839	07.18	承和	6	06.01	干ばつ2A	遣使於丹貴二社。祈雨。		前15	355	0
371	839	07.21	承和	6	06.04	干ばつ1A	癸丑。勅。頃者。亢旱涉旬。宣告諸寺。三日三夜。誦經悔過。念致甘雨。		前15	355	0
372	839	07.23	承和	6	06.06	干ばつ2A	乙卯。臨東西市人。於朱雀路中令霽。		前15	355	0
373	839	08.02	承和	6	06.16	干ばつ1A	乙丑。勅。頃縁旱涸。頒使祈雨。宜請七大寺僧於東大寺。三日三夜令稱讚龍自在王所來名號。		前15	355	0
374	839	09.19	承和	6	08.04	長雨2A	(癸丑)遣使奉幣丹貴二社。祈止雨也。		前15	355	0
375	839	11.26- 11.30	承和	6	10.03- 10.17	長雨1A・ 雷1A	乙丑。出羽国言。管田川郡西浜。本自先石。而徒今月三日。霖雨先止。雷電聞声耳。經十余日。乃見晴天時向海畔。(後略)	11月26日～11月30日までイベントが連続したと解釈した。	前15	356	1
376	840	07.21	承和	7	06.15	干ばつ2A	己未。奉幣於伊勢神宮。及賀茂上下。松尾等社。祈霽。又令内外諸国。奉幣神祇。祈晴甘雨。		前15	359	0
377	840	07.23	承和	7	06.17		(辛酉)是日。夜分雨稍降。		前15	359	0
378	840	07.24	承和	7	06.18	大雨1A	壬戌。大雨快降。		前15	359	0
379	840	11.05	承和	7	10.04	干ばつ1A	丙午。皇太子御膳。每物減四分之一。以旱也。		前15	359	0
380	841	06.08	承和	8	05.12	干ばつ1A	辛巳。重奉神功皇后御陵宜命云々。頃者涉旬不雨云々申。是夜暁。雨降。		前15	360	0
381	841	06.10	承和	8	05.14	干ばつ2A	癸未。請名僧於八省院誦經禱雨。		前15	360	0
382	841	08.09	承和	8	07.15	雷1A・ひょう 1A	癸未。雷震于大極殿南角柱。雨雹。大如碁子。		前15	361	0
383	841	09.22	承和	8	08.30	長雨2A・ 大雨1A	丁卯。雨水殊甚。奠幣雨師。以祈止雨。		前15	361	0
384	841	09.23	承和	8	09.01	洪水1A	九月戊辰朔。洪水。山崎橋斷絶。		前15	361	0
385	842	02.18- 04.29	承和	9	春- 03.11	干ばつ1C	丙午。勅。春雨降少。枯旱日多。云々。		前15	362	0
386	842	05.03	承和	9	03.15	干ばつ2A	庚戌。是日。遣使頒幣貴布禰等諸社。同祈甘雨。		前15	362	0
387	842	05.10	承和	9	03.22	干ばつ2A	丁巳。遣使奉幣松尾等諸社。祈雨也。是日雨降。		前15	362	0
388	842	08.19	承和	9	07.06	干ばつ2A	戊戌。勅。奉幣於貴布禰等神。令祈雨也。是夕雨降。		前15	363	0
389	842	09.02	承和	9	07.20	干ばつ1A	壬子。請百僧於大極殿限三ヶ日。轉誦大般若經。以旱也。		前15	364	0
390	842	09.03	承和	9	07.21		癸丑。雨快降。須臾晴。更延誦經二日。	雨乞いの可能性が高いが断定できない。	前15	364	0
391	844	01.27	承和	11	01.01	大雪1A	春正月甲申朔。廢朝賀。大雪也。(後略)		前16	369	0
392	844	08.03	承和	11	07.12	干ばつ2A	癸巳。請百僧於八省院。轉誦大般若經。祈甘雨。是日。雨降。		前16	370	0

日本紀略

393	844	09.11	承和	11	閏07.21	大雨2A・洪水2A・暴風2A	壬申。奉幣伊勢太神宮。祈防風雨災。		前16	370	0
394	845	02.14	承和	12	01.01	大雪1A	春正月戊申朔。廢朝賀。大雪也。		前16	370	0
395	845	06.09	承和	12	04.27	干ばつ2A	癸卯。奉幣畿内名神祈雨。		前16	371	0
396	845	06.13	承和	12	05.01	干ばつ1A	五月丁未朔。請百僧於大極殿三箇日。誦大般若經。祈甘雨也。緣雨未降。更延二箇日。		前16	371	0
397	845	06.17	承和	12	05.05	干ばつ2A	辛亥。停五日節。又延誦經二箇日。		前16	371	0
398	845	06.18	承和	12	05.06		壬子。澍雨快降。		前16	371	0
399	845	06.19	承和	12	05.07		癸丑。雨猶不休。誦經了。布施。		前16	371	0
400	845	06.22	承和	12	05.10	干ばつ2A	丙辰。勅云々。宜仰五畿七道奉幣名神。兼每社令祈甘雨。		前16	371	0
401	845	09.06	承和	12	07.27	長雨2A	壬申。遣使奉幣伊勢大神宮。令祈止雨也。		前16	372	0
402	845	10.29	承和	12	09.21	大雨1A・暴風1A	乙丑。暴雨大風。		前16	372	0
403	846	06.14	承和	13	05.13	干ばつ2A	癸丑。請百僧於八省院。限三箇日。以祈雨也。		前16	373	0
404	847	01.25	承和	14	01.01	大雪1A	春正月戊戌朔。廢朝賀。大雪也。		前16	373	0
405	847	07.08	承和	14	05.18	長雨1A	壬午。賑給左右京飢民。以雨久不止也。	賑給とある一方で、雨が現在でも止んでいないと解釈。	前16	374	0
406	847	07.22	承和	14	06.03	暴風1A	六月甲午朔丙申。大風。発屋折木。		前16	374	0
407	847	07.31	承和	14	06.12	大雨1A	乙巳。暴雨如懸河。		前16	374	0
408	847	08.08	承和	14	06.20	長雨1A	(和暦6月21日/グレゴリア暦8月9日)甲寅。霖雨止。	長雨は8月9日以前に鍵なく近い日である8月8日にあったと解釈される。	前16	374	0
409	847	09.10	承和	14	07.23	長雨2A	丙戌。奉白馬幣帛於丹生川上雨師神令祈止雨。		前16	374	0
410	847	12.24	承和	14	11.09		辛未。天北有聲如雷。		前16	375	0
411	848	07.08	嘉祥	1	06.01	長雨1A・大雨1A	六月戊子朔。連雨不停。雨勢如建瓶水。		前16	376	0
412	848	07.09	嘉祥	1	06.02	長雨2A	己丑。奉幣雨師神社祈止雨。		前16	376	0
413	848	08.08	嘉祥	1	07.02	干ばつ2A	己未。奉幣於松尾賀茂等社祈甘雨。		前16	377	0
414	848	08.12	嘉祥	1	07.06	干ばつ2A	癸亥。請百僧於八省院。轉誦大般若經。以祈甘雨。		前16	377	0
415	848	08.16	嘉祥	1	07.10	干ばつ2A	丁卯。奉幣畿内名神。令祈甘雨。		前16	377	0
416	848	09.04	嘉祥	1	07.29	雷1A	丙戌。雷電。震于東西二京。凡十一處。		前16	377	0
417	848	09.09	嘉祥	1	08.05	洪水1A	辛卯。洪水浩々。河陽橋斷。宇治橋傾損。茨田堤往々潰絶。故老曰。倍于大同元年。可四五尺。		前16	377	0
418	848	09.12	嘉祥	1	08.08	洪水3	甲午。遣使撰津河内両国巡檢被水災者。賑給之。		前16	377	0
419	848	-	嘉祥	2	01.01	洪水1C	(嘉祥2年1月1日/849年)廢朝。緣去年洪水。秋稼不登也。(後略)		前16	378	0
420	849	06.28	嘉祥	2	06.01	長雨3	六月癸未朔。遣使巡檢京城飢民。開倉粟以賑恤。緣霖雨也。		前16	379	0
421	850	02.20	嘉祥	3	01.01		春正月庚辰朔。終日雨降。		前16	380	0
422	850	05.16	嘉祥	3	03.27	強風1A・雷1A	(乙巳)是日。嵯峨山陵暴風雷雨。樹木倒仆。遣使就加察觀。		前16	383	0
423	850	05.26	嘉祥	3	04.08	雷1A	乙卯。大雷雨。諸衛警陣。賜陣頭侍徒及衛士以上祿。		前16	383	0
424	850	06.04	嘉祥	3	04.17		(甲子)其日。快雨。百官以雨儀行事。至日中時。天晴。(後略)		前16	383	0
425	850	06.19	嘉祥	3	05.02	暴風1A	五月己卯。大風折木。		前16	384	0
426	850	06.26	嘉祥	3	05.09	干ばつ2A	丙戌。(中略)便於大極殿。限三箇日。誦大般若經。以祈甘雨也。応時雨降。		前16	384	0
427	850	06.28	嘉祥	3	05.11		戊子。雨水。時人以為。諸僧苦請之誠感動龍王也。		前16	384	0
428	850	07.13	嘉祥	3	05.26	ひょう1A	癸卯。雨雹。大如鴨卵。		前16	384	0
429	850	07.19	嘉祥	3	06.03	雷1A	六月己酉。雷震。(後略)		前16	384	0
430	850	09.07	嘉祥	3	07.24	大雨1A・洪水1A	己亥。大雨。大極殿前龍尾十二丈。為水潦所決壊。		前16	384	0
431	851	01.23	嘉祥	3	12.14	雷1A	丁巳。雷。		前16	386	0
432	851	06.14	仁寿	1	05.08		五月己卯。雨水。	大雨とも解釈できるが、「大」等の語がなく断定できない。	前16	387	0
433	851	06.15	仁寿	1	05.09	長雨2A	庚辰。遣使丹生川上社奉幣馬。以祈霽。賑給左右京不能自存者。		前16	387	0
434	851	07.09	仁寿	1	06.03	長雨2A	甲辰。遣使向伊勢寺等神社。以祈霽。		前16	387	0
435	851	07.10	仁寿	1	06.04		乙巳。天霽。		前16	387	0
436	851	09.12	仁寿	1	08.10	大雨1A・洪水1A	己酉。大雨水。		前16	387	0
437	852	08.03	仁寿	2	07.10	干ばつ2A	乙亥。遣使賀茂等名神社。奉幣祈雨。即日得甘澍。		前16	389	0
438	852	08.21	仁寿	2	07.28	大雨1A・暴風1A	癸巳。暴雨風。傷禾稼。		前16	389	0
439	852	08.23	仁寿	2	08.01	大雨2A・暴風2A	八月乙未朔。遣使伊勢大神宮。奉幣請止風雨。		前16	389	0
440	852	10.02	仁寿	2	閏08.12	暴風1A	乙亥。大風。		前16	389	0
441	852	10.06	仁寿	2	閏08.16	暴風1A	己卯。廩院米。賑給京師被風災者。		前16	389	0

日本紀略

442	852	10.19	仁寿	2	閏08.29	長雨2A	壬辰。遣使賀茂等社以止雨。		前16	389	0
443	853	10.10	仁寿	3	09.01	暴風1A	九月戊子朔。大風。斃屋。拔木。		前16	390	0
444	854	02.05	斉衡	1	01.01		春正月丙戌朔。停。朝賀。以雨後泥深也。		前16	391	0
445	854	06.04-07.02	斉衡	1	05	低温1B	是月。甚寒。山北微雪。		前16	391	0
446	854	08.28	斉衡	1	07.27	大雨1A・洪水1A・暴風1A	庚戌。遣使向伊勢大神宮。請止風雨。是日。暴風須與甚雨。洪水汎溢。		前16	392	0
447	855	01.27	斉衡	2	01.01		春正月壬午朔。帝不御大極殿。以雪後泥深。(後略)		前16	392	0
448	855	04.11	斉衡	2	03.17	大雨1A・強風1A	丙申。大風雨。		前16	392	0
449	855	04.24-05.23	斉衡	2	04	霜1B・低温1B	是月。寒殞霜。		前16	392	0
450	855	06.07	斉衡	2	閏04.15	大雨1A・洪水1A	癸巳。大雨水。		前16	393	0
451	855	06.15	斉衡	2	閏04.23	長雨1A	辛丑。遣使者向丹生川上雨師神社奉幣請止淫霖。		前16	393	0
452	855	07.27	斉衡	2	06.06	雷1A	癸未。震建禮門前柳樹。		前16	393	0
453	855	10.29	斉衡	2	09.11	大雨1A	丁巳。大雨。		前16	393	0
454	856	02.14	斉衡	3	01.01		春正月乙巳朔。停朝賀。以陰雨也。		前16	394	0
455	856	04.15	斉衡	3	03.03	ひょう1A	三月丙午。雨雹。		前16	394	0
456	856	07.07	斉衡	3	05.28		己巳。雨水。	大雨・洪水とも考えられるが、実態は不明。	前16	394	0
457	856	08.08	斉衡	3	07.01	干ばつ2A	秋七月辛丑朔。遣使者向諸神社奉幣祈雨。		前16	394	0
458	857	02.16	天安	1	01.14		(癸丑)近來処々井泉涸盡。	干ばつとの関連は不明。	前16	395	0
459	857	06.19	天安	1	05.20	長雨1A・洪水1A・雷1A	丙辰。地震。雷雨。近來霖雨。京中水溢。		前16	397	0
460	857	08.01	天安	1	07.04	雷1A	秋七月己亥。雷雨。異維有声如雷。		前16	397	0
461	858	01.10	天安	1	12.18	雷1A	(辛巳)是夜雷雨。		前16	398	0
462	858	01.23	天安	2	01.01		春正月甲午朔。天皇不聽朝賀。以陰雪也。		前16	398	0
463	858	05.18	天安	2	03.28	雷1A	己丑。無雲而雷。		前16	398	0
464	858	05.31	天安	2	04.11		壬寅。空中有声如雷。		前16	398	0
465	858	07.02	天安	2	05.15	長雨1A・洪水1A	乙亥。陰雨不止。洪水汎溢。東西兩河人馬不通。		前16	399	0
466	858	07.10	天安	2	05.22	大雨1A・洪水1A	壬午。大雨。洪水汎溢。橋梁斷絶。道路成川。東堀川水入冷泉院。庭中如池。諸脚諸司。或草履或徒跣。亦左右京被水害。流死者衆。		前16	399	0
467	858	07.15	天安	2	05.27	洪水3	(丁亥)遣勅使令巡檢兩京洪水之害。		前16	399	0
468	858	07.20	天安	2	06.03	雷1A	六月庚寅朔壬辰。雷雨。		前16	399	0
469	858	07.24	天安	2	06.07	雷3	丙申。和泉国言。霹靂破官舍六十余宇。		前16	399	0
470	858	08.04	天安	2	06.18	干ばつ1A・雷1A	丁未。雷雨。近來陽旱。炎氣盛蒸。		前16	399	0
471	858	06.19	天安	2	05.01	大雨1A・暴風1A	(六月)己酉。大宰府言上。去五月一日大風暴雨。九国二嶋盡被損傷。		前16	399	1
472	858	08.07	天安	2	06.21	強風1A・雷1A・濃霧1A	庚戌。濁霧濛々。無雲而雷。大風。		前16	399	0
473	858	08.28	天安	2	07.12	干ばつ2A	辛未。宣命雨師。乙訓。水主。貴布。禰神等。為祈雨也。		前16	399	0
474	858	09.02	天安	2	07.17		丙子。微雨。		前16	399	0
475	858	09.12	天安	2	07.27	大雨1A	丙戌。大雨。		前16	399	0
476	858	10.28	天安	2	09.14		是夜。空中有声如雷。		前17	402	0
477	859	05.10	貞観	1	04.01	雷1A	(丙戌)雷雨。震東京民居二百家。		前17	405	0
478	859	06.03	貞観	1	04.24	大雨1A・洪水1A	是日。夜大雨流潦。		前17	405	0
479	859	06.25	貞観	1	05.17	雷1A・ひょう1A	雷電雨雹。		前17	406	0
480	859	07.07	貞観	1	05.29	大雨1A	大雨。		前17	406	0
481	859	07.11	貞観	1	06.04	長雨1A・寡照1A	霖雨未霽。賑給。	「未霽」という記載から、長雨が継続中であることが示唆される。	前17	406	0
482	859	07.29	貞観	1	06.22	強風1A・雷1A	雷雨大風。折木斃屋。		前17	406	0
483	859	08.24	貞観	1	07.19	雷1A	雷雨。震内教坊柿樹。		前17	406	0
484	859	08.06-09.04	貞観	1	07		是月。雅院桜樹花。京中李樹皆華。		前17	406	0
485	859	09.07	貞観	1	08.03	大雨1A	大雨。		前17	406	0
486	859	09.13	貞観	1	08.09	長雨2A	奉幣丹生河上師神社。祈以止雨。		前17	407	0
487	859	09.16	貞観	1	08.12	大雨1A・暴風1A	大風雨支殺。京師人居被風壞者多。		前17	407	0
488	859	10.07	貞観	1	09.04	長雨1A	奉幣諸社。祈止霖雨也。		前17	407	0
489	859	10.11	貞観	1	09.08	大雨2A・暴風2A	諸国名神等遣使奉幣。為風雨祈焉。		前17	407	0

日本紀略

490	859	10.12	貞観	1	09.09	大雨1A・ 暴風1A	此日。大風暴雨。発屋折樹。		前17	407	0
491	859	10.21	貞観	1	09.18	強風1A・ 雷1A	大風雷雨。		前17	407	0
492	859	11.02	貞観	1	09.30		大祓於八省院東廊。為大嘗会近也。依雨用此廊。		前17	407	0
493	859	11.17	貞観	1	10.15		天東南有異雲。中有赤色如電光激。		前17	407	0
494	860	01.31	貞観	2	01.01		天皇不受歳賀。雨也。		前17	408	0
495	860	03.29	貞観	2	02.29	雷1A	雷雨晦合。		前17	409	0
496	860	05.04	貞観	2	04.06	霜1A	殞霜殺草。		前17	409	0
497	860	06.01	貞観	2	05.05	雷1A・ひよ う1A	地震。雷電雨雹。帝不御武徳殿。停端午節。		前17	410	0
498	860	06.14	貞観	2	05.18	雷1A・ひよ う1A	地震。雷電雨雹。		前17	410	0
499	860	05.28- 06.29	貞観	2	05- 06.03	長雨1B	(旧暦6月3日/グレゴリヲ暦6月29日)自五月霖雨至是大水。		前17	410	0
500	860	06.29	貞観	2	06.03	洪水1A	(旧暦6月3日/グレゴリヲ暦6月29日)自五月霖雨至是大水。		前17	410	0
501	860	08.15	貞観	2	07.21	大雨1A・ 暴風1A	大風暴雨。		前17	410	0
502	860	09.22	貞観	2	08.30		雨水。	大雨・洪水の可能性もある。	前17	410	0
503	860	10.06	貞観	2	09.14	暴風1A	大風。折樹発屋。		前17	411	0
504	860	10.07	貞観	2	09.15	洪水1A	都城東西両河洪水。人馬不通。		前17	411	0
505	860	12.10	貞観	2	閏10.20		雨雪。		前17	411	0
506	861	01.05	貞観	2	11.16	強風1A・ 雷1A	(十六日壬辰)是日烈風雷雨。		前17	412	0
507	861	01.06	貞観	2	11.17	強風1A	十七日癸巳。風不止。多壞人舍。		前17	412	0
508	861	02.18	貞観	3	01.01		春正月丙子朔。天皇不受朝賀雨也。		前17	412	0
509	861	04.18	貞観	3	03.01	霜1A	殞霜。		前17	413	0
510	861	05.31	貞観	3	04.14		空中有声。如雷。		前17	413	0
511	861	06.30	貞観	3	05.15	干ばつ2A	奉幣七社祈雨。有告文。		前17	414	0
512	861	07.01	貞観	3	05.16	干ばつ2A	請六十倍於御齋所。轉読大般若經。限三箇日訖。祈雨也。		前17	414	0
513	861	07.03	貞観	3	05.18	雷1A	雷。小雨。		前17	414	0
514	861	07.04	貞観	3	05.19	干ばつ1A	読経更延二箇日。為未得嘉澍。	先行する文脈と「未得嘉澍」から干ばつ1Aとした。	前17	414	0
515	861	07.18	貞観	3	06.03	雷1A	無雲而雷。		前17	414	0
516	861	08.06	貞観	3	06.22	低温1A・ 濃霧1A	天寒降霧。		前17	414	0
517	861	08.24	貞観	3	07.11	大雨1A・ 暴風1A	大風雨。		前17	414	0
518	861	10.08	貞観	3	08.27		空中有声。如雷。		前17	415	0
519	861	10.10	貞観	3	08.29	雷1A	日晚雷雨。		前17	415	0
520	861	09.12- 10.11	貞観	3	08		是月。京邑往々梨李華或実。		前17	415	0
521	862	02.07	貞観	4	01.01		天皇不受朝賀。雨也。		前17	416	0
522	862	04.25	貞観	4	03.19	ひょう1A	雨雹。		前17	416	0
523	862	05.08	貞観	4	04.02	大雨1A・ 洪水1A	大雨。河水溢。		前17	416	0
524	862	07.01	貞観	4	05.27	長雨1A・ 大雨1A・ 雷1A	淫霖未止。是日。雷電大雨。		前17	417	0
525	862	06.05- 07.22	貞観	4	05- 06.18	長雨1B	(六月十八日)自五月霖雨。遣使賑使。		前17	417	0
526	862	10.02- 10.30	貞観	4	09		(旧暦9月15日)是月。京師人家井泉枯渴。		前17	417	0
527	863	01.23	貞観	4	12.26	雷1A	雷雨。		前17	418	0
528	863	01.27	貞観	5	01.01		春正月甲子朔。天皇不受歳賀雨也。		前17	418	0
529	863	02.01	貞観	5	01.06	雷1A	雷雨。		前17	418	0
530	863	02.05	貞観	5	01.10	雷1A	雷雨。		前17	418	0
531	863	03.11	貞観	5	02.14	強風1A	大風。壞民廬舍。		前17	419	0
532	863	03.28	貞観	5	03.02		空中有声。如雷。		前17	419	0
533	863	04.26- 05.25	貞観	5	04	長雨1B	是月霖雨。		前17	420	0
534	863	06.01	貞観	5	05.07	霜1A・低 温1A	天寒殞霜。		前17	420	0
535	863	06.24- 07.23	貞観	5	06	長雨1B	是月霖雨。		前17	420	0
536	863	09.11	貞観	5	07.21	暴風1A	大風折樹発屋。		前17	421	0
537	863	11.19	貞観	5	10.01	雷1A	是日。夜雷。諸衛陣於殿前。		前17	421	0
538	863	12.03	貞観	5	10.15	強風1A・ 雷1A	大風雷雨。		前17	421	0
539	864	02.15	貞観	6	01.01	大雪1A	大雨雪。		前17	422	0
540	864	04.18	貞観	6	03.05	雷1A	雷雨。		前17	423	0

日本紀略

541	864	07.06	貞観	6	05.25	長雨1A	霖雨。賑給京師隱居飢病者。特加賑恤。	賑給の可能性もある。	前17	424	0
542	864	12.02	貞観	6	10.26	雷1A	夜雷。		前17	425	0
543	865	01.01	貞観	6	11.26	雷1A	雷雨。		前17	425	0
544	865	02.04	貞観	7	01.01		天皇不受朝賀。以雪地湿也。		前17	426	0
545	865	02.06	貞観	7	01.03		雨雪。		前17	426	0
546	865	05.19	貞観	7	04.17	雷1A	雷雨。諸衛陣于殿庭。勅奉使松尾。賀茂。稻荷。平野。大原野田。		前17	427	0
547	865	06.03	貞観	7	05.02	雷1A	雷雨。諸衛陣殿前。		前17	427	0
548	865	06.30	貞観	7	05.29	雷1A	雷雨。諸衛陣於殿前。		前17	427	0
549	865	08.16	貞観	7	07.17	大雨1A・ 暴風1A	大風雨。折樹斃屋。		前17	428	0
550	865	08.30	貞観	7	08.02		雨水。	大雨・洪水の可能性もある。	前17	428	0
551	866	01.25	貞観	8	01.01		天皇不受朝賀。七曜曆。氷様。		前17	429	0
552	866	05.22- 06.16	貞観	8	04.01- 04.26	長雨1B	是月。自朔至今。霖雨不止。	『日本三代実録』では4月29日。和暦4月1日と26日に長雨があったとも解釈できるため、重複集計した。	前17	431	0
553	866	05.22, 06.16	貞観	8	04.01, 04.26	長雨1A	是月。自朔至今。霖雨不止。	『日本三代実録』では4月29日。和暦4月1日と26日に長雨があったとも解釈できるため、重複集計した。	前17	431	0
554	866	06.27	貞観	8	05.08	長雨1A	霖雨。		前17	431	0
555	866	07.02	貞観	8	05.13	雷1A	雷雨。諸衛陣於殿下。		前17	431	0
556	866	06.20- 07.19	貞観	8	05	長雨1B	是月。淫霖。		前17	431	0
557	866	07.28	貞観	8	06.09	干ばつ1A	令五畿七道奉幣境内神。兼読金剛般若経。早也。		前17	431	0
558	866	08.06	貞観	8	06.18	干ばつ2A	請六十八僧於大極殿。限以三日。読大般若経。以祈雨也。		前17	432	0
559	866	07.20- 08.17	貞観	8	06	干ばつ1B	(6月28日)是月。天下大旱。民多飢餓。東堀川多鮎魚。京師人捕噉之。		前17	432	0
560	866	08.17	貞観	8	06.29	干ばつ3	先是。大和国言。楯列山陵守陵等。多伐樹木。神祇官卜申云。炎旱之災。突因伐木。是日遣使申謝。告班幣宮城中及京畿七道諸神。黒馬一疋奉大和国丹生河上雨師神。並以祈雨也。		前17	432	0
561	866	08.20	貞観	8	07.03	干ばつ2A			前17	432	0
562	866	08.22	貞観	8	07.05	雷1A	雷雨。諸仗陣于殿前。		前17	432	0
563	866	08.30	貞観	8	07.13	雷1A	雷雨。		前17	432	0
564	866	08.31	貞観	8	07.14	干ばつ2A	班幣賀茂松尾丹生川上稻荷水主貴布禰社。賽前日禱。兼祈嘉澍也。告文云々。		前17	432	0
565	866	10.09	貞観	8	08.23	強風1A・ 雷1A	雷雨暴風。		前17	433	0
566	867	06.08	貞観	9	04.28	雷1A	夜雷雨。諸衛陣於殿下。		前17	435	0
567	867	05.12- 06.09	貞観	9	04	長雨1B	是月。霖雨。		前17	435	0
568	867	06.12	貞観	9	05.03	長雨2A	奉幣畿内諸神。祈止雨。告文云々。		前17	436	0
569	867	06.10- 07.08	貞観	9	05	長雨1B	此月霖雨。人頗苦之。		前17	436	0
570	867	10.19	貞観	9	09.14	大雨1A・ 暴風1A	大風雨。拔樹斃屋。		前17	437	0
571	868	04.19	貞観	10	03.19	雷1A	雷雨。諸衛陣于殿前。		前17	438	0
572	868	05.27	貞観	10	04.27	雷1A	雷而不雨。諸衛陣於殿前。		前17	438	0
573	868	05.30- 06.27	貞観	10	05	長雨1B	是月。霖雨。		前17	439	0
574	868	08.13	貞観	10	07.18	雷1A	雷雨。諸衛陣於殿前。		前17	439	0
575	868	08.26- 09.23	貞観	10	08	長雨1B	是月。霖雨。		前17	439	0
576	868	09.24	貞観	10	09.01	大雨1A	大雨。		前17	439	0
577	868	09.30	貞観	10	09.07	長雨2A	今日。遣使於十四箇神。奉幣。祈止雨。		前17	439	0
578	868	10.02	貞観	10	09.09		雨始霽。(後略)		前17	439	0
579	868	12.19	貞観	10	11.28	雷1A	雷。		前17	440	0
580	869	03.21- 04.19	貞観	11	02	長雨1B	是月霖雨。至今未止。		前18	444	0
581	869	04.19	貞観	11	02.30	長雨1A	是月霖雨。至今未止。		前18	444	0
582	869	04.27	貞観	11	03.08	大雨1A・ 雷1A	雷電。暴雨。諸衛陣於殿前。		前18	444	0
583	869	07.31	貞観	11	06.15	雷1A	不雨而雷。		前18	444	0
584	869	08.11	貞観	11	06.26	干ばつ1A	勅曰。朕云々。而今旱雲涉旬。農民失望。(後略)		前18	444	0
585	869	08.28	貞観	11	07.13	雷1A	雷雨。震武徳殿前松樹。諸衛陣於殿前。		前18	445	0

日本紀略

586	869	08.29	貞観	11	07.14	大雨1A・洪水1A・暴風1A・高潮1A	風雨。是日。肥後国大風雨。飛瓦拔樹。潮水漲溢。漂没六郡。自海至山。其間田園數百里。陷而為海。		前18	445	1
587	869	10.09	貞観	11	08.26	大雨1A・暴風1A	夜大風暴雨。拔樹斃屋。宮城京邑損傷甚多。		前18	445	0
588	869	11.17	貞観	11	10.06	雷1A	雷雨。		前18	445	0
589	869	12.13	貞観	11	11.03	強風1A・雷1A	雷電風雨。		前18	445	0
590	869	12.31	貞観	11	11.21	干ばつ3	安芸国旱。詔免当年田租五分。		前18	445	1
591	870	06.07-07.16	貞観	12	05-06.10	長雨1B	(6月10日)自五月霖雨未止。奉幣賀茂。貴布禰神祈止雨。		前18	448	0
592	870	07.16	貞観	12	06.10	長雨1A	(6月10日)自五月霖雨未止。奉幣賀茂。貴布禰神祈止雨。		前18	448	0
593	870	07.23	貞観	12	06.17	長雨1A	頻月淫霖。京師飢饉。賑給之。		前18	448	0
594	870	07.28	貞観	12	06.22	長雨1A	奉幣賀茂御祖。別雷兩社。祈止霖雨。	「霖雨」という直接的記載があり、この時点で継続している長雨を原因とする止雨祈願と解釈した。	前18	448	0
595	871	01.29	貞観	13	01.01		天皇不受朝賀。依雨也。宴侍臣於紫雲殿。		前18	449	0
596	871	02.21	貞観	13	01.24	大雪1A	大雨雪。		前18	450	0
597	871	03.29-04.27	貞観	13	03	長雨1B	是月。霖雨。		前18	450	0
598	871	06.14	貞観	13	05.19	干ばつ2A	(5月19日)遣使於丹生川上雨師神社奉幣。祈雨也。		前18	451	0
599	871	06.17	貞観	13	05.22	干ばつ1A	(5月22日)勅控秀良親王家池水。渙城南百姓田旱也。		前18	451	0
600	871	06.26-07.05	貞観	13	06.01-06.10	干ばつ1B	(6月10日)自朔不雨。是班幣諸神社。祈雨也。		前18	451	0
601	871	07.05	貞観	13	06.10	雷1A	是日。無雲而雷。		前18	451	0
602	871	07.08	貞観	13	06.13	干ばつ2A	勅。東海。東山。北陸。山陽。山陰。南海道諸国。班幣境内名山大沢諸神。併轉読大般若。金剛般若經。祈甘雨也。		前18	451	0
603	871	07.10	貞観	13	06.15	干ばつ2A	延六十僧於大極殿。限以三日。轉読大般若經。苦請澍雨。		前18	451	0
604	871	07.11	貞観	13	06.16	雷1A	大雷。微雨。		前18	451	0
605	871	07.12	貞観	13	06.17	干ばつ1A	延読經六ヶ日。縁不快雨也。		前18	451	0
606	871	07.26	貞観	13	07.02	雷1A	雷雨。諸衛陣於殿前。		前18	451	0
607	871	09.03	貞観	13	08.11	雷1A	雷雨。東京有人震死。		前18	451	0
608	871	09.28	貞観	13	閏08.07	長雨2A・大雨1A・洪水1A・雷1A	雷大雨。諸衛陣於殿前。河水暴溢。流損者衆。遣使班幣於諸神請止雨。		前18	452	0
609	871	10.02	貞観	13	閏08.11	長雨1A・洪水3	霖雨未止。東京居人遭人水損者廿五家。百卅八人。西京六百卅三家。千九百九十五人。賜穀監各有差。		前18	452	0
610	871	10.22-11.19	貞観	13	09		是月。桜梨桃李花。		前18	452	0
611	871	12.17	貞観	13	10.28	雷1A	雷一声。		前18	452	0
612	871	12.29	貞観	13	11.10	雷1A	雷電。		前18	452	0
613	872	01.10	貞観	13	11.22	雷1A	雷。地震。		前18	452	0
614	872	01.18	貞観	13	12.01	雷1A	雷雨。		前18	453	0
615	872	02.04	貞観	13	12.18	大雪1A	大雨雪。		前18	453	0
616	872	04.25	貞観	14	03.10	大雨1A・強風1A	大風雨。賑給京師絶乏者。		前18	454	0
617	872	08.29	貞観	14	07.18	干ばつ2A	延六十僧於大極殿。限以三日。轉読大般若經。祈雨也。		前18	455	0
618	872	09.01	貞観	14	07.21	干ばつ1A	降雨。天皇以百姓罹旱。依仏祈雨。(後略)		前18	456	0
619	872	09.04	貞観	14	07.24	大雨1A	大雨。		前18	456	0
620	872	09.05	貞観	14	07.25	大雨1A	大雨。		前18	456	0
621	872	09.07	貞観	14	07.27	雷1A	雷雨。地震。		前18	456	0
622	872	09.14	貞観	14	08.04	大雨1A・暴風1A	大風雨。多破民人廬舎。		前18	456	0
623	872	10.22	貞観	14	09.13	大雨1A	大雨。		前18	456	0
624	872	12.15	貞観	14	11.08	大雪1A	通夕雪未止。(後略)		前18	457	0
625	873	01.05	貞観	14	11.29		天南有声如雷。		前18	457	0
626	873	02.06	貞観	15	01.01	大雨1A・雷1A	天皇不受朝賀。以雨後地湿也。(中略)申時颯風暴雨。雷二声。		前18	458	0
627	873	05.13	貞観	15	04.27	雷1A・ひょう1A	雷電雨雹。諸衛府近屯殿前。		前18	459	0
628	873	06.05	貞観	15	05.03	雷1A・ひょう1A	雷電雨雹。其大如鷄子。或如梅実。		前18	459	0
629	873	06.22	貞観	15	05.20	干ばつ2A	奉幣於賀茂。松尾。乙訓。稻荷。貴布禰。丹生川上雨師神。祈嘉澍。		前18	459	0

日本紀略

630	873	06.25	貞観	15	05.23	干ばつ 2A・雷1A	雷而不雨。於十五大寺。誦經請雨。		前18	459	0
631	873	06.26	貞観	15	05.24	雷1A	雷雨。		前18	459	0
632	873	07.03- 07.16	貞観	15	06.01- 06.14	長雨1B・ 寡照1B	十五日戊申。自今月一日霖雨。是日始霽。		前18	460	0
633	873	07.03, 07.16	貞観	15	06.01, 06.14	長雨1A・ 寡照1A	十五日戊申。自今月一日霖雨。是日始霽。		前18	460	0
634	873	08.08	貞観	15	07.08	大雨1A・ 雷1A	雷電暴雨。諸衛府近屯殿前。		前18	460	0
635	873	08.09	貞観	15	07.09	干ばつ2A	遣使於賀茂。松尾。稻荷。乙訓。貴布禰神社奉幣祈雨也。		前18	460	0
636	873	08.19	貞観	15	07.19	干ばつ 2A・雷1A	遣散位好風王。神祇大祐大中臣常道於伊勢太神宮。奉幣祈甘雨。是日。雷雨。		前18	460	0
637	873	08.18	貞観	15	07.20		降雨。		前18	460	0
638	874	01.27	貞観	16	01.01		天皇不受朝賀。雨後地湿也。		前18	462	0
639	874	04.28	貞観	16	04.05	霜1A	隕霜。		前18	463	0
640	874	05.01	貞観	16	04.08	大雨1A	暴雨。		前18	463	0
641	874	05.13	貞観	16	04.20	大雨1A・ 雷1A	是日。雷電暴雨。諸陣屯於殿前。		前18	463	0
642	874	06.16	貞観	16	閏04.24	雷1A	雷雨。諸衛陣於殿前。		前18	464	0
643	874	07.09- 07.19	貞観	16	05.18- 05.28	雷1B	廿八日乙卯。徒去十八日。頻雷雨。是日。大雷雨。諸陣屯於殿前。		前18	464	0
644	874	07.19	貞観	16	05.28	雷1A	廿八日乙卯。徒去十八日。頻雷雨。是日。大雷雨。諸陣屯於殿前。		前18	464	0
645	874	06.22- 07.20	貞観	16	05	長雨1B	是月霖雨。		前18	464	0
646	874	08.03	貞観	16	06.14	雷1A	是日雷雨。東京牛震死。		前18	464	0
647	874	08.13	貞観	16	06.24	雷1A	大雷雨。陣屯殿前。		前18	464	0
648	874	09.19- 10.05	貞観	16	08.01- 08.17	長雨1B	十七日癸酉。是月霖雨。奉幣丹生川上雨師神。祈止雨。		前18	465	0
649	874	10.12	貞観	16	08.24	大雨1A・ 洪水1A・ 強風1A・ 高潮1A	大風雨。折樹斃屋。紫震殿前椽。東宮紅梅。侍徒局大梨等木有名皆吹倒。水暴漲。迅激直衝城下。大小橋梁無有子遺。朱雀大路豐財坊門倒覆。抱閔兵士併妻子四人疜死。東西河汎溢。百姓及牛馬没溺。死者不如其數云々。是日。班幣畿内諸神。祈止風雨。時論或云。今年洪水增於嘉祥元年六尺有余。		前18	465	0
650	874	10.24	貞観	16	09.07	洪水3・暴 風3	東東京被風水損。尤甚者三千一百五十九家。開倉廩賑給之。		前18	466	0
651	874	08.20- 11.16	貞観	16	秋		(九月)是秋。桃李花。		前18	466	0
652	875	02.02	貞観	16	12.19	大雪1A	大雨雪。		前18	466	0
653	875	02.20	貞観	17	01.07	大雨1A	是日。早朝。天色清朝。及亭午暴雨滂沱。		前18	467	0
654	875	03.06	貞観	17	01.21		是日。巳時日暈。		前18	467	0
655	875	05.25	貞観	17	04.13	雷1A	雷雨。諸衛陣於殿前。		前18	468	0
656	875	05.30	貞観	17	04.18	大雨1A・ 雷1A	雷電大雨。諸衛陣於殿前。		前18	468	0
657	875	07.13	貞観	17	06.03	干ばつ2A	是日。分遣使者於賀茂。松尾。稻荷。乙訓。貴布禰。丹生奉幣。以祈嘉澍也。		前18	469	0
658	875	07.18	貞観	17	06.08	干ばつ2A	遣使左馬頭藤原朝臣季道於春日社。奉幣。兼禱欲奉齊女。以祈甘雨也。		前18	469	0
659	875	07.19	貞観	17	06.09	干ばつ2A	遣使大舍人頭有佐王向伊勢大神宮奉幣。以祈甘雨也。		前18	469	0
660	875	07.23	貞観	17	06.13	干ばつ2A	分遣使於十五大寺。轉誦大般若經。祈雨也。		前18	469	0
661	875	07.25	貞観	17	06.15	干ばつ1A	屈六十僧於大極殿。限三ヶ日。轉誦大般若經。十五僧於神泉苑修大雲輪請雨經法。並祈雨也。(中略)以神祇官言不雨之祟在伐山陵樹也。		前18	469	0
662	875	07.26	貞観	17	06.16	雷1A	申時。黒雲四合。俄而微雨。雷數聲。		前18	469	0
663	875	07.27	貞観	17	06.17	雷1A	未時。雷電微雨。		前18	469	0
664	875	07.30	貞観	17	06.18	干ばつ1A	大極殿誦經。神泉苑修法。更延二日。未得快澍也。	「未得快澍也。」から、少雨を原因とする雨乞いと解釈した。	前18	469	0
665	875	08.03	貞観	17	06.24	雷1A	微雨雷鳴。但京城之外不及湿塵。		前18	469	0
666	875	08.04	貞観	17	06.25	雷1A	雷電。		前18	469	0
667	875	08.10	貞観	17	07.02	干ばつ2A	遣使班幣賀茂御祖別雷。松尾。稻荷。乙訓。木嶋。貴布禰。丹生神社。祈雨也。		前18	470	0
668	875	08.11	貞観	17	07.03	干ばつ2A	(前略)兼祈甘雨。		前18	470	0
669	875	08.18	貞観	17	07.10	大雨1A・ 暴風1A	風雨。拔樹木壞倉舍。	雨による被害(洪水)の記載がなく、降水量は多くないと解釈できる。	前18	470	0
670	875	08.20	貞観	17	07.12	雷1A	雷雨未止。		前18	470	0
671	875	09.03	貞観	17	07.26	長雨1A	霖雨不止。遣使丹生川上社。奉幣白馬。祈止雨也。		前18	470	0
672	876	02.03	貞観	18	01.01		天皇不受朝賀。雨也。		前18	471	0

日本紀略

673	876	04.23	貞観	18	03.21	長雨1A	霖雨。京城人飢。賑給之。	賑給の可能性もある。	前18	472	0
674	876	04.03-05.01	貞観	18	03	長雨1B	是月霖雨未止。		前18	472	0
675	876	05.01	貞観	18	03.29	長雨1A	是月霖雨未止。		前18	472	0
676	876	05.31-06.28	貞観	18	05	長雨1B	是月霖雨。至此未止。		前18	473	0
677	876	06.28	貞観	18	05.29	長雨1A	是月霖雨。至此未止。		前18	473	0
678	876	07.02	貞観	18	06.04	低温1A	風吹気冷似秋。		前18	473	0
679	876	07.05	貞観	18	06.07	濃霧1A	卯時。霧降。		前18	473	0
680	876	07.13	貞観	18	06.15	長雨1A	霖雨。		前18	473	0
681	876	07.14	貞観	18	06.16	雷1A	雷雨。諸衛陣於殿前。		前18	473	0
682	876	07.16	貞観	18	06.18	ひょう1A	雨雹。地震。		前18	473	0
683	876	08.18	貞観	18	07.21	雷1A	申時。天無而雷。		前18	474	0
684	876	12.29	貞観	18	12.06	雷1A・ひょう1A	雷電雨雹之。		前19	477	0
685	877	07.21	元慶	1	06.04	干ばつ2A	奉幣黒馬於丹生川上。供奉幣貴布禰神。祈甘雨也。		前19	481	0
686	877	07.26	元慶	1	06.09	雷1A	雷而不雨。		前19	481	0
687	877	07.29	元慶	1	06.12	干ばつ2A	令京城側近諸寺読経祈雨也。		前19	481	0
688	877	07.31	元慶	1	06.14	干ばつ2A	奉幣石清水八幡宮以下諸社。祈雨也。		前19	481	0
689	877	08.02	元慶	1	06.16	雷1A	大雷微雨。		前19	481	0
690	877	08.09	元慶	1	06.23	干ばつ2A	奉幣黒馬丹生川上神祈雨。又奉幣貴布禰神祈雨。		前19	481	0
691	877	08.12	元慶	1	06.26	干ばつ2A	屈大法師教日。於神泉苑。率廿一僧。修金翅鳥王經法。請雨也。		前19	481	0
692	877	08.13	元慶	1	06.27	干ばつ1A	遣使於東大寺大仏前。限以三日。修法祈雨。遂不得嘉澍。		前19	481	0
693	877	07.18-08.16	元慶	1	06	干ばつ1B	(和暦6月30日/グレゴリオ暦8月16日)是月。大旱。民廢農業。走幣修法。未有効驗。	「是月」という文頭から、6月末日を記載日とした。	前19	481	0
694	877	08.16	元慶	1	06.30	干ばつ1A	(和暦6月30日/グレゴリオ暦8月16日)是月。大旱。民廢農業。走幣修法。未有効驗。	「是月」という文頭から、6月末日を記載日とした。	前19	481	0
695	877	08.18	元慶	1	07.02	干ばつ1A	右大臣藤原朝臣以久旱不雨。上表請罷摂政。不聽。		前19	481	0
696	877	08.19	元慶	1	07.03	干ばつ1A	炎旱。		前19	481	0
697	877	08.23	元慶	1	07.07	干ばつ2A	(七日)請一百僧於紫雲殿。限以三日。読大般若經。即是秋季御読経。兼祈甘雨也。		前19	481	0
698	877	08.26	元慶	1	07.10		引神泉苑池水。溉灌城南民田。一日一夜。		前19	482	0
699	877	08.28	元慶	1	07.12	干ばつ2A	轉經五日。請雨不驗。	「請雨不驗。」から少雨に原因を求められることもできるが、継続的少雨とは断定できない。	前19	482	0
700	877	08.29	元慶	1	07.13		先是内供奉徳籙言。弟子僧乘縁有咒験致雨之術。請試令修。乘縁於武徳殿限以五日誦咒。是日未時暴雨。々沢不治。	干ばつ継続中であることと、「々沢不治」から大雨ではないと判断した。	前19	482	0
701	877	09.01	元慶	1	07.16	雷1A	遍雨。雷激。諸衛及内舍人陣於殿前。		前19	482	0
702	877	09.09	元慶	1	07.24		快雨。		前19	482	0
703	878	02.10	元慶	2	01.01		天皇不受朝賀。雨雪也。		前19	483	0
704	877	-	元慶	2	01.15	干ばつ1C	(元慶2年1月15日/878年2月24日)勅以播磨国不動穀六千斛。充和泉国。班給百姓。以去年旱飢也。		前19	483	0
705	877	-	元慶	2	02.28	干ばつ1C	(元慶2年2月28日/878年)勅。備前国不動穀一万斛運充河内国。班給百姓。以去年旱損民多飢也。		前19	483	0
706	878	06.08	元慶	2	04.30		膏雨快澍。天下以為仁王經之験力也。		前19	485	0
707	878	06.10	元慶	2	05.02	干ばつ3	摂津国旱飢。詔運播磨備前兩國不動穀各三千斛。班賦百姓。	飢饉を伴うため、賑給と判断した。	前19	485	0
708	877	-	元慶	2	05.08	干ばつ1C	(元慶2年5月8日/878年6月16日)大和国去年大旱。百姓飢饉。詔以正税三万束。賑給。		前19	485	0
709	878	06.09-07.10	元慶	2	05-06.03	干ばつ1B	(和暦6月3日/グレゴリオ暦7月10日)三日丁卯。自去月至此。亢陽不雨。名山大川能興雲致雨。並班幣祈雨。賀茂以下八社也。丹生川上加奉黒馬一疋。		前19	485	0
710	878	07.10	元慶	2	06.03	干ばつ1A	(和暦6月3日/グレゴリオ暦7月10日)三日丁卯。自去月至此。亢陽不雨。名山大川能興雲致雨。並班幣祈雨。賀茂以下八社也。丹生川上加奉黒馬一疋。		前19	485	0
711	878	07.23	元慶	2	06.16	大雨1A・洪水1A・雷1A	雷電。雨下。如倒井。京城之内。溝渠皆溢。霹靂於東大寺幡竿。	「溝渠皆溢。」から大雨による被害や小河川の氾濫が想定できる。大雨・洪水を追加(谷岡2010『地理学評論』83を修正)。	前19	485	0
712	878	07.30	元慶	2	06.23	干ばつ3	河内国旱飢。不堪貢進御酒米六十五斛斗。太政官處分。停而莫貢。	酒米を「貢進」できないという文脈から、干ばつは前年に発生したものと推測される。	前19	486	0

日本紀略

713	878	08.05	元慶	2	06.29	雷1A	大雷雨。諸衛陣於弘徽殿前。天皇御此殿之故也。		前19	486	0
714	878	08.06	元慶	2	07.01	雷1A	早旦雷声隠々。至未一剋。忽発一声。其勢非常。諸衛警陣殿前。		前19	486	0
715	878	09.22	元慶	2	08.18	大雨1A・洪水1A・暴風1A	大風雨。流溢田疇。		前19	486	0
716	878	09.29	元慶	2	08.25	長雨2A	奉幣貴布禰。丹生両社。奉白馬各一疋。祈止雨也。	『日本三代実録』では「雨猶不止」が文頭に あるため、長雨1Aとしている。	前19	487	0
717	878	10.24	元慶	2	09.21	大雨1A・洪水1A	大雨。河水漲溢。		前19	487	0
718	878	10.29	元慶	2	09.26	大雨1A・雷1A	夜雷電大雨。諸衛警陣殿前。		前19	487	0
719	878	10.29	元慶	2	09.26	大雨1A・暴風1A	庚申。紀伊国司言。今月廿六日亥時。風雨晦冥。官舎破壊。圧死者多。	降水量は多くなかった可能性がある。	前19	487	0
720	878	10.04-11.02	元慶	2	09	長雨1B・曇照1B	是月。陰雨連澍。略無霽日。		前19	487	0
721	879	02.08	元慶	3	01.10	大雪1A	大雨雪。		前19	488	0
722	879	05.05	元慶	3	04.07		擬階奏。依雨停之。		前19	490	0
723	879	06.18	元慶	3	05.21	干ばつ2A	奉幣賀茂以下諸社。祈雨也。		前19	490	0
724	879	06.19-06.27	元慶	3	05.22-05.30		卅日己未。自去廿二日。甘雨頻降。苗稼滋茂。		前19	490	0
725	879	07.15	元慶	3	06.18	大雨1A・洪水1A	甚雨。河水溢。		前19	491	0
726	879	07.28	元慶	3	07.02	大雨1A・雷1A	雷電大雨。諸衛陣於清涼殿前。		前19	491	0
727	879	08.25-09.23	元慶	3	08		是月京師梨李華或実。		前19	491	0
728	880	02.18	元慶	4	01.01		天皇不受朝賀雨也。		前19	493	0
729	880	04.10	元慶	4	02.23		東方有声。如雷。		前19	493	0
730	880	07.01	元慶	4	05.16	干ばつ2A	遣使於賀茂。松尾。稻荷。乙訓。貴布禰。丹生川上等社。奉幣祈雨。丹生加奉黒馬。告文云々。		前19	494	0
731	880	07.05	元慶	4	05.20		快雨。		前19	494	0
732	880	07.05-07.07	元慶	4	05.20-05.22	長雨2A・大雨1A・洪水1A	(旧暦5月22日/グレゴリイ暦7月7日)自廿日大雨。漸没苗稼。由是於神泉苑修灌頂経法。限以三日。止雨也。		前19	494	0
733	880	07.08	元慶	4	05.23	長雨1A	(旧暦5月24日/グレゴリイ暦7月9日)霖雨始霽。		前19	494	0
734	880	08.05	元慶	4	06.22	干ばつ1A	涉旬不雨。旱氣焦草。遣使賀茂等十一社。奉幣祈雨。告文云々。但丹生川上加奉黒馬。		前19	495	0
735	880	08.10	元慶	4	06.26	干ばつ2A	延七十五僧於紫雲殿。限以三日。読大般若経。請雨也。		前19	495	0
736	880	08.15	元慶	4	07.02	大雨1A	大雨。		前19	495	0
737	880	08.16	元慶	4	07.03	大雨1A・干ばつ2A	大雨。先是。命七大寺及諸定額寺。轉経請雨。		前19	495	0
738	880	11.10-02.06	元慶	4	冬	高温1C	(元慶5年1月1日)(前略)以去冬不沍寒凌室空虚也。		前19	498	0
739	881	03.06	元慶	5	01.28	大雪1A	大雨雪。		前19	498	0
740	880	11.10-02.06	元慶	4	冬	高温1C・少雪1C	(元慶5年1月28日)去年冬气温。無宿雪。	738番と同じイベント。	前19	498	0
741	881	02.07-03.06	元慶	5	01.01-01.28	大雪1A・低温1A	(1月28日)今春多雪。寒氣肅烈。屋溜垂漸。長尺余。		前19	498	0
742	881	07.10	元慶	5	06.07	雷1A	雷雨。諸衛警陣。		前19	499	0
743	881	07.11	元慶	5	06.08	雷1A	霹靂於右京右弁官史生若倭部常世宅。兩女被震死。		前19	499	0
744	881	07.17	元慶	5	06.14	長雨3	賑給。京師困乏者。依霖雨也。		前19	499	0
745	881	12.17	元慶	5	11.19		慶新雪也。		前19	501	0
746	882	01.27	元慶	6	01.01	強風1A・大雪1A	烈風。大雨雪。平地二尺。天皇不受朝賀。		前19	501	0
747	882	01.28	元慶	6	01.02		雪未止。		前19	501	0
748	882	06.22	元慶	6	05.29	長雨3	賑給京師貧困病患之輩。也依霖雨也。		前19	503	0
749	882	07.13	元慶	6	06.20	雷1A	雷雨。諸衛入陣。		前19	503	0
750	882	11.19	元慶	6	10.01	雷1A	是夜。雷電。		前19	504	0
751	883	01.02	元慶	6	11.16	雷1A	是日卯時。雷電。申時。地震。		前19	504	0
752	883	02.02	元慶	6	12.17	強風1A・雷1A	子時暴風雷。至丑天南雷電。地中有声。		前19	505	0
753	883	02.15	元慶	7	01.01		天皇不受朝賀。雨也。		前19	505	0
754	883	05.11	元慶	7	03.27	大雨3・洪水3・暴風3	大風雨水。賑給西東飢民。	5月11日の時点ですでに飢饉にあるという内容から、これを前年の台風によるものと解釈した。	前19	506	0
755	883	06.17	元慶	7	05.05	大雨1A	是日。大雨。		前19	507	0
756	883	07.04	元慶	7	05.22	干ばつ1A	遣使於松尾等七社奉幣而霽。以旱也。		前19	507	0

日本紀略

757	883	07.08	元慶	7	05.26	大雨1A	大雨。		前19	507	0
758	883	07.12-08.10	元慶	7	06	長雨1B	是月霖雨。		前19	508	0
759	883	08.23	元慶	7	07.13	大雨2A・洪水2A	遣使奉幣伊勢大神宮以下諸社。依佐異併雨水也。		前19	508	0
760	883	10.10	元慶	7	09.02	長雨2A	奉幣賀茂以下諸社。止雨也。		前19	508	0
761	883	10.09-11.07	元慶	7	09	長雨1B	是月。霖雨未止也。		前19	508	0
762	883	11.07	元慶	7	09.30	長雨1A	是月。霖雨未止也。		前19	508	0
763	884	02.05	元慶	8	01.01		天皇不受朝賀。雪也。		前19	509	0
764	884	02.09	元慶	8	01.04	雷1A・ひょう1A	巳時。天南雷。暴風雨雹。		前19	509	0
765	884	04.12	元慶	8	03.09	雷1A	雷雨。諸衛陣於殿前。		前20	512	0
766	884	04.18	元慶	8	03.15	雷1A	夜大雷。震常住寺塔。火自第五層起。(後略)		前20	512	0
767	884	04.29	元慶	8	03.26	霜1A	殞霜。		前20	512	0
768	884	05.11	元慶	8	04.09	雷1A・ひょう1A	申時。雷雨雨雹。摧傷草木之葉。占曰。凡雹冬之過陽。夏之伏陰也。過陽冬温。伏陰夏寒。		前20	513	0
769	884	05.12	元慶	8	04.10	霜1A・低温1A	天寒殞霜。		前20	513	0
770	884	05.16	元慶	8	04.14	大雨1A・強風1A	大風雨。亥時。地震有聲。		前20	513	0
771	884	05.18	元慶	8	04.16	雷1A・霜1A・低温1A	霜降氣寒。未時雷電。申時地震。		前20	513	0
772	884	05.19	元慶	8	04.17	霜1A・低温1A	夜寒霜降。草木葉彫。		前20	513	0
773	884	08.17	元慶	8	07.19	雷1A	雷雨。諸衛陣於階下。		前20	514	0
774	885	07.04	仁和	1	05.14	長雨1A	霖雨不止。奉幣丹生河上神。祈止雨也。告文曰云々。		前20	519	0
775	885	07.10	仁和	1	05.20	長雨3	賑給京城飢民。以霖雨也。	現況を指したものである可能性もある。	前20	519	0
776	885	08.01	仁和	1	07.13	干ばつ2A	遣使丹生川上雨師神奉幣黒馬。祈雨也。		前20	519	0
777	885	11.20	仁和	1	10.06		雨雪。		前20	520	0
778	886	04.24	仁和	2	03.13	雷1A	雷雨。東寺新造塔火。時人謂雷火。		前20	522	0
779	886	05.31	仁和	2	04.20	雷1A	是日。雷雨。諸衛陣於殿前。		前20	523	0
780	886	06.16-06.19	仁和	2	05.07-05.10	大雨1A・洪水1A	十日戊子。自去七日大雨。河水漲溢。人馬不通。	6月16日～6月19日すべてで大雨が降ったと解釈した。	前20	523	0
781	886	07.02	仁和	2	05.23	大雨1A	大雨。		前20	523	0
782	886	07.05	仁和	2	05.26		天東有聲。如雷。		前20	523	0
783	886	07.10-07.22	仁和	2	06.01-06.13	長雨1B	(6月13日)今月霖雨。京師飢困。開倉賑給。		前20	523	0
784	886	07.03-07.05	仁和	2	05.24-05.26	雷1A	(8月4日)安房国言。去五月廿四日夕有黒雲。自南海群起。其中現雷光。雷鳴。地震通夜不止。廿六日曉。雷雨。砂石粉土遍滿地上。山野田園無不降。稼苗草木皆以凋枯。馬牛食之。死斃甚多。		前20	524	1
785	886	09.12	仁和	2	08.07	干ばつ2A	遣使於賀茂以下諸社。奉幣祈止雨。告文云々。丹生。貴布禰二社。加奉白馬各一疋。		前20	525	0
786	886	10.08	仁和	2	09.04	大雨1A・雷1A	辰時雷雨。申時敝位。於建禮門前。以明日奉伊勢大神宮神宝使可進発也。于時雷電大雨。諸衛警陣於殿前。		前20	525	0
787	886	01.15	仁和	2	12.14	強風1A	自朝至夕。風雪慘烈。		前20	527	0
788	887	02.01	仁和	3	01.01		廢朝。雨也。		前20	527	0
789	887	05.31-07.09	仁和	3	05-06.11	長雨1B	(6月11日)自去五月。霖雨未止。京師飢餓。開倉賑給。		前20	528	0
790	887	07.25	仁和	3	06.27	雷1A・ひょう1A	雷雨。諸衛警陣。雹積地上。移時不消。		前20	528	0
791	887	07.27	仁和	3	06.29	雷1A	雷大鳴。諸衛陣於殿前。賜祿有差。		前20	528	0
792	887	08.11	仁和	3	07.15	長雨1A	雨水。奉進白馬於丹生川上雨師神。祈止霖雨也。		前20	529	0
793	887	09.15	仁和	3	08.20	洪水1A・暴風1A	大風。拔樹発屋。(中略)鴨河葛河洪水汎溢。人馬不通。		前20	529	0
794	887	10.29	仁和	3	10.05	雷1A	子刻。地震。寅刻。雷鳴。		前20	531	0
795	887	11.20	仁和	3	10.27	雷1A	先皇新陵。晝夜雷鳴。經十余日。		前20	531	0
796	888	03.08	仁和	4	01.18	強風1A	未刻。東二条院。有颶風。其音如雷。或推折樹木。或損人屋。		前20	532	0
797	888	06.24	仁和	4	05.08	洪水1A	信濃国大水。山瀬河溢。	いわゆる「仁和大洪水」。洪水は八ヶ岳の水蒸気爆発に起因するという見方がある。	前20	532	1
798	888	07.01	仁和	4	05.15	洪水3	詔水灾物勿輸今年租調。(後略)	6月24日のイベントを受けたもの？	前20	532	1
799	888	08.15	仁和	4	07.01	長雨2A	奉幣丹生社。依止雨也。		前20	532	0
800	888	09.06	仁和	4	07.23	長雨2A	止雨奉幣。河上社。		前20	532	0

日本紀略

801	888	09.14	仁和	4	08.01		雨降。兵部省。		前20	532	0
802	888	09.15	仁和	4	08.02		空中有物。色白紛飛。是則雪也。		前20	532	0
803	889	05.17	寛平	1	04.10	雷1A・ひょう1A	風雨雷鳴。雹降。大如碁石。		前20	534	0
804	889	05.28-06.05	寛平	1	04.21-04.29	長雨1B・寡照1B	徒今月下旬霖雨不晴。	月別集計は5月と6月の双方として集計した。	前20	534	0
805	889	10.03-10.31	寛平	1	09		是月。万木花開。宛如三春。		前20	535	0
806	890	09.22-10.21	寛平	2	09		(9月)今秋。桃李花。		前20	536	0
807	890	11.20-02.15	寛平	2	冬	雷1C	(12月)冬。雷電。		前20	536	0
808	891	04.18	寛平	3	03.02	大雨1A・強風1A	長門国言。為大風雨官舎顛倒。		前20	537	1
809	891	06.14-07.13	寛平	3	05	干ばつ1B	今月旱魃。		前20	538	0
810	891	07.15	寛平	3	06.02	干ばつ2A	下知綱所。於京畿諸寺令轉読経王。奉幣諸社祈雨。		前20	538	0
811	891	07.29	寛平	3	06.16	干ばつ2A	遣公卿于諸陵祈雨。		前20	538	0
812	891	07.31	寛平	3	06.18	干ばつ2A	於大極殿。延屈名僧。令轉読大般若経。又於神泉苑。以律師益信修請雨経。同日奉幣三社。		前20	538	0
813	891	08.08	寛平	3	06.26	干ばつ1A	左右獄囚十六人被放出。依旱災也。		前20	538	0
814	891	08.18	寛平	3	07.07		近日。宮城乾角山上。燎火連日。草木俱熒。(後略)	干ばつを原因とする可能性もある。	前20	538	0
815	892	01.23	寛平	3	12.16	大雪1A	夜雪降。深二尺。		前20	538	0
816	892	07.22-08.16	寛平	4	06.21-07.16	干ばつ1B	(旧暦7月16日/グレゴリイ暦8月16日)祈雨師神社。徒去月下旬。甘澍不降之故。翌日雨降。可謂神明之感。		前20	539	0
817	892	09.12	寛平	4	08.14	干ばつ1A	奉幣諸社。依旱魃并恠異也。		前20	539	0
818	895	08.07	寛平	7	07.09	洪水3	依洪水奉幣三社。	すでに発生した「洪水」への対策と解釈した。	前20	543	0
819	895	11.24	寛平	7	11.01		日食。諸司廢務。但雨降不見。		前20	544	0
820	896	06.27	寛平	8	05.09	洪水1A	洪水汎溢。農欲流損。		前20	544	0
821	896	10.05	寛平	8	08.21	長雨1A	依霖雨奉幣鳴下社。依御卜也。	長雨2Aに該当する可能性もある。	前20	545	0
822	895	11.28	寛平	8	11.05		辰刻乾方天鳴。其響如雷。		前20	545	0
823	897	02.27	寛平	9	01.18	雷1A	辰刻。雷鳴。其響高及。衆人驚恠。		前20	545	0
824	897	09.21	寛平	9	08.17	干ばつ2A	祈雨。諸社奉幣。		後1	2	0
825	898	06.04	昌泰	1	05.08	干ばつ2A	祈雨奉幣十六社。		後1	3	0
826	898	06.05	昌泰	1	05.09	雷1A	大雷雨。		後1	3	0
827	898	06.11	昌泰	1	05.15	干ばつ2A	祈雨奉幣伊勢大神宮。		後1	3	0
828	898	07.29	昌泰	1	07.03	干ばつ2A	祈雨奉幣廿二社。		後1	3	0
829	898	11.05	昌泰	1	10.14		空中声一度。如雷。		後1	4	0
830	899	02.09	昌泰	1	12.21	雷1A	天東南方有雷光。炫耀四方。又有迅風。		後1	4	0
831	899	02.18	昌泰	2	01.01	強風1A	停朝賀。縁風雪。(後略)		後1	4	0
832	899	07.07	昌泰	2	05.22	暴風1A	未時。飄風吹。傾大極殿高御座於巽。又中務省正応同傾。忽京中人屋不破稀焉。		後1	5	0
833	899	07.30	昌泰	2	06.15	大雨1A・暴風1A	大風雨。折木発屋。	降水量は多くなかったと解釈でき	後1	5	0
834	899	08.14	昌泰	2	07.01	砂じん1A	巳刻。黄霧四塞。赤日無光。	黄砂?	後1	5	0
835	899	10.20	昌泰	2	09.08	暴風1A	大風。		後1	5	0
836	899	12.30	昌泰	2	11.20	雷1A	酉刻。雷鳴。書勅符之間。黒風忽起。有吹散也。		後1	5	0
837	901	07.22	延喜	1	06.29	雷1A	雷雨。立陣。		後1	7	0
838	901	08.23	延喜	1	07.02	雷1A	雷鳴大動。		後1	7	0
839	902	06.26	延喜	2	05.13	干ばつ2A	祈雨奉幣。		後1	7	0
840	902	06.30	延喜	2	05.17	干ばつ2A	祈雨山陵使。		後1	7	0
841	903	02.27	延喜	3	01.22		内宴仁寿殿。以残雪宮梅為題。		後1	8	0
842	903	08.07	延喜	3	07.07	干ばつ2A	祈雨十社。		後1	8	0
843	903	08.08	延喜	3	07.08	干ばつ2A	御読経。依祈雨也。		後1	8	0
844	903	08.24	延喜	3	07.24	長雨2A	奉祈二社。依止雨也。		後1	8	0
845	903	10.02	延喜	3	09.04	長雨2A	依止雨。奉幣諸社。		後1	8	0
846	904	05.29	延喜	4	04.07	雷1A	雷鳴。陣。		後1	9	0
847	904	08.28	延喜	4	07.10	干ばつ1A	奉遣石清水使。依旱也。		後1	9	0
848	904	10.09	延喜	4	08.23	長雨2A	止雨奉幣。		後1	9	0
849	905	01.06	延喜	4	11.23	大雪1A	賀茂臨時祭試案。但依雨雪著深履。		後1	9	0
850	905	08.26	延喜	5	07.18	干ばつ1A	奉幣伊勢大神宮。依旱也。		後1	10	0
851	906	02.23	延喜	6	01.22	大雪1A	此日。大雪。		後1	10	0
852	906	05.01-05.30	延喜	6	04	雷1A・ひょう1A	某日。雷雨。午刻雷雨暴起。雹降。其大如梅未実。		後1	10	0
853	906	08.10	延喜	6	07.13	暴風1A	隱岐国言。徒坤方猛風高吹。(後略)		後1	11	1
854	908	02.10	延喜	8	01.01		寅刻拝鳳皇。依雨雪。止朝賀。(後略)		後1	12	0
855	908	05.08-08.04	延喜	8	夏	干ばつ1C	(6月)是夏。旱。		後1	13	0
856	908	08.07	延喜	8	07.03	干ばつ2A	祈雨御読経。		後1	13	0

日本紀略

857	908	08.13	延喜	8	07.09	干ばつ2A	於諸国定額寺。令轉經依祈雨也。又令左右職埋路辺骨。		後1	13	0
858	908	08.16	延喜	8	07.12	干ばつ2A	祈雨奉幣諸社。		後1	13	0
859	908	08.23	延喜	8	07.19	干ばつ2A	於神泉院修祈雨法。		後1	13	0
860	908	08.30	延喜	8	07.26	干ばつ2A	祈雨。苑山陵使。		後1	13	0
861	909	01.30	延喜	9	01.01		依雨湿停朝賀。		後1	13	0
862	909	06.14	延喜	9	05.19	洪水1A	洪水。		後1	13	0
863	909	07.04	延喜	9	06.09	長雨1A	霖雨御卜。	長雨2Aに該当する可能性もある。	後1	13	0
864	909	07.07	延喜	9	06.12	長雨2A	止雨奉幣諸社。		後1	13	0
865	909	09.17	延喜	9	08.25	長雨2A	止雨奉幣。		後1	14	0
866	909	09.22-10.21	延喜	9	閏08		此月也。東西両京桃桜李柚栴蓐皆花或実。		後1	14	0
867	909	10.30	延喜	9	09.09		依雨停重陽宴。		後1	14	0
868	910	02.18	延喜	10	01.01		今日。又雨湿也。		後1	14	0
869	910	06.07-06.08	延喜	10	04.22-04.23	大雨1A・暴風1A	風雨猛烈。多損京中舍宅。及廿三日不休。	降水量は多くなかった可能性がある。	後1	14	0
870	910	06.28	延喜	10	05.14	雷1A	雷鳴雨降。於亭子院東霹靂童一人也。		後1	14	0
871	910	07.15-08.12	延喜	10	06	干ばつ1B	今月。炎旱。		後1	14	0
872	910	08.22	延喜	10	07.10	干ばつ1A	日来炎旱。詔諸国神社山川奉幣投牲。(後略)		後1	15	0
873	910	08.28	延喜	10	07.16	干ばつ2A	先是。三箇日。雨快降。人庶以為。雩於龍穴也。		後1	15	0
874	910	08.30	延喜	10	07.18	大雨1A・暴風1A	風雨。苑屋拔樹。梁柱摧折。	降水量は多くなかった可能性がある。	後1	15	0
875	910	09.12	延喜	10	08.01	暴風1A	大風。		後1	15	0
876	910	10.19	延喜	10	09.09	干ばつ3	依諸国旱損。止重陽宴。		後1	15	0
877	911	07.04	延喜	11	06.01		日食。但雨降。		後1	15	0
878	911	07.04-08.01	延喜	11	06	長雨1B・洪水1B	今月。霖雨不休。京都洪水汎濫。中納言朝臣作苦雨賦。		後1	15	0
879	912	01.27	延喜	12	01.01		依雨湿無朝賀。		後1	16	0
880	912	05.04	延喜	12	04.10	干ばつ2A	祈雨奉幣使。		後1	16	0
881	912	05.25	延喜	12	05.01		天晴。日有食之。		後1	16	0
882	912	07.23	延喜	12	06.02	干ばつ2A	祈雨奉幣諸社。		後1	16	0
883	912	12.17	延喜	12	11.01		天晴。日食。廢務。		後1	16	0
884	913	02.14	延喜	13	01.01		時々雨下。(後略)		後1	17	0
885	913	02.25	延喜	13	01.12		所司依例進卯杖。依雨不御南殿。付内侍所。		後1	17	0
886	913	06.12	延喜	13	05.01		日食。但雨降。		後1	17	0
887	913	09.08	延喜	13	08.01	暴風1A	(8月1日)徒申刻大風吹。折樹木破舍屋。(8月5日)風損人宅給物。依仁壽二年閏八月十二日例也。		後1	17	0
888	913	12.12	延喜	13	11.07	強風1A	大風猛烈。左馬寮顛倒。人死。		後1	17	0
889	914	01.18	延喜	13	12.15		小雪下。		後1	17	0
890	914	02.02	延喜	13	12.30		微雨時々。		後1	18	0
891	914	07.15	延喜	14	06.15	洪水1A	洪水。		後1	18	0
892	915	01.23	延喜	15	01.01		(前略)依雨湿停朝賀已刻。		後1	18	0
893	915	06.26	延喜	15	05.06		雨降。		後1	19	0
894	915	08.08	延喜	15	06.20	干ばつ2A	於大極殿修臨時御読經。為攘疫瘡祈雨也。		後1	19	0
895	915	08.12	延喜	15	06.24	干ばつ2A	於神泉苑限五箇日請阿闍梨觀覽等僧廿口。修請雨。又陰陽寮各祀五龍。同為祈甘雨也。		後1	19	0
896	915	08.23	延喜	15	07.05		晴。(後略)		後1	19	0
897	915	10.17	延喜	15	09.01		近者万木華發。諸人煩赤痢。		後1	19	0
898	915	12.18	延喜	15	11.05		雪下。深五六寸。有勅召諸衛見參。賜祿云々。		後1	19	0
899	916	04.10	延喜	16	03.01		雨降。日食。廢務。		後1	19	0
900	916	06.11	延喜	16	05.03	ひょう1A	未刻。雨雹。其大方三分許。		後1	20	0
901	916	06.30	延喜	16	05.22	強風1A・ひょう1A	風烈。雨雹。		後1	20	0
902	916	08.05	延喜	16	06.29	雷1A	天陰。雷鳴。地震。		後1	20	0
903	916	08.12	延喜	16	07.06	干ばつ2A	天陰。奉幣諸社。依祈雨也。十六社之外十一社。		後1	20	0
904	917	07.27-02.18	延喜	17	07-12	干ばつ1C	七月以後。炎月連月。民庶飢渴。群盜滿于巷。		後1	21	0
905	917	07.27-09.23	延喜	17	07-08	干ばつ1B	七月以後。炎月連月。民庶飢渴。群盜滿于巷。		後1	21	0
906	918	02.06	延喜	17	12.17	低温1A	陰陽寮不申政時。依漏刻水凍結也。		後1	21	0
907	917	09.24-02.08	延喜	17	09-12.19	干ばつ1C	(延喜17年12月19日/918年2月8日)徒去九月。雨沢不降。井泉枯竭。其最甚者。二条以北也。(後略)		後1	21	0
908	917	09.24-10.23	延喜	17	09	干ばつ1B	(延喜17年12月19日/918年2月8日)徒去九月。雨沢不降。井泉枯竭。其最甚者。二条以北也。(後略)		後1	21	0
909	918	02.15	延喜	17	12.26		依井泉枯盡。京畿告火急之間。召祭主神祇大副大臣安則。給祭文。於神祇官令祈申伊勢以下諸社。	干ばつ(少雨)(908番)の結果である可能性もある。	後1	22	0
910	918	02.16	延喜	17	12.27		雨降。衆人仰神祇感聖德。		後1	22	0
911	918	09.27	延喜	18	08.15	暴風1A	徒遲明風雨猛烈。樹木摧折。屋舍破損。		後1	22	0
912	918	09.29	延喜	18	08.17	洪水1A	曉。淀河水所海岸流。人者共屋流死。獸者溺死。其日。山崎端南端入水二間許。	高潮による洪水の可能性もある。	後1	22	0

日本紀略

913	919	08.03	延喜	19	06.30		請百口於大極殿。轉読仁王經。	雨乞いの可能性が高いが断定できない。	後1	23	0
914	919	08.09	延喜	19	07.06	干ばつ1A	(旧暦7月7日/グレゴリヲ暦8月10日)雨降。諸人喜感。日來不雨之故也。		後1	23	0
915	920	08.22-09.19	延喜	20	07	干ばつ1B	旱魃。		後1	23	0
916	921	07.13	延喜	21	06.01	大雨1A	日食。但大雨也。廢務。		後1	24	0
917	921	09.08	延喜	21	07.29		依雨無追相撲。		後1	24	0
918	922	08.27	延喜	22	07.27	干ばつ1A	於紫震殿相撲召合。今年依早不奏音楽。		後1	24	0
919	923	06.03	延長	1	閏04.11	洪水3	乙酉。詔改延喜廿三年。為延長元年。依水潦疾疫也。有赦令。	すでに発生した「洪水」への対策と解釈した。	後1	25	0
920	924	06.16	延長	2	05.07	洪水1A	洪水。		後1	26	0
921	925	02.01	延長	3	01.01		雪下。無朝賀。		後1	26	0
922	925	06.23	延長	3	05.25	干ばつ2A	召祭主大中臣安則。令祈甘雨。		後1	26	0
923	925	06.28-07.27	延長	3	06	干ばつ1B	今月。炎旱。		後1	26	0
924	925	08.16	延長	3	07.19		以神泉苑水。澁京南田。		後1	26	0
925	925	08.18	延長	3	07.21	干ばつ2A	於十五大寺併有供諸寺比叡山祈甘雨。		後1	26	0
926	925	08.24	延長	3	07.27	干ばつ2A	於東大寺大仏前祈甘雨。仍停相撲召合。		後1	27	0
927	926	09.03	延長	4	07.19	暴風1A	大風。		後1	27	0
928	926	09.03	延長	4	07.19		此日。大和国長谷寺山崩。至于椿市。人烟悉流。		後1	27	0
929	927	12.08	延長	5	10.26	高温1A	風和日暖。(後略)		後1	28	0
930	929	09.07	延長	7	07.26	洪水3・暴風3	依大風洪水停止召合事。	年中行事に関連している可能性があり、記載とイベントの間のタイムラグが大きいと判断し、洪水3・暴風3とした。	後1	28	0
931	929	09.20	延長	7	08.10	洪水3	詔。依水害被損害者。量加賑給。其尤其者。勿輸今年調徭。宜令公卿等各上意見。		後1	28	0
932	929	09.25	延長	7	08.15	大雨1A・洪水1A	終朝暴雨。夜中洪水汎溢。東西京七条以下車馬不通。皇城以南田畝如海。穀種流漂。溺死者多。		後1	28	0
933	930	06.05-07.03	延長	8	05	干ばつ1B	今月。雨不降。		後1	29	0
934	930	07.04-08.01	延長	8	06	干ばつ1B	六月。不雨降。		後1	29	0
935	930	07.29	延長	8	06.26	干ばつ2A・雷1A	廿六日戊午。諸卿侍殿上。各議請雨之事。午三刻。徒愛宕山上黒雲起。急有陰沢。俄而雷声大鳴。(後略)		後1	29	0
936	931	02.01	承平	1	01.06	強風1A	大風終不止。		後2	31	0
937	931	02.23	承平	1	01.28	雷1A	乾方雷鳴。		後2	31	0
938	931	03.09	承平	1	02.13	雷1A	午時雷大鳴。		後2	31	0
939	931	06.16	承平	1	05.23	長雨2A・低温1A	降雨。冷祈止雨之由。	「冷祈止雨之由。」の原因として、「降雨」とあるのみで霖雨等の記載がないため、長雨2Aとした。	後2	32	0
940	931	06.26	承平	1	閏05.03	大雨1A	大雨。地震。		後2	32	0
941	931	12.17	承平	1	11.01		晴。日食諸司廢務。		後2	32	0
942	932	06.12	承平	2	05.01		雨下。日食。廢務。		後2	33	0
943	934	03.08	承平	4	閏01.15	雷1A	陸奥国々分寺七重塔為雷火被焼了。		後2	34	1
944	934	12.03	承平	4	10.19	雷1A	地震雷鳴。東大寺西塔併廊為神火被焼。大和国々分寺也。		後2	34	0
945	935	06.12	承平	5	05.04	干ばつ2A	請僧百口於大極殿限三箇日。令誦大般若經。為祈甘雨也。		後2	35	0
946	936	02.01	承平	6	01.01		止朝賀。依雨湿也。		後2	35	0
947	937	02.21	承平	7	01.04		雨降。		後2	36	0
948	937	04.19	承平	7	03.01	ひょう1A・低温1A	雪雹雨下。	「雪雹」から、低温とも解釈できる。	後2	36	0
949	937	08.29	承平	7	07.16		晴。亥一刻月食。至丑三刻。		後2	36	0
950	938	07.01	天慶	1	05.26	大雨1A・洪水1A	大雨。河水溢。		後2	37	0
951	938	07.07	天慶	1	06.03		雨降。		後2	37	0
952	938	07.24	天慶	1	06.20	洪水1A	地震。鴨河水溢入京師。多漂人屋。		後2	37	0
953	938	08.30	天慶	1	07.27	干ばつ2A	奉幣走馬十疋等於諸社。祈雨。		後2	37	0
954	938	01.04	天慶	1	12.06	大雪1A	雪降一許尺。故老云。去寛平四年。京中雪降三尺。其後未如此。		後2	37	0
955	939	05.04	天慶	2	04.08	雷1A	雷雨。陣立。		後2	38	0
956	939	05.10	天慶	2	04.14	大雨1A	賀茂祭。終日。雨下。秉燭。齊王參社頭。供奉諸司不得渡河水。	「不得渡河水」から大雨が降ったと推測される。	後2	38	0

日本紀略

957	940	12.07	天慶	3	11.01		日食。天陰不見。廢務。		後2	41	0
958	941	01.12	天慶	3	12.07	大雪1A	雪降三尺。		後2	41	0
959	942	09.28	天慶	5	08.11	大雨1A・ 暴風1A	風雨。大瓮屋舎。摧木及数處。仍止定考。	降水量は多くな かった可能性がある。	後2	43	0
960	943	03.20	天慶	6	02.07	強風1A・ 雷1A	天気晦冥。烈風雷雨不止。仍有陣立事。		後2	43	0
961	943	06.27	天慶	6	05.17	干ばつ2A	請百口於大極殿読経。為甘雨也。		後2	43	0
962	943	08.17	天慶	6	07.09	干ばつ2A	奉幣十一社。祈雨也。		後2	43	0
963	944	02.10	天慶	7	01.09	大雨1A・ 強風1A	夜半風雨。		後2	44	0
964	944	02.24	天慶	7	01.23		夜雪降。		後2	44	0
965	944	07.28	天慶	7	07.01	雷1A	午刻。雷鳴。陣立。		後2	44	0
966	944	07.31	天慶	7	07.04	雷1A	夜。雷電。西京小宅失火。		後2	44	0
967	944	09.26	天慶	7	09.02	大雨1A・ 暴風1A	夜。大風暴雨。諸司官舎。京中廬舎。顛倒不可勝計。		後2	44	0
968	944	11.04	天慶	7	09.11	大雨1A・ 洪水1A	甚雨。河水溢。		後2	44	0
969	944	11.08	天慶	7	09.15		夜雨。月食皆既。		後2	44	0
970	945	06.18- 07.16	天慶	8	05	長雨1B	今月。霖雨。及晦適晴。		後2	45	0
971	945	09.14	天慶	8	08.01		日食十五分之九。雨降不見。		後2	45	0
972	946	04.04	天慶	9	02.25	強風1A	大風。		後2	45	0
973	947	02.12	天曆	1	01.14		此日。空中有声。如雷。		後3	47	0
974	947	02.20	天曆	1	01.22	大雨1A・ 雷1A	夜半。雷発一声。大雨降数刻。		後3	47	0
975	947	05.13	天曆	1	04.15		天皇幸朱雀院。依太后御惱也。皇輦出宮之間。雨脚不 休。入夜還宮。		後3	49	0
976	947	05.16	天曆	1	04.18	大雨1A	賀茂祭也。中納言元方卿著齋院。行事。自未刻。天 陰暴雨。因之齋院司大驚。(後略)		後3	49	0
977	947	05.19	天曆	1	04.21	霜1A・低 温1A	早朝霜降。氣冷寒。宛如嚴冬。		後3	50	0
978	947	06.30	天曆	1	06.05	大雨1A	除目。依大雨諸脚下著議所。		後3	50	0
979	947	07.12	天曆	1	06.17	長雨1A	為止霖雨。奉遣臨時幣帛於諸社。		後3	50	0
980	947	07.17	天曆	1	06.22	長雨1A・ 寡照1A	是則日来霖雨不霽。損害多煩故也。		後3	51	0
981	947	07.26	天曆	1	07.03	洪水1A・ 暴風1A	(7月4日)去夜。大風猛烈。京中廬舎。或顛倒。或破 壞。(中略)又河水漲溢。		後3	51	0
982	947	08.23	天曆	1	07.29	洪水3・暴 風3	天皇御南殿。相撲召合。依風水損(後略)	7月26日のイベント に起因?	後3	52	0
983	947	09.11	天曆	1	閏07.19	暴風1A	自日中大風吹。		後3	52	0
984	948	02.18	天曆	2	01.01		(前略)又依雨止小朝拜。(後略)		後3	55	0
985	948	03.12	天曆	2	01.24	雷1A	雷電震激。		後3	55	0
986	948	05.11	天曆	2	03.25	雷1A	未刻。雷鳴。		後3	56	0
987	948	06.17	天曆	2	05.03	干ばつ2A	幸八省院。奉幣諸社。祈雨也。		後3	57	0
988	948	06.19	天曆	2	05.05	干ばつ2A	是日。定仁王會僧名。祈雨雜事。兼杖事等。		後3	57	0
989	948	06.22	天曆	2	05.08	干ばつ2A	(前略)又遣殿上人於丹生貴布祢。祈甘雨。被奉競走 馬等。		後3	57	0
990	948	06.25	天曆	2	05.11	干ばつ1A	免輕犯者廿六人。是依旱也。(後略)		後3	57	0
991	948	06.27	天曆	2	05.13	干ばつ2A	此日。朱雀院差法師奉遣八幡賀茂等。自今日限五箇 日。令祈甘雨年穀。		後3	57	0
992	948	06.28	天曆	2	05.14	干ばつ2A	定臨時御読経僧名。又可修請雨經法之由。仰寬空律 師。		後3	57	0
993	948	06.29	天曆	2	05.15	干ばつ1A	夕澍雨。日者炎旱。今有此潤。仁王經感也。		後3	57	0
994	948	06.30	天曆	2	05.16	干ばつ2A	於大極殿請百口僧。讀大般若經。又遣律師寬空等於 真言院。修孔雀經法。依祈甘雨也。		後3	57	0
995	948	07.15	天曆	2	06.02	干ばつ2A	於七社自今日限三箇日。令轉読仁王經。祈雨也。		後3	57	0
996	948	07.16	天曆	2	06.03	干ばつ2A	定十一社併龍穴神等遣僧綱以下。又七大寺僧集東 大寺大仏殿。可祈雨之由。		後3	57	0
997	948	07.18	天曆	2	06.05	干ばつ2A	自今日限三箇日。轉読仁王經。祈甘雨也。		後3	57	0
998	948	07.19	天曆	2	06.06	干ばつ 1A・雷1A	(旧曆6月6日/グレゴリオ曆7月19日)雷鳴。今月上旬。 炎旱。		後3	57	0
999	948	07.20	天曆	2	06.07	雷1A	雷雨。		後3	57	0
1000	948	07.25	天曆	2	06.12	干ばつ 2A・雷1A	奉幣帛於諸社。十六社。祈甘雨。發遣之後。雷鳴雨 降。無幾止。		後3	58	0
1001	948	07.27	天曆	2	06.14	干ばつ2A	令律師寬空於神泉苑修請雨經法。		後3	58	0
1002	948	08.18	天曆	2	07.06	大雨1A・ 雷1A	暴雨雷動。		後3	58	0
1003	948	08.27	天曆	2	07.15	大雨1A・ 暴風1A	大風大雨。		後3	58	0
1004	948	09.08	天曆	2	07.27	大雨1A・ 暴風1A	夜暴風忽雨。京中舎屋多顛倒。圧死者有数。		後3	58	0
1005	948	09.23	天曆	2	08.13	大雨1A・ 洪水1A	終日雨脚不止。河水汎溢。		後3	58	0

日本紀略

1006	948	09.25	天曆	2	08.15	長雨2A	被奉臨時御使於十六社。是為祈秋霖也。	予防的措置と考えられる。	後3	59	0
1007	948	10.23	天曆	2	09.14	長雨1A	発遣石清水以下五社奉幣使。為祈天變恠異霖雨。	予防的措置の可能性もある。	後3	59	0
1008	948	10.28	天曆	2	09.19	雷1A	雷鳴雨降。於亭子院東霹靂童一人也。		後3	59	0
1009	948	10.29	天曆	2	09.20	長雨1A	依霖雨行脚下。不被憚穢中。		後3	59	0
1010	948	10.31	天曆	2	09.22	長雨2A・雷2A	奉遣臨時御幣使於石清水宮。祈謝放生会止由。併非時雷鳴霖雨等。		後3	59	0
1011	948	12.08	天曆	2	10.30		夜。雪始降。		後3	60	0
1012	949	02.11	天曆	3	01.06		依雨無敘位議。		後3	61	0
1013	949	03.01	天曆	3	01.24	大雪1A	夜雪。七寸於平地。		後3	61	0
1014	949	03.16	天曆	3	02.09	雷1A	雷俄發一声。申刻。地震。		後3	61	0
1015	949	07.26	天曆	3	06.23	干ばつ1A	此日。被免東西獄未發覺犯人廿人。是依早魃祈也。又可祈申炎旱於大神宮之由召仰祭主賴基。		後3	64	0
1016	949	08.01	天曆	3	06.29	干ばつ3	賑給東東京。依旱災也。		後3	64	0
1017	949	08.05	天曆	3	07.04	干ばつ1A	広瀬龍田祭依穢延引。日来炎旱尤甚。田園焦枯。紀伊郡百姓等愁申神泉苑水依例可被下給之由。自明日可下給之由。被奏定。		後3	64	0
1018	949	08.08	天曆	3	07.07	大雨1A・洪水1A	神泉苑勅使少納言源泉令奏三箇日池水出下之由。午後陰雲層蒸。雨脚下。謂其形勢。宛如懸河。道路湛溢。往還不通。一天下人莫不感賞。(後略)		後3	64	0
1019	949	08.23	天曆	3	07.22		(前略)天皇依雨不幸神嘉殿。		後3	64	0
1020	949	09.01	天曆	3	08.01	洪水1A	東西河水汎溢。		後3	65	0
1021	949	09.02	天曆	3	08.02	長雨2A	今日。被定可作版位日時。併止兩奉幣事。		後3	65	0
1022	949	12.08	天曆	3	11.11	雷1A	去夜。大安寺西塔為雷火燒亡。		後3	66	0
1023	957	04.23	天德	1	03.16	干ばつ2A	於八省院季御詵始。恒例於南殿行之。依相加祈雨事。於此殿被行之。是日。遣勅使東大寺。自来廿二日。請七大寺僧。為修祈雨詵經也。左近少將助信勅使。		後4	69	0
1024	957	05.02	天德	1	03.25	干ばつ2A	依祈雨發遣十六社奉幣使。		後4	69	0
1025	957	05.03	天德	1	03.26		雨降。依御祈之感也。		後4	69	0
1026	957	05.16	天德	1	04.09	干ばつ3	以大和國不動穀千二百九十斛。(中略)依去今年早損飢饉。		後4	70	0
1027	957	07.29	天德	1	06.25	大雨1A・暴風1A	暴風大雨。		後4	70	0
1028	957	09.02	天德	1	08.01	干ばつ2A	依祈雨丹貴二社。加奉黑毛御馬。		後4	71	0
1029	958	01.17	天德	1	12.20	大雨1A・強風1A	今夜。疾風暴雨。発屋折木。古今未聞之事也。		後4	71	0
1030	958	04.29	天德	2	04.03	ひょう1A・低温1A	寒氣如冬。氷雪間降。世以為恠。	「氷雪」はひょうを含むと解釈した。	後4	72	0
1031	958	06.20	天德	2	05.26	雷1A	雷電雨降。		後4	73	0
1032	958	06.29	天德	2	06.05	長雨1A	依霖雨有御卜。		後4	73	0
1033	958	10.27	天德	2	09.08		京都樹木有花。		後4	73	0
1034	958	12.18	天德	2	11.01		天陰。時々雨。		後4	74	0
1035	959	04.07	天德	3	02.22		雨降。		後4	74	0
1036	959	05.12	天德	3	03.27	雷1A	丑刻。雷雨。		後4	75	0
1037	959	06.03	天德	3	04.19	雷1A	今日。酉刻以後。大雷雨。		後4	75	0
1038	959	06.17	天德	3	05.04	大雨1A・強風1A・雷1A	(前略)風雷雨鳴降雨之時。其例不見。依神祇伯大中臣安則朝臣之説。被行之。然間。天晴。		後4	75	0
1039	959	06.29	天德	3	05.16	長雨1A・洪水1A・寡照1A	近日。霖雨不晴。洪水入京都。		後4	75	0
1040	959	07.20	天德	3	06.07	長雨1A	御卜。依霖雨也。		後4	75	0
1041	959	08.16	天德	3	07.05	干ばつ2A・雷1A	祈雨丹貴二社。未刻。雷雨。神感也。		後4	76	0
1042	959	09.18	天德	3	08.08	暴風1A	大風。		後4	76	0
1043	959	11.03	天德	3	09.25		發遣神賞幣使。依雨無行幸。		後4	76	0
1044	959	12.08	天德	3	11.01		日食。但雨降不見。靡無。		後4	76	0
1045	960	03.22	天德	4	02.17	雷1A	列見。雷電霹靂於大膳醫院。		後4	77	0
1046	960	06.06	天德	4	05.05	干ばつ2A	於神祇官祈甘雨併除疾病事又付在地國司。奉幣丹貴等社祈雨。		後4	78	0
1047	960	08.19	天德	4	07.19	干ばつ2A	為祈雨有龍穴詵經。		後4	79	0
1048	960	08.23	天德	4	07.23		山城國申請神泉池水。自今日三箇日給之。		後4	79	0
1049	960	08.25	天德	4	07.25	干ばつ2A	自今日三箇日之間。陰陽陵於神泉苑有禱祭。		後4	79	0
1050	960	08.26	天德	4	07.26	干ばつ1A	依炎旱。發遣山陵使。山階。柏原。深草。後田邑。後山階等也。		後4	79	0
1051	961	08.01	応和	1	06.12	干ばつ2A	為祈雨。發遣諸社奉幣使。伊勢幣被付昨日使。今日所遣。石清水以下十五社也。		後4	83	0
1052	961	08.04	応和	1	06.15	干ばつ2A	被定來十九日於東大寺詵經事。請七大寺僧百八十口。依祈雨也。		後4	83	0
1053	961	08.14	応和	1	06.25	干ばつ2A	大極殿詵經。依祈雨也。		後4	83	0
1054	961	08.17	応和	1	06.28	干ばつ2A	今日。祈雨詵經竟也。依無感応。被延二箇日畢。又陰陽寮奉仕五龍祭。		後4	83	0
1055	961	08.18	応和	1	06.29		雨降。御詵經之感応也。		後4	83	0

日本紀略

1056	961	08.20	応和	1	07.02	暴風1A	終日雨降。去夜京師大風。		後4	83	0
1057	961	09.05	応和	1	07.18	長雨2A	奉幣丹貴二社。依祈(止)*雨也。	原典は「雨也」という記載であるが、黒板・国史大系編修会(1929)の注釈により「止」を挿入。	後4	83	0
1058	961	09.13	応和	1	07.26	長雨2A	奉幣十六社。依祈止雨也。		後4	83	0
1059	961	09.14	応和	1	07.27		相撲召合。但雨儀也。		後4	83	0
1060	961	09.15	応和	1	07.28		雨降。相撲召合也。		後4	83	0
1061	961	09.18	応和	1	08.01		雨降。追相撲也。		後4	83	0
1062	961	10.11	応和	1	08.24	長雨1A	発遣山階陵使。依霖雨也。		後4	83	0
1063	961	12.15	応和	1	10.30	霜1A	今日。御製。松経霜後貞。		後4	84	0
1064	961	12.24	応和	1	11.09		今日。御製。池辺初雪。		後4	84	0
1065	962	06.10-	応和	2	05.01-	長雨1C	今日以後。霖雨。		後4	86	0
1066	962	06.10	応和	2	05.01	長雨1A	今日以後。霖雨。		後4	86	0
1067	962	07.08	応和	2	05.29	洪水1A	洪水泛滥。京路不通。鴨河堤壊破。		後4	86	0
1068	962	07.20	応和	2	06.11	長雨1A	奉幣。伊勢。石清水。賀茂。松尾。平野。稻荷。春日。大原野。大神。大和。石上。広瀬。龍田。住吉。丹生。貴布祢等。祈止霖雨。		後4	86	0
1069	962	07.26	応和	2	06.17	長雨1A	発遣田邑山陵使。依霖雨崇也。		後4	86	0
1070	962	07.28	応和	2	06.19	雷1A	雷烈鳴一声。侍臣等申。霹靂右兵衛府辺。(後略)		後4	86	0
1071	962	10.06	応和	2	08.30	大雨1A・ 暴風1A	今日。大風雨。大和。近江等国官舎。及神社仏寺損壊。東大寺扉三間。力士大門等。興福寺維摩堂一宇。幢一基。新薬師寺七仏薬師堂一宇并数字雑舎。西大寺食堂一宇。調寺講堂一宇。及自餘諸寺并人宅等。多以顛倒。京中無殊愁。	暴風による被害は具体的であるが、大雨による被害は記載されず、降水量は少なかつた可能性がある。	後4	87	0
1072	963	02.02	応和	3	01.01		無朝賀。依雨也。		後4	89	0
1073	963	05.01-	応和	3	04-	干ばつ1C	四月以後。炎旱。		後4	89	0
1074	963	05.01- 05.30	応和	3	04	干ばつ1B	四月以後。炎旱。		後4	89	0
1075	963	07.20	応和	3	06.22	干ばつ2A	自今日三箇日。於大極殿被轉読経。依祈雨也。又於神泉苑被行北斗御修法。		後4	90	0
1076	963	07.23	応和	3	06.25		自今日三箇日。下神泉苑池水。瀧京南紀伊郡。依山城国申請也。(後略)	干ばつへの対策か。	後4	90	0
1077	963	08.02	応和	3	07.05	干ばつ1A	軒廊御下。依炎旱也。		後4	90	0
1078	963	08.06	応和	3	07.09	干ばつ2A	於神泉苑始請雨経。律師救世勤之。番僧廿口。		後4	90	0
1079	963	08.12	応和	3	07.15	干ばつ2A	於八省院奉遣伊勢以下廿八社幣帛使。依祈雨也。(後略)		後4	90	0
1080	964	06.24	康保	1	05.07	大雨1A・ 洪水1A	大雨洪水。(中略)鴨川汎溢不能渡輿。往還不通。		後4	92	0
1081	965	07.07	康保	2	06.01	雷1A	戌時雷電。		後4	95	0
1082	965	09.30	康保	2	08.28	暴風1A	今日大風。諸司併京中舎屋破損。		後4	96	0
1083	965	10.02	康保	2	08.30	洪水1A・ 暴風1A	為大風洪水溢。		後4	96	0
1084	966	07.21	康保	3	06.26	大雨1A・ 強風1A・ 雷1A・ひょう1A	丑時。暴風大雨雷電。		後4	98	0
1085	966	09.17	康保	3	08.25	長雨1A	奉幣丹貴二社。依霖雨也。		後4	99	0
1086	966	10.10	康保	3	閏08.19	洪水3	遣使巡檢洪水。(後略)		後4	99	0
1087	966	10.12	康保	3	閏08.21	長雨2A	為止雨奉幣十六社。		後4	99	0
1088	966	10.30	康保	3	09.09	洪水3	賑給京畿内人。依洪水也。尤甚者勿輸当調條。		後4	99	0
1089	967	02.20	康保	4	01.03	雷1A	雷鳴。		後4	100	0
1090	968	03.10	安和	1	02.04	強風1A・ 雷1A	今夜。大風雷。		後5	106	0
1091	968	06.23	安和	1	05.20	大雨1A・ 洪水1A	雨降。洪水。		後5	107	0
1092	968	06.29	安和	1	05.26	洪水1A	河水盈溢。往反不通。		後5	107	0
1093	968	08.04	安和	1	07.03	長雨1A	依霖雨有軒廊御下。		後5	107	0
1094	969	05.08	安和	2	04.14		雨下。賀茂祭也。		後5	111	0
1095	969	07.26	安和	2	06.05	干ばつ2A	丹貴祈雨。		後5	112	0
1096	969	08.09	安和	2	06.19	干ばつ1A	御下。依旱魃也。		後5	112	0
1097	969	08.14	安和	2	06.24	干ばつ2A	以權少僧都寛静於神泉苑令行請雨法。(後略)		後5	112	0
1098	969	08.15	安和	2	06.25	干ばつ2A	雨下。於大極殿被修祈雨読経。		後5	112	0
1099	969	09.07	安和	2	07.18	干ばつ2A	依祈雨。奉幣十一社。木嶋。乙訓。水主。火雷。恩智。平岡。座摩。垂水。広田。長田。生田。		後5	112	0
1100	969	09.11	安和	2	07.22	大雨1A・ 暴風1A	去夜雨快降。今夜大風暴雨。発屋折木。		後5	112	0
1101	969	09.12	安和	2	07.23	暴風1A	風猶不止。厨家南門。内堅所斤。兵庫寮南門。典業寮南門。式部省録曹司。神祇官舎二宇。大炊大膳雑舎等。悉以顛倒。	1100番と同じ台風によるものと考えられる。	後5	112	0
1102	970	05.03	天禄	1	03.20		終日雨下。		後6	115	0
1103	971	02.20	天禄	2	01.17	大雨1A	終日大雨。		後6	118	0
1104	971	07.21	天禄	2	06.21	干ばつ2A	祈雨奉幣十六社。使々參議各申故障。賀茂使行事上卿中納言雅信卿勤之。(後略)		後6	118	0

日本紀略

1105	971	10.27	天祿	2	10.01		天陰。		後6	119	0
1106	972	01.28	天祿	3	01.05		雨降。(後略)		後6	120	0
1107	972	08.06	天祿	3	06.20	干ばつ2A	遠江阿蘭梨元果於神泉苑修請雨經法。限以九箇日。		後6	121	0
1108	972	08.14	天祿	3	06.28	大雨1A	神泉苑御修法結願之間。無風件院南門顛倒了。大雨降。有効驗。給度者。		後6	121	0
1109	973	04.17	天延	1	03.07	ひょう1A	亥時雹降。		後6	122	0
1110	973	06.25	天延	1	05.17	大雨1A・ 暴風1A	午時大風暴雨。宮中舍屋顛倒破損。		後6	123	0
1111	973	10.08	天延	1	09.05	長雨2A	奉遣十五社幣使。依止雨也。		後6	123	0
1112	974	08.01	天延	2	07.06	雷1A	雷震典藥寮。		後6	125	0
1113	975	05.23	天延	3	04.05	ひょう1A	未時雨降。色赤如火桶物。又如比礼物見。又雨水。		後6	127	0
1114	975	07.20	天延	3	06.04	長雨1A	天皇幸八省院。奉幣伊勢大神宮。請止霖雨。		後6	127	0
1115	975	09.12	天延	3	07.29	暴風1A	東国民烟為風多損。信濃御坂路壞。		後6	128	1
1116	975	10.23	天延	3	09.12		伊勢例幣。依雨止行幸。		後6	128	0
1117	976	03.20	貞元	1	02.12	大雨1A・ 強風1A	風雨殊甚。内蔵寮雜居一宇顛倒。男女二人压死。		後6	129	0
1118	976	07.05	貞元	1	06.01		雨降。		後6	130	0
1119	976	07.15	貞元	1	06.11	暴風1A	月次。神今食。依大風先行幸。		後6	131	0
1120	976	07.30	貞元	1	06.26	大雨1A・ 雷1A	未刻。暴雨雷震。		後6	131	0
1121	976	08.23	貞元	1	07.20	雷1A	雷雨。大地震。		後6	131	0
1122	976	08.29	貞元	1	07.26	雷1A	朝雨雪。如霜。未申刻。雷雨。	季節的に、「朝雨雪」という記載は信憑性に欠ける。	後6	131	0
1123	976	10.05	貞元	1	09.05	暴風1A	大風。		後6	132	0
1124	976	12.02	貞元	1	11.04	大雪1A	雪下。及尺。有諸陣之祿。諸陣之後。向閑院。有饗膳。		後6	132	0
1125	977	01.26	貞元	1	12.29	大雪1A	雪降一尺。		後6	132	0
1126	977	09.14	貞元	2	閏07.23	長雨2A	奉遣伊勢以下十六社幣帛使。依止雨也。内記源為憲草宣命。		後6	134	0
1127	978	02.17	天元	1	01.03	雷1A	日食。入夜雷雨。		後7	137	0
1128	978	06.02	天元	1	04.19	雷1A・ひょう1A	申刻。雷鳴雨水。		後7	137	0
1129	978	08.20	天元	1	07.09		奉幣十六社。依天変恠異太一厄霖旱等也。		後7	138	0
1130	978	09.04	天元	1	07.24	雷1A	雷震。陰陽博士出雲清明宅致破損。		後7	138	0
1131	979	05.01	天元	2	03.27		雨降。(後略)		後7	139	0
1132	979	05.11	天元	2	04.08	ひょう1A	大水降。		後7	139	0
1133	979	07.09	天元	2	06.08	大雨1A・ 洪水1A	今日。葬送前皇后。而大雨之間。東河汎溢。寅刻渡河。		後7	140	0
1134	980	04.04	天元	3	03.12	ひょう1A・ 低温1A	巳刻氷降。又北山有雪。近來京中河竹生実。世以為異。	「北山有雪」から低温が示唆される。	後7	141	0
1135	980	08.27	天元	3	07.09	大雨1A・ 暴風1A	午後大風暴雨。宮中樹木。諸門。羅城門等顛倒。東西京人宅多以破損。		後7	141	0
1136	980	09.02	天元	3	07.15	大雨1A・ 洪水1A	夜。大雨降。洪水溢。東西京中等如大河。舍屋流損甚多。		後7	141	0
1137	982	02.19	天元	5	01.18		依雨賭弓延引。		後7	144	0
1138	982	08.12	天元	5	07.16	干ばつ2A	祈雨奉幣丹貴二社。(後略)		後7	146	0
1139	982	08.14	天元	5	07.18	干ばつ2A	自今日七箇日。於神泉苑被修請雨經法。權律元杲勤仕之。伴僧廿口。		後7	146	0
1140	982	08.17	天元	5	07.22	大雨1A	大雨。天下霑之。		後7	146	0
1141	982	09.15	天元	5	08.20	暴風1A	依風談天門顛倒。		後7	146	0
1142	983	07.18	永観	1	06.01	雷1A	雷鳴。陣立。		後7	148	0
1143	983	07.29	永観	1	06.12	干ばつ2A	奉幣伊勢以下十六社幣帛使。依祈雨也。		後7	148	0
1144	983	08.02	永観	1	06.16	大雨1A・ 干ばつ1A	大雨。日者大旱。諸人喜之。		後7	148	0
1145	984	02.17	永観	2	01.08		御齊会始。依雨無音楽。		後7	149	0
1146	984	07.04	永観	2	05.28	干ばつ1A	奉幣伊勢以下十四社。是則時雨下乏。年穀不豊之上。今年当三合厄。仍有御祈也。		後7	150	0
1147	984	12.13	永観	2	11.13	長雨2A	奉遣伊勢以下十一社幣帛使。(中略)依祈晴。		後8	152	0
1148	985	03.18	寛和	1	02.19		皇太后為可供養観音院。可有行啓。而依雨延引。		後8	153	0
1149	985	05.20	寛和	1	04.23	大雨1A	終日大雨。賀茂祭。(後略)		後8	153	0
1150	985	07.23	寛和	1	06.28	干ばつ2A	於神泉苑修請雨經法。少僧都元果勤之。七箇日。		後8	154	0
1151	985	07.23	寛和	1	06.28	干ばつ1A	出羽国言上她吠事。近日炎旱尤盛。人以為愁。		後8	154	1
1152	985	07.29	寛和	1	07.04	雷1A	今夜。雷光不絶。		後8	154	0
1153	985	07.30	寛和	1	07.05		天陰雨降。祕法之驗。上下感之。		後8	154	0
1154	985	07.31	寛和	1	07.06	干ばつ2A	於大極殿読経。依祈雨也。		後8	154	0
1155	985	08.03	寛和	1	07.09		同竟。		後8	154	0
1156	985	08.04	寛和	1	07.10	干ばつ1A	依旱被原免左右獄輕罪嫌疑者卅三人。(後略)		後8	154	0
1157	985	08.07	寛和	1	07.13	干ばつ2A	祈雨十六社奉幣。可行幸八省院。(後略)		後8	154	0
1158	985	09.29	寛和	1	08.27	干ばつ2A	於建禮門奉遣祈雨伊勢以下諸社幣帛使。(後略)		後8	155	0
1159	986	07.15	寛和	2	06.01	長雨1A	召神祇官。陰陽寮。有御卜。依霖雨也。	『本朝世紀』:6月30日~7月4日,7月10日~7月18日に降水日が継続。	後8	157	0

日本紀略

1160	986	08.15	寛和	2	07.03	干ばつ1A	(和暦7月4日/グレゴリア暦8月16日)炎旱之後。雨降。請雨經之驗也。	『本朝世紀』:7月19日~8月11日に「天晴」が継続。8月12日以降は記録欠落。	後9	159	0
1161	986	12.18	寛和	2	11.10	雷1A	終夜。春日社鳴動。又有雷光。		後9	160	0
1162	987	02.23	永延	1	01.18		射遺依雨停止。		後9	161	0
1163	987	06.24	永延	1	05.21	干ばつ2A	奉幣丹貴二社。依祈雨也。(後略)		後9	161	0
1164	987	06.27	永延	1	05.24	干ばつ2A	自今日三箇日。於大極殿読経。依祈雨也。又於神泉苑修請雨經法。		後9	161	0
1165	987	07.02	永延	1	05.29	干ばつ1A	詔服御常膳減撤。又左右馬寮秣徒擁絶。又賑給赦令。依攘災旱也。		後9	161	0
1166	987	07.04	永延	1	06.01	干ばつ1A	依炎旱。放出神泉池水。		後9	162	0
1167	987	07.06	永延	1	06.03	大雨1A・雷1A	雷鳴大雨。		後9	162	0
1168	987	08.01	永延	1	06.29	干ばつ2A	撰政與左右大臣以下諸卿參賀茂社競馬。依賽祈雨之感応也。		後9	162	0
1169	987	08.30	永延	1	07.28	干ばつ1A	今日。詔公卿等。令上封事。依天變旱災也。		後9	162	0
1170	987	08.31	永延	1	07.29	大雨1A・暴風1A	巳刻。風雨大甚。拔樹斃屋。		後9	162	0
1171	989	09.21	永祚	1	08.13	洪水1A・暴風1A・高潮1A	酉戌刻。大風。宮城門舍多以顛倒。(中略)又鴨川堤所々流損。賀茂上下社御殿併雜居。(中略)又洪水高潮。畿内海浜河辺民烟。人畜田畝為。皆没。死亡損害。天下大災。古今無比。		後9	167	0
1172	989	09.24	永祚	1	08.17	長雨1A・暴風3	(前略)又近日霖雨。併去十三日大風損等。被載辭別。	暴風は9月21日のイベントと同じ。	後9	167	0
1173	989	10.14	永祚	1	09.07	暴風3	於八省院奉幣伊勢。石清水。賀茂。松尾。平野。稻荷等。依大風損也。		後9	167	0
1174	990	09.25	正暦	1	08.29	洪水1A・暴風1A	大風洪水。	『本朝世紀』では9月24日に「天陰降雨。自申尅吹大風終夜不止。」	後9	169	0
1175	990	10.13	正暦	1	09.17	長雨2A	依止雨。奉幣二社。	『本朝世紀』:10月1日以降の降水日数は4日。	後9	169	0
1176	991	06.15	正暦	2	04.25	干ばつ2A	今日祈雨。奉幣丹貴二社。於左衛門陣発使。		後9	171	0
1177	991	07.21	正暦	2	06.03	干ばつ1A	自今日二七日間。依旱魃。於神泉苑修請雨經法。阿闍梨元真。		後9	171	0
1178	991	07.31	正暦	2	06.13	干ばつ2A	奉幣丹貴二社。依祈雨也。(後略)		後9	171	0
1179	991	08.01	正暦	2	06.14	干ばつ2A	自今日三箇日。令陰陽博士安部吉平奉仕零祭。		後9	171	0
1180	991	08.09	正暦	2	06.22	干ばつ1A	仰。依旱魃。山城国紀伊郡。葛野郡愁申神泉水。乃令堀下之。		後9	171	0
1181	991	08.11	正暦	2	06.24	干ばつ2A	祈雨奉幣伊勢以下十九社。		後9	171	0
1182	991	08.14	正暦	2	06.27	干ばつ2A	依祈雨。発遣山陵使。於大極殿轉読大般若經。請僧百口。		後9	171	0
1183	991	08.17	正暦	2	06.30	干ばつ1A	同竟也。依不雨。被延二箇日。		後9	171	0
1184	991	08.18-09.15	正暦	2	07	干ばつ1B	今月。旱魃。		後9	171	0
1185	991	10.03	正暦	2	08.18	長雨1A	依祈年穀。奉幣廿社。被加祈可止霖雨之由。		後9	171	0
1186	992	07.04	正暦	3	05.26	洪水1A	東西京中洪水。		後9	173	0
1187	992	07.08	正暦	3	06.01	洪水1A・雷1A	雷鳴。東西京中洪水。		後9	173	0
1188	992	07.09	正暦	3	06.02	大雨1A・洪水1A・雷1A	雷鳴。大雨洪水。		後9	173	0
1189	993	08.15	正暦	4	07.20	雷1A	未刻。雷震美福門。有火。撲之拂之者給祿。		後9	176	0
1190	994	07.28	正暦	5	06.13	干ばつ2A	奉幣丹貴二社。依祈雨也。		後9	178	0
1191	994	09.03	正暦	5	07.20	暴風1A	大風。自寅及未。破損之屋甚多。		後9	178	0
1192	994	10.03	正暦	5	08.21	長雨1A	奉幣諸社依天變恠異霖雨疾病事等也。		後9	178	0
1193	995	05.25	長徳	1	04.18	雷1A・ひょう1A	(前略)齊王與過堀河之間。雷電霹靂。(中略)齊王還御之後。降雹。大如栗。		後10	182	0
1194	995	08.05	長徳	1	07.02	雷1A	雷鳴。陣立。		後10	183	0
1195	995	10.10	長徳	1	09.09	長雨2A	平座。見參。又止雨奉幣。		後10	183	0
1196	995	11.15	長徳	1	10.15	大雨1A・雷1A	巳時。雷電大雨。		後10	183	0
1197	995	12.24	長徳	1	11.25	雷1A	御下。依雷鳴也。		後10	184	0
1198	996	03.05	長徳	2	02.08	強風1A	大原野祭。大風吹社樹之間摧折。併匠牛馬。		後10	184	0
1199	996	07.20	長徳	2	06.27	ひょう1A	雹降。		後10	185	0
1200	996	08.19	長徳	2	07.28	干ばつ3	相撲召合。天下飢渴。止音楽。	「相撲」は年中行事という性格が強く、干ばつの時期を直接的に示すものではないと考えられる。	後10	185	0
1201	996	08.31	長徳	2	閏07.10	洪水1A	鴨川水流入。京中。人屋多以損亡。		後10	186	0
1202	996	09.11	長徳	2	閏07.21	暴風1A	大風。吹損諸司併大小舎屋。或以顛倒。		後10	186	0

日本紀略

1203	997	07.12	長徳	3	06.01	雷1A	雷鳴。		後10	188	0
1204	998	09.18	長徳	4	08.20	暴風1A	自卯至亥時。大風。宮中諸司多以顛倒。武徳殿御書所顛倒畢。		後10	190	0
1205	999	02.06]	長保	1	01.13	干ばつ3	詔。改長徳五年為長保元年。大赦天下。大辟以下咸赦除。常赦所不免者不赦。依天変災旱也。權少外記慶滋為政作詔書。		後10	191	0
1206	1000	02.21	長保	2	01.09	大雪1A	雪降。及二尺。		後10	193	0
1207	1000	05.19	長保	2	04.07	雷1A	雷火焼豊樂院招俊堂。		後10	194	0
1208	1000	06.14	長保	2	05.04	干ばつ2A	奉幣丹貴二社。依祈雨也。		後10	194	0
1209	1000	07.30	長保	2	06.21	大雨1A	大雨。天下喜之。	大雨の結果として「天下喜之。」という文脈から、干ばつに続くものである可能性がある。	後10	194	0
1210	1000	09.22	長保	2	08.16	洪水1A	洪水。		後10	195	0
1211	1001	03.31	長保	3	02.28	干ばつ1A	祈雨。奉幣二社依旱魃也。		後10	197	0
1212	1002	05.02	長保	4	03.11	雷1A・ひょう1A	雷電大風。水降雨沃。		後10	200	0
1213	1002	07.25	長保	4	06.07	干ばつ2A	発遣廿一社奉幣使。依天変祈雨事也。今日。参議不参。以殿上四位為賀茂。松尾。平野社使。		後10	200	0
1214	1002	09.16	長保	4	08.01	長雨2A	奉幣二社。依祈晴也。		後10	200	0
1215	1003	06.27	長保	5	05.19	洪水1A	洪水。(5月20日)仁王会延引。去夜大水入京中之故也。		後10	202	0
1216	1003	10.05-11.02	長保	5	09		今秋大有年。		後10	203	0
1217	1003	12.05	長保	5	11.03	大雨1A・強風1A・雷1A	大風暴雨雷電。		後10	203	0
1218	1003	-	長保	5	12		今年大有年。		後10	203	0
1219	1004	02.18	寛弘	1	01.19	大雨1A・雷1A	大雨雷電。		後11	205	0
1220	1004	07.27	寛弘	1	07.02	干ばつ2A	祈雨奉幣。		後11	206	0
1221	1004	08.02	寛弘	1	07.08	干ばつ2A	於龍穴請十口僧御読経。依祈雨也。		後11	206	0
1222	1004	08.06	寛弘	1	07.12	干ばつ2A	於七大寺併十一社御読経。依祈雨也。		後11	206	0
1223	1004	08.18	寛弘	1	07.24	干ばつ2A	臨時。奉幣。依祈雨也。天皇可行幸大極殿。而改元以後依休日俄止了。		後11	206	0
1224	1004	08.26	寛弘	1	08.02	干ばつ1A	軒廊御卜。依旱魃也。		後11	206	0
1225	1004	08.28	寛弘	1	08.04	干ばつ2A	奉幣丹貴二社。依祈雨也。使蔵人。		後11	206	0
1226	1004	08.30	寛弘	1	08.06	干ばつ2A	於大極殿。以百口僧読仁王經。限五箇日。依祈雨也。		後11	206	0
1227	1004	08.25-09.22	寛弘	1	08	干ばつ1B	今月。旱。		後11	207	0
1228	1004	01.06	寛弘	1	11.17		新嘗祭。依雨不行幸中院。		後11	207	0
1229	1005	01.19	寛弘	1	12.01		日食。雨降。但「不」正見。		後11	207	0
1230	1005	05.19	寛弘	2	04.03	強風1A・雷1A	雷電大風。		後11	208	0
1231	1005	06.24	寛弘	2	05.09		紫野御霊会也。東西二京条坊十列細男已有其数。日者雨下。今日向晴。神明之驗也。		後11	209	0
1232	1005	07.08	寛弘	2	05.23	雷1A	雷公震大炊寮併大監物輔範宅。		後11	209	0
1233	1005	07.25	寛弘	2	06.11		月次祭。依雨下不行幸付本官。		後11	209	0
1234	1005	09.20	寛弘	2	08.08	長雨2A	止雨奉幣丹貴二社。		後11	209	0
1235	1005	12.11	寛弘	2	11.02	大雨1A・強風1A・雷1A	風雨。夜。雷電大雨。		後11	210	0
1236	1005	12.18	寛弘	2	11.09	雷1A	御卜。依雷電也。		後11	210	0
1237	1006	10.04	寛弘	3	09.04	干ばつ2A	奉幣丹貴二社。依祈雨也。蔵人為使。		後11	212	0
1238	1007	08.17	寛弘	4	06.26	干ばつ1A	奉幣丹貴二社。依旱魃也。		後11	214	0
1239	1007	10.08	寛弘	4	08.19	長雨2A	奉幣丹貴二社。依止雨也。蔵人為使。		後11	215	0
1240	1008	05.08	寛弘	5	03.24	雷1A	終日。雷雨。		後11	216	0
1241	1008	09.16	寛弘	5	08.08	長雨1A	軒廊御卜。依霖雨也。		後11	217	0
1242	1008	10.21	寛弘	5	09.14	低温1A	東西山雪降。	この時期に降雪あったというのはやや疑わしいが、記載が真実であるなら、異常低温と解釈できる。	後11	217	0
1243	1009	04.25	寛弘	6	03.22	雷1A・ひょう1A	雷電。雨水。		後11	218	0
1244	1009	08.26	寛弘	6	07.27	雷1A	相撲召合。天皇御南殿。午時雷雨。(中略)申刻雨止。儀式始成。		後11	219	0
1245	1009	10.30	寛弘	6	10.04	雷1A	入夜。雷電。先風雨。		後11	219	0
1246	1009	12.29	寛弘	6	12.05	雷1A	今日夜。雷鳴。		後11	220	0
1247	1009	12.30	寛弘	6	12.06	雷1A	入夜。雷鳴数度。		後11	220	0
1248	1009	12.31	寛弘	6	12.07		御卜。依雷鳴也。	前日の雷を受けたものを解釈した。	後11	220	0

日本紀略

1249	1010	01.08	寛弘	6	12.15	雷1A	夜。雷大鳴。		後11	220	0
1250	1009	10.27-01.23	寛弘	6	冬	高温1C	今年。冬天和暖。		後11	220	0
1251	1010	02.12	寛弘	7	01.21	強風1A	大風。		後11	220	0
1252	1010	08.24	寛弘	7	07.06	大雨1A・洪水1A	大雨洪水。		後11	221	0
1253	1010	08.25	寛弘	7	07.07	大雨1A・暴風1A	風雨。	「風雨」とあるのみで、イベントが小規模であった可能性もある。	後11	221	0
1254	1010	09.23	寛弘	7	08.06	長雨1A	奉幣丹貴二社。依止雨也。(後略)		後11	221	0
1255	1010	10.09	寛弘	7	08.23	長雨1A	御下。依霖雨也。		後11	221	0
1256	1010	09.17-11.14	寛弘	7	08-09	長雨1B	(旧暦10月10日)奉幣廿一社。去八九月間霖雨也。		後11	222	0
1257	1011	02.16	寛弘	8	01.05	雷1A	未刻。雷電。		後11	222	0
1258	1011	04.05	寛弘	8	02.23	雷1A・ひょう1A	申刻。雷雨。氷雨。		後11	223	0
1259	1012	03.11	長和	1	02.10	大雨1A・強風1A・雷1A	未刻。雷電風雨。	積乱雲による小規模で局地的なイベントである可能性がある。	後12	227	0
1260	1012	07.25	長和	1	06.28	雷1A	申刻。雷公震所々。		後12	228	0
1261	1012	07.31	長和	1	07.04	干ばつ2A	今日。奉幣丹貴二社祈雨幣使。		後12	228	0
1262	1013	05.12	長和	2	03.24	低温1A	東西山雪降。京中大寒。去十四日立夏也。人以為恠。		後12	230	0
1263	1013	05.17	長和	2	03.29	雷1A・ひょう1A	今日未刻。雷鳴氷降。大如梅李。		後12	230	0
1264	1013	10.24	長和	2	09.11		伊勢例幣。依雨無行幸。		後12	231	0
1265	1014	09.23	長和	3	08.21	暴風1A	時大風。諸司京中舍屋。多以顛倒。		後12	233	0
1266	1014	12.24	長和	3	11.24	強風1A・雷1A	雷鳴大風。		後12	233	0
1267	1015	07.28	長和	4	閏06.04	大雨1A・雷1A	大雨雷電。		後12	235	0
1268	1015	09.30	長和	4	08.09	暴風1A	大風。殷富門顛倒。		後12	235	0
1269	1015	11.10	長和	4	09.20	大雨1A	今夜。雨大降。		後12	236	0
1270	1016	07.12	長和	5	05.29	干ばつ2A	奉幣丹貴二社。依祈雨也。		後13	241	0
1271	1016	07.21	長和	5	06.09	大雨1A・干ばつ1A	權大僧都深覚於神泉苑被修請雨經法。依炎旱也。然間。未剋。大雨降。		後13	241	0
1272	1016	09.20	長和	5	08.11	大雨1A・暴風1A	今日。風雨殊甚。		後13	241	0
1273	1017	01.14	長和	5	12.08	大雪1A	大雪初降。五寸許。諸陣進見參。		後13	242	0
1274	1017	07.24	寛仁	1	06.22	雷1A	興福寺塔一基併東金堂。為雷火被燒失了。		後13	244	0
1275	1017	08.01	寛仁	1	07.01	長雨1A	神祇官陰陽寮御下。依霖雨也。		後13	244	0
1276	1017	08.05	寛仁	1	07.05	長雨2A	奉幣丹貴二社。依止雨也。		後13	244	0
1277	1018	02.12	寛仁	2	01.15	大雪1A	白雪積庭五寸。兵部手番。		後13	247	0
1278	1018	06.15	寛仁	2	閏04.23	強風1A・ひょう1A	未剋。大風雨水。又雹散如石。		後13	248	0
1279	1018	07.12	寛仁	2	05.21		於所々有甘雨御読經定事。		後13	248	0
1280	1018	07.15	寛仁	2	05.24	干ばつ2A	奉幣丹貴二社。依祈雨也。(後略)		後13	248	0
1281	1018	07.24	寛仁	2	06.03	干ばつ1A	軒廊御下。令ト申炎旱事。今日。於大極殿請百口僧。読仁王經。依祈雨也。		後13	248	0
1282	1018	07.25	寛仁	2	06.04	干ばつ2A	於神泉苑。以阿闍梨仁海。修請雨經法。七箇日。		後13	248	0
1283	1018	07.27	寛仁	2	06.06	大雨1A・洪水1A・雷1A	雷電。北山雨迴。鴨河水僅出。		後13	248	0
1284	1018	07.29	寛仁	2	06.08		細雨灑。		後13	248	0
1285	1018	07.31	寛仁	2	06.10	干ばつ1A	請雨經法可終。然而依無降雨之応。二箇日被延之。		後13	248	0
1286	1018	08.03	寛仁	2	06.13		神泉苑御修法結願。	降雨?	後13	248	0
1287	1018	08.04	寛仁	2	06.14	干ばつ2A	奉幣伊勢大神宮。祈雨沢。辭別有御下之由。		後13	248	0
1288	1018	08.20	寛仁	2	07.01	大雨1A	朔比以來。院雲久凝。暴雨頻降。		後13	248	0
1289	1018	09.07	寛仁	2	07.19	長雨2A	奉幣丹貴二社。依祈晴也。使殿上六位。		後13	248	0
1290	1019	04.07	寛仁	3	02.23		微風忽吹。日華門顛倒。		後13	250	0
1291	1019	06.27	寛仁	3	05.16	干ばつ2A	奉幣廿一社。依祈年穀併祈雨也。丹貴二社獻黒毛御馬。		後13	251	0
1292	1019	07.04	寛仁	3	05.24	干ばつ2A	奉幣丹貴二社。依祈雨也。使殿上六位為使。		後13	251	0
1293	1019	07.07	寛仁	3	05.26	干ばつ2A・雷1A	仁王会。依祈雨也。今日。雷電雨降。		後13	251	0
1294	1020	08.19	寛仁	4	07.22	暴風1A	夜大風吹。壞内裏所々。(中略)其外不可勝計。		後13	254	0
1295	1020	09.18	寛仁	4	08.22	大雨1A・暴風1A	夜。大風雨。		後13	254	0
1296	1020	11.25	寛仁	4	11.02	長雨2A	奉幣丹貴二社。依祈晴也。		後13	254	0
1297	1021	06.12	治安	1	04.23	干ばつ2A	奉幣廿一社。依祈雨併消疾病難也。		後13	255	0
1298	1021	10.18	治安	1	09.04	干ばつ2A	奉幣丹貴二社。依祈雨也。		後13	256	0
1299	1023	03.02	治安	3	02.02	強風1A	春日祭。風雪。右大臣被參行之。	「風雪」は大雪となしない。	後13	259	0
1300	1024	06.12	万寿	1	04.27	干ばつ2A	祈雨奉幣丹貴二社。		後13	261	0

日本紀略

1301	1024	06.30	万寿	1	05.16		月食。天陰不現。		後13	261	0
1302	1024	07.12	万寿	1	05.28	大雨1A	自昨日大雨之間。永國僧都自三井寺入洛之間。(後略)		後13	261	0
1303	1024	09.09	万寿	1	07.28		相撲召合依雨延引。		後13	261	0
1304	1025	01.10	万寿	1	12.02	雷1A	雷鳴。		後13	262	0
1305	1025	08.11	万寿	2	07.09	干ばつ2A	奉幣丹貴二社。依祈雨也。		後13	263	0
1306	1026	01.02	万寿	2	12.05	大雪1A	地震。大雪。		後13	264	0
1307	1026	05.09	万寿	3	04.14		関白可被參詣賀茂依雨延引。		後13	265	0
1308	1026	10.06	万寿	3	08.17	暴風1A	大風。左衛門陣前大梨樹。併諸司等。同以顛倒。		後13	265	0
1309	1027	06.26	万寿	4	05.14	暴風1A	大風。		後13	267	0
1310	1027	07.06	万寿	4	05.24	大雨1A・洪水1A・雷1A	雷電風雨。京中洪水流入。舎屋顛倒。豊楽院西第二堂為雷火欲焼。即以撲消了。雷形如白鷄云々。雷公墮於所々。		後13	267	0
1311	1027	08.04	万寿	4	06.23	干ばつ2A	祈雨奉幣。右大臣参入。官奏。		後13	267	0
1312	1027	10.21	万寿	4	09.13	暴風1A	大風。京中舎屋顛倒。		後13	268	0
1313	1028	06.04	長元	1	05.03	干ばつ1A	於大極殿轉読大般若經。請僧六十口。為消疾疫早魃之災也。		後14	272	0
1314	1028	08.02	長元	1	07.03	干ばつ2A	祈雨。丹貴二社奉幣。		後14	272	0
1315	1028	08.24	長元	1	07.25	干ばつ3	詔改元為長元元年。依疫癘炎旱也。(後略)	すでに発生した干ばつを受けてのことか。『小右記』にも記載あり。	後14	272	0
1316	1028	09.25	長元	1	08.28	洪水3・暴風3	於大極殿仁王会。依消風水之災也。	すでに発生あるいは発生中であろう「風水之災」への対策と解釈した。	後14	272	0
1317	1028	09.28	長元	1	09.02	大雨1A・洪水1A・暴風1A	申刻。大風大雨洪水。諸国多遭此災。		後14	272	0
1318	1029	06.11	長元	2	04.21	大雨1A・洪水1A	賀茂祭。大雨降。鴨河水溢。使者車殆難渡。		後14	274	0
1319	1030	06.17	長元	3	05.08	干ばつ2A	奉幣廿二社。依祈雨併世間不静也。		後14	277	0
1320	1030	06.22	長元	3	05.13	干ばつ2A	祈雨丹貴二社。以蔵人為使。		後14	277	0
1321	1030	09.22	長元	3	08.16	長雨2A	依止雨。奉幣丹貴二社。		後14	278	0
1322	1031	02.18	長元	4	01.18		賭射延引。依雨氣也。		後14	279	0
1323	1031	09.08	長元	4	08.13	長雨2A	奉幣丹貴二社。依止雨也。(後略)		後14	280	0
1324	1031	10.21	長元	4	09.26	長雨1A・洪水1A	軒廊御卜。霖雨洪水之故也。		後14	280	0
1325	1032	04.11	長元	5	02.23	雷1A	又申時。雷鳴。		後14	281	0
1326	1032	06.14	長元	5	04.28	干ばつ2A	祈雨奉幣。		後14	282	0
1327	1032	07.06	長元	5	05.20	干ばつ2A	於大極殿。請三百口僧読仁王經。為祈雨併疾疫也。		後14	282	0
1328	1032	07.10	長元	5	05.24	干ばつ2A	於同殿請三百口僧。仁王講。依祈雨也。		後14	282	0
1329	1032	07.17	長元	5	06.02	干ばつ2A	天皇行幸大極殿。奉幣伊勢大神宮。依祈雨也。		後14	282	0
1330	1032	07.30	長元	5	06.15	干ばつ2A	臨時。仁王会。依祈雨也。		後14	282	0
1331	1032	08.11	長元	5	06.27	干ばつ2A	請千僧於大極殿。読觀音經。依祈雨也。		後14	282	0
1332	1032	03.20-08.14	長元	5	02-06	干ばつ1B	徒去二月至今月(六月)大旱。山崎。摂津大江渡。宇治川等。歩行往還。		後14	282	0
1333	1032	08.13	長元	5	06.29	干ばつ3	相撲節依旱可停止。	「相撲節」は年中行事であり、干ばつの発生時期を示すものではないと解釈される。	後14	282	0
1334	1032	05.10	長元	5	04.22	強風1A	(旧暦7月20日)有軒廊御卜。宇佐宮宝殿去四月廿二日依為大風顛倒事也。		後14	282	0
1335	1033	06.01	長元	6	04.25	干ばつ2A	依祈雨奉幣丹貴二社。		後14	284	0
1336	1033	06.07	長元	6	05.02	干ばつ2A	臨時御読經。依祈雨也。		後14	284	0
1337	1033	06.19	長元	6	05.14	干ばつ2A	於神泉苑被修請雨經法。		後14	284	0
1338	1033	06.23	長元	6	05.18	干ばつ1A	御卜。依炎旱也。		後14	284	0
1339	1033	06.26	長元	6	05.21	干ばつ2A	請雨經結願。		後14	284	0
1340	1033	10.16	長元	6	09.15	干ばつ2A	奉幣丹貴二社。依祈雨也。		後14	285	0
1341	1034	09.20	長元	7	07.29		同拔手依雨延引。		後14	286	0
1342	1034	09.30	長元	7	08.09	暴風1A	戌時。大風吹。内裏殿舎大垣。併美福門。皇鑿門。応天門。八省院。豊楽院内堂廊。穀倉院等顛倒了。		後14	286	0
1343	1035	10.23	長元	8	09.14	(干ばつ1A)	終夜雨降。時人感悦。	「終夜雨降。」の結果として「時人感悦。」であるから、少雨が先行していた可能性がある。	後14	288	0
1344	1036	02.06	長元	9	01.01	大雨1A	立春之節也。仍為替欠日。依甚雨。(後略)		後14	289	0

8. 扶桑略記

(1) ページは下記による。

黒板勝美・国史大系編修会編 1932『扶桑略記・帝王編年記』新訂増補/国史大系第12巻 国史大系刊行会・吉川弘文館・日用書房

(2) 地域（“L”列）は下記による。

0：近畿地方中部

1：近畿地方中部以外

扶桑略記

No.	グレゴリウ暦		和暦			項目	記載内容	備考	該当箇所		
	年	月日	年号	年	月日				卷	頁	L
1	877	08.12	元慶	1	06.26	干ばつ2A	屈伝燈大師・教日於神泉苑。率廿一僧。修金翅鳥王經法。祈雨也。		第20	125	0
2	877	07.18-08.16	元慶	1	06	干ばつ1B	是月大旱。民廢農業。走幣修法。未有効驗。		第20	125	0
3	877	08.26	元慶	1	07.10		引神泉苑池水。灌漑城南民田。一日一夜・水脉涸渴。	干ばつによる可能性が高いが、因果関係は不明。	第20	125	0
4	877	08.29	元慶	1	07.13	干ばつ1A	内供奉十禅師伝燈大師位徳寵言。弟子借乘縁有咒験致雨之術。請試令修之。仍微乘縁於武徳殿。限以五日。誦咒祈請。是日未時暴雨。乍陰乍霽。雨沢不洽。	「暴雨」という記述もあるが、これに続く「雨沢不洽」という文脈から、大雨とは解釈しなかった。	第20	125	0
5	877	08.30	元慶	1	07.14	雷1A	申時地震。酉時雷電激動。雲雨晦合。		第20	125	0
6	877	08.31	元慶	1	07.15	雷1A	申時雷雨。		第20	125	0
7	877	09.01	元慶	1	07.16		遅明遍雨。		第20	125	0
8	878	05.18	元慶	2	04.09	霜1A	殞霜。		第20	127	0
9	878	10.29	元慶	2	09.26	雷1A	(9月28日)紀伊国言。今月廿六日亥時。風雨晦暝。雷電激発。震於国府庁・及・倉屋等。被破官舎廿一字。縁辺百姓四十三家。圧死者男女合六人。震死者合三人支解。大木倒仆者余株。		第20	128	0
10	879	08.28	元慶	3	08.04		大和国言。紫雲見城下郡。長十許丈。広可三丈。起自地上。竟属于天。食頃消散。		第20	130	0
11	879	08.25-09.23	元慶	3	08		是月。京師李樹華。		第20	130	0
12	879	12.29	元慶	3	11.09		丹波国言。慶雲見。		第20	131	0
13	880	03.29	元慶	4	02.11		卯時。天東空中有聲。一聲而止。		第20	131	0
14	881	01.28	元慶	4	12.21		戌一尅。空中有聲。丑時地震。		第20	134	0
15	882	01.27	元慶	6	01.01	強風1A・大雪1A	烈風大雪。平地二尺。		第20	136	0
16	882	01.28	元慶	6	01.02		雪未止。		第20	136	0
17	883	02.02	元慶	6	12.17	強風1A・雷1A	子時暴風雨。至丑。天南雷電。地中有聲。		第20	138	0
18	883	09.06	元慶	7	07.27		申時。日左右有珥。其下雲氣形如竜馬。		第20	139	0
19	884	02.28	元慶	8	01.24		自辰至巳。日有冠。左右有珥。色白。是夜。天東・有星見長可一丈。		第20	140	0
20	884	04.18	元慶	8	03.15	雷1A	夜。大雷雨。震常住寺塔。火自第五層起。延焼講堂。鐘樓。經蔵。歩廊。中門。一時蕩盡。		第21	144	0
21	884	05.12	元慶	8	04.10	霜1A・低温1A	天寒殞霜。夜有流星。色青白。大如柚子。		第21	145	0
22	884	05.16	元慶	8	04.14	大雨1A・強風1A	大風雨。地震有聲。		第21	145	0
23	884	05.18	元慶	8	04.16	雷1A・霜1A・低温1A	霜降。氣寒。雷電地震。		第21	145	0
24	884	05.19	元慶	8	04.17	霜1A・低温1A	夜寒霜降。草木葉凋。		第21	145	0
25	885	07.12	仁和	1	05.22		酉時日色變黑。光散如射。		第21	147	0
26	885	08.30	仁和	1	07.13		(10月9日)大宰府言上。七月十三日。夜陰雲晦合。聞如雨聲。遅明見雨粉土屑沙交下境内。(後略)		第21	148	1
27	886	03.27	仁和	2	02.14		辰時。日有冠。其色黃白。	黄砂?	第21	149	0
28	886	04.24	仁和	2	03.13	強風1A・雷1A	暴風雷雨。東寺新造塔燒。時人謂雷火也。		第21	149	0
29	886	07.05	仁和	2	05.26		降雨。天東南有聲如雷。		第21	149	0
30	886	07.03-07.05	仁和	2	05.24-05.26	雷1A	(8月4日)安房国言。去五月廿四日夕。有黒雲。自南海群起。其中現雷光。雷鳴地震。通夜不止。廿六日曉雷風。(後略)		第21	150	1
31	887	01.15	仁和	2	12.14	強風1A	是日。自朝至夕。風雪慘烈矣。		第21	150	0
32	887	07.25	仁和	3	06.27	大雨1A・洪水1A・雷1A・ひょう1A	自昨雷雨。至今未止。諸衛警陣。雷電雨雹。水潦奔溢。人不通行。雹積地上。移時不消。		第21	151	0
33	887	07.27	仁和	3	06.29	雷1A	太政大臣侍殿上。納言參議侍仗下。忽有雷大鳴。諸衛陣於殿前。(後略)		第21	151	0
34	887	08.02	仁和	3	07.06		虹降東宮。其尾竟天。虹入内蔵寮。		第21	151	0
35	887	09.15	仁和	3	08.20	大雨1A・洪水1A・暴風1A	自卯時。及酉。大風雨。斃屋。被圧死者衆矣。内膳司比皮葺屋顛仆。采女一人宿其中。邂逅免害。時人奇之。鴨河。葛川洪水。人馬不通。		第21	152	0
36	889	07.06-09.02	寛平	1	06-07	長雨1B・洪水1B	六七月間。霖雨洪水。東西京中餓死者多。		第22	157	0
37	890	01.07	寛平	1	12.06		作物所預宮興害大害。左近陣有大虹。見之。(後略)		第22	159	0
38	898	11.11	昌泰	1	10.20		当日丙辰。天氣微陰。及巳一刻。雲收日晴。		第23	167	0
39	908	06.20	延喜	8	05.14	雷1A	於朝集堂可饗蕃客。午一刻。雷電風雨。々脚如射。(後略)		第23	178	0

扶桑略記

40	908	05.08-08.04	延喜	8	夏	干ばつ1C	夏月。天下旱魃。		第23	178	0
41	910	07.15-09.11	延喜	10	06-07	干ばつ1B	六七兩月。天下旱魃。		第23	179	0
42	910	09.12	延喜	10	08.01	暴風1A	大風。		第23	179	0
43	911	07.04-08.01	延喜	11	06	洪水1B	有洪水。		第23	179	0
44	913	05.14-07.11	延喜	13	夏	干ばつ1C	天下旱魃。		第23	180	0
45	913	09.08	延喜	13	08.01	暴風1A	大風拔木斃屋。		第23	180	0
46	914	07.15	延喜	14	06.15	洪水1A	洪水。		第23	181	0
47	898	05.17	昌泰	1	04.19		近來數日之間。日色朝夕黑無光。諸人皆見之。無不奇恠。		第23裡書	183	0
48	898	05.28	昌泰	1	05.01	干ばつ2A	有政。又召官寮。御卜不雨由。又為祈甘雨。於七社。以名僧。令誦金剛般若經。		第23裡書	183	0
49	898	07.29	昌泰	1	07.03	干ばつ2A	權大納言菅原卿以下參入。為祈甘雨。被奉遣諸社幣帛使。惣廿二所。		第23裡書	184	0
50	901	08.23	延喜	1	07.02	雷1A	自午及申。雷鳴雨下。勅令取公卿以下諸陣見參。		第23裡書	184	0
51	902	07.20	延喜	2	06.08	干ばつ2A	左大臣以下職政。又可祈甘雨之由。大臣以外記。伝仰祭主神祇大副大中臣安則朝臣。		第23裡書	184	0
52	902	07.25	延喜	2	06.13	干ばつ2A	為祈甘雨。臨時奉幣諸社。		第23裡書	184	0
53	902	07.29	延喜	2	06.17	干ばつ2A	左大臣已下就陣。依祈雨。定山陵使。又依同事。召陰陽寮。自今明日。於乾方。可勤五龍祭之由仰下了。其地鳴滝北十二月谷口。		第23裡書	184	0
54	902	09.23-09.26	延喜	2	08.14-08.17	長雨1A	(8月17日)諸卿參入。自去十四日。有霖雨氣。仍臨時奉幣諸社。		第23裡書	185	0
55	903	08.07	延喜	3	07.07	干ばつ1A	近日炎旱涉旬。雨沢不降。損敗之愁。内外尤多。		第23裡書	185	0
56	904	08.26	延喜	4	07.08	干ばつ1A	旱氣尤熾。仍仰陰陽寮。於北山十二月谷口五龍祭。		第23裡書	185	0
57	904	08.28	延喜	4	07.10	干ばつ1A	奉遣御幣。是依旱災。御占之處。坤艮方神社依有穢事云々。遣使突檢之處。石清水四至有死人。被謝申其由也。		第23裡書	185	0
58	905	08.26	延喜	5	07.18	干ばつ1A	雨沢不降。旱損之憂往々有聞。是日為祈此事。奉幣伊勢太神宮。		第23裡書	185	0
59	906	06.27	延喜	6	05.28	干ばつ1A	旱氣切也。		第23裡書	185	0
60	908	08.13	延喜	8	07.09	干ばつ1A	諸卿於左杖共議定祈雨事。即下五畿七道諸国。符僞仁。近者炎旱涉旬。頃■■祈甘雨。冥感未致。宜仰諸国奉幣国内名神并官社令禱請。又令左右京職埋隱京中路辺死人骸骨。是等皆依先禱雨之感矣。		第23裡書	186	0
61	908	08.23	延喜	8	07.19	干ばつ2A	僧正聖宝奏可修祈雨法之由。即率三十二口。於神泉修之。五箇日。酉刻。雨快下。		第23裡書	186	0
62	909	05.02	延喜	9	04.05	霜1A・低温1A	霜降嚴寒。時人莫不愁。		第23裡書	186	0
63	909	06.30	延喜	9	06.05	大雨1A	大雨。道路如海。		第23裡書	186	0
64	909	07.04	延喜	9	06.09	長雨2A	召官寮。有霖雨御卜。官申云。		第23裡書	186	0
65	909	07.05	延喜	9	06.10	大雨1A	大雨。右大臣以下參陣。官申云。中院中門狐死。明日神事如何。外記令勘申先例為穢否。年々記。皆為穢之由申。大臣奏之。不可為穢者。是六畜之外而不載式故也。	・原文どおり。	第23裡書	186	0
66	909	07.07	延喜	9	06.12	長雨1A	被立止雨奉幣。近日霖雨累日。諸司及京中築垣皆顛倒。未曾聞如此之年。		第23裡書	186	0
67	909	07.14	延喜	9	06.19	洪水1A	諸卿突檢鴨河堤破損。厨家於三條末儲饗。大藏省立帳二字。數盃之後。(後略)		第23裡書	186	0
68	909	10.26	延喜	9	09.05		右大臣以下諸卿。覆勘川原堤。依雨。(後略)		第23裡書	186	0
69	909	10.30	延喜	9	09.09		雨降。停止重陽宴。是依春夏疫癘。又宮中京内樹木多發畢。		第23裡書	187	0
70	909	11.01	延喜	9	09.11		伊勢幣使。依雨。天皇不御大極殿。		第23裡書	187	0
71	909	12.18	延喜	9	10.28		仁王会。依桃李桜秋華。蛭虫冬鳴也。		第23裡書	187	0
72	910	10.19	延喜	10	09.09	干ばつ3	停節会。天皇不御南殿。依旱災也。		第23裡書	187	0
73	911	07.04	延喜	11	06.01		日食。廢務。但自未時雨降。		第23裡書	187	0
74	913	10.16	延喜	13	09.09	洪水1A・暴風1A	菊花宴停止。依諸国申不堪并風水損也。		第23裡書	187	0
75	913	12.12	延喜	13	11.07	強風1A	自酉至子。大風猛烈。多破京中屋舍。右馬寮屋転倒。		第23裡書	187	0

76	914	06.16	延喜	14	05.15	干ばつ2A	奉幣伊勢并諸社幣使。是為祈雨也。		第23裡書	187	0
77	915	07.18	延喜	15	05.28	干ばつ1A	被免囚廿三人。依旱也。		第23裡書	188	0
78	915	08.08	延喜	15	06.20	干ばつ2A	於大極殿。臨時御読経。祈雨也。		第23裡書	188	0
79	915	08.12	延喜	15	06.24	干ばつ2A	於神泉苑。自今日五箇日。修請雨経法。又祀五龍。		第23裡書	188	0
80	915	08.23	延喜	15	07.05		卯時。日先暉。其貌似月。時人奇之。		第23裡書	188	0
81	915	08.31	延喜	15	07.13		出羽国言上雨灰高二寸諸郷農桑枯損之由。		第23裡書	188	1
82	915	09.11	延喜	15	07.24	干ばつ2A	被立九社奉幣。依祈雨也。		第23裡書	188	0
83	915	10.09	延喜	15	08.23		外記京中樹木華并天下赤痢時御祈之例勘申。		第23裡書	188	0
84	915	10.25	延喜	15	09.09	干ばつ3	止重陽宴。依諸国旱損疫之由也。		第23裡書	188	0
85	916	08.05	延喜	16	06.29	干ばつ2A・雷1A	雷鳴地震。為祈雨。奉幣諸社。		第23裡書	188	0
86	917	04.22	延喜	17	03.23	ひょう1A	子刻。氷降。		第23裡書	188	0
87	917	08.07	延喜	17	07.12	干ばつ2A	奉幣龍穴。御読経。雨降。時人感悦。	「祈雨」等の記載がないが、「雨降。時人感悦。」という文脈から干ばつ(雨乞いのための読経)と解釈した。	第23裡書	188	0
88	917	12.22	延喜	17	11.01		晴。朔旦冬至也。		第23裡書	188	0
89	918	09.13-10.12	延喜	18	08	洪水1B	洪水。		第24裡書	191	0
90	920	06.06	延喜	20	05.12		於豊楽院可賜客徒宴。自夜中陰雨。辰刻雨止。		第24裡書	193	0
91	925	05.01-07.28	延長	3	夏	干ばつ1C	夏間。天下大旱。		第24裡書	196	0
92	925	08.11	延長	3	07.14	干ばつ1A	宣旨云。左少弁藤原元方伝宣。大納言藤原朝臣清貫宣。奏勅。炎旱経旬。雨沢不降。宜仰尊意大法師始自今月十六日。七箇日間。於延暦寺令修甘雨之法者。謹依勅旨。(後略)		第24裡書	196	0
93	925	08.20	延長	3	07.23		宣旨云。所修之法已有感応。雨沢快降。天下滂沱。(後略)		第24裡書	196	0
94	927	11.01	延長	5	09.29		夜。黒雲三四尺。東西亘天。(後略)		第24裡書	199	0
95	928	01.31	延長	6	01.01	強風1A	儀式如例。俄風吹倒承明門東扉一枚。		第24裡書	201	0
96	928	06.24	延長	6	05.29	雷1A	雷迅。会昌門樓翼角簷中・火。(後略)		第24裡書	201	0
97	928	08.04	延長	6	07.11	雷1A	夜雷震。西大寺塔有火。一基蕩盡。		第24裡書	201	0
98	928	08.05	延長	6	07.12	洪水1A	長谷河水溢流。民家多損。長谷寺鳥居同流失云々。		第24裡書	201	0
99	929	09.07	延長	7	07.26	大雨1A・洪水1A・暴風1A	夜。大風雨通宵。川流水溢。天下多被風水損。民烟人畜穀。損害甚多。		第24裡書	203	0
100	929	09.11-10.10	延長	7	08	長雨1B	自大風後。連陰滂雨。至月晦。無晴日。	「大風」は和暦7月26日のイベントをさしている可能性がある。	第24裡書	203	0
101	930	07.29	延長	8	06.26	雷1A	於清涼殿為雷被震。(後略)		第24裡書	204	0
102	918	08.08	延喜	18	06.24	雷1A	申刻。霹靂落入於東寺僧房乾方。割柱三本。驚叫間。出踐壞其棟。摧壇石。又金堂焦壞。大仏光汗座等出了。		第24裡書	205	0
103	918	09.28	延喜	18	08.16	大雨1A・洪水1A・暴風1A	自遲明至十七日暁。風雨猛烈。樹木舍屋摧損。淀河水如海。牛馬人物。漂没尤多。雨不經數日。忽成此災。鴨河水車馬不通。溺死者又多。云々。		第24裡書	205	0
104	918	10.02	延喜	18	08.20	長雨1A	召寮占霖雨由。乾方陵依汗穢所致云々。		第24裡書	205	0
105	919	07.18	延喜	19	06.14	干ばつ2A	(6月14日)被定始自今月十七日至十九日三箇日間。為祈雨諸社十一社可修読経之由。	和暦7月7日に「雨降」という記載あり。	第24裡書	206	0
106	919	07.26	延喜	19	06.22	干ばつ2A	行幸大極殿。臨時奉幣伊勢。依祈雨也。	和暦7月7日に「雨降」という記載あり。	第24裡書	206	0
107	919	07.28	延喜	19	06.24	干ばつ1A	召官寮。ト不雨之由。坤巽辰戌近陵有汗穢。即召檢非違使■■■■之由。	旧暦7月7日に「雨降」という記載あり。	第24裡書	206	0
108	919	08.01	延喜	19	06.28	干ばつ2A	依祈雨。奉幣龍穴社。又自今日。於神泉苑修請雨経法。	和暦7月7日に「雨降」という記載あり。	第24裡書	206	0

109	919	08.08	延喜	19	07.05		酉刻。日色赤黑。其光不明。又昨今之月色不似月之光。		第24裡書	206	0
110	919	08.10	延喜	19	07.07		雨降。諸人喜之。		第24裡書	206	0
111	919	09.28	延喜	19	08.27		近衛東二條以北井泉皆涸。	干ばつとの因果關係は不明。	第24裡書	206	0
112	920	09.04	延喜	20	07.14	干ばつ2A	依祈雨被立諸社幣使。		第24裡書	206	0
113	920	09.09	延喜	20	07.19	干ばつ2A	行幸八省。奉幣伊勢臨時奉幣。依咳病并甘雨祈也。		第24裡書	206	0
114	920	10.09	延喜	20	08.20	長雨2A	召官寮有御卜。是賀茂齋内親王薨卒咎崇有無之由也。又依止雨丹生貴布禰奉幣定。		第24裡書	206	0
115	922	02.05	延喜	22	01.01		先朝賀。天皇御南殿。依雨濕。止朝拜。		第24裡書	206	0
116	922	08.13	延喜	22	07.13	干ばつ1A	依旱災。自明日五箇日。於神泉可修請雨經法。僧廿口。		第24裡書	206	0
117	922	08.19	延喜	22	07.19	干ばつ1A	召官寮。有御卜。依旱也。又請雨經二箇日。		第24裡書	206	0
118	922	09.03	延喜	22	08.05	干ばつ2A	依祈雨被奉遣宣命使於山陵等。		第24裡書	206	0
119	922	11.18	延喜	22	10.22	洪水3・暴風3	被定諸国不堪風水使。		第24裡書	207	0
120	922	11.18	延喜	22	10.22		是日。虹立侍徒所門外。		第24裡書	207	0
121	923	10.17	延長	1	08.30	長雨1A	依霖雨奉幣諸社。		第24裡書	207	0
122	924	06.16	延長	2	05.07	大雨1A・洪水1A	雨如沃。終日不止。京中洪水。鴨河往還不通。		第24裡書	207	0
123	924	09.10	延長	2	08.04	大雨1A・暴風1A	風雨猛烈。公卿不參。往還有煩。		第24裡書	207	0
124	924	11.21	延長	2	10.17		戌時。白虹亘西天。		第24裡書	207	0
125	925	07.11	延長	3	06.13	干ばつ2A	御痲病。僧正增命及親王公卿等侍。又被定諸社御読經事。依祈雨也。		第24裡書	207	0
126	925	08.13	延長	3	07.16	干ばつ2A	神泉御修法三箇日。遂先雨。仍自今日延二箇日。		第24裡書	207	0
127	925	06.29-08.18	延長	3	06-07.21	干ばつ1B	(7月21日)去今兩月旱魃。仍於神泉苑并十五大寺有供諸寺祈雨。曾不降。而去十六日。於比叡山被修請雨經法。自今夜子時雨快降。是感應也。又酉刻。塞神泉苑水。但紀伊郡古老等申云。下神泉水之時必雨降者。		第24裡書	207	0
128	925	10.27	延長	3	10.03	雷1A	官奏。子刻。雷雨殊甚。		第24裡書	207	0
129	927	08.02	延長	5	06.27	干ばつ2A	依祈雨。臨時奉幣諸社。仍廢務。		第24裡書	208	0
130	928	09.22	延長	6	閏08.01	干ばつ1A	召陰陽寮令占申近日旱魃事。		第24裡書	208	0
131	929	09.07	延長	7	07.26	大雨1A・洪水1A・暴風1A	徒午後大風暴雨。終夜殊烈。京中損壞不可勝計。鴨河葛川辺。人物流亡。鴨河堤潰斷。未流入東京。舍屋類溺損尤多。山崎橋六間斷壞了。昔大同仁壽比。雖有此災不及此云々。	・:原文どおり。	第24裡書	208	0
132	929	09.11	延長	7	08.01	洪水3	(8月1日)去月廿六日流損山城百姓等。以正稅稻万束可賑給之由宣下。		第24裡書	208	0
133	929	09.13	延長	7	08.03	長雨1A	依霖雨召神祇官。有御占。		第24裡書	208	0
134	929	09.15	延長	7	08.05	長雨1A	為止雨。於七大寺并延曆寺。三箇日可読般若之由。又依官寮占申。五箇所神社付在国。令祈申霖雨由。依内裡穢也。		第24裡書	208	0
135	929	10.09	延長	7	08.29	長雨2A	為止雨奉幣諸社。		第24裡書	208	0
136	930	06.28	延長	8	05.24		如虹色繞日。		第24裡書	209	0
137	930	07.23	延長	8	06.20		左大臣參入仗座。召祭主與生。仰云。於神祇官西院。可降雨之由可祈申京畿諸神。其員有祭主祈。		第24裡書	209	0

138	930	07.29	延長	8	06.26	干ばつ1A・雷1A	左大臣參入仗座。召外記。宣云。奉勅。炎旱涉旬。田畝焦損。爰京南鳥羽等欲導神泉池水。若不許容。恐失民業。宜令少納言良岑遠視。卒六府舍人以下。准承前例通池水流已了。是日。申一刻。雲薄雷鳴。諸衛立陣。左大臣以下群卿等起陣。侍清涼殿。々々上近習十余人連膝。但左丞相近御前。同三刻。旱天噎々。陰雨濛々。疾雷風烈。閃電照臨。即大納言清貫卿。右中弁平希世朝臣震死。傍人不能仰瞻。眼眩魂迷。或呼或走云々。先是。登殿之上。舍人等俱於清涼殿逢霹靂。右近衛忠兼死。形骸如焦。二人衣服燒損。死活相半。良久遂無恙。又雷火着清涼殿南簷。右近衛茂景獨撲滅。申四刻。雨晴雷止。臥故清貫卿於齋上。数人肩昇。出式乾門。載車還家。又荷希世出脩明門外。載車將去。上下之人觀如堵牆。如此騷動未嘗有矣。		第24裡書	209	0
139	930	08.06	延長	8	07.05	雷1A	雲斂天晴。雷電殷々。		第24裡書	209	0
140	930	08.21	延長	8	07.20	強風1A・雷1A	雷鳴風雨殊烈。龍尾道高欄・倒。	∴原文どおり。風雨は積乱雲(気団性雷雨)に伴うものか？	第24裡書	209	0
141	934	12.03	承平	4	10.19	雷1A	雷火烧亡東大寺西塔。		第25	211	0
142	937	06.16-07.07	承平	7	05.01-05.22	洪水1B	同月。洪水。(次に続く文は5月23日のもの)		第25	212	0
143	939	04.27-07.23	天慶	2	夏	干ばつ1C	・夏比。炎旱經旬。田畝難期。仍勅法務大僧都尊意座主云。准先年例。修尊勝法。祈禱甘雨。必致感應者。自七月十五日。於延命院。五箇日間。率廿口僧。勤修件法。至第五日。雨沢滂沱。賞以度者廿二人矣。		第25	213	0
144	940	09.10-10.08	天慶	3	08	大雨1B・洪水1B・暴風1B	同月。有風雨災。年穀不登。人庶大飢。		第25	219	0
145	944	10.11	天慶	7	09.03	暴風1A	天下大風。京洛官舍門樓多以顛倒。		第25	223	0
146	949	12.08	天曆	3	11.11	雷1A	雷火。大安寺西塔燒亡。		第25	225	0
147	931	02.23	承平	1	01.28	雷1A	雷鳴四五度。諸人驚之。		第25裡書	231	0
148	931	03.09	承平	1	02.13	雷1A・ひょう1A	園韓神祭依穢疑停。午刻。天顔暗冥。雷鳴水雨。風烈。可謂異。修明門陣座。雷公入。直舍人・迷惑。無害。	∴原文どおり。	第25裡書	231	0
149	931	06.30	承平	1	閏05.07	長雨1A	召官寮有御卜。依霖雨也。		第25裡書	231	0
150	931	07.26	承平	1	06.04		承明門・良角虹立。	∴原文どおり。	第25裡書	231	0
151	931	08.14	承平	1	06.23		申刻。承明門良角。并官正庁東二間虹立。寮占申官怪處凶由。		第25裡書	231	0
152	932	09.20	承平	2	08.13		政。此間虹立并庁前。		第25裡書	231	0
153	933	08.11	承平	3	07.13	強風1A	颶風吹損右近陣火炬屋。并春興校書殿檜皮。寮占乾坤方兵革之由。仍山陰山陽太宰府官符。	台風によるものの可能性もある。	第25裡書	231	0
154	934	03.08	承平	4	閏01.15		巳時。空響兩度。似雷。		第25裡書	232	0
155	934	12.03	承平	4	10.19	雷1A	辰刻地震。戌刻雷鳴。今夜東大寺西塔并廊等為神火烧亡。但大和国々分寺也。		第25裡書	232	0
156	935	03.20	承平	5	02.08		申刻。虹立并官庁砌下。有御占。		第25裡書	232	0
157	935	05.14	承平	5	04.04	霜1A	夜霜降。為異。		第25裡書	232	0
158	935	06.06	承平	5	04.27	干ばつ2A	依祈雨奉幣諸社。		第25裡書	232	0
159	935	06.12	承平	5	05.04	干ばつ2A	自今日三箇日。依祈雨。於大極殿。以百僧誦大般若經。		第25裡書	232	0
160	956	-	天曆	10	-	干ばつ1C	天下大以旱魃。		第26	233	0
161	960	06.09	天徳	4	05.08	霜1A	霜降。尤可為異。		第26	234	0
162	960	08.23	天徳	4	07.23	干ばつ1A	勅云。炎旱既久。依例遣少納言放給神泉苑池水。		第26	234	0
163	960	09.16	天徳	4	08.18	暴風1A	有大風。		第26	234	0
164	960	12.13	天徳	4	11.17		日自辰初薄食。色赤而無光。至午四刻復。		第26	236	0
165	961	07.12	応和	1	05.22	大雨1A・雷1A	暴雨雷鳴。西京有震死童一人。		第26	239	0
166	961	07.20	応和	1	05.30		酉時。白虹經天。		第26	239	0
167	961	07.21-08.18	応和	1	06	干ばつ1B	天下旱魃。祈雨。		第26	239	0
168	966	09.10	康保	3	08.18	洪水1A	有洪水。		第26	242	0
169	967	02.19	康保	4	01.03	雷1A	雷大震鳴。		第26	244	0

170	980	08.27	天元	3	07.09	暴風1A	天下大風。羅城門。美福門。皇嘉門。達智門。并諸司諸堂皆悉吹倒。		第27	250	0
171	980	09.17	天元	3	08.01	洪水1A	有大洪水。山林舍屋多為江河。		第27	250	0
172	986	08.16	寛和	2	07.04	干ばつ1A	炎旱之後雨降。先是遣少僧都元杲於神泉苑。請雨之驗也。		第27	256	0
173	986	12.18	寛和	2	11.10	大雨1A・強風1A・雷1A	終夜春日社鳴如雷。又大風大雨。三日間有電光。		第27	257	0
174	987	06.27	永延	1	05.24	干ばつ2A	於神泉苑修請雨經法。依祈雨也。		第27	257	0
175	987	07.02	永延	1	05.29	干ばつ1A	服御常膳減撤。又高年人賑給。調庸未進免除。又大赦天下。依炎旱也。		第27	257	0
176	987	08.01	永延	1	06.29	干ばつ2A	攝政并左大臣以下群卿參賀茂社競馬。依賽祈雨之感応也。		第27	257	0
177	987	08.30	永延	1	07.28	干ばつ1A	仰公卿等。令上封事。依天變旱災等也。		第27	257	0
178	989	09.20	永祚	1	08.13	洪水1A・暴風1A・高潮1A	夜。天下大風。宮城閤門樓閣。堂舍殿廊。及諸司舍屋垣門。万人家宅。諸寺諸社皆以顛倒。無一舍立。拔樹頹山。又有洪水高潮。畿内海濱河辺民煙畜田。為之皆没。死亡損害。天下大災。古今無双。平城京薬師寺金堂上層重閣為大風被吹落矣。		第27	258	0
179	991	07.19-09.15	正暦	2	06-07	干ばつ1B	天下旱魃。		第27	259	0
180	1000	05.19	長保	2	04.07	雷1A	雷零豊落院。招俊堂雷火。		第27	262	0
181	1000	09.22	長保	2	08.16	洪水1A	洪水。		第27	262	0
182	1002	05.01 or 05.02	長保	4	03.10 or 03.11	雷1A・ひょう1A	雷電大盛。氷降雨沃。(黑板註:3月10日または3月11日)	黑板註:3月10日または3月11日。	第27	263	0
183	1003	06.27	長保	5	05.19	洪水1A	有洪水。		第27	263	0
184	1003	12.14	長保	5	11.12	強風1A・雷1A	大風電。		第27	264	0
185	1009	10.30	寛弘	6	10.04	雷1A	夜半大雷。一条院焼亡。		第28	269	0
186	1013	05.12	長和	2	03.24	低温1A	四山白雪。	降雪を低温によるものと解釈した。	第28	270	0
187	1015	09.30	長和	4	08.09	暴風1A	大風。殷富門顛倒。		第28	271	0
188	1017	07.24	寛仁	1	06.22	雷1A	興福寺宝塔一基。東金堂一字。為雷火作灰燼。		第28	272	0
189	1027	07.06	万寿	4	05.24	大雨1A・雷1A	大雨雷電。豊樂院觀徳堂之柱為霹靂折焉。		第28	280	0
190	1034	09.30	長元	7	08.09	暴風1A	大風。宮城殿門京師舍屋大半顛倒。時人比之永祚大風。		第28	282	0
191	1037	05.31	長暦	1	閏04.08	雷1A・ひょう1A	但馬守源則理與八幡別宮司有鬭争事。公卿僉議之間。雷鳴雹降。		第28	283	1
192	1042	06.27	長久	3	06.01		日食。依雨不正現。		第28	286	0
193	1043	06.16	長久	4	05.01	干ばつ1A	天下旱魃。		第28	286	0
194	1043	06.23	長久	4	05.08	干ばつ2A	令僧正仁海於神泉苑。修請雨經法。十三日午後。雨下。十五日。仁海聽輦車。		第28	286	0
195	1044	09.27	寛徳	1	08.27	干ばつ2A	有廿二社奉幣事。旱疫也。今度。加日吉社。		第28	287	0
196	1046	07.09	永承	1	05.27	洪水1A	洪水。堀河洞院。不通。古今無双。		第29	289	0
197	1047	10.05	永承	2	09.08	暴風1A	夜。大風。		第29	290	0
198	1055	09.20	天喜	3	08.21	雷1A	半夜。東寺之塔為雷火烧。		第29	294	0
199	1059	01.08	康平	1	12.16	長雨3	信濃国言上神御坂霖雨間頽壞事。		第29	296	1
200	1059	06.20	康平	2	05.02	大雨1A・洪水1A	大雨洪水。		第29	296	0
201	1060	07.28	康平	3	06.22	干ばつ1A	縁炎早有恩赦。		第29	296	0
202	1064	05.14	康平	7	04.19	強風1A・雷1A・ひょう1A	未刻。天陰暴風雷雨。氷雹交降。大如梅李。牛馬駭走。数刻不銷。(5月12日)於禁中被修大般若御読經。今年当三合之厄運。天下怖災。然間自去四月賀茂祭日以来。雨沢不降。旱澇最酷。仍所被行也。		第29	301	0
203	1065	05.14-06.24	治暦	1	04-05.12	干ばつ1B			第29	301	0
204	1065	06.29	治暦	1	05.17	干ばつ2A	廿一社有奉幣。依同災也。	「依同災也。」を先行する干ばつを指したものと解釈した。	第29	301	0
205	1065	07.03	治暦	1	05.21	干ばつ2A	今日。台嶽僧侶群集賀茂社。為祈雨轉読仁王經。(後略)		第29	301	0
206	1065	08.04	治暦	1	06.24	ひょう1A	大和国十市高市両郡境雨雹。并氷降。徑寸余。		第29	302	0
207	1066	05.01	治暦	2	03.28		亥刻。天有光景。春日社大鳴。人不知其吉凶。		第29	303	0
208	1066	06.14	治暦	2	05.13	ひょう1A	(6月3日)伊勢太神宮司言上去月十三日神宮并高宮寮降大雹之異。大如鷄卵。烏鵲之類多以被扞殺。		第29	303	0
209	1066	08.17	治暦	2	07.18		酉刻。白雲二道。広三尺。巨東西天。		第29	303	0
210	1068	07.31	治暦	4	06.24		肥後国阿蘇山山雪降。深五六寸。		第29	306	1
211	1070	05.10-05.14	延久	2	03.21-03.25		(4月17日)自大宰府言上。自去三月廿一日■雷■先雨矣。		第29	308	1
212	1073	05.17	延久	5	04.02		奇雲巨天東西。		第30	315	0

扶桑略記

213	1074	04.07	承保	1	03.02	低温1A	申時以下雪降。深四五寸。	降雪を低温によるものと解釈した。	第30	317	0
214	1074	04.13	承保	1	03.09		戌刻。奇雲巨天。		第30	317	0
215	1075	04.15	承保	3	03.04		重行幸石清水宮。此日。雨下。及暁更車駕還宮。		第30	318	0
216	1078	06.23	承暦	2	05.05	大雨1A・洪水1A	大雨洪水。京極人屋多以流損。况乎河之辺畔哉。		第30	320	0
217	1079	08.03	承暦	3	06.27	洪水1A	夜洪水。伊勢大神宮外院舎屋五宇流漂了。		第30	321	0
218	1080	07.13	承暦	4	06.18	大雨1A	大雨。		第30	321	0
219	1080	07.14	承暦	4	06.19	洪水1A	洪水渺茫。近水之倫殆為魚鼈矣。		第30	321	0
220	1081	06.02	永保	1	04.16	大雨1A・洪水1A	賀茂祭。自昨雨脚滂沱。午刻天氣頗晴。齊王御輿黎明至河上。已及秉燭。河水汎溢。終夜踟躕。遲明者神館。		第30	323	0
221	1082	05.07-08.18	永保	2	04-07.16	干ばつ1B	(7月16日)自今日於神泉苑令阿闍梨範俊修請雨經法。去四月以還。雨沢難降。苗稼有枯旱之愁。仍被始修也。一七個日。全先其驗。雖延修二個日。亦以先驗。天之令然。人力不及歟。五畿七道田畠。天下飢饉。古今先双。俗曰。是由去年三井寺仏像經卷燒失之災也。		第30	324	0
222	1085	04.17	応徳	2	03.15	低温1A	戊申。々時雪降。尚如季冬。	降雪を低温によるものと解釈した。	第30	325	0
223	1088	01.30	寛治	1	12.28	雷1A	申剋。雷大発聲数十个度。電光赫奕。勝於夏日。		第30	327	0
224	1090	01.31	寛治	3	12.22	強風1A・大雪1A・低温1A	(前略)凌寒風而飛於輕車。侵甚雪而策於疋馬。(後略)		第30	331	0
225	1091	02.09	寛治	5	01.12	強風1A	大風。大極殿西廊二十三間顛倒。		第30	331	0
226	1092	09.13	寛治	6	08.03	洪水1A・暴風1A・高潮1A	大風。諸国洪水。高潮之間。民烟田畠多以成海。百姓死亡不可稱計。伊勢太神宮宝殿一宇。并四面廊等。皆為大風顛倒。		第30	332	0
227	1092	10.08	寛治	6	08.28		未時。虹遶日輪。		第30	332	0
228	1093	09.17	寛治	7	08.18	大雨1A・洪水1A	終日大雨洪水。古今無双。		第30	333	0
229	1094	01.29	嘉保	1	01.05	大雪1A	終日大雪。深及一尺。冢如北山。数日不銷。		第30	335	0

9. 貞信公記抄

(1) ページは下記による。

東京大学史料編纂所 1956『貞信公記』大日本古記録 岩波書店

(2) 地域（“L”列）は下記による。

0：近畿地方中部

1：近畿地方中部以外

No.	グレゴリオ暦		和暦		項目	記載内容	備考	頁	L
	年	月日	年号	年 月日					
1	907	02.26	延喜	7 01.07		風雪, 有節, 雨儀也, (後略),		2	0
2	907	03.07	延喜	7 01.16		(前略) 此日雨儀,		3	0
3	908	09.05	延喜	8 08.02		依新雨事參深草山陵,	東京大学史料編纂所(1956)によると、「新」は祈の誤りか。	10	0
4	908	09.20	延喜	8 08.17	長雨2A	為祈願晴, 有雨師幣使,		10	0
5	909	09.17	延喜	9 08.25	長雨2A	有祈止雨幣使事,		15	0
6	909	11.01	延喜	9 09.11		依雨不御八省院,		16	0
7	910	06.13	延喜	10 04.28		駒引, 依雨延也,		21	0
8	910	07.04	延喜	10 05.20	雷1A	雷鳴陣立,		22	0
9	910	07.29	延喜	10 06.15	干ばつ2A	祈雨御読経始, 八省,		22	0
10	911	10.28	延喜	11 09.29		服紅雪,		29	0
11	911	11.26	延喜	11 10.28		(前略) 仍内■雨處, 神事付所司可行云々,	東京大学史料編纂所(1956)によると、■は裏?	30	0
12	912	01.26	延喜	11 12.29		雨儀, (後略),		31	0
13	912	04.12-05.03	延喜	12 03.17-04.09	干ばつ1B	(和暦4月10日)有祈雨幣使, 徒去月十七日無雨潤, 而今日快降,		34	0
14	912	05.23	延喜	12 04.29		依雨駒引停止,		34	0
15	912	07.23	延喜	12 06.02	干ばつ2A	祈雨幣使立,		35	0
16	912	10.03	延喜	12 08.15		依雨不覺御馬, (後略),		36	0
17	913	02.25	延喜	13 01.12		御杖, 雨儀行之,		39	0
18	913	03.02	延喜	13 01.18		賭射依雨停止,		39	0
19	913	07.07	延喜	13 05.26		行幸神泉, 至暮小雨, 即止,		42	0
20	913	08.01	延喜	13 06.21	雷1A	除目, 雷鳴陣立, 霹靂亭子院, 藤原有時徒者童死,		42	0
21	913	09.08	延喜	13 08.01	暴風1A	大風猛烈, 公私屋舎多顛倒,		43	0
22	913	10.16	延喜	13 09.09	暴風3	宿職, 依有風損, 停止節事, 但侍徒以上賜菊酒如例, 今日以前, 予申損田廿国, 不堪佃田廿四国,		44	0
23	913	11.01	延喜	13 09.25	長雨2A	雨師二社有奉幣, 為止雨也,		44	0
24	914	02.09	延喜	14 01.07		節会如例, 雨儀,		46	0
25	914	02.19	延喜	14 01.17		依雪不幸豊楽院, 仍公卿,		46	0
26	914	06.03	延喜	14 05.02		左右有失火, 其数六百余烟,		48	0
27	914	06.05	延喜	14 05.04		失火家々給■有差,	東京大学史料編纂所(1956)によると、■は米?	48	0
28	914	06.14	延喜	14 05.13	干ばつ2A	定祈雨使等,		48	0
29	914	06.16	延喜	14 05.15		始徒伊勢九社, 遣使奉幣, 到八省行事,	雨乞いの可能性が高いが、断定できない。	48	0
30	914	06.18	延喜	14 05.17	干ばつ2A	定祈雨御読経僧名,	雨乞い自体を行ったわけではないが、この時点で雨乞いが必要な状況(少雨)が継続していることは明らか。	48	0
31	914	06.20	延喜	14 05.19	干ばつ2A	祈雨御読経,		48	0
32	914	09.29	延喜	14 09.02	長雨2A	奉幣雨師二社, 祈晴,	延喜15年~17年は欠落。	50	0
33	918	08.27	延喜	18 07.13	長雨2A	奉幣師二社, 為祈年止雨也,	延喜15年~17年は欠落。	56	0
34	918	11.21	延喜	18 10.10		震宮始御馬, 為徒北野行幸也,		58	0
35	919	02.12	延喜	19 01.04		大饗, 今日依雨濕不列立, 徒東階就座, 予在西妻庇, 見客入徒簀子出逢,		60	0
36	919	02.15	延喜	19 01.07		節会如例, 但雨儀也, 諸司失礼甚■,		60	0
37	919	07.09	延喜	19 06.05		定祈■使, 暁本命祭,	東京大学史料編纂所(1956)によると、■■は「雨幣」?	63	0
38	919	07.10	延喜	19 06.06	干ばつ2A	奉幣諸社祈雨, (後略),		63	0
39	919	07.21	延喜	19 06.17	干ばつ2A	祈雨御読経諸社寺行,		63	0
40	919	07.26	延喜	19 06.22	干ばつ2A	參八省, ■御幣事, 為祈雨也,	東京大学史料編纂所(1956)によると、■■は「伊勢」?	64	0
41	919	08.01	延喜	19 06.28	干ばつ2A	郡司召, 定臨時御読経請僧, 奉幣龍穴, 於神泉苑, 修請雨經法,	雨乞い自体を行ったわけではないが、この時点で雨乞いが必要な状況(少雨)が継続していることは明らか。	64	0
42	919	08.03	延喜	19 06.30	干ばつ2A	為祈雨, 有御読経經事,		64	0
43	919	08.07	延喜	19 07.04	干ばつ2A	奉幣祈雨諸神,		64	0
44	919	08.08	延喜	19 07.05	干ばつ2A	請雨■■了,	東京大学史料編纂所(1956)によると、■■は「經法」?	64	0

45	919	08.09-08.11	延喜	19	07.06-07.08		六七八日, 雨降,		64	0
46	919	08.11	延喜	19	07.08		終夜快降,		64	0
47	919	08.29	延喜	19	07.26	干ばつ1A	相撲召合, 但無音楽, 依旱也,		65	0
48	920	01.30	延喜	20	01.02		宴会, 但雨儀, (後略),		69	0
49	920	03.11	延喜	20	02.13		令意師祈曹陽事,		71	0
50	920	03.29	延喜	20	03.02	干ばつ2A	意師例供始, 定乞雨幣使,		71	0
51	920	04.02	延喜	20	03.06	干ばつ2A	乞雨幣使立,		71	0
52	920	04.24	延喜	20	03.28	霜1A	霜,		72	0
53	920	08.29	延喜	20	07.08	干ばつ2A	仰齋主令祈甘雨, 又令読経龍穴, 使国司奉幣,		75	0
54	920	09.03	延喜	20	07.13	干ばつ2A	依召參入, 定祈雨,		75	0
55	920	09.04	延喜	20	07.14	干ばつ2A	祈雨使立, 心神不調不參, 仍令右將軍行之,		75	0
56	920	09.05	延喜	20	07.15	雷1A	大雲雨,	東京大学史料編纂所(1956)によると、「雲」は「雷」?	75	0
57	920	10.11	延喜	20	08.22	長雨2A	止雨奉幣使立雨師二二社, 又齋王薨由, 申賀茂, 令氏河臨,		76	0
58	921	01.13	延喜	20	11.27		雪, (後略),	延喜21年(921)~延長1年(923)は欠落。	79	0
59	924	02.13	延長	2	01.01		雪降, 節会如常, 雨儀也,	延喜21年(921)~延長1年(923)は欠落。	81	0
60	924	02.15	延長	2	01.03		依雨停止行幸,		81	0
61	924	04.18	延長	2	03.07		今日可有行幸, 而依雨停止,		83	0
62	924	06.16	延長	2	05.07	大雨1A・洪水1A	山座主於法性寺修善始行, 大雨降, 洪水出,		86	0
63	924	12.31	延長	2	11.28	雷1A	參詣法性寺, 新造四井安置南堂, 鐘上楼上, 今日雷鳴, 造并始日又雷鳴, 師達云, 初後有此事, 感応云々, 三僧念誦始,		92	0
64	925	04.13	延長	3	03.13		河臨, 一瀬, 依雨也,		98	0
65	925	06.23	延長	3	05.25	干ばつ2A	令齋主祈雨者,		100	0
66	925	06.24	延長	3	05.26		徒曉雨降,		100	0
67	925	08.24	延長	3	07.27	干ばつ2A	參, 有奏・申文等, (中略), 如先坊時可着定了, 於東大寺, 集七大寺僧, 徒今日三个日行祈雨読経事,		102	0
68	925	08.28	延長	3	08.02		小雨,		102	0
69	925	08.29	延長	3	08.03		雨降,		102	0
70	925	08.30	延長	3	08.04		雨降,		102	0
71	925	09.06	延長	3	08.11	雷1A	清凉殿有御読経事, 中宮御修善於五条院行, 宿津師, 雷鳴,		103	0
72	925	09.07	延長	3	08.12	雷1A	雷鳴,		103	0
73	926	02.20	延長	4	01.01		節会如例, 但雨儀,		110	0
74	926	02.26	延長	4	01.07		節会如例, 依物忌七寺誦経, 今日雨儀,		110	0
75	926	03.07	延長	4	01.16		節会如例, 三寺誦経, 御物忌, 次侍徒七人補, 但雨儀,		110	0
76	926	05.22	延長	4	04.03	雷1A	震宮有煩給,		114	0
77	926	06.24	延長	4	05.07		有申文, 依仰行賑給事, 其料用左右京職倉錢・常平所遣殺等, 又停防河使, 付檢非遣使, 此事仰左大弁,		115	0
78	926	08.08	延長	4	06.22	雷1A	除目前坊御服, 依有震宮不予之事, 子剋參入, 丑剋退出, 依穢不着座,		116	0
79	926	09.02	延長	4	07.18		徒夕風吹, 終夜不休,		117	0
80	926	09.03	延長	4	07.19	大雨1A・暴風1A	風雨大吹, ■祈年穀幣使,	東京大学史料編纂所(1956)によると, ■は「定」?	117	0
81	926	09.16	延長	4	08.02	長雨2A	定止雨幣使,		118	0
82	926	09.17	延長	4	08.03	長雨2A	止雨幣使立, 有申文,		118	0
83	926	09.19	延長	4	08.05	長雨1A	定御読経講僧, 召神祇官・陰陽寮等令卜雨不止崇, 召造住吉社使, 可問勘遲造之由, 又可祈魚住神官符事, 仰左大弁,		118	0
84	926	09.20	延長	4	08.06	長雨2A	定止雨幣使,		118	0
85	926	09.21	延長	4	08.07	長雨2A	定祈止雨幣使事,		118	0
86	926	09.29	延長	4	08.15	長雨2A	依召參入, 定行伊勢大神宮饗事, 又止雨事等,		119	0
87	926	09.30	延長	4	08.16	大雨1A	三寺誦経, 行幸六条院, 午後雨降, 但還之間不雨, 北到建春門大雨, 今夜還御時不鈴奏, 依雨,		119	0
88	926	10.14	延長	4	08.30		參弘徽殿, 依震宮不予也,		119	0
89	926	11.12	延長	4	10.29		除目, 雨, 講了, (後略),		121	0
90	927	02.03	延長	4	12.23		公私荷前, 依雨御坐儲宜陽殿西廂, (後略),		123	0
91	927	02.27	延長	5	01.18		賭弓, 依雨止,		124	0
92	927	06.12	延長	5	05.05		節会如例, 但依雨濕無謝坐酒礼, (後略)		127	0
93	927	07.25	延長	5	06.19	干ばつ2A	定祈雨使, 又有直物,		128	0
94	927	07.31	延長	5	06.25	干ばつ2A	枇杷奏狀返給, 常平・祈雨等事, 可早被行之状, 令実頼朝臣奏, 仍被行矣,		128	0
95	927	08.03	延長	5	06.28	暴風1A	子時許右衛門佐宅出来失火, 東風吹来, 風■家其危也, 仍石・賀・春・角・長・清・広・法祈禱, 登時風止,	東京大学史料編纂所(1956)によると, ■は「下」?	128	0

96	927	08.05	延長	5	07.01	干ばつ2A	可重祈雨事，令平頭奏之，季御読経・諸大寺等読経也。		128	0
97	927	08.09	延長	5	07.05	干ばつ2A	季御読経，於八省行，祈雨修法，神泉行之。		128	0
98	927	08.10	延長	5	07.06	干ばつ2A・雷1A	請七大寺僧於東大，仏前，三个日，又延曆及有供諸寺，読経祈雨，雷雨。	原文は16日であるが，前後の日時から錯簡と判断し修正した。	128	0
99	927	08.11	延長	5	07.07		雨。		128	0
100	927	08.26	延長	5	07.22	大雨1A	甚雨。	延長6年～8年(928～930)は欠落。	129	0
101	931	02.04	承平	1	01.09	大雪1A	白雪満庭，雪見参取女官，先度只取男官，不取女官故也。		134	0
102	931	02.09	承平	1	01.14		論議如例，風吹。		134	0
103	931	02.10	承平	1	01.15		雪。		134	0
104	931	02.11	承平	1	01.16		雪，入夜余入，宿侍。		135	0
105	931	02.12	承平	1	01.17		雪，神実道始，(後略)。		135	0
106	931	02.23	承平	1	01.28	雷1A	又可春米国等勅事，仰左中弁，依病不能行除日事之状，令同弁奏院，雷鳴。		135	0
107	931	03.09	承平	1	02.13	雷1A	園韓神，依有穢疑，問定間停止，雷鳴陣起，左右大将依病不参入，仍参入，积陣，修明門前樹霹靂。		136	0
108	931	03.25	承平	1	02.29		朝小雪，又開始地震音，(後略)。		138	0
109	931	04.10	承平	1	03.15	雷1A	(前略)，付左中弁奏奏，雷鳴。		139	0
110	931	05.14	承平	1	04.19		雨，警固召仰，念珠莖可仰是行。		141	0
111	931	05.25	承平	1	05.01	干ばつ2A	有官奏，左中弁，民部卿来，陣定祈雨使。		142	0
112	931	05.26	承平	1	05.02	干ばつ2A	出陣定祈雨使，又有申文。		142	0
113	931	05.27	承平	1	05.03	干ばつ2A	祈雨幣使立，今日雨降，終夜不休，左金行事。		142	0
114	931	06.16	承平	1	05.23	長雨1A	大嘗行事始，令齊主祈申止霖雨可無損害之状，檢前例，嘉祥四年・元慶九年等五月霖雨之間，有奉幣雨師二社祈止雨事，而依宮中穢，不能奉幣。		143	0
115	931	06.30	承平	1	閏05.07	長雨1A	有官奏，公忠朝臣，使作正倉垣破事，依霖雨久降，諸人多愁，令占若有崇歟，占申云，依穢良坤方神社所到歟者，遣檢非違使令見檢。		144	0
116	931	07.26	承平	1	06.04		京辺七社遣名僧，始自今日三个日読経奉拜，令祈御息災，虹立承明門下。		145	0
117	931	08.03	承平	1	06.12	干ばつ2A	幣使之間，雨快下，臨時使立，是為吉，白虹恠可慎給，又有天文署兼祈雨等也，右大将為上，宜陽殿板敷鳴恠，可慎子午年公卿。	東京大学史料編纂所(1956)によると、「畧」は「異」?	145	0
118	931	10.29	承平	1	09.11	雷1A	雷鳴，虹立左近陣並桜樹下。		147	0
119	932	06.12	承平	2	05.01		日食，雨。		155	0
120	932	07.27	承平	2	06.16	干ばつ2A	祈雨幣使立。	承平3年～7年(933～937)は欠落。	156	0
121	938	07.23	天慶	1	06.19	暴風1A	風大吹，徒暮雨快降。	承平3年～7年(933～937)は欠落。	172	0
122	938	07.24	天慶	1	06.20	洪水1A	鴨河水入京中，多損人屋舎・雜物，西堀河以西如海，不能往還，是左右看督使等所申也。		172	0
123	938	10.16	天慶	1	09.15		地震，齊王出徒八省之後，微雨，(後略)		176	0
124	938	12.29	天慶	1	11.30		徒屋微雨，(後略)		179	0
125	939	05.11	天慶	2	04.15	大雨1A・洪水1A	賀茂祭，終日雨下，齊日参向，河水之反出，渡人有煩云々，(後略)		186	0
126	939	07.05	天慶	2	06.11	干ばつ2A	付月次祭使有臨時幣，王使相加也，是為祈甘雨，又申天変之事等也，神今食付所司令行，縁欲幸中院，西方塞也。		189	0
127	939	07.06	天慶	2	06.12	干ばつ2A	祈雨諸社使立，宣命辭別有天変事。		189	0
128	939	07.09	天慶	2	06.15		未時虹處々立，内膳・左衛門陣前・作物所云々。		189	0
129	939	07.14	天慶	2	06.20	干ばつ2A	臨時読経於大極殿修之，為祈甘雨・年穀並天下平安也。		189	0
130	939	07.17	天慶	2	06.23	干ばつ2A	曉地震，御読経今日可結願，而依不雨，延二日。		189	0
131	939	07.22	天慶	2	06.28	干ばつ2A	宣旨給相弁，又下経基告状，外記勘申祈雨例，暫付相弁。		189	0
132	939	07.25	天慶	2	07.02	干ばつ2A	為祈雨，令陰陽寮修五龍祭，又奉幣上龍穴，又令読経，未時雷雨，伊勢守繁時依肥後功課叙正五位下，去正月可有此，而依一年調庸惣返抄不請不叙，然而准據前例，今日叙之，又有愁申也。		189	0
133	939	07.28	天慶	2	07.05	干ばつ2A	祈雨御読経始，海津修法始，藏人祭山法間候為東乱也。		190	0
134	939	07.31	天慶	2	07.08	干ばつ2A	令相職朝臣告民部卿云，祈雨事重定行者，晚頭使外記公忠宿祢送神祇・陰陽等占卜文云々，左右隨命者，報曰，先度祈不入諸社可祈申。		190	0
135	939	08.01	天慶	2	07.09	干ばつ2A	左右獄所未斷囚人輕犯者合放免之，奉幣諸社，為祈雨也，是依昨夕報旨所行也。		190	0
136	939	08.02	天慶	2	07.10	干ばつ2A	十五大寺・延曆寺並有供寺，徒明徒日轉読仁王經三箇日間，可祈甘雨之状，令仰綱所。		190	0
137	939	08.04	天慶	2	07.12	干ばつ2A	徒今日三箇日読経祈雨。		190	0
138	939	08.05	天慶	2	07.13	干ばつ2A	呼相職朝臣，祈雨事又々可定行状，合告上達部。		190	0

139	939	08.07	天慶	2	07.15	干ばつ2A	出羽馳駅言上賊戰行事, 季御読経, 徒大極殿始行, 是為祈雨所早修也, 令山座主修尊勝法, 同請雨也, 廿一僧也,		190	1
140	940	07.13	天慶	3	06.01		日食, 陰雨不見,	天慶3年7月~7年(940~944)は欠落。	207	0
141	945	02.26	天慶	8	01.07		節会, 雨儀, 有叙位, 太弟不参上, 今日不賜祿,	天慶3年7月~7年(940~944)は欠落。	210	0
142	945	06.15	天慶	8	04.28	干ばつ1A	(前略)又来云, 雨不降, 耕作可有妨, 仍欲祈雨兩社, 可有中宮・東宮御修善, 僧等未参以前行神事何者, 依公卿定申被行宜乎, 可奏此旨云々,		215	0
143	945	08.16	天慶	8	07.01	干ばつ2A	令藏人仲陳可被祈雨之状漏奏, 即付延喜年中祈雨外記日記勘文,		217	0
144	945	08.17	天慶	8	07.02	干ばつ1A	大納言奉仰, 令神祇・陰陽官寮卜占, 不雨日久, 若有崇欺云々,		217	0
145	945	08.20	天慶	8	07.05	干ばつ2A	極楽寺蓮花会事, 左大丞殿行音楽事, 自余事左衛門督行之, 依陰陽寮占申, 奉賀茂・稻荷二社祈雨, 大納言行事,		218	0
146	945	08.27	天慶	8	07.12		雨降, 可謂甘雨,		218	0
147	946	01.30	天慶	8	12.20		(前略)荷前, 雨儀, 御仏名始,		224	0
148	946	06.21	天慶	9	05.15	干ばつ2A	(前略)上幸八省院奉幣伊勢並諸社祈雨, 又京畿七道明神依前例告即位之由,		230	0
149	946	07.20	天慶	9	06.14	長雨2A	(前略)又有御読経事, 中使公輔云々, 霖雨御占文等, 乾良方神崇者,		231	0
150	946	07.22	天慶	9	06.16	長雨2A	令神祇祐大中臣頼行, 祈申伊勢・石清水・貴布祢社崇, 辞関白表上中務省, 中使隨時頼臣将来弘徽殿祿法文, 又霖雨■文等, 又神祇官卜有伊勢大神宮等崇事, 除目事十九日何云々,	東京大学史料編纂所(1956)によると, ■は「占」?	232	0
151	946	08.15	天慶	9	07.11	長雨2A	中使守正来云, 明日為奉止雨報幣, 欲御八省, 女藏人少数幸否,		233	0
152	947	02.12	天曆	1	01.14		空中有聲如雷鳴, (後略)		242	0
153	947	07.28	天曆	1	07.03	大雨1A・暴風1A	徒午徒風雨猛列, 舍屋顛倒,	東京大学史料編纂所(1956)によると, 「徒午徒」は「徒午後」?	246	0
154	948	06.03	天曆	2	04.18	強風1A	賀茂祭, 奉幣如例, 使典侍灌子出宅門之間, 颯風大起, 前驅之中, 有落馬脱冠者云々,		256	0
155	948	06.12	天曆	2	04.27	干ばつ2A	中使公輔朝臣来, 為乙兄病有恩問, 又曰, 近日雨不降, 有病事間, 依之有奉幣・読経等事, 此外又可修何態乎, 修法々師等給慶者何, 省試判事行之何云々,		257	0
156	948	06.17	天曆	2	05.03	干ばつ2A	幸八省院, 奉幣諸社, 為祈雨等也,		257	0
157	948	06.23	天曆	2	05.09	干ばつ2A	乙兄代度者名簿付公輔朝臣令奏, 雨師二社奉幣馬祈, 右大臣奉勅令問省試判不署博士,		257	0
158	948	06.25	天曆	2	05.11	干ばつ2A	祈雨宣命使奉遣五陵, 中使公輔朝臣来, 有賜未断囚人勘文, 強竊二盜嫌疑者・闘乱等雜犯者台十七人可免事, 又近郊保事如何可為乎, 極可哀憐者也,		257	0
159	948	06.27	天曆	2	05.13	干ばつ2A	(前略)縁僧綱奏狀欺, 朱雀院差法師等奉遣八幡・賀茂等, 令祈甘雨・年穀始自今日五个日也,		257	0
160	948	06.28	天曆	2	05.14	干ばつ2A	右大臣定臨時御読経僧名, 又仰可修請雨經法事, 寛空律師為阿闍梨者,		258	0
161	948	06.30	天曆	2	05.16	干ばつ2A	一分召, 於卿家行之, 大極殿行臨時御読経, 神泉苑可修請雨經法, 而降雨, 止請雨經法, 於真言院令修孔雀經法, 亥刻鹿四頭走廻延休堂壇上者,		258	0
162	948	07.15	天曆	2	06.02	干ばつ2A	使公輔朝臣奏可被祈雨事之状,		259	0
163	948	07.16	天曆	2	06.03	干ばつ2A	十一社並龍穴神等遣僧綱以下, 又七大寺僧集東大寺大仏殿可祈雨事, 仰按察中納言者, 可造道守,		259	0
164	948	07.18	天曆	2	06.05	干ばつ2A	祈雨読経, 徒今日始行, 三个日,		259	0
165	948	07.19	天曆	2	06.06	雷1A	雷鳴白雨, 陣立, (後略)		259	0
166	948	07.25	天曆	2	06.12	干ばつ2A・雷1A	奉幣諸社, 祈甘雨也, 使立之後雷鳴雨降, 無幾止, (後略)		259	0
167	948	08.19	天曆	2	07.07	雷1A	暁雷大鳴, 又降雨, 陣立, 右大臣参入, 有勅計,		260	0
168	948	09.08	天曆	2	07.27	大雨1A・暴風1A	夜大風雨, 屋舍多顛倒, 死人有数云々,		261	0
169	948	09.09	天曆	2	07.28	暴風3	分遣諸衛官人於諸司, 令実檢風損官舎,		261	0
170	949	01.28	天曆	2	12.22		荷前, 雨儀,		265	0

10. 大日本史（本紀）

(1) ページは下記による。

No. 1～1374：吉川弘文館発行 1911『大日本史 一』

No. 1375～1961：吉川弘文館発行 1911『大日本史 二』

(2) 地域（“L”列）は下記による。

0：近畿地方中部

1：近畿地方中部以外

大日本史

No.	グレゴリイ暦		和暦			項目	記載内容	備考	該当箇所		L
	年	月日	年号	年	月日				巻	頁	
1	567	-	欽明	28	-	洪水1C	郡国大水, 饑, (後略)		87	7	0
2	601	06.09-07.08	推古	9	05	大雨1B・洪水1B	天皇居耳梨行宮, 時大雨, 河水汎溢,		96	8	0
3	616	01.27-02.25	推古	24	01		桃李実,		99	8	0
4	617	-	推古	25	-		是歳, 五穀登,		99	8	0
5	623	02.08-10.31	推古	31	春-秋	長雨1C・洪水1C	是歳, 自春至秋, 霖雨大水, 五穀不登,		100	8	0
6	626	02.05-03.06	推古	34	01		桃李華,		101	8	0
7	626	04.05-05.04	推古	34	03	霜1B	隕霜,		101	8	0
8	626	07.03-07.31	推古	34	06		雪,		101	8	0
9	626	04.05-08.30	推古	34	03-07	長雨1B	三月至七月霖雨, 天下大饑, (後略)		101	8	0
10	628	05.26	推古	36	04.15	ひょう1A	辛卯, [本書曰, 夏四月壬午朔, 今推甲子, 四月丁丑朔, 蓋有錯誤,]雨雹, 大如桃子,		101	8	0
11	628	05.27	推古	36	04.16	ひょう1A	壬辰, 又雨雹,		101	8	0
12	628	02.13-08.08	推古	36	春-夏	干ばつ1C	春夏連旱,		101	8	0
13	636	06.12-07.11	舒明	8	05	長雨1B・洪水1B	霖雨大水,		103	8	0
14	636	-	舒明	8	-	干ばつ1C	是歳, 大旱, 天下飢,		104	8	0
15	638	09.05	舒明	10	07.19	暴風1A	大風折木斃屋,		104	8	0
16	638	10.16-11.14	舒明	10	09	長雨1B	霖雨, 桃李華,		104	8	0
17	639	02.23	舒明	11	01.12	雷1A	無雲而雷,		104	8	0
18	639	03.05	舒明	11	01.22	大雨1A・強風1A	大風雨,		104	8	0
19	642	04.10	皇極	1	03.03	雷1A	無雲而雷,		107	9	0
20	642	05.15	皇極	1	04.08	長雨1A	霖雨踰月不止,		107	9	0
21	642	06.06-07.05	皇極	1	05		是月, 有稻熟,		107	9	0
22	642	07.06-08.03	皇極	1	06	干ばつ1B	大旱,		107	9	0
23	642	09.04	皇極	1	08.01	干ばつ2A・雷1A	天皇幸南淵河上, 跪拜四方, 仰天而祈, 雷雨, 忽至, 遂雨五日, 遍于諸国, (後略)		107	9	0
24	642	11.01-11.29	皇極	1	10		是月, 無雲而雨,		107	9	0
25	642	11.01-01.28	皇極	1	冬	雷1C・高温1C	是冬, 数雷雨, 暖煦如春,		107	9	0
26	643	02.07	皇極	2	01.10	強風1A	大風,		107	9	0
27	643	03.23	皇極	2	02.25	ひょう1A	雨雹,		108	9	0
28	643	04.22	皇極	2	03.25	霜1A	隕霜, 傷草木,		108	9	0
29	643	03.29-04.26	皇極	2	03	強風1B・雷1B・ひょう1B	是月, 雨雹, 風雷厲作,		108	9	0
30	643	05.03	皇極	2	04.07	強風1A	大風,		108	9	0
31	643	05.16	皇極	2	04.20	ひょう1A・低温1A	雨雹, 凍寒, 人襲綿衣,		108	9	0
32	643	05.21	皇極	2	04.25	ひょう1A	近江国言, 雨雹, 徑一寸許,		108	9	0
33	643	11.08	皇極	2	09.19	ひょう1A	是日雨雹,		108	9	0
34	652	05.25	白雉	3	04.09	長雨1A・大雨1A・洪水1A	大雨九日, 洪水壞屋傷稼, 人畜多死,		117	9	0
35	666	08.09-09.06	丙寅年	-	07	洪水1B	大水, 因免除今秋租調,		126	10	0
36	663	08.12-11.08	天智	2	秋	雷1C	是秋, 震内臣中臣鎌足第,		128	10	0
37	664	07.26	天智	4	06.25	雷1A・低温1A	(前略)既而雷雨暴寒, (後略)		137	11	0
38	674	09.30	天武	3	08.22	暴風1A	大風,		142	11	0
39	675	05.03-07.30	天武	4	夏	干ばつ1C	是夏大旱, 五穀不登, (後略)		143	11	0
40	675	09.28	天武	4	09.01		雨不告朔,		144	11	0
41	676	06.20-07.18	天武	5	05	干ばつ1B	是月, 旱, 京畿雩,		144	11	0
42	677	01.12	天武	5	12.01		雪不告朔,		145	11	0
43	677	05.22	天武	6	04.13	雷1A	震新宮西庁,		145	11	0
44	678	06.28	天武	7	06.01	ひょう1A	雨雹,		146	11	0
45	678	07.20	天武	7	06.23	干ばつ2A	雩,		146	11	0
46	678	08.01	天武	7	07.06	干ばつ2A	又雩,		146	11	0
47	679	03.10	天武	8	01.20		撰津国, 活田村桃李実,		146	11	0
48	679	07.24	天武	8	06.08		雨灰,		147	11	0
49	679	08.19	天武	8	07.05	干ばつ2A	是日雩,		147	11	0
50	679	09.18	天武	8	08.05	洪水1A	大水,		147	11	0
51	679	09.27	天武	8	08.14	暴風1A	大風折樹斃屋,		147	11	0

大日本史

52	679	12.20	天武	8	11.10	雷1A	雷,		147	11	0
53	680	07.21	天武	9	06.17	干ばつ2A	霧,		148	11	0
54	681	08.19	天武	10	07.27	暴風1A・霜1A	信濃吉備並言, 隕霜大風, 五穀不登,		149	11	1
55	681	08.07	天武	11	07.15	干ばつ2A	霧,		150	11	0
56	682	09.11-10.09	天武	11	08	干ばつ1B	是月, 以久不雨, 使百濟僧道藏祈之,		150	11	0
57	682	10.11	天武	11	09.02	暴風1A	大風,		150	11	0
58	683	07.06	天武	12	06.04	干ばつ2A	霧,		151	11	0
59	684	03.25-04.22	天武	13	03		信濃雨灰,		152	11	1
60	686	04.11	朱鳥	1	03.10		雪,		154	11	0
61	688	08.15	持統	2	07.11	干ばつ2A	大霧,		158	12	0
62	688	08.24	持統	2	07.20	大雨1A・干ばつ2A	(和暦7月20日/グレゴリア暦8月24日)命百濟僧道藏請雨, 是日大雨,		158	12	0
63	690	06.07	持統	4	04.22	干ばつ2A	祈雨,		161	12	0
64	691	05.06-08.02	持統	5	夏	長雨1C	(和暦6月)詔曰, 今夏淫雨過節, (後略)		162	12	0
65	691	05.06-07.23	持統	5	04-06.20	長雨1B・洪水1B	(和暦6月20日)自四月雨, 至是月不止, 京師及郡國四十大水,		162	12	0
66	692	06.09	持統	6	05.17	干ばつ2A	遣大夫謁者祭名山岳洗祈雨,		163	12	0
67	692	06.25	持統	6	閏05.03	洪水1A	大水, 遣使巡行郡國, (後略)		164	12	0
68	692	08.01	持統	6	06.11	干ばつ2A	遣大夫謁者於四畿內祈雨,		164	12	0
69	693	05.30	持統	7	04.17	干ばつ2A	遣大夫謁者祈雨諸社,		165	12	0
70	693	08.23	持統	7	07.14	干ばつ2A	遣大夫謁者祈雨諸社,		165	12	0
71	695	07.22	持統	9	06.03	干ばつ2A	遣大夫謁者, 祈雨於京畿諸社,		167	12	0
72	697	06.05	持統	11	05.08	干ばつ2A	遣大夫謁者, 祈雨諸社,		168	12	0
73	698	06.15	文武	2	04.29	干ばつ2A	奉馬芳野水分峯神祈雨,		171	13	0
74	698	06.17	文武	2	05.01	干ばつ2A	奉幣諸社祈雨,		171	13	0
75	698	06.21	文武	2	05.05	干ばつ2A	祈雨京畿名山大川,		171	13	0
76	698	08.12	文武	2	06.28	干ばつ2A	奉馬諸社祈雨,		171	13	0
77	698	10.19	文武	2	09.07	暴風1A	下総大風,		172	13	1
78	701	05.21	大宝	1	04.15	干ばつ2A	奉幣諸社, 祈雨名山大川, 罷田領, 委國司巡檢,		175	13	0
79	701	08.07	大宝	1	06.25	干ばつ2A	令四畿內祈雨, 免今年調,		175	13	0
80	701	09.24	大宝	1	08.14	暴風1A・高潮1A	播磨淡路紀伊言, 大風, 海溢, 傷損田畝, (後略)		176	13	0
81	701	10.01	大宝	1	08.21	暴風1A	三河, 遠江, 相模, 近江, 信濃, 越前, 佐渡, 但馬, 伯耆, 出雲, 備前, 安芸, 周防, 長門, 紀伊, 讚岐, 伊予, 大風, 免屋損稼,		176	13	0
82	702	09.05	大宝	2	08.05	暴風1A	駿河下総大風,		177	13	1
83	702	09.08	大宝	2	08.08	雷1A	震日本武尊墓, 遣使祭之,		177	13	1
84	703	09.06	大宝	3	07.17	干ばつ2A	近江山焚, 遣使祈雨名山大川,		179	13	0
85	704	08.01	慶雲	1	06.22	干ばつ2A	奉幣諸社祈雨,		180	13	0
86	704	08.17	慶雲	1	07.09	干ばつ2A	遣使祈雨諸社,		180	13	0
87	704	10.05	慶雲	1	08.28	暴風1A	周防大風損稼,		180	13	1
88	704	11.10	慶雲	1	10.05	干ばつ1A	詔以旱澇不稔, (後略)		180	13	0
89	705	01.23	慶雲	1	12.20	暴風1A	太宰府言, 大風傷稼,		181	13	1
90	705	07.26	慶雲	2	06.27	干ばつ2A	奉幣諸社祈雨,		181	13	0
91	705	07.28	慶雲	2	06.29	干ばつ1A	太政官奏, 比日亢旱, (後略)		181	13	0
92	705	08.26	慶雲	2	07.29	暴風1A	大倭大風,		181	13	0
93	705	09.07	慶雲	2	08.11	干ばつ1A	詔曰, 陰陽失度, 炎旱弥旬, (後略)		181	13	0
94	706	07.22	慶雲	3	06.04	干ばつ2A	祈雨京畿名山大川,		183	13	0
95	706	09.13	慶雲	3	07.28	干ばつ1A	太宰府言, 九國三島亢旱, 大風, 拔樹損稼, (後略)		183	13	1
96	707	06.29	慶雲	4	05.21	長雨1A	畿內霖雨損苗, 遣使賑貸,		184	13	0
97	708	08.08	和銅	1	07.14	長雨1A・暴風1A	隱岐霖雨大風, 遣使賑恤,		187	14	1
98	709	07.05	和銅	2	05.20	長雨1A	河内摂津山背伊豆伊甲斐霖雨損苗,		188	14	0
99	709	07.31	和銅	2	06.16	干ばつ2A	遣使畿內霽,		188	14	0
100	710	05.28	和銅	3	04.22	干ばつ2A	奉幣諸社, 祈雨名山大川,		189	14	0
101	711	-07.15	和銅	4	夏-06.21	干ばつ1C	(和銅4年6月21日/711年7月15日)詔曰, 去年霖雨, 麥穗既傷, 今夏亢旱, 稻苗殆損, (後略)		189	14	0
102	713	09.22	和銅	6	08.24	暴風1A	大風拔木斃屋,		193	14	0
103	713	11.27	和銅	6	11.01	暴風3	伊賀伊勢尾張三河出羽言, 大風損稼, 免調庸,		194	14	0
104	714	08.11	和銅	7	06.23	干ばつ1A	詔曰, 頃者陰陽舛謬, 氣序乖違, 南畝方興, 膏澤未降, 宜以幣帛奉諸社, 祈雨名山大川, 庶致嘉澍, 忽虧農桑,		194	14	0
105	714	11.16	和銅	7	10.01	暴風3	美濃武蔵下野伯耆播磨伊予大風, 免今年租調,		194	14	0
106	715	07.21	和銅	8	06.12	干ばつ1A	太政官奏上, 懸象失度, 亢旱弥旬, (後略)		196	14	0
107	715	07.22	和銅	8	06.13	干ばつ2A	(前略)祈雨名山大川, 不數日澍雨滂沱, (後略)		196	14	0
108	716	02.02	靈龜	2	01.01		以雨廢朝,		200	15	0
109	716	05.12	靈龜	2	04.13	あられ1A	雨霰,		200	15	0
110	717	06.04	養老	1	04.17	干ばつ1A	祈雨畿內,		201	15	0

大日本史

111	717	05.19-08.14	養老	1	04-06	干ばつ1B	(和暦6月)自四月不雨至是月,		201	15	0
112	719	01.29	養老	3	01.01	強風1A	以大風廢朝,		203	15	0
113	720	02.27	養老	4	01.11		白虹竟天,		204	15	0
114	722	02.12	養老	6	01.18	雷1A	雷,		208	15	0
115	722	08.27	養老	6	07.07	干ばつ1A	詔曰,陰陽錯謬,炎旱頗臻,由是奉幣名山,奠祭神祇,甘雨未降,(後略)		208	15	0
116	722	05.24-08.20	養老	6	夏	干ばつ1C	(和暦7月19日/グレゴリヲ曆9月8日)(前略)是以今夏無雨,(後略)		208	15	0
117	722	06.22-09.18	養老	6	05-07	干ばつ1B	(和暦7月)自五月不雨至是月,		209	15	0
118	722	-	養老	6	08.14	干ばつ1C	(和暦8月14日/グレゴリヲ曆10月2日)以今年少雨,禾稻不熟,詔免天下諸国田租,		209	15	0
119	724	02.04	養老	8	01.01		以雨廢朝,		210	15	0
120	726	-	神龜	3	-	洪水1C	是歲,尾張飢,遠江水,賑貸三年,		215	16	1
121	727	01.31	神龜	4	01.01		以雨廢朝,		215	16	0
122	727	03.14	神龜	4	02.13	強風1A・雷1A	雷雨大風,		215	16	0
123	727	07.17	神龜	4	06.20	暴風1A	颶風折南苑樹,樹花為雉,		216	16	0
124	727	-	神龜	4	-	洪水1C・暴風1C	是歲,安房大風損稼,上総山崩人死,賑恤之,		216	16	1
125	728	02.19	神龜	5	01.01		以雨廢朝,		216	16	0
126	728	07.01	神龜	5	05.16	洪水1A	左右京水損七百餘戸,賜布穀監,		217	16	0
127	728	12.10	神龜	5	11.01	雷1A	雷,		217	16	0
128	730	01.27	天平	2	01.01		以雨廢朝,		218	16	0
129	730	05.22	天平	2	04.27	干ばつ1A	以旱檢校四畿内水陸田,神祇官曹司災,		219	16	0
130	730	05.24	天平	2	04.29	雷1A	震神祇官屋災,		219	16	0
131	730	08.19	天平	2	閏06.27	干ばつ1A	勅比者亢陽稍盛,(後略)	原文は閏4月であるが閏6月に訂正した。	219	16	0
132	730	12.24	天平	2	11.07	強風1A・雷1A	雷雨大風,		219	16	0
133	732	06.23	天平	4	05.23	干ばつ2A	遣使五畿内祈雨,		221	16	0
134	732	08.04	天平	4	07.05	干ばつ1A	令兩京四畿内及二監,依釈氏法請雨,以旱詔赦天下,(後略)		221	16	0
135	732	09.01	天平	4	08.04	大雨1A・暴風1A	大風雨,		221	16	0
136	732	09.24	天平	4	08.27	大雨1A・暴風1A	大風雨,壞民廬舍,及仏寺堂塔,		221	16	0
137	732	-	天平	4	-	干ばつ1C	是歲,旱,稼穡不登,		221	16	0
138	733	01.31	天平	5	01.07	強風1A・雷1A	丙午,雷風,		221	16	0
139	732	-	天平	4	-	干ばつ1C	(天平5年3月2日)以去年炎旱,(後略)		221	16	0
140	737	05.09-06.15	天平	9	04-05.09	干ばつ1B	(和暦5月9日)詔曰,四月以來,旱疫並行,(中略)未得効驗,(後略)		225	16	0
141	737	02.08-09.15	天平	9	春-08.13	干ばつ1C	(和暦8月13日)詔曰,自春以來,炎氣劇發,(後略)		225	16	0
142	741	-	天平	13	-	長雨1C	是歲,佐渡霖雨傷稼,免田租庸調,		230	16	1
143	742	03.08	天平	14	01.23		陸奥言,雨赤雪,		230	16	1
144	742	07.15	天平	14	06.05		夜,京師雨飯,		230	16	0
145	743	04.03-06.13	天平	15	03-05.13	干ばつ1B	(和暦5月13日)自三月不雨至是月,(後略)		232	16	0
146	743	07.23	天平	15	06.24		自酉至戌,宇治河涸,行人揭涉,		232	16	0
147	743	08.03	天平	15	07.05	大雨1A・雷1A	出雲言,楯縫出雲二郡大雷雨,山崩壞廬舍,埋田畝,		232	16	1
148	743	07.30-08.27	天平	15	07	大雨1A・暴風1A	是月,上総大風雨,		232	16	1
149	744	06.19-07.17	天平	16	05	大雨1B・洪水1B・雷1B	肥後雷雨,地震,山崩水溢,人多压溺,賑恤之,		233	16	1
150	744	08.07	天平	16	06.21		雨水,	大雨・洪水の可能性あり。	233	16	0
151	745	06.16	天平	17	05.08	干ばつ2A	(前略)奉幣諸社祈雨,		234	16	0
152	745	08.10	天平	17	07.05	干ばつ2A	祈雨,		234	16	0
153	746	07.27	天平	18	07.01	干ばつ2A	遣使畿内祈雨,		236	16	0
154	746	-	天平	18	-	干ばつ1C	(天平19年2月21日)以去年亢旱,年穀不稔,(後略)		236	16	0
155	747	07.16-08.21	天平	19	06-07.07	干ばつ1B	(和暦7月7日)詔曰,自去六月京師亢旱,(後略)		237	16	0
156	749	01.27-04.24	天平感宝	1	春	干ばつ3	是春,上総飢,下総旱蝗飢饉,石見疫,賑給之,		238	16	1
157	750	07.06	天平勝宝	2	05.24	雷1A	震中山寺塔,京師雨水,	大雨・洪水の可能性あり。	242	17	0
158	753	05.10	天平勝宝	5	03.29	強風1A	設百高座於東大寺,講仁王經,颶風歎起,不能畢講,		243	17	0
159	753	05.20	天平勝宝	5	04.09	強風1A	再講,颶風又発,		243	17	0
160	753	10.09	天平勝宝	5	09.05	暴風1A・高潮1A	摂津大風,海澁壞廬舍,民多漂没,賑恤之,		243	17	0
161	754	12.12	天平勝宝	6	閏10.20	洪水1A	令太宰府鎮祭管内山崩,		244	17	1
162	756	11.16	天平勝宝	8	10.16		白氣貫日,		246	17	0

大日本史

163	756	12.01-12.30	天平勝宝	8	11-12.01	雷1B	(天平勝宝8年12月1日)自去月雷六日,	246	17	0
164	759	02.12	天平宝字	3	01.07		以雨, 停不節宴,	255	18	0
165	759	09.28	天平宝字	3	08.29	暴風1A	太宰府大風,	256	18	1
166	759	10.30-11.27	天平宝字	3	10	暴風1B	京畿大風, 壞廬舍,	256	18	0
167	759	11.29	天平宝字	3	11.02	暴風3	免遭風者今年田租,	256	18	0
168	762	-	天平宝字	6	-	干ばつ1C	是歲, 尾張三河遠江下総美濃能登備中備後讚岐旱, (後略)	260	18	1
169	763	07.17	天平宝字	7	05.28	干ばつ1A	以旱奉幣帛于四畿内諸神,	260	18	0
170	763	-	天平宝字	7	08.01	干ばつ1C	(天平宝字7年8月1日/ケレリイ曆763年9月16日)勅曰, 如聞去歲霖雨, [按本書去年書旱, 不書霖雨蓋闕文也,]今年亢旱, 五穀不熟, (後略)	260	18	0
171	764	05.25	天平宝字	8	04.16	干ばつ1A	以旱遣使奉幣帛於畿内神社,	261	18	0
172	764	08.06-11.01	天平宝字	8	秋	干ばつ1C	(前略)山陽南海二道旱疫,	262	18	0
173	764	-	天平宝字	8	-	干ばつ1C	是歲, 兵旱相仍, 米石千錢,	266	19	0
174	765	04.02	天平神護	1	03.04	干ばつ3	以三河下総常陸上野下野旱, 免今年調庸十之七八,	267	19	1
175	766	07.02	天平神護	2	05.17	干ばつ2A	(前略)畿内群神祈雨,	268	19	0
176	766	07.18	天平神護	2	06.03	暴風1A	日向大隈薩摩大風, (後略)	268	19	1
177	766	10.17	天平神護	2	09.05	暴風3	勅曰, 比見伊勢美濃等国奏, 大風損官舍數多, (後略)	269	19	0
178	767	-	神護景雲	1	-	干ばつ1C	(是歲)(前略)淡路旱饑, (後略)	271	19	0
179	768	04.09	神護景雲	2	03.14	ひょう1A	雨雹,	271	19	0
180	769	02.15	神護景雲	3	01.01		以雨廢朝,	272	19	0
181	770	02.25	神護景雲	4	01.21	暴風3	太宰管内大風壞廬舍, 賑恤之,	273	19	1
182	770	05.04-07.30	神護景雲	4	夏	暴風1C	志摩大風, 美濃霖雨, (後略)	274	19	0
183	770	05.04-07.30	神護景雲	4	夏	長雨1C	志摩大風, 美濃霖雨, (後略)	274	19	1
184	771	08.04	宝龜	2	06.15	干ばつ1A	以旱奉馬於丹生川上神,	278	20	0
185	772	04.05	宝龜	3	02.24	干ばつ1A	以旱奉馬於丹生川上神,	278	20	0
186	772	06.08	宝龜	3	04.29	雷1A	震西大寺西塔,	279	20	0
187	772	07.31	宝龜	3	06.23	干ばつ1A	以旱奉幣帛於畿内諸神,	279	20	0
188	772	09.11	宝龜	3	08.06	大雨1A・暴風1A	是日, 大風雨, 拔樹奔屋,	279	20	0
189	772	10.05-11.03	宝龜	3	09	長雨1B・洪水1B・暴風1B	霖雨大風, 河内堤決,	279	20	0
190	771	06.21-07.20	宝龜	2	05	洪水1B	(宝龜3年10月10日)太宰府言, 去年五月豐速見郡, 山崩洞壅, 民屋漂沒, 免調庸賑給之,	279	20	1
191	772	12.12	宝龜	3	11.10		詔以風雨不調, (後略)	279	20	0
192	773	04.13	宝龜	4	03.13	干ばつ1A	以旱奉馬丹生川上神,	280	20	0
193	773	05.22	宝龜	4	04.23		奉馬丹生川上神,	280	20	0
194	773	05.30	宝龜	4	05.01	干ばつ1A	以旱奉幣畿内諸神,	280	20	0
195	773	05.31	宝龜	4	05.02		雨,	280	20	0
196	773	06.30	宝龜	4	06.02	長雨1A	霖雨,	281	20	0
197	773	09.03	宝龜	4	08.08	長雨1A	霖雨,	281	20	0
198	773	-	宝龜	4	-	暴風1C	(是歲)三河近江飛驒出羽大風, (後略)	281	20	0
199	774	06.09	宝龜	5	04.22	干ばつ1A	以旱奉馬丹生川上神,	281	20	0
200	774	07.21	宝龜	5	06.05		是日, 又奉馬丹生川上神,	281	20	0
201	775	07.31	宝龜	6	06.25	干ばつ1A	以旱奉馬丹生川上神, (後略)	283	20	0
202	775	08.23	宝龜	6	07.19	ひょう1A	雨雹,	283	20	0
203	775	09.25	宝龜	6	08.22	大雨1A・暴風1A	伊勢尾張美濃言, 大風雨, 壞民廬舍, 人畜多死, [本書曰, 三國言, 九月日異常風雨云云, 九月日三字, 疑有謬誤, 日本紀略無此三字, 今徒之,](後略)	283	20	0
204	775	10.03	宝龜	6	08.30	大雨3・暴風3	辛卯晦, 以大風雨誇大祓,	283	20	0
205	775	10.24	宝龜	6	09.21	長雨1A	以霖雨奉白馬及幣於丹生川上畿内諸神,	283	20	0
206	775	11.25	宝龜	6	10.24	大雨3・暴風3	以風雨地震大祓,	284	20	0
207	775	12.08	宝龜	6	11.07	暴風3	太宰府言, 日向薩摩風雨損桑麻, 詔免今年調庸,	284	20	1
208	776	07.12	宝龜	7	06.18	干ばつ1A	以旱大祓于京畿諸国, 奉馬丹生川上神,	284	20	0
209	776	08.11	宝龜	7	07.19	雷1A	震西大寺西塔,	284	20	0

大日本史

210	776	09.04	宝亀	7	08.13	暴風1A	大風,		284	20	0
211	776	10.19	宝亀	7	閏08.28	暴風1A	沓岐島風, 損稼今年調,		284	20	1
212	777	05.20	宝亀	8	04.05	ひょう1A	雨雹,		285	20	0
213	777	05.28	宝亀	8	04.13	雷1A	雨水, 震太政官庁,	大雨・洪水の可能性あり。	285	20	0
214	777	06.26	宝亀	8	05.13	長雨1A	以霖奉馬於丹生川上神,		285	20	0
215	777	09.17	宝亀	8	08.08	長雨1A	以霖奉馬於丹生川上神,		285	20	0
216	777	11.09-02.05	宝亀	8	冬	干ばつ1C	是冬不雨, 井泉皆涸,		286	20	0
217	777	08.12-09.09	宝亀	8	07	大雨1B・暴風1B	(宝亀8年3月3日)土佐言, 去年七月大風雨, 壞廬舍, 人畜流亡, 詔賑給之,		286	20	1
218	779	05.13	宝亀	10	04.19	大雨1A・強風1A	夜, 暴風雨折木発屋,		287	20	0
219	779	09.20	宝亀	10	08.02	大雨3・洪水3	因幡言, 暴雨山崩水溢, (後略)		287	20	1
220	779	-	宝亀	10	-	洪水1C	是歳, 駿河大水飢饉, 賑給之,		287	20	1
221	780	02.15	宝亀	11	01.01		以雨廢朝,		287	20	0
222	781	08.03	天応	1	07.05	干ばつ1A	詔曰, (中略)炎旱経月, (中略)未蒙霈沢, (後略)		293	21	0
223	782	04.09	延暦	1	02.18		空中有声如雷,		294	21	0
224	782	06.05	延暦	1	04.16	干ばつ2A	遣使畿内, 祈雨,		294	21	0
225	782	08.20	延暦	1	07.03	雷1A	雷雨, (後略)		295	21	0
226	784	09.26	延暦	3	09.04	大雨1A・洪水1A	京師大雨, 壞民廬舍, 賑之,		297	21	0
227	784	11.01	延暦	3	閏09.10	洪水3	戊申, 河内茨田郡堤決壊, 兎郡功六万四千余人築之,		297	21	0
228	785	07.11	延暦	4	05.26	干ばつ2A	遣使畿内祈雨,		298	21	0
229	785	-	延暦	4	-	洪水1C	(是歳)(前略)河内洪水, 遠江下総常陸能登大風損稼, 悉賑給之,		299	21	0
230	785	-	延暦	4	-	暴風1C	(是歳)(前略)河内洪水, 遠江下総常陸能登大風損稼, 悉賑給之,		299	21	1
231	788	05.16	延暦	7	04.03	干ばつ2A	遣使畿内祈雨,		301	21	0
232	788	05.23	延暦	7	04.10	干ばつ2A	奉馬於丹生川上神祈雨,		301	21	0
233	788	05.24	延暦	7	04.11	干ばつ1A	勅五畿内, 頃者亢旱累月, (後略)		301	21	0
234	787	11.18-05.29	延暦	7	前冬-04.16	干ばつ1C	自去冬不雨, 亘五月, 是日旱, 天皇沐浴, 出庭親禱, 俄而澍雨, (後略)		301	21	0
235	788	06.14	延暦	7	05.02	大雨1A・干ばつ2A	詔, 宜差使祈雨伊勢神宮, 及七道名神, 是夕大雨,		301	21	0
236	788	11.08	延暦	7	10.02	強風1A・雷1A	雷雨暴風, 壞民廬舍,		301	21	0
237	790	07.11	延暦	9	05.21	干ばつ2A	遣使畿内祈雨,		303	21	0
238	790	07.19	延暦	9	05.29	干ばつ2A	詔奉幣畿内名神, 以祈雨,		303	21	0
239	790	10.29	延暦	9	09.13	干ばつ3	詔曰, (中略)炎旱為災, (中略)宜免京畿今年田租,		303	21	0
240	791	06.15	延暦	10	05.05	干ばつ1A	以諸国旱疫, 停節宴,		305	21	0
241	791	08.04	延暦	10	06.26		奉馬丹生川上神,		305	21	0
242	791	08.09	延暦	10	07.01	干ばつ2A	奉幣畿内名神祈雨,		305	21	0
243	792	06.03	延暦	11	05.06	干ばつ3	以頻年旱災, 停騎射,	「頻年」から特定年を指すものではないと解釈した。	306	21	0
244	792	06.28	延暦	11	06.01	低温1A	天寒如冬, 人或著絮,		306	21	0
245	792	07.19	延暦	11	06.22	大雨1A・洪水1A・雷1A	雷雨大水, 式部省南門倒,		306	21	0
246	792	09.03	延暦	11	08.09	大雨1A・洪水1A	大雨洪水,		307	21	0
247	792	09.05	延暦	11	08.11	洪水1A	行幸赤目崎, 觀洪水,		307	21	0
248	792	09.06	延暦	11	08.12	洪水3	遣使賑恤被水百姓,		307	21	0
249	792	12.17	延暦	11	11.25	大雪1A	大雪, 賜駕輿,		307	21	0
250	793	07.24	延暦	12	06.08	干ばつ2A	祈雨,		308	21	0
251	794	08.13	延暦	13	07.10	雷1A	震于宮城, 及京畿官舍民屋,		309	21	0
252	795	02.11	延暦	14	01.13	大雪1A	大雪, 賜公卿已下綿有差,		309	21	0
253	795	09.02	延暦	14	閏07.11	暴風1A	大風発屋,		310	21	0
254	796	05.30	延暦	15	04.15	ひょう1A	雨雹,		311	21	0
255	796	06.25	延暦	15	05.12	大雨1A・洪水1A	大雨洪水,		311	21	0
256	796	07.17	延暦	15	06.05	洪水1A	甲子, 大和山崩水溢, [日本紀略係甲申]		311	21	0
257	796	09.16	延暦	15	08.07	長雨2A	奉幣畿内諸神祈晴,		311	21	0
258	796	09.16	延暦	15	08.07	洪水3	是日, 賑恤筑後水滂,		311	21	0
259	796	09.10-10.09	延暦	15	08	長雨1B	是月霖雨, 穀価騰躍, 遣使賑給京師,		312	21	0
260	797	09.13	延暦	16	08.14	暴風1A	地震, 暴風,		313	21	0
261	798	07.17	延暦	17	閏05.25	干ばつ2A	祈雨丹生,		314	21	0
262	798	07.25	延暦	17	06.04	干ばつ2A	又祈雨,		314	21	0
263	798	09.13	延暦	17	07.25	長雨2A	奉幣丹生祈晴,		314	21	0
264	798	09.27	延暦	17	08.09	暴風1A	大風壞民廬舍,		314	21	0
265	799	04.14	延暦	18	03.01	雷1A	震民部省廩,		315	21	0
266	799	05.22	延暦	18	04.09	洪水3	以滂水損稼, 檢山城河内摂津貧民, 給正税,		315	21	0
267	799	09.01	延暦	18	07.23	干ばつ3・暴風3	(延暦18年7月23日)以風旱免備中去年租,		316	21	1
268	799	08.20	延暦	18	07.11	高潮1A	(和暦8月5日)常陸言, 去月十一日, 海潮盈涸, 十有五度,		316	21	1

大日本史

269	799	10.14	延暦	18	09.07	暴風1A	暴風壊屋,		316	21	0
270	799	12.13	延暦	18	11.08	洪水3・暴風3	以風水為災, 免淡路今年調庸,		317	21	0
271	800	05.24	延暦	19	04.23	ひょう1A	和泉雨雹, 大如桃子,		317	21	0
272	800	09.10	延暦	19	08.14	長雨2A	祈晴丹生,		318	21	0
273	801	07.05	延暦	20	05.17	干ばつ2A	祈雨丹生,		318	21	0
274	802	02.10	延暦	21	01.01		以雨雪廢朝,		319	21	0
275	803	01.31	延暦	22	01.01		以雨廢朝,		320	21	0
276	803	06.18	延暦	22	05.22	暴風1A	遣唐大使藤原葛野麻呂遭風不得渡海, 還節刀,		320	21	1
277	803	07.17	延暦	22	06.21	長雨2A	祈晴丹生,		320	21	0
278	804	05.13	延暦	23	03.26	長雨3	以霖雨賜五位已上米,	長雨1Aの可能性あり。	321	21	0
279	804	09.21	延暦	23	08.10	暴風1A	暴雨大風, 中院西樓倒,		322	21	0
280	805	08.28	延暦	24	07.26	干ばつ2A	祈雨畿内名神,		323	21	0
281	806	04.19	延暦	25	03.23		日赤無光, (後略)		326	22	0
282	806	09.23	大同	1	08.04	洪水3	免畿内遭水百姓調徭, 賑給七道,		327	22	0
283	806	09.20-10.18	大同	1	08	長雨1B	是月, 霖雨不止, 洪水汎溢, 諸国多被其害,		327	22	0
284	807	06.14	大同	2	05.01	ひょう1A	雨雹,		329	22	0
285	807	08.06	大同	2	06.25	ひょう1A	雨雹,		329	22	0
286	807	11.08-02.03	大同	2	冬		是冬, 鳥雀乳, 桃李華,		330	22	0
287	808	02.04	大同	3	01.01	強風1A・低温1A	以風寒廢朝,		330	22	0
288	808	04.25	大同	3	03.22	砂じん1A	黃雨,		330	22	0
289	808	05.01	大同	3	03.28	砂じん1A	黃雨,		331	22	0
290	808	06.22	大同	3	05.21	干ばつ2A	奉馬於丹生川上祈雨,		332	22	0
291	808	06.24	大同	3	05.23		雨, (後略)		332	22	0
292	809	01.22	大同	3	12.29	洪水3	以遭水, 免伊賀未納稅,		332	22	0
293	809	01.24	大同	4	01.01	強風1A・低温1A	以風寒廢朝,		333	22	0
294	809	07.12	大同	4	05.22	長雨1A	以霖雨賑給京師,		336	23	0
295	809	07.15	大同	4	05.25	長雨2A	祈晴, 松尾鴨御祖別雷等社,		336	23	0
296	809	07.27	大同	4	06.08	干ばつ2A	祈雨丹生川上,		336	23	0
297	809	09.04	大同	4	07.17	干ばつ2A	勅令諸国司齊戒祈雨,		336	23	0
298	809	09.06	大同	4	07.19	暴風1A	大風,		336	23	0
299	809	09.21	大同	4	08.05	暴風1A	又大風,		336	23	0
300	809	10.19	大同	4	09.03	干ばつ3	以旱疫停役諸国脚夫於京師,		336	23	0
301	809	10.21	大同	4	09.05	暴風1A	暴風倒屋,		336	23	0
302	810	06.29	弘仁	1	05.20	長雨2A	遣使丹生川上祈晴,		337	23	0
303	810	08.25	弘仁	1	07.18	大雨2A・洪水2A・暴風2A	是日, 遣使奉幣於畿内名神, 以禱風雨災,		337	23	0
304	810	12.12	弘仁	1	11.08	雷1A	雷,		338	23	0
305	811	10.06	弘仁	2	09.12	暴風1A	大風,		340	23	0
306	811	09.25-10.24	弘仁	2	09		是月, 桃李華,		340	23	0
307	812	08.10	弘仁	3	06.26	干ばつ2A	奉幣畿内名神祈雨,		341	23	0
308	812	08.15	弘仁	3	07.01	干ばつ1A	以旱疫奉幣天下名神,		341	23	0
309	813	07.07	弘仁	4	06.02	洪水3	以遭水, 免石見安芸逋負,		343	23	1
310	813	11.01-11.30	弘仁	4	10	干ばつ3	是月, 以遭風, 免筑後豊前肥前大隈薩摩租調,		343	23	1
311	813	-	弘仁	4	-		是歲, 竹実,		344	23	0
312	814	08.18	弘仁	5	07.25		勅畿内近江丹波等, 旱災之時, 令官長潔齋自祈雨, 立為恒例,		345	23	0
313	815	06.15-09.06	弘仁	6	05-07.25	長雨1B・大雨1B・洪水1B	(和暦7月25日/ケレコ才暦9月6日)詔曰, (中略) 去五月以降, 雨水逆溢, (中略) 左右京畿内, 宜免今年田租,	継続期間から長雨としても集計した。	346	23	0
314	815	09.13	弘仁	6	08.03	長雨2A	遣使於伊勢及賀茂, 奉幣祈晴,		347	23	0
315	815	06.15-11.08	弘仁	6	05-09	長雨1B	自五月至是月, 諸国霖雨,		347	23	0
316	816	02.06	弘仁	7	01.01		以雨廢朝,		347	23	0
317	816	03.01	弘仁	7	01.25	砂じん1A	雨沙,		347	23	0
318	816	08.20	弘仁	7	07.20	洪水3・暴風3	勅, 風雨不時, 田園被害, (中略) 奉幣名神, 禱止風雨, 莫致漏失,		348	23	0
319	816	09.15	弘仁	7	08.16	暴風1A	大風, 羅城門倒, 諸国被害,		348	23	0
320	817	07.23	弘仁	8	06.02	干ばつ2A	祈雨室生山,		349	23	0
321	817	07.25	弘仁	8	06.04	干ばつ2A	天下諸国祈雨,		349	23	0
322	817	09.05	弘仁	8	07.17	高潮1A	摂津国言, 海潮暴溢, 漂没二百二十人,		349	23	0
323	818	01.09	弘仁	8	11.25	大雪1A	大雪, 賜左右近衛綿,		349	23	0
324	818	05.01	弘仁	9	03.19	洪水3・干ばつ3	公卿奏, 頃年水旱相繼, 損害不少, (後略)		350	23	0
325	818	05.25	弘仁	9	04.13	干ばつ2A	遣使祈雨于京畿諸神,		350	23	0
326	818	06.03	弘仁	9	04.22	干ばつ2A	(前略) 以祈雨,		350	23	0
327	818	06.04	弘仁	9	04.23		以炎旱, (後略)		350	23	0
328	818	06.07	弘仁	9	04.26	干ばつ2A	遣使柏原山陵祈雨,		350	23	0
329	818	06.08	弘仁	9	04.27	干ばつ1A	是日, 以旱講仁王經於前殿,		350	23	0
330	818	09.14	弘仁	9	07.07	干ばつ1A	以旱停節,		350	23	0
331	818	09.21	弘仁	9	07.14	干ばつ2A	遣使貴布祢, 及室生山龍穴, 祈雨,		350	23	0

大日本史

332	818	08.10-09.07	弘仁	9	07	洪水3	(前略)如聞上野国等境,地震為災,水潦相仍,(後略)	350	23	1
333	818	11.14	弘仁	9	10.09	干ばつ2A	以祈雨有応,賽貴布祢社,	352	23	0
334	819	02.03	弘仁	10	01.01	低温1A	以風寒廢朝,	352	23	0
335	819	04.03	弘仁	10	03.01		有虹貫日,	352	23	0
336	819	06.17	弘仁	10	05.17	干ばつ2A	行幸神泉苑,祈雨貴布祢,	353	23	0
337	819	07.08	弘仁	10	06.09	長雨2A	奉白馬於丹生川上貴布祢祈晴,	353	23	0
338	819	07.31	弘仁	10	07.02	干ばつ2A	奉黑馬於丹生川上祈雨,	353	23	0
339	819	08.15	弘仁	10	07.17	干ばつ2A	遣使祈雨大神宮,	353	23	0
340	819	08.16	弘仁	10	07.18	干ばつ2A	(前略)以祈雨,	353	23	0
341	819	08.18	弘仁	10	07.20	大雨1A・暴風1A	京師白龍見,暴風雨損民屋,	353	23	0
342	819	05.02-08.18	弘仁	10	夏-07.20	干ばつ1C	(和曆7月20日)自夏不雨,諸国被害,	353	23	0
343	819	09.24	弘仁	10	08.28	長雨2A	祈晴貴布祢,	353	23	0
344	819	09.26	弘仁	10	08.30	長雨2A	乙亥晦,祈晴丹生川上,	353	23	0
345	820	06.27	弘仁	11	05.10	干ばつ1A	讚岐旱,賑給之,	354	23	1
346	820	08.12	弘仁	11	06.26	干ばつ2A	奉幣名神祈雨,	355	23	0
347	820	08.13	弘仁	11	06.27	干ばつ1A	以旱使諸国転読大雲經,	355	23	0
348	821	07.11	弘仁	12	06.05	長雨2A	祈晴丹生貴布祢,	356	23	0
349	821	11.26	弘仁	12	10.24		詔曰,頃者陰晴失候,(後略)	356	23	0
350	822	07.30	弘仁	13	07.05	干ばつ2A	遣使畿内諸国祈雨,	357	23	0
351	822	07.31	弘仁	13	07.06	干ばつ1A	詔曰,間者嘉雨不降,炎旱淹旬,(後略)	357	23	0
352	823	06.16	弘仁	14	05.01	長雨2A	是日祈晴貴布祢,	363	24	0
353	823	07.19	弘仁	14	06.04	干ばつ2A	(前略)奉幣馬於丹生川上,祈雨,	364	24	0
354	823	08.20	弘仁	14	07.07	干ばつ2A	奉幣大神宮,並祈雨,	364	24	0
355	823	08.30	弘仁	14	07.17	干ばつ2A	祈雨不応,(後略)	364	24	0
356	823	08.14-09.11	弘仁	14	07	干ばつ3	是月,以旱疫免三河遠江長門今年庸,賑給美濃阿波,	364	24	1
357	824	01.12	弘仁	14	12.04	干ばつ3	詔曰,頃者陰陽錯謬,旱疫更侵,(後略)	365	24	0
358	824	02.08-05.02	天長	1	春-03.26	干ばつ1C	(和曆3月26日)是春大旱,令僧空海修請雨經法於神泉苑,	367	24	0
359	824	05.03	天長	1	03.27		澍雨三日,遍於天下,	367	24	0
360	824	06.03	天長	1	04.28	干ばつ1A	令十五大寺,及五畿七道諸国読大般若經,以禱疫旱,	367	24	0
361	824	07.15	天長	1	06.11	干ばつ1A	安芸旱疫,詔賑給之,	367	24	0
362	824	09.01	天長	1	08.01	大雨2A・暴風2A	奉幣名神祈風雨調和,	367	24	0
363	824	09.17	天長	1	08.17	大雨2A・暴風2A	奉幣大神宮,祈風雨調和,	367	24	0
364	826	10.06	天長	3	08.27	洪水3	賑給左右京飢病,又被水害百姓,	370	24	0
365	827	06.22	天長	4	05.21	干ばつ2A	(前略)以祈雨,	372	24	0
366	827	06.27	天長	4	05.26		勅僧空海,迎仏舍利於内裏,礼拝灌浴,是夜澍雨,	372	24	0
367	827	09.19	天長	4	08.21	暴風1A	大風,屋宇顛覆,	373	24	0
368	828	07.12	天長	5	05.23	大雨1A・洪水1A	京師大雨,山崩水溢,漂損人畜,遣使賑給之,	373	24	0
369	828	08.11	天長	5	06.23	大雨1A・洪水1A・雷1A	行幸神泉苑,雷雨山崩水溢,	374	24	0
370	828	10.10	天長	5	08.24	洪水1A	以山崩水溢,遣侍高枝王,(後略)	374	24	0
371	829	04.01	天長	6	02.20	干ばつ2A	祈雨,天下名神,	375	24	0
372	829	04.09	天長	6	02.28	干ばつ2A	読大般若經於大極殿三日,以祈雨,	375	24	0
373	829	06.14	天長	6	05.06		以澍雨降,五位已上及諸衛物,	375	24	0
374	829	10.02	天長	6	08.27	長雨2A	奉幣馬貴布祢丹生川上祈晴,	375	24	0
375	830	02.01	天長	7	01.01		以雨廢朝,	376	24	0
376	830	02.03	天長	7	01.03		(和曆1月28日)出羽駅奏,今月三日大地震,城郭官舍悉倒,山崩水溢,城中死十五人,傷損一百余人,	376	24	0
377	830	08.12	天長	7	07.16	雷1A	是日,震禁内,災,	377	24	0
378	831	09.26	天長	8	08.13	大雨2A・暴風2A	奉幣大神宮,祈風雨順時,	378	24	0
379	832	01.14	天長	8	12.04	雷1A	雷,	379	24	0
380	832	06.22	天長	9	05.17	干ばつ1A	天皇以旱避正寢,(後略)	379	24	0
381	832	06.23	天長	9	05.18	干ばつ1A	勅曰,去年秋稼不稔,諸国告飢,今茲疫旱相仍,(後略)	379	24	0
382	832	06.24	天長	9	05.19	干ばつ2A	読經於八省院庭,以祈雨,勅四畿内国司雩,	379	24	0
383	832	06.25	天長	9	05.20		雨,	380	24	0
384	832	08.18	天長	9	07.15	大雨2A・暴風2A	奉幣天下名神,以祈風雨和調,	380	24	0
385	832	08.25	天長	9	07.22	大雨2A・暴風2A	奉幣大神宮,以祈風雨和調,	380	24	0
386	832	09.12	天長	9	08.11	長雨2A	頒幣名神,令十三大寺転読大般若經,以祈晴,	380	24	0
387	832	09.21	天長	9	08.20	大雨1A・洪水1A・暴風1A	大風雨,河内摂津洪水,隄防決壊,	380	24	0
388	832	10.08	天長	9	09.07	洪水3	賑給摂津被水害者,	380	24	0
389	833	01.29	天長	10	01.01		以雨廢朝,	380	24	0
390	833	04.30	天長	10	04.03	霜1A	隕霜,	388	25	0
391	833	08.23	天長	10	閏07.01	洪水2A・暴風2A	奉幣天下名神,予禱風水害,	390	25	0
392	833	09.20	天長	10	閏07.28	長雨1A	以霖雨渡旬,奉幣帛於丹生川上松尾加茂貴布祢等社,祈晴,	391	25	0
393	833	12.20	天長	10	11.02	雷1A	雷,	391	25	0
394	833	12.22	天長	10	11.04	雷1A	又雷,	391	25	0
395	833	12.27	天長	10	11.09	雷1A	又雷,	391	25	0

大日本史

396	834	07.28	承和	1	06.15	干ばつ2A	(前略)凡百座,以祈雨,		393	25	0
397	834	07.30	承和	1	06.17	干ばつ2A	以祈雨奉幣群神,		393	25	0
398	834	08.10	承和	1	06.28	干ばつ2A	奉幣大神宮及畿内七道名神以祈雨,		393	25	0
399	834	08.12	承和	1	06.30	干ばつ2A・暴風2A	己酉晦, 転読大般若經於大極殿, 祈雨防風災,		393	25	0
400	834	08.20	承和	1	07.08		澍雨,		393	25	0
401	834	08.24	承和	1	07.12		雨水,	大雨・洪水の可能性あり。	393	25	0
402	834	08.25	承和	1	07.13		走幣畿内名神, 命諸大寺及諸国講師修法, 以防淫霖,		393	25	0
403	834	10.01	承和	1	08.21	大雨1A・暴風1A	暴風大雨, 拔木壊舎, 走幣畿内名神祈之,		393	25	0
404	835	01.31	承和	1	12.25	雷1A	雷,		394	25	0
405	835	02.27	承和	2	01.22	雷1A	是日雷,		394	25	0
406	835	06.14	承和	2	05.11		避暑神泉苑,		395	25	0
407	835	08.03	承和	2	07.02	干ばつ2A・暴風2A	走幣天下名神, 禱雨風災,		395	25	0
408	835	08.06	承和	2	07.05	干ばつ2A・暴風2A	奉幣大神宮, 防風雨災,		395	25	0
409	835	09.01	承和	2	08.01		以雨霽, 賽畿内名神, 賑恤佐渡飢疫,		395	25	0
410	835	11.23	承和	2	10.26	雷1A	雷,		395	25	0
411	835	10.29-01.25	承和	2	冬	雷1C	(承和3年5月9日)勅, 去歲冬雷, (後略)		396	25	0
412	836	06.09	承和	3	05.18	大雨1A・暴風1A	大風雨, 折木斃屋,		396	25	0
413	836	07.20	承和	3	閏05.29	干ばつ2A	丁酉晦, 奉幣貴布祢丹生川上等社祈雨,		396	25	0
414	836	07.21	承和	3	06.01	干ばつ1A	勅, 日者陰雨不降, 陽早弥旬, (後略)		396	25	0
415	836	07.26	承和	3	06.06	干ばつ2A	奉幣松尾加茂住吉垂水等社祈雨,		396	25	0
416	836	08.25	承和	3	07.06		白虹見東方,		396	25	0
417	836	09.09	承和	3	07.21	大雨1A・雷1A	大雷雨, 震朱雀柳樹,		397	25	0
418	836	08.20-09.18	承和	3	07	暴風1B	是月, 太宰府駁奏, 遣唐使船遭風漂廻,		397	25	1
419	837	01.19	承和	3	12.06	雷1A	是日, 勅曰, 頃者霹靂于四天王寺, (後略)		397	25	0
420	837	04.19	承和	4	03.07	洪水3	以尾張河溢, 勅復課口三分之一,		397	25	1
421	837	07.22	承和	4	06.13		有虹六見于内裏,		398	25	0
422	837	07.25	承和	4	06.16	干ばつ2A・暴風2A	(前略)予防風雨,		398	25	0
423	837	08.06	承和	4	06.28	干ばつ2A	遣使山城大和, 奉幣名山以祈雨,		398	25	0
424	837	08.30	承和	4	07.22	暴風1A	太宰府馳伝言, 遣唐使遭風而廻,		398	25	1
425	837	11.06	承和	4	10.01	長雨1A	以霖雨經日, 穀価踊貴, (後略)		398	25	0
426	838	01.14	承和	4	12.11	強風1A	大風,		399	25	0
427	838	08.15	承和	5	07.18		有者降如粉, (後略)		400	25	0
428	838	09.10	承和	5	08.14	雷1A	震監物局柳樹, 一男子震死,		400	25	0
429	838	09.15	承和	5	08.19	長雨2A	奉幣馬於貴布祢丹生川上以祈晴,		400	25	0
430	838	09.16	承和	5	08.20	大雨1A・暴風1A	暴風大雨, 壞民廬舎,		400	25	0
431	838	09.24	承和	5	08.28	長雨2A	(前略)以祈晴,		400	25	0
432	838	10.04	承和	5	09.08	長雨2A	奉幣馬於貴布祢丹生河上, 祈晴,		400	25	0
433	838	07.29-10.06	承和	5	07-09.10		(和暦9月10日)徒七月至是月, (中略)十六国相繼言, 天雨物如灰,		400	25	0
434	838	11.08	承和	5	10.14		白虹竟西山南北,		400	25	0
435	839	05.19	承和	6	03.29	干ばつ2A	奉幣貴布祢雨師二神祈雨,		401	25	0
436	839	05.30	承和	6	04.10	干ばつ2A	祈雨於丹生雨師神,		401	25	0
437	839	06.06	承和	6	04.17	干ばつ2A	(前略)以祈雨,		402	25	0
438	839	06.09	承和	6	04.20	干ばつ2A	(前略)以零,		402	25	0
439	839	06.10	承和	6	04.21	干ばつ2A	(前略)祈雨,		402	25	0
440	839	06.16	承和	6	04.27	干ばつ2A	(前略)以祈雨, 諸司醋食三日, 及晚雨,		402	25	0
441	839	07.21	承和	6	06.04	干ばつ2A	四日癸丑, 勅諸寺, 誦經悔過三日夜以祈雨,		402	25	0
442	839	07.23	承和	6	06.06	干ばつ2A	六日乙卯, 令東西京市人零於朱雀大路, 六月以下, 日本紀略,		402	25	0
443	839	08.14	承和	6	06.28		夜赤氣見紫震殿上, (後略)		402	25	0
444	839	09.19	承和	6	08.04	長雨2A	是日, 祈晴於丹生貴布祢二社, 是日祈晴以下, 日本紀略,		402	25	0
445	840	06.02	承和	7	04.25	干ばつ2A・暴風2A	奉幣松尾賀茂乙訓貴布祢丹生川上雨師垂水等社, 祈澍雨, 防風災,		404	25	0
446	840	07.15	承和	7	06.09	干ばつ2A	祈雨於貴布祢丹生川上雨師諸社,		405	25	0
447	840	07.20	承和	7	06.14	干ばつ2A	(前略)又令諸国奉幣神祇祈雨,		405	25	0
448	840	07.24	承和	7	06.18	大雨1A	大雨,		406	25	0
449	840	08.03	承和	7	06.29	大雨2A・暴風2A	勅五畿内七道諸国, 奉幣名神, 祈防風雨,		406	25	0
450	840	11.05	承和	7	10.04	干ばつ1A	以旱減皇太子膳四分之一,		406	25	0
451	841	02.26	承和	8	01.28	干ばつ3	大宰府言, (中略)告旱疫, (後略)		408	26	1
452	841	05.27	承和	8	04.29	干ばつ2A・暴風2A	(己巳晦)(前略)祈雨防風,		409	26	0
453	841	06.08	承和	8	05.12		(前略)是日雨,		409	26	0
454	841	06.10	承和	8	05.14	干ばつ2A	誦經於八省院以祈雨, 是日又雨,		409	26	0
455	841	06.27	承和	8	06.01		頃者甘雨屢降, (後略)		409	26	0
456	841	08.09	承和	8	07.15	雷1A・ひょう1A	震大極殿東樓, 雨雹, 大如菓子,		410	26	0

大日本史

457	841	09.22	承和	8	08.30	長雨2A・大雨1A・洪水1A	丁卯晦，雨水，奠幣雨師以祈晴。	「雨水」であるが「祈晴」から大雨・洪水としても集計した。	410	26	0
458	841	09.23	承和	8	09.01	洪水1A	京師洪水，漂流百姓廬舍橋梁，壞山碕橋。		410	26	0
459	842	02.18-04.29	承和	9	春-03.11	干ばつ1C	(和曆3月11日/グレゴリイ曆4月29日)三月十一日丙午，勅，比者春雨降少，枯旱日多，(後略)		411	26	0
460	842	04.29	承和	9	03.11	干ばつ1A	(和曆3月11日/グレゴリイ曆4月29日)三月十一日丙午，勅，比者春雨降少，枯旱日多，(後略)		411	26	0
461	842	06.01	承和	9	04.15	干ばつ2A	是日遣使祈雨(後略)，		411	26	0
462	842	06.08	承和	9	04.22	干ばつ2A	遣使祈雨(中略)是日雨，		411	26	0
463	842	08.07	承和	9	06.23	大雨1A	大雨，		411	26	0
464	842	08.19	承和	9	07.06	干ばつ2A	(前略)祈雨，是夕雨，		412	26	0
465	842	09.01	承和	9	07.19	干ばつ1A	釈囚徒，左京工町災，先是，卜早有祟，(後略)		412	26	0
466	842	09.02	承和	9	07.20	干ばつ2A	(前略)以祈雨，		412	26	0
467	842	09.03	承和	9	07.21	干ばつ2A	雨，須臾而晴，詵經延限，		413	26	0
468	842	12.30	承和	9	11.21	雷1A	西南有雷声，		414	26	0
469	843	01.23	承和	9	12.15	雷1A	西南有雷声，		414	26	0
470	843	06.06	承和	10	05.01		日赤無光，		415	26	0
471	844	01.27	承和	11	01.01	大雪1A	以大雪廢朝，		416	26	0
472	844	08.03	承和	11	07.12	干ばつ2A	詵詵大般若經於八省院祈雨，		416	26	0
473	844	09.11	承和	11	閏07.21	大雨2A・暴風2A	奉幣大神宮，祈防風雨災，		416	26	0
474	845	02.14	承和	12	01.01	大雪1A	以大雪廢朝，		416	26	0
475	845	06.09	承和	12	04.27	干ばつ2A	奉幣畿内名神祈雨，		416	26	0
476	845	06.13	承和	12	05.01	干ばつ2A	(前略)以祈雨，		416	26	0
477	845	06.18	承和	12	05.06	大雨1A	大雨，		416	26	0
478	845	09.06	承和	12	07.27	長雨2A	遣使奉幣大神宮祈晴，		417	26	0
479	845	10.29	承和	12	09.21	大雨1A・暴風1A	暴雨大風，		417	26	0
480	846	06.14	承和	13	05.13	干ばつ2A	詵經於八省院三日，以祈雨，		417	26	0
481	847	01.25	承和	14	01.01	大雪1A	以大雪廢朝，		417	26	0
482	847	07.22	承和	14	06.03	大雨1A・暴風1A	大風雨，斃屋折木，		418	26	0
483	847	08.10	承和	14	07.23	長雨2A	奉幣馬於丹生川上神社，祈晴，		418	26	0
484	848	06.30	嘉祥	1	05.22		避暑冷泉院，		419	26	0
485	848	07.09	嘉祥	1	06.02	長雨2A	奉幣雨師神社，以祈晴，		419	26	0
486	848	07.17	嘉祥	1	06.10	長雨2A	奉幣天下名神，預防淫雨，		420	26	0
487	848	08.08	嘉祥	1	07.02		奉幣松尾賀茂貴布祢雨師社，		420	26	0
488	848	08.12	嘉祥	1	07.06	干ばつ2A	詵經大般若經於八省院，祈雨，		420	26	0
489	848	08.13	嘉祥	1	07.07	強風1A	颶風起自春興殿，(後略)		421	26	0
490	848	09.04	嘉祥	1	07.29	雷1A	丙戌晦，震于東西二京，凡十一所，		421	26	0
491	848	09.09	嘉祥	1	08.05	大雨1A・洪水1A	大雨洪水，人畜漂損，		421	26	0
492	849	05.09	嘉祥	2	04.10	霜1A	隕霜，		422	26	0
493	849	06.28	嘉祥	2	06.01	長雨3	以霖雨，遣使巡檢京城飢民，開倉廩以，賑恤，	長雨1Aの可能性あり。	422	26	0
494	850	02.20	嘉祥	3	01.01		以雨廢朝，		422	26	0
495	850	05.16	嘉祥	3	03.27	強風1A・雷1A	暴風雷雨，嵯峨山陵樹倒，(後略)		427	27	0
496	850	05.19-06.17	嘉祥	3	04	低温1B	是月天寒，		428	27	0
497	850	06.19	嘉祥	3	05.02	暴風1A	大風折木，		428	27	0
498	850	06.26	嘉祥	3	05.09	干ばつ2A	(前略)以祈雨，		428	27	0
499	850	06.28	嘉祥	3	05.11		雨水，	大雨・洪水の可能性あり。	428	27	0
500	850	07.08	嘉祥	3	05.21		石見言，甘露降，		428	27	1
501	850	07.13	嘉祥	3	05.26	ひょう1A	雨雹大如鴨卵，		428	27	0
502	850	07.19	嘉祥	3	06.03	雷1A	震於西寺刹柱，		428	27	0
503	850	09.07	嘉祥	3	07.24	大雨1A	大雨，壞大極殿前龍尾道十二丈，		429	27	0
504	850	10.07	嘉祥	3	08.24		天南声有如雷，		429	27	0
505	850	08.15-09.13	嘉祥	3	07	洪水1B	(和曆9月23日)以七月大水山崎橋壞，(後略)		430	27	0
506	851	01.23	嘉祥	3	12.14	雷1A	雷，		431	27	0
507	851	06.14	仁寿	1	05.08		雨水，	大雨・洪水の可能性あり。	431	27	0
508	851	06.15	仁寿	1	05.09	長雨2A	遣使丹生川上社祈晴，賑給左右京不能自存者，		431	27	0
509	851	07.09	仁寿	1	06.03	長雨2A	(前略)以祈晴，		432	27	0
510	851	07.10	仁寿	1	06.04	洪水3	分遣使者畿内，賑遭水者，		432	27	0
511	851	09.12	仁寿	1	08.10	大雨1A・洪水1A	大雨水，十日以下，日本紀略，		432	27	0
512	851	09.16	仁寿	1	08.14	洪水3	(和曆8月14日)以比年大水壞民廬舍，詔免左右京及五畿内今年調，(後略)		432	27	0
513	851	11.01-01.28	仁寿	1	冬	高温1C	是歲冬温，		432	27	0
514	852	06.22	仁寿	2	05.27		大和国言，紫雲見，是日京師甘露降，(後略)		433	27	0
515	852	08.03	仁寿	2	07.10	干ばつ2A	遣使奉幣賀茂松尾稻荷貴布祢等名神祈雨，		434	27	0
516	852	08.21	仁寿	2	07.28	大雨1A・暴風1A	風雨傷禾稼，		434	27	0
517	852	08.23	仁寿	2	08.01	大雨1A・暴風1A	奉幣大神宮，折止風雨，		434	27	0
518	852	10.02	仁寿	2	閏08.12	暴風1A	大風斃屋拔木，		434	27	0
519	852	10.17	仁寿	2	閏08.27	大雨1A	大雨，		434	27	0

大日本史

520	852	10.19	仁寿	2	閏08.29	長雨2A	分遣使者，奉幣賀茂松尾等社祈晴，		434	27	0
521	853	10.10	仁寿	3	09.01	暴風1A	大風発屋抜木，		436	27	0
522	854	03.21	斉衡	1	02.15	洪水3	以尾張河溢，詔復課口三分之一，		437	27	1
523	854	02.05-05.04	斉衡	1	春	低温1C・霜1C	是春天寒，隕霜，		437	27	0
524	854	06.03-07.02	斉衡	1	05	低温1B	是月甚寒，山北微雪，		437	27	0
525	854	07.29	斉衡	1	06.27	大雨2A・暴風2A	遣使大神宮，予鎮風雨，是日，大風洪水，		437	27	0
526	854	07.29	斉衡	1	06.27	洪水1A・暴風1A	遣使大神宮，予鎮風雨，是日，大風洪水，		437	27	0
527	855	04.11	斉衡	2	03.17	大雨1A・強風1A	大風雨，		439	27	0
528	855	04.24-05.23	斉衡	2	04	低温1B・霜1B	是月，天寒隕霜，		439	27	0
529	855	06.07	斉衡	2	閏04.15	大雨1A・洪水1A	大雨水，		439	27	0
530	855	06.15	斉衡	2	閏04.23	長雨2A	遣使丹生川上社祈晴，		439	27	0
531	855	07.27	斉衡	2	06.06	雷1A	震建礼門前柳樹，		439	27	0
532	855	10.29	斉衡	2	09.11	大雨1A	大雨，		439	27	0
533	856	02.14	斉衡	3	01.01		以雨停朝賀，		440	27	0
534	856	04.15	斉衡	3	03.03	ひょう1A	雨雹，		440	27	0
535	856	07.07	斉衡	3	05.28		雨水，	大雨・洪水の可能性あり。	440	27	0
536	856	08.08	斉衡	3	07.01	干ばつ2A	遣使奉幣諸社祈雨，		440	27	0
537	856	08.18	斉衡	3	07.11	干ばつ1A	越中言，旱，		440	27	1
538	856	08.24	斉衡	3	07.17	雷1A	雷雨，		440	27	0
539	856	08.27	斉衡	3	07.20	干ばつ1A	若狹言，旱，		440	27	1
540	856	09.13	斉衡	3	08.07	雷1A	有見冷然院八省院太政官庁前，		441	27	0
541	857	06.28	天安	1	05.29	長雨1A・洪水1A	乙丑晦，霖雨洪水，		443	27	0
542	857	09.09	天安	1	08.14	濃霧1A	天昏如霧，		443	27	0
543	857	10.04	天安	1	09.09	干ばつ1A	以旱不御南殿，徹桑，		443	27	0
544	857	11.02	天安	1	10.08		雨，		443	27	0
545	857	11.07	天安	1	10.13	雷1A	雷雨，		443	27	0
546	857	11.09	天安	1	10.15		是日，白雲竟天，		443	27	0
547	858	01.10	天安	1	12.18	雷1A	雷，		443	27	0
548	858	01.14	天安	1	12.22	雷1A	雷，		443	27	0
549	858	01.23	天安	2	01.01		以雪停朝賀，		444	27	0
550	858	02.19	天安	2	01.28	大雨1A・強風1A	暴風大雨，		444	27	0
551	858	04.04	天安	2	閏02.13	ひょう1A	雨雹，		444	27	0
552	858	05.18	天安	2	03.28	雷1A	無雲而雷，		444	27	0
553	858	05.26	天安	2	04.06	ひょう1A	雨雹，大如棊子，		444	27	0
554	858	07.03	天安	2	05.15	洪水1A	大水，		444	27	0
555	858	07.09	天安	2	05.21	大雨1A	大雨，		444	27	0
556	858	07.10	天安	2	05.22	大雨1A・洪水1A	大雨洪水，河溢橋壞，東堀川水入冷然院，(後略)		444	27	0
557	858	07.14	天安	2	05.26	雷1A	地震，無雲而雷，		445	27	0
558	858	07.15	天安	2	05.27	洪水3	是日，遣使巡檢兩京水害，		445	27	0
559	858	07.16	天安	2	05.28	雷1A	無雲而雷，遲明有害入月魄中，		445	27	0
560	858	07.24	天安	2	06.07	雷1A	和泉言，震雷廬舍殆百宇，損田苗二十許町，人畜死傷，大木多摧，		445	27	0
561	858	07.28	天安	2	06.11		白雲，自良互坤，		445	27	0
562	858	06.19	天安	2	05.01	大雨1A・暴風1A	(和暦6月20日)二十日己酉，太宰府言，五月一日，大風暴雨，九国二島盡被損傷，(後略)		445	27	0
563	858	08.07	天安	2	06.21	強風1A・雷1A・濃霧1A	大霧，無雲而雷，大風，		445	27	0
564	858	08.28	天安	2	07.12	干ばつ2A	祈雨乙訓水主貫布祢等神，		445	27	0
565	858	09.04	天安	2	07.19		雨，		445	27	0
566	858	09.12	天安	2	07.27	大雨1A	大雨，		445	27	0
567	858	10.28	天安	2	09.14		夜宮中有声如雷，		447	28	0
568	858	-	天安	2	-	洪水1C	是歲，武蔵陸奥大水，下野大風，出羽霜雹，加賀水旱，		448	28	1
569	858	-	天安	2	-	暴風1C	是歲，武蔵陸奥大水，下野大風，出羽霜雹，加賀水旱，		448	28	1
570	858	-	天安	2	-	ひょう1C・霜1C	是歲，武蔵陸奥大水，下野大風，出羽霜雹，加賀水旱，		448	28	1
571	858	-	天安	2	-	洪水1C・干ばつ1C	是歲，武蔵陸奥大水，下野大風，出羽霜雹，加賀水旱，		448	28	1
572	859	03.22	貞観	1	02.11		有赤黃白氣繞日，状如日輪，		448	28	0
573	859	06.25	貞観	1	05.17	ひょう1A	雨雹，		449	28	0
574	859	07.31	貞観	1	06.22	大雨1A・暴風1A	大風雨，折木発屋，		449	28	0
575	859	08.24	貞観	1	07.19	雷1A	震内教坊栴樹，		449	28	0
576	859	08.06-09.04	貞観	1	07		是月雅院桜華，京師李華，		449	28	0
577	859	05.09-09.13	貞観	1	05-08.09	長雨1B	(和暦8月9日/グレゴリア暦9月13日)九日壬辰，以霖雨自五月至是月，遣使奉幣馬於丹生河上社祈晴，		449	28	0
578	859	09.16	貞観	1	08.12	大雨1A・暴風1A	大風雨壞民舍，		449	28	0
579	859	10.11	貞観	1	09.08	大雨1A・暴風1A	奉幣畿内四十五神，祈止風雨，		449	28	0
580	859	10.12	貞観	1	09.09	大雨1A・暴風1A	是日大風雨，発屋折樹，		450	28	0

大日本史

581	859	10.21	貞観	1	09.18	強風1A・雷1A	大風雷,		450	28	0
582	860	01.31	貞観	2	01.01		以雨不受朝,		450	28	0
583	860	05.04	貞観	2	04.06	霜1A	隕霜殺草,		450	28	0
584	860	05.09	貞観	2	04.11	強風1A	颯風起外記侯庁前,		450	28	0
585	860	05.09	貞観	2	05.05	ひょう1A	地震, 雨雹, 停端午前, 駿河言, 富士山五色雲見,		450	28	0
586	860	06.01	貞観	2	05.18	ひょう1A	地震, 雨雹,		450	28	0
587	860	05.28-06.29	貞観	2	05-06.03	長雨1B	(和暦6月3日/グレゴリイ暦6月29日)六月三日壬午, 大水, 自五月雨至此,		450	28	0
588	860	06.29	貞観	2	06.03	洪水1A	(和暦6月3日/グレゴリイ暦6月29日)六月三日壬午, 大水, 自五月雨至此,		450	28	0
589	860	08.15	貞観	2	07.21	大雨1A・暴風1A	大風雨,		451	28	0
590	860	09.22	貞観	2	08.30		丁未晦, 雨水,	大雨・洪水の可能性あり。	451	28	0
591	860	10.06	貞観	2	09.14	暴風1A	大風, 折樹発屋,		451	28	0
592	860	10.07	貞観	2	09.15	大雨1A・洪水1A・暴風1A・高潮1A	風雨不止, 京師大水, 諸国海溢, 人畜多死,		451	28	0
593	860	12.10	貞観	2	閏10.20		雨雪, (後略)		451	28	0
594	860	12.21	貞観	2	11.01	強風1A・雷1A	是夜烈風雷雨,		452	28	0
595	861	01.07	貞観	2	11.17	強風1A	風不止, 多壊廬舍,		452	28	0
596	861	02.18	貞観	3	01.01		以雨不受朝,		452	28	0
597	861	04.18	貞観	3	03.01	霜1A	隕霜,		452	28	0
598	861	07.10	貞観	3	05.25	干ばつ2A	奉幣近京名神七社祈雨,		453	28	0
599	861	07.18	貞観	3	06.03	雷1A	無雲而雷,		453	28	0
600	861	08.06	貞観	3	06.22	低温1A・濃霧1A	天寒霧,		453	28	0
601	861	08.24	貞観	3	07.11	大雨1A・暴風1A	大風雨,		453	28	0
602	861	09.12-10.11	貞観	3	08		是月京師梨李華実, 人患赤痢,		453	28	0
603	862	02.07	貞観	4	01.01		以雨不受朝,		453	28	0
604	861	-	貞観	4	02.16	洪水1C・暴風1C・霜1C	(貞観4年2月16日/グレゴリイ暦862年3月24日)以去年風水隕霜傷稼, (後略)		453	28	0
605	862	04.22	貞観	4	03.16		東方有声如雷,		453	28	0
606	862	04.25	貞観	4	03.19	ひょう1A	雨雹,		453	28	0
607	862	05.08	貞観	4	04.02	大雨1A・洪水1A	大雨河溢,		454	28	0
608	862	07.22	貞観	4	06.18	長雨1A	以霖雨賑京師飢民,		455	28	0
609	863	01.23	貞観	4	12.26	大雨1A・雷1A	大雷雨,		455	28	0
610	863	01.27	貞観	5	01.01		以雨不受朝,		455	28	0
611	863	02.05	貞観	5	01.10	雷1A	雷雨,		455	28	0
612	863	03.11	貞観	5	02.14	強風1A	大風壊民廬舍,		456	28	0
613	863	03.13	貞観	5	02.16		初出白無光, 月初出赤如丹, 三日乃復,		456	28	0
614	863	03.28	貞観	5	03.02		空中有声如雷,		456	28	0
615	863	04.10	貞観	5	03.15	霜1A	隕霜, (後略)		456	28	0
616	863	05.06	貞観	5	04.11	強風1A・低温1A	天寒大風,		456	28	0
617	863	04.26-05.25	貞観	5	04	長雨1B	是月霖雨,		456	28	0
618	863	06.01	貞観	5	05.07	低温1A・霜1A	天寒隕霜,		456	28	0
619	863	09.11	貞観	5	07.21	暴風1A	大風折樹発屋,		456	28	0
620	863	10.01	貞観	5	08.11		朝日無光,		457	28	0
621	863	10.02	貞観	5	08.12		日又無光,		457	28	0
622	863	11.19	貞観	5	10.01	雷1A	雷雨,		457	28	0
623	863	12.03	貞観	5	10.15	強風1A・雷1A	大風雷雨,		457	28	0
624	864	07.06	貞観	6	05.25		以霖雨賑兪京師飢病,		458	28	0
625	864	12.02	貞観	6	10.26	雷1A	雷,		458	28	0
626	864	12.28	貞観	6	11.22	洪水3・干ばつ3	以遭水旱, 下総葛飭印幡相馬埴生猿島五郡調庸二年,		458	28	1
627	865	01.01	貞観	6	11.26	雷1A	雷雨,		458	28	0
628	865	02.04	貞観	7	01.01		以雨雪不受朝賀,		459	28	0
629	865	05.05	貞観	7	04.03	霜1A	隕霜,		460	28	0
630	865	05.09	貞観	7	04.07	霜1A	隕霜,		460	28	0
631	865	05.15	貞観	7	04.14	霜1A	隕霜,		460	28	0
632	865	07.16	貞観	7	06.16	大雨1A・暴風1A	大風雨, 壊舎折木,		460	28	0
633	865	08.16	貞観	7	07.17	大雨1A・暴風1A	大風雨, 折樹発屋,		461	28	0
634	865	08.30	貞観	7	08.02		雨水,	大雨・洪水の可能性あり。	461	28	0
635	865	09.14	貞観	7	08.17	干ばつ3	以備後神石奴可甲弩惠蘇世良三谿三次三上八郡, 連年旱疫, (後略)		461	28	1
636	866	04.14	貞観	8	03.21	霜1A	隕霜,		462	28	0
637	866	05.22-06.19	貞観	8	04	長雨1B	是月, 霖雨,		463	28	0
638	866	07.16	貞観	8	05.27	干ばつ1A	備前旱疫, 以正税十万束貸窮民,		464	28	1
639	866	07.28	貞観	8	06.09	干ばつ1A	以早使五畿七道諸国, (後略)		464	28	0
640	866	08.01	貞観	8	06.13	干ばつ3	賑武蔵旱飢,		464	28	0
641	866	08.06	貞観	8	06.18	干ばつ2A	転読大般若經於大極殿三日, 以祈雨,		464	28	0
642	866	08.16	貞観	8	06.28		(前略)大和国言, 盾列陵守多伐陵樹, 神祇官ト云, 炎旱之災, 実由于此也, (後略)		464	28	0

大日本史

643	866	07.20-08.17	貞観	8	06	干ばつ1B	是月天下大旱, 民多饑餓,		464	28	0
644	866	08.20	貞観	8	07.03	干ばつ2A	班幣宮城及京畿七道諸神, 奉馬於丹生川上雨師神, 以祈雨,		464	28	0
645	866	08.31	貞観	8	07.14	干ばつ2A	班幣賀茂松尾丹生河上稻荷水主貴布禰神, 賽前日禱, 兼祈雨,		465	28	0
646	866	08.31	貞観	8	07.14	干ばつ3	是日, 賑備前旱, (後略)		465	28	1
647	866	09.17	貞観	8	08.01	干ばつ3	賑下総旱飢,		465	28	1
648	867	05.12-06.09	貞観	9	04	長雨1B	是月霖雨,		467	28	0
649	867	06.12	貞観	9	05.03	長雨2A	班幣畿内諸神祈晴,		467	28	0
650	867	06.13	貞観	9	05.04	大雨1A・洪水1A	大雨洪水,		468	28	0
651	867	05.12-07.08	貞観	9	04-05	長雨1B	(和曆5月)自前月雨至是月, 京邑人多病死,		468	28	0
652	867	10.05	貞観	9	08.30	大雨1A	丙申晦, 大雨,		468	28	0
653	867	10.19	貞観	9	09.14	大雨1A・暴風1A	大風雨, 拔樹斃屋,		468	28	0
654	868	12.19	貞観	10	11.28	雷1A	雷,		470	28	0
655	869	03.21-04.19	貞観	11	02	長雨1B	是月霖雨,		470	28	0
656	869	08.02	貞観	11	06.17	干ばつ2A	奉幣大神宮以祈雨,		471	28	0
657	869	08.11	貞観	11	06.26	干ばつ1A	(前略)而今旱雲涉旬, 農民失望, (後略)		471	28	0
658	869	08.23	貞観	11	07.08		大和国棕橋山河岸崩, 獲鏡一枚, (後略)		471	28	0
659	869	08.28	貞観	11	07.13	雷1A	震武徳殿前松樹,		471	28	0
660	869	08.29	貞観	11	07.14	暴風1A	風雨,		471	28	0
661	869	08.29	貞観	11	07.14	大雨1A・暴風1A	是日, 肥後大風雨, (後略)		472	28	1
662	869	10.09	貞観	11	08.26	大雨1A・暴風1A	大風暴雨, 拔樹斃屋,		472	28	0
663	869	11.17	貞観	11	10.06	雷1A	雷,		472	28	0
664	869	12.13	貞観	11	11.03	強風1A・雷1A	雷電風雨,		473	28	0
665	869	12.31	貞観	11	11.21	干ばつ3	以早免安芸今年田租之半,		473	28	0
666	870	01.11	貞観	11	12.02	干ばつ3	以早免山城今年田租之半,		473	28	0
667	870	07.16	貞観	12	06.10	長雨1A	以霖雨奉幣賀茂貴布禰祈晴, 是夜, 白虹見于東北,		474	28	0
668	870	07.23	貞観	12	06.17	長雨1A	以連月淫霖京師飢饉賑之,		474	28	0
669	870	07.28	貞観	12	06.22	長雨2A	遣使奉幣賀茂祈晴,		474	28	0
670	870	08.06	貞観	12	07.02	洪水3	以少納言和氣彝範為檢河内水害堤使,		474	28	0
671	870	08.26	貞観	12	07.22	洪水3	遣使築河内堤, 奉幣大和三歳神大和神広瀬龍田神, 祈弭水滂,		474	28	0
672	870	09.02	貞観	12	07.29	洪水1A	山城言, 綴喜郡山本郷山崩陷, (後略)		474	28	0
673	871	01.15	貞観	12	12.17	干ばつ3	以旱饑復常陸信太珂珂二郡,		475	28	0
674	870	-	貞観	12	-	洪水1C・干ばつ1C	是歳河内水旱,		475	28	0
675	871	01.29	貞観	13	01.01		以雨不受朝,		475	28	0
676	871	07.08	貞観	13	06.13	干ばつ2A	勅東山北陸山陰山陽南海五道, 班幣境内名山大沢諸神, 転読大般若經於金剛般若經以祈雨,		476	28	0
677	871	09.28	貞観	13	閏08.07	長雨2A・大雨1A・洪水1A	大雨, 河水暴溢, 壞廬舍, 遣使班幣諸神祈晴,		476	28	0
678	871	10.02	貞観	13	閏08.11	洪水3	京師民遭水害者穀監有差,		476	28	0
679	871	10.22-11.19	貞観	13	09		是月桜梨桃李皆華,		476	28	0
680	871	12.17	貞観	13	10.28	雷1A	雷,		476	28	0
681	871	12.20	貞観	13	11.01	雷1A	雷,		476	28	0
682	872	01.10	貞観	13	11.22	雷1A	雷, 地震, (後略)		477	28	0
683	872	01.18	貞観	13	12.01	雷1A	雷,		477	28	0
684	871	-	貞観	13	-	洪水1C・干ばつ1C	是歳, 尾張滂旱,		477	28	1
685	872	04.25	貞観	14	03.10	大雨1A・強風1A	大風雨, 賑給京師絕乏者,		477	28	0
686	872	08.21	貞観	14	07.10		白氣起東北, 亘西南, 如匹布,		478	28	0
687	872	08.29	貞観	14	07.18	干ばつ2A	転読大般若經於大極殿三日, 以祈雨,		478	28	0
688	872	09.01	貞観	14	07.21		雨,		478	28	0
689	872	05.15-08.11	貞観	14	夏	干ばつ1C	是歳大和因幡夏旱, 秋風水,		478	28	0
690	872	05.16-11.08	貞観	14	秋	洪水1C・暴風1C	是歳大和因幡夏旱, 秋風水,		478	28	0
691	873	02.06	貞観	15	01.01	大雨1A・強風1A・雷1A	是日暴雨風雷,		478	28	0
692	873	04.20	貞観	15	03.16		地震, 虹見于紫宸殿東南隅,		479	28	0
693	873	06.05	貞観	15	05.03	ひょう1A	雨雹, 大如雞子,		479	28	0
694	873	06.19	貞観	15	05.17	干ばつ2A	転読大般若經於紫宸殿三日以祈雨,		479	28	0
695	873	06.22	貞観	15	05.20		読経延限二日, 奉幣賀茂松尾乙訓稻荷貴布禰丹生川上,		479	28	0
696	873	06.25	貞観	15	05.23		読経十五大寺,		480	28	0
697	873	06.26	貞観	15	05.24		雨,		480	28	0
698	873	08.19	貞観	15	07.19	干ばつ2A	奉幣大神宮祈雨,		480	28	0
699	873	08.20	貞観	15	07.20		雨,		480	28	0
700	874	04.28	貞観	16	04.05	霜1A	隕霜,		481	28	0

大日本史

701	874	04.30	貞観	16	04.07		日有重量, 白虹貫日,		481	28	0
702	874	05.08	貞観	16	04.15	濃霧1A	陰霧四合,		481	28	0
703	874	05.11	貞観	16	04.18		日赤無光,		481	28	0
704	874	05.17	貞観	16	04.24		有黒雲掩日, 黄赤氣蔽天,		481	28	0
705	874	03.29	貞観	16	03.04	雷1A・砂じん1A	(和暦7月29日)太宰府言, 三月四日夜迅雷, 翌日天暗如夜, 雨沙終日不止, 積四五寸, (後略)		482	28	1
706	874	10.12	貞観	16	08.24	大雨1A・洪水1A・暴風1A	大風雨, 折樹斃屋, 公私廬舍無復全者, 衆水暴漲, (後略)		482	28	0
707	874	10.12	貞観	16	09.07	洪水3・暴風3	賑東西京被風水害者三千一百五十余家,		482	28	0
708	874	08.20-11.16	貞観	16	秋		是秋桃李華,		482	28	0
709	874	08.20-11.16	貞観	16	秋	洪水1C・暴風1C	(貞観16年11月27日/グレゴリヲ暦875年1月12日)以三河因幡是秋風水, 免今年租半,		482	28	1
710	874	-	貞観	16	-	洪水1C	是歳, 但馬水, 伊勢風水,		483	28	1
711	874	-	貞観	16	-	洪水1C・暴風1C	是歳, 但馬水, 伊勢風水,		483	28	0
712	875	03.06	貞観	17	01.21		日暈,		483	28	0
713	875	03.08	貞観	17	01.23		日暈有珥,		483	28	0
714	875	04.01	貞観	17	02.17		日有冠暎,		484	28	0
715	875	07.11	貞観	17	06.01		六月壬子朔, 相模国言, 大住郡河水赤,		484	28	1
716	875	07.13	貞観	17	06.03	干ばつ2A	是日, 奉幣賀茂松尾稻荷乙訓貴布祢丹生川上, 以祈雨,		484	28	0
717	875	07.23	貞観	17	06.13	干ばつ2A	遣使十五大寺・独大般若經以祈雨,		484	28	0
718	875	07.25	貞観	17	06.15		転読大般若經於大極殿三日, 修大雲輪請雨經法於神泉苑以祈雨神祇官奏, 深草陵樹, 是以不雨, 即遣使謝之, 是日原輕囚,		485	28	0
719	875	07.28	貞観	17	06.18	干ばつ2A	以祈雨無応, 更延読經修法二日,		485	28	0
720	875	07.31	貞観	17	06.21		二十一日壬申, 相模言, 大住郡河水变赤,		485	28	1
721	875	08.02	貞観	17	06.23	干ばつ2A	遣使神泉苑, 陳歌舞以祈雨三日,		485	28	0
722	875	08.10	貞観	17	07.02	干ばつ2A	遣使班幣賀茂松尾稻荷乙訓木島貴布祢丹生川上以祈雨,		485	28	0
723	875	08.11	貞観	17	07.03	干ばつ2A	遣使楯列陵, 謝民伐陵樹, 兼祈雨,		485	28	0
724	875	08.18	貞観	17	07.10	暴風1A	風雨拔樹壞屋,		485	28	0
725	875	09.03	貞観	17	07.26	長雨2A	祈晴丹生川上,		485	28	0
726	875	12.18	貞観	17	11.13	洪水3	以但馬去歲遭水災, 貸正税四分之一,		485	28	1
727	876	02.03	貞観	18	01.01		以雨不受朝,		486	28	0
728	876	02.05	貞観	18	01.03	濃霧1A	陰霧日赤,		486	28	0
729	876	04.23	貞観	18	03.21	長雨3	以霖雨賑京師飢民,	長雨1Aの可能性あり。	486	28	0
730	876	05.31-06.28	貞観	18	05	長雨1B	是月霖雨,		486	28	0
731	876	07.16	貞観	18	06.18	ひょう1A	雨雪地震,		486	28	0
732	876	08.18	貞観	18	07.21	雷1A	是日天無而雷,		487	28	0
733	876	12.29	貞観	18	12.06	雷1A・ひょう1A	雷雨雹,		490	29	0
734	876	12.30	貞観	18	12.07	雷1A	雷,		490	29	0
735	877	08.13	元慶	1	06.27	干ばつ2A	修法東大寺三日, 並祈雨,		492	29	0
736	877	08.26	元慶	1	07.10	干ばつ1A	溉神泉苑池水於城南民田, 一日夜而水竭, 是日遣使楯列山陵, 謝伐陵樹,		492	29	0
737	877	09.01	元慶	1	07.16	大雨1A	大雨,		492	29	0
738	878	02.10	元慶	2	01.01		以雨雪廢朝,		493	29	0
739	877	-	元慶	2	01.27	干ばつ1C	(元慶2年1月27日/グレゴリヲ暦878年3月8日)二十七日癸亥, 以去亢旱, 京畿饑荒, 河内和泉最甚, (後略)		493	29	0
740	878	05.18	元慶	2	04.09	霜1A	隕霜,		493	29	0
741	878	07.10	元慶	2	06.03	干ばつ1A	以久旱, 班幣賀茂松尾稻荷貴布祢丹生乙訓水主祈雨,		494	29	0
742	878	08.03	元慶	2	06.27	干ばつ3	摂津頻年旱, 道瑾相繼, 勅以糶一百斛賑之,		494	29	0
743	878	08.06	元慶	2	07.01	雷1A	震大蔵省樹,		494	29	0
744	878	09.22	元慶	2	08.18	大雨1A・洪水1A・暴風1A	大風雨洪水,		495	29	0
745	878	09.29	元慶	2	08.25	長雨2A	祈晴貴布祢丹生,		495	29	0
746	878	10.10	元慶	2	09.07		宇土郡蒲智比咩神前河水如血, 瀨河山野草木凋枯,		495	29	1
747	878	10.24	元慶	2	09.21	大雨1A・洪水1A	大雨河溢,		495	29	0
748	878	10.29	元慶	2	09.26	大雨1A・強風1A・雷1A	二十八日庚申, 紀伊言, 今月二十六日風雨晦暝, 雷震府庁及学校, 破公私館舍六十余宇, 木倒人死,		495	29	0
749	878	10.04-11.02	元慶	2	09	長雨1B	是月, 陰雨傷稼,		495	29	0
750	879	05.05	元慶	3	04.07		以雨停擬階奏,		496	29	0
751	879	06.18	元慶	3	05.21	干ばつ2A	奉幣賀茂松尾等六社祈雨,		496	29	0
752	879	08.25-09.23	元慶	3	08		是月, 京師梨李華, 或実,		497	29	0
753	880	02.18	元慶	4	01.01		以雨不受朝,		498	29	0
754	880	03.11	元慶	4	01.23		東方有声如雷,		498	29	0
755	880	07.01	元慶	4	05.16	干ばつ2A	奉幣賀茂松尾稻荷乙訓貴布祢丹生川上, 以祈雨,		499	29	0

大日本史

756	880	08.05	元慶	4	05.20		雨, (後略)		499	29	0
757	880	07.07	元慶	4	05.22	長雨2A	修灌頂經法於神泉苑三日, 以祈晴,		499	29	0
758	880	08.05	元慶	4	06.22	干ばつ1A	涉旬不雨, 奉幣十一社祈雨,		499	29	0
759	880	08.09	元慶	4	06.26	干ばつ2A	延層於紫宸殿, 転読大般若經三日, 以祈雨,		499	29	0
760	880	08.15	元慶	4	07.02	干ばつ2A・大雨1A	先是令七大寺及諸定額寺転經請雨, 是夜大雨,		499	29	0
761	881	07.17	元慶	5	06.14	長雨3	以霖雨賑京師困之,	長雨1Aの可能性あり。	501	29	0
762	882	01.27	元慶	6	01.01	強風1A	以風雪不受朝,		501	29	0
763	882	05.25-06.23	元慶	6	05	長雨1B	是月霖雨, 賑京師貧困羸疾者,		502	29	0
764	882	11.19	元慶	6	10.01	雷1A	雷,		502	29	0
765	882	11.20	元慶	6	10.02	雷1A	雷,		502	29	0
766	882	11.22	元慶	6	10.04	雷1A	又雷,		502	29	0
767	883	02.02	元慶	6	12.17	雷1A	雷, 地中有声,		502	29	0
768	883	02.15	元慶	7	01.01		以雨不受朝,		502	29	0
769	883	07.04	元慶	7	05.22	干ばつ2A	奉幣賀茂松尾稻荷貴布祢水主乙訓以粍,		503	29	0
770	883	07.08	元慶	7	05.26	大雨1A	大雨,		503	29	0
771	883	10.10	元慶	7	09.02	長雨2A	奉幣賀茂松尾貴布祢稻荷乙訓丹生祈晴,		503	29	0
772	883	10.09-11.07	元慶	7	09	長雨1B	是月霖雨,		503	29	0
773	883	12.04	元慶	7	10.27	強風1A・雷1A	雷, 大風,		503	29	0
774	884	02.05	元慶	8	01.01		以雪不受朝,		504	29	0
775	884	02.08	元慶	8	01.04	強風1A・雷1A・ひょう1A	雷, 暴風雨雹,		504	29	0
776	884	03.29	元慶	8	02.25	濃霧1A	大霧昼晦,		506	30	0
777	884	04.07	元慶	8	03.04	強風1A	迴殿壞左仗頭燃火屋,		506	30	0
778	884	04.29	元慶	8	03.26	霜1A	隕霜,		507	30	0
779	884	05.07	元慶	8	04.05	ひょう1A	雨雹,		507	30	0
780	884	05.11	元慶	8	04.09	ひょう1A	雨雹,		507	30	0
781	884	05.12	元慶	8	04.10	低温1A・霜1A	天寒隕霜,		507	30	0
782	884	05.13	元慶	8	04.11	霜1A	隕霜,		507	30	0
783	884	05.18	元慶	8	04.16	霜1A	隕霜, 是日地震,		507	30	0
784	884	05.19	元慶	8	04.17	霜1A	隕霜, 草木葉凋,		507	30	0
785	885	05.12	仁和	1	閏03.20	大雨1A・強風1A	大風暴雨,		508	30	0
786	885	07.04	仁和	1	05.14	長雨2A	祈晴丹生川上,		509	30	0
787	885	07.10	仁和	1	05.20	長雨3	以霖雨賑京師饑民,	長雨1Aの可能性あり。	509	30	0
788	885	08.30	仁和	1	07.13	干ばつ2A	奉幣丹生川上祈雨,		509	30	0
789	885	12.05	仁和	1	10.21	雷1A	雷,		510	30	0
790	886	03.11	仁和	2	01.28		日右有珥,		510	30	0
791	886	03.18	仁和	2	02.05		日有冠氣, 左右兩珥,		510	30	0
792	886	03.27	仁和	2	02.14		日外有黃白氣, 狀如冠椽,		510	30	0
793	886	04.19	仁和	2	03.08	大雨1A・強風1A	大風雨,		510	30	0
794	886	04.24	仁和	2	03.13	強風1A・雷1A	暴風雷雨,		510	30	0
795	886	05.21	仁和	2	04.10	大雨1A・洪水1A	大雨河溢,		510	30	0
796	886	07.05	仁和	2	05.26		天東南有声如雷, (後略)		511	30	0
797	886	07.22	仁和	2	06.13	長雨3	以霖雨賑京師,	長雨1Aの可能性あり。	511	30	0
798	886	06.10-07.09	仁和	2	05	雷1B	八月四日庚戌, 先是安房国言, 五月雷雨地震, 雨砂石粉土, (後略)		511	30	1
799	886	09.12	仁和	2	08.07	洪水1A・暴風1A	大風洪水, 奉幣賀茂松尾稻荷貴布祢丹生川上祈晴,		511	30	0
800	886	10.08	仁和	2	09.04	雷1A	震伊勢齋内親王葛野河禊所,		511	30	0
801	886	11.29	仁和	2	10.26	大雨1A・雷1A	雷暴雨,		512	30	0
802	887	02.01	仁和	3	01.01		以雨廢朝,		512	30	0
803	887	05.31-07.09	仁和	3	05-06.11	長雨1B	六月十一日癸丑, 自五月霖雨, 兩京飢, 賑之,		512	30	0
804	887	07.25	仁和	3	06.27	ひょう1A	雨雹,		512	30	0
805	887	07.27	仁和	3	06.29	雷1A	辛未晦, 雷, (後略)		512	30	0
806	887	08.11	仁和	3	07.15	長雨2A	奉幣丹生川上祈晴,		512	30	0
807	887	09.15	仁和	3	08.20	大雨1A・洪水1A・暴風1A	大風雨, 拔樹斃屋, 内膳司倒, 兩京廬舍多顛倒, 压死者多, 鴨河葛河溢,		513	30	0
808	888	05.19-06.16	仁和	4	04	干ばつ1B	夏四月, 讚岐旱,		516	31	1
809	889	07.06-09.02	寛平	1	06-07	長雨1B	秋七月, 自六月霖雨洪水, 兩京飢死者多,		517	31	0
810	892	07.02-07.31	寛平	4	06	洪水1B	六月, 伊勢大水,		518	31	0
811	892	10.29-01.25	寛平	4	冬	大雪1C	是冬京師大雪, 深三尺,		518	31	0
812	895	02.03	寛平	7	01.01		正月己未朔, 以雨雪停朝賀,		520	31	0
813	897	09.21	寛平	9	08.17	干ばつ2A	十七日庚申, 遣使賀茂, 告齋内親王仍故, 奉幣諸社祈雨,		528	32	0
814	898	05.17	昌泰	1	04.19		十九日戊午, 日黃色無光, (後略)		529	32	0
815	898	05.28	昌泰	1	05.01	干ばつ2A	五月己巳朔, 読金剛般若經於七社祈雨,		529	32	0

大日本史

816	898	06.03	昌泰	1	05.07		七日乙亥，地鳴三声如雷，		529	32	0
817	898	06.11	昌泰	1	05.15	干ばつ2A	十五日癸未，奉幣大神宮，並祈雨，		529	32	0
818	898	06.14	昌泰	1	05.18		十八日丙戌，宮井有声如雷，		529	32	0
819	898	06.29	昌泰	1	06.03		六月三日辛丑，無雲天暗，不弁人面，		529	32	0
820	898	07.29	昌泰	1	07.03	干ばつ2A	秋七月三日辛未，祈雨二十二社，		529	32	0
821	898	11.01	昌泰	1	10.11		冬十月十一日丁未，空中有声，		529	32	0
822	898	11.05	昌泰	1	10.14		十四日庚戌，又有声如雷		529	32	0
823	899	01.04	昌泰	1	11.15		十五日庚戌，空中有声，		529	32	0
824	899	02.05	昌泰	1	12.17		十七日壬午，東北有声如雷，		530	32	0
825	899	02.18	昌泰	2	01.01	強風1A	正月乙未朔，以風雪不受朝，		530	32	0
826	899	07.07	昌泰	2	05.22	暴風1A	二十二日甲寅，颶風，大極殿高御座，中務省正庁皆傾，京師廬舍多壞，		530	32	0
827	899	07.30	昌泰	2	06.15	大雨1A・暴風1A	十五日丁丑，大風雨折木斃屋，		531	32	0
828	899	08.14	昌泰	2	07.01	砂じん1A	秋七月壬辰朔，黃霧四塞日，日赤無光，		531	32	0
829	902	07.25	延喜	2	06.13	干ばつ2A	十三日丁亥，奉幣諸社祈雨，		532	32	0
830	902	09.26	延喜	2	08.17	長雨1A	八月十七日庚寅，以霖雨奉幣諸社，		533	32	0
831	903	08.07	延喜	3	07.07	干ばつ2A	秋七月七日乙巳，祈雨十社，		533	32	0
832	903	08.08	延喜	3	07.08	干ばつ2A	八日丙午，詵經祈雨，		533	32	0
833	903	08.24	延喜	3	07.24	長雨2A	二十四日壬戌，奉幣丹生貴布祢祈晴，		533	32	0
834	904	08.20	延喜	4	07.02	干ばつ1A	秋七月二日甲子，以旱奉幣諸社，		533	32	0
835	904	08.28	延喜	4	07.10	干ばつ2A	十日壬申，奉幣石清水祈雨，		534	32	0
836	905	08.26	延喜	5	07.18	干ばつ2A	秋七月十八日乙亥，奉幣大神宮祈雨，修五龍祭，		534	32	0
837	906	05.01-05.30	延喜	6	04	ひょう1B	是月雨雹，大如梅子，		535	32	0
838	906	08.10	延喜	6	07.13	暴風1A	十三日甲子，隱岐言大風，		535	32	1
839	908	05.08-08.04	延喜	8	夏	干ばつ1C	是夏天下大旱，		536	32	0
840	908	08.07	延喜	8	07.03	干ばつ2A	秋七月三日，壬申詵經祈雨，		536	32	0
841	908	08.13	延喜	8	07.09	干ばつ1A	九日戊寅，勅，近者炎旱涉旬，頻祈甘雨，（後略）		536	32	0
842	908	08.23	延喜	8	07.19	干ばつ2A	十九日戊子，祈雨神泉苑，		537	32	0
843	908	08.30	延喜	8	07.26	干ばつ2A	二十六日乙未，遣使祈雨諸陵，		537	32	0
844	909	01.30	延喜	9	01.01		春正月戊辰朔，以雨罷朝賀，		537	32	0
845	909	05.02	延喜	9	04.05	霜1A	五日庚子，隕霜，		537	32	0
846	909	06.14	延喜	9	05.19	洪水1A	十九日癸未，洪水，		538	32	0
847	909	06.30	延喜	9	06.05	長雨1A・大雨1A	六月五日己亥，大雨，涉旬不止，京師垣牆皆倒，		538	32	0
848	909	07.07	延喜	9	06.12	長雨2A	十二日丙午，奉幣諸社祈晴，		538	32	0
849	909	09.17	延喜	9	08.25	長雨2A	二十五日戊午，祈晴丹生貴布祢，		538	32	0
850	909	09.22-10.21	延喜	9	閏08		閏月，京師櫻桃李柗柿藤皆華，李柚實，		538	32	0
851	908	-	延喜	10	01.01	干ばつ1C	（延喜10年1月1日/グレゴリア暦910年2月18日）春正月壬辰朔，以八年旱，去年疫，輟朝賀，		538	32	0
852	910	06.07	延喜	10	04.22	大雨1A・暴風1A	夏四月二十二日辛巳，大風雨，京師廬舍壞，		538	32	0
853	910	08.22	延喜	10	07.10	干ばつ1A	十日丁酉，以旱赦天下，奉牲幣諸國神社名山大川，掩骸埋齒，禁止獵漁，		539	32	0
854	910	08.30	延喜	10	07.18	暴風1A	十八日乙巳，風雨斃屋拔樹，		539	32	0
855	910	09.12	延喜	10	08.01	暴風1A	八月戊午朔，大風，		539	32	0
856	910	09.12-10.10	延喜	10	08	干ばつ2B	是月，祈雨神泉苑，		539	32	0
857	910	10.19	延喜	10	09.09	干ばつ1A	九日乙未，以旱停重陽節，	干ばつ3の可能性あり。	539	32	0
858	911	07.04-08.01	延喜	11	06		是月雨水，	大雨・洪水の可能性あり。	539	32	0
859	912	01.27	延喜	12	01.01		春正月庚辰朔，以雨輟朝，		539	32	0
860	912	07.23	延喜	12	06.02	干ばつ2A	六月二日戊寅，奉幣諸社祈雨，		540	32	0
861	912	08.23	延喜	12	07.04	干ばつ2A	七月四日己酉，奉幣丹生貴布祢祈雨，		540	32	0
862	913	05.14-08.09	延喜	13	夏	干ばつ1C	是夏天下大旱，		540	32	0
863	913	08.17	延喜	13	07.08		秋七月八日戊申，奉幣諸社，		540	32	0
864	913	09.08	延喜	13	08.01	暴風1A	八月庚午朔，大風折木破屋，		540	32	0
865	913	-	延喜	13	-	大雨1C・洪水1C・干ばつ1C・暴風1C	是歲，二十三年風旱雨水，	大雨・洪水について、記述は「雨水」であるが、「風旱」と伴うことから、気象災害として認識した。	541	32	0
866	914	06.15	延喜	14	05.15	干ばつ2A	十五日辛亥，奉幣伊勢以下諸社祈雨，		541	32	0
867	914	07.15	延喜	14	06.15	洪水1A	十五日庚辰，洪水，		541	32	0
868	915	01.23	延喜	15	01.01		春正月壬辰朔，以雨輟朝，		541	32	0
869	915	07.18	延喜	15	05.28	干ばつ1A	二十八日戊子，以旱免囚，		541	32	0
870	915	08.08	延喜	15	06.20	干ばつ2A	六月二十日己酉，詵經大極殿禱疫，祈雨，		541	32	0
871	915	08.12	延喜	15	06.24	干ばつ2A	二十四日癸丑，修請雨經法於神泉苑，祀五龍於陰陽寮，		542	32	0

大日本史

872	915	08.23	延喜	15	07.05		七月五日甲子, 日無光,		542	32	0
873	915	09.11	延喜	15	07.24	干ばつ2A	二十四日癸未, 奉幣九社祈雨,		542	32	0
874	915	10.23	延喜	15	09.07		七日乙丑, 以疫痢及木華, 奉幣石清水賀茂等社,		542	32	0
875	915	10.25	延喜	15	09.09	干ばつ3	九日丁卯, 以諸国旱疫, 民不堪田, 停重陽節,		542	32	0
876	916	06.11	延喜	16	05.03	ひょう1A	五月三日丁巳雨雹,		542	32	0
877	916	06.30	延喜	16	05.22	強風1A・ひょう1A	二十二日丙子, 烈風雨雹, (後略)		542	32	0
878	916	08.05	延喜	16	06.29	干ばつ2A	六月二十九日壬子, 地震, 奉幣諸社祈雨,		542	32	0
879	916	08.12	延喜	16	07.06		七月六日己未, 又奉幣二十七社,		543	32	0
880	917	04.22	延喜	17	03.23	ひょう1A	二十三日壬申, 雨雹,		543	32	0
881	917	08.07	延喜	17	07.12	干ばつ2A	秋七月十二日己未, 祈雨龍穴,		543	32	0
882	917	07.27-10.23	延喜	17	秋	干ばつ1C	是秋旱,		543	32	0
883	917	09.24-01.25	延喜	17	09-12.05	干ばつ1B	(延喜17年12月5日)自九月不雨, 京師井涸,		544	32	0
884	918	02.16	延喜	17	12.27		二十七日壬申, 雨,		544	32	0
885	918	08.08	延喜	18	06.24	雷1A	夏六月二十四日乙丑, 震冬至金堂災,		544	32	0
886	918	09.28	延喜	18	08.16	大雨1A・暴風1A	十六日丙辰, 大風雨折木斃屋,		544	32	0
887	918	09.29	延喜	18	08.17	洪水1A	十七日丁巳, 淀河大溢, 人畜多漂没,		544	32	0
888	919	07.21	延喜	19	06.17	干ばつ2A	六月十七日壬子, 読経諸社三日, 以祈雨,		545	32	0
889	919	08.01	延喜	19	06.28	干ばつ2A	二十八日癸亥, 奉幣龍穴, 修請雨經法於神泉苑,		545	32	0
890	919	08.02	延喜	19	06.29		二十九日甲子, 奉幣山科山陵, 謝伐木,		545	32	0
891	919	08.08	延喜	19	07.05		五日庚午, 日赤黑無光,		545	32	0
892	919	08.10	延喜	19	07.07		七日壬申, 澍雨,		545	32	0
893	919	09.28	延喜	19	08.27		二十七日辛酉, 近衛以東二条以北井涸,		545	32	0
894	920	08.22-09.19	延喜	20	07	干ばつ1B	秋七月, 以旱及春夏風水咳疫, 停相撲節,		546	32	0
895	920	09.04	延喜	20	07.14	干ばつ2A	十四日癸卯, 奉幣諸社祈雨,		546	32	0
896	920	09.09	延喜	20	07.19	干ばつ2A	十九日戊申, 奉幣大神宮祈雨禳咳疾,		546	32	0
897	920	10.09	延喜	20	08.20	長雨2A	八月二十日戊寅, 祈晴丹生貴布祢,		546	32	0
898	922	02.15	延喜	22	01.01		春正月壬午朔, 以雨輟朝,		546	32	0
899	922	08.14	延喜	22	07.14	干ばつ2A	秋七月十四日壬辰, 修請雨經法于神泉苑七日,		547	32	0
900	922	08.27	延喜	22	07.27	干ばつ3	二十七日乙巳相撲節, 以旱徹案,	干ばつ1Aの可能性あり。	547	32	0
901	922	09.01	延喜	22	08.03	干ばつ2A	八月三日庚戌, 修孔雀經法東寺祈雨,		547	32	0
902	923	10.17	延長	1	08.30	長雨1A	秋八月辛丑晦, 以霖雨奉幣諸社,		548	32	0
903	924	06.16	延長	2	05.07		七日甲辰, 雨水,	大雨・洪水の可能性あり。	548	32	0
904	924	08.09	延長	2	07.01	干ばつ2A	秋七月戊戌朔, 修請雨經法于神泉苑,		548	32	0
905	924	11.21	延長	2	10.17		冬十月十七日壬午, 白虹亘天,		548	32	0
906	925	02.01	延長	3	01.01		春正月甲午朔, 以雪輟朝,		548	32	0
907	925	02.14	延長	3	01.14	大雪1A・低温1A	十四日丁未, 大雪祁寒, (後略)		548	32	0
908	925	06.23	延長	3	05.25	干ばつ2A	二十五日丙辰, 使祭主大中臣安則祈雨,		548	32	0
909	925	07.11	延長	3	06.13	干ばつ2A	十三日甲戌, 患痢, 読経諸社祈雨,		549	32	0
910	925	08.13	延長	3	07.16	干ばつ2A	七月十六日丁未, 祈雨延曆寺七日, 神泉苑五日,		549	32	0
911	925	08.16	延長	3	07.19		十九日庚戌, 引神泉苑池水, 灌京南田,		549	32	0
912	925	08.24	延長	3	07.27	干ばつ2A	二十七日戊午, 以旱停相撲節, 是日祈雨東大寺,		549	32	0
913	925	10.27	延長	3	10.03	雷1A	冬十月三日壬戌, 雷,		549	32	0
914	926	09.03	延長	4	07.19	暴風1A	秋七月十九日癸酉, 大風,		549	32	0
915	926	08.16-09.14	延長	4	07	洪水1B	是月, 大和長谷山崩,		549	32	0
916	927	07.28	延長	5	06.22	干ばつ1A	六月二十二日辛丑, 以旱奉幣八社,		550	32	0
917	927	08.05-09.03	延長	5	07	干ばつ2B	是月読経八省院, 修法神泉苑, 以祈雨,		550	32	0
918	928	01.31	延長	6	01.01	強風1A	春正月戊申朔, 暴風壞承明門東扉,		550	32	0
919	928	06.24	延長	6	05.29	雷1A	癸酉晦, 震会昌門樓,		551	32	0
920	928	08.04	延長	6	07.11	雷1A	秋七月十一日甲寅, 震西大寺等災,		551	32	0
921	928	08.05	延長	6	07.12	洪水1A	十二日乙卯, 大和長谷川溢, 民家多壞,		551	32	0
922	928	09.22	延長	6	閏08.01	干ばつ2A	閏月癸卯朔, 卜旱,	干ばつ1Aの可能性あり。	551	32	0
923	929	08.20	延長	7	07.08	干ばつ2A	秋七月八日乙亥, 読経八省院祈雨,		551	32	0
924	929	09.07	延長	7	07.26	大雨1A・洪水1A・暴風1A	二十六日癸巳, 大風雨鴨川決, 東京廬舎多壞, 山崎橋斷, 諸国人畜多死, 穀稼傷損,		551	32	0
925	929	09.13	延長	7	08.03	長雨1A	三日己亥, 占霖雨,		551	32	0
926	929	09.15	延長	7	08.05	長雨2A	五日辛丑, 読経般若經於七大寺及延曆寺三日, 祈晴五社,		551	32	0
927	929	09.25	延長	7	08.15	大雨1A・洪水1A	十五日辛亥, 京師雨水, 損穀稼, 人多溺死,		552	32	0
928	929	10.09	延長	7	08.29	長雨2A	二十九日乙丑, 奉幣諸社祈晴,		552	32	0
929	930	06.28	延長	8	05.24		二十四日丁亥, 日暈如虹,		552	32	0
930	930	07.15	延長	8	06.12		六月十二日甲辰, 有虹見於紫宸殿東南隅, (後略)		552	32	0

931	930	07.23	延長	8	06.20	干ばつ1A	二十日壬子, 以旱祈京畿諸神,		552	32	0
932	930	07.29	延長	8	06.26		二十六日戊午, 京南民請決神泉苑池澁田, 許之,		553	32	0
933	930	07.29	延長	8	06.26	強風1A・雷1A	是日烈風雷雨, 震清涼殿, (後略)		553	32	0
934	930	08.06	延長	8	07.05	雷1A	五日丙寅, 無雲而雷,		553	32	0
935	930	08.21	延長	8	07.20	暴風1A	二十日辛巳, 風雨龍尾道欄倒,		553	32	0
936	931	02.23	承平	1	01.28	雷1A	二十八日丁亥, 雷,		556	33	0
937	931	03.09	承平	1	02.13	強風1A・雷1A・ひょう1A	十三日辛丑, 雨雹風雷, (後略)		556	33	0
938	931	06.30	承平	1	閏05.07	長雨2A	七日甲午, 卜霖雨,		556	33	0
939	931	07.26	承平	1	06.04		六月四日庚申, 有虹見承明門,		556	33	0
940	932	07.27	承平	2	06.16	干ばつ2A	十六日丁卯, 祈雨,		558	33	0
941	932	09.20	承平	2	08.13		十三日壬戌, 虹見日華門官庁,		558	33	0
942	933	08.11	承平	3	07.13	暴風1A	十三日丁亥, 颶風発屋, (後略)		559	33	0
943	934	02.06	承平	4	01.15		春正月十五日丙戌, 天有声如雷,		559	33	0
944	934	12.03	承平	4	10.19	雷1A	是日, 震東大寺西塔災,		559	33	0
945	935	05.14	承平	5	04.04	霜1A	夏四月四日戊辰, 隕霜,		560	33	0
946	935	06.06	承平	5	04.27	干ばつ2A	二十七日辛卯, 祈雨諸社,		560	33	0
947	935	06.12	承平	5	05.04	干ばつ2A	五月四日丁酉, 使百僧読大般若經於大極殿三日, 祈雨,		560	33	0
948	936	02.01	承平	6	01.01		春正月辛卯朔, 以雨輟朝,		560	33	0
949	936	09.08	承平	6	08.15	長雨2A	八月十五日辛未, 大納言藤原恒佐兼右近衛大將, 占霖雨於軒廊,	長雨1Aの可能性あり。	560	33	0
950	937	04.19	承平	7	03.01	ひょう1A・低温1A	三月甲寅朔, 雨雪雹,		561	33	0
951	938	07.01	天慶	1	05.26	大雨1A・洪水1A	二十六日壬申, 大雨, 河溢地震,		562	33	0
952	938	07.24	天慶	1	06.20	洪水1A・雷1A	二十日乙未, 又震, 鴨河溢, 民屋多壞,		562	33	0
953	938	08.30	天慶	1	07.27	干ばつ2A	二十七日壬申, 奉幣走馬於諸社祈雨,		562	33	0
954	939	01.04	天慶	1	12.06		十二月六日己卯, 大雪, 深丈許,		562	33	0
955	939	06.25	天慶	2	06.02	干ばつ2A	六月二日壬申, 奉幣丹生貴布祢祈雨,		562	33	0
956	939	07.06	天慶	2	06.12	干ばつ2A	十二日壬午, 奉幣諸社祈雨,		562	33	0
957	939	07.09	天慶	2	06.15		十五日乙酉, 有虹見二十許所,		562	33	0
958	939	07.14	天慶	2	06.20	干ばつ2A	二十日庚寅, 読經大極殿以祈雨,		562	33	0
959	939	07.31	天慶	2	07.08	干ばつ1A	秋七月八日丁未, 卜旱,		563	33	0
960	939	08.01	天慶	2	07.09	干ばつ2A	九日戊申, 奉幣十一社祈雨,		563	33	0
961	939	08.07	天慶	2	07.15	干ばつ2A	十五日甲寅, 修尊勝法於延曆寺五日, 祈雨,		563	33	0
962	940	09.10-10.08	天慶	3	08	暴風1B	是月, 風雨, 穀不登, 民庶大飢,		566	33	0
963	941	01.12	天慶	3	12.07	大雪1A	十二月七日戊戌, 大雪, 深三尺,		566	33	0
964	941	08.01-08.29	天慶	4	07	干ばつ2B	是月奉幣十六社, 読經七大寺延曆寺東西二寺, 祈雨, 官符諸国, 祈年穀,		566	33	0
965	941	-	天慶	4	-		是歲豐稔,		567	33	0
966	942	09.28	天慶	5	08.11	暴風1A	秋八月十一日壬戌, 大風発屋拔樹,		568	33	0
967	943	02.13-05.11	天慶	6	春		是春竹実,		568	33	0
968	943	06.27	天慶	6	05.17	干ばつ2A	十七日甲午, 使百僧読經大極殿祈雨,		568	33	0
969	943	05.12-08.08	天慶	6	夏	干ばつ1C	是夏, 旱疫,		568	33	0
970	943	08.17	天慶	6	07.09	干ばつ2A	秋七月九日乙酉, 奉幣十一社祈雨,		568	33	0
971	944	09.26	天慶	7	09.02	暴風1A	二日辛未, 天下大風, 京師公私廬舎多壞, 信濃国庁壞, 守紀文幹死,		569	33	0
972	944	10.05	天慶	7	09.11	大雨1A・洪水1A	十一日庚辰, 大雨河溢,		569	33	0
973	944	09.25-10.24	天慶	7	09	長雨2B	是月, 令十五大寺及供諸寺読經若祈晴,		569	33	0
974	945	09.11	天慶	8	07.27	大雨1A・暴風1A	二十七日辛酉, 大風雨,		569	33	0
975	946	04.04	天慶	9	02.25	強風1A	二十五日丙戌, 大風,		570	33	0
976	946	07.29	天慶	9	06.23		二十三日壬午, 阿波国言, 甘露降,		573	34	1
977	947	02.12	天曆	1	01.14		十四日庚子, 空中有声如雷,		573	34	0
978	947	05.19	天曆	1	04.21	霜1A	二十一日丙子, 隕霜,		574	34	0
979	947	07.12	天曆	1	06.17	長雨2A	十七日庚午, 奉幣諸社祈晴,		574	34	0
980	947	07.17	天曆	1	06.22	長雨3	二十二日乙亥, 以霖免左右獄輕囚,		574	34	0
981	947	07.28	天曆	1	07.03	洪水1A・暴風1A	三日丙戌, 大風河溢, 官門屋舎多倒,		574	34	0
982	947	08.23	天曆	1	07.29	洪水3・暴風3	壬子晦, 相撲節, 以風水災徹棄,		574	34	0
983	947	09.11	天曆	1	閏07.19	暴風1A	是日, 大風,		574	34	0
984	948	06.17	天曆	2	05.03	干ばつ2A	五月三日辛亥, 奉幣諸社祈雨,		575	34	0
985	948	06.22	天曆	2	05.08	干ばつ2A	八日丙辰, 祈雨丹生貴布祢,		575	34	0
986	948	06.30	天曆	2	05.16	干ばつ2A	十六日甲子, 使百僧大般若經於大極殿, 修孔雀經法於真言院, 以祈雨,		575	34	0
987	948	06.15-07.13	天曆	2	05	干ばつ2B	是月官符七道諸国, 奉幣轉經祈雨,		575	34	0
988	948	07.15	天曆	2	06.02	干ばつ2A	二日己卯, 読經七社三日, 以祈雨,		575	34	0
989	948	07.27	天曆	2	06.14	干ばつ2A	十四日辛卯, 修請雨經法於神泉苑,		576	34	0
990	948	08.18	天曆	2	07.06	大雨1A・雷1A	秋七月六日癸丑, 雷鳴大雨,		576	34	0
991	948	08.27	天曆	2	07.15	大雨1A・暴風1A	十五日壬戌, 大風雨,		576	34	0
992	948	09.08	天曆	2	07.27	暴風1A	二十七日甲戌, 風雨, 民舎倒, 人多死,		576	34	0
993	948	09.23	天曆	2	08.13		八月十三日己丑, 雨水,	大雨・洪水の可能性あり。	576	34	0

大日本史

994	948	09.25	天曆	2	08.15	長雨2A	十五日辛卯, 遣使十六社祈晴,		576	34	0
995	948	10.23	天曆	2	09.14	長雨2A	九月十四日己未, 奉幣石清水以下五社, 禳天 變怪異, 祈晴,		576	34	0
996	948	10.29	天曆	2	09.20	長雨2A	二十日乙丑, 卜霖,		576	34	0
997	949	05.15	天曆	3	04.10	長雨2A	十日癸未, 卜占霖雨,		577	34	0
998	949	05.23	天曆	3	04.18	洪水3	十八日辛卯, 遣使, 視鴨河堤壞,		577	34	0
999	949	07.24	天曆	3	06.21	干ばつ2A	二十一日癸巳, 卜占旱,		577	34	0
1000	949	07.26	天曆	3	06.23	干ばつ2A	二十三日乙未, 使祭主禳旱大神宮, 原罪人未 発覚者,		577	34	0
1001	949	08.04	天曆	3	07.03		秋七月三日甲辰, 有虹見紫宸殿椽樹, (後略)		577	34	0
1002	949	08.06	天曆	3	07.05		五日丙午, 決神泉苑池, 灑京南田,		577	34	0
1003	949	08.08	天曆	3	07.07		七日戊申, 雨,		577	34	0
1004	949	09.01	天曆	3	08.01	洪水1A	八月壬申朔, 東西河溢,		577	34	0
1005	949	12.07	天曆	3	11.10	雷1A	十日己酉, 震大安寺西塔, 災,		577	34	0
1006	952	05.02- 05.31	天曆	6	04	干ばつ1B	夏四月旱, 誦經祈雨,		579	34	0
1007	954	06.03	天曆	8	04.25	干ばつ2A	夏四月二十五日戊辰, 誦經諸社及七大寺東西 二寺延曆寺祈雨,		580	34	0
1008	954	06.09	天曆	8	05.01		五月甲戌朔, 奉幣丹生貴布祿, 誦經龍穴東大 寺, 官符諸國, 奉幣誦經,		580	34	0
1009	954	06.29	天曆	8	05.21		二十一日甲午, 雨,		580	34	0
1010	956	06.05	天曆	10	04.19	干ばつ1A	夏四月十九日辛巳, 以天變炎旱, 奉幣伊勢以 下諸社,		582	34	0
1011	956	09.24	天曆	10	08.13	干ばつ3	八月十三日壬申, 定考, 以旱徹案,		583	34	0
1012	957	04.29	天德	1	03.22	干ばつ2A	二十二日己酉, 会七大寺僧於東大寺, 誦經祈 雨,		583	34	0
1013	957	05.02	天德	1	03.25		二十五日壬子, 奉幣十六社,		583	34	0
1014	957	05.03	天德	1	03.26		二十六日癸丑, 雨,		583	34	0
1015	957	05.16	天德	1	04.09	干ばつ3	夏四月九日丙寅, 以連年亢旱飢饉, (後略)		583	34	0
1016	957	07.07	天德	1	06.03	洪水3・干ばつ3	六月三日戊午, 以水旱疾病, 及今年当三台災, 誦經十四社,		583	34	0
1017	957	07.29	天德	1	06.25	大雨1A・暴風1A	二十五日庚辰, 暴風雨,		583	34	0
1018	957	09.02	天德	1	08.01	干ばつ2A	八月乙卯朔, 祈雨丹生貴布祿,		583	34	0
1019	958	01.17	天德	1	12.20	大雨1A・強風1A	二十日壬申, 大風雨斃屋折木,		584	34	0
1020	958	04.29	天德	2	04.03	ひょう1A・低温1A	夏四月三日甲申, 雨雪霰, 寒如冬,		584	34	0
1021	958	06.29	天德	2	06.05	長雨2A	六月五日乙卯, 卜霖雨,		584	34	0
1022	958	07.09	天德	2	06.16	長雨2A	十六日丙寅, 奉幣伊勢平野祈晴,		584	34	0
1023	958	10.20- 11.18	天德	2	09		九月京師木華,		584	34	0
1024	959	06.14- 07.13	天德	3	05		是月雨水,	大雨・洪水の可 能性あり。	585	34	0
1025	959	07.20	天德	3	06.07	長雨2A	六月七日辛巳, 卜霖,		585	34	0
1026	959	08.12- 09.10	天德	3	07	干ばつ1B	秋七月旱,		585	34	0
1027	959	08.16	天德	3	07.05	干ばつ2A	五日戊申, 祈雨丹生貴布祿,		585	34	0
1028	959	09.18	天德	3	08.08	暴風1A	八月八日辛巳大風,		585	34	0
1029	960	01.14	天德	3	12.09		九日己卯, 三日並見, 白虹貫日,		585	34	0
1030	960	02.14	天德	4	01.10	雷1A	十日辛亥, 雷,		586	34	0
1031	960	02.28	天德	4	01.24	雷1A	二十四日甲子, 又雷,		586	34	0
1032	960	03.22	天德	4	02.17	雷1A	十七日丁亥, 震大膳醫院,		586	34	0
1033	960	06.04	天德	4	05.03	干ばつ2A	三日辛丑, 卜占亢旱,		586	34	0
1034	960	06.06	天德	4	05.05	干ばつ2A	五日癸卯, 停端午節, 祈雨禳疫於神祇官, 奉幣 丹生貴布祿,		586	34	0
1035	960	06.09	天德	4	05.08	霜1A	八日丙午, 隕霜,		586	34	0
1036	960	06.10	天德	4	05.09	干ばつ2A	九日丁未, 祈雨於東大寺,		586	34	0
1037	960	06.14	天德	4	05.13	干ばつ2A	十三日辛亥, 卜旱於軒廊, 修孔雀經法於仁壽 殿七日,		586	34	0
1038	960	06.15	天德	4	05.14	干ばつ2A	十四日壬子, 又卜旱於軒廊, 是日雨,		586	34	0
1039	960	08.01- 08.29	天德	4	07	干ばつ1B	秋七月旱,		587	34	0
1040	960	08.19	天德	4	07.19		十九日丁巳, 誦經龍穴,		587	34	0
1041	960	08.23	天德	4	07.23		二十三日辛酉, 決神泉苑池灑田,		587	34	0
1042	960	09.16	天德	4	08.18	暴風1A	八月十八日乙酉, 大風,		587	34	0
1043	960	12.13	天德	4	11.17		十七日癸丑, 辰時日赤無光, 至午乃明,		588	34	0
1044	961	07.20	応和	1	05.30		壬辰晦, 白虹亘天,		590	34	0
1045	961	07.21- 08.18	応和	1	06	干ばつ1B	六月天下大旱,		590	34	0
1046	961	08.06	応和	1	06.17		十七日己酉, 誦經龍穴,		590	34	0
1047	961	08.10	応和	1	06.21	干ばつ2A	二十一日癸丑, 卜旱,		590	34	0
1048	961	08.18	応和	1	06.29	大雨1A	辛酉晦, 大雨,		590	34	0
1049	961	08.19	応和	1	07.01	暴風1A	秋七月壬戌朔, 大風,		590	34	0
1050	961	09.05	応和	1	07.18	長雨2A	十八日己卯, 祈晴丹生貴布祿,		590	34	0
1051	961	09.13	応和	1	07.26	長雨2A	二十六日丁亥, 祈晴十六社,		590	34	0
1052	961	10.11	応和	1	08.24	長雨3	二十四日乙卯, 以霖雨遣使山階山陵,		590	34	0
1053	962	06.10- 07.09	応和	2	05	長雨1B	是月霖雨,		591	34	0

大日本史

1054	962	07.08	応和	2	05.29	洪水1A	廿九日乙酉, 京師洪水, 鴨河堤決,		591	34	0
1055	962	07.20	応和	2	06.11	長雨2A	六月十一日丁酉, 奉幣伊勢已下十六社, 祈晴,		591	34	0
1056	962	07.26	応和	2	06.17	長雨3	十七日癸卯, 以霖雨遣使田邑山陵,		591	34	0
1057	962	08.27	応和	2	07.20		二十日乙亥, 修孔雀經法七日, 黑氣竟天,		591	34	0
1058	962	10.06	応和	2	08.30	大雨1A・暴風1A	八月乙卯晦, 大和近江大風雨, 公私廬舍, 神社 仙宇多壞,		591	34	0
1059	963	02.02	応和	3	01.01		春正月甲寅朔, 以雨輟朝,		591	34	0
1060	963	05.01- 05.30	応和	3	04	干ばつ1B	夏四月亢旱, 五月五日丙辰, 停端午節,		591	34	0
1061	963	07.07	応和	3	06.09	干ばつ2A	六月九日己丑, 奉幣伊勢已下十六社祈雨,		592	34	0
1062	963	07.20	応和	3	06.22	干ばつ2A	二十二日壬寅, 誦經大極殿五日, 以祈雨, 修北 斗法於神泉苑,		592	34	0
1063	963	07.23	応和	3	06.25		二十五日乙巳, 決神泉苑池, 溉京南田,		592	34	0
1064	963	07.29	応和	3	07.01	干ばつ2A	七月辛亥朔, 祈雨丹生貴布祢,		592	34	0
1065	963	08.02	応和	3	07.05	干ばつ2A	五日乙卯, 卜旱於軒廊,		592	34	0
1066	963	08.06	応和	3	07.09	干ばつ2A	九日己未, 修請雨經法於神泉苑七日, 会七大 寺僧於東大寺, 轉誦仁王經三日,		592	34	0
1067	963	08.26	応和	3	07.29		己卯晦, 雨,		592	34	0
1068	964	-	康保	1	-		是歲, 栽桜於紫宸殿,		593	34	0
1069	965	02.16	康保	2	01.08		(和曆2月27日)二十七日戊辰, 出羽言, 正月八 日, 日左右有輝氣, 虹貫之, 白虹見東西, 占 之,		593	34	0
1070	965	09.30	康保	2	08.28	暴風1A	二十八日乙丑, 京師大風, 壞公私廬舍,		594	34	0
1071	965	10.02	康保	2	08.30	洪水1A	丁卯晦, 洪水,		594	34	0
1072	966	09.10	康保	3	08.18	洪水1A	八月十八日庚戌, 洪水,		595	34	0
1073	966	09.17	康保	3	08.25	長雨2A	二十五日丁巳, 祈晴丹生貴布祢,		595	34	0
1074	966	10.10	康保	3	閏08.19	洪水1A	十九日庚辰, 京師洪水, 民舍漂没,		595	34	0
1075	966	10.12	康保	3	閏08.21	長雨2A	二十一日壬午, 祈晴十六社,		595	34	0
1076	966	10.24	康保	3	09.03	洪水3	九月三日甲午, 權大納言藤原師尹檢兩京水 害,		595	34	0
1077	966	10.30	康保	3	09.09	洪水3	九日庚子, 賑兩京被水者免今年調徭,		595	34	0
1078	967	10.19	康保	4	09.09		九日甲午黑雲見西方, (後略)		599	35	0
1079	967	10.20	康保	4	09.10		十日乙未, 黃雲見東方,		599	35	0
1080	968	03.10	安和	1	02.04	強風1A・雷1A	二月四日丁巳, 大風雷,		600	35	0
1081	968	06.23	安和	1	05.20	洪水1A	五月二十日壬寅, 洪水,		600	35	0
1082	968	06.29	安和	1	05.26	洪水1A	二十六日戊申, 河溢,		600	35	0
1083	968	08.04	安和	1	07.03	長雨2A	三日甲申, 卜霖雨於軒廊,		600	35	0
1084	968	09.19	安和	1	08.19		十九日庚午, 白虹亘天,		600	35	0
1085	969	07.26	安和	2	06.05	干ばつ2A	六月五日庚辰, 祈雨丹生貴布祢,		601	35	0
1086	969	08.09	安和	2	06.19	干ばつ2A	十九日甲午, 卜旱,		601	35	0
1087	969	08.14	安和	2	06.24	干ばつ2A	二十四日己亥, 修請雨經法於神泉苑, 五龍祭 於北山,		601	35	0
1088	969	09.11	安和	2	07.22	大雨1A・暴風1A	二十二日丁卯, 大風雨, 宮門官舍多壞,		601	35	0
1089	971	06.02	天祿	2	05.02		五月二日丙申, 有虹見弁官東庁, 占之,		605	36	0
1090	971	07.21	天祿	2	06.21	干ばつ2A	六月二十一日乙酉, 奉幣十六社祈雨,		605	36	0
1091	972	08.06	天祿	3	06.20	干ばつ2A	夏六月二十日丁未, 修請雨經法於神泉苑九 日,		606	36	0
1092	972	08.14	天祿	3	06.28	大雨1A	二十八日乙卯, 神泉苑門無故自倒, 是日大雨,		606	36	0
1093	973	04.17	天延	1	03.07	ひょう1A	三月七日辛酉, 雨雹, 大和雨物如水精,		607	36	0
1094	973	06.25	天延	1	05.17	大雨1A・暴風1A	十七日庚午, 大風雨壞官舍,		607	36	0
1095	973	08.14	天延	1	07.09	干ばつ2A	九日庚申, 修請雨經法于神泉苑,		607	36	0
1096	974	08.01	天延	2	07.06	雷1A	秋七月六日壬子, 震動藥寮,		608	36	0
1097	975	05.23	天延	3	04.05	ひょう1A	五日丁未, 雨中有雹, 赤如火, 雨雹,		609	36	0
1098	975	07.20	天延	3	06.04	長雨2A	六月四日乙巳, 奉幣大神宮祈晴,		609	36	0
1099	975	09.12	天延	3	07.29	暴風1A	己亥晦, 東国大風, 信濃国御坂路頽,		609	36	1
1100	976	03.20	貞元	1	02.12	大雨1A・強風1A	二月十二日己酉, 大風雨, 内藏寮舍倒, 男女二 人圧死,		610	36	0
1101	976	07.15	貞元	1	06.11	暴風1A	十一日丙午, 大風,		610	36	0
1102	976	08.29	貞元	1	07.26		二十六日辛卯, 微雪,		610	36	0
1103	976	10.05	貞元	1	09.05	暴風1A	九月五日戊辰, 大風,		610	36	0
1104	977	09.14	貞元	2	閏07.23	長雨2A	閏月二十三日壬子, 奉幣伊勢以下十六社祈 晴,		611	36	0
1105	978	06.02	天元	1	04.19	ひょう1A	夏四月十九日癸酉, 雨雹,		612	36	0
1106	978	08.24	天元	1	07.23	雷1A	二十三日丙午, 震右近衛陣,		612	36	0
1107	979	05.11	天元	2	04.08	ひょう1A	八日丙辰, 大雨雹,		612	36	0
1108	979	07.09	天元	2	06.08	大雨1A・洪水1A	(八日乙卯)是日大雨河溢,		613	36	0
1109	980	04.04	天元	3	03.12	ひょう1A	三月十二日乙酉, 雨雹,		613	36	0
1110	980	03.24- 04.22	天元	3	03		是月京師竹実,		613	36	0
1111	980	08.27	天元	3	07.09	大雨1A・暴風1A	秋七月九日庚戌, 大風雨, 折木爨屋, (後略)		613	36	0
1112	980	09.02	天元	3	07.15	大雨1A・洪水1A	十五日丙辰, 大雨洪水, 東西京民舍多漂流,		613	36	0
1113	980	09.17	天元	3	08.01	洪水1A	八月辛未朔, 洪水,		613	36	0
1114	982	08.12	天元	5	07.16	干ばつ2A	十六日乙巳, 祈雨丹生貴布祢,		615	36	0
1115	982	08.14	天元	5	07.18	干ばつ2A	十八日丁未, 修請雨經法於神泉苑七日,		615	36	0
1116	982	08.17	天元	5	07.22	大雨1A	二十二日辛亥, 大雨,		615	36	0

大日本史

1117	982	09.15	天元	5	08.20	暴風1A	二十日己卯, 大風, 談天門倒,		615	36	0
1118	982	-	永観	1	04.15	干ばつ1C	(永観元年4月15日/ケレリ財暦983年6月4日) (前略)去年黍稷之遇炎旱, (後略)		616	36	0
1119	983	07.29	永観	1	06.12	干ばつ2A	六月十二日丙申, 奉幣伊勢已下十六社祈雨,		616	36	0
1120	983	08.02	永観	1	06.16	大雨1A	十六日庚子, 大雨,		616	36	0
1121	985	07.23	寛和	1	06.28	干ばつ2A	六月二十八日辛丑, 修請雨經法於神泉苑七 日, 誦經東大寺及龍穴,		620	37	0
1122	985	08.06	寛和	1	07.13	干ばつ2A	十三日丙辰, 祈雨,		621	37	0
1123	985	09.19	寛和	1	08.27	干ばつ2A	八月二十七日己亥, 奉幣伊勢已下諸社祈雨,		621	37	0
1124	986	04.02	寛和	2	02.16		二月十六日甲寅, 有虹見太政官庁戸内,		621	37	0
1125	986	07.15	寛和	2	06.01	長雨2A	六月戊戌朔, 卜占霖雨,		622	37	0
1126	987	06.24	永延	1	05.21	干ばつ2A	二十一日壬午, 祈雨賀茂丹生貴布祢, 修法宮 中,		627	38	0
1127	987	06.28	永延	1	05.24	干ばつ2A	二十四日乙酉, 誦經大極殿三日, 修請雨經法 於神泉苑,		627	38	0
1128	987	07.04	永延	1	06.01		六月壬辰朔, 決神泉苑池溉民田,		627	38	0
1129	987	07.06	永延	1	06.03	大雨1A	三日甲午, 大雨,		627	38	0
1130	987	08.30	永延	1	07.28	干ばつ1A	七月二十八日己丑, 以亢旱詔公卿上封事,		627	38	0
1131	987	08.31	永延	1	07.29	暴風1A	庚寅晦, 大風拔木斃屋,		627	38	0
1132	989	09.20	永祥	1	08.13	洪水1A・暴風1A・ 高潮1A	十三日辛酉, 京師諸國大風, 宮城殿門社寺多 壞, 洪水海溢, 漂没沼田宅, 人畜死傷,		629	38	0
1133	990	09.08	正暦	1	08.12	ひょう1A	十二日甲寅, 雨雹,		630	38	0
1134	990	09.24	正暦	1	08.28	洪水1A・暴風1A	二十八日庚午, 大風洪水,		630	38	0
1135	990	10.13	正暦	1	09.17	長雨2A	十七日己丑, 祈晴丹生貴布祢,		630	38	0
1136	991	06.15	正暦	2	04.25	干ばつ2A	二十五日甲午, 祈雨丹生貴布祢,		631	38	0
1137	991	07.21	正暦	2	06.03	干ばつ2A	六月三日庚午, 修請雨經法於神泉苑二七日,		631	38	0
1138	991	07.31	正暦	2	06.13		十三日庚辰, 又奉幣丹生貴布祢, (後略)		631	38	0
1139	991	08.01	正暦	2	06.14	干ばつ2A	十四日辛巳, 霽,		631	38	0
1140	991	07.19- 09.15	正暦	2	06-07	干ばつ1B	(和暦7月)自六月至是月不雨,		631	38	0
1141	991	09.16- 10.15	正暦	2	08	長雨1B	八月霖雨,		631	38	0
1142	992	07.04	正暦	3	05.26	洪水1A	五月二十六日己未, 東西京洪水,		632	38	0
1143	992	07.08	正暦	3	06.01	洪水1A	六月癸亥朔, 洪水,		632	38	0
1144	992	07.09	正暦	3	06.02	大雨1A・洪水1A	二日甲子, 大雨洪水,		632	38	0
1145	993	08.15	正暦	4	07.20	雷1A	秋七月二十日丙午, 震美福門災,		633	38	0
1146	994	07.28	正暦	5	06.13	干ばつ2A	六月十三日己巳, 祈雨丹生貴布祢,		634	38	0
1147	994	09.03	正暦	5	07.20	暴風1A	七月二十日庚午, 大風,		635	38	0
1148	995	05.25	長徳	1	04.18	ひょう1A	十八日甲午, 雨雹大如栗,		635	38	0
1149	995	11.15	長徳	1	10.15	大雨1A・雷1A	冬十月十五日戊子, 大雨雷,		636	38	0
1150	995	12.24	長徳	1	11.25	雷2A	十一月二十五日丁卯, 卜雷,		636	38	0
1151	996	07.20	長徳	2	06.27	ひょう1A	二十七日丙申, 雨雹,		637	38	0
1152	996	08.31	長徳	2	閏07.10	洪水1A	十日戊寅, 鴨河溢損民屋,		637	38	0
1153	996	09.11	長徳	2	閏07.21	暴風1A	二十一日己丑, 大風壞廬舍,		637	38	0
1154	998	09.18	長徳	4	08.20	暴風1A	八月二十日丙午, 大風, 武徳殿御書所倒,		638	38	0
1155	1000	06.13	長保	2	05.03	干ばつ2A	五月三日己卯, 紫雲見于北野社池,		640	38	0
1156	1000	06.14	長保	2	05.04	干ばつ2A	四日庚辰, 祈雨丹生貴布祢,		640	38	0
1157	1000	07.31	長保	2	06.22	干ばつ2A	二十二日丁卯, 祈雨丹生貴布祢,		640	38	0
1158	1000	09.22	長保	2	08.16	洪水1A	八月十六日庚申, 大水, 鴨河溢, 壞京極以西人 家,		640	38	0
1159	1000	09.29	長保	2	08.23	長雨2A	二十三日丁卯, 奉幣馬丹生貴布祢祈晴,		641	38	0
1160	1001	03.14	長保	3	02.11	干ばつ2A	二月十一日癸丑, 祈雨丹生貴布祢,		641	38	0
1161	1002	05.02	長保	4	03.11	強風1A・雷1A・ ひょう1A	三月十一日丁未, 雷風雨雹,		642	38	0
1162	1002	07.25	長保	4	06.07	干ばつ2A	六月七日辛未, 奉幣二十一社, 禳天變祈雨,		642	38	0
1163	1002	09.16	長保	4	08.01	長雨2A	八月甲子朔, 祈晴丹生貴布祢,		642	38	0
1164	1003	06.27	長保	5	05.19	洪水1A	夏五月十九日戊申, 京師大水,		643	38	0
1165	1003	12.15	長保	5	11.13	強風1A・雷1A	十一月十三日己亥, 大風雷雨,		643	38	0
1166	1003	-	長保	5	-		是歲大有年,		643	38	0
1167	1004	07.27	寛弘	1	07.02	干ばつ2A	秋七月二日甲申, 祈雨,		643	38	0
1168	1004	08.02	寛弘	1	07.08		八日庚寅, 誦經龍穴,		643	38	0
1169	1004	08.18	寛弘	1	07.24	干ばつ2A	二十四日丙午, 祈雨,		644	38	0
1170	1004	08.26	寛弘	1	08.02	干ばつ2A	八月二日甲寅, 卜旱于軒廊,		644	38	0
1171	1005	05.19	寛弘	2	04.03	強風1A・雷1A	夏四月三日庚辰, 大風雷雨,		644	38	0
1172	1005	07.08	寛弘	2	05.23	雷1A	五月二十三日庚午, 震大炊寮庁,		644	38	0
1173	1005	09.20	寛弘	2	08.08	長雨2A	八月八日甲申, 祈晴丹生貴布祢,		645	38	0
1174	1005	12.11	寛弘	2	11.02	雷1A・ひょう1A	十一月二日丙午, 大雷雨雹,		645	38	0
1175	1006	10.04	寛弘	3	09.04	干ばつ2A	九月四日癸卯, 祈雨丹生貴布祢,		646	38	0
1176	1007	08.17	寛弘	4	06.26	干ばつ2A	二十六日庚申, 祈雨丹生貴布祢,		647	38	0
1177	1007	08.24	寛弘	4	07.03	干ばつ2A	三日丁卯, 祈雨丹生貴布祢,		647	38	0
1178	1007	10.08	寛弘	4	08.19	長雨2A	八月十九日壬子, 祈晴丹生貴布祢,		647	38	0
1179	1008	09.12	寛弘	5	08.04	長雨2A	八月四日壬辰, 祈晴丹生貴布祢,		647	38	0
1180	1008	09.16	寛弘	5	08.08	長雨2A	八日丙申, 卜霽于軒廊,		647	38	0
1181	1009	04.25	寛弘	6	03.22	ひょう1A	三月二十二日丁丑, 雨雹,		648	38	0
1182	1009	10.30	寛弘	6	10.04	雷1A	冬十月四日乙酉, 雷,		648	38	0
1183	1009	12.29	寛弘	6	12.05	雷1A	十二月五日乙酉, 雷,		648	38	0

大日本史

1184	1010	01.08	寛弘	6	12.15	雷1A	十五日乙未, 大雷,	648	38	0
1185	1009	10.27-01.23	寛弘	6	冬	高温1C	是歳冬煖,	648	38	0
1186	1010	02.13	寛弘	7	01.21	強風1A	二十一日辛未, 大風,	648	38	0
1187	1010	08.24	寛弘	7	07.06	大雨1A・洪水1A	秋七月六日癸未, 大雨洪水,	648	38	0
1188	1010	09.22	寛弘	7	08.06	長雨2A	八月六日壬子, 祈晴丹生貴布祢,	648	38	0
1189	1010	10.09	寛弘	7	08.23	長雨2A	二十三日己巳, 卜霖,	648	38	0
1190	1011	02.12	寛弘	8	01.01	雷1A	春正月五日己卯, 雷,	649	38	0
1191	1012	07.31	長和	1	07.04	干ばつ2A	七月四日庚午, 祈雨丹生貴布祢,	652	39	0
1192	1013	05.12	長和	2	03.24	低温1A	二十四日乙卯, 雪, 京師大寒,	654	39	0
1193	1013	05.17	長和	2	03.29	雷1A・ひょう1A	二十九日庚申, 雷, 雨雹, 大如梅李	654	39	0
1194	1013	09.18	長和	2	08.05	長雨2A	八月五日甲子, 祈晴丹生貴布祢,	654	39	0
1195	1014	07.06-08.04	長和	3	06	低温1B	六月, 天寒人襲綿衣,	655	39	0
1196	1014	09.23	長和	3	08.21	暴風1A	二十一日甲戌, 省試, 大風壞廬舍,	655	39	0
1197	1014	12.24	長和	3	11.24	強風1A・雷1A	二十四日丙午, 雷大風,	655	39	0
1198	1015	06.21	長和	4	05.26	濃霧1A	二十六日乙巳, 詔曰, 朕旬日以来, 霧露相侵, 枕席無聊, (後略)	655	39	0
1199	1015	09.30	長和	4	08.09	暴風1A	八月九日丙戌, 大風, 殷富門倒,	656	39	0
1200	1016	07.12	長和	5	05.29	干ばつ1A	壬申晦, 以諸国旱, 奉幣丹生貴布祢,	659	40	0
1201	1016	07.20	長和	5	06.08	干ばつ2A	八日庚辰, 令祭主大中臣輔親等,	659	40	0
1202	1016	07.21	長和	5	06.09	大雨1A・干ばつ2A	九日辛巳, 修請雨經法於神泉苑, 是日大雨,	659	40	0
1203	1017	07.24	寛仁	1	06.22	雷1A	二十二日己丑, 震興福寺, 東金堂災,	660	40	0
1204	1017	08.01	寛仁	1	07.01	長雨2A・洪水3	秋七月丁酉朔, 卜霖于軒廊, 鴨河溢漂流悲田院病者三百余人, 盜入齊院,	660	40	0
1205	1017	08.05	寛仁	1	07.05		五日辛丑, 丹生貴布祢,	661	40	0
1206	1018	01.25	寛仁	1	12.30	雷1A	甲午晦, 雷,	662	40	0
1207	1018	06.15	寛仁	2	閏04.23	暴風1A・ひょう1A	廿三日乙卯, 大風雨雹, 有狼死綾綺殿牀下,	662	40	0
1208	1018	07.01	寛仁	2	05.10	干ばつ2A	五月十日庚辰, 雩于神祇官三日,	662	40	0
1209	1018	07.15	寛仁	2	05.24	干ばつ2A	二十四日乙酉, 祈雨丹生貴布祢, 読経延暦寺七犬寺及龍穴,	662	40	0
1210	1018	07.21	寛仁	2	05.30		辛卯晦, 又祈丹生貴布祢,	662	40	0
1211	1018	07.24	寛仁	2	06.03	干ばつ2A	六月三日甲午, 卜旱軒廊, 令百僧仁王經於大極殿五日,	662	40	0
1212	1018	07.25	寛仁	2	06.04	干ばつ2A	四日乙未, 修請雨經法於神泉苑九日, 修五龍祭, 免左右獄囚,	662	40	0
1213	1018	08.17	寛仁	2	06.27	干ばつ1A	廿七日戊午, 修百座仁王會於大極殿, 禳亢旱天變,	663	40	0
1214	1018	08.19	寛仁	2	06.29	大雨1A・雷1A	庚申晦, 暴雨, 震宣陽門, 職曹司, 大藏省, 大膳職,	663	40	0
1215	1018	08.20-09.17	寛仁	2	07	長雨1B	秋七月霖雨,	663	40	0
1216	1018	09.07	寛仁	2	07.19	長雨2A	十九日己卯, 祈晴丹生貴布祢,	663	40	0
1217	1019	07.05	寛仁	3	05.24	干ばつ2A	二十四日庚辰, 祈雨丹生貴布祢,	664	40	0
1218	1019	07.07	寛仁	3	05.26		二十六日壬午, 修仁王會於大極殿, 是日雨,	664	40	0
1219	1020	08.19	寛仁	4	07.22	暴風1A	二十二日辛未, 大風, 宮殿門廊多倒,	665	40	0
1220	1020	09.18	寛仁	4	08.22	大雨1A・暴風1A	二十二日辛丑, 大風雨,	665	40	0
1221	1020	11.25	寛仁	4	11.02	長雨2A	十一月二日己酉, 祈晴丹生貴布祢,	666	40	0
1222	1021	06.13	治安	1	04.23	干ばつ2A	二十三日戊辰, 奉幣二十一社, 祈雨禳疾病,	666	40	0
1223	1021	10.18	治安	1	09.04	干ばつ2A	九月四日丙子, 祈雨丹生貴布祢,	666	40	0
1224	1021	-	治安	1	-		是歳, 旱, 大饑, 春夏疾病死亡相繼,	667	40	0
1225	1023	09.14	治安	3	08.21	干ばつ2A	八月二十一日壬子, 祈雨丹生貴布祢,	667	40	0
1226	1024	05.27	万寿	1	04.11	干ばつ2A	夏四月十一日戊辰, 祈雨石清水賀茂貴布祢春日,	668	40	0
1227	1024	06.12	万寿	1	04.27		二十七日甲申, 又祈丹生貴布祢,	668	40	0
1228	1025	01.10	万寿	1	12.02	雷1A	十二月二日丙辰, 雷,	668	40	0
1229	1025	08.03-08.31	万寿	2	07	干ばつ1B	秋七月, 諸国旱, 和泉淡路殊甚,	668	40	0
1230	1025	08.11	万寿	2	07.09	干ばつ2A	九日己丑, 祈雨丹生貴布祢,	668	40	0
1231	1025	08.23	万寿	2	07.21		二十一日辛丑, 使七大寺僧讀経東大寺, 又読経室生龍穴,	668	40	0
1232	1026	10.06	万寿	3	08.17	暴風1A	秋八月十七日庚寅, 大風左衛門陣樹倒, 官舍多壞,	669	40	0
1233	1027	06.26	万寿	4	05.14	暴風1A	五月十四日癸丑, 大風,	670	40	0
1234	1027	07.06	万寿	4	05.24	大雨1A・洪水1A・強風1A・雷1A	二十四日癸亥, 京師風雨洪水, 屋舍多壞, 震豐樂院觀德堂,	670	40	0
1235	1027	10.21	万寿	4	09.13	暴風1A	九月十三日庚戌, 京師大風, 舍屋多倒,	670	40	0
1236	1028	03.22	長元	1	02.18		二月十八日癸未, 虹見清凉殿,	670	40	0
1237	1028	04.04-05.03	長元	1	03		是月有氛四塞如雲霞, 訛言海潮溢,	670	40	0
1238	1028	05.04-06.01	長元	1	04	干ばつ2B	夏四月, 祈雨神泉苑,	671	40	0
1239	1028	06.04	長元	1	05.03	干ばつ2A	五月三日丁酉, 転読大般若經於大極殿, 禳旱疫,	671	40	0

大日本史

1240	1028	08.02	長元	1	07.03	干ばつ2A	秋七月三日丙申, 祈雨丹生貴布祢,		671	40	0
1241	1028	08.09	長元	1	07.10		十日癸卯, 読経龍穴,		671	40	0
1242	1028	09.01	長元	1	08.04	雷1A	八月四日丙寅, 震左大史小槻貞行家, 一婢震死,		671	40	0
1243	1028	09.25	長元	1	08.28	長雨1A	二十八日庚寅, 以霖雨大風, 使百僧読仁王經於大極殿,		671	40	0
1244	1028	08.29-09.26	長元	1	08	暴風1B	是月備前大風, 寺社官舎悉壞,		671	40	1
1245	1028	09.28	長元	1	09.02	大雨1A・洪水1A・暴風1A	九月二日癸巳, 京師諸国大風雨洪水, 屋舎多倒,		671	40	0
1246	1028	11.28	長元	1	11.04	雷1A	十一月四日甲午, 雷,		672	40	0
1247	1028	11.25-12.24	長元	1	11	高温1B	是月天暖,		672	40	0
1248	1030	06.17	長元	3	05.08	干ばつ2A	五月八日庚申, 奉幣二十二社, 祈甘雨, 鎮賊乱,		673	40	0
1249	1030	06.22	長元	3	05.13	干ばつ2A	十三日乙丑, 祈雨丹生貴布祢,		673	40	0
1250	1030	09.22	長元	3	08.16	長雨2A	八月十六日丁酉, 祈晴丹生貴布祢,		673	40	0
1251	1031	08.18	長元	4	07.22	干ばつ2A	秋七月二十二日丁卯, 祈雨丹生貴布祢,		674	40	0
1252	1031	08.21	長元	4	07.25	雷1A	二十五日庚午, 震豊楽院西南堂,		674	40	0
1253	1031	09.08	長元	4	08.13	長雨2A	十三日戊子, 祈晴丹生貴布祢, 奉幣帛馬十匹於賀茂社, 賽宿禰,		674	40	0
1254	1031	09.18	長元	4	08.23	長雨2A	二十三日戊戌, 卜霖軒廊,		675	40	0
1255	1031	09.20	長元	4	08.25	長雨2A	二十五日庚子, 遣參議源經頼於大神宮, 奉幣帛神賽宿禰, 進禰宜爵一級, 以謝相通事, 兼祈晴,		675	40	0
1256	1031	09.23	長元	4	08.28	長雨2A	二十八日癸卯, 奉馬稻荷春日各十匹, 又祈晴丹生貴布祢,		675	40	0
1257	1031	10.01	長元	4	09.06	長雨1A	六日辛亥, 以天麥霖雨免輕囚,		675	40	0
1258	1031	10.21	長元	4	09.26	長雨2A	二十六日辛未, 卜霖, 有葬人祇園境内崇,		675	40	0
1259	1031	10.25	長元	4	10.01	雷1A	冬十月乙亥朔, 雷,		675	40	0
1260	1031	12.26	長元	4	11.04	雷1A	四日丁丑, 雷,		675	40	0
1261	1032	04.23	長元	5	03.05	雷1A	五日丙子, 以地震雷, (後略)		676	40	0
1262	1032	06.14	長元	5	04.28	干ばつ2A	四月二十八日戊辰, 祈雨,		676	40	0
1263	1032	06.17	長元	5	05.01	干ばつ2A	五月辛未朔, 修請雨經法於神泉苑,		676	40	0
1264	1032	06.26	長元	5	05.10	干ばつ2A	十日庚辰, 占旱,		676	40	0
1265	1032	07.06	長元	5	05.20	干ばつ2A	二十日庚寅, 三百僧読経大極殿, 祈雨禳疫,		676	40	0
1266	1032	03.20-08.11	長元	5	02-06.27	干ばつ1B	(和暦6月)二十七日丙寅, 使千僧読観音經於大極殿, 自二月不雨至是月, 宇治川涸,		676	40	0
1267	1032	09.03	長元	5	07.20	暴風2A	二十日己丑, 卜大風宇佐宮倒於軒廊,		676	40	1
1268	1033	06.01	長元	6	04.25	干ばつ2A	夏四月二十五日庚申, 祈雨丹生貴布祢,		677	40	0
1269	1033	06.19	長元	6	05.14	干ばつ2A	五月十四日戊寅, 修請雨經法于神泉苑,		677	40	0
1270	1033	06.23	長元	6	05.18	干ばつ2A	十八日壬午, 卜旱,		677	40	0
1271	1033	06.24	長元	6	05.19		十九日癸未, 使五百僧修仁王會於大極殿, 修五龍祭於神泉苑,		677	40	0
1272	1034	01.29-09.21	長元	7	01-07	長雨1B・大雨1B・洪水1B	(和暦7月)自正月至是月數雨水, 田疇多損,	「雨水」であるが「田疇多損」から大雨・洪水として集計した。	677	40	0
1273	1034	09.30	長元	7	08.09	洪水1A・暴風1A	八月九日丙寅, 大風, 殿舎門廊寺社民屋多倒, 人畜任死, 洪水, 淀河溢, 浜河民舎被害,		677	40	0
1274	1035	01.12	長元	7	11.24	雷1A	二十四日庚戌, 雷,		678	40	0
1275	1035	02.17	長元	8	01.01		春正月丙戌朔, 以雨停小朝拜,		678	40	0
1276	1035	05.21	長元	8	04.07	ひょう1A	夏四月七日庚申, 雨雹,		678	40	0
1277	1035	07.12	長元	8	05.28	干ばつ2A	五月二十八日辛亥, 祈雨丹生貴布祢,		678	40	0
1278	1035	07.27	長元	8	06.14		六月十四日丙寅, 集七大寺僧於東大寺, 読経三日, 又祈龍穴, 免輕繫,		678	40	0
1279	1035	10.23	長元	8	09.14		十四日甲午, 澍雨,		679	40	0
1280	1037	05.31	長暦	1	閏04.08	ひょう1A	閏月八日庚辰, 雨雹,		682	41	0
1281	1038	07.24	長暦	2	06.14	干ばつ2A	六月十四日己卯, 修請雨經法七日,		683	41	0
1282	1040	05.21	長久	1	04.03	干ばつ1A	五日己丑, 奉幣二十一社, 旱災,		684	41	0
1283	1040	09.11	長久	1	07.26	暴風1A	秋七月二十六日己卯, 京師大風, 八省院含嘉堂倒, 是日豊受大神宮正殿宝殿悉倒,		684	41	0
1284	1042	06.27	長久	3	06.01		六月癸酉朔, 日有食之, 雨不見,		686	41	0
1285	1043	06.16	長久	4	05.01	干ばつ1A	夏五月丁卯朔, 日有食之, 天下大旱,		686	41	0
1286	1043	06.23	長久	4	05.08	干ばつ2A	八日甲戌, 修請雨經法于神泉苑七日,		686	41	0
1287	1043	06.28	長久	4	05.13		十三日己卯, 雨,		686	41	0
1288	1043	-	長久	4	-		是歲甘露降,		686	41	0
1289	1044	09.27	寛徳	1	08.27	干ばつ2A	二十七日丙辰, 奉幣二十二社, 祈旱疫,		687	41	0
1290	1045	08.21-09.19	寛徳	2	07	干ばつ1B	秋七月以早修請雨經法二七日,		690	42	0
1291	1046	07.09	永承	1	05.27	洪水1A	五月二十七日丙午, 京師洪水,		691	42	0
1292	1047	07.02-07.31	永承	2	06	干ばつ1B	六月, 旱躰月,		691	42	0
1293	1047	10.05	永承	2	09.08	暴風1A	九月八日己卯, 大風,		691	42	0
1294	1051	09.20	永承	6	07.07	暴風1A	秋七月七日乙卯, 大風,		694	42	0

大日本史

1295	1055	09.20	天喜	3	08.21	雷1A	秋八月二十一日丙午、震東寺塔、災、		696	42	0
1296	1059	01.08	康平	1	12.16	長雨1A・洪水1A	十二月十六日壬子、信濃言、霖雨、神御坂類、	タイムラグが大きい可能性が高い。	697	42	1
1297	1059	06.20	康平	2	05.02	大雨1A・洪水1A	夏五月二日乙未、大雨洪水、		697	42	0
1298	1059	08.28	康平	2	07.12	暴風1A	十二日甲辰、大風、官舎民屋多壞、		697	42	0
1299	1060	07.28	康平	3	06.22	干ばつ1A	二十二日己卯、以旱赦、		698	42	0
1300	1064	03.27-04.25	康平	7	03	強風1B	(和暦3月)是月太宰府言、大風、筑前筥崎宮浜殿倒、有死者、		700	42	1
1301	1064	05.14	康平	7	04.19	ひょう1A	夏四月十九日乙酉、雨雹大如梅李、		700	42	0
1302	1065	05.14-06.12	治暦	1	04	干ばつ1B	是月旱、		700	42	0
1303	1065	06.24	治暦	1	05.12	干ばつ2A	十二日辛未、読大般若經於禁中、祈雨、禳三合厄、		700	42	0
1304	1065	06.25	治暦	1	05.13	干ばつ2A	十三日壬申、修請雨經法七日、		701	42	0
1305	1065	07.05	治暦	1	05.23		二十三日壬午、読孔雀經於神泉苑、読大般若經於東大興福二寺及龍穴、		701	42	0
1306	1065	08.04	治暦	1	06.24	ひょう1A	二十四日壬子、大和十市高市二郡雨雹、大寸余、		701	42	0
1307	1066	06.14	治暦	2	05.13	ひょう1A	五月十三日丙寅、伊勢神宮及齋宮寮雨雹、大如雞子、		701	42	0
1308	1066	08.17	治暦	2	07.18		十八日庚午、白雲二道、東西亘天、		701	42	0
1309	1068	07.02	治暦	4	05.24		二十四日甲子、肥後阿蘇山雨雪、		705	43	1
1310	1069	09.30	延久	1	09.07	大雨1A・暴風1A	九月七日庚午、大風雨壞廬舎、		706	43	0
1311	1073	05.17	延久	5	04.02		二日乙亥、怪雲亘東西、		714	44	0
1312	1073	06.15-07.13	延久	5	05	洪水1B	是月、大水、		714	44	0
1313	1074	04.06	承保	1	03.02	低温1A	三月二日己亥、雨雪、		714	44	0
1314	1074	04.13	承保	1	03.09		九日丙午、怪雲亘天、		714	44	0
1315	1077	07.29-08.26	承暦	1	07	干ばつ1B	是月旱、		718	44	0
1316	1078	06.23	承暦	2	05.05		五月五日戊寅、雨水、	大雨・洪水の可能性あり。	719	44	0
1317	1079	08.03	承暦	3	06.27	洪水1A	二十七日甲子、洪水、漂伊勢外院屋五区、		719	44	0
1318	1080	07.14	承暦	4	06.19	洪水1A	六月十九日庚戌、洪水、		720	44	0
1319	1081	07.03	永保	1	05.18	長雨2A	五月十八日甲辰、奉幣丹生貴布祢、祈晴、		721	44	0
1320	1082	05.07-09.01	永保	2	04-07	干ばつ1B	秋七月、自四月不雨是月、		723	44	0
1321	1082	08.13	永保	2	07.11		十一日庚寅、修孔雀經法於神泉苑、		723	44	0
1322	1082	08.30	永保	2	07.28		二十八日丁未、修孔雀經法於東寺二七日、		723	44	0
1323	1082	-	永保	2	-	干ばつ1C	是歲大旱、天下饑饉、停營造宮室、		724	44	0
1324	1084	10.04	応徳	1	08.26	暴風1A	秋八月二十六日癸巳、大風、平野社樹折、神殿損壞、		725	44	0
1325	1085	04.17	応徳	2	03.15	低温1A	三月十五日戊申、雨雪、		725	44	0
1326	1085	07.31-10.27	応徳	2	秋		是秋太宰府言、阿蘇宮雪、		725	44	1
1327	1087	08.07-09.05	寛治	1	07	干ばつ1B	秋七月旱、		731	45	0
1328	1087	08.22	寛治	1	07.16		十六日乙丑、奉幣丹生貴布祢、		731	45	0
1329	1087	08.23	寛治	1	07.17		十七日丙寅、読經龍穴、		731	45	0
1330	1087	09.04	寛治	1	07.29		二十九日戊寅、読經神泉苑九日、		731	45	0
1331	1087	09.12	寛治	1	08.07	干ばつ2A	八月七日丙戌、卜旱、		731	45	0
1332	1087	09.14	寛治	1	08.09		九日戊子、奉幣五社、		731	45	0
1333	1087	09.15	寛治	1	08.10	干ばつ2A	十日己丑、修請雨經法於神泉苑三日、		731	45	0
1334	1088	01.30	寛治	1	12.28	雷1A	二十八日丙午、雷、		732	45	0
1335	1088	01.31	寛治	1	12.29	強風1A	二十九日丁未、大風、京師火、		732	45	0
1336	1088	06.10	寛治	2	05.13	干ばつ2A	夏五月十三日戊午、遣使疏神泉苑祈雨、読孔雀經七日、		732	45	0
1337	1088	07.24	寛治	2	06.27	干ばつ2A	二十七日壬寅、延一千僧於大極殿、読經祈雨、		732	45	0
1338	1089	06.24	寛治	3	05.08	干ばつ2A	五月八日丁丑、祈雨丹生貴布祢、		734	45	0
1339	1089	06.29	寛治	3	05.13		十三日壬午、修孔雀經法於神泉苑九日、	他にも祈禱記載あり。	734	45	0
1340	1089	07.06	寛治	3	05.20		二十日己丑、修五龍祭、		734	45	0
1341	1089	08.23	寛治	3	07.09	干ばつ2A	秋七月九日丁丑、修孔雀經法祈雨、		734	45	0
1342	1089	-	寛治	3	-	干ばつ1C	是歲旱、		734	45	0
1343	1090	06.12	寛治	4	05.06	干ばつ2A	五月六日庚午、祈雨丹生貴布祢、		735	45	0
1344	1091	02.09	寛治	5	01.12	強風1A	十二日壬申、大風、八省院西廊倒、春日社神木多僵、		735	45	0
1345	1091	03.15	寛治	5	02.17	強風1A	是日大風、		736	45	0
1346	1091	03.16	寛治	5	02.18	強風1A	十八日丁未、又風、		736	45	0
1347	1092	07.20	寛治	6	06.07		六月七日己未、有虹見禁中、		737	45	0
1348	1092	09.13	寛治	6	08.03	暴風1A・高潮1A	八月三日甲寅、諸国大風、伊勢内外神宮殿廊倒、大水海溢、損田壞廬、民多死、		737	45	0
1349	1092	10.08	寛治	6	08.28		二十八日己卯、日暈如虹、		737	45	0
1350	1093	09.17	寛治	7	08.18	大雨1A・洪水1A	十八日癸亥、大雨洪水、		738	45	0

大日本史

1351	1094	01.25-02.23	嘉保	1	01	大雪1B	是月大雪,		739	45	0
1352	1094	05.05	嘉保	1	閏03.12	干ばつ1A	閏月十二日癸丑, 以早奉幣丹生貴布祢,		739	45	0
1353	1094	05.13	嘉保	1	閏03.20	干ばつ2A	二十日辛酉, 祈雨神祇官七日,		740	45	0
1354	1094	05.16	嘉保	1	閏03.23		二十三日甲子, 雨,		740	45	0
1355	1094	06.10	嘉保	1	04.19	大雨1A	十九日己丑, 大雨,		740	45	0
1356	1094	08.18	嘉保	1	06.29	干ばつ2A	二十九日戊戌, 祈雨神祇官,		740	45	0
1357	1094	08.27	嘉保	1	07.08		八日丁未, 誦經龍穴五日,		740	45	0
1358	1094	09.07	嘉保	1	07.19	長雨1A・大雨1A	十九日戊午, 大雨, 連日不止,		740	45	0
1359	1094	09.14	嘉保	1	07.26	長雨2A	二十六日乙丑, 祈晴丹生貴布祢,		740	45	0
1360	1095	07.30	嘉保	2	06.20	干ばつ2A	夏六月二十日甲申, 奉幣丹生貴布祢, 疏神泉苑池祈雨,		741	45	0
1361	1097	09.19	承德	1	08.05	暴風1A	秋八月五日丙戌, 風壞孔廊屋舎,		742	45	0
1362	1099	03.01-03.30	康和	1	02	干ばつ1B	二月京師不雨, 井水皆涸,		743	45	0
1363	1099	04.26	康和	1	03.27	干ばつ1A	二十七日庚午, 以疫旱免輕囚,		743	45	0
1364	1101	09.01	康和	3	07.29	干ばつ2A	二十九日戊子, 修孔雀經法於東寺祈雨,		745	45	0
1365	1103	02.14	康和	4	12.29	強風1A	十二月二十九日己卯, 風壞日華門,		747	45	0
1366	1103	03.08	康和	5	01.21	強風1A	二十一日大風, 日華門傾頽,		747	45	0
1367	1103	10.09	康和	5	08.29	長雨2A	丙子晦, 祈晴丹生貴布祢,		747	45	0
1368	1103	10.17	康和	5	09.08	長雨2A	八日甲申, 祈晴丹生貴布祢,		747	45	0
1369	1103	10.22	康和	5	09.13	長雨2A	十三日己丑, 卜霖,		747	45	0
1370	1103	10.27	康和	5	09.18	長雨2A	十八日甲午, 又祈晴丹生貴布祢,		747	45	0
1371	1103	12.14	康和	5	11.07	長雨1A	七日壬午, 以霖奉幣伊勢平野稻荷祇園北野,		748	45	0
1372	1106	08.23	嘉承	1	07.05	干ばつ2A	五日甲午, 修孔雀經法於東寺祈雨,		750	45	0
1373	1106	09.06	嘉承	1	07.19	干ばつ1A	十九日戊申, (中略)及炎旱于軒廊,		750	45	0
1374	1107	07.20	嘉承	2	06.21	雷1A	六月二十一日丙子, 雷震十余所, 京極殿仏堂災害, 堀河院大木折, 感神院鳥居壞,		751	45	0
1375	1107	10.25-11.23	嘉承	2	10	干ばつ1B	是月炎旱, 井涸,		2	46	0
1376	1108	05.13	天仁	1	03.24	雷1A	二十四日甲戌, 震六条堀河, 一奴震死,		3	46	0
1377	1108	07.31	天仁	1	06.14	ひょう1A	十四日癸巳, 雨雹, 震延曆寺,		4	46	0
1378	1108	09.15	天仁	1	08.02	長雨2A	八月二日己卯, 祈晴丹生貴布祢,		4	46	0
1379	1110	04.01	天永	1	03.04	大雪1A・低温1A	三月四日壬寅, 雨雪尺余, 寒如冬,		5	46	0
1380	1110	04.28-11.20	天永	1	夏-秋	洪水1C	是歲, 夏秋之交, 洪水飢饉,		6	46	0
1381	1111	04.29	天永	2	03.13		三月十三日乙亥, 白雲二道亘天,		6	46	0
1382	1111	05.25	天永	2	04.09	大雨1A・強風1A	夏四月九日辛丑, 大風雨, 伊勢外宮門垣, 及賀茂齋院館舎倒, 春日社樹七十余株僵,		6	46	0
1383	1111	08.29	天永	2	07.16	干ばつ2A	秋七月十六日丁丑, 雩于神泉苑,		7	46	0
1384	1111	09.09	天永	2	07.27	干ばつ2A	二十七日戊子, 祈雨丹生貴布祢,		7	46	0
1385	1111	09.29	天永	2	08.18	長雨2A	八月十八日戊申, 祈晴丹生貴布祢,		7	46	0
1386	1113	09.22	永久	1	08.04	大雨1A・暴風1A	八月四日壬子, 大風雨, 伊勢內宮殿舎門垣倒, 月詠宮伊雜宮壞,		9	46	0
1387	1113	10.08	永久	1	08.20	暴風1A	二十日戊辰, 大風, 平野社樹僵,		9	46	0
1388	1114	03.18	永久	2	02.03	強風1A	二月三日己酉, 大風, 春日社樹三百余株僵,		10	46	0
1389	1114	07.18	永久	2	06.08	長雨2A	六月八日辛亥, 奉幣祈晴,		10	46	0
1390	1114	09.08	永久	2	08.01	暴風1A	是日伊勢大風, 豐受宮千木折, 門垣倒,		10	46	0
1391	1117	10.05	永久	5	09.01	暴風1A	九月丙戌朔, 大風拔木焚屋,		12	46	0
1392	1118	05.11	元永	1	04.12	長雨2A	十二日甲子, 祈晴丹生貴布祢,		13	46	0
1393	1118	06.28-07.26	元永	1	06	長雨1B・洪水1B	六月霖雨, 河水泛溢, 人多溺死,		13	46	0
1394	1119	05.26	元永	2	04.09	干ばつ2A	夏四月九日甲申, 祈雨丹生貴布祢,		14	46	0
1395	1119	07.13	元永	2	05.27	干ばつ2A	二十七日壬申, 疏神泉苑池祈雨,		14	46	0
1396	1119	05.18-08.14	元永	2	夏	干ばつ1C	是夏旱,		14	46	0
1397	1119	08.24	元永	2	07.10		秋七月十日甲寅, 澍雨,		14	46	0
1398	1119	09.14-10.12	元永	2	08	長雨1B	八月, 霖,		14	46	0
1399	1119	10.10	元永	2	08.27		二十七日辛丑, 黃請求貴布祢,		14	46	0
1400	1119	12.12	元永	2	11.02	大雨1A・強風1A	二日甲辰, 夜大風雨, 北方有光,		14	46	0
1401	1120	08.19	保安	1	07.17	干ばつ2A	秋七月十七日乙卯, 修孔雀經法於神泉苑祈雨,		15	46	0
1402	1121	01.17	保安	1	12.20	大雨1A・強風1A	二十日丙戌, 夜大風雨有光,		15	46	0
1403	1121	10.26	保安	2	09.06	洪水3	九月六日戊辰, 延讓伊勢洪水漂豐受宮正殿下天平盆,		16	46	0
1404	1124	02.23-03.23	天治	1	02		二月, 從法皇幸白河, 觀郊外雪, (後略)		17	46	0
1405	1127	01.22-02.19	大治	1	12		十二月, 又興法皇同車觀雪, (後略)		17	46	0
1406	1123	08.03	保安	4	07.03	干ばつ2A	秋七月三日甲寅, 修孔雀經法于神泉苑祈雨,		22	47	0
1407	1127	06.22	大治	2	05.04	長雨1A・大雨1A・洪水1A	五月四日癸巳, 大雨霖, 河水泛溢,		24	47	0
1408	1127	09.04	大治	2	07.19		十九日丁未, 大風雨河溢,		25	47	0
1409	1127	09.09	大治	2	07.24	長雨2A	二十四日壬子, 奉幣祈晴,		25	47	0
1410	1127	09.19	大治	2	08.05	長雨2A	八月五日壬戌, 卜霖軒廊,		25	47	0

大日本史

1411	1127	09.21	大治	2	08.07	長雨2A	七日甲子, 奉幣石清水, 祈晴丹生貴布祢,	25	47	0
1412	1127	12.02	大治	2	10.20	長雨2A	二十日丙子, 祈晴丹生貴布祢,	25	47	0
1413	1127	12.18	大治	2	11.06	長雨3・洪水3	六日壬辰, 修鴨河隄, 以霖雨水災, 奉幣伊勢平野稻荷祇園北野, 法皇上皇至自高野,	25	47	0
1414	1127	-	大治	2	-	長雨1C	是歲, 京畿諸國霖雨傷稼,	25	47	0
1415	1128	09.05	大治	3	08.02	大雨1A・暴風1A	八月二日甲寅, 大風雨, 陽明門倒,	26	47	0
1416	1128	-	大治	3	-		比年天下竹實,	26	47	0
1417	1129	07.08	大治	4	06.13	長雨2A	十三日庚申, 祈晴丹生貴布祢,	26	47	0
1418	1129	09.04	大治	4	閏07.12	長雨1A・洪水1A	十二日戊午, 霖雨河溢,	27	47	0
1419	1129	09.11	大治	4	閏07.19	長雨2A	十九日乙丑, 祈晴丹生貴布祢,	27	47	0
1420	1129	09.21	大治	4	閏07.29	長雨2A	乙亥晦日, 又祈晴,	27	47	0
1421	1130	07.16	大治	5	06.03	干ばつ2A	六月三日癸酉, 祈雨丹生貴布祢,	28	47	0
1422	1130	07.23	大治	5	06.10	干ばつ2A	十日庚辰, 卜旱於軒廊,	28	47	0
1423	1130	08.08	大治	5	06.26	干ばつ2A	二十六日丙申, 祈雨二十二社,	28	47	0
1424	1130	08.16	大治	5	07.04	干ばつ2A	四日甲辰, 誦經神泉苑祈雨三日,	28	47	0
1425	1130	08.23	大治	5	07.11	干ばつ2A	十一日辛亥, 使一千僧誦經延曆寺祈雨, 又誦經醍醐寺,	28	47	0
1426	1130	08.27	大治	5	07.15	干ばつ2A	十五日乙卯, 祈雨東寺,	28	47	0
1427	1130	08.31	大治	5	07.19		十九日己未, 雨,	28	47	0
1428	1130	10.14	大治	5	09.04	長雨2A	九月四日癸卯, 祈晴丹生貴布祢,	28	47	0
1429	1132	07.10	長承	1	05.19	雷1A	十九日戊寅, 震東三条殿,	31	47	0
1430	1132	07.22	長承	1	06.01	干ばつ1A	六月庚寅朔, 以旱疏神泉苑池,	31	47	0
1431	1132	07.24	長承	1	06.03	干ばつ2A	三日壬辰, 祈雨丹生貴布祢,	31	47	0
1432	1133	07.25	長承	2	06.15	雷1A	十五日戊戌, 震太政官東庁,	32	47	0
1433	1133	08.23	長承	2	07.14	雷1A	十四日丁卯, 震一条北街震死二人,	32	47	0
1434	1133	09.08-10.06	長承	2	08	長雨1B	是月, 霖雨傷稼,	32	47	0
1435	1133	10.14	長承	2	09.08	長雨2A	九月八日己未, 祈晴丹生貴布祢,	32	47	0
1436	1133	10.21	長承	2	09.15	長雨2A	十五日丙寅, 又祈晴,	32	47	0
1437	1134	02.03	長承	3	01.01		春正月辛亥朔, 以雨停小朝拜,	32	47	0
1438	1134	06.18	長承	3	05.17	洪水1A	十七日丙寅, 京師大水,	33	47	0
1439	1134	06.29	長承	3	05.28	長雨2A	二十八日丁丑, 祈晴丹生貴布祢,	33	47	0
1440	1134	07.04	長承	3	06.04	長雨2A	六月四日壬午, 卜霖雨洪水於軒廊,	33	47	0
1441	1134	07.14	長承	3	06.14	長雨2A	十四日壬辰, 奉幣伊勢稻荷平野祇園北野祈晴,	33	47	0
1442	1134	07.31	長承	3	07.02		秋七月二日己酉, 夜天有光,	33	47	0
1443	1134	10.08	長承	3	09.12	暴風1A	九月十二日戊午, 大風拔樹斃屋,	33	47	0
1444	1134	-	長承	3	-	洪水1C・暴風1C	是歲, 風水疾疫, 天下饑饉,	33	47	0
1445	1135	05.01	保延	1	03.10	干ばつ2A	三月十日癸未, 祈雨丹生貴布祢, 卜大神宮數有穢於軒廊,	34	47	0
1446	1135	05.02	保延	1	03.11		十一日甲申, 雨,	34	47	0
1447	1135	06.11	保延	1	04.21	長雨2A	二十一日甲子, 奉幣二十二社, 禱疫祈晴,	34	47	0
1448	1135	06.12	保延	1	04.22	長雨2A	二十二日乙丑, (中略)卜霖軒廊,	34	47	0
1449	1135	06.16	保延	1	04.26	長雨2A	二十六日己巳, 祈晴丹生貴布祢,	34	47	0
1450	1135	07.26	保延	1	06.07		七日己酉, 有虹見二条東洞院,	35	47	0
1451	1135	08.14	保延	1	06.26	長雨1A	二十六日戊辰, 以災異疾疫霖雨, 奉幣伊勢稻荷祇園丹生貴布祢,	35	47	0
1452	1135	08.26	保延	1	07.09	雷1A	秋七月九日庚辰, 震京師數所,	35	47	0
1453	1135	09.16	保延	1	07.30	長雨2A	辛丑晦, 奉幣祈晴,	35	47	0
1454	1135	09.22	保延	1	08.06	長雨2A	八月六日丁未, 祓奠, 以疫停宴, 卜霖雨及豐受宮寶殿千木折於軒廊,	35	47	0
1455	1135	09.28	保延	1	08.12	長雨1A	十二日癸丑, 以霖雨奉幣伊勢以下十社及丹生貴布祢,	35	47	0
1456	1137	01.30	保延	3	01.01		春正月癸亥朔, 以雨停小朝拜,	36	47	0
1457	1137	07.27	保延	3	07.01	干ばつ2A	秋七月辛酉朔, 祈雨丹生貴布祢,	36	47	0
1458	1137	07.28	保延	3	07.02		二日壬戌, 雨,	36	47	0
1459	1138	04.26	保延	4	03.19		十九日甲辰, 天雨物, 狀如胡麻,	38	47	0
1460	1139	03.04	保延	5	01.25	濃霧1A	春正月十五日丙申, 昏霧四塞,	38	47	0
1461	1139	06.06	保延	5	05.01	干ばつ2A	夏五月庚辰朔, 奉幣祈雨,	38	47	0
1462	1140	04.09	保延	6	03.13		十三日戊子, 日無光, 天雨物, 狀如胡麻,	39	47	0
1463	1140	07.09	保延	6	閏05.16	雷1A	十六日己未, 震法成寺願寺塔, 災,	39	47	0
1464	1141	09.28	永治	1	08.20	長雨1A・洪水1A	八月二十日乙酉, 霖雨洪水,	40	47	0
1465	1141	11.02	永治	1	09.25		九月二十五日庚申, 京師雨物, 狀如胡麻,	40	47	0
1466	1142	09.29	康治	1	09.02	大雨1A・洪水1A・暴風1A	九月二日辛卯, 大風雨水, 斃屋壞廬,	45	48	0
1467	1143	06.26	康治	2	05.05	洪水1A	夏五月五日辛酉, 大水入禁中,	46	48	0
1468	1145	02.05	久安	1	01.05	強風1A	五日辛亥, 大風斃屋,	47	48	0
1469	1145	06.30	久安	1	06.02	洪水1A	六月二日丙子, 洪水,	48	48	0
1470	1145	09.09	久安	1	08.14	暴風1A	八月十四日丁亥, 大風拔樹斃屋,	48	48	0
1471	1146	04.27	久安	2	03.08	雷1A	三月八日丁丑, 震前齋院東洞院第, (後略)	48	48	0
1472	1146	06.29	久安	2	05.12	洪水1A	十二日庚辰, 洪水漂河尾明神社,	49	48	0
1473	1146	12.28	久安	2	11.16	雷1A	十六日壬午, 大雷,	49	48	0
1474	1147	08.25	久安	3	07.20	干ばつ2A	二十日壬午, 祈雨丹生貴布祢,	50	48	0
1475	1150	02.12	久安	6	01.06	雷1A・ひょう1A	六日甲申, 雷雨雹,	52	48	0
1476	1150	04.06	久安	6	02.30	大雨1A・洪水1A	丁丑晦, 大雨, 賀茂河泛溢,	52	48	0

大日本史

1477	1150	06.30	久安	6	05.27		二十七日壬寅, 天皇從法皇幸法勝寺, 觀美福門院慶讚金字大藏經, 雨不能修法會,		53	48	0
1478	1150	09.03	久安	6	08.04	大雨1A・暴風1A	八月四日丁未, 大風雨, 仁壽殿大學寮孔廟前舍倒,		53	48	0
1479	1150	09.19	久安	6	08.20	大雨1A・暴風1A	二十日癸亥, 大風雨,		53	48	0
1480	1150	09.27	久安	6	08.28		二十八日辛未, 雨水,	大雨・洪水の可能性あり。	54	48	0
1481	1151	01.24	久安	6	12.28	雷1A	二十八日庚午, 大雷,		54	48	0
1482	1150	-	久安	6	-	洪水1C・暴風1C	是歲風水, 近江安芸寺十一國稼穡不登,		54	48	0
1483	1151	03.17	仁平	1	02.11	雷1A	二月十一日壬戌, 震木工権頭季兼家災,		54	48	0
1484	1151	08.28	仁平	1	07.08	洪水1A	秋七月八日丙午, 大水,		54	48	0
1485	1153	08.18	仁平	3	07.20	干ばつ2A	秋七月二十日丁未, 祈雨丹生貴布祢,		55	48	0
1486	1153	10.16	仁平	3	09.20	暴風1A	二十日丙午, 大風折木発屋, 土御門南殿齋宮野宮倒,		56	48	0
1487	1154	03.03	久寿	1	01.11	雷1A	十一日甲子, 雷,		56	48	0
1488	1154	08.12	久寿	1	06.24	雷1A	二十四日丙午, 震土御門殿,		56	48	0
1489	1154	09.19	久寿	1	08.03	長雨2A	三日甲申, 雨水, 祈晴丹生貴布祢,	大雨・洪水の可能性あり。	56	48	0
1490	1155	12.28	久寿	2	11.25	強風1A・雷1A	二十五日己巳, 雷雨暴風,		60	49	0
1491	1159	06.27	平治	1	閏05.03	干ばつ2A	閏月三日丙戌, 使千僧誦經東大寺祈雨,		73	50	0
1492	1160	01.26	平治	1	12.09		十二月九日己未, 白虹貫日,		74	50	0
1493	1160	08.03	永曆	1	06.22	洪水1A	二十二日己巳, 洪水, 壞日吉二宮十禪神殿,		75	50	0
1494	1161	07.02-07.31	応保	1	06	干ばつ1B	六月旱, 辛未晦, 誦經神泉苑五日,		76	50	0
1495	1161	08.03	応保	1	07.03		秋七月三日甲戌雨,		76	50	0
1496	1165	06.14	永万	1	04.27	長雨2A	二十七日乙巳, 奉幣祈晴,		81	50	0
1497	1165	09.14	永万	1	08.01	暴風1A	八月丁丑朔, 大風, 会昌門壞,		84	51	0
1498	1166	07.06-08.04	仁安	1	06	干ばつ1B	夏六月旱,		85	51	0
1499	1166	08.09	仁安	1	07.05	大雨1A	秋七月五日丙午, 修孔雀經法於神泉苑, 是日大雨,		85	51	0
1500	1167	08.21	仁安	2	07.17	干ばつ2A	十七日壬子, 祈雨丹生貴布祢,		87	51	0
1501	1167	08.28	仁安	2	07.24		二十四日己未, 怪雲亘天,		87	51	0
1502	1167	10.17	仁安	2	09.15	長雨2A	九月十五日己卯, 祈晴丹生貴布祢,		87	51	0
1503	1169	03.16	嘉応	1	02.09	強風1A	二月九日丙申, 大風折木発屋, 賀茂上下社館舍倒壊,		91	52	0
1504	1169	07.20	嘉応	1	06.17	干ばつ2A	十七日壬寅, 一院薙髮, 祈雨丹生貴布祢,		92	52	0
1505	1169	07.24	嘉応	1	06.21	干ばつ2A	二十一日丙午, 又祈雨丹生貴布祢,		92	52	0
1506	1169	07.26	嘉応	1	06.23		二十三日戊申, (中略)誦經室生龍穴,		92	52	0
1507	1169	07.28	嘉応	1	06.25	干ばつ2A	甲寅晦, 卜旱軒廊, 祭五龍於神泉苑, 又祈雨丹生貴布祢,		92	52	0
1508	1169	10.19	嘉応	1	09.20	長雨2A	二十日癸酉, 雨水, 祈晴丹生貴布祢,	大雨・洪水の可能性あり。	93	52	0
1509	1169	12.09	嘉応	1	11.12	雷1A	十二日甲子, 御大内, 震法勝寺塔,		93	52	0
1510	1170	01.29	嘉応	2	01.04		四日乙卯, 日吉社有光如虹,		93	52	0
1511	1170	07.20	嘉応	2	05.28	干ばつ2A	二十八日丁未, 修孔雀經法於神泉苑祈雨,		94	52	0
1512	1170	07.21	嘉応	2	05.29		二十九日戊申, 雨,		94	52	0
1513	1170	09.26	嘉応	2	08.08	暴風1A	八日乙卯, 大風, 鳥羽北門樓倒,		94	52	0
1514	1170	10.19-11.16	嘉応	2	09		是月京師桜梅桃李華,		94	52	0
1515	1170	12.13	嘉応	2	10.27		二十七日癸酉, 赤氣西方,		94	52	0
1516	1171	03.07	承安	1	01.22		二十二日丁酉, 赤光見南方,		95	52	0
1517	1172	06.20	承安	2	05.20	大雨1A・洪水1A	二十日戊子, 雨水壞廬舍,	「雨水」であるが被害の記載があるため, 大雨・洪水とした。	96	52	0
1518	1173	02.01	承安	2	閏12.10	雷1A	十日甲戌, 雷,		97	52	0
1519	1173	07.28	承安	3	06.10		六月十日辛未, 白虹見,		97	52	0
1520	1173	08.09	承安	3	06.22	干ばつ2A	二十二日癸未, 祈雨醍醐寺,		97	52	0
1521	1173	08.20	承安	3	07.03	干ばつ2A	秋七月三日甲午, 誦經神泉苑祈雨,		97	52	0
1522	1174	06.09-07.01	承安	4	05.01-05.23	干ばつ1B	廿三日己酉, 還宮, 是月大旱, 祈雨諸寺,		99	52	0
1523	1174	07.02	承安	4	05.24	干ばつ2A	二十四日壬戌, 清涼殿最勝講, 令僧澄憲祈雨,		99	52	0
1524	1174	07.04	承安	4	05.26		二十六日壬子, 澍雨,		99	52	0
1525	1174	07.24	承安	4	06.17	干ばつ2A	十七日, 奉幣二社祈雨,		100	52	0
1526	1174	08.03	承安	4	06.27	干ばつ2A	二十七日壬午, 奉幣五社祈雨,		100	52	0
1527	1174	08.26	承安	4	07.20	雷1A	二十日乙巳, 震法勝寺塔,		100	52	0
1528	1175	06.27-07.26	安元	1	06	洪水1B	是月霖雨, 洪水傷稼,		101	52	0
1529	1175	08.25-09.23	安元	1	08		八月伊勢宮河水逆流,	洪水・高潮・津波などの可能性あり。	101	52	0
1530	1175	09.25	安元	1	09.02	暴風1A	九月二日庚辰, 大風, 夜天有光,		101	52	0
1531	1175	10.05	安元	1	09.12	暴風1A	十二日庚寅, 大風壞廬舍,		101	52	0
1532	1176	04.18	安元	2	03.01	雷1A	三月丙午朔, 日有食之, 震法勝寺塔, 二男子震死,		102	52	0

大日本史

1533	1176	07.18	安元	2	06.04	干ばつ2A	六月四日丁丑, 祈雨丹生貴布祢,		102	52	0
1534	1176	08.06	安元	2	06.23	暴風1A	二十三日丙申, 暴風,		103	52	0
1535	1177	05.24	治承	1	04.18	強風1A	十八日丁亥, 颶風起神泉苑, 三条大宮人家多倒,		105	52	0
1536	1177	10.01	治承	1	09.01		九月丁酉朔, 日当食, 陰雲不見,		107	52	0
1537	1177	11.02	治承	1	10.03	長雨2A	冬十月三日己巳, 祈晴丹生貴布祢,		107	52	0
1538	1178	08.13	治承	2	閏06.21	干ばつ2A	二十一日癸丑, 祈雨丹生貴布祢,		109	52	0
1539	1179	04.28	治承	3	03.13	長雨2A	十三日辛未, 奉幣祈晴,		110	52	0
1540	1179	07.27	治承	3	06.14	暴風1A	十四日辛丑, 颶風壞廬舎,		111	52	0
1541	1179	10.02	治承	3	08.23		八月二十三日戊申, 雨水,	大雨・洪水の可能性あり。	111	52	0
1542	1180	06.01	治承	4	04.29	雷1A・ひょう1A	辛亥晦, 颶風壞廬舎, 雷雨雹,		116	53	0
1543	1180	06.15	治承	4	05.14	暴風2A	五月十四日乙丑, ト伊勢賀茂平野怪異及颶風於軒廊, (後略)		116	53	0
1544	1180	08.24	治承	4	07.25	干ばつ2A	二十五日乙亥, 祈雨十三社,		117	53	0
1545	1180	09.04	治承	4	08.06		八月六日丙戌, 雨,		117	53	0
1546	1180	11.25	治承	4	10.29	雷1A・ひょう1A	戊申晦, 雷雨雹,		118	53	0
1547	1181	07.30	養和	1	06.10	干ばつ2A	十日乙卯, 祈雨,		122	53	0
1548	1181	08.06	養和	1	06.16	干ばつ2A	十六日辛酉, 祈雨神泉苑七日,		123	53	0
1549	1181	08.11	養和	1	06.22	干ばつ1A	二十二日丁卯, 雨, ト賀茂御祖社竈鳴, 春日社鏡破, 及炎旱軒廊,		123	53	0
1550	1181	12.20	養和	1	11.06		十一月六日戊寅, 雨井涸,		124	53	0
1551	1183	04.24	寿永	2	03.23	ひょう1A	三月二十三日戊子, 雨雹,		126	53	0
1552	1183	08.20	寿永	2	07.24	雷1A	震石清水宝殿廊,		128	53	0
1553	1183	11.06	寿永	2	10.13	雷1A	十三日甲辰, 雷,		133	54	0
1554	1184	02.21	元暦	1	01.01	強風1A・雷1A	是夜大風雷, 將軍塚鳴動,		135	54	0
1555	1184	05.29	元暦	1	04.11		十一日己巳, 雨水,	大雨・洪水の可能性あり。	136	54	0
1556	1184	08.15-09.13	元暦	1	07	干ばつ1B	是月旱,		137	54	0
1557	1185	02.09-08.04	文治	1	春-夏	干ばつ1C	是歳春夏大旱, 秋冬風雨洪水, 諸国飢,		141	54	0
1558	1185	08.05-01.29	文治	1	秋-冬	大雨1C・洪水1C・暴風1C	是歳春夏大旱, 秋冬風雨洪水, 諸国飢,		141	54	0
1559	1186	05.30	文治	2	05.03	干ばつ2A	五月三日庚辰, 祈雨,		141	54	0
1560	1186	06.11	文治	2	05.15	干ばつ2A	十五日壬辰, 祈雨神泉苑, 有金色蛇見春日社,		141	54	0
1561	1186	06.14	文治	2	05.18		十八日乙未夜, 春日山有光,		141	54	0
1562	1186	06.27	文治	2	06.02	大雨1A・干ばつ2A	六月二日戊申, 奉幣二十二社祈雨, 是日大雨,		141	54	0
1563	1186	09.27	文治	2	08.06	長雨2A	八月六日庚辰, 祈晴丹生貴布祢,		141	54	0
1564	1186	10.14	文治	2	08.23	暴風1A	二十三日丁酉, 大風, 春日山木多僵,		141	54	0
1565	1187	03.07	文治	3	01.19	雷1A	春正月十九日辛酉, 雷,		142	54	0
1566	1187	07.09	文治	3	05.24	干ばつ2A	二十四日乙丑, 祈雨,		144	54	0
1567	1187	08.08	文治	3	06.25	干ばつ2A	二十五日乙未, 祈雨,		144	54	0
1568	1187	08.23	文治	3	07.11	干ばつ2A	秋七月十一日庚戌, 祈雨神泉苑,		144	54	0
1569	1187	12.27	文治	3	11.19	強風1A・雷1A	十九日丙辰, 大風雷,		145	54	0
1570	1188	01.01	文治	3	11.24	雷2A	二十四日辛酉, ト雷於軒廊,		145	54	0
1571	1188	01.31	文治	3	12.24	雷3	二十四日辛卯, 以雷奉幣伊勢已下七社,		145	54	0
1572	1188	07.26	文治	4	06.24		二十四日戊子, 白虹貫心大星,		146	54	0
1573	1189	04.24	文治	5	03.30		庚申晦, 白氣貫北斗魁星,		146	54	0
1574	1189	10.08	文治	5	08.20	暴風1A	八月二十日丁未, 大風, 神社官舎多倒,		147	54	0
1575	1190	08.06	建久	1	06.26	干ばつ2A	六月二十六日己酉, 祈雨神泉苑,		148	54	0
1576	1190	09.24	建久	1	08.16	長雨2A	十六日戊戌, 祈晴,		149	54	0
1577	1190	09.25	建久	1	08.17	長雨2A・大雨1A・洪水1A	十七日己亥, 風雨洪水, 是日ト占霖雨, (後略)		149	54	0
1578	1190	10.06	建久	1	08.28	長雨2A	二十八日庚戌, 奉幣伊勢已下十社祈晴,		149	54	0
1579	1191	01.22	建久	1	12.18		十八日戊戌, 白虹貫月,		150	54	0
1580	1190	-	建久	1	-	洪水1C・干ばつ1C	是歳諸国旱澇, 穀稼不登,		150	54	0
1581	1191	06.10	建久	2	05.10	干ばつ2A	十日丁巳, 奉幣馬於丹生貴布祢祈雨,		151	54	0
1582	1191	06.14	建久	2	05.14	干ばつ1A	十四日辛酉, 以早詵經神泉苑五日,		151	54	0
1583	1191	06.16	建久	2	05.16	干ばつ2A	十六日癸亥, 祈雨神祇官,		151	54	0
1584	1191	06.22	建久	2	05.22	大雨1A	是日大雨,		151	54	0
1585	1191	07.12	建久	2	06.12	大雨1A・干ばつ2A	十二日己丑, 祈雨丹生貴布祢, 是夜大雨,		151	54	0
1586	1191	07.23	建久	2	06.23	長雨2A	二十三日庚子, 祈晴丹生貴布祢,		151	54	0
1587	1191	08.02	建久	2	07.04	長雨2A	秋七月四日庚戌, 祈晴,		151	54	0
1588	1194	04.15	建久	5	03.16		三月十六日丁丑, 鎌倉日無光,		153	54	0
1589	1194	07.01	建久	5	06.05	長雨2A	六月五日甲午, 祈晴,		154	54	0
1590	1194	07.03	建久	5	06.07	長雨2A	七日丙申, 祈晴神祇官七日,		154	54	0
1591	1194	07.15	建久	5	06.19	干ばつ2A	十九日戊寅, 祈雨丹生貴布祢,		154	54	0
1592	1194	10.31	建久	5	09.09	雷1A	九月九日丙申, 大雷,		154	54	0
1593	1195	01.20	建久	5	12.01	長雨2A	十二月丁巳朔, 祈晴,		154	54	0
1594	1195	10.17	建久	6	09.06	暴風1A	九月六日丁亥, 大風, 成勝寺延勝寺門倒,		155	54	0
1595	1197	08.17	建久	8	閏06.25	暴風1A	閏六月二十五日丁酉, 大風, 東大寺廻廊倒,		156	54	0

大日本史

1596	1199	02.04	正治	1	01.01	雷1A	春正月癸巳朔，日当食，陰雨不見，雷，地震，		161	55	0
1597	1199	06.03-07.01	正治	1	05	洪水1B	是月京師大水，		161	55	0
1598	1199	07.31	正治	1	06.30	干ばつ2A	庚寅晦，誦經神泉苑祈雨，		161	55	0
1599	1199	08.12	正治	1	07.12	干ばつ2A	秋七月十二日壬寅，祈雨清滝，		161	55	0
1600	1199	09.02	正治	1	08.03	干ばつ2A	八月三日癸亥，誦經神泉苑祈雨，		162	55	0
1601	1199	08.31-09.28	正治	1	08	洪水1B	是月越後大水，		162	55	1
1602	1199	10.17	正治	1	09.19	長雨2A	十九日戊申，奉幣七社祈晴，		162	55	0
1603	1199	10.24	正治	1	09.26	長雨2A	二十六日乙卯，詔東大興福延曆三寺，誦仁王經祈晴，		162	55	0
1604	1200	08.07	正治	2	07.19	干ばつ2A	十九日癸酉，祈雨神泉苑，		162	55	0
1605	1201	06.16	建仁	1	05.07	干ばつ2A	五月七日丙辰，祈雨清滝，		163	55	0
1606	1201	08.26	建仁	1	07.19	干ばつ2A	秋七月十九日丁卯，祈雨神泉苑，		163	55	0
1607	1201	09.04	建仁	1	07.28	干ばつ2A	二十八日丙子，祈雨，		163	55	0
1608	1201	09.16	建仁	1	08.11	大雨1A・暴風1A・高潮1A	十一日戊子，鎌倉大風雨，鶴岡宮寺及堂塔舎宅多倒，下総葛飾郡海溢，漂没千余人，		163	55	1
1609	1201	09.20	建仁	1	08.15	長雨2A	十五日壬辰，祈晴，		163	55	0
1610	1201	09.27	建仁	1	08.22	長雨2A	二十二日己亥，又祈晴，		163	55	0
1611	1201	12.07	建仁	1	11.03	雷1A	十一月三日庚戌，雷，		163	55	0
1612	1202	06.21	建仁	2	05.23	ひょう1A	夏五月二十三日丙寅，雨雹，大寸余，		164	55	0
1613	1203	02.14	建仁	2	12.24	雷1A	十二月二十四日甲子，鎌倉雷，		164	55	1
1614	1203	02.23	建仁	3	01.03	雷1A	春正月三日癸酉，雷，		165	55	0
1615	1203	03.18	建仁	3	01.26	強風1A・雷1A	二十六日丙申，大風，雷，折木発屋，		165	55	0
1616	1203	08.08	建仁	3	06.23	長雨2A	六月二十三日己未，祈晴六社，		165	55	0
1617	1203	08.27	建仁	3	07.12	干ばつ2A	十二日戊寅，祈雨神泉苑，		165	55	0
1618	1203	09.06	建仁	3	07.22	暴風1A	二十二日戊子，大風折木発屋，		165	55	0
1619	1204	02.28	元久	1	01.19		十九日癸未，有赤氣見東北，		166	55	0
1620	1204	07.18	元久	1	06.13	干ばつ2A	六月十三日甲辰，祈雨丹生貴布祢，御大内，避祇園神輿，		166	55	0
1621	1204	07.25	元久	1	06.20	干ばつ2A	二十日辛亥，祈雨清滝，		166	55	0
1622	1204	08.05	元久	1	07.02	干ばつ2A	秋七月二日壬戌，祈雨神泉苑，		166	55	0
1623	1204	08.25	元久	1	07.22	干ばつ2A	二十二日壬午，祈雨東寺，		166	55	0
1624	1205	01.27	元久	1	12.29		二十九日丁巳，有赤氣見東方，地震，		167	55	0
1625	1205	08.04	元久	2	07.11	干ばつ2A	秋七月十一日丙寅，立女御藤原麗子為中宮，祈雨神泉苑，		168	55	0
1626	1205	08.14	元久	2	07.22	干ばつ2A	二十二日丁丑，祈雨東寺，		168	55	0
1627	1205	08.30	元久	2	閏07.07	干ばつ2A	七日壬辰，祈雨東寺，		168	55	0
1628	1206	09.13	建永	1	08.02	長雨2A	二日辛亥，祈晴，		170	55	0
1629	1207	05.28	承元	1	04.23	干ばつ2A	二十三日戊辰祈雨清滝，		170	55	0
1630	1207	08.07	承元	1	07.05	暴風1A	秋七月五日己卯，大風折木発屋，		171	55	0
1631	1207	08.21	承元	1	07.19	暴風1A	十九日癸巳，大風，		171	55	0
1632	1207	10.04	承元	1	09.04		九月四日丁丑，雨水，	大雨・洪水の可能性あり。	171	55	0
1633	1208	07.06	承元	2	05.15	雷1A	五月十五日癸丑，震法勝寺，九層塔災，		171	55	0
1634	1208	10.31	承元	2	09.13	低温1A	九月十三日庚戌，北山雪，		172	55	0
1635	1209	09.30	承元	3	08.23	長雨2A	二十三日甲申，奉幣七社，祈晴，		173	55	0
1636	1211	02.26	建曆	1	閏01.05	大雪1A	閏月五日戊午，大雪，		176	56	0
1637	1211	07.20	建曆	1	06.02	干ばつ2A	六月二日壬午，祈雨丹生貴布祢，		176	56	0
1638	1211	07.25	建曆	1	06.07	干ばつ2A	七日丁亥，祈雨，		176	56	0
1639	1211	08.05	建曆	1	06.18		十八日戊戌，誦經清滝，		176	56	0
1640	1211	08.08	建曆	1	06.21		二十一日辛丑，修五龍祭，		176	56	0
1641	1211	08.22	建曆	1	07.06	干ばつ2A	六日乙卯，奉幣九社祈雨，		176	56	0
1642	1211	08.28	建曆	1	07.12	干ばつ2A	十二日辛酉，修孔雀経法祈雨，		176	56	0
1643	1211	09.19	建曆	1	08.04	大雨1A・暴風1A	八月四日癸未，大風雨，		177	56	0
1644	1212	06.21	建曆	2	05.14	長雨2A	十四日己未，祈晴，		177	56	0
1645	1212	09.04	建曆	2	08.01	干ばつ2A	秋八月甲戌朔，祈雨神泉苑，		178	56	0
1646	1213	08.25	建保	1	08.01	干ばつ2A	八月己巳朔，奉幣丹生貴布祢，誦經神泉苑，祈雨，		179	56	0
1647	1213	09.01	建保	1	08.08	干ばつ2A	八日丙子，修請雨経法於神泉苑，		179	56	0
1648	1213	12.04	建保	1	10.14	雷1A	冬十月十四日庚戌，雷，		179	56	0
1649	1214	09.22	建保	2	08.10	暴風1A	十日壬寅，大風破廬舎，		181	56	0
1650	1215	06.07	建保	3	05.02	干ばつ2A	五月二日庚申，奉幣丹生貴布祢，誦經清滝，並祈雨，		182	56	0
1651	1215	06.10	建保	3	05.05	干ばつ2A	五日癸亥，祈雨神泉苑，		182	56	0
1652	1215	07.02	建保	3	05.27	干ばつ2A	二十七日乙酉，卜旱軒廊，		182	56	0
1653	1215	07.08	建保	3	06.03	干ばつ2A	六月三日辛卯，奉幣七社祈雨，		182	56	0
1654	1215	07.11	建保	3	06.06	干ばつ2A	六日甲午，修請雨経法于神泉苑，		182	56	0
1655	1215	07.17	建保	3	06.12		十二日庚子，修五龍祭，		182	56	0
1656	1215	07.20	建保	3	06.15	干ばつ2A	十五日癸卯，奉幣二十二社祈雨，		182	56	0
1657	1215	09.03	建保	3	08.01	干ばつ2A	八月戊子朔，奉幣丹生貴布祢，祈雨，		182	56	0
1658	1216	04.02	建保	4	03.07		三月七日庚子，鎌倉海水變赤，		182	56	1
1659	1216	08.31	建保	4	07.10	暴風1A	秋七月十日辛卯，大風，紫宸殿椽折，		183	56	0
1660	1216	10.18	建保	4	08.28	長雨2A・暴風1A	二十八日己卯，大風折木発屋，太政官庁南門東院大炊寮門倒，祈晴二社，		183	56	0

大日本史

1661	1217	10.11	建保	5	09.03	大雨1A・暴風1A	九月三日丁卯, 大風雨, 朱雀門左近衛府南門倒,	184	56	0
1662	1217	10.12	建保	5	09.04	暴風1A	四日戊寅, 鎌倉大風, 廬舎多倒,	184	56	1
1663	1218	07.09	建保	6	06.08		六月八日戊申, 鎌倉白虹見,	184	56	1
1664	1218	07.31	建保	6	07.01		秋七月庚午朔, 日当食, 陰雨不見,	184	56	0
1665	1219	02.01	承久	1	01.08	雷1A	春正月八日乙亥, 雷,	185	56	0
1666	1219	05.14	承久	1	03.22	干ばつ2A	二十二日丁巳, 読経神泉苑, 祈雨,	186	56	0
1667	1219	05.30	承久	1	04.08	干ばつ2A	八日癸酉, 修請雨經法于神泉苑,	186	56	0
1668	1219	06.07	承久	1	04.16		十六日辛巳, 雨,	186	56	0
1669	1219	09.01	承久	1	07.14	干ばつ2A	十四日丁未, 以大内火, 廃朝三日, 読経神泉苑, 祈雨,	186	56	0
1670	1219	09.08	承久	1	07.21	暴風1A	二十一日甲寅, 大風, 神祇官南斤右近馬場官舎倒,	186	56	0
1671	1220	09.05	承久	2	07.30	大雨1A・暴風1A	秋七月丁巳晦, 鎌倉大風雨,	187	56	1
1672	1220	12.24	承久	2	11.21	雷1A	冬十一月二十一日丁未, 鎌倉雷,	187	56	1
1673	1221	12.10	承久	3	閏10.18	雷1A	十八日戊戌, 雷,	196	58	0
1674	1224	06.13	元仁	1	05.18	干ばつ2A	十八日甲寅, 卜炎旱, 読経神泉苑, 修水天供,	198	58	0
1675	1224	06.20	元仁	1	05.25		二十五日辛酉, 雨,	198	58	0
1676	1224	04.27-07.24	元仁	1	夏	干ばつ1C	是夏旱,	198	58	0
1677	1225	04.17	嘉祿	1	03.01	強風1A	三月壬戌朔, 大風発屋,	199	58	0
1678	1225	04.20	嘉祿	1	03.04		四日乙丑, 摂津広田海水変如血,	199	58	0
1679	1226	03.05	嘉祿	2	01.28	雷1A	二十八日甲申, 大雷, 震日吉社樹,	199	58	0
1680	1226	06.10	嘉祿	2	05.07	暴風1A	五月七日辛酉, 大風発屋,	199	58	0
1681	1226	08.15	嘉祿	2	07.14	大雨1A・暴風1A	十四日丁卯, 大風雨, 左近衛府南門倒,	200	58	0
1682	1226	09.15	嘉祿	2	08.15	暴風1A・高潮1A	十五日戊戌, 肥前大風, 海溢, 人畜多死,	200	58	1
1683	1227	02.27	安貞	1	02.03	強風1A	二月三日癸未, 大風発屋, 地大震,	201	58	0
1684	1227	05.14	安貞	1	閏03.20		二十日己亥, 相模腰越海水変如血,	201	58	1
1685	1228	01.16	安貞	1	12.01	強風1A	十二月丙午朔, 大風発屋,	202	58	0
1686	1228	04.18	安貞	2	03.06	雷1A	三月六日己卯, 震賀茂社,	202	58	0
1687	1228	06.12	安貞	2	05.02	干ばつ2A	五月二日甲戌, 祈雨清滝,	202	58	0
1688	1228	06.14	安貞	2	05.04		四日丙子, 雨,	202	58	0
1689	1228	08.28	安貞	2	07.20	大雨1A・洪水1A・暴風1A	二十日辛卯, 大風雨水, 鴨河溢, 賀茂社瑞籬, 貴布祢社拝殿, 人民漂溺,	202	58	0
1690	1228	11.12	安貞	2	10.07	大雨1A・強風1A	冬十月七日丁未, 大風雨壊廬舎,	202	58	0
1691	1229	11.27	寛喜	1	11.03	雷1A	冬十一月三日丁卯, 雷,	203	58	0
1692	1229	11.28	寛喜	1	11.04	雷1A	四日戊辰, 鎌倉雷,	203	58	1
1693	1230	02.26	寛喜	2	閏01.05	強風1A	春閏正月五日戊戌, 大風,	203	58	0
1694	1230	05.21	寛喜	2	04.01		夏四月壬戌朔, 日当食, 陰雨不見,	204	58	0
1695	1230	07.27	寛喜	2	06.09	ひょう1A	六月九日己巳, 美濃時田莊雨雪二寸許, 武蔵金子郷雨雪雹,	204	58	1
1696	1230	09.01	寛喜	2	07.16	霜1A	秋七月十六日乙巳, 鎌倉隕霜,	204	58	1
1697	1230	09.21	寛喜	2	08.06	洪水1A	八月六日乙丑, 関東大水, 人多死,	204	58	1
1698	1230	09.23	寛喜	2	08.08	大雨1A・洪水1A・暴風1A	八日丁卯, 大風, 関東大風雨傷稼,	204	58	0
1699	1230	10.22	寛喜	2	09.08	大雨1A・暴風1A	九月八日丙申, 大風雨, 大神宮外宮院殿舎倒, 諸国傷稼,	204	58	0
1700	1230	12.31	寛喜	2	11.18	強風1A・雷1A	十一月十八日乙巳, 鎌倉大風雷,	205	58	1
1701	1230	12.13-01.11	寛喜	2	11		是月桜花, 筍挺麥穂,	205	58	0
1702	1231	02.15	寛喜	3	01.05	強風1A	春正月五日壬辰, 大風発屋,	205	58	0
1703	1231	04.12	寛喜	3	03.02	大雨1A・強風1A	三月二日戊子, 大風雨,	205	58	0
1704	1231	05.11-06.08	寛喜	3	04	大雨2A・干ばつ2A・暴風2A	是月, 勅諸国国分寺, 転読最勝經, 禪風雨水旱,	206	58	0
1705	1232	01.30	寛喜	3	12.30	雷1A	十二月辛巳晦, 鎌倉雷,	206	58	1
1706	1232	01.31	貞永	1	01.01	高温1C	(貞永元年1月1日/グレゴリイ暦1232年1月30日) 春正月壬午朔, 以下前年無冰, 不奏冰様,	206	58	0
1707	1232	04.01	貞永	1	03.02	雷1A	三月二日癸未, 震春日社東大寺元興寺塔,	206	58	0
1708	1233	03.01	天福	1	01.12	強風1A	十二日丁巳, 大風発屋,	209	59	0
1709	1233	05.16	天福	1	03.29	強風1A	二十九日癸酉, 大風, 藻壁門倒, 春日山樹多僵,	209	59	0
1710	1233	07.28	天福	1	06.13	干ばつ2A	十三日丙戌, 読経清滝及醍醐寺, 祈雨,	210	59	0
1711	1233	08.01	天福	1	06.17	干ばつ2A	十七日庚寅, 卜旱軒廊, 祈雨神泉苑,	210	59	0
1712	1233	08.07	天福	1	06.23	干ばつ2A・暴風2A	二十三日丙申, 大風折木, 修如意宝珠法祈雨,	210	59	0
1713	1233	08.10	天福	1	06.26		二十六日己亥, 読経神泉苑,	210	59	0
1714	1233	08.11	天福	1	06.27		二十七日庚子, 雨,	210	59	0
1715	1233	11.28	天福	1	10.18	強風1A	十八日己丑, 大風発屋,	210	59	0
1716	1233	11.11-12.09	天福	1	10		是月, 大内桜華,	210	59	0
1717	1234	08.24	文暦	1	07.21	干ばつ2A	二十一日戊午, 読経清滝及醍醐寺祈雨,	211	59	0
1718	1235	05.29	嘉禎	1	05.04	ひょう1A	五月四日丙申, 雨雹, 傷禾,	212	59	0
1719	1235	07.30	嘉禎	1	閏06.07	長雨2A	閏月七日戊戌, 祈晴,	212	59	0
1720	1235	09.01	嘉禎	1	07.10		秋七月十日辛未, 鎌倉雨水,	212	59	1

大雨・洪水の可能性あり。

大日本史

1721	1236	03.25	嘉禎	2	02.10		二月十日, 雨水, 積奠罷宴,	大雨・洪水の可能性あり。	214	59	0
1722	1236	05.21	嘉禎	2	04.08	強風1A・ひょう1A	夏四月八日甲午, 大風雨雹, 大如柑,		214	59	0
1723	1236	07.31	嘉禎	2	06.20	雷1A	二十日乙巳, 震平野社樹,		214	59	0
1724	1237	02.06	嘉禎	3	01.03	雷1A	春正月三日乙卯, 鎌倉雷,		215	59	1
1725	1237	05.26	嘉禎	3	04.23		是日又薄食, 月色黃,		215	59	0
1726	1237	06.20	嘉禎	3	05.19	干ばつ2A	五月十九日己卯, 誦孔雀經於清滝, 仁王經於龍穴七日, 祈雨,		215	59	0
1727	1237	12.26	嘉禎	3	12.01		十二月戊寅朔, 日当食, 陰雨不見,		215	59	0
1728	1238	04.06	曆仁	1	閏02.13		閏月十三日己未, 日有重暈,		216	59	0
1729	1238	04.22	曆仁	1	閏02.29	強風1A	乙亥晦, 大風, 法成寺步廊倒,		216	59	0
1730	1238	05.15	曆仁	1	03.23	強風1A	三月二十三日戊戌, 大風発屋,		216	59	0
1731	1239	03.24	延応	1	02.11		十一日辛亥, 日有暈,		217	59	0
1732	1239	11.13	延応	1	10.09	雷1A	冬十月九日乙巳, 鎌倉雷,		217	59	1
1733	1239	12.04	延応	1	11.01	強風1A・雷1A	十一月丙寅朔, 鎌倉雷雨大風,		217	59	1
1734	1240	05.17	仁治	1	04.17	霜1A	十七日辛亥, 隕霜,		218	59	0
1735	1240	07.14	仁治	1	06.16	干ばつ2A	六月十六日己酉, 慶賀賀茂社塔, 祈雨醍醐寺,		218	59	0
1736	1240	07.30	仁治	1	07.03		秋七月三日乙丑, 修五龍祭,		218	59	0
1737	1240	08.04	仁治	1	07.08	干ばつ2A	八日庚午, 修請雨經法,		218	59	0
1738	1240	08.10	仁治	1	07.14	干ばつ2A	十四日丙子, 祈雨十一社及室生龍穴,		218	59	0
1739	1241	01.07	仁治	1	11.17	強風1A・雷1A	十七日丙午, 雷, 大風,		218	59	0
1740	1241	02.27	仁治	2	01.08	雷1A	八日丁酉, 雷,		218	59	0
1741	1241	03.24	仁治	2	02.04		二月四日壬戌, 鎌倉白赤気見,		219	59	1
1742	1242	07.09	仁治	3	06.03	洪水1A	六月三日甲寅, 洪水,		223	60	0
1743	1242	07.23	仁治	3	06.17		十七日戊辰, 雨水,	大雨・洪水の可能性あり。	223	60	0
1744	1242	06.07-08.04	仁治	3	05-06	長雨1B・低温1B	(和暦6月)是月歳星入東井, 自五月雨是月, 凍寒如冬,		223	60	0
1745	1243	06.13	寛元	1	05.18	ひょう1A	十八日癸巳, 雨雹,		224	60	0
1746	1243	12.24	寛元	1	11.05	大雪1A	冬十一月五日丁未, 大雪,		224	60	0
1747	1244	02.16	寛元	1	12.29		辛丑晦, 白虹貫日,		224	60	0
1748	1244	07.26	寛元	2	06.13	干ばつ2A	十三日壬午, (中略)誦經神泉苑祈雨,		225	60	0
1749	1244	08.08	寛元	2	06.26	干ばつ2A	二十六日乙未, 修請雨經法,		225	60	0
1750	1244	08.09	寛元	2	06.27		二十七日丙申, 雨,		225	60	0
1751	1244	11.18	寛元	2	10.10	雷1A	冬十月十日丁丑, 雷,		225	60	0
1752	1244	12.04	寛元	2	10.26		二十六日癸巳, 黒雲竟天,		225	60	0
1753	1244	12.11	寛元	2	11.03	洪水1A	三日庚子, 鎌倉洪水,		226	60	1
1754	1245	02.06	寛元	3	01.01	雷1A	春正月丁酉朔, 鎌倉雷,		226	60	0
1755	1245	02.16	寛元	3	01.11	雷1A	十一日丁未, 雷電,		226	60	0
1756	1245	02.26	寛元	3	01.21	雷1A	二十一日丁巳, 鎌倉雷,		226	60	1
1757	1245	04.22	寛元	3	03.17		十七日壬子, 白虹見,		226	60	0
1758	1245	06.14	寛元	3	05.12	干ばつ2A	十二日乙巳, 祈雨,		227	60	0
1759	1245	07.22	寛元	3	06.20	干ばつ2A	二十日癸未, 祈雨,		227	60	0
1760	1245	08.01	寛元	3	07.01		秋七月癸巳朔, 日当食, 陰雨不見,		227	60	0
1761	1245	08.09	寛元	3	07.09	干ばつ2A	九日辛丑, 奉幣祈雨, 是日雨,		227	60	0
1762	1245	08.19	寛元	3	07.19	ひょう1A	十九日辛亥, 雨雹,		228	60	0
1763	1245	09.02	寛元	3	08.03	長雨2A	八月三日乙丑, 祈晴,		228	60	0
1764	1245	09.04	寛元	3	08.05	長雨2A	五日丁卯, 又祈晴,		228	60	0
1765	1245	12.02	寛元	3	11.05	雷1A	十一月五日丙申, 鎌倉雷,		228	60	1
1766	1246	02.09	寛元	4	01.15	長雨2A	十五日乙巳, 奉幣祈晴,		228	60	0
1767	1246	05.01	寛元	4	04.07	あられ1A・霜1A	七日丙寅, 隕霜霰,		232	61	0
1768	1246	05.04	寛元	4	04.10	長雨2A	十日己巳, 奉幣丹生貴布祈晴,		232	61	0
1769	1246	05.12	寛元	4	04.18	長雨2A	十八日丁丑, 卜霖雨于軒廊,		232	61	0
1770	1246	07.25	寛元	4	06.04	干ばつ2A	六月四日辛卯, 発大奉幣使, 是日祈雨,		232	61	0
1771	1246	08.04	寛元	4	06.14	干ばつ2A	十四日辛丑, 卜旱軒廊, 誦經龍穴醍醐清滝祈雨,		232	61	0
1772	1246	08.07	寛元	4	06.17	干ばつ1A	十七日甲辰, 占多武峯墓有光, 以旱赦囚,		232	61	0
1773	1246	08.09	寛元	4	06.19		十九日丙午, 誦經神泉苑,		232	61	0
1774	1246	08.12	寛元	4	06.22	干ばつ2A	二十二日己酉, 奉幣伊勢以下七社祈雨,		232	61	0
1775	1246	08.18	寛元	4	06.28	干ばつ2A	二十八日乙卯, 誦經諸社祈雨,		233	61	0
1776	1246	11.22	寛元	4	10.06	雷1A	六日辛卯, 鎌倉雷,		233	61	1
1777	1246	12.06	寛元	4	10.20	長雨2A	二十日乙巳, 祈晴, 歳星鎮星太白相犯,		233	61	0
1778	1247	03.10	宝治	1	01.25	雷1A	二十五日己卯, 雷,		234	61	0
1779	1247	03.11	宝治	1	01.26	雷1A	二十六日庚辰, 鎌倉雷,		234	61	1
1780	1247	04.24	宝治	1	03.11		三月十一日甲子, 鎌倉海水赤如血,		234	61	1
1781	1247	06.07	宝治	1	04.25		夏四月二十五日戊申, 日有暈, 石清水宮有煙氣, 卜之於軒廊,		234	61	0
1782	1247	07.07	宝治	1	05.26	干ばつ2A	二十六日戊寅, 誦經神泉苑祈雨,		234	61	0
1783	1247	07.19	宝治	1	06.09	干ばつ2A	九日庚寅, 修請雨經法于神泉苑,		234	61	0
1784	1247	07.25	宝治	1	06.15	干ばつ2A	十五日丙申, 卜旱于軒廊, 又赦囚,		235	61	0
1785	1247	08.12	宝治	1	07.03	大雨1A	秋七月三日甲寅, 大雨,		235	61	0
1786	1247	08.17	宝治	1	07.08		八日己未, 北方有赤気,		235	61	0
1787	1247	10.08	宝治	1	09.01	暴風1A	九月辛亥朔, 鎌倉大風発屋,		235	61	1
1788	1247	10.09	宝治	1	09.02	暴風1A	二日壬子, 又大風,		235	61	1
1789	1248	07.08	宝治	2	06.09		夏六月九日乙酉, 相模河水赤如血,		235	61	0
1790	1248	07.14	宝治	2	06.15		十五日辛卯, 常陸雨雪,		235	61	1

大日本史

1791	1248	07.17	宝治	2	06.18		十八日甲午, (中略)鎌倉微雪,		235	61	1
1792	1248	10.03	宝治	2	09.08	大雨1A・洪水1A・暴風1A	八日壬子, 大風雨水, 春日社鳥居倒,		236	61	0
1793	1249	04.24	建長	1	03.03	長雨2A	三月三日乙亥, 祈晴,		236	61	0
1794	1250	02.22	建長	2	01.13		十三日己亥, 下野雨麦,		238	61	1
1795	1250	07.12	建長	2	06.05	長雨2A	六月五日己亥, 祈晴,		238	61	0
1796	1250	07.16	建長	2	06.09	長雨2A	九日癸卯, 又祈晴,		238	61	0
1797	1250	07.17	建長	2	06.10	長雨2A	十日甲辰, 卜霖軒廊,		238	61	0
1798	1250	07.23	建長	2	06.16	長雨2A	十六日庚戌, 奉幣伊勢以下十社祈晴,		239	61	0
1799	1251	05.22	建長	3	04.23		二十三日癸丑, 鎌倉雨水,	大雨・洪水の可能性あり。	240	61	1
1800	1251	05.26	建長	3	04.27	長雨2A	二十七日丁巳, 卜霖軒廊,		240	61	0
1801	1251	06.02	建長	3	05.05	長雨2A	五月五日甲子, 奉幣六社祈晴,		240	61	0
1802	1251	06.16	建長	3	05.19	長雨2A・暴風1A	十九日戊寅, 大風, 破廬舍, 奉幣八社祈晴,		240	61	0
1803	1251	06.21	建長	3	05.24	長雨2A	二十四日癸未, 修不動供祈晴,		240	61	0
1804	1251	07.02	建長	3	06.05		六月五日甲午, 有赤雲見南方,		240	61	0
1805	1251	06.28-07.26	建長	3	06	低温1B	是月鎌倉寒如冬, 有冰,		240	61	1
1806	1251	08.17	建長	3	07.22	長雨2A	秋七月二十二日庚辰, 祈晴,		240	61	0
1807	1251	12.14	建長	3	10.23	雷1A	冬十月二十三日己卯, 鎌倉雷地震,		241	61	1
1808	1252	02.29	建長	4	01.11	雷1A	春正月十一日丙申, 鎌倉雷,		241	61	1
1809	1252	03.16	建長	4	01.27		二十七日壬子, 鎌倉海水赤如血,		241	61	1
1810	1252	04.17	建長	4	02.28		二十八日壬午, 鎌倉海水赤如血,		241	61	1
1811	1252	06.17	建長	4	05.02	干ばつ2A	五月二日乙酉, 奉幣祈雨, 修水天供二七日,		241	61	0
1812	1252	12.27	建長	4	11.18	雷1A	十八日戊戌, 雷,		242	61	0
1813	1253	01.24	建長	4	12.16		十二月十六日丙寅, 鎌倉日有珥,		242	61	1
1814	1253	03.08	建長	5	02.01		二月己酉朔, 日当食, 陰雨不見,		242	61	0
1815	1253	03.28	建長	5	02.21		二十一日己巳, 有光怪,		242	61	0
1816	1253	06.17	建長	5	05.13	干ばつ2A	十三日庚寅, 奉幣丹生責布祢祈雨,		243	61	0
1817	1253	06.18	建長	5	05.14		十四日辛卯, 読経龍穴,		243	61	0
1818	1253	06.20	建長	5	05.16		十六日癸巳, 修水天供,		243	61	0
1819	1253	06.25	建長	5	05.21		二十一日戊戌, 読経清滝,		243	61	0
1820	1253	09.12	建長	5	08.11	長雨2A	十一日丁巳, 祈晴,		243	61	0
1821	1253	10.14	建長	5	09.14	雷1A	十四日己丑, 鎌倉雷,		243	61	1
1822	1254	05.06	建長	6	04.11	長雨2A	夏四月十一日癸丑, 卜霖軒廊,		244	61	0
1823	1254	08.08	建長	6	06.17	雷1A	十七日丁亥, 震東大寺, 勅封宝蔵,		244	61	0
1824	1254	08.22	建長	6	07.01	暴風1A	秋七月辛丑朔, 鎌倉大風壞廬舍, 傷穀稼,		244	61	1
1825	1254	08.22-10.19	建長	6	07-08	干ばつ1B	(和暦7月)自六月不雨至是月,		244	61	0
1826	1254	09.30	建長	6	08.10		十日庚辰, 鎌倉白虹見,		244	61	1
1827	1254	11.22	建長	6	10.04	雷1A	十月四日癸酉, 鎌倉雷,		244	61	1
1828	1255	06.07	建長	7	04.24	干ばつ2A	二十四日庚寅, 祈雨神泉苑,		245	61	0
1829	1256	09.03	康元	1	08.06	大雨1A・洪水1A・暴風1A	八月六日甲子, 鎌倉大風雨水, 山崩人死,		246	61	1
1830	1256	12.13	康元	1	11.18	雷1A	十一月十八日乙巳, 鎌倉雷,		246	61	1
1831	1257	05.17	正嘉	1	閏03.25		閏月二十五日庚辰, 雨灰,		247	61	0
1832	1257	06.21	正嘉	1	05.01		五月乙卯朔, 日当食, 陰雨不見,		247	61	0
1833	1257	07.20-08.17	正嘉	1	06	干ばつ1B	是月旱,		247	61	0
1834	1257	11.27	正嘉	1	10.13	雷1A	冬十月十三日甲午, 鎌倉雷,		247	61	1
1835	1258	07.24	正嘉	2	06.15	長雨2A	十五日癸巳, 卜霖雨於軒廊,		248	61	0
1836	1258	07.10-08.07	正嘉	2	06	低温1B	是月, 鎌倉寒如冬,		248	61	0
1837	1258	09.06	正嘉	2	08.01	暴風1A	秋八月丁丑朔, 大風, 傷穀稼, 安嘉門倒,		248	61	0
1838	1259	01.14	正嘉	2	12.12	雷1A	十二月十二日丁亥, 鎌倉雷,		248	61	1
1839	1259	01.18	正嘉	2	12.16	雷1A	十六日辛卯, 又雷,		248	61	1
1840	1260	03.04	文応	1	01.14	雷1A	十四日壬午, 鎌倉雷,		253	62	1
1841	1260	05.02	文応	1	03.14		十四日辛巳, 日色赤,		253	62	0
1842	1260	05.03	文応	1	03.15		十五日壬午, 又赤,		253	62	0
1843	1260	07.17	文応	1	06.01	大雨1A・洪水1A・暴風1A	六月丁酉朔, 鎌倉大風雨水, 山崩人死,		253	62	1
1844	1260	09.18	文応	1	08.05	大雨1A・暴風1A	八月五日庚子, 鎌倉地震, 大風雨破屋,		254	62	1
1845	1260	12.26	文応	1	11.16	雷1A	十一月十六日己卯, (中略)鎌倉雷,		254	62	1
1846	1261	02.13	弘長	1	01.06	雷1A	春正月六日戊辰, 鎌倉雷,		254	62	1
1847	1261	06.04	弘長	1	04.28		二十八日己未, 日有暈,		254	62	0
1848	1261	12.07	弘長	1	11.07	雷1A	冬十一月七日乙丑, 鎌倉雷,		255	62	1
1849	1263	09.27	弘長	3	08.14	暴風1A	十四日辛酉, 京師諸国大風, 発屋傷稼,		256	62	0
1850	1263	10.22	弘長	3	09.12	雷1A	九月十二日己丑, 鎌倉雷,		256	62	1
1851	1264	07.29	文永	1	06.27	雷1A	二十七日庚午, 震金峯山蔵王堂, 災,		257	62	0
1852	1265	01.26	文永	2	01.01		春正月辛未朔, 日当食, 雨不見,		257	62	0
1853	1265	03.24	文永	2	02.28	長雨2A	二十八日戊辰, 祈晴,		257	62	0
1854	1266	03.16	文永	3	02.01		春二月乙丑朔, 鎌倉雨泥,		258	62	1
1855	1266	04.18	文永	3	03.05	ひょう1A	三月五日戊戌, 鎌倉雨雹, 大如李,		258	62	1
1856	1266	09.25	文永	3	08.18	大雨1A・暴風1A	八月十八日戊寅, 大風雨, 明堂陰陽寮守護社延暦寺諸堂多壞, 西国被害殊甚,		258	62	0
1857	1267	06.01	文永	4	05.01		夏五月丁亥朔, 日当食, 雨不見,		259	62	0

大日本史

1858	1267	06.15	文永	4	05.15	長雨2A	十五日辛丑朔, 祈晴丹生貴布祢,		259	62	0
1859	1267	07.05	文永	4	06.05	長雨2A	六月五日辛酉, 祈晴,		259	62	0
1860	1267	07.17	文永	4	06.17	長雨2A	十七日癸酉, 祈晴,		259	62	0
1861	1268	07.06	文永	5	05.18	長雨2A	十八日戊辰, 祈晴,		260	62	0
1862	1268	07.23	文永	5	06.05	雷1A	六月五日乙酉, 震法勝寺九層塔,		260	62	0
1863	1268	08.23	文永	5	07.07	干ばつ2A	秋七月七日丙辰, 読孔雀經于神泉苑祈雨,		260	62	0
1864	1268	09.02	文永	5	07.17		十七日丙寅, 読経清滝龍穴,		260	62	0
1865	1271	07.16-08.13	文永	8	06	干ばつ1B	六月旱,		263	62	0
1866	1273	08.09	文永	10	06.18	干ばつ2A	六月十八日戊辰, 読経神泉苑, 祈雨,		265	62	0
1867	1273	08.15	文永	10	06.24		二十四日甲戌, 読経清滝龍穴,		265	62	0
1868	1273	08.30	文永	10	07.10	干ばつ2A	秋七月十日己丑, 修請雨經法于神泉苑,		265	62	0
1869	1273	06.23-09.19	文永	10	閏05-07	干ばつ1B	(和曆7月)自閏月不雨, 至是月,		265	62	0
1870	1274	05.26	文永	11	04.12	強風1A	夏四月十二日戊午, 関東大風殺木,		268	63	1
1871	1274	08.23	文永	11	07.13		秋七月十三日丁亥, 修水天供,		268	63	0
1872	1277	11.04	建治	3	10.01		冬十月丙辰朔, 日当食, 陰雨不見,		271	63	0
1873	1281	08.23	弘安	4	閏07.01	暴風1A	閏月甲子朔, 日当食, 陰雲不見, 是日大風, 有黒雲, 覆石清水宮, 有白羽鳴鶴, 出宮西去,		275	63	0
1874	1281	08.23	弘安	4	閏07.01	暴風1A	(閏7月14日)十四日丁丑, 太宰府駁奏, 本月初, 大風, 元軍艦悉歿於肥前鷹島,		275	63	1
1875	1283	07.02	弘安	6	05.29	長雨2A	夏五月壬午晦, 卜霖及疫於軒廊,		277	63	0
1876	1286	04.29	弘安	9	03.27	雷1A・ひょう1A	三月二十七日甲午, 行幸春日社, 至美豆頓宮, 雷電雨雹, 大如橘子, 從官失儀,		278	63	1
1877	1286	07.12	弘安	9	06.12	大雨1A・洪水1A・暴風1A	夏六月十二日戊申, 新院幸日吉社, 大風雨水,		278	63	0
1878	1287	06.20-07.18	弘安	10	05	長雨1B・洪水1B	夏五月霖雨洪水, 以興福寺僧徒不奉命, 罷最勝講,		279	63	0
1879	1288	02.21	正応	1	01.11	大雪1A	春正月十一日丁酉, 卜大神宮心柱蠹損, 大雪庄倒宝殿門垣干木於軒廊,		282	64	0
1880	1288	09.02	正応	1	07.28	暴風1A	二十八日辛亥, 奈良大風, 興福寺講堂倒,		282	64	0
1881	1291	07.12	正応	4	06.08	干ばつ2A	六月八日甲戌, 慶等身十一面觀音像於興福寺, 祈雨,		286	64	0
1882	1291	07.19	正応	4	06.15		十五日辛巳, 頓寫大般若經於興福寺, 使千僧慶讚之, 修水天供於東寺, 是日雨,		286	64	0
1883	1293	08.30	永仁	1	07.20	干ばつ2A	(和曆7月20日/グレゴリイ曆8月30日)二十日甲戌, 祈雨伊勢已下八社,		289	64	0
1884	1293	08.11-08.30	永仁	1	07.01-07.20	干ばつ2B	(和曆7月20日/グレゴリイ曆8月30日)是月修水天供祈雨,		289	64	0
1885	1295	06.15	永仁	3	04.24	ひょう1A	夏四月二十四日戊辰, 雨雹,		291	64	0
1886	1297	06.10	永仁	5	05.12	ひょう1A	五月十二日甲戌, 奈良雨雹, 円八寸許,		293	64	0
1887	1301	02.18	正安	3	01.01		春正月壬寅朔, 雨不受朝,		299	65	0
1888	1302	08.10	乾元	1	07.08	大雨1A・洪水1A・暴風1A	秋七月八日庚子, 大風雨水, 泉木津橋長谷寺堂舎漂流,		303	66	0
1889	1303	08.27	嘉元	1	07.06	干ばつ2A	六日壬戌, 頓寫大般若經於興福寺祈雨,		305	66	0
1890	1303	09.03	嘉元	1	07.13	干ばつ2A	十三日己巳, 又祈,	「祈雨」と明記されていないが、「又」から祈雨と判断した。	305	66	0
1891	1304	09.15	嘉元	2	08.07	大雨1A・暴風1A	八月七日丁亥, 夜大風雨, 有光怪, 如日者五, 出自春日山向西北飛,		305	66	0
1892	1306	06.20-07.19	徳治	1	05	干ばつ2B	五月, 慶等身十一面觀音像於興福寺, 祈雨,		307	66	0
1893	1311	02.02	応長	1	01.05	強風1A	五日戊寅, 大風壊屋揚沙,		313	67	0
1894	1312	05.26	正和	1	04.12		夏四月十二日丁丑, 伊豆駿河武蔵下総海水赤如血, 数日復故,		314	67	1
1895	1315	05.12	正和	4	04.01		夏四月戊寅朔, 日当食, 陰雲不見,		316	67	0
1896	1315	07.01	正和	4	05.21	長雨2A	五月二十一日戊辰, 祈晴丹生貴布祢社,		316	67	0
1897	1318	08.19	文保	2	07.15	干ばつ2A	七月十五日癸酉, 奉幣丹生貴布祢等社祈雨,		320	68	0
1898	1322	04.25-08.21	元亨	2	夏	干ばつ1C	是夏大旱, 米価躍貴, (後略)		324	68	0
1899	1335	08.29	建武	2	08.03	暴風1A	三日壬子, (中略)鎌倉大風, 大仏殿壊, 賊庄死者五百余人,		344	69	1
1900	1337	07.19	延元	2	06.13	雷1A	十三日壬午, 震東寺塔,		354	69	0
1901	1340	01.08-02.06	延元	4	12		是月京師雨水銀,		360	70	0
1902	1341	07.23-08.20	興国	2	06	干ばつ1B	是月大旱,		361	70	0
1903	1343	07.30-08.28	興国	4	07	干ばつ1B	秋七月旱,		361	70	0
1904	1346	10.06	正平	1	09.13	暴風1A	九月十三日戊子, 京師大風発屋,		362	70	0
1905	1348	06.18-07.16	正平	3	05	干ばつ1B	夏五月旱,		363	70	0
1906	1348	12.14	正平	3	11.04	雷1A	十一月四日丁酉, 京師雷,		363	70	0
1907	1349	07.26	正平	4	閏06.03		閏月三日壬辰, (中略)空中有光如雷相關,		363	70	0
1908	1350	03.03	正平	5	01.16	雷1A・ひょう1A	春正月十六日壬申, 京師雷雨雹,		364	70	0

大日本史

1909	1350	04.08	正平	5	02.23		二月二十三日戊申, 京師雨物, 状如貝子而赤色,	364	70	0
1910	1350	07.11	正平	5	05.28	洪水1A	二十八日壬午, 京師大水,	364	70	0
1911	1350	08.19	正平	5	07.08	暴風1A	八日辛酉, 京師大風,	364	70	0
1912	1350	12.13	正平	5	11.06	雷1A	冬十一月六日丁巳, 京師雷,	364	70	0
1913	1351	06.03	正平	6	05.01		五月己酉朔, 日当食, 陰雨不見,	365	70	0
1914	1353	05.16	正平	8	04.05	強風1A	夏四月五日壬寅, 京師大風, 真言院壞,	370	70	0
1915	1353	-	正平	8	-	長雨1C・洪水1C・干ばつ1C	是歲, 旱霖洪水,	371	70	0
1916	1355	08.05	正平	10	06.19	暴風1A	夏六月十九日己酉, 京師大風発屋,	372	70	0
1917	1355	07.18-08.16	正平	10	06		是月, 神泉苑池水涸,	372	70	0
1918	1356	02.15	正平	11	01.09	強風1A・雷1A	春正月九日庚寅, 京師大風雷,	372	70	0
1919	1356	03.27	正平	11	02.17	雷1A	二月十七日戊辰, 震興福寺, 東金堂及塔災,	372	70	0
1920	1356	09.17	正平	11	08.14	洪水1A・暴風1A	八月十四日壬戌, 京師大風, 洪水, 太政官庁門倒, 宇治橋壞,	372	70	0
1921	1358	07.15	正平	13	06.01		六月戊辰朔, 日当食, 陰雲不見,	373	70	0
1922	1359	02.16	正平	14	01.10	雷1A	春正月十日甲辰, 京師雷,	373	70	0
1923	1360	-	正平	15	-	干ばつ1C	是歲早飢, 疾病流行, 道殣相望,	375	70	0
1924	1361	08.01	正平	16	06.22	低温1A	二十二日辛丑, 京師雨雪人畜凍死,	375	70	0
1925	1361	09.26	正平	16	08.19	暴風1A	十九日丁酉, 京師大風,	376	70	0
1926	1362	02.16	正平	17	01.13	雷1A	春正月十三日庚申, 震東大寺災,	377	70	0
1927	1362	-	正平	17	-	干ばつ1C	是歲大旱, 冬十一月近江湖涸,	377	70	0
1928	1366	07.29	正平	21	06.13	暴風1A	夏六月十三日甲子, 京師大風, 真言院壞,	378	70	0
1929	1368	06.04	正平	23	05.11	ひょう1A	五月十一日庚辰, 石清水雨雹,	380	71	0
1930	1369	02.16-03.16	正平	24	01	ひょう1B	是月石清水雨雹,	380	71	0
1931	1369	10.11	正平	24	09.02	暴風1A	九月二日甲午, 大風,	381	71	0
1932	1369	12.29	正平	24	11.22	雷1A	十一月二十二日癸丑, 雷,	381	71	0
1933	1370	09.18	建徳	1	08.20	洪水1A・暴風1A	秋八月二十日丙子, 駿河以東諸国大風損禾稼, 相模国洪水, 漂没飯島人家三百余宇,	381	71	1
1934	1370	11.04	建徳	1	10.08		冬十月八日癸亥, 有赤氣見北方,	381	71	0
1935	1370	12.02	建徳	1	11.07		十一月七日壬辰, 有白黒又見北方,	381	71	0
1936	1371	06.27	建徳	2	05.06	洪水1A	夏五月六日戊午, 大水,	381	71	0
1937	1371	10.18-11.15	建徳	2	09		九月有赤氣見,	382	71	0
1938	1373	03.01	文中	2	01.28	雷1A	春正月二十八日辛未, 京師雷,	382	71	0
1939	1373	06.10	文中	2	05.11	ひょう1A	五月十一日壬子, 京師雨雹,	382	71	0
1940	1373	09.26	文中	2	09.02	暴風1A	九月二日庚子, 大風発屋,	383	71	0
1941	1377	10.01	天授	3	08.20	暴風1A	二十日丙寅, 大風発屋,	384	71	0
1942	1378	09.13	天授	4	08.13	暴風1A	八月十三日癸丑, 大風折木,	384	71	0
1943	1390	08.19-09.17	元中	7	07	長雨1B・大雨1B	秋七月, 大雨踰月不止,	387	71	0
1944	1348	07.04	貞和	4	05.17	干ばつ2A	五月十七日癸丑, 奉幣諸社祈雨,	397	72	0
1945	1348	07.15	貞和	4	05.28	大雨1A・洪水1A	二十八日甲子, 大雨洪水,	397	72	0
1946	1356	09.17	延文	1	08.14	洪水1A・暴風1A	八月十四日壬戌, 大風洪水,	403	72	0
1947	1368	06.04	応安	1	05.11	ひょう1A	五月十一日庚辰, 石清水雨雹, 大如桃李, (後略)	407	72	0
1948	1369	02.16-03.16	応安	2	01	ひょう1A	正月, 石清水雨雹, 大如柚子, 卜之,	407	72	0
1949	1369	10.11	応安	2	09.02	暴風1A	九月二日甲午, 大風太政官庁東門倒,	407	72	0
1950	1370	09.13	応安	3	08.15	雷1A	八月十五日辛未, 震前関白經教第, 二男子震死,	408	72	0
1951	1373	09.26	応安	6	09.02	暴風1A	九月二日庚子, 大風, 太政官庁及土御門殿東門倒,	409	72	0
1952	1393	07.18-09.14	明德	4	06-07	干ばつ1B	秋七月, 自六月不雨, 至是月,	415	73	0
1953	1393	09.15-10.13	明德	4	08	洪水1B	是月, 洪水,	415	73	0
1954	1400	05.04-06.01	応永	7	04	干ばつ1B	夏四月, 大和旱,	419	73	0
1955	1402	07.10-08.07	応永	9	06	干ばつ1B	夏六月大旱,	419	73	0
1956	1402	07.13	応永	9	06.04	干ばつ2A	四日丙辰, 祈雨,	419	73	0
1957	1405	03.22	応永	12	02.13	強風1A	春二月十三日己卯, 若狭大風, 遠敷二宮樓門八幡宮鳥居倒,	420	73	0
1958	1405	07.14	応永	12	06.09	洪水1A	六月九日癸酉, 洪水, 祇園社鳥居倒, 圧死二十余人,	420	73	0
1959	1406	02.25	応永	13	01.28	雷1A	二十八日己未, 雷,	420	73	0
1960	1406	10.15	応永	13	08.24	暴風1A	二十四日辛亥, 大風, 北野社林木僵, 拱北樓倒,	420	73	0
1961	1406	10.22	応永	13	09.02	長雨2A	九月二日戊午, 祈晴,	420	73	0

11. 本朝通鑑

(1) ページは下記による。

国書刊行会編	1918	『本朝通鑑	第三』
国書刊行会編	1918	『本朝通鑑	第四』
国書刊行会編	1918	『本朝通鑑	第五』
国書刊行会編	1919	『本朝通鑑	第六』
国書刊行会編	1919	『本朝通鑑	第七』
国書刊行会編	1919	『本朝通鑑	第八』
国書刊行会編	1919	『本朝通鑑	第九』
国書刊行会編	1919	『本朝通鑑	第十』
国書刊行会編	1919	『本朝通鑑	第十一』
国書刊行会編	1919	『本朝通鑑	第十二』
国書刊行会編	1919	『本朝通鑑	第十三』
国書刊行会編	1919	『本朝通鑑	第十四』
国書刊行会編	1919	『本朝通鑑	第十五』

* ページ番号は上記 13 冊で連続。

(2) 地域 (“L” 列) は下記による。

0 : 近畿地方中部

1 : 近畿地方中部以外

No.	グレゴリイ暦		和暦		項目	記載内容	備考	該当箇所		L
	年	月日	年号	年 月日				巻	頁	
1	567	-	欽明	28 -	洪水1C	郡国大水(後略)		4	130	0
2	601	06.09-07.08	推古	9 05	大雨1B・洪水1B	天皇居于耳梨行宮。時火雨。河水漂蕩滿于宮庭。		5	145	0
3	609	05.12-06.10	推古	17 04	強風1B	百濟僧道欣惠弥等欲赴吳国。逢暴風漂于肥後国葦北津。筑紫太宰奏之。		5	149	1
4	616	01.27-02.25	推古	24 01		桃李実。		5	150	0
5	617	-	推古	25 -		是歲五穀登熟。		5	151	0
6	618	08.29-09.27	推古	26 08	雷1B	遣河辺臣於安芸国。造船。伐霹靂木。(後略)		5	151	1
7	623	02.08-10.31	推古	31 春-秋	洪水1C	自春至秋大水。五穀不登。		5	152	0
8	625	05.15-08.11	推古	33 夏	干ばつ1C	旱。僧惠灌祈雨有驗。權僧正。		5	153	0
9	626	02.05-03.06	推古	34 01		桃李華。		5	153	0
10	626	04.05-05.04	推古	34 03	霜1B	霜降。		5	153	0
11	626	07.03-07.31	推古	34 06		雪。		5	153	0
12	626	04.05-08.30	推古	34 03-07	長雨1B	自三月至七月。霖雨。大飢。(後略)		5	153	0
13	628	05.26	推古	36 04.15	ひょう1A	辛卯。雨雹大如桃子。		5	154	0
14	628	05.27	推古	36 04.16	ひょう1A	壬辰雨雹。大如李子。		5	154	0
15	628	02.13-08.08	推古	36 春-夏	干ばつ1C	自春至夏旱。		5	154	0
16	636	06.12-07.11	舒明	8 05	長雨1B・洪水1B	霖雨大水。		5	157	0
17	636	07.12-08.09	舒明	8 06	干ばつ1B	大旱飢。		5	157	0
18	638	08.18-09.16	舒明	10 07	暴風1B	大風。折木斃屋。		5	158	0
19	638	10.16-11.14	舒明	10 09	長雨1B	霖雨。		5	158	0
20	638	10.16-11.14	舒明	10 09		桃李華。		5	158	0
21	639	02.23	舒明	11 01.12	雷1A	丙辰。無雲而雷。		5	158	0
22	639	03.05	舒明	11 01.22	大雨1A・強風1A	丙寅。大風雨。		5	158	0
23	642	04.08-05.07	皇極	1 03		無雲而雨。		5	159	0
24	642	04.08-05.07	皇極	1 03	長雨1B	霖雨。		5	159	0
25	642	05.08-06.05	皇極	1 04	長雨1B	霖雨。		5	159	0
26	642	07.06-08.03	皇極	1 06	干ばつ1B	大旱。		5	160	0
27	642	08.04-09.03	皇極	1 07	干ばつ1B	群臣奏村村殺牛馬。祭社神。禱河伯。請雨無効。(中略)既而微雨。又旱。故停読経。		5	160	0
28	642	08.04-09.03	皇極	1 08	大雨1B・雷1B	天皇幸南淵河上。跪拜四方。仰天而祈。即雷大雨五日。普潤天下。(後略)		5	160	0
29	642	11.01-11.29	皇極	1 10	強風1B	地震風雨。		5	160	0
30	642	11.30-12.29	皇極	1 11	大雨1B・雷1B	大雨雷。		5	160	0
31	642	11.30-12.29	皇極	1 11	高温1B	天暖如春氣。		5	160	0
32	642	12.30-01.28	皇極	1 12	高温1B	天暖如春。		5	160	0
33	642	12.30-01.28	皇極	1 12	雷1B	雷鳴。		5	160	0
34	642	12.30-01.28	皇極	1 12	雷1B	雷鳴。		5	160	0
35	642	12.30-01.28	皇極	1 12	雷1B	雷鳴。其声如裂。		5	160	0
36	643	01.29-02.26	皇極	2 01	濃霧1B	五色大雲覆天。一色青霧起於地。		5	160	0
37	643	01.29-02.26	皇極	2 01	強風1B	大風。		5	160	0
38	643	02.27-03.28	皇極	2 02	ひょう1B	雨雹傷草木。		5	160	0
39	643	02.27-03.28	皇極	2 02	強風1B・雷1B・あられ1B	風雷水雨。		5	160	0
40	643	03.29-04.26	皇極	2 03	霜1B	霜隕殺草木。		5	161	0
41	643	03.29-04.26	皇極	2 03	強風1B・雷1B・あられ1B	風雷水雨。		5	161	0
42	643	04.27-05.26	皇極	2 04	大雨1B・強風1B	大風雨。		5	161	0
43	643	04.27-05.26	皇極	2 04	ひょう1B	雨雹。		5	161	0
44	643	04.27-05.26	皇極	2 04	低温1B	天寒人着綿袍三頭。		5	161	0
45	643	04.27-05.26	皇極	2 04	ひょう1B	近江国雨雹大徑一寸。		5	161	0
46	643	10.21-11.19	皇極	2 09	大雨1B・ひょう1B	大雨而雹。		5	161	0
47	652	05.17-06.14	白雉	3 04	長雨1B	自此日連雨九日。壞屋損苗。人及牛馬溺死。		5	171	0
48	666	08.09-09.06	天智	5 07	洪水1B	大水。		6	183	0
49	668	08.16-09.14	天智	7 07	暴風1B・波浪1B	高麗越路進調風浪高不歸。		6	185	1
50	670	04.28-05.27	天智	9 04	雷1B	火雨雷震。		6	187	0
51	671	07.15-08.13	白鳳	1 06	雷1B	(前略)太弟居野上宮。時雷雨。(後略)		6	194	0
52	675	07.01-07.30	白鳳	5 06	干ばつ1B	大旱。(後略)		7	203	0
53	676	06.20-07.18	白鳳	6 05	干ばつ1B	旱。雩於京畿。		7	204	0
54	677	01.12	白鳳	6 12.01		雪。不告朔。		7	205	0
55	678	01.02-01.30	白鳳	7 12	強風1B	(前略)逢暴風不知所往。(後略)		7	206	1
56	678	03.02-03.30	白鳳	8 02	低温3	賑恤飢寒者。		7	206	0
57	678	06.28-07.26	白鳳	8 06	ひょう1B	氷零。大如桃子。		7	207	0
58	678	06.28-07.26	白鳳	8 06	干ばつ2B	雩。		7	207	0
59	678	07.27-09.24	白鳳	8 07	干ばつ2B	雩。		7	207	0
60	679	02.19-04.18	白鳳	9 01		撰津国活田村桃李実。		7	207	0
61	679	07.17-08.14	白鳳	9 06		灰零。		7	208	0

本朝通鑑

62	679	07.17-08.14	白鳳	9	06	雷1B	雷電。	7	208	0	
63	679	08.15-09.13	白鳳	9	07	干ばつ2B	霧。	7	208	0	
64	679	09.14-10.12	白鳳	9	08	大雨1B・洪水1B	雨大水。	7	208	0	
65	679	09.14-10.12	白鳳	9	08	暴風1B	大風折木破屋。	7	208	0	
66	679	12.11-01.09	白鳳	9	11	雷1B	雷于西方。	7	208	0	
67	680	07.05-08.03	白鳳	10	06	干ばつ2B	霧。	7	209	0	
68	681	07.24-08.22	白鳳	11	07	暴風1B・霜1B	信濃国吉備国並言。霜降大風。五穀不登。	7	211	1	
69	681	09.11-10.09	白鳳	11	08		殿内有大虹。	7	211	0	
70	682	08.12-09.10	白鳳	12	07	干ばつ1B	旱。(後略)	7	213	0	
71	682	10.10-11.08	白鳳	12	09	暴風1B	大風。	7	213	0	
72	686	06.29-07.28	朱鳥	1	06	干ばつ2B	霧。	7	219	0	
73	686	07.29-08.27	朱鳥	1	07	雷1B	雷光南方大鳴。民部省災。(後略)	7	219	0	
74	688	08.05-09.03	持統	2	07	干ばつ1B	旱。	8	224	0	
75	688	08.05-09.03	持統	2	07	干ばつ2B	大霧。	8	224	0	
76	688	08.05-09.03	持統	2	07	干ばつ2B	命百濟僧道藏請雨。	8	224	0	
77	690	05.17-06.14	持統	4	04	干ばつ1B	旱祈雨於所所。	8	228	0	
78	691	07.04-08.02	持統	5	06	ひょう1B	京師及郡国雨水。	8	230	0	
79	692	05.24-06.22	持統	6	05	干ばつ2B	遣大夫謁者。祠名山岳流。請雨。	8	231	0	
80	692	06.23-07.21	持統	6	閏05	洪水1B	大水。	8	232	0	
81	692	07.22-08.20	持統	6	06	干ばつ2B	勅郡国長吏。禱名山。遣大夫謁者於四畿内。請雨。	8	232	0	
82	693	05.14-06.11	持統	7	04	干ばつ2B	遣大夫謁者。詣諸社請雨。	8	233	0	
83	695	07.20-08.17	持統	9	06	干ばつ2B	遣大夫。謁者。詣京師及四畿内諸社。請雨。	8	235	0	
84	697	05.29-06.27	持統	11	05	干ばつ2B	遣大夫謁者。詣諸社請雨。	8	238	0	
85	697	06.28-07.26	持統	11	06	干ばつ2B	遣大夫謁者。詣諸社請雨。	8	238	0	
86	698	05.18-06.16	文武	2]	04	干ばつ2B	奉馬芳野水分峰神。〔祈雨也。〕	9	242	0	
87	698	06.17-07.15	文武	2]	05	干ばつ1B	諸国旱。(後略)	9	242	0	
88	698	07.16-08.14	文武	2]	06	干ばつ2B	奉馬于諸社。〔祈雨也。〕	9	242	0	
89	702	07.04-08.01	大宝	2	06	暴風1B・波浪1B	(大宝2年6月)遣唐使去年徒步筑紫入海風浪暴險。不得渡海。至是又発。	9	248	1	
90	702	08.02-08.31	大宝	2	07	干ばつ2B	山背国火雷神祈雨有驗。入月次幣例。	9	248	0	
91	702	09.01-09.29	大宝	2	08	雷1B	震倭建命墓。遣使祭之。	9	248	0	
92	703	08.21-09.19	大宝	3	07	干ばつ2B	遣使祈雨于名山大川。	9	250	0	
93	704	08.09-11.05	慶雲	1	秋	暴風1C	(和曆12月)太宰府言。去秋大風拔樹傷年穀。	9	251	1	
94	705	07.29-08.27	慶雲	2	07	暴風1B	大倭国大風。損壞廬舍。	9	252	0	
95	706	07.19-08.16	慶雲	3	06	干ばつ2B	祈雨于名山大川。	9	253	0	
96	710	05.07-06.05	和銅	3	04	干ばつ2B	祈雨于名山大川。	9	258	0	
97	715	06.10-07.09	和銅	8	05		伯耆国言甘露降。	9	262	1	
98	717	05.19-06.17	養老	1	04	干ばつ2B	祈雨于畿内。	9	265	0	
99	717	05.19-08.14	養老	1	04-06	干ばつ1B	(和曆6月)自四月不雨。至于是月。	9	265	0	
100	719	10.22-11.19	養老	3	09	干ばつ3	諸国旱。開義倉賑恤之。	9	268	0	
101	721	02.05-03.06	養老	5	01	雷1B	雷。	9	269	0	
102	721	03.07-04.04	養老	5	02		日暈如白虹貫暈。	9	270	0	
103	722	06.22-09.18	養老	6	05-07	干ばつ1B	(和曆7月)自五月不雨。至于是月。	9	271	0	
104	727	03.02-03.30	神龜	4	02	強風1B・雷1B	雷雨大風。	10	276	0	
105	727	05.29-06.27	神龜	4	05	暴風1B	飄風自楯波池吹來。(後略)	10	276	0	
106	727	11.22-12.20	神龜	4	10	暴風1B	安房国言。大風拔木斃屋損秋稼。上総国言。山崩死百姓七十人。並加賑恤。	10	276	1	
107	728	02.19	神龜	5	01.01		朔。廢朝。〔雨也。〕	10	277	0	
108	728	06.16-07.15	神龜	5	05	洪水1B	左右京遭溺。損七百餘煙。	10	278	0	
109	728	12.10	神龜	5	11.01	雷1A	朔。雷。	10	278	0	
110	730	06.24-07.23	天平	2	06	干ばつ1B	旱令檢校畿内水田陸田。	10	282	0	
111	730	06.24-07.23	天平	2	06	雷1B	雷雨迅。人畜往往震死。	10	282	0	
112	730	12.18-01.16	天平	2	11	強風1B・雷1B	雷雨大風。折木斃屋。	10	282	0	
113	732	07.31-08.28	天平	4	07	干ばつ2B	請雨于畿内。	10	284	0	
114	732	08.29-09.27	天平	4	08	大雨1B・暴風1B	大風雨。	10	284	0	
115	733	01.25-02.22	天平	5	01	強風1B・雷1B	雷風。	10	284	0	
116	742	02.14-03.14	天平	14	01		陸奥国言。黒川郡以北十一郡雨赤雪。平地一寸。	10	298	1	
117	742	07.11-08.08	天平	14	06		京中往往雨飯。	10	298	0	
118	743	04.03-06.29	天平	15	03-05	干ばつ1B	(和曆5月)自三月不雨。至于是月。	10	299	0	
119	744	06.19-07.17	天平	16	05	洪水1B・雷1B	肥後国雷雨地震山崩。(後略)	10	301	1	
120	744	07.17-08.16	天平	16	06	あられ1B	雨水。	10	301	0	
121	746	11.22-12.20	天平	18	10	大雨1B・強風1B	日向国風雨損蠶。	大雨3・暴風3の可能性あり。	10	303	1
122	747	07.16-08.14	天平	19	06	干ばつ2B	於羅城門雩。	10	304	0	
123	750	06.13-07.11	天平勝宝	2	05	大雨1B・洪水1B・雷1B	震中山寺。塔并步廊盡燒。京中驟雨。水潦汎溢。伎人茨田堤往往決壊。	11	309	0	

124	751	02.05-03.05	天平勝宝	3	01	大雪1B	越中国大雪四尺。	11	310	0
125	753	04.12-05.11	天平勝宝	5	03	強風1B	(前略)飄風起。説教不竟。	11	313	0
126	753	10.05-11.03	天平勝宝	5	09	暴風1B・高潮1B	摂津国御津村南風大発。潮水暴溢。壞損廬舎百余区。(後略)	11	313	0
127	756	12.30-01.28	天平勝宝	8	12	雷1B	雷。	11	317	0
128	759	10.30-11.27	天平宝字	3	10	強風1B	(前略)海中連風。漂着対馬。(後略)	12	329	1
129	761	08.09-09.07	天平宝字	5	07	洪水1B	遠江国荒玉堤決三百余丈。(後略)	12	333	1
130	762	04.03-05.02	天平宝字	6	03	干ばつ1B	旱。	12	336	0
131	762	05.03-05.31	天平宝字	6	04	洪水1B	河内国狭山池堤決。(後略)	12	336	0
132	763	06.20-07.18	天平宝字	7	05	干ばつ1B	奉幣綿于畿内群神。[丹生河上神者加黒毛馬旱也。]	12	338	0
133	764	05.10-06.07	天平宝字	8	04	干ばつ1B	奉幣于畿内群神。[旱也。]	12	339	0
134	765	06.27-07.26	天平神護	2	06	暴風1B	日向。大隅。薩摩大風。桑麻損盡。	13	348	1
135	766	01.19-02.17	天平神護	2	12	雷1B	震大安寺東塔。	13	349	0
136	768	03.27-04.25	神護景雲	2	03	ひょう1B	雨雹。	13	352	0
137	768	05.25-06.22	神護景雲	2	05	干ばつ1B	奉幣于畿内群神。[旱也。]	13	352	0
138	768	09.20-10.18	神護景雲	2	08	洪水1B	下総国言。頻年洪水。損決。(後略)	13	353	1
139	769	02.15	神護景雲	3	01.01		朔。廢朝。[雨也。]	13	354	0
140	769	09.09-10.07	神護景雲	3	08	洪水1B	尾張国大水。	13	355	1
141	769	10.08-11.06	神護景雲	3	09	洪水1B	尾張。美濃之堺鶴沼川大水。侵損田宅。	13	355	1
142	770	02.05-03.05	神護景雲	4	01	強風1B	太宰府管内大風。壞官舎并百姓廬舎。	13	358	1
143	770	07.31-08.28	神護景雲	4	07	あられ1B	出羽国雨水損苗。	13	359	1
144	771	07.21-08.18	宝亀	2	06	干ばつ1B	奉黒毛馬于丹生川上神。[旱也。]	14	364	0
145	772	06.10-07.08	宝亀	3	05		西北宮中有声如雷。	14	368	0
146	772	07.09-08.07	宝亀	3	06	干ばつ1B	奉幣于畿内群神。[旱也。]	14	369	0
147	772	09.06-10.04	宝亀	3	08	大雨1B・暴風1B	幸難波内親王第。是日風雨拔樹発屋。	14	369	0
148	772	10.05-11.03	宝亀	3	09	暴風1B	送渤海客使武生鳥守等遭暴風。漂着能登国。(後略)	14	369	1
149	773	04.30-05.29	宝亀	4	04	干ばつ1B	旱。奉黒毛馬于丹生川上神。	14	371	0
150	773	05.30-06.28	宝亀	4	05		充丹生川上神戸四煙。[以得嘉澍也。]	14	371	0
151	773	06.29-07.27	宝亀	4	06	長雨1B	霖雨。	14	371	0
152	773	08.27-09.24	宝亀	4	08	長雨1B	霖雨。	14	372	0
153	775	06.07-07.06	宝亀	6	05		白虹竟天。	14	375	0
154	775	07.07-08.04	宝亀	6	06	干ばつ1B	畿内諸国。有神社能興雲雨者。遣使奉幣。[旱也。]	14	375	0
155	775	08.05-09.03	宝亀	6	07	ひょう1B	雨雹。[大者如碁子。]	14	375	0
156	775	10.04-11.01	宝亀	6	09	大雨3・暴風3	大祓。[以伊勢美濃有風雨之災也。]	14	375	0
157	775	10.04-11.01	宝亀	6	09	長雨1B	奉白馬于丹生川上。[霖雨也。]	14	375	0
158	776	07.24-08.22	宝亀	7	07	雷1B	震西大寺西塔。	14	377	0
159	776	08.23-09.21	宝亀	7	08	暴風1B	大風。	14	377	0
160	776	09.22-10.18	宝亀	7	閏08	暴風1B	吉岐嶋風損苗。	14	377	1
161	777	01.18-02.16	宝亀	7	12	強風1B	渤海使(中略)忽遭惡風。(後略)	14	378	1
162	777	05.16-06.13	宝亀	8	04	ひょう1B	雹。	14	378	0
163	777	05.16-06.13	宝亀	8	04	ひょう1B	雨氷。	14	378	0
164	777	05.16-06.13	宝亀	8	04	雷1B	震太政官内裏之庁。	14	378	0
165	777	06.14-07.13	宝亀	8	05	長雨1B	奉白馬于丹生川上。[霖雨也。]	14	379	0
166	777	08.12-09.09	宝亀	8	07	雷1B	震但馬国分寺塔。	14	380	1
167	777	11.09-02.05	宝亀	8	冬	干ばつ1C	(宝亀8年12月)是冬不雨。(後略)	14	381	0
168	779	04.25-05.24	宝亀	10	04	強風1B	風雨。折木発屋。	14	385	0
169	779	08.19	宝亀	10	06.29	大雨1A・洪水1A	(和暦8月)因幡国言。去六月二十九日。暴雨山崩水溢。(後略)	14	389	1
170	780	02.15-03.14	宝亀	11	01	雷1B	大雷災。新薬寺西塔。葛城寺塔並金堂等皆燒盡。	14	390	0
171	782	03.23-04.20	延暦	1	02		空中有声如雷。	15	400	0
172	782	04.21-05.20	延暦	1	03		有虹繞日。	15	400	0
173	782	05.21-06.19	延暦	1	04	干ばつ2B	遣使畿内祈雨。	15	400	0

本朝通鑑

174	782	08.18-09.15	延暦	1	07	雷1B	迅雷而雨。(後略)		15	401	0
175	784	09.23-10.22	延暦	3	09	大雨1B	京中大雨。壞百姓廬舍。		15	405	0
176	784	10.23-11.20	延暦	3	閏09	洪水1B	河内国茨田堤決壊十五処。(後略)		15	405	0
177	785	06.16-07.14	延暦	4	05	干ばつ2B	遣使畿内祈雨。		15	407	0
178	785	11.11-12.10	延暦	4	10	洪水1B	河内国堤防破壊三十処。(後略)		15	410	0
179	788	05.14-06.12	延暦	7	04	干ばつ2B	遣使畿内。祈雨。		15	415	0
180	788	05.14-06.12	延暦	7	04	干ばつ2B	奉黒馬於丹生川上神。		15	415	0
181	787	11.18-06.12	延暦	7	前冬-04	干ばつ1C	(延暦7年4月)自去冬不雨。既經五箇月。(後略)		15	415	0
182	788	06.13-07.11	延暦	7	05	大雨1B・干ばつ2B	詔曰。宜差使祈雨於伊勢神宮及七道名神。是夕大雨。其後雨多。遂得耕殖。		15	415	0
183	788	11.07-12.05	延暦	7	10	強風1B・雷1B	雷雨暴風。壞百姓廬舍。		15	416	0
184	790	06.21-07.20	延暦	9	05	干ばつ2B	畿内祈雨。		15	422	0
185	791	06.11-07.09	延暦	10	05		停節宴。〔以諸国旱疫也。〕		15	425	0
186	791	07.10-08.08	延暦	10	06	干ばつ1B	奉黒馬於丹生川上神。〔旱也。〕		15	425	0
187	792	05.29-06.27	延暦	11	05		停馬射。〔以頻年有旱災也。〕	特定の年を指していないと解釈した。	16	428	0
188	792	06.28	延暦	11	06.01	低温1A	朔。寒人或着絮。		16	428	0
189	792	06.28-07.27	延暦	11	06	大雨1B・洪水1B・雷1B	雷雨潦水滂沱。式部省南門為之倒仆。		16	428	0
190	792	08.26-09.24	延暦	11	08	大雨1B・洪水1B	大雨洪水。		16	429	0
191	792	08.26-09.24	延暦	11	08	洪水3	幸赤目崎覽洪水。		16	429	0
192	793	07.17-08.14	延暦	12	06	干ばつ2B	祈雨。		16	432	0
193	793	07.17-08.14	延暦	12	06	干ばつ1B	炎旱經日。		16	432	0
194	794	02.09-03.09	延暦	13	01	大雪1B	遊獵於瑞野。是日大雪。		16	433	0
195	794	08.04-09.02	延暦	13	07	雷1B	震于宮中並列京畿官舍及人家。有震死者。		16	434	0
196	795	07.25-08.22	延暦	14	07	暴風1B	大風。官舍京中屋破壊。		16	439	0
197	796	05.16-06.13	延暦	15	04	ひょう1B	雹。		16	442	0
198	796	06.14-07.12	延暦	15	05	大雨1B・洪水1B	大雨洪水。		16	442	0
199	796	09.10-10.09	延暦	15	08	洪水1B	大和国山崩水溢。(後略)		16	443	0
200	798	04.25-05.23	延暦	17	04	干ばつ2B	祈雨於丹生。		16	453	0
201	798	08.20-09.18	延暦	17	07	長雨2B	奉幣於丹生。祈霽。		16	455	0
202	798	09.19-10.17	延暦	17	08	雷1B	大風。壞京中百姓廬舍。		16	455	0
203	799	04.14-05.13	延暦	18	03	雷1B	震民部省廩。		17	460	0
204	799	08.10-09.07	延暦	18	07	干ばつ3・暴風3	(延暦18年7月)免備中国去年租。以風旱為災。五穀不登也。		17	462	1
205	799	10.08-11.05	延暦	18	09	大雨1B	暴雨。京中屋舍倒壊。		17	462	0
206	799	12.06-01.03	延暦	18	11	洪水3・暴風3	免淡路国今年調庸。以風水為災百姓被害也。		17	463	0
207	800	05.02-05.30	延暦	19	04	ひょう1B	和泉国雨雹。大如桃李。		17	464	0
208	800	08.28-09.25	延暦	19	08	長雨2B	奉白馬於丹生。		17	465	0
209	801	01.22-02.20	延暦	20	01	曲宴	曲宴。是日雨雪。天皇詠歌。		17	467	0
210	801	06.19-07.17	延暦	20	05	干ばつ2B	奉幣丹生祈雨。		17	471	0
211	802	02.10	延暦	21	01.01		朔。廢朝。雪也。		17	474	0
212	803	01.31	延暦	22	01.01		朔。廢朝。雨也。		17	478	0
213	803	06.27-07.25	延暦	22	06	長雨1B	奉幣丹生。為止霖雨也。		17	480	0
214	804	09.12-10.10	延暦	23	08	大雨1B・暴風1B	暴雨大風中院西樓倒打死牛。(後略)		17	484	0
215	805	08.03-08.31	延暦	24	07	干ばつ2B	奉幣畿内名神祈雨。		17	487	0
216	806	03.28-04.25	大同	1	03		日赤無光。(後略)		18	494	0
217	806	10.19-11.17	大同	1	09	洪水3・干ばつ3	(前略)以水旱成災。穀米騰躍也。		18	499	0
218	807	06.14-07.12	大同	2	05	ひょう1B	雨雹。		18	504	0
219	807	11.08-02.03	大同	2	冬		是冬。烏雀乳。桃李華。		18	508	0
220	807	-	大同	2	-	干ばつ1C	(是年)下野国旱。(後略)		18	508	1
221	808	02.04	大同	3	01.01	強風1A・低温1A	朔。廢朝。以風寒異常也。		18	509	0
222	808	04.04-05.02	大同	3	03		黃雨。		18	510	0
223	808	06.02-07.01	大同	3	05	干ばつ2B	奉黒馬於丹生川上師神。祈雨。		18	511	0
224	808	06.02-07.01	大同	3	05		雨群臣言。今日甘雨。不可不賀。(後略)		18	511	0
225	808	12.25-01.23	大同	3	12	大雪1B	大雪。宴飲終日。		18	518	0
226	809	01.24	大同	4	01.01		朔。廢朝。以風寒異常也。		18	518	0
227	809	06.21-07.19	大同	4	05	長雨3	賑給京中人民。霖雨也。		18	522	0
228	809	06.21-07.19	大同	4	05	長雨1B	奉幣於松尾。鴨御祖。別雷等社。為止霖雨也。		18	522	0
229	809	07.20-08.18	大同	4	06	干ばつ2B	遣使。奉幣於吉野。丹生川上兩師神。祈雨也。		18	523	0
230	809	08.19-09.16	大同	4	07	干ばつ1B	(前略)以炎旱累旬。山陵為崇。		18	524	0
231	809	08.19-09.16	大同	4	07	干ばつ1B	勅。頃來炎旱為災。(後略)		18	524	0
232	809	08.19-09.16	大同	4	07	暴風1B	大風。		18	524	0
233	809	09.17-10.16	大同	4	08	暴風1B	大風。		18	524	0
234	809	10.17-11.14	大同	4	09	暴風1B	暴風倒屋台。丘折太上皇之輿。		18	524	0

本朝通鑑

235	809	10.17-11.14	大同	4	09	干ばつ3	停役諸国脚夫於京下。以旱疫民疲也。	18	524	0
236	810	06.10-07.08	弘仁	1	05	長雨1B	遣使。奉幣於大和国吉野郡丹生川上雨師神。以霖雨經日也。	19	529	0
237	811	09.25-10.24	弘仁	2	09	暴風1B	大風。破京中廬舍。被風損者。給米有差。	19	538	0
238	811	09.25-10.24	弘仁	2	09		是月。桃李華。	19	539	0
239	812	07.16-08.14	弘仁	3	06	干ばつ1B	勅甘沢不降。稍涉旬日。(後略)	19	542	0
240	812	08.15-09.12	弘仁	3	07	干ばつ1B	勅。頃者疫旱並行。(後略)	19	543	0
241	812	08.15-09.12	弘仁	3	07	干ばつ1B	御大極殿。奉幣於伊勢大神宮。為救疫旱也。	19	543	0
242	814	11.20-12.18	弘仁	5	10	大雪1B	大雪。	20	559	0
243	815	07.14-08.12	弘仁	6	06	強風1B・雷1B	山背国乙訓郡物集。国背兩郡郷。雷風。壞百姓廬舍。(後略)	20	563	0
244	815	08.13-09.10	弘仁	6	07	大雨1B・洪水1B・雷1B	暴雨雷鳴。庭除泛溢。	20	564	0
245	815	06.15-09.10	弘仁	6	05-07	長雨1B・大雨1B・洪水1B	(和曆7月)詔曰。去五月以降。雨水逆溢。(後略)	20	564	0
246	815	09.11-10.09	弘仁	6	08	長雨1B	遣使奉幣於伊勢大神宮並賀茂大神。以霖雨不晴也。	20	565	0
247	815	06.15-11.08	弘仁	6	05-09	長雨1B	(和曆12月)自五月及九月。霖雨。諸国多被其害。	20	566	0
248	816	02.06	弘仁	7	01.01		丁卯朔。廢朝。雨也。	20	566	0
249	816	08.01-08.30	弘仁	7	07	大雨3・暴風3	勅。風雨不時。田園被害。(後略)	20	569	0
250	816	09.15	弘仁	7	08.16	暴風1A	己酉夜。大風。倒羅城門。京中諸国。亦多被害。	20	570	0
251	817	07.23	弘仁	8	06.02	干ばつ2A	庚申。遣律師伝燈大法師修圓於室生山祈雨。	20	571	0
252	817	07.25	弘仁	8	06.04	干ばつ2A	壬戌。遣天下諸国祈雨。	20	575	0
253	817	08.20-09.18	弘仁	8	07	高潮1B	撰津言。海潮暴溢。漂穀二百二十人。	20	575	0
254	817	12.16-01.13	弘仁	8	11	大雪1B	大雪。(後略)	20	576	0
255	818	01.27	弘仁	8	12.14	大雪1A	戊辰。遊狹芹川野。是日。大雪。	20	576	0
256	818	05.01	弘仁	9	03.19	洪水3・干ばつ3	壬寅。公卿奏曰。頃年之間。水旱相續。(後略)	20	577	0
257	818	×	弘仁	9	04	干ばつ2A	丙戌[丙戌是月。恐丙辰歟。]遣使京畿祈雨。	20	578	0
258	818	06.03	弘仁	9	04.22	干ばつ2A	(乙亥)(前略)及畿内諸寺山林禪場。輒經礼仏。祈雨也。	20	578	0
259	818	05.13-06.11	弘仁	9	04	干ばつ1B	詔曰。去年秋稼。燉傷不收。今茲新苗。播殖望絶。(中略)比者陰陽愆候。炎旱淹旬。(後略)	20	578	0
260	818	05.13-06.11	弘仁	9	04	干ばつ2B	大和国吉野郡雨師神奉授徒五位下。以祈雨也。	20	578	0
261	818	06.07	弘仁	9	04.26	干ばつ2A	己卯。遣使栢原山陵。祈雨。	20	578	0
262	818	06.08	弘仁	9	04.27	干ばつ1A	庚辰。於前殿。講仁王經。緣旱也。(後略)	20	578	0
263	818	08.10-09.07	弘仁	9	07	干ばつ1B	停七夕節。為旱也。	20	581	0
264	818	08.10-09.07	弘仁	9	07	干ばつ2B	遣使山城貴布祢社。大和国室生山上龍穴等处。祈雨也。	20	581	0
265	818	11.14	弘仁	9	10.09		己未。賽山城国愛宕郡貴布祢神。以祈雨有驗也。	20	582	0
266	819	06.01-06.29	弘仁	10	05	干ばつ2B	奉幣貴布祢社。祈雨。	21	586	0
267	819	07.08	弘仁	10	06.09	長雨1A	乙卯。奉白馬於丹生川上雨師神并貴布祢神。為止霖雨也。	21	588	0
268	819	07.31	弘仁	10	07.02	干ばつ2A	戊寅。奉黑馬於丹生川上雨師神。祈雨。	21	588	0
269	819	08.15	弘仁	10	07.17	干ばつ1A	癸巳。遣使於伊勢大神宮。大和国太后山陵。並奉幣祈雨。	21	589	0
270	819	08.16	弘仁	10	07.18	干ばつ1A	甲午。詔曰。頃者炎旱積旬。(後略)	21	589	0
271	819	08.18	弘仁	10	07.20	大雨1A・暴風1A	丙申。京中白龍見。有暴風雨損民屋。	21	589	0
272	819	05.02-08.27	弘仁	10	夏-07	干ばつ1C	(和曆7月)是月。自夏不雨。諸国被害者衆。	21	589	0
273	819	09.24	弘仁	10	08.28	長雨1A	癸酉。奉幣貴布祢神。為止霖雨也。	21	589	0
274	819	09.26	弘仁	10	08.30	長雨2A	乙亥。奉幣丹生川上雨師。祈晴也。	21	589	0
275	820	05.28	弘仁	11	04.09	大雨3・暴風3	庚辰。詔曰。頃者水旱不適。(後略)	21	593	0
276	820	06.27	弘仁	11	05.10	干ばつ1A	庚戌。讀岐旱。賑給之。	21	595	1
277	820	08.12	弘仁	11	06.26	干ばつ2A	丙申。奉幣名神祈雨也。	21	595	0
278	820	08.13	弘仁	11	06.27	干ばつ1A	丁酉。令諸国輒誦大雲經。為救旱也。	21	595	0
279	820	12.13-01.11	弘仁	11	11	洪水3・干ばつ3	(弘仁11年11月)詔曰。其弘仁八九年之間。水旱不登。(後略)	21	596	0
280	821	07.11	弘仁	12	06.05	長雨2A	己巳。奉幣貴布祢。丹生二神。祈霽也。	21	599	0

本朝通鑑

281	822	07.30	弘仁	13	07.05	干ばつ2A	癸巳。遣使畿内諸国。祈雨。		21	607	0
282	822	07.31	弘仁	13	07.06	干ばつ1A	甲午。詔曰炎旱淹旬。(後略)		21	607	0
283	823	06.16-07.15	弘仁	14	05	長雨1B	奉幣山城国愛宕郡貴布祢神社。為止霖雨也。		21	614	0
284	823	06.18	弘仁	14	05.03	長雨1A	丙辰。依霖雨不止。(後略)		21	614	0
285	823	07.19	弘仁	14	06.04	干ばつ2A	(丁亥)(前略)又奉幣綿馬吉野川上雨師神社祈雨也。		21	615	0
286	823	08.17	弘仁	14	07.04	干ばつ2A	丙辰。奉和泉国大鳥。積川兩社幣。以祈雨也。		21	615	0
287	823	08.20	弘仁	14	07.07	干ばつ2A	己未。奉幣綿伊勢大神宮祈雨也。		21	615	0
288	823	08.30	弘仁	14	07.17	干ばつ1A	己巳。奉幣雨師祈雨。未有微応。(後略)	「未有微応。」から少雨にあたると判断した。	21	615	0
289	823	09.01	弘仁	14	07.19	干ばつ3	辛未。長門国鑄錢勞異他国。連年旱疫。人民乏絶。仍免当年庸。		21	616	1
290	823	09.02	弘仁	14	07.20	干ばつ3	壬申。三河遠江兩國。頻年旱疫。並免当年庸。		21	616	1
291	823	08.14-09.11	弘仁	14	07		微雨。		21	616	0
292	824	01.16	弘仁	14	12.08	大雪1C	(弘仁14年12月8日グレゴリヲ曆824年1月16日)戊子。停止存問渤海使。今年雪深。往還不通。勅令守椽等。准例存問。		21	619	1]
293	824	02.08-05.06	天長	1	春	干ばつ1C	旱。(後略)		22	622	0
294	824	06.03	天長	1	04.28	干ばつ2A	丁未。令十五大寺。并五畿七道諸国。奉誦大般若經。防疫旱也。		22	622	0
295	824	09.01	天長	1	08.01	大雨2A・暴風2A	丁丑朔。奉幣名神。祈除風雨損也。		22	623	0
296	824	09.17	天長	1	08.17	大雨2A・暴風2A	癸巳。奉幣伊勢大神。為調風雨也。		22	623	0
297	825	06.26	天長	2	06.03	大雨1A・雷1A	乙亥。暴雨雷動。霹靂中務北門柳。		22	631	0
298	827	06.15	天長	4	05.14	雷1A	甲戌亥刻。雷鳴雨降。		23	649	0
299	827	06.27	天長	4	05.26		(丙戌)亥後天陰雨降數刻而止。湿地三寸。		23	651	0
300	827	09.19	天長	4	08.21	暴風1A	庚戌。大風屋宇競震。		23	653	0
301	828	07.12	天長	5	05.23	大雨1A・洪水1A	丁未。降雨殊甚。京中徑路汎溢成川。山崩水涌。人物多漂。遣使賑給左右京。		23	658	0
302	828	08.11	天長	5	06.23	大雨1A・洪水1A・雷1A	丁丑。幸神泉苑。右衛門献物。雷鳴雨降。山崩水溢。(後略)		23	658	0
303	829	01.13	天長	5	12.01		雨雪。		23	659	0
304	829	04.01	天長	6	02.20	干ばつ2A	庚午。奉幣五畿七道諸国名神。祈春雨也。		23	661	0
305	829	04.09	天長	6	02.28	干ばつ2A	戊寅。請僧百口沙弥於大極殿。奉誦大般若經三箇日。以祈甘雨也。		23	661	0
306	829	06.14	天長	6	05.06	雷1A	甲申。自寅時至于未時。雷動雨降。		23	662	0
307	829	10.02	天長	6	08.27	長雨2A	甲戌。奉幣貴布祢者。丹生河上雨師社。但雨師神。副以白毛御馬。為停雨也。		23	663	0
308	830	02.01	天長	7	01.01		停朝賀。雨也。		23	664	0
309	830	08.12	天長	7	07.16	雷1A	(戊子)申刻雷雨。酉刻霹靂内裏西北角曹司。(後略)		23	667	0
310	831	02.22	天長	8	01.03		(壬寅)終日雨雪。		24	673	0
311	831	04.08	天長	8	02.18		(丁亥)申時澍雨。俄頃而晴。		24	673	0
312	831	09.18	天長	8	08.05	大雨2A・暴風2A	庚午。奉幣名神。為防風雨之災也。		24	676	0
313	831	09.26	天長	8	08.13	大雨2A・暴風2A	戊寅。御大極殿。奉幣伊勢大神宮。祈防風雨之災也。		24	676	0
314	832	01.11	天長	8	12.01	雷1A	雷電。		24	678	0
315	831	-	天長	8	-	干ばつ1C	是年。亢旱為災。		24	679	0
316	832	06.22	天長	9	05.17	干ばつ2A	戊申。天皇避正殿。請百僧於省院。誦大般若經祈雨也。		24	680	0
317	832	06.23	天長	9	05.18	干ばつ1A	己酉。勅。去年秋稼不稔。諸国告飢。今茲疫旱相仍。(後略)		24	680	0
318	832	06.24	天長	9	05.19	干ばつ2A	庚戌。八省院誦經祈雨不降。(後略)		24	680	0
319	832	06.25	天長	9	05.20		辛亥。卯時零雨即晴。		24	681	0
320	832	08.18	天長	9	07.15	大雨2A・暴風2A	乙巳。奉幣五畿内七道諸国名神。防風雨也。		24	681	0
321	832	08.25	天長	9	07.22	大雨2A・暴風2A	壬子。御八省院奉幣綿伊勢大神宮。防風雨也。		24	681	0
322	832	09.12	天長	9	08.11	長雨2A	庚午。頒幣於明神。以祈止雨。		24	681	0
323	832	09.21	天長	9	08.20	大雨1A・洪水1A・暴風1A	己卯。大雨大風。河内摂津国洪水汎溢。堤防決壊。		24	681	0
324	832	10.08	天長	9	09.07	洪水3	丙申。賑給摂津国逢洪水百姓。		24	682	0
325	833	01.29	天長	10	01.01		停朝賀。雨也。		24	683	0
326	833	04.30	天長	10	04.03	霜1A	庚申。隕霜。		24	688	0
327	833	08.23	天長	10	閏07.01	洪水3・暴風3	勅。至于秋序。洪水敗稼。大風害物。古來尚在。宜令天下諸国。奉幣名神予為攘防。勿損年穀。		24	691	0
328	833	09.20	天長	10	閏07.28	長雨1A	壬午。霖雨涉旬。(後略)		24	691	0

本朝通鑑

329	833	12.20	天長	10	11.02	雷1A	甲寅。雷。		24	693	0
330	833	12.22	天長	10	11.04	雷1A	丙辰。雷電良久。		24	693	0
331	833	x	天長	10	11	雷1A	辛丑。雷電。		24	693	0
332	834	07.30	承和	1	06.17	干ばつ1A	丙申。奉幣群神。以甘雨。旱也。		25	701	0
333	834	08.10	承和	1	06.28	干ばつ2A	丁未。奉伊勢大神宮及畿内七道名神幣。以祈雨也。		25	701	0
334	834	08.12	承和	1	06.30	干ばつ2A・暴風2A	(己酉)(前略)為祈甘澍防風災也。		25	701	0
335	834	08.20	承和	1	07.08		丁巳。天無片雲。炎氣如薰。比及晡辰。天陰雨霽。徒此漸至滂沛。		25	701	0
336	834	08.24	承和	1	07.12	大雨1A・洪水1A	辛酉。雨水溢。		25	701	0
337	834	08.15	承和	1	07.03	長雨2A	壬子。走幣畿内名神。亦令諸大寺。修法以防淫霖。	訳者:日付は「壬戌」か。	25	701	0
338	834	10.01	承和	1	08.21	大雨1A・暴風1A	己亥。暴風大雨。相并折拔樹木。壞民廬舍。(後略)		25	702	0
339	834	10.02	承和	1	08.22	大雨1A・暴風1A	庚子。夜風雨猶切。達旦不罷。中人家往往倒壞。		25	702	0
340	835	08.03	承和	2	07.02	大雨2A・暴風2A	乙巳。走幣於天下名神。予攘風雨之災。		25	706	0
341	835	08.06	承和	2	07.05	大雨2A・暴風2A	戊申。奉幣於伊勢大神宮。亦為防風雨之災也。		25	707	0
342	836	06.09	承和	3	05.18	大雨1A・暴風1A	丙辰。夜裏大風暴雨交切。折樹斃屋。城中人家不壞者希。		25	713	0
343	836	07.21	承和	3	06.01	干ばつ3	能登國飢賑給。太政官牒僧綱曰。奉勅日者陰雨不降。陽旱擲旬。(後略)		25	714	1
344	836	07.26	承和	3	06.06	干ばつ2A	癸卯。奉松尾賀茂御祖住吉。垂水等社幣。祈雨也。		25	714	0
345	836	08.25	承和	3	07.06		癸酉。東方虹見。		25	714	0
346	837	05.04	承和	4	03.22		(乙酉)是日。天皇不御大極殿。雨也。		25	717	0
347	837	07.10-08.08	承和	4	06	大雨2A・暴風2A	勅命。五畿内七道諸国。奉幣名神。予防風雨。莫損年穀。		25	717	0
348	837	08.30	承和	4	07.22	暴風1A	(癸未)太宰府馳伝言。遣唐三箇舶。(中略)忽遇逆風。流着吉岐嶋。(後略)		25	717	1
349	837	11.06	承和	4	10.01	長雨3	(前略)遣勘録東西兩京飢病百姓。特加賑恤。以陰霖經日。穀價踊貴也。		25	718	0
350	836	11.17-02.12	承和	3	冬	雷1C	(承和4年12月)(丁酉)[去年冬霹靂彼寺。(後略)]		25	718	0
351	838	08.15	承和	5	07.18		癸酉。有物如粉。徒天散零。逢雨不銷。或降或止。		25	721	0
352	838	09.10	承和	5	08.14	雷1A	己亥。霹靂於監物前柳樹。(後略)		25	721	0
353	838	09.15	承和	5	08.19	大雨1A・暴風1A	甲辰。暴風大雨。壞民廬舍。		25	722	0
354	838	09.16	承和	5	08.20	長雨2A	乙巳。奉幣綿并白馬於貴布祢神丹生河上雨師。以祈止雨也。		25	722	0
355	838	07.29-10.25	承和	5	07-09	長雨1B	(和曆9月)甲申。徒七月至今月。河内。三河。遠江。駿河。伊豆。甲斐。武藏。上総。美濃。飛驒。信濃。越前。加賀。越中。播磨。紀伊等十六国。一一相統言。有物如灰。徒天而雨。累日不止。(後略)		25	722	0
356	839	09.18-11.30	承和	6	08.03-10.17	長雨1B	(和曆10月17日)乙丑。出羽国言。(中略)徒八月三日。霖雨無止。雷電鬨声。經十余日。乃見晴天時。向海畔。自然隕石。其数不少。(後略)		25	728	1
357	840	04.07	承和	7	02.27	雷1A	甲戌。夜中雷雨。(後略)		26	732	0
358	840	07.21	承和	7	06.15	干ばつ2A	(己未)(前略)又令内外諸国。奉幣神祇請甘雨。		26	736	0
359	840	07.23	承和	7	06.17		(辛酉)是日。夜分雨稍降。		26	736	0
360	840	11.05	承和	7	10.04	干ばつ3	丙午。皇太子御膳准弘仁九年例。每物減四分之一。以旱也。		26	738	0
361	841	05.01	承和	8	04.03		癸卯。日色赤(後略)		26	740	0
362	841	05.27	承和	8	04.29	干ばつ2A・暴風2A	己巳。勅。頃者時雨不降。(中略)令祈甘雨。兼防風災。		26	741	0
363	841	08.09	承和	8	07.15	雷1A・ひょう1A	癸未。震于大極殿東樓南角柱。雨雹大如碁子。		26	741	0
364	841	09.23	承和	8	09.01	洪水1A	有洪水漂流百姓廬舍。京中橋梁及山崎橋盡絕焉。		26	742	0
365	842	04.29	承和	9	03.11	干ばつ1A	(和曆3月11日/グレゴリヲ曆4月29日)丙午。勅。比者春雨降少。枯旱日多。(後略)		26	746	0
366	842	05.03	承和	9	03.15	干ばつ2A	(庚戌)(前略)同祈甘雨。		26	746	0
367	842	05.10	承和	9	03.22	干ばつ2A	丁巳。奉幣松尾鴨。御祖。鴨別雷。乙訓等名神祈雨也。是日。雨。		26	746	0
368	842	12.30	承和	9	11.21	雷1A	辛亥。雷。		26	750	0

本朝通鑑

369	843	06.06	承和	10	05.01		日赤無光。(後略)	26	753	0
370	844	01.27	承和	11	01.01	大雪1A	大雪。	26	757	0
371	844	08.03	承和	11	07.12	干ばつ2A	癸巳。請百僧于八省院。転読大般若經。祈甘雨。是日雨。	26	760	0
372	844	10.20	承和	11	09.01	干ばつ1A	朔。雨。快降。久不雨。井泉涸竭。至是人以為嘉澍。	26	761	0
373	844	10.29	承和	11	09.10		庚申。外記曹司庁前。白虹見。	26	761	0
374	845	02.14	承和	12	01.01	大雪1A	大雪。	26	763	0
375	845	06.09	承和	12	04.27	干ばつ2A	癸卯。奉幣於畿内。各祈雨也。	26	764	0
376	845	06.13	承和	12	05.01	干ばつ2A	丁未朔。請百僧于大極殿。限以三箇日。転読大般若經以祈雨。	26	765	0
377	845	06.18	承和	12	05.06		壬子。雨。	26	765	0
378	845	06.22	承和	12	05.10	干ばつ2A	丙辰。詔祈雨奉幣于諸国名神。	26	765	0
379	845	09.06	承和	12	07.27	長雨2A	壬申。遣民部大輔長因王奉幣于伊勢大神宮。祈止雨也。	26	766	0
380	847	07.08	承和	14	05.18	長雨1A	壬午。賑給左右京飢民。以雨久不止也。	27	776	0
381	847	07.22	承和	14	06.03	大雨1A・暴風1A	丙申。大風発屋折木。雨亦降。入夜弥猛。	27	776	0
382	847	07.23	承和	14	06.04	長雨2A	丁酉。遣奉幣使於松尾大神祈止雨。	27	776	0
383	847	07.31	承和	14	06.12	大雨1A	乙巳。暴雨如懸河。(後略)	27	776	0
384	847	08.09	承和	14	06.21	長雨1A	甲寅。淫雨止息。(後略)	27	776	0
385	847	08.10	承和	14	07.23	長雨2A	丙戌。奉白馬綿于丹生川上雨師。以祈晴。	27	777	0
386	848	07.08	嘉祥	1	06.01	長雨1A	戊子朔。連雨不停。如建瓴水。	27	782	0
387	848	07.09	嘉祥	1	06.02	長雨2A	己丑。奉幣雨師以祈晴。	27	782	0
388	848	07.17	嘉祥	1	06.10	大雨2A	丁酉。奉幣於諸国名神。以防雨害。	27	784	0
389	848	08.08	嘉祥	1	07.02	干ばつ2A	己未。奉幣綿於松尾。賀茂上下社。貴布祢。雨師社。以祈雨。	27	784	0
390	848	08.13	嘉祥	1	07.07	暴風1A	甲子。有颶風。(後略)	27	784	0
391	848	08.16	嘉祥	1	07.10	洪水2A	(丁卯)(前略)並告改元。兼祈防水。	27	784	0
392	848	09.04	嘉祥	1	07.29	雷1A	丙戌。雷電震于東西二京。凡十一处。	27	784	0
393	848	09.07	嘉祥	1	08.03		己丑。雨。	27	785	0
394	848	09.08	嘉祥	1	08.04	大雨1A	庚寅。雨。如倒井。	27	785	0
395	848	09.09	嘉祥	1	08.05	洪水1A	辛卯。洪水人畜流損。(後略)	27	785	0
396	848	09.12	嘉祥	1	08.08	洪水3	甲午。遣使巡檢摂津。河内両国被水災者。開便近倉庫。賑給焉。	27	785	0
397	848	-	嘉祥	1	-	洪水1C	(嘉祥2年1月1日)(前略)去年天下有洪水。秋稼不登也。	27	787	0
398	849	05.09	嘉祥	2	04.10	霜1A	癸巳。隕霜。[風景之寒宛似二月。]	27	789	0
399	849	06.28	嘉祥	2	06.01	長雨3	癸未朔。遣使巡檢京城飢民。開倉廩以賑恤。緣霖雨也。	27	790	0
400	849	12.28	嘉祥	2	12.07	雷1A	丙戌。天西北有雷光。数十度。	27	792	0
401	850	02.20	嘉祥	3	01.01		(嘉祥3年1月1日/グレゴリ才曆850年2月20日)庚辰朔。終日雨。先是去月二十九日亦大雨因停朝賀。(後略)	27	793	0
402	850	02.19	嘉祥	2	閏12.29	大雨1A	(嘉祥3年1月1日/グレゴリ才曆850年2月20日)庚辰朔。終日雨。先是去月二十九日亦大雨因停朝賀。(後略)	27	793	0
403	850	02.23	嘉祥	3	01.04	強風1A	癸未。風雪。	27	793	0
404	850	05.26	嘉祥	3	04.08	大雨1A・雷1A	乙卯。大雷雨。	27	799	0
405	850	06.04	嘉祥	3	04.17		(甲子)(前略)其晨雨。(後略)	27	799	0
406	850	06.16	嘉祥	3	04.29	低温1A	(丙子)是日。天寒。	27	800	0
407	850	06.19	嘉祥	3	05.02	暴風1A	己卯。大風折木殺草。	27	800	0
408	850	06.26	嘉祥	3	05.09	干ばつ2A	(丙戌)(前略)転読大般若經以祈雨。乃雨。(後略)	27	801	0
409	850	06.27	嘉祥	3	05.10		丁亥。又雨。	27	801	0
410	850	06.28	嘉祥	3	05.11		戊子。雨。	27	801	0
411	850	07.08	嘉祥	3	05.21		戊戌。石見国言。甘露降。	27	802	1
412	850	07.13	嘉祥	3	05.26	ひょう1A	癸卯。雨雹。大如鴨卵。	27	802	0
413	850	07.19	嘉祥	3	06.03	雷1A	己酉。雷震西寺刹柱。(後略)	27	802	0
414	850	09.07	嘉祥	3	07.24	大雨1A・洪水1A	己亥。大雨潦水。壞大極殿前龍尾道十二丈。	27	803	0
415	850	10.07	嘉祥	3	08.24		己巳。天南有声如雷。	27	804	0
416	851	01.23	嘉祥	3	12.14	雷1A	丁巳。雷。	27	807	0
417	851	06.08	仁寿	1	05.02	雷1A	癸酉。雷雨。	28	810	0
418	851	06.10	仁寿	1	05.04		乙亥。加雨。	28	810	0
419	851	06.14	仁寿	1	05.08		己卯。雨水。	28	810	0
420	851	06.15	仁寿	1	05.09	長雨2A	庚辰。祈霽于丹生川上。賑給左右京不能自存者。	28	810	0
421	851	07.09	仁寿	1	06.03	長雨2A	(甲辰)以祈晴。[奉幣進馬。]翌日天霽。	28	811	0
422	851	07.11	仁寿	1	06.05	洪水3	丙午。賑五畿内病水者。	28	811	0
423	851	09.16	仁寿	1	08.14	洪水3	癸丑。詔賑恤被水害民。	28	811	0

本朝通鑑

424	851	09.17	仁寿	1	08.15	洪水3	甲寅。遣左右檢非違使。廉察京師被水害者稟給。		28	811	0
425	851	12.06	仁寿	1	11.06		甲戌。日無精光。(後略)		28	812	0
426	852	06.22	仁寿	2	05.27		癸巳。是日。甘露降。(後略)		28	817	0
427	852	08.03	仁寿	2	07.10	干ばつ2A	(乙亥)(前略)奉幣祈雨。即日得甘澍。		28	817	0
428	852	08.21	仁寿	2	07.28	大雨1A・暴風1A	癸巳。暴風雨傷禾稼。		28	817	0
429	852	08.23	仁寿	2	08.01	大雨2A・暴風2A	(乙未朔)奉幣請止風雨。		28	817	0
430	852	10.02	仁寿	2	閏08.12	暴風1A	乙亥。大風発屋抜木。		28	818	0
431	852	10.06	仁寿	2	閏08.16	暴風3	己卯。以廩院。米賑京師被風災者。		28	818	0
432	852	10.17	仁寿	2	閏08.27	大雨1A	庚寅。大雨。		28	818	0
433	852	10.19	仁寿	2	閏08.29	長雨2A	(壬辰)(前略)奉幣請止雨。		28	818	0
434	853	10.10	仁寿	3	09.01	暴風1A	戊子朔。大風発屋抜木。		28	825	0
435	854	02.05	斉衡	1	01.01		丙辰朔。停朝賀。以雨後泥深也。		28	826	0
436	854	06.03-07.02	斉衡	1	05	低温1B	是月甚寒。山北微雪。		28	828	0
437	854	08.28	斉衡	1	07.27	大雨1A・洪水1A・暴風1A	庚戌。暴風発屋抜木。且甚雨洪水。		28	828	0
438	854	09.30-10.28	斉衡	1	09	洪水1B・暴風1B	(和暦10月)(前略)其遠国九月風水之損通計行程。一依前格。		28	829	0
439	855	01.27	斉衡	2	01.01		壬午朔。帝不御大極殿。以雪後泥深。(後略)		28	831	0
440	855	04.11	斉衡	2	03.17	大雨1B・強風1B	丙申。大風雨。		28	832	0
441	855	04.24-05.23	斉衡	2	04	低温1B・霜1B	是月。寒隕霜。		28	833	0
442	855	06.07	斉衡	2	閏04.15	大雨1A・洪水1A	癸巳。大雨水。		28	833	0
443	855	07.15	斉衡	2	閏04.23	長雨1A	(辛丑)(前略)請止淫雨。		28	833	0
444	855	10.29	斉衡	2	09.11	大雨1A	丁巳。大雨。		28	835	0
445	856	04.15	斉衡	3	03.03	ひょう1A	丙午。雨雹。		29	839	0
446	856	07.07	斉衡	3	05.28		己巳。雨水。	大雨・洪水の可能性あり。	29	841	0
447	856	08.27	斉衡	3	07.20	干ばつ1A	庚申。若狭国言旱。		29	842	1
448	856	09.14	斉衡	3	08.08		戊寅。安房国言。天雨黒灰。(後略)		29	842	1
449	857	01.07	斉衡	3	12.04	大雪1A	癸酉。大雪。		29	843	0
450	857	02.16	天安	1	01.14	干ばつ1A	(癸丑?)近來処処井泉涸盡。左右三四条間。枯渴尤甚。今朝始雨降。	文脈から干ばつと解釈した。	29	844	0
451	857	06.19	天安	1	05.20	長雨1A・洪水1A・雷1A	丙辰。地震雷雨。近來霖雨。今日京中水溢。		29	847	0
452	857	06.28	天安	1	05.29	長雨1A・洪水1A	乙丑晦。淫雨洪水。道橋流絶。河堤断絶。		29	847	0
453	857	08.01	天安	1	07.04	雷1A	己亥。雷雨。(後略)		29	848	0
454	857	08.03	天安	1	07.06	雷1A	辛丑。乾維有声。如雷五六度。又巽繼時時有声如雷。		29	848	0
455	857	07.19-08.12	天安	1	06.21-07.15	干ばつ1B	(和暦7月15日/グレゴリヲ曆8月12日)庚戌。雷雨。自去月下旬不雨田閭頗憂。今日適得膏沢。		29	848	0
456	857	09.22	天安	1	08.27	干ばつ1A	(和暦8月28日/グレゴリヲ曆9月23日)壬辰。夜雨。先是数日不雨。田畝苦之。今日歎喜。		29	848	0
457	857	10.04	天安	1	09.09	干ばつ3	(癸卯)(前略)不學音楽。縁旱也。		29	849	0
458	858	01.10	天安	1	12.18	雷1A	辛巳夜。雷雨。		29	851	0
459	858	01.23	天安	2	01.01		(前略)以陰雪也。		29	852	0
460	858	03.04	天安	2	02.11	大雪1A	甲戌。大雪。		29	853	0
461	858	04.04	天安	2	閏02.13	ひょう1A	乙巳。雨雹。		29	853	0
462	858	04.25	天安	2	03.05	雷1A	丙寅。雷雨。		29	853	0
463	858	05.18	天安	2	03.28	雷1A	己丑。無雲而雷。		29	854	0
464	858	05.26	天安	2	04.06	雷1A・ひょう1A	丁酉。天陰雷雨。夜雨雹。(後略)		29	854	0
465	858	05.21-06.18	天安	2	04	長雨1A	(和暦4月9日/グレゴリヲ曆5月29日)庚子。天晴。今月壬辰至于己亥連雨。今日初霽。	干支に該当する和暦(日付)がないため、和暦4月として集計した。	29	854	0
466	858	05.31	天安	2	04.11		壬寅。雨。空中有声。如雷一度。		29	854	0
467	858	06.14	天安	2	04.25	雷1A	丙辰。雷雨。		29	854	0
468	858	07.03	天安	2	05.15	長雨1A・洪水1A	乙亥。陰雨洪水。東西両河人馬不通。		29	855	0
469	858	07.09	天安	2	05.21	大雨1A	辛巳。大雨。		29	855	0
470	858	07.10	天安	2	05.22	大雨1A・洪水1A	壬午。大雨洪水。橋梁断絶。(後略)		29	855	0
471	858	07.12	天安	2	05.24		甲申。天晴。		29	856	0
472	858	07.14	天安	2	05.26	雷1A	丙戌。地震。無雲而雷。		29	856	0
473	858	07.15	天安	2	05.27	洪水3	(丁亥?)遣使令巡檢兩京大水之害。		29	856	0
474	858	07.16	天安	2	05.28	雷1A	戊子。無雲而雷。(後略)		29	856	0
475	858	07.20	天安	2	06.03	雷1A	壬辰。雷雨。		29	856	0
476	858	07.22	天安	2	06.05	雷1A	甲午。雷雨。		29	856	0
477	858	07.24	天安	2	06.07	雷1A	丙申。和泉国言。霹靂破官舎六十余宇。(後略)		29	856	0
478	858	06.19	天安	2	05.01	大雨1A・暴風1A	(和暦6月)己酉。太宰府言。去五月一日大風雨。破官舎損育苗。九国一嶋盡被毀傷。		29	856	1

本朝通鑑

479	858	09.12	天安	2	07.27	大雨1A	丙戌。大雨。		29	857	0
480	858	10.17	天安	2	09.03		辛酉。夜月中有黑色。(後略)		29	860	0
481	858	10.28	天安	2	09.14		(壬申)是夜宮中有声如雷。		29	860	0
482	859	05.10	貞觀	1	04.01	雷1A	(丙戌朔)雷雨。震東京民居二家。		30	867	0
483	858	08.17-11.12	貞觀	1	前秋	洪水1C	(貞觀元年4月)武蔵国去秋水湧。下野国大風。陸奥国洪水。出羽国霜霰。加賀国水旱。出雲国秋寒。並賑給之。		30	867	1
484	858	08.17-11.12	貞觀	1	前秋	暴風1C	(貞觀元年4月)武蔵国去秋水湧。下野国大風。陸奥国洪水。出羽国霜霰。加賀国水旱。出雲国秋寒。並賑給之。		30	867	1
485	858	08.17-11.12	貞觀	1	前秋	洪水1C	(貞觀元年4月)武蔵国去秋水湧。下野国大風。陸奥国洪水。出羽国霜霰。加賀国水旱。出雲国秋寒。並賑給之。		30	867	1
486	858	08.17-11.12	貞觀	1	前秋	ひょう1C・霜1C	(貞觀元年4月)武蔵国去秋水湧。下野国大風。陸奥国洪水。出羽国霜霰。加賀国水旱。出雲国秋寒。並賑給之。		30	867	1
487	858	08.17-11.12	貞觀	1	前秋	洪水1C・干ばつ1C	(貞觀元年4月)武蔵国去秋水湧。下野国大風。陸奥国洪水。出羽国霜霰。加賀国水旱。出雲国秋寒。並賑給之。		30	867	1
488	858	08.17-11.12	貞觀	1	前秋	低温1C	(貞觀元年4月)武蔵国去秋水湧。下野国大風。陸奥国洪水。出羽国霜霰。加賀国水旱。出雲国秋寒。並賑給之。		30	867	1
489	859	06.25	貞觀	1	05.17	雷1A・ひょう1A	壬申。雷雷雨。		30	869	0
490	859	07.08	貞觀	1	06.01	長雨1A・洪水1A	乙酉朔。霖雨大水。		30	869	0
491	859	07.11	貞觀	1	06.04	長雨1A	戊子。霖雨未霽。賜京邑飢乏者。		30	869	0
492	859	07.31	貞觀	1	06.22	強風1A・雷1A	丙午。雷雨。大風折木斃屋。		30	869	0
493	859	08.24	貞觀	1	07.19	雷1A	壬申。雷雨。震内教坊柿樹。		30	871	0
494	859	09.02	貞觀	1	07.28		(辛巳)是日。雅院桜樹華。京中李樹皆華。		30	871	0
495	859	09.07	貞觀	1	08.03		丙戌。雨。		30	871	0
496	859	06.09-09.13	貞觀	1	05-08.09	長雨1B	(和曆8月9日)壬辰。自五月至今月。霖雨。(後略)		30	871	0
497	859	09.16	貞觀	1	08.12	大雨1A・暴風1A	乙未。大風雨交降。京師人居被風壞者多。		30	871	0
498	859	10.06	貞觀	1	09.03	長雨1A	(和曆9月4日/ケレコヲ曆9月16日)(丙辰)分頒遣使。(中略)止霖雨也。		30	872	0
499	859	10.12	貞觀	1	09.09	大雨1A・暴風1A	(辛酉)此日。大風暴雨。斃屋折樹。		30	872	0
500	859	11.02	貞觀	1	09.30		(壬午)雨。(後略)		30	872	0
501	859	11.17	貞觀	1	10.15		丁酉。天東南有異雲。中有赤色。如雷光激。		30	872	0
502	860	01.31	貞觀	2	01.01		(前略)雨也。		30	874	0
503	860	06.01	貞觀	2	05.05	雷1A・ひょう1A	甲寅。地震。雷雷雨雹。(後略)		30	876	0
504	860	06.14	貞觀	2	05.18	雷1A・ひょう1A	丁卯。地震雷雨雹。		30	877	0
505	860	05.28-06.29	貞觀	2	05-06.03	長雨1B・洪水1B	(和曆6月3日)壬午。自五月霖雨。至是大水。		30	877	0
506	860	08.15	貞觀	2	07.21	大雨1A・暴風1A	己巳。大風暴雨。		30	877	0
507	860	10.06	貞觀	2	09.14		辛酉。大風折樹斃屋。京師百姓廬舍破損者甚多。		30	879	0
508	860	10.07	貞觀	2	09.15	大雨1A・洪水1A・暴風1A・高潮1A	壬戌。風雨未止。都城東西兩河洪水。人馬不通。諸国浜海之地。潮水漲溢。人畜被害。		30	879	0
509	861	01.06	貞觀	2	11.16	強風1A・雷1A	(壬辰?)是夜烈風雷雨。		30	881	0
510	861	01.07	貞觀	2	11.17	強風1A	癸巳。風猶不止。多壞人廬舍。		30	881	0
511	861	02.18	貞觀	3	01.01		(前略)雨也。		30	883	0
512	861	05.31	貞觀	3	04.14		戊午。空中有声如雷。		30	885	0
513	861	06.30	貞觀	3	05.15	干ばつ2A	戊子。遣使者於近京名神七社。奉幣祈雨。自余社准此。		30	886	0
514	861	07.04	貞觀	3	05.19		壬辰。地震微雨即止。		30	886	0
515	861	07.18	貞觀	3	06.03	雷1A	丙午。無雲而雷。		30	886	0
516	861	08.06	貞觀	3	06.22	低温1A・濃霧1A	乙丑。天寒降霧。		30	887	0
517	862	03.24	貞觀	4	02.16		(貞觀4年2月16日)乙卯。出雲国出雲。大原兩郡。去年風水損霜多被損傷。詔復課役一年。		31	891	1
518	862	04.22	貞觀	4	03.16		甲申。天東有声如雷。		31	892	0
519	862	05.08	貞觀	4	04.02	大雨1A・洪水1A	庚子。大雨。河水汎溢。行路難通。		31	892	0
520	862	07.01	貞觀	4	05.27	長雨1A・大雨1A・洪水1A・雷1A	甲午。淫霖未止。是日。雷電大雨。庭潦奔溢。		31	893	0
521	862	10.31-11.16	貞觀	4	09.01-09.17		(和曆9月17日)癸未。是月。京師人家井泉皆悉枯竭。(後略)		31	894	0

本朝通鑑

522	863	01.23	貞観	4	12.26	大雨1A・雷1A	庚申。雷大雨。		31	895	0
523	863	01.27	貞観	5	01.01		(前略)雨也。		31	897	0
524	863	03.11	貞観	5	02.14	強風1A	丁未。大風壊民廬舎。		31	899	0
525	863	03.11-03.13	貞観	5	02.14-02.16		(和暦2月19日)壬子。自十六日至十八日。日初昇白無光。(後略)		31	899	0
526	863	03.28	貞観	5	03.02		甲子。空中有声如雷。		31	899	0
527	863	04.10	貞観	5	03.15	霜1A	丁丑。霜降。		31	899	0
528	863	07.23	貞観	5	06.30	長雨1A	(閏6月1日/グレゴリヲ曆7月23日)壬戌朔。霖雨始霽。		31	901	0
529	863	09.11	貞観	5	07.21	暴風1A	辛亥。大風折樹斃屋。		31	901	0
530	864	02.15	貞観	6	01.01	大雪1A	戊子朔。大雨雪。		31	902	0
531	864	07.06	貞観	6	05.25	長雨1A	庚戌。霖雨。京師隠居飢病者。特加賑恤。		31	905	0
532	865	01.01	貞観	6	11.26	雷1A	己酉。雷雨。		31	907	0
533	865	02.04	貞観	7	01.01		(前略)以雨雪地湿也。		31	908	0
534	865	02.06	貞観	7	01.03		乙酉。雨雪。		31	908	0
535	865	04.11	貞観	7	03.08	雷1A	己丑。雷雨。		31	910	0
536	865	05.05	貞観	7	04.03	霜1A	癸丑。隕霜殺草。		31	910	0
537	865	05.06	貞観	7	04.04	霜1A	甲寅。隕霜不止。		31	910	0
538	865	05.15	貞観	7	04.14	霜1A	甲子。隕霜。		31	910	0
539	865	05.18	貞観	7	04.17	雷1A	丁卯。雷雨。(後略)		31	910	0
540	865	06.03	貞観	7	05.02	雷1A	壬午。雷雨。(後略)		31	911	0
541	865	06.30	貞観	7	05.29	大雨1A・雷1A	己酉晦。大雷雷雨。(後略)		31	911	0
542	865	06.02-06.30	貞観	7	05	長雨1B	是月。淫霖。		31	911	0
543	865	07.16	貞観	7	06.16	大雨1A・暴風1A	乙丑。大風暴雨。壊廬舎折樹木。建礼門扉二枚倒仆。		31	912	0
544	865	07.21	貞観	7	06.21		庚午。暉明。日色正黄。有赤雲覆之。		31	912	0
545	865	08.16	貞観	7	07.17	大雨1A・暴風1A	丙申。大風雨。折樹斃屋。		31	912	0
546	865	08.30	貞観	7	08.02	洪水1A	庚戌。洪水。		31	913	0
547	865	12.26-01.24	貞観	7	12	大雨1A・強風1A・雷1A	(貞観7年12月)(前略)往年八代郡。暴風大雨雷電地震(後略)		31	915	1
548	865	12.26-01.24	貞観	7	12	霜3	武蔵国早霜復一年。		31	915	1
549	866	04.14	貞観	8	03.21	霜1A	丁酉。隕霜。		32	918	0
550	866	05.22-06.19	貞観	8	04	大雨1A・暴風1A	是月。自朔至今。霖雨未止。		32	920	0
551	866	07.28	貞観	8	06.09	干ばつ1A	壬午。令五畿七道。奉幣境内諸神。兼転読金剛般若経。旱也。		32	921	0
552	866	08.01	貞観	8	06.13	干ばつ1C	丙戌。武蔵国去年風雨。今年飢旱。賑給之。		32	921	1
553	866	08.04	貞観	8	06.16	干ばつ1A	(己丑?)五畿七道諸国大旱。(後略)		32	921	0
554	866	08.17	貞観	8	06.29	干ばつ3	壬寅晦。先是大和国言。橿川山陵寺等。多伐採樹木。神祇官ト云。炎旱之災。突因伐木。是日遣使申謝告文。		32	921	0
555	866	08.22	貞観	8	07.05	雷1A	丁未。雷雨。(後略)		32	921	0
556	866	08.31	貞観	8	07.14		(丙辰)(前略)兼祈嘉澍也。		32	922	0
557	866	09.18	貞観	8	08.02	干ばつ3	甲戌。下総国飢旱。賑給之。		32	922	1
558	866	11.15-12.14	貞観	8	10	干ばつ3	備中国哲多。英賀両郡百姓。給復二年。以旱疫。		32	927	1
559	866	-	貞観	9	02	干ばつ1C	(貞観9年2月/グレゴリヲ曆867年3月14日~4月12日)(前略)依去年災旱京邑饑餓也。		32	930	0
560	867	05.31	貞観	9	04.20	大雨1A	己丑。大雨。		32	932	0
561	867	06.12	貞観	9	05.03	長雨1A	辛丑。班幣畿内諸神。祈止霖雨。		32	932	0
562	868	x	貞観	10	02	雷1A	(丁巳)雷三声。	訳者:日付は「丁亥」または「癸巳」か。和暦3月~11月は『日本三代実録』にない。	32	936	0
563	869	03.21-04.19	貞観	11	02	大雨1A・暴風1A	是月。霖雨。		32	937	0
564	869	07.31	貞観	11	06.15	雷1A	辛丑。不雨而雷。		32	940	0
565	869	08.28	貞観	11	07.13	雷1A	己巳。雷雨。(後略)		32	940	0
566	869	08.29	貞観	11	07.14	暴風1A	庚午。風雨。是日。肥後国大風雨。飛瓦拔樹。(後略)		32	940	0
567	869	08.29	貞観	11	07.14	大雨1A・暴風1A	庚午。風雨。是日。肥後国大風雨。飛瓦拔樹。(後略)		32	940	1
568	869	12.31	貞観	11	11.21	干ばつ3	甲戌。安芸国旱。詔免当年田租五分。		32	942	1
569	870	01.11	貞観	11	12.02	干ばつ3	(貞観11年12月2日)(乙酉)山城国旱。免当年田租五分。(後略)		32	942	0
570	870	06.07-07.16	貞観	12	05-06.10	長雨1B	(和暦6月10日)辛卯。自五月霖雨。至此未止。奉幣賀茂。真布祢神。祈止雨。		32	946	0
571	870	08.06	貞観	12	07.02	洪水3	(壬子)(前略)為檢河内国水堤使。(後略)		32	947	0

本朝通鑑

572	870	08.26	貞観	12	07.22	大雨2A・洪水2A	(壬申)(前略)由是大和国三歳神。大和神。広瀬神。龍田神。祈無雨滂。以河内水源出自大和国也。	32	947	0
573	871	01.15	貞観	12	12.17	干ばつ3	(甲午)是日。復常陸国信太。那珂兩郡百姓一千二百人。以旱飢也。	32	948	1
574	871	01.29	貞観	13	01.01		(前略)雨也。	33	951	0
575	870	-	貞観	13	03.26	洪水1C・干ばつ1C	(貞観13年3月26日/グレゴリヲ曆871年4月23日)壬申。河内国。去年水旱。(後略)	33	951	0
576	871	06.17	貞観	13	05.22	干ばつ1A	丁卯。勅控秀良親王家池水。渙城南百姓旱也。	33	953	0
577	871	07.08	貞観	13	06.13	干ばつ2A	(戊子)(前略)并乾読大般若金剛般若等經。祈甘雨。	33	953	0
578	871	09.03	貞観	13	08.11	雷1A	乙酉。雷雨。東京有人震死。	33	953	0
579	871	09.28	貞観	13	閏08.07	大雨1A・洪水1A・雷1A	庚戌。雷大雨。諸衛陣於殿前。河水暴溢。(中略)請止雨。	33	953	0
580	871	10.02	貞観	13	閏08.11	長雨1A・洪水1A	甲寅。霖雨未止。東京居人。遭水損者。(後略)	33	953	0
581	871	12.17	貞観	13	10.28	雷1A	庚午。雷一声。	33	955	0
582	871	12.23	貞観	13	11.04	雷1A	丙子。雷雨。	33	955	0
583	872	01.10	貞観	13	11.22	雷1A	甲午。雷地震。	33	955	0
584	872	01.18	貞観	13	12.01	雷1A	壬寅朔。雷雨。	33	955	0
585	872	04.25	貞観	14	03.10	大雨1A・強風1A	庚辰。大風雨。賑給京師絶乏者。	33	957	0
586	873	02.06	貞観	15	01.01		(前略)以雨後地湿也。	33	962	0
587	873	04.20	貞観	15	03.16		庚辰。地震。紫宸殿東南隅虹見。	33	962	0
588	873	06.05	貞観	15	05.03	雷1A・ひょう1A	丙寅。雷雨雹。(後略)	33	963	0
589	873	07.03-07.16	貞観	15	06.01-06.14	長雨1B	(和曆6月15日)戊申。自今月一日霖雨。是日始霽。	33	963	0
590	873	11.17	貞観	15	10.20		辛亥。日重暈。(後略)	33	964	0
591	874	01.27	貞観	16	01.01		(前略)以雨後地湿也。	33	965	0
592	874	04.28	貞観	16	04.05	霜1A	癸巳。殞霜。	33	966	0
593	874	04.30	貞観	16	04.07		乙未。時加未。日有五重暈。白虹貫日。即日在宵。	33	966	0
594	874	05.08	貞観	16	04.15	濃霧1A	癸卯。四方陰霧。終日不晴。	33	966	0
595	874	05.11	貞観	16	04.18		丙午。申時日赤無光。(後略)	33	966	0
596	874	07.09-07.19	貞観	16	05.18-05.28	大雨1B・雷1B	(和曆5月28日)乙卯。徒去十八日。頻雷雨。是日大雷雨。(後略)	33	967	0
597	874	10.12	貞観	16	08.24	大雨1A・洪水1A・暴風1A	庚辰。大風雨折樹斃屋。(中略)東西河流汎溢蕩蕩。(後略)	33	968	0
598	874	10.24	貞観	16	09.07	洪水3・暴風3	壬辰。東京被風水損尤甚者。三千一百五十九家。開倉賑賑給。	33	968	0
599	874	08.20-11.16	貞観	16	秋		(和曆9月29日/グレゴリヲ曆11月15日)(甲寅)(前略)是秋桃李華。	33	969	0
600	874	08.20-11.16	貞観	16	秋	洪水1C・暴風1C	(貞観16年11月27日/グレゴリヲ曆875年1月12日)壬子。三河。因幡兩國。秋風水。免当年田租五分。	33	969	1
601	875	02.20	貞観	17	01.07	大雨1A	(辛卯)是日。早朝天色晴朗。及亭午暴雨滂沱。(後略)	33	971	0
602	875	07.26	貞観	17	06.16	雷1A	丁卯。申時黑雲四合。俄而微雨雷数声。(後略)	33	973	0
603	875	08.08	貞観	17	06.29	雷1A	庚辰。晦。雷雨。(後略)	33	973	0
604	875	08.10	貞観	17	07.02	干ばつ2A	(壬午)(前略)祈雨也。	33	974	0
605	875	09.03	貞観	17	07.26	長雨1A	丙午。霖雨不止。(後略)	33	974	0
606	874	-	貞観	17	11.13	洪水1C	(貞観17年11月13日/グレゴリヲ曆875年12月18日)壬辰。但馬国去年水損借貸正税。充四分之一。	33	975	1
607	874	-	貞観	17	11.28	洪水1C・暴風1C	(貞観17年11月28日/グレゴリヲ曆876年1月2日)丁未。勅免伊勢去年田租八分。風水為災也。	33	975	0
608	876	02.03	貞観	18	01.01		(前略)雨也。	33	975	0
609	876	02.05	貞観	18	01.03	濃霧1A	辛巳。日色变赤。西京三条霧陰蒙。(後略)	33	975	0
610	876	04.03-05.01	貞観	18	03	長雨1B	是月。霖雨。	33	977	0
611	876	07.02	貞観	18	06.04	低温1A	己酉。風吹氣冷。宛然似秋。	33	978	0
612	876	07.16	貞観	18	06.18	ひょう1A・濃霧1A	癸亥。晨旦霽降。申時雨雹。酉時地震。	33	978	0
613	876	08.11	貞観	18	07.14	大雨1A・雷1A	己丑。大雷雨。(後略)	33	978	0
614	876	08.18	貞観	18	07.21	雷1A	(丙申)申時天無雲而雷。	33	978	0
615	876	-	元慶	1	01.27	干ばつ1C	(元慶元年1月27日/グレゴリヲ曆877年2月16日)己亥。去年炎旱。京師及畿内諸国飢饉。(後略)	34	984	0
616	877	06.24	元慶	1	05.06		(丙午)是日午後雨。(後略)	34	989	0
617	877	07.21	元慶	1	06.04		(癸酉)(前略)祈甘雨也。	34	989	0
618	877	07.26	元慶	1	06.09	雷1A	戊寅。雷而不雨。	34	989	0
619	877	08.01	元慶	1	06.15	雷1A	甲申。雷而不雨。	34	990	0
620	877	08.02	元慶	1	06.16	雷1A	乙酉。大雷微雨。	34	990	0

本朝通鑑

621	877	08.12	元慶	1	06.26	干ばつ2A	(乙未)(前略)祈雨也。	34	990	0	
622	877	08.18	元慶	1	07.02	雷1A	辛丑。平曉西南遠聞雷五六声。雲氣冥密。然而不雨。(後略)	34	990	0	
623	877	08.19	元慶	1	07.03	干ばつ1A	壬寅。比日炎旱。(後略)	34	990	0	
624	877	08.28	元慶	1	07.12	干ばつ2A	辛亥。転軽五日請雨不驗。(後略)	34	990	0	
625	877	09.01	元慶	1	07.16	雷1A	乙卯。暹明遍雨。未時雷激雨殺。(後略)	34	990	0	
626	878	02.10	元慶	2	01.01		(前略)澍雨降雪也。	34	992	0	
627	878	03.12	元慶	2	02.01	雷1A	丁卯朔。雷二三声降雨。	34	993	0	
628	877	-	元慶	2	02.28	干ばつ1C	(元慶2年2月28日/グレゴリヲ曆878年4月8日)(甲午)(前略)以去年旱損民多飢饉也。	34	994	0	
629	878	05.18	元慶	2	04.09	霜1A	甲戌。殞霜。	34	995	0	
630	878	06.10	元慶	2	05.02	干ばつ1A	丁酉。摂津国旱飢。(後略)	干ばつ3の可能性あり。	34	995	0
631	877	-	元慶	2	05.08	干ばつ1C	(元慶2年5月8日/グレゴリヲ曆878年6月16日)癸卯。大和国去年大旱。百姓飢饉。(後略)	34	996	0	
632	878	-06.07	元慶	2	前年-06.03	干ばつ1C	(元慶2年6月3日)丁卯。自去年至此不雨。(後略)	34	996	0	
633	878	07.11	元慶	2	06.04	濃霧1A	戊辰。晨巨霧降。	34	996	0	
634	878	07.23	元慶	2	06.16	大雨1A・洪水1A・雷1A	庚辰。雷電雨下如倒井。京城之内。溝渠皆溢。霹靂於東寺幡竿。	34	997	0	
635	878	07.26	元慶	2	06.19	雷1A	癸未。雷不雨。	34	998	0	
636	878	08.03	元慶	2	06.27		辛卯。夜有流星。出自騰地。入雷電星色赤長二丈余。	34	998	0	
637	878	08.03	元慶	2	06.27	干ばつ3	(辛卯?)摂津国頻年灾旱饑殍盈路。以糶一百斛。賑給之。	34	998	0	
638	878	08.05	元慶	2	06.29	大雨1A・雷1A	癸巳。大雷雨。(後略)	34	998	0	
639	878	08.06	元慶	2	07.01	雷1A	甲午朔。是日立秋。早旦雷声。(後略)	34	998	0	
640	878	10.29	元慶	2	09.26	大雨1A・雷1A	戊午。夜雷電大雨。(後略)	34	1000	0	
641	878	10.29	元慶	2	09.26	大雨1A・強風1A・雷1A	庚申。紀伊国司言。今月二十六日亥時風雨晦暝。雷電激發。(後略)	34	1000	0	
642	878	10.04-11.02	元慶	2	09	長雨1B	是月。陰雨連澍。無霽日。多有損者。收殆罷。	34	1000	0	
643	879	03.23	元慶	3	02.23	霜1A	癸未。殞霜。天氣寒烈。	35	1004	0	
644	879	06.14	元慶	3	05.17	雷1A	丙午。雷而不雨。	35	1005	0	
645	879	08.25-09.23	元慶	3	08		是月。京邑往往。梨李華或実。	35	1007	0	
646	880	02.18	元慶	4	01.01		(前略)雨也。	35	1010	0	
647	880	07.05	元慶	4	05.20		癸酉。快雨。	35	1012	0	
648	880	07.05-07.07	元慶	4	05.20-05.22	長雨2A・大雨1A	乙亥。自廿日大雨。漸没苗稼。(中略)祈止雨也。	35	1013	0	
649	880	08.15-08.16	元慶	4	07.02-07.03	大雨1A・干ばつ2A	(和曆7月3日)乙卯。自昨日大雨不止。入夜而霽。先是令七大寺及諸定額寺。転経請雨。	35	1013	0	
650	880	11.10-02.06	元慶	5	前冬	高温1C	(元慶5年1月1日)(前略)以去冬不冱寒。(後略)	35	1018	0	
651	881	03.06	元慶	5	01.28	大雪1A	丁丑。大雨雪。去冬气温無宿雪。今春多雪。寒氣肅烈。(後略)	35	1018	0	
652	881	-	元慶	5	春	低温1C	丁丑。大雨雪。去冬气温無宿雪。今春多雪。寒氣肅烈。(後略)	35	1018	0	
653	881	06.20	元慶	5	05.16		癸亥。午時。日有二重暈。内黒外赤。	35	1020	0	
654	881	07.11	元慶	5	06.08	雷1A	甲申。霹靂於西京右弁官(後略)。	35	1020	0	
655	881	07.04-07.17	元慶	5	06.01-06.14	長雨1B	(和曆6月14日)庚寅。自今月朔霖雨。至今未止。是日。賑給京師困乏者。	35	1020	0	
656	881	12.17	元慶	5	11.19		癸亥。雨雪。(中略)慶新雪。	35	1021	0	
657	882	01.27	元慶	6	01.01	大雪1A・強風1A	甲辰朔。烈風大雨雪。平地二尺。	36	1023	0	
658	882	01.28	元慶	6	01.02	大雪1A	乙巳。雪未止。	36	1023	0	
659	882	06.22	元慶	6	05.29	長雨1A	庚午。是日。霖雨。賑給京師貧困病患之輩。	36	1025	0	
660	882	x	元慶	6	12	大雨1A・強風1A・雷1A	己卯[是月己卯死。三代実録作十七日乙卯。]子時暴風雨。至天南雷電。地中有声。	36	1027	0	
661	883	02.15	元慶	7	01.01		(前略)雨也。	36	1028	0	
662	883	07.08	元慶	7	05.26	大雨1A	辛卯。大雨。	36	1030	0	
663	883	10.10	元慶	7	09.02	長雨2A	(乙丑)(前略)祈止雨也。	36	1031	0	
664	884	02.05	元慶	8	01.01		(前略)雪也。	36	1032	0	
665	884	02.08	元慶	8	01.04	大雨1A・雷1A・ひょう1A	丙寅。巳時天南雷八声。降雨。(中略)其後暴風雨雹。(後略)	36	1032	0	
666	884	03.11	元慶	8	02.07	強風1A・低温1A	戊戌。風雪寒。	36	1034	0	
667	884	04.12	元慶	8	03.09	雷1A	庚午。辰時雷雨。(後略)	36	1035	0	
668	884	04.18	元慶	8	03.15	大雨1A・雷1A	丙子夜。大雷雨。(後略)	36	1035	0	

本朝通鑑

669	884	04.22	元慶	8	03.19	大雨1A	庚辰。大雨。	36	1035	0
670	884	04.27	元慶	8	03.24	大雨1A	乙酉。大雨。	36	1035	0
671	884	04.29	元慶	8	03.26	霜1A	丁亥。殞霜。	36	1035	0
672	884	05.11	元慶	8	04.09	雷1A・ひょう1A	(己亥)申時雷雨雹。	36	1035	0
673	884	05.12	元慶	8	04.10	低温1A・霜1A	庚子。天寒殞霜。	36	1035	0
674	884	05.17	元慶	8	04.15	強風1A	乙巳。風雨不止。	36	1035	0
675	884	05.18	元慶	8	04.16	雷1A・低温1A・霜1A	丙午。霜降氣寒。未時雷雨。申時地震。	36	1035	0
676	884	05.19	元慶	8	04.17	低温1A・霜1A	丁未。夜寒霜降。草木葉彫。	36	1035	0
677	884	06.30	元慶	8	05.30	大雨1A	己丑。大雨。	36	1040	0
678	884	08.25	元慶	8	07.27	雷1A	乙酉。雷雨。(後略)	36	1041	0
679	884	08.29	元慶	8	08.01		己丑朔。辰時天西南有聲。如雷一度。(後略)	36	1041	0
680	884	07.26	元慶	8	06.26	雷1A	(和曆9月)出羽国司言。今年六月二十六日秋田城雷雨晦冥。雨鐵二十三枚。(後略)	36	1043	1
681	885	07.04	仁和	1	05.14	長雨1A	戊戌。霖雨未止。奉幣丹生河上神。祈止雨也。	37	1049	0
682	885	07.10	仁和	1	05.20	長雨3	甲辰。賑給京城飢民。以霖雨也。	37	1049	0
683	885	07.12	仁和	1	05.22		丙午。酉時。日色變黑。光散如射。	37	1049	0
684	885	08.30	仁和	1	07.13	干ばつ2A	乙未。遣使大和国丹生川上雨師神。奉幣黑馬。祈雨也。	37	1049	0
685	885	11.20	仁和	1	10.06		丁巳。雨雪。有虹降宜陽殿西廂。	37	1050	0
686	885	07.20-11.23	仁和	1	06-10.09	干ばつ1B	(和曆10月9日)庚申。先是太宰府上言。管肥前国自六月。澍雨不降。(後略)	37	1050	1
687	886	04.19	仁和	2	03.08	大雨1A・強風1A・雷1A	丁亥。大風雷雨。	37	1054	0
688	886	04.24	仁和	2	03.13	強風1A・雷1A	壬辰。暴風雷雨。(後略)	37	1054	0
689	886	05.29	仁和	2	04.18	低温1A	丁卯。此日天氣陰寒。人着綿衣。是日天顔晴朗有溫氣。	37	1054	0
690	886	05.31	仁和	2	04.20	雷1A	(己巳)是日雷雨。(後略)	37	1054	0
691	886	06.16-06.19	仁和	2	05.07-05.10	大雨1A・洪水1A	(和曆5月10日)戊子。自去七日。大雨河水漲溢。人馬不通。	37	1054	0
692	886	07.02	仁和	2	05.23	大雨1A	辛丑。大雨。	37	1054	0
693	886	07.05	仁和	2	05.26		甲辰。降雨。	37	1054	0
694	886	07.10-07.22	仁和	2	06.01-06.13	長雨1B	(和曆6月13日)(辛酉)自今月朔。霖雨京師飢。開倉賑之。	37	1055	0
695	886	07.03	仁和	2	05.24	雷1A	(和曆8月)(庚戌)安房国言上。去五月二十四日夕。有黑雲。自南海群起。其中現雷光。雷鳴地震。通夜不止。	37	1056	1
696	886	09.09	仁和	2	08.04	強風1A・雷1A	(庚戌?)暎雷電風雨。巳時天色晴朗。(後略)	37	1056	0
697	886	×	仁和	2	08	長雨1B・大雨1B・洪水1B・暴風1B	己丑。[是月己卯死。按此条三代実録作七日癸丑。]自去四日霖雨至此大風雨洪水。(後略)	37	1056	0
698	886	10.08	仁和	2	09.04	雷1A	己卯。辰時雷雨。(後略)	37	1057	0
699	887	02.01	仁和	3	01.01		乙亥朔。麿朝雨也。	37	1058	0
700	887	07.27	仁和	3	06.29	雷1A	(辛未晦)(前略)忽雷大鳴。(後略)	37	1061	0
701	887	09.15	仁和	3	08.20	大雨1A・暴風1A	辛酉。自卯及酉。大風雨拔樹斃屋。(後略)	37	1063	0
702	887	09.15	仁和	3	08.20	洪水1A	(辛酉?)鴨水。葛河洪波汎溢。人馬不通。	37	1063	0
703	888	05.19-06.16	仁和	4	04	干ばつ1B	讚岐国不雨。	38	1067	1
704	888	06.17-07.16	仁和	4	05	干ばつ2B	讚岐守菅原道真祭阿野郡城山神請雨。	38	1067	0
705	888	05.19-06.18	仁和	4	04-05.02	干ばつ1B	(和曆5月2日)(戊戌)(前略)四月以降涉旬不雨。(後略)	38	1067	0
706	889	07.06-08.04	寛平	1	06	大雨1B	大雨。	38	1072	0
707	889	08.05-09.02	寛平	1	07	長雨1B・洪水1B	霖雨洪水。	38	1072	0
708	889	12.01-12.29	寛平	1	11	濃霧1B	(前略)俄天陰雨霧迷路。(後略)	38	1074	0
709	890	11.20-12.19	寛平	2	10		禁中初雪。(後略)	38	1081	0
710	891	03.18-04.16	寛平	3	02	大雨1B	甚雨。	38	1085	0
711	897	09.05-10.03	寛平	9	08	干ばつ2B	奉幣諸社祈雨。	40	1140	0
712	898	05.17	昌泰	1	04.19		戊午。日色黃無光。	続1	1146	0
713	898	06.03	昌泰	1	05.07	大雨1A・雷1A	(乙亥)(前略)大雷雨。	続1	1146	0
714	898	05.28-06.28	昌泰	1	05	干ばつ2B	奉幣伊勢大神宮。及十六社祈雨。	続1	1146	0
715	898	05.28-06.28	昌泰	1	05		御井有聲。如雷。	続1	1146	0
716	898	06.29	昌泰	1	06.03		辛丑。無雲天暗。不知人面。	続1	1146	0
717	898	07.27	昌泰	1	07.01	干ばつ2A	(己巳朔?)奉幣諸社祈雨。	続1	1146	0
718	899	01.20-02.17	昌泰	1	12	強風1B・雷1B	巽方有雷光。炫耀四方。既而迅風。	続1	1149	0
719	899	02.18	昌泰	2	01.01	強風1B	乙未朔。風雪。	続1	1149	0
720	899	06.16-07.15	昌泰	2	05	干ばつ1B	畿内諸国旱。稻皆萎。	続1	1151	0
721	899	07.07	昌泰	2	05.22	暴風1A	(甲寅)此日。颶風吹傾大極殿高御倉於巽方。(後略)	続1	1151	0

本朝通鑑

722	899	07.16-08.13	昌泰	2	06	大雨1B・暴風1B	大風雨。折木発屋。		続1	1152	0
723	899	08.14	昌泰	2	07.01	砂じん1A	壬辰朔。御南殿。此日。黄霧四塞。日赤無光。		続1	1152	0
724	899	10.20	昌泰	2	09.08	暴風1A	己亥。大風此日。		続1	1152	0
725	901	04.27-05.25	延喜	1	04		(前略)及晩雨雪。(後略)		続2	1162	0
726	901	06.24-07.23	延喜	1	06		遣和氣時雨奉幣宇佐社。		続2	1162	1
727	901	08.20	延喜	1	閏06.28	雷1A	戊申。雷雨。(後略)		続2	1162	0
728	903	08.01-08.29	延喜	3	07	干ばつ2B	奉幣十社祈雨。		続2	1169	0
729	903	08.01-08.29	延喜	3	07	干ばつ2B	奉幣二社祈雨。		続2	1169	0
730	903	09.29-10.27	延喜	3	09	干ばつ2B	奉幣諸社祈雨。		続2	1170	0
731	904	08.19-09.16	延喜	4	07	干ばつ1B	旱。遣使奉幣石清水神社。祈雨。		続2	1172	0
732	905	08.09-09.06	延喜	5	07	干ばつ1B	旱。奉幣伊勢大神宮祈雨。		続2	1175	0
733	906	02.02-03.02	延喜	6	01	大雪1B	是日大雪。		続3	1179	0
734	906	05.02	延喜	6	04.02	強風1A・ひょう1A	甲申雨雪。既而風雨暴起。飛雹散乱。其大如梅実。		続3	1179	0
735	906	07.29-08.27	延喜	6	07	暴風1B	隱岐国言。先是猛風自坤方起。海波洶湧。(後略)		続3	1180	1
736	908	02.10	延喜	8	01.01		朔。雨雪。		続3	1185	0
737	908	07.06-08.04	延喜	8	06	干ばつ1B	旱。		続3	1186	0
738	908	08.05-09.03	延喜	8	07	干ばつ2B	祈雨。		続3	1186	0
739	908	08.05-09.03	延喜	8	07	干ばつ2B	奉幣諸社祈雨。		続3	1186	0
740	908	08.05-09.03	延喜	8	07	干ばつ2B	遣使祈雨山陵。		続3	1186	0
741	909	01.30	延喜	9	01.01		朔。雨。停朝賀。		続3	1187	0
742	909	05.27-06.25	延喜	9	05	洪水1B	大水。		続3	1188	0
743	909	06.26-07.24	延喜	9	06	長雨1B	霖。		続3	1188	0
744	909	06.26-07.24	延喜	9	06	長雨2B	奉幣諸社。祈止雨。		続3	1188	0
745	909	06.26-07.24	延喜	9	06	洪水3	遣使。檢察鴨河堤。		続3	1188	0
746	909	10.30	延喜	9	09.09		停重陽宴。雨也。		続3	1189	0
747	910	05.17-06.14	延喜	10	04	大雨1B・暴風1B	烈風猛雨。洛中人家破壊者多。		続3	1190	0
748	910	07.15-08.12	延喜	10	06	干ばつ1B	旱。		続3	1190	0
749	910	08.13-09.11	延喜	10	07	干ばつ1B	詔覆鴨河堤決水依旱也。右大臣源光率諸卿往監之。		続3	1191	0
750	910	08.13-09.11	延喜	10	07	干ばつ2B	祈雨山川神祇。		続3	1191	0
751	910	08.13-09.11	延喜	10	07	暴風1B	風雨発屋折木。		続3	1191	0
752	910	09.12	延喜	10	08.01	暴風1A	朔。大風。		続3	1191	0
753	911	09.01-09.29	延喜	11	08	長雨1B・洪水1B	是月。霖雨。洛中大水。(後略)		続3	1193	0
754	912	01.27	延喜	12	01.01		庚辰朔。雨。停朝賀。		続3	1193	0
755	912	07.22-08.19	延喜	12	06	大雪1B	下野国群盜大起。(中略)討之。時偶大雪。(後略)		続3	1195	1
756	913	09.08	延喜	13	08.01	暴風1A	庚午朔。大風折木破屋。		続3	1197	0
757	913	09.12	延喜	13	08.05	暴風1A	甲戌。大風多損民舍。詔賑給之。		続3	1197	0
758	913	12.12	延喜	13	11.07	強風1A	乙巳。大風。吹倒左馬寮。		続3	1198	0
759	914	07.01-07.30	延喜	14	06	洪水1B	大水。		続4	1213	0
760	915	01.23	延喜	15	01.01		壬辰朔。雨。停朝賀。		続5	1215	0
761	915	06.21-07.19	延喜	15	05	干ばつ1B	旱。		続5	1215	0
762	915	07.20-08.18	延喜	15	06	干ばつ2B	祈雨神泉苑。		続5	1216	0
763	915	10.17-11.14	延喜	15	09		万木華。		続5	1216	0
764	915	12.18	延喜	15	11.05	大雪1A	辛酉。大雪。		続5	1216	0
765	916	06.11	延喜	16	05.03	ひょう1A	丁巳。雨雹。		続5	1217	0
766	916	06.30	延喜	16	05.22	強風1A・ひょう1A	丙子。大風雨雪。(後略)		続5	1217	0
767	916	08.05	延喜	16	06.29	雷1A	壬子。雷鳴地震。		続5	1217	0
768	917	07.27-08.25	延喜	17	07	干ばつ1B	大旱。(後略)		続5	1221	0
769	917	09.24-02.18	延喜	17	09-12	干ばつ1B	(延喜17年12月)自九月不雨至十二月。池水并水悉枯。		続5	1222	0
770	918	01.21-02.18	延喜	17	12	干ばつ2B	奉幣諸社祈雨。		続5	1222	0
771	918	02.16	延喜	17	12.27		壬申。雨降。		続5	1222	0
772	918	09.13-10.12	延喜	18	08	大雨1B・暴風1B	猛風烈雨。折木発屋。		続5	1222	0
773	918	09.13-10.12	延喜	18	08	洪水1B	淀河水溢。人畜溺死。		続5	1222	0
774	919	08.04-09.01	延喜	19	07	干ばつ2B	奉幣諸社祈雨。		続5	1224	0
775	920	08.22-09.19	延喜	20	07	干ばつ1B	旱。		続5	1227	0
776	925	02.01	延長	3	01.01		甲午朔。雪。停朝賀。		続6	1234	0
777	925	05.30-06.28	延長	3	05	干ばつ2B	(前略)詔大中臣安則祈雨。		続6	1235	0
778	925	06.29-07.28	延長	3	06	干ばつ1B	大旱。		続6	1235	0
779	925	07.29-08.26	延長	3	07		決神泉苑水。溉京南田畝。		続6	1235	0
780	925	07.29-08.26	延長	3	07	干ばつ2B	詔十五大寺祈雨。		続6	1235	0
781	926	09.03	延長	4	07.19	暴風1A	癸酉。大風。		続6	1237	0
782	926	08.16-09.14	延長	4	07	洪水1B	大和国長谷寺山崩。		続6	1237	0
783	927	05.09-06.07	延長	5	04		山崎橋断。	洪水の可能性あり。	続6	1238	0
784	928	05.27-06.24	延長	6	05	雷1B	雷震会昌門。		続6	1242	0
785	929	08.13-09.10	延長	7	07	洪水1B・暴風1B	大風大水。破屋湮舍。且害穀稼。		続6	1243	0
786	929	09.11-10.10	延長	7	08	大雨1B・洪水1B	中秋暴雨。洪水激起。街陌如海。車馬不通。溺死者夥。		続6	1243	0
787	930	05.06-07.03	延長	8	04-05	干ばつ1B	四月不雨。至五月。		続6	1245	0

本朝通鑑

788	930	06.29	延長	8	05.25?	大雨1A・干ばつ2A・雷1A	戊午。諸卿上殿。議祈雨之事。少焉。冥方雲起。暴雨大作。迅雷一聲。(後略)	続6	1245	0
789	930	07.04-08.01	延長	8	06	大雪1A	大雪。	続6	1245	0
790	931	01.27-02.24	承平	1	01	雷1B	雷鳴。	続7	1251	0
791	933	02.03	承平	3	01.01		戊寅朔。雨。停朝賀。	続7	1254	0
792	934	12.03	承平	4	10.19	雷1A	丙戌。地震雷鳴。	続7	1256	0
793	936	02.01	承平	6	01.01		朔。雨。停朝賀。	続7	1258	0
794	937	04.19	承平	7	03.01		甲寅朔。雪。	続7	1260	0
795	938	06.06-07.04	天慶	1	05	大雨1B・洪水1B	大雨河溢。	続7	1261	0
796	938	07.05-08.03	天慶	1	06		雨降。地震。	続7	1261	0
797	938	07.05-08.03	天慶	1	06	洪水1B	鴨河水溢。	続7	1261	0
798	938	08.04-09.01	天慶	1	07	干ばつ2B	奉幣諸社祈雨。	続7	1261	0
799	939	01.04	天慶	1	12.06	大雪1A	己卯。雪一丈。	続7	1262	0
800	939	06.25-07.23	天慶	2	06	干ばつ1B	大旱。	続7	1263	0
801	939	06.25-07.23	天慶	2	06		赤氣經天。	続7	1263	0
802	941	01.12	天慶	3	12.07	大雪1A	戊戌。雪。深三尺。	続8	1275	0
803	941	02.04	天慶	4	01.01		朔。雨。	続8	1275	0
804	942	09.28	天慶	5	08.11	大雨1A・暴風1A	壬戌。大風雨。斧屋拔木。	続8	1279	0
805	943	03.20	天慶	6	02.07	強風1A・雷1A	乙卯。烈風雷雨。終日不休。	続8	1280	0
806	943	06.11-07.09	天慶	6	05	干ばつ2B	祈雨。	続8	1280	0
807	943	08.09-09.07	天慶	6	07	干ばつ2B	奉幣十一社祈雨。	続8	1281	0
808	944	02.10	天慶	7	01.09	大雨1A・強風1A	壬午。大風雨。	続8	1281	0
809	944	02.24	天慶	7	01.23	大雪1A	丙申。大雪。	続8	1281	0
810	944	09.26	天慶	7	09.02	大雨1A・暴風1A	辛未。天下大風暴雨。	続8	1283	0
811	944	09.25-10.24	天慶	7	09	洪水1B	河溢。	続8	1283	0
812	946	×	天慶	9	03	強風1A	丙戌。大風。〔三月之月。己巳。丁丑。丙戌。无。(中略)日本紀略作二月条下。(後略)〕	続8	1285	0
813	946	07.07-08.04	天慶	9	06		阿波国言。甘露降。	続8	1286	1
814	947	02.20	天曆	1	01.22	大雨1A・雷1A	戊申。大雷雨。	続9	1289	0
815	947	07.28	天曆	1	07.03	暴風1A	丙戌。大風。	続9	1292	0
816	947	07.26-08.23	天曆	1	07	洪水1B	河溢。	続9	1292	0
817	948	03.19-04.16	天曆	2	02	洪水1B	河溢。(後略)	続9	1295	0
818	948	06.15-07.13	天曆	2	05	干ばつ2B	祈雨。	続9	1295	0
819	948	07.14-08.12	天曆	2	06	干ばつ1B	旱。	続9	1296	0
820	948	07.24	天曆	2	06.11	干ばつ2A	戊子。遣使奉幣伊勢大神宮。祈雨。	続9	1296	0
821	948	07.27	天曆	2	06.14		辛卯。省試。召文章生數十輩。賦吳天降豊沢詩。灌而及第者。十五人。	続9	1296	0
822	948	08.27	天曆	2	07.15	暴風1A	壬戌。大風。	続9	1296	0
823	948	09.08	天曆	2	07.27	大雨1A・暴風1A	甲戌。大風雨。	続9	1296	0
824	949	03.01	天曆	3	01.24	大雪1A	戊辰。大雪。	続9	1297	0
825	949	09.01	天曆	3	08.01	洪水1A	壬申。河溢。	続9	1300	0
826	952	05.02-05.31	天曆	6	04	雷1B	雷電。(後略)	続10	1308	0
827	952	06.30-07.29	天曆	6	06	干ばつ1B	旱。奉幣十六社祈雨。	続10	1308	0
828	957	07.29	天徳	1	06.25	大雨1A・暴風1A	庚辰。暴風大雨。	続11	1319	0
829	958	01.17	天徳	1	12.20	強風1A	壬申。疾風暴風斧屋折木。	続11	1320	0
830	958	10.20-11.18	天徳	2	09		洛中群樹華。	続11	1324	0
831	959	06.14-07.13	天徳	3	05	洪水1B	洛中水。	続11	1325	0
832	959	09.18	天徳	3	08.08	暴風1A	辛巳。大風。	続11	1325	0
833	960	01.06-02.04	天徳	3	12		白虹貫日。	続11	1326	0
834	960	02.05-03.05	天徳	4	01	雷1A	除目。是日雷鳴。(後略)	続11	1326	0
835	961	04.23-05.21	応和	1	閏03	洪水3	勅使奉幣宇佐。依水災也。	続11	1332	0
836	961	08.20	応和	1	07.02	暴風1A	癸亥。大風。	続11	1333	0
837	961	12.24	応和	1	11.09		己巳。雪。天皇詠池辺初雪。(後略)	続11	1333	0
838	962	08.08-09.06	応和	2	07		黒雲起坤巨良。広三尺。	続11	1335	0
839	962	09.07-10.06	応和	2	08	大雨1B・暴風1B	大和近江大風雨。	続11	1335	0
840	963	07.29-08.26	応和	3	07	干ばつ2B	祈雨(後略)	続11	1337	0
841	964	06.18-07.16	康保	1	05	大雨1B・洪水1B	大雨河溢。	続12	1341	0
842	965	02.09-03.10	康保	2	01		白氣經天。(後略)	続12	1342	0
843	965	09.30	康保	2	08.28	暴風1A	乙丑。大風。諸司及人家破壊。	続12	1342	0
844	965	10.02	康保	2	08.30	洪水1A	丁卯。河溢。	続12	1342	0
845	966	01.30	康保	3	01.01		朔。雪。停朝拜。	続12	1343	0
846	966	08.24-09.21	康保	3	08	洪水1B	洪水。鴨河漲如海。使左看督使巡檢之。	続12	1344	0
847	967	02.19	康保	4	01.03	雷1A	壬辰。雷大鳴。	続12	1345	0
848	968	06.04-07.03	安和	1	05	洪水1B	河溢。	続12	1350	0
849	969	07.22-08.20	安和	2	06	干ばつ2B	祈雨神泉苑。	続12	1354	0
850	969	09.11	安和	2	07.22	大雨1A・暴風1A	丁卯。大風暴雨。斧屋折木。	続12	1354	0
851	973	04.11-05.09	天延	1	03	ひょう1B	雨雹。	続13	1364	0
852	973	04.11-05.09	天延	1	03		大和国雨砂。如青玉之屑。	続13	1364	0
853	973	06.25	天延	1	05.17	暴風1A	庚午。大風。木工寮屋舎顛倒。	続13	1364	0
854	974	08.01	天延	2	07.06	雷1A	壬子。雷震典藥寮。	続13	1367	0
855	975	07.17-08.14	天延	3	06	長雨1B	霖雨。	続13	1371	0
856	975	08.15-09.12	天延	3	07	暴風1B	東国大風。	続13	1371	1
857	976	03.20	貞元	1	02.12	大雨1A・強風1A	己酉。大風暴雨。	続14	1376	0

本朝通鑑

858	976	07.30	貞元	1	06.26	大雨1A	辛酉。暴雨地震。		続14	1377	0
859	976	08.23	貞元	1	07.20	雷1A	乙酉。雷雨。地大震。		続14	1377	0
860	976	08.29	貞元	1	07.26	大雪1A	辛卯。大雪。		続14	1377	0
861	976	10.05	貞元	1	09.05	暴風1A	戊辰。大風。		続14	1377	0
862	978	02.17	天元	1	01.03	雷1A	戊子。日食。入夜大雷。		続14	1383	0
863	980	04.04	天元	3	03.12	低温1A	乙酉。氷。北山雨雪。京中竹実生。	文脈・日付から低温として集計。	続15	1390	0
864	982	-	永観	1	04.15	干ばつ1C	(永観元年4月15日/グレゴリオ暦983年6月3日)(庚子)(前略)去年黍稷之遇災旱矣。(後略)		続15	1399	0
865	985	02.02	寛和	1	01.05	大雪1A	庚戌。大雪。(後略)		続16	1408	0
866	985	06.26-07.25	寛和	1	06	干ばつ1B	旱。(後略)		続16	1409	0
867	987	x	永延	1	04	干ばつ2C	壬午。[是月壬午无。恐壬子歟]奉幣丹生貴布祢。祈雨。		続17	1422	0
868	987	07.04-08.02	永延	1	06	干ばつ1B	旱。祈雨。經日而雷雨。(後略)		続17	1422	0
869	989	x	永祥	1	07	洪水1B・暴風1B (洪水1A・暴風1A?)	辛酉。大風。(中略)左右京人家。顛倒破壊不可勝数。是日。鴨河大決。水溉洛中。延及畿内五国。(後略)	日付は「八月辛酉」?その場合は和暦8月13日(グレゴリオ暦9月20日)。	続17	1428	0
870	989	10.14	永祥	1	09.07		(乙酉)(前略)且遣使山陵。告風風水之。		続17	1428	0
871	990	09.24	正暦	1	08.28	洪水1A・暴風1A	庚午。大風河溢。		続17	1434	0
872	991	07.19-08.17	正暦	2	06	干ばつ1B	旱。祈雨。(後略)		続17	1435	0
873	992	07.08	正暦	3	06.01	雷1A	癸亥。雷雨水。	大雨・洪水の可能性あり。	続17	1437	0
874	993	08.15	正暦	4	07.20	雷1A	丙午。雷震美福門。		続17	1440	0
875	994	07.16-08.14	正暦	5	06	干ばつ1B	旱。		続17	1442	0
876	994	09.03	正暦	5	07.20	暴風1A	庚午。大風。		続17	1442	0
877	995	05.25	長徳	1	04.18	雷1A・ひょう1A	(甲午)(前略)雷電。及還院。雨雹。大如栗。(後略)		続18	1447	0
878	995	11.15	長徳	1	10.15	大雨1A・雷1A	戊子。雷鳴大雨。		続18	1452	0
879	995	11.01-12.27	長徳	1	冬- 11.28	多雪1C	(和暦11月28日/グレゴリオ暦12月27日)庚午。試詩。以冬多積雪為題。		続18	1452	0
880	996	03.05	長徳	2	02.08	強風1A	己卯。大風。		続18	1453	0
881	996	07.20	長徳	2	06.27	ひょう1A	丙申。雨雹。		続18	1456	0
882	996	08.31	長徳	2	閏07.10	洪水1A	戊寅。鴨河水溢。京中人家。為之被害者多。		続18	1456	0
883	996	09.11	長徳	2	閏07.21	暴風1A	己丑。大風。		続18	1456	0
884	998	09.18	長徳	4	08.20	暴風1A	丙午。大風。		続18	1464	0
885	999	03.31	長保	1	03.07		庚申。豊前国雨米。(後略)		続19	1471	1
886	1000	05.19	長保	2	04.07	雷1A	甲寅。大雷。(後略)		続19	1478	0
887	1003	12.15	長保	5	11.13	大雨1A・強風1A・雷1A	己亥。大風暴雨雷電。		続19	1496	0
888	1003	-	長保	5	-		今歳。大有年。		続19	1496	0
889	1004	07.26-08.24	寛弘	1	07	干ばつ2B	祈雨於十一社。(後略)		続20	1499	0
890	1004	08.25-09.22	寛弘	1	08	干ばつ2B	奉幣丹生。貴布祢祈雨。		続20	1499	0
891	1005	06.16-07.14	寛弘	2	05	雷1B	雷震大炊寮。		続20	1501	0
892	1005	12.11	寛弘	2	11.02	大雨1A・雷1A	丙午。雷電大雨。行非常之赦。		続20	1505	0
893	1008	10.21	寛弘	5	09.14	低温1A	辛未。東西山雪。		続21	1519	0
894	1009	08.26	寛弘	6	07.27	雷1A	庚辰。天皇御南殿。覽相撲。俄雷雨。(後略)		続21	1523	0
895	1009	12.29	寛弘	6	12.05	雷1A	乙酉。雷鳴。		続21	1524	0
896	1009	12.30	寛弘	6	12.06		丙戌。數鳴。		続21	1524	0
897	1009	12.31	寛弘	6	12.07		丁亥。又鳴。		続21	1524	0
898	1010	01.08	寛弘	6	12.15		乙未。大鳴。		続21	1524	0
899	1010	02.13	寛弘	7	01.21	強風1A	辛未。大風。		続21	1525	0
900	1010	09.17-10.15	寛弘	7	08	長雨1B	霖雨。奉幣丹生貴布祢。祈止雨使。		続21	1527	0
901	1012	03.31-04.29	長和	1	03	低温1B	四山雪。		続22	1535	0
902	1013	04.19-05.18	長和	2	03	低温1B	東西山雪。洛中大寒。		続22	1542	0
903	1013	04.19-05.18	長和	2	03	雷1B	雷。		続22	1542	0
904	1013	04.19-05.18	長和	2	03	ひょう1B	雨雹大如梅李。		続22	1542	0
905	1014	09.03-10.02	長和	3	08	暴風1B	京師大風。屋舎顛倒。		続22	1545	0
906	1015	09.22-10.21	長和	4	08	暴風1B	大風。殷富門倒。		続22	1547	0
907	1016	06.14-07.12	長和	5	05	干ばつ2B	奉幣二十一社祈穀。殊奉幣丹生。貴布祢祈雨。		続22	1549	0
908	1016	07.13-08.11	長和	5	06	大雨1B・干ばつ1B	炎旱。使僧深覺祈雨於神泉苑。此日大雨。		続22	1549	0
909	1019	06.12-07.10	寛仁	2	05	干ばつ1B	旱。祈雨於丹生。貴布祢。		続23	1559	0
910	1019	07.11-08.09	寛仁	2	06	干ばつ2B	勅僧仁海。祈雨於神泉苑。		続23	1560	0
911	1019	08.10	寛仁	2	07.01	大雨1A	朔。大雨。		続23	1560	0
912	1020	03.13	寛仁	3	02.10		(壬辰)(前略)今春之始。雨沢随旬・年穀可豊。(後略)		続23	1563	0
913	1020	03.04-04.01	寛仁	3	02	強風1B	風吹倒壞日華門。		続23	1563	0
914	1020	05.31-06.29	寛仁	3	05	干ばつ2B・雷1B	奉幣二十一社。祈穀。且丹生貴布祢可嚴馬。以祈雨。歴日雷雨。		続23	1567	0
915	1021	08.17-09.15	寛仁	4	07	暴風1B	大風。(中略)兵庫倉皆倒。		続23	1570	0

本朝通鑑

916	1023	08.25-09.23	治安	3	08	干ばつ2B	発遣請雨使於丹生。貴布祢。	続24	1583	0
917	1024	02.19	万寿	1	01.01	強風1A	庚寅朔。風雪。	続25	1587	0
918	1025	01.10	万寿	1	12.02	雷1A	丙辰。雷鳴。	続25	1590	0
919	1025	08.03-08.31	万寿	2	07	干ばつ1B	是月。旱。祈雨於丹生。貴布祢。及空生龍穴。	続25	1594	0
920	1027	07.06	万寿	4	05.24	大雨1A・洪水1A・強風1A・雷1A	癸亥。雷電風雨。豊楽院為雷火被災。洛中洪水。舎屋顛倒壊。(後略)	続25	1601	0
921	1027	10.21	万寿	4	09.13	暴風1A	庚戌。大風。京中屋舎顛倒。	続25	1604	0
922	1028	08.29-09.26	長元	1	08	暴風1B	備前国言。備前美作両国大風。寺社官舎顛倒。	続26	1610	1
923	1028	09.27-10.26	長元	1	09	大雨1B・洪水1B・暴風1B	諸国大風大雨洪水。	続26	1610	0
924	1029	05.22-06.20	長元	2	04	大雨1B・洪水1B	賀茂祭日大雨。鴨河水溢。勅使車難渡。	続26	1615	0
925	1029	08.26	長元	2	07.08		出雲守橋俊孝言。今月八日。当国飯石郡須佐郷牧田村雪降二寸。(後略)	続26	1616	1
926	1030	06.10-07.09	長元	3	05	干ばつ2B	奉幣二十一社。祈雨。	続26	1618	0
927	1030	09.07-10.05	長元	3	08	長雨1B・大雨1B	奉幣丹生貴布祢祈止雨。(中略)頃日陰雲久凝。暴雨頻降。農業有害。(後略)	続26	1618	0
928	1031	07.28-08.26	長元	4	07	雷1B	雷震豊楽院。	続26	1623	0
929	1031	05.30-06.28	長元	4	05	大雨1B・暴風1B	(和暦8月)(前略)今年五月。齊王依恒例神事。詣豊受離宮。風雨暴起。(後略)	続26	1624	0
930	1032	06.17-07.15	長元	5	05	干ばつ1B	旱疫。	続27	1628	0
931	1032	07.16-08.14	長元	5	06	干ばつ2B	御大極殿奉幣伊勢。以祈雨。	続27	1628	0
932	1032	03.20-08.11	長元	5	02-06	干ばつ1B	(和暦6月)自二月不雨。至是月。山崎。大淀渡。宇治川徒涉。	続27	1628	0
933	1032	08.15-09.13	長元	5	07	暴風1B	太宰府言。宇佐宝殿顛倒。依大風也。	続27	1628	1
934	1033	06.06-07.05	長元	6	05	干ばつ1B	旱。祈雨於神泉苑。修五龍祭。	続27	1630	0
935	1034	09.22-10.20	長元	7	08	暴風1B	大風。宮殿垣壁并美福皇鑿応天門八省豊楽院内堂廊榭倉院皆倒。(後略)	続27	1632	0
936	1036	02.06	長元	9	01.01		庚辰朔。立春。雨。停朝賀。	続27	1637	0
937	1040	08.17-09.14	長久	1	07	大雨1B・暴風1B	伊勢国大風大雨。豊受太神宮正殿。及東西宝殿垣門悉倒。(後略)	続28	1650	0
938	1043	06.16-07.15	長久	4	05	干ばつ1B	旱。勅僧正仁海。祈雨於神泉苑。歴日而雨。(後略)	続28	1657	0
939	1044	07.04-08.01	寛徳	1	06	干ばつ2B	奉幣諸社。祈旱疫。始加日吉社。(前略)夜半雨降滂沱。(後略)	続28	1663	0
940	1048	10.16-11.14	永承	3	09		旱魃。(後略)	続29	1674	0
941	1065	06.13-07.11	治暦	1	05	干ばつ1B	旱魃。(後略)	続32	1720	0
942	1065	07.12-08.10	治暦	1	06	干ばつ2B	勅僧成尊。雩於神泉苑。[尊。疑常作典乎。]	続32	1720	0
943	1065	09.09-10.08	治暦	1	08	干ばつ3	改康平八年。為治暦元年。依旱魃也。	続32	1720	0
944	1066	05.03-08.29	治暦	2	夏-07	濃霧1C	(治暦2年7月)(前略)去夏以来。霧霜相侵。(後略)	続32	1723	0
945	1068	07.08-08.06	治暦	4	06		肥後国言。阿蘇山雨雪深五六寸。	続32	1731	1
946	1073	01.17-02.15	延久	4	12		召文人於内裏。賦雪中竹。(後略)	続33	1746	0
947	1082	05.07-09.01	永保	2	04-07	干ばつ1B	(和暦7月)自四月不雨至是月。(後略)	続36	1789	0
948	1082	09.02-09.30	永保	2	08		雨。	続36	1789	0
949	1084	09.09-10.08	応徳	1	08	暴風1B	大風倒木。平野社損。	続36	1796	0
950	1085	08.29-09.27	応徳	2	08		太宰府言。管内肥後国阿蘇宮雪降。勅諸道問之。	続36	1798	1
951	1096	05.31-06.28	永長	1	05	ひょう1B	雨雹。大如梅子。	続39	1840	0
952	1098	09.04-10.03	承德	2	08	洪水1B	洛辺大水。	続39	1848	0
953	1100	02.18-03.19	康和	2	01		白氣經天。広三尺許。	続40	1854	0
954	1100	05.18-06.16	康和	2	04	干ばつ2B	上野介藤敦基在任。納劍於州之拔鋒社祈雨。	続40	1856	0
955	1102	09.21-10.20	康和	4	08	雷1B	(前略)忽雷震。(後略)	続41	1873	0
956	1105	07.20-08.18	長治	2	06		是月。北地雪。(後略)	続42	1889	0
957	1106	07.20-08.18	嘉承	1	06	干ばつ1B	炎旱。人民疫死。(後略)	続42	1891	0
958	1108	09.14-10.13	天仁	1	08	干ばつ2B	(前略)宣命奉幣祈雨。(後略)	続43	1903	0
959	1109	02.09	天仁	2	01.01	大雪1A	朔。大雪連日。	続43	1906	0
960	1110	06.26-07.25	天永	1	06	洪水1B	大水飢饉。	続43	1910	0
961	1111	03.23	天永	2	02.05		戊戌。白氣二行横天。	続43	1912	0
962	1111	05.17-06.14	天永	2	04	暴風1B	大風。伊勢外宮垣門。賀茂斎館。并榭一株。[榭者神木也。或作賢木。]春日社樹七十余株共倒。	続43	1912	0
963	1111	08.14-09.11	天永	2	07	干ばつ1B	旱。奉幣丹生貴布祢。	続43	1913	0
964	1112	07.03-08.01	天永	3	06	干ばつ1B	旱。勅僧勝覺。祈雨於神泉苑。	続44	1922	0
965	1116	07.19-08.16	永久	4	06	干ばつ1B	旱。勅醍醐寺僧勝覺。雩於神泉苑。	続45	1939	0

本朝通鑑

966	1117	05.11-08.06	永久	5	夏	干ばつ1C	夏旱。詔僧勝覚修請雨經法。		続45	1943	0
967	1127	07.18-08.16	大治	2	06	雷1B	(前略)雷雨。(後略)		続47	1986	0
968	1131	11.29-12.28	天承	1	11	長雨2B・雷1B・ひょう1B	是月欲行供養。卜日三度。每及朝。或雷雨。或雨水。延及來來年三月。予勅僧綱祈晴。(後略)		続48	2009	0
969	1139	06.06	保延	5	05.01	干ばつ2A	朔。祈雨。(中略)膏雨不灑。百穀漸枯。(後略)		続50	2049	0
970	1142	04.03	康治	1	02.28	雷1A	(壬辰)船中雷電殊甚。(後略)		続51	2064	0
971	1142	09.29	康治	1	09.02	大雨1A・洪水1A・暴風1A	辛卯。大風雨。洛中人家家多壞。水溺屋人為魚。		続51	2066	0
972	1144	07.05	天養	1	05.26	大雨1A・洪水1A・強風1A・雷1A	(丙子)(前略)雷電暴雨大風。人家多壞。或曰。風起自東三条橋折処云。		続51	2078	0
973	1145	01.15	天養	1	12.14	大雪1A	庚寅。法皇幸白河。今夜大雪。		続51	2084	0
974	1145	09.09	久安	1	08.14	暴風1A	丁亥。大風拔樹斃屋。		続52	2091	0
975	1146	04.27	久安	2	03.08	雷1A	丁丑。雷大震。(後略)		続52	2095	0
976	1147	08.26	久安	3	07.21	大雨1A・雷1A	癸未。大雨雷電。(後略)		続52	2103	0
977	1150	02.07	久安	6	01.01	大雪1A	己卯朔。雪。殆盈尺。		続53	2121	0
978	1150	06.30	久安	6	05.27	大雨1A	(壬寅)法皇亦臨席。既而大雨不能行供養。車駕空還。入宮而雨霽。法皇甚不平。		続53	2130	0
979	1151	03.17	仁平	1	02.11	大雨1A・雷1A	壬戌。暴雨雷電。(後略)		続54	2146	0
980	1153	08.26	仁平	3	07.28	干ばつ1A	乙卯。頃間大旱。今日雨。		続54	2157	0
981	1154	03.03	久寿	1	01.11	雷1A	甲子。雷雨。		続55	2165	0
982	1154	09.19	久寿	1	08.03	大雨1A・洪水1A	甲申。大雨水溢。		続55	2169	0
983	1159	07.24-08.21	平治	1	06	洪水1B・暴風1B	大風洪水。		続57	2227	0
984	1161	08.30-09.27	応保	1	08	暴風1B・高潮1B	摂津国暴風洪水漲起。兵庫新築嶋淘没。		続58	2255	0
985	1168	02.18	仁安	3	01.01	大雨1A	甲子朔。大雨。(後略)		続60	2287	0
986	1169	03.03	嘉応	1	01.26	強風1A・雷1A	癸未。暴風雷電。		続61	2295	0
987	1169	03.08	嘉応	1	02.01		戊子朔。雪。		続61	2296	0
988	1169	03.16	嘉応	1	02.09	強風1A	丙申。大風折木斃屋。		続61	2296	0
989	1169	12.09	嘉応	1	11.12	雷1A	(甲子)是日。雷震法勝寺(後略)		続61	2300	0
990	1170	01.26	嘉応	2	01.01		壬子朔。雪。		続61	2302	0
991	1170	06.23-07.22	嘉応	2	05	干ばつ1B	是月。旱。(後略)		続61	2304	0
992	1170	07.23-08.20	嘉応	2	06	大雨1A・洪水1A	大雨洪水。(後略)		続61	2304	0
993	1170	09.26	嘉応	2	08.08	大雨1A・暴風1A	己卯。(是月己卯无。盖玉葉作八日己卯。己当乙之誤也。)暴風雷雨。鳥羽樓門倒。	注釈どおり「乙卯とした」	続61	2305	0
994	1170	10.19-11.16	嘉応	2	09		是月。洛中桜梅桃李皆華。		続61	2306	0
995	1171	03.07	承安	1	01.22		丁酉。南方有赤氣。		続61	2308	0
996	1172	02.03	承安	2	01.01		朔。微雪。		続62	2313	0
997	1172	05.30	承安	2	04.29	雷1A	丁卯。雷電地震。		続62	2315	0
998	1172	06.20	承安	2	05.20	大雨1A・洪水1A・雷1A	戊子。雷雨大水。河辺人家流没。		続62	2316	0
999	1173	08.18	承安	3	07.01	干ばつ1A	壬辰朔。大旱。(後略)		続62	2323	0
1000	1173	08.19	承安	3	07.02	干ばつ2A	癸巳。詔僧都乘海祈雨于神泉苑。		続62	2323	0
1001	1174	06.09-07.07	承安	4	05	干ばつ1B	大旱河流井水皆竭。(後略)		続62	2328	0
1002	1174	07.28	承安	4	06.21	雷1A	丙子。雷震。(後略)		続62	2330	0
1003	1174	07.08-08.06	承安	4	06	干ばつ1B	是月。大旱。祈雨奉幣七社。		続62	2330	0
1004	1175	06.27	安元	1	06.01	干ばつ1A	庚戌朔。勅仁和寺守覚祈雨。依旱也。(後略)		続63	2335	0
1005	1175	07.03	安元	1	06.07	大雨1A	丙辰。大雨。五穀流損。		続63	2335	0
1006	1175	09.24-09.25	安元	1	09.01-09.02	大雨1A・暴風1A	朔。甚雨大風。至翌日不止。		続63	2337	0
1007	1175	10.05	安元	1	09.12	暴風1A	庚寅。大風人家多破。		続63	2337	0
1008	1176	04.18	安元	2	03.01	雷1A	是日。雷雨(後略)。		続63	2343	0
1009	1176	08.18	安元	2	07.05	大雨1A・暴風1A	戊申。大風甚雨。		続63	2346	0
1010	1177	02.08-03.08	治承	1	01	強風1B・雷1B	是日風雨忽至雷震宝殿之後。(後略)		続64	2352	0
1011	1178	08.13	治承	2	閏06.21	干ばつ1A	癸丑。神泉苑祈雨。依数日不雨也。		続65	2378	0
1012	1179	06.14-07.12	治承	3	05	暴風1B	是月。洛中大風。宮門甲第民屋多顛倒。(後略)		続65	2388	0
1013	1180	06.01	治承	4	04.29	強風1A・雷1A・ひょう1A	辛亥。大風。拔木斃屋。有黃氣如棧。其上黑雲如蓋。雷鳴降雹。又雨雪。(後略)		続66	2407	0
1014	1180	06.14	治承	4	05.13	大雨1A・干ばつ1A	甲子。大雨。頃日旱。(後略)		続66	2410	0
1015	1180	12.10	治承	4	11.15	強風1A	(癸亥)是日。福原大風。		続68	2457	0
1016	1182	06.10-07.09	寿永	1	05	干ばつ1B	大旱。疫死者多。		続70	2500	0
1017	1184	02.21	元暦	1	01.01	強風1A・雷1A	是夜。大風雷電。		続73	2557	0
1018	1184	02.21-03.20	元暦	1	01	洪水1B	(前略)頃日富士河漲涵岸。(後略)		続73	2558	0
1019	1185	01.11-02.08	元暦	1	12	多雪1B	是月。雪屢降。洛人皆謂。五六年来。未有如此之高堆。		続74	2602	0
1020	1185	×	文治	1	01	強風1A	辛未。南風乍歇。官軍將斃。北風急起拔木揚砂。驟雨怒浪。(後略)	屋島の戦い。	続75	2608	0

本朝通鑑

1021	1186	06.08	文治	2	05.12	干ばつ1A	(己丑?)大旱不雨。	続77	2660	0	
1022	1186	06.24	文治	2	05.28	大雨1A	乙巳。大雨。	続77	2661	0	
1023	1187	04.27	文治	3	03.10	ひょう1A	壬子。京師降雪。	続78	2679	0	
1024	1187	07.08	文治	3	05.23	干ばつ1A	(甲子?)大旱。	続78	2680	0	
1025	1187	07.16	文治	3	06.02	大雨1A	壬申。大雨滂沱。衆皆免旱魃之患。	続78	2681	0	
1026	1187	09.11	文治	3	08.01		己巳朔。日食。依陰雨不見。	続78	2681	0	
1027	1187	12.27	文治	3	11.19	雷1A	丙辰。大雷。(後略)	続78	2687	0	
1028	1188	01.08	文治	3	12.01		戊辰朔。雪降。而雷。	続78	2687	0	
1029	1188	04.24	文治	4	03.19	強風1A	乙卯。大風。南京南円堂倒。兼実再建之。	続79	2692	0	
1030	1190	09.22	建久	1	08.14		丙申。勅権大納言藤頼実。奉幣伊勢。路遇雨留滞。	続80	2716	0	
1031	1190	09.25	建久	1	08.17	大雨1A・暴風1A	己亥。暴風大雨。鴨河。桂河大水。鎌倉亦洪水。民屋多敗壞。	続80	2717	0	
1032	1190	10.06	建久	1	08.28	長雨1A	庚戌。霖雨不止。詔奉幣十社。祈晴。	続80	2717	0	
1033	1191	03.21	建久	2	02.17		丙申。頼朝雪中。遊鶴岡別当房。(後略)	続80	2724	1	
1034	1191	04.06	建久	2	03.04	強風1A	壬子。南風烈。鎌倉大火。(後略)	続80	2724	1	
1035	1191	06.01-06.30	建久	2	05	干ばつ1B	是月。旱。祈雨於龍穴清滝。(後略)	続80	2728	0	
1036	1191	09.28-10.26	建久	2	09		是月。禁庭桜樹華。	続80	2729	0	
1037	1191	12.25	建久	2	12.01	雷1A	乙亥朔。雷。	続80	2731	0	
1038	1194	07.27-08.24	建久	5	07	干ばつ1B	旱。詔奉幣諸社祈雨。	和暦7月7日~25日?	続81	2749	0
1039	1195	10.17	建久	6	09.06	暴風1A	丁亥。京師大風。成勝延勝兩寺大門顛倒。	続82	2758	0	
1040	1196	08.03-09.01	建久	7	07	雷1B	雷震松尾社後大杉。	続82	2762	0	
1041	1199	02.04	正治	1	01.01	大雨1A	癸巳朔。日食。大雨來。地震。食不見。	続83	2775	0	
1042	1199	09.29-10.28	正治	1	09	雷1B	鎌倉大雷。	続83	2780	1	
1043	1200	02.11	正治	2	01.18	大雪1A	乙巳。大雪。	続83	2783	0	
1044	1201	09.16	建仁	1	08.11	大雨1A・洪水1A・暴風1A	戊子。鎌倉大風雨。樓閣傾倒。鶴岡八足門頽破。下総葛西郡湖漲溢。民屋悉流。死者千余人。	続83	2794	1	
1045	1201	09.28	建仁	1	08.23	大雨1A・暴風1A	庚子。鎌倉大風雨。田畝荒亡。	続83	2795	1	
1046	1202	03.03	建仁	2	02.01		庚寅。雪。	続84	2798	0	
1047	1203	02.14	建仁	2	12.24	雷1A	甲子。鎌倉地震雷鳴。	続84	2802	1	
1048	1204	×	元久	1	10	雷1A	乙亥。雷雨。	続84	2816	0	
1049	1205	01.29	元久	2	01.01		己未朔。雪。	続84	2818	0	
1050	1205	08.10	元久	2	07.17	干ばつ2A	壬申。上皇幸北野。催歌合会祈雨。	続84	2824	0	
1051	1206	06.18	建永	1	05.04	長雨1A	甲申。奉幣諸社。祈止痲瘡流行。及霖雨。	続85	2831	0	
1052	1207	02.06	承元	1	01.01		丁丑朔。立春。雪。朝賀如例。	続85	2835	0	
1053	1207	02.06-03.07	承元	1	01.01-01.30	長雨1B・多雪1B	自元日至晦日。雨雪連日而少晴。	続85	2836	0	
1054	1207	08.21	承元	1	07.19	暴風1A	(癸巳)是日。大風拔木。瓦屋揚沙石。	続85	2841	0	
1055	1208	07.06	承元	2	05.15	雷1A	癸丑。雷震法勝寺。(後略)	続85	2843	0	
1056	1208	08.06	承元	2	06.16	干ばつ1A	甲申。実朝命鶴岡供僧。祈雨于江島。依旱也。	続85	2844	1	
1057	1208	08.07	承元	2	06.17		乙酉。雨。	続85	2844	1	
1058	1208	11.01	承元	2	09.14	低温1A	辛亥。洛北山雪。寒似冬。	続85	2845	0	
1059	1211	02.23	建曆	1	閏01.02	大雪1A	乙卯。大雪。	続86	2854	0	
1060	1211	04.19	建曆	1	02.27	雷1A	庚戌。南都僧夜乘雷雨。潜入洛東蓮華王院宝蔵。(後略)	続86	2855	0	
1061	1212	07.04	建曆	2	05.27	洪水1A	壬申。鎌倉大水。	続86	2871	1	
1062	1213	12.03	建保	1	10.13	雷1A	己酉。鎌倉雷。	続87	2893	1	
1063	1214	07.16-08.14	建保	2	06	干ばつ1B	大旱。実朝命僧正栄西祈雨。	続88	2899	1	
1064	1216	10.13	建保	4	08.23	洪水1A	甲戌。京師大水。	続88	2910	0	
1065	1216	10.18	建保	4	08.28	暴風1A	己卯。大風。堂舎多壞。	続88	2910	0	
1066	1217	10.12	建保	5	09.04	暴風1A	戊寅。鎌倉大風。瓦屋。	続88	2913	1	
1067	1219	02.14	承久	1	01.21		戊子。鎌倉雪。	続89	2923	1	
1068	1220	01.05	承久	1	11.21	強風1A	癸丑。鎌倉大風。	続89	2928	1	
1069	1220	07.07	承久	2	05.28		(丁巳)(前略)依雨。(後略)	続89	2933	0	
1070	1220	08.07-09.05	承久	2	07	大雨1B・洪水1B	鎌倉雨。大水。民屋多壞。	続89	2933	1	
1071	1220	11.04-01.31	承久	2	冬	干ばつ1C・少雪1C	是冬。鎌倉不雨。無雪。	続89	2935	1	
1072	1221	02.10	承久	3	01.10	強風1A・雷1A	乙未。鎌倉大雷風烈。(後略)	続90	2937	1	
1073	1221	07.06	承久	3	06.08	雷1A	(辛酉)鎌倉大雷。(後略)	続90	2947	1	
1074	1221	07.11	承久	3	06.13	大雨1A	丙寅。大雨。時房向勢多。官軍断橋板。(後略)	続90	2948	0	
1075	1221	07.12	承久	3	06.14	大雨1A・洪水1A	(丁卯)(前略)時雨水漲流。(後略)	続90	2949	0	
1076	1222	07.18-08.15	貞応	1	06	干ばつ1B	鎌倉大旱。義時命鶴岡供僧祈雨。	続91	2965	1	
1077	1224	05.27-06.25	元仁	1	05	干ばつ1B	大旱。義時命僧徒祈雨。	続91	2970	1	
1078	1224	06.26-07.24	元仁	1	06	干ばつ2B	鎌倉始行七瀬破。祈雨。(後略)	続91	2970	1	
1079	1225	02.16-04.16	嘉祿	1	01-02	長雨1B	(和暦2月)自正月連雨。至是月。	続91	2977	0	
1080	1225	07.14-08.12	嘉祿	1	06	干ばつ1B	大旱。	続91	2978	0	

本朝通鑑

1081	1225	08.13-09.10	嘉祿	1	07	干ばつ2B	詔僧範円祈雨清滝。〔或曰祈於室生龍穴。〕		続91	2978	0
1082	1226	02.24	嘉祿	2	01.19	大雪1A	乙亥。鎌倉雪二尺余。		続91	2981	1
1083	1227	11.18-12.16	安貞	2	10	強風1B	鎌倉大風。幕営諸館及士第民屋多壞。		続92	2990	1
1084	1229	11.25-12.24	寛喜	1	11	雷1B	鎌倉大雷。(後略)		続92	2992	1
1085	1230	07.10	寛喜	2	05.21	大雨1A・洪水1A・暴風1A	壬子。風雨。鴨河溢。		続92	2997	0
1086	1230	07.19-08.16	寛喜	2	06	雷1B	鎌倉大雷。(後略)		続92	2998	1
1087	1230	07.19-08.16	寛喜	2	06	大雨1B	是月。大雨。		続92	2999	0
1088	1230	09.01	寛喜	2	07.16	霜1A	乙巳。霜隕殺草。		続92	2999	0
1089	1230	09.21	寛喜	2	08.06	洪水1A	乙丑。大水。鎌倉辺民家流人溺。		続92	3000	1
1090	1230	09.23	寛喜	2	08.08	暴風1A・低温1A	丁卯。鎌倉大風。草木葉枯。寒氣如冬。五穀不実。		続92	3000	1
1091	1230	10.22	寛喜	2	09.08	暴風1A	丙申。鎌倉大風。斧屋抜木。		続92	3000	1
1092	1230	12.31	寛喜	2	11.18	大雨1A・強風1A・雷1A	乙巳。鎌倉雷。暴風大雨。(後略)		続92	3000	1
1093	1231	03.10	寛喜	3	01.28	洪水1A	乙卯。洛中大水。鴨河溢。往来絶。		続92	3004	0
1094	1231	06.09-07.08	寛喜	3	05	干ばつ1B	大旱。諸国疫。頼経命鶴岡供僧。修問答講祈之。		続92	3006	1
1095	1231	07.09-08.06	寛喜	3	06	暴風1B	大風連日。頼経命陰陽師(後略)。		続92	3006	1
1096	1231	08.07-09.04	寛喜	3	07	洪水1B・雷1B	天下大饑。洛中地震大水。		続92	3006	0
1097	1231	12.03-12.31	寛喜	3	11	強風1B	詔權中納言藤隆通。奉幣伊勢大神宮。依大風饑饉也。		続92	3008	0
1098	1233	08.02	天福	1	06.18	干ばつ1A	(辛卯?)大旱。		続93	3020	0
1099	1233	08.03	天福	1	06.19	干ばつ2A	壬辰。詔東寺長者僧正真惠祈雨于神泉苑。		続93	3020	0
1100	1233	08.14	天福	1	07.01		癸卯朔。雨。(後略)		続93	3021	0
1101	1233	08.15	天福	1	07.02	干ばつ2A	(甲辰)(前略)祈雨。		続93	3021	0
1102	1235	05.29	嘉禎	1	05.04	ひょう1A	丙申。雨雹。大如柑。		続93	3027	0
1103	1235	09.01	嘉禎	1	07.10	洪水1A	辛未。鎌倉大水。		続93	3030	1
1104	1237	04.04-05.03	嘉禎	3	03	洪水2B	鎌倉大水。	和暦3月9日~20日か。	続94	3040	1
1105	1237	06.02-06.30	嘉禎	3	05	干ばつ1B	大旱。詔僧徒祈雨。		続94	3042	0
1106	1237	12.26	嘉禎	3	12.01		戊寅朔。日食。雨而不見。(後略)		続94	3044	0
1107	1238	05.15	曆仁	1	03.23	強風1A	戊戌。京師大風。		続94	3047	0
1108	1238	08.13	曆仁	1	06.25	洪水1A・暴風1A	戊辰。大風洪水。民屋破壊。清滝河漲。她多流出。		続94	3051	0
1109	1239	01.16	曆仁	1	12.03	大雪1A	甲辰。大雪。北条経時興三浦泰村。及弟家村。資村。下河辺行光。武田信長。小笠原時長等獵大庭野。		続94	3053	1]
1110	1239	12.04	延応	1	11.01	強風1A・雷1A	丙寅朔。烈風雷雨。		続94	3058	0
1111	1240	06.29-07.27	仁治	1	06	干ばつ1B	旱。詔興福寺。醍醐寺僧徒祈雨。		続95	3062	0
1112	1241	07.17-08.15	仁治	2	06	干ばつ1B	旱。	和暦6月7日~8日か。	続95	3066	0]
1113	1241	07.25	仁治	2	06.09	干ばつ2A	乙丑。頼経命鶴岡別当定親。祈雨於江島。		続95	3066	1
1114	1242	08.05-09.03	仁治	3	07	雷1B・ひょう1B	伊勢国言。大風抜松。大雷。雨雹。(後略)		続95	3083	0
1115	1243	03.08	寛元	1	02.09		丙辰。雪。(後略)		続96	3088	0
1116	1244	06.14-07.12	寛元	2	05	干ばつ1B	大旱。		続96	3095	0
1117	1244	07.15	寛元	2	06.02	干ばつ2A	辛未。頼経集僧徒祈雨。		続96	3096	0
1118	1244	07.22	寛元	2	06.09	干ばつ1A	戊寅。依早行軒廊御下。召醍醐座主大僧正定濟祈雨於神泉苑。(後略)		続96	3096	0
1119	1245	02.16	寛元	3	01.11	雷1A	丁未。雷。		続96	3098	0
1120	1245	02.26	寛元	3	01.21	雷1A	丁巳。雷。		続96	3098	0
1121	1246	07.22-08.19	寛元	4	06	干ばつ1B	旱。		続96	3104	0
1122	1246	07.22-08.19	寛元	4	06	干ばつ2B	詔遣使奉幣伊勢大神宮。祈雨。		続96	3104	0
1123	1246	11.22	寛元	4	10.06	雷1A	辛卯。鎌倉雷。		続96	3106	1
1124	1246	12.31	寛元	4	11.14	大雪1A	己巳。大雪。(後略)		続96	3106	0
1125	1247	03.11	宝治	1	01.26	雷1A	庚辰。鎌倉雷。		続97	3109	1
1126	1247	10.08	宝治	1	09.01	暴風1A	辛亥朔。鎌倉大風。及壬子猶未止。斧屋抜木。		続97	3119	1
1127	1248	07.14	宝治	2	06.15		辛卯。常陸国関郡仁木郷雪。		続97	3123	1
1128	1248	06.30-07.28	宝治	2	06	霜1B	鎌倉濫橋南微雪如霜。		続97	3123	1
1129	1251	05.22	建長	3	04.23	長雨1A・大雨1A・洪水1A	癸丑。大雨連日。鎌倉洪水。		続98	3139	1
1130	1251	06.17	建長	3	05.20	ひょう1A	乙卯。雨而氷。		続98	3139	0
1131	1251	07.30	建長	3	07.04	低温1A	壬戌。寒猶未止。		続98	3140	0
1132	1251	08.13	建長	3	07.18		丙子。雪。		続98	3140	0
1133	1251	08.21	建長	3	07.26		甲申。又雪。		続98	3140	0
1134	1251	08.26	建長	3	08.01	暴風1A	己丑朔。大風頼嗣命陰陽師行風伯之祭。		続98	3140	1
1135	1251	12.14	建長	3	10.23	雷1A	己卯。雷。		続98	3142	0
1136	1252	02.14	建長	3	12.26	ひょう1A	辛巳。鎌倉雨雹。積地三寸。		続98	3142	1
1137	1252	02.29	建長	4	01.11	雷1A	丙申。雷。		続99	3145	0

本朝通鑑

1138	1252	07.30	建長	4	06.16	干ばつ1A	戊辰。鎌倉行赦。依宗尊親王疾及炎旱涉日也。	統99	3149	1
1139	1252	08.02	建長	4	06.19	干ばつ2A	辛未。宗尊親王命鶴岡別當隆弁祈雨。(後略)	統99	3149	1
1140	1252	08.06	建長	4	06.23		乙亥。雨。延及連日。(中略)祈雨之功。	統99	3149	1
1141	1252	11.27	建長	4	10.17	雷1A	戊戌。鎌倉雷。	統99	3150	1
1142	1254	08.22	建長	6	07.01	暴風1A	辛丑朔。鎌倉大風。破稼。民屋多倒。(後略)	統99	3156	1
1143	1254	09.30	建長	6	08.10		庚辰。曉。白虹見東方。	統99	3156	0
1144	1254	10.23	建長	6	09.04	暴風1A	癸卯。鎌倉大風。(後略)	統99	3156	1
1145	1254	11.22	建長	6	10.04	雷1A	癸酉。鎌倉大雷。	統99	3156	1
1146	1256	04.03	康元	1	02.29	洪水1A	辛卯。鎌倉大水。	統100	3163	1
1147	1256	09.03	康元	1	08.06	大雨1A・洪水1A・暴風1A	甲子。鎌倉大風洪水。稼穀流亡。山壞而死者多。	統100	3164	1
1148	1256	12.13	康元	1	11.18	雷1A	乙巳。雷。	統100	3165	0
1149	1257	01.13	康元	1	12.19	雷1A	丙子。雷。	統100	3166	0
1150	1258	09.06	正嘉	2	08.01	暴風1A	丁丑朔。大風損稼。	統100	3172	0
1151	1258	11.19	正嘉	2	10.16	洪水1A	辛卯。鎌倉大水溺死者多。	統100	3172	1
1152	1259	01.14	正嘉	2	12.12	雷1A	丁亥。雷。	統100	3173	0
1153	1259	01.18	正嘉	2	12.16	雷1A	辛卯。地震大雷。	統100	3173	0
1154	1260	03.04	文応	1	01.14	雷1A	壬午。雷。	統101	3179	0
1155	1260	07.17	文応	1	06.01	洪水1A	丁酉朔。鎌倉大水。	統101	3180	1
1156	1260	09.18	文応	1	08.05	暴風1A	庚子。大風地震。	統101	3181	0
1157	1260	12.26	文応	1	11.16	雷1A	己卯。雷。	統101	3182	0
1158	1261	02.13	弘長	1	01.06	雷1A	戊辰。雷。	統101	3183	0
1159	1261	12.07	弘長	1	11.07	雷1A	乙丑。雷。	統101	3189	0
1160	1263	10.07	弘長	3	08.27	暴風1A	甲戌。鎌倉大風。由比浦之船。及鎮西之真船。悉破碎。溺死者多。	統102	3198	1
1161	1263	10.22	弘長	3	09.12	雷1A	己丑。鎌倉武蔵大路霹靂。(後略)	統102	3199	0
1162	1265	02.14	文永	2	01.20	雷1A・ひょう1A	庚寅。大雷雨雹。	統102	3208	0
1163	1265	07.30	文永	2	06.10	大雨1A・洪水1A	丙子。鎌倉大雨。龜谷泉谷山崩人馬多斃。	統102	3209	1
1164	1266	03.16	文永	3	02.01	雷1A	乙丑朔。雨泥。	統103	3215	0
1165	1266	04.18	文永	3	03.05	雷1A・ひょう1A	戊戌。鎌倉雷雨雹。大如李。(後略)	統103	3215	1
1166	1267	09.27-10.25	文永	4	09	暴風1B	是月。大風斃屋拔木。(後略)	統103	3221	0
1167	1271	07.16-08.13	文永	8	06	干ばつ1B	大旱。諸国飢饉。尾張。美濃特甚。	統104	3241	0
1168	1271	07.16-08.13	文永	8	06	干ばつ1B	北条時宗命極樂寺僧良親祈雨然數日不雨。加以風災。(後略)	統104	3241	1
1169	1274	05.26	文永	11	04.12	強風1A	戊午。大風草木枯。	統105	3258	0
1170	1281	07.29	弘安	4	07.06	暴風1A	(前略)己亥日。大神宮畔風杜放光。俄而大風揚沙拔木。(後略)	統108	3296	0
1171	1281	×	弘安	4	08	暴風1A	庚辰。蒙古高麗之戰艦過赤間關。俄而大風起。逆浪卷沙。(後略)	統108	3296	1
1172	1283	05.06-06.03	弘安	6	04	長雨1B	霖雨。	統109	3309	0
1173	1285	07.11-08.08	弘安	8	06	干ばつ1B	大旱。	統110	3324	0
1174	1285	×	弘安	8	06	干ばつ2A・雷1A	辛卯。相模守北条貞時請僧祖元祈雨。(中略)三下時。時雷声大震。甘雨霽。觀者稱其奇術云。	統110	3324	1
1175	1287	07.16	弘安	10	05.27	長雨1A	丁巳。天皇憂霖雨不止。(後略)	統110	3330	0
1176	1287	11.14-12.13	弘安	10	10	大雪1B	(前略)時大雪。(後略)	統110	3331	0
1177	1295	06.15	永仁	3	04.24	ひょう1A	戊辰。雨雹。	統112	3360	0
1178	1303	06.24-07.22	嘉元	1	05	大雨1B・暴風1B	鎌倉大風雨。一夜之間。大竹而幹生。其一幹貫鶴岡樓門。	統114	3390	1
1179	1312	05.15-06.13	正和	1	04		相州海水赤。(後略)	統115	3421	1
1180	1315	06.11-07.09	正和	4	05	長雨2B	五月。遣奉幣使於丹生。貴布祢兩社。禱止雨。	統116	3430	0
1181	1318	02.10-03.11	文保	2	01		車駕幸西園寺。是日雨雪。(後略)	統117	3440	0
1182	1319	08.30	元応	1	閏07.07	干ばつ2A	己丑。勅使藏人藤朝尹祈雨於神泉苑。有驗。賜御衣於朝尹猷和歌拜舞。	統117	3448	0
1183	1321	07.04-08.02	元亨	1	06	干ばつ1B	(和曆6月)大旱。平地枯槁。(後略)	統117	3456	0
1184	1321	09.15	元亨	1	08.15		丙辰。中秋。快晴。(後略)	統117	3457	0
1185	1322	01.28	元亨	2	01.03		(辛未)是日雪。池樹如著花。(後略)	統117	3458	0
1186	1324	09.05	正中	1	08.08	洪水1A	壬戌。鎌倉大水。	統118	3471	1
1187	1325	08.12	正中	2	06.25	大雨1A・洪水1A・雷1A	癸卯。雷震叡山無動寺。山崩寺壞。人民死。是日大雨。洛中及白河人家流亡。	統118	3475	0
1188	1331	04.20	元弘	1	03.05	低温1A	(庚辰)(前略)滿庭省迴雪之昨。雪猶殘。雖小風。(後略)	統120	3506	0
1189	1331	11.08	元弘	1	09.29	大雨1A・強風1A	(壬寅)(前略)時風雨烈猛。(後略)	統120	3515	0
1190	1333	02.24	元弘	3	02.02	干ばつ1A	(丙申)(前略)近日雨不降。(後略)	統122	3551	0
1191	1333	05.02	元弘	3	03.10	大雨1A	癸卯。六波羅諸軍至瀨河。赤松円心屯酒部相持。以明日為戰期。時暴雨。円心率親兵五十騎。(後略)	統122	3568	0

本朝通鑑

1192	1335	08.29	建武	2	08.03	暴風1A	(壬子)(前略)帥三万余騎發鎌倉。今夜大風。吹掀陣營。(後略)		続125	3641	1
1193	1335	09.02	建武	2	08.07	大雨1A	(丙辰)(前略)尊氏退陣於駿府。此夕大雨。三日不止。尊氏不能進。		続125	3642	1
1194	1335	×	建武	2	12		(戊申)(前略)初義貞東征時。陸奥国司源頭家催軍士。挾攻鎌倉。然雪深而遠者難至。(中略)二十八日丙子。冒雪到巖崎。(後略)		続126	3670	1
1195	1336	03.22	延元	1	02.01		(戊寅朔)(前略)以雪前日之耻。(後略)		続127	3687	0
1196	1336	07.06	延元	1	05.19	大雨1A・洪水1A	(甲子)(前略)而発兵欲濟川。時雨降水潦方盛。(後略)		続128	3706	0
1197	1336	07.11	延元	1	05.24	大雨1A	(己巳)(前略)義貞正成可班師歸洛。時大雨。薄暮勅使到兵庫。(後略)		続128	3711	0
1198	1336	07.12	延元	1	05.25		庚午。雨晴。義貞欲發兵庫。(後略)		続128	3712	0
1199	1336	11.22	延元	1	10.11	大雪1A	癸未。義貞至監津。(中略)而從間道越木目嶺。大雪。土馬多凍死。(後略)		続129	3744	1
1200	1337	02.16	延元	2	01.07	大雪1A	(己酉)(前略)頃日雪深難通人馬。可待晴而救金崎。(後略)		続130	3754	1
1201	1337	02.20	延元	2	01.11		癸丑。雪晴。仙山官軍以里見伊賀守為大將。(後略)		続130	3755	0
1202	1337	11.02-11.30	延元	2	10	低温1B	義貞高經相挑於越前国。然以雪降寒甚。故不及大戦。		続130	3766	1
1203	1338	01.10	延元	2	12.11	洪水1A	丁丑。源頭家與鎌倉諸將。隔利根川對陣。時水漲浪高。故相持一日。		続130	3767	1
1204	1344	01.24	康永	3	01.01		春正月壬戌朔。◎三正綜覽朔癸亥朔。朝雪。及午而晴。		続133	3834	0
1205	1346	10.06	貞和	2	09.13	暴風1A	戊子。十三日。大風。山上諸堂顛倒。仁和寺雙岡松樹。或折。入夜月明。		続134	3859	0
1206	1346	11.19	貞和	2	閏09.27	低温1A	壬申。上皇催蹴毬遊。入夜雪降。	11月の降雪を低温とした。	続134	3859	0
1207	1347	02.19	貞和	3	01.01		春正月甲辰朔。雨。曆家曰。日食。		続135	3865	0
1208	1348	06.28	貞和	4	05.11	干ばつ1A	癸丑。勅權中納言藤藤長奉幣諸社祈雨。依旱也。		続135	3886	0
1209	1348	07.09	貞和	4	05.22	大雨1A・洪水1A	甲子。大雨洪水。		続135	3886	0
1210	1348	11.12-02.25	貞和	5	前冬-01	干ばつ1C	(貞和5年1月)時去冬不雨。洛中井涸。		続136	3891	0
1211	1349	07.26	貞和	5	閏06.03	雷1A	壬辰。巽隅乾隅有電光。(後略)		続136	3894	0
1212	1350	05.08	観応	1	03.23	濃霧1A	(癸酉)(前略)頃日以來。霧露之氣侵質。(後略)		続136	3904	0
1213	1350	07.07	観応	1	05.24	暴風1A	戊寅。大風。		続136	3905	0
1214	1352	01.26	正平	7	01.01		春正月丙午朔。雪。南帝在賀名生。(後略)		続138	3945	0
1215	1353	10.15	文和	2	09.10		甲戌。垂井大風雷雨。山野震動。行宮將壞。(後略)		続139	3969	0
1216	1356	09.20	延文	1	08.17	洪水1A	乙丑。洪水。宇治橋流落。真木島壞。		続140	3990	0
1217	1358	05.07-05.14	延文	3	03.21-03.30	大雨1B・洪水1B・強風1B	評判曰。三月下旬天暴陰。洛中大風半日。大雨四日。毛交降。其長或一尺余。或二三寸。鴨河洪水。往還路絶。(後略)		続140	3996	0
1218	1358	06.20	延文	3	05.05		癸卯。端午雨。(後略)		続140	3996	0
1219	1359	09.21	延文	4	08.21		辛巳。真木島水涸石失。少焉石出水生。		続141	4011	0
1220	1359	09.01-09.30	延文	4	08	干ばつ1B	旱。		続141	4011	0
1221	1360	-	延文	5	-	干ばつ1C	是年大旱。飢饉。疫疾。都鄙死者不可勝算。		続141	4027	0
1222	1361	09.02	康安	1	07.24		癸酉。摂津国難波浦潮乾數百町。群魚溢出。漁人爭拾。俄潮大生。漁人溺死者。數百人。(後略)		続142	4031	0
1223	1361	09.24	康安	1	08.17	暴風1A	乙未。大風殿傾壁。灯明爐火皆消。洛中洛外人馬多死。衆皆謂。修法招禍也。尊道被嘲。		続142	4032	0
1224	1362	06.29-07.29	貞治	1	06	干ばつ1B	旱。近江湖水乾十六步。		続143	4051	0
1225	1352	07.20-01.13	貞治	1	06-11	干ばつ1B	(和曆11月)自六月不雨。至是月。五穀不登。草木枯藁。民多餓死。		続143	4056	0
1226	1370	09.13	応安	3	08.15	雷1A	辛未。雷震九条殿。死者二人。		続145	4099	0
1227	1373	06.10	応安	6	05.11	ひょう1A	壬子。大雪。		続146	4114	0
1228	1373	10.26	応安	6	10.02	暴風1A	庚午。大風。		続146	4115	0
1229	1377	09.12-10.08	永和	3	08	洪水1B	是月。諸国山崩。		続147	4136	0
1230	1384	04.01	至徳	1	03.03	大雪1A・低温1A	辛丑。雪積八尺。		続150	4179	0

本朝通鑑

1231	1387	05.26-06.24	嘉慶	1	05	大雪1B	夏五月。大雪。	季節的に「大雪」が降ったかどうか疑わしい。	続150	4187	0
1232	1389	04.09	康応	1	03.05	強風1A	甲戌。風雨。義満泊舟於海上。		続151	4196	0
1233	1389	04.19	康応	1	03.15	強風1A	甲申。発船到赤崎浦。暴風起不得進。回棹泊巖屋。終夜風雨雷鳴。波浪撼船。(後略)		続151	4197	0
1234	1389	04.24	康応	1	03.20	強風1A	己丑。風雨不進舟。義満宿海辺茅屋。風定雨休。復発船。		続151	4197	0
1235	1389	04.25	康応	1	03.21	強風1A	庚寅。風烈折檣。既而到尾道構舟梁上陸。(後略)		続151	4197	0
1236	1389	04.28	康応	1	03.24	強風1A・雷1A・ひょう1A	(癸巳)(前略)今夜亦風雷雨雹群舟各下鉄猫護之。義満入一寺避之。		続151	4198	0
1237	1389	05.17	康応	1	04.13		壬子。鎌倉前浜水赤如血。		続151	4198	1
1238	1390	06.16	明德	1	04.25	長雨2A	丁亥。講會中日。天陰義満令嬢卜部兼敦祈晴於二条殿龍池。及午快晴。義満喜。(後略)		続151	4202	0
1239	1390	08.19-10.16	明德	1	07-08	長雨1B・大雨1B	(和暦7月)自是月大雨至八月。		続151	4203	0
1240	1390	09.18-10.16	明德	1	08	洪水1B	是月洪水。		続151	4203	0
1241	1393	07.18-09.14	明德	4	06-07	干ばつ1B	(和暦7月)自六月不雨。至是月。		続152	4226	0
1242	1399	10.20	応永	6	09.13	大雨1A・暴風1A	庚辰。大雨烈風。皆謂違天變。不延供養之崇也。入夜天晴月明。乃十三夜也。		続154	4248	0
1243	1402	07.10-08.07	応永	9	06	干ばつ1B	六月。大旱。(後略)		続154	4262	0
1244	1402	08.08-09.07	応永	9	07	洪水1B・暴風1B	七月。洪水大風。		続154	4262	0
1245	1405	07.14	応永	12	06.09	洪水1A	癸酉。大水。		続155	4273	0
1246	1406	10.08	応永	13	08.17	洪水1A	(甲辰)是日大水。		続155	4277	0
1247	1406	10.15	応永	13	08.24	洪水1A	辛亥。大水。		続155	4277	0
1248	1406	10.16	応永	13	08.25	暴風1A	壬子。大風。		続155	4277	0
1249	1407	01.02	応永	13	11.14	雷1A	庚午。雷雨。		続155	4277	0
1250	1407	05.09	応永	14	03.23	雷1A	(丁丑)是日雷雨。		続155	4280	0
1251	1408	04.14	応永	15	03.09		戊午。帝在北山。予期舞御覽。依雨而止。(後略)		続156	4285	0
1252	1408	04.21	応永	15	03.16	雷1A	乙丑。雷電。道義献破子。刻鷺鳴。		続156	4288	0
1253	1408	08.15	応永	15	07.15	暴風1A	辛酉。大風。		続156	4292	0
1254	1409	01.10	応永	15	12.15	雷1A	己丑。雷鳴。		続156	4292	0
1255	1409	07.22-08.19	応永	16	06	干ばつ1B	(前略)令将命者濡滞。加之久旱種不土。公府窘蹙。(後略)		続156	4294	0
1256	1415	07.16-08.13	応永	22	06	低温1B	是月。洛中寒氣如冬。		続157	4313	0
1257	1416	01.23	応永	22	12.14	大雪1A	戊寅。僧性智住天龍寺上堂大雪。乃献一偈於義持曰。(後略)		続157	4314	0
1258	1416	02.16	応永	23	01.09	雷1A	壬寅。雷震北山塔。		続157	4314	0
1259	1419	07.21	応永	26	06.20	強風1A・雷1A	(癸巳)(前略)及少貳藤某。宗貞茂等率兵拒戰。時天地震動。大風大雷。敵大敗而歸。		続158	4328	1
1260	1420	08.19-09.16	応永	27	07	高潮1B	駿河丸子浜一日之間。潮盈潮涸九度。魚上在陸。		続158	4334	1
1261	1420	09.28	応永	27	08.12	洪水1A	戊申。大水。		続158	4334	0
1262	1421	02.21	応永	28	01.10		甲戌。義持親殘雪於河原。(後略)		続159	4339	0
1263	1422	02.05	応永	29	01.05		癸亥。雪。		続159	4342	0
1264	1422	12.19	応永	29	閏10.26		庚辰。雪。義量出河原覽之。		続159	4345	0
1265	1424	02.04	応永	30	12.25		壬申。初雪。(後略)		続159	4350	0
1266	1425	08.23-09.20	応永	32	07	洪水1B・暴風1B	大風洪水。		続160	4358	0
1267	1426	02.17	応永	33	01.01	大雪1A	春正月丙申朔。大雪。		続160	4358	0
1268	1426	03.06	応永	33	01.18	洪水1A	癸丑。下野国二荒山崖壞水溢。		続160	4358	1
1269	1427	10.02	応永	34	09.03	洪水1A	戊子。洪水。		続160	4361	0
1270	1428	07.22	正長	1	06.01	洪水1A・暴風1A	六月壬午朔。大風洪水。		続160	4365	0
1271	1431	07.19	永享	3	06.01	大雨1A・洪水1A	六月甲午朔。大雨水溢。南禅寺崖土裂。(後略)		続161	4374	0
1272	1433	05.28-06.26	永享	5	05	干ばつ1B	五月大旱。		続161	4379	0
1273	1436	04.01	永享	8	03.06	強風1A	壬申。大風。相国寺西廊倒。(後略)		続162	4389	0
1274	1441	06.19	嘉吉	1	05.21	洪水1A	丁巳。洛中大水。		続164	4418	0
1275	1443	04.11	嘉吉	3	03.02		戊午。雨穀。		続164	4428	0
1276	1443	06.15	嘉吉	3	05.09	干ばつ1A	癸亥。奉幣貴布禰丹生兩社。祈雨。依旱也。献納馬并絹等。如例。		続164	4428	0
1277	1444	05.06	文安	1	04.10	ひょう1A	己丑。雨雹。大如棗。		続165	4434	0
1278	1445	07.14-08.12	文安	2	06	暴風1B	六月。大風。		続165	4437	0
1279	1446	06.04-07.03	文安	3	05	干ばつ1B	大旱。		続165	4438	0
1280	1449	03.16	宝徳	1	02.13		甲子。白虹見。		続166	4449	0
1281	1449	06.04	宝徳	1	05.05		甲申。虹遶日。		続166	4451	0
1282	1450	02.21	宝徳	2	01.01		春正月丙午朔。雪。小朝拝節会等皆如例。		続166	4455	0
1283	1450	06.27	宝徳	2	05.09	長雨2A	壬子。奉幣丹生貴布禰祈止雨。各納神馬。宣命如式。		続166	4456	0
1284	1450	08.17	宝徳	2	07.01	暴風1A	秋七月癸卯朔。大風折木。長門周防両国人家城郭顛倒。喬木悉僵。		続166	4457	0

本朝通鑑

1285	1450	09.01	宝徳	2	07.16	大雨1A・暴風1A	戊午。越中国大風暴雨。山河震動。草木悉損。里民訛言。空中有光。鬼現雲中。指良方飛行。	続166	4457	1	
1286	1451	09.30	宝徳	3	08.26	長雨2A	壬辰。奉幣丹生。貴布禰祈止雨。	続166	4461	0	
1287	1459	06.10-07.08	長祿	3	05	干ばつ1B	旱。	続168	4496	0	
1288	1459	07.11	長祿	3	06.03	干ばつ2A	癸丑。義政命相国寺僧祈雨。	続168	4496	0	
1289	1459	08.10	長祿	3	07.03	干ばつ2A	癸未。雩於神泉苑。	続168	4496	0	
1290	1460	07.16	寛正	1	06.19	洪水1A・暴風1A	甲子。大風洪水。	続168	4499	0	
1291	1460	09.23	寛正	1	08.29	洪水1A・暴風1A	癸酉。大風洪水。	続168	4501	0	
1292	1461	02.20	寛正	2	01.01		春正月癸卯朔。雪。朝賀節会如例。	続169	4507	0	
1293	1461	06.18-07.16	寛正	2	05	干ばつ1B	旱。鴨河水涸。	続169	4508	0	
1294	1462	02.17	寛正	3	01.09	雷1A・ひょう1A	乙巳。雷雨雹。	続169	4510	0	
1295	1462	12.04	寛正	3	11.04		乙未。雪。	続169	4513	0	
1296	1463	02.01	寛正	4	01.04	大雪1A	甲午。雪。盈尺。	続169	4513	0	
1297	1463	08.18	寛正	4	閏06.24	大雨1A・暴風1A	壬子。鎌倉大風雨。鶴岡若宮宝殿壞。	続169	4516	1	
1298	1465	09.15	寛正	6	08.16	洪水1A	辛卯。石清水大水。管領畠山政長等留滞。經日歸洛。	続170	4534	0	
1299	1466	01.24	寛正	6	12.29		(壬寅)是日。雪。	続170	4540	0	
1300	1466	07.02	文正	1	05.11	ひょう1A	辛巳。大雹。	続170	4542	0	
1301	1468	08.23	応仁	2	07.26	洪水1A・暴風1A	甲申。大風洪水。	続171	4567	0	
1302	1468	08.30	応仁	2	08.04	暴風1A	辛卯。鎌倉大風。折木奔屋。寿福寺層塔倒。寿福寺一作極楽寺。	続171	4567	1	
1303	1469	09.15-10.14	文明	1	08	洪水1B	洪水。人畜舍宅流失。	続172	4574	0	
1304	1470	11.05	文明	2	10.04	大雨1A・雷1A	戊申。夜。月出而俄雲。大雨雷電。相国寺七重塔火。(後略)	続172	4578	0	
1305	1472	-	文明	4	-	干ばつ1C	是年。大旱饑饉。	続172	4585	0	
1306	1475	09.15	文明	7	08.06	洪水1A・暴風1A・高潮1A	癸未。大風洪水。摂州尼崎波濤溢陸。溺死者数千。	続173	4596	0	
1307	1476	02.05-05.02	文明	8	春		今春。雪降。天皇以為瑞。而有御製月詩。(後略)	記載は和暦3月・4月間。	続173	4599	0
1308	1477	08.18-09.16	文明	9	07		是月。北陸紅雪。厚一寸余。	続173	4606	1	
1309	1479	07.28-11.22	文明	11	秋	干ばつ1C	是秋。大旱。五穀不熟。天下大疫。	続173	4612	0	
1310	1480	02.26	文明	12	01.07	強風1A・雷1A	戊子。大風雷鳴。	続174	4615	0	
1311	1482	06.25-07.24	文明	14	06	洪水1B	西国北国洪水。	続174	4622	0	
1312	1482	09.22-10.21	文明	14	08	洪水1B	関東洪水。	続174	4623	1	
1313	1483	03.01	文明	15	01.13		丁未。源義尚開詩歌褒貶会。賦雪中鶯。江畔柳。(後略)	続174	4625	0	
1314	1484	02.06-03.07	文明	16	01		是月。雪。公卿奏謂是瑞也。有御製詩。(後略)	続174	4629	0	
1315	1486	-	文明	18	-		是年。相模国江島海浜潮枯平地。	続174	4639	1	
1316	1499	04.30	明応	8	03.11	ひょう1A	辛未。越州大雨雹。	続176	4675	1	
1317	1500	01.11-02.09	明応	8	12		赤氣二道見坤方。長三丈余。	続176	4676	0	
1318	1499	11.12-08.07	明応	9	前10-06	干ばつ1B	(明応9年6月)自去年十月不雨。至是月。	続176	4677	0	
1319	1501	05.17	文亀	1	04.20	ひょう1A	戊戌。雨雹。大如栗。	続177	4682	0	
1320	1503	05.06-08.01	文亀	3	夏	干ばつ1C	今夏。大旱。	続177	4689	0	
1321	1505	06.12-11.05	永正	2	05-09	長雨1B	(和暦5月)自是月雨至九月。	続177	4692	0	
1322	1505	09.20	永正	2	08.13	暴風1A	乙丑。大風五穀不熟。	続177	4693	0	
1323	1508	08.16	永正	5	07.10	洪水1A	丙午。関東大水。武州上州舍屋壞人馬死。	続178	4706	1	
1324	1509	04.29-05.28	永正	6	04	干ばつ1B	大旱。	続178	4707	0	
1325	1510	02.19	永正	7	01.01		春正月戊午朔。雨禁庭湿。行四方拝於軒廊。	続178	4709	0	
1326	1511	09.10	永正	8	08.08	暴風1A	丙戌。大風。	続178	4713	0	
1327	1512	×	永正	9	03	強風1A	甲午。◎是月死甲午。辛丑。壬寅。相模国大風。大山寺大杉倒。関東大饑。	続178	4717	1	
1328	1514	05.17	永正	11	04.13	ひょう1A	丙午。大雹。	続179	4725	0	
1329	1516	05.22	永正	13	04.11	ひょう1A	壬戌。大雪如梅子。	続179	4732	0	
1330	1516	05.23	永正	13	04.12	洪水1A	癸亥。鎌倉洪水。	続179	4732	1	
1331	1516	08.14	永正	13	07.06	暴風1A	丙戌。大風。	続179	4733	0	
1332	1516	09.19	永正	13	08.13	暴風1A	壬戌。大風。	続179	4734	0	
1333	1517	07.01	永正	14	06.03	暴風1A	丁未。終夜大風。八島村兵士以兼約。故放火近村。(後略)	続180	4741	0	
1334	1517	10.25-02.19	永正	14	冬	大雪1C・低温1C	是冬。関東大雪。相模河凍不流。	続180	4746	1	
1335	1518	02.20	永正	15	01.01		春正月辛丑朔。雨天皇行四方拝。(後略)	続180	4746	0	
1336	1518	08.31	永正	15	07.15	洪水1A・暴風1A	癸丑。大風洪水。五穀不登。	続180	4751	0	
1337	1522	-	大永	2	-	大雨1C	是年。六甲子皆雨。五穀不熟。	続181	4766	0	
1338	1523	-	大永	3	-	干ばつ1C	是年。大旱。五穀不登。	続181	4768	0	
1339	1524	09.12	大永	4	08.05		丁酉。夜雨。元就約雲州軍士曰。今夜我以輕兵。襲破大内陣。(後略)	続181	4772	1	

本朝通鑑

1340	1525	10.01	大永	5	09.05	大雨1A・暴風1A	辛酉。鎌倉大風雨。円覚寺。寿福寺壊。河水溢漲。山岳滅没。人畜多死。	続181	4775	1
1341	1529	02.14	享祿	1	12.26		癸巳。白虹亘西東連夜。	続182	4789	0
1342	1531	12.16	享祿	4	10.28	大雨1A・洪水1A	戊申。宗滴欲再渡今湊大雨水漲。神保氏請分兵迴上瀬而渡。(後略)	続182	4797	0
1343	1534	09.20	天文	3	08.03	洪水1A・暴風1A	丁酉。大風洪水。	続183	4806	0
1344	1535	07.11-08.08	天文	4	06	干ばつ1B・暴風1B	大風旱魃。周防国大旱。大内義隆修請雨法。	続183	4809	0
1345	1535	07.11-08.08	天文	4	06	干ばつ1B	大風旱魃。周防国大旱。大内義隆修請雨法。	続183	4809	1
1346	1535	09.19	天文	4	08.12	洪水1A	辛丑。大水。	続183	4809	0
1347	1538	09.20	天文	7	08.17	洪水1A	戊午。大水。	続184	4822	0
1348	1539	05.28-06.25	天文	8	05	干ばつ2B	夏五月。周防国大乱。義隆令僧徒修止雨法。	続184	4824	1
1349	1539	10.09	天文	8	08.17	大雨1A・洪水1A	壬午。大雨洪水。	続184	4825	0
1350	1540	04.05	天文	9	02.18	大雪1A	(辛巳)隅田率兵三千五百騎入甲斐。時大雪埋道。(後略)	続184	4827	1
1351	1540	05.25	天文	9	04.09	洪水1A	辛未。大水民屋漂蕩。	続184	4828	0
1352	1540	09.21	天文	9	08.11	大雨1A・暴風1A	庚午。關東大雨烈風。折木斃屋。建長寺總門倒。	続184	4829	1
1353	1541	02.18	天文	10	01.13	大雪1A	(庚子)(前略)元就兵追之。殘雪甚深。故不能進。晴久將高尾氏為殿。(後略)	続185	4836	1
1354	1541	09.11	天文	10	08.11	暴風1A	乙丑。京師大風。殿門多倒。	続185	4837	0
1355	1543	06.19	天文	12	05.07		(辛亥)(前略)三戸氏等還戰。時雨頻路暗。(後略)	続185	4848	1
1356	1544	03.28	天文	13	02.25	ひょう1A	甲午。雨雹。	続186	4853	0
1357	1544	08.07	天文	13	07.09	洪水1A	丙午。洛中及諸国大水。陸行用船。	続186	4855	0
1358	1545	02.12	天文	13	12.21		乙卯。黑雲現北。青雲現南。黃雲現西。白雲現東。	続186	4859	0
1359	1545	12.29	天文	14	11.16	濃霧1A	乙亥。大霧四塞。	続186	4862	0
1360	1546	09.27	天文	15	08.23		丁未。黃雲現西。人面及草木色皆黃。	続186	4867	0
1361	1549	02.08	天文	18	01.01		春正月壬申朔。雨。(後略)	続187	4890	0
1362	1549	03.28	天文	18	02.19		庚申。三州兵夜冒風雨。俄襲尾州群並兩城。(後略)	続187	4890	1
1363	1550	09.22	天文	19	08.02	大雨1A・洪水1A	癸亥。大雨洪水。	続188	4904	0
1364	1551	10.10	天文	20	09.01		(丙戌朔)(前略)欲赴筑紫。北風頻吹。層浪漲起。(後略)	続188	4914	1
1365	1553	07.10	天文	22	05.20	洪水1A	(乙丑)(前略)元春令日。援兵未加之間。可速破国久。時河水漲。雲州兵不得濟。(後略)	続189	4927	1
1366	1553	06.21-07.20	天文	22	05	干ばつ1B	大旱。	続189	4928	0
1367	1553	07.23	天文	22	06.03	大雨1A・干ばつ2A	戊寅。勅祈雨於伊勢外宮。少焉大雨。	続189	4928	0
1368	1553	10.11	天文	22	08.24	強風1A	戊戌。鎌倉風雨地震。鶴岡宮及堂社破壊。	続189	4930	1
1369	1555	11.23	弘治	1	10.29		辛卯。元就令日。(中略)然有風雨則延之及他日耳。(後略)	続190	4951	1
1370	1556	09.26	弘治	2	08.13	大雨1A・暴風1A	己亥。大風雨。人畜多死。田畝損亡。	続191	4965	0
1371	1556	10.06	弘治	2	08.23	大雨1A・暴風1A	己酉。鎌倉風雨。鶴岡鐘樓倒。	続191	4965	1
1372	1556	10.07	弘治	2	08.24	長雨1A・洪水1A	庚戌。柴田勝家。林美作守合兵二千。攻名塚壘。佐久間氏告急。信長率兵七百救之。時霖雨。小田井河大水。信長不得輟濟。	続191	4965	1
1373	1557	06.07-07.06	弘治	3	05	干ばつ1B	大旱。	続191	4973	0
1374	1557	06.07-10.02	弘治	3	05-08	干ばつ1B	(和曆8月)自五月不雨。至是月。	続191	4973	0
1375	1557	09.28	弘治	3	08.26	暴風1A・高潮1A	丙午。大風。尼崎。難波。鳴尾。今津。西宮。兵庫。明石諸浦潮漲。尼崎里人多死。洛中米價甚貴。	続191	4973	0
1376	1558	-	永祿	1	-	干ばつ1C	是年。大旱。	続192	4983	0
1377	1560	06.22	永祿	3	05.19	大雨1A	(甲申)(前略)梁田氏為先鋒。時黑雲覆天。大雨乍降。信長密廻義元陣後。義元飲酒乘輿。(後略)	続193	5000	1
1378	1561	05.29	永祿	4	04.06	大雨1A	(乙丑)(前略)義景入飯館改服。置千余兵于其前後。而追奔犬。時大雨俄降。(後略)	続194	5014	1
1379	1563	05.03	永祿	6	04.01	雷1A	夏四月己酉朔。洛中雷。震東寺塔。己酉或作庚戌。	続196	5041	0
1380	1566	07.05	永祿	9	06.08	霜1A	戊辰。降霜。	続198	5075	0
1381	1569	02.20	永祿	12	01.25	強風1A・低温1A	(己巳)(前略)初將戰時。風烈余寒透肩。信玄召士卒飲酒日。(後略)	続200	5104	1

本朝通鑑

1382	1569	08.09	永祿	12	06.17	洪水1A	己未。大水。信玄兵器被浪淘。(後略)		統200	5111	1
1383	1569	10.27	永祿	12	09.08	大雨1A	(戊寅)(前略)稲葉一鉄夜襲大河内城。時大雨。不能放砲。(後略)		統200	5113	1
1384	1570	12.21	元龜	1	11.14	大雪1A	(庚寅)(前略)信長大怒。進軍攻圍叡山。時雪深嚴寒。越前江北軍士甚苦。		統201	5140	1
1385	1573	12.25	天正	1	11.21	大雪1A	(戊戌)(前略)到江北柳瀬椿坂。然雪深不能踰山。(後略)		統203	5178	1
1386	1574	03.04-04.01	天正	2	02	大雪1B	是月。羽柴秀吉以小谷雪深。有往來之勞。(後略)		統204	5182	0
1387	1574	05.01-05.30	天正	2	04	長雨1B	大神君出兵駿州次田中。攻犬井城。或日出兵於廊路陣干瑞雲。犬井。一作乾。連雨數日。士卒乏糧。(後略)		統204	5183	1
1388	1574	05.31-06.28	天正	2	05	長雨1B・洪水1B	大神君又攻犬井城主天野氏。時霖雨河漲。浜松兵不能進。(後略)		統204	5184	1
1389	1574	08.29	天正	2	08.03	暴風1A	(乙巳)(前略)時信長在長島。乘風雨攻木目城。(後略)		統204	5186	0
1390	1576	06.09	天正	4	05.03	洪水1A	(乙未)(前略)春長乃發諸士從之。時淀河水漲不得涉。(後略)		統205	5209	0
1391	1576	11.01-11.30	天正	4	10	大雪1B	(前略)謙信遣使於信長曰。今般欲出兵決生死於一戰。然大雪埋地。諸士皆苦。(後略)		統205	5212	1
1392	1578	01.06	天正	5	11.18	大雪1A	(辛未)(前略)既而信長到東野遊獵。時遇大雪。(後略)		統205	5222	1
1393	1578	03.22	天正	6	02.04	大雪1A	丙戌。三河。遠江兩國大雪。深積四尺。		統206	5226	1
1394	1578	06.26	天正	6	05.11	大雨1A・洪水1A	壬戌。洛中安土大雨洪水。信長命京尹村井春長聚船。催向播之裝。		統206	5231	0
1395	1578	06.28	天正	6	05.13		甲子。信長欲自赴播州。諸將近臣皆猜秀吉成功。託雨水諫止之。信長亦猶予。	大雨・洪水の可能性あり。	統206	5231	0
1396	1578	07.12	天正	6	05.27	洪水3	戊寅。信長到大津。乘舟渡湖。歸安土。觀洪水。		統206	5231	0
1397	1582	03.05-04.02	天正	10	02	低温1B	信豊及今福氏進兵到鳥居峠。地嶮路細。雪猶未消。(後略)		統210	5286	1
1398	1582	06.17	天正	10	06	暴風1A	癸巳。秀吉逢風雨留滯沼城。		統211	5308	1
1399	1582	06.30-07.29	天正	10	06	洪水1B	是月。島津義久發兵徇肥後國。到立花山。賀井宗運擊之。斬首三百余級。宗運踞胡床撿其首。時雨降山溪水漲。(後略)		統211	5313	1
1400	1582	08.28-09.26	天正	10	08	洪水1B	是月。駿州洪水。富士川東流涸盡。西流漲溢。		統211	5317	1
1401	1583	06.09	天正	11	04.19	洪水1B	辛未。秀吉到岐阜。議一挙陥城。大雨猶予陣大垣。		統212	5330	1
1402	1588	05.11	天正	16	04.16	大雨1A	己巳。雨。開倭歌宴。(後略)		統217	5409	0
1403	1588	05.14	天正	16	04.19	大雨1A	(壬申)是日。洛中大雨。		統217	5410	0
1404	1588	05.15	天正	16	04.20	洪水1A	癸酉。大堰川水溢。洛中往還路絕。秀吉大喜謂。行幸五日快晴有天助也。(後略)		統217	5410	0
1405	1592	08.08-09.05	文祿	1	07	長雨1B・洪水1B	明將祖承訓。史儒率三千兵涉鴨綠江。兩將不諳地形。又不知與日本人相戰之法術。時霖雨連月。山水暴漲。(後略)		統219	5476	1
1406	1595	09.13	文祿	4	08.10	大雨1A・洪水1A	庚戌。大雨洪水。		統222	5529	0
1407	1596	05.01	慶長	1	04.04	低温1A	辛丑。雪。寒氣如冬。		統223	5533	0
1408	1596	-	慶長	1	-		是年天下大霧。		統223	5542	0
1409	1596	-	慶長	1	-		畿内關東諸國雨毛。其長四寸余。		統223	5542	0
1410	1598	02.08	慶長	3	01.03	大雪1A	癸巳。大雪。京師伏見往還殆絕。		統224	5569	0
1411	1599	04.19	慶長	4	03.14	強風1A	(己亥)自此以來。威風日盛。(後略)		統225	5591	0
1412	1601	10.26-02.21	慶長	6	冬		奥州岩崎賊起。南部利直討之。及冬雪深路不通。利直收兵。		統228	5654	1
1413	1606	02.07	慶長	11	01.01		春正月庚午朔。雨。(後略)		統229	5676	0

12. 続史愚抄

(1) ページは下記による。

No. 1～229：黒板勝美・国史大系編修会編 1930『続史愚抄（前篇）』新訂増補/
国史大系第13巻 国史大系刊行会・吉川弘文館・日用書房

No. 230～616：黒板勝美・国史大系編修会編 1931『続史愚抄（中篇）』新訂増補/
国史大系第14巻 国史大系刊行会・吉川弘文館・日用書房

No. 617～915：黒板勝美・国史大系編修会編 1931『続史愚抄（後篇）』新訂増補/
国史大系第15巻 国史大系刊行会・吉川弘文館・日用書房

(2) 地域（“L”列）は下記による。

0：近畿地方中部

1：近畿地方中部以外

No.	グレゴリイ暦		和暦		項目	記載内容	備考	該当箇所		L
	年	月日	年号	年 月日				冊	頁	
1	1260	01.16	正元	1 11.26		雨雪。日中止。		1	5	0
2	1260	09.18	文応	1 08.05	大雨1A・暴風1A	大風雨。自晡至戌刻。壊人家。京畿諸同。		1	12	0
3	1261	08.14	弘長	1 07.10	洪水1A	洪水壊粟田宮築垣。		1	17	0
4	1261	10.02	弘長	1 08.29	暴風1A	大風云。		1	19	0
5	1261	10.15	弘長	1 09.13		雨風。	台風の可能性あり。原文は「、日と。」	1	19	0
6	1263	03.05	弘長	3 01.17		相模記。霾。夜当乾巽有光。		1	24	1
7	1263	07.30	弘長	3 06.17	低温1A	相模記。自昨冷氣如秋。人纏綿衣云。		1	26	1
8	1263	09.27	弘長	3 08.14	暴風1A	大風発屋。諸国傷稼。八幡山木二千余株及高良社倒。圧死者二人。因明日放生会延引。		1	26	0
9	1264	06.11	文永	1 05.09	干ばつ1A	被定神泉苑御読経日時僧名。依炎旱也。	原文は「、日と。」	1	29	0
10	1264	06.23	文永	1 05.21	干ばつ2A	於清瀧。有請雨御読経。		1	29	0
11	1264	06.23	文永	1 05.21		神泉苑御読経延引。	原文は「、日と。」	1	29	0
12	1264	07.24	文永	1 06.22	干ばつ2A	於神泉苑有祈雨御読経。阿闍梨長者僧正道勝。		1	30	0
13	1264	07.29	文永	1 06.27	雷1A	金峯山蔵王堂為雷火焼亡。		1	30	0
14	1264	07.31	文永	1 06.29	干ばつ2A	為祈雨於東寺灌頂院被修孔雀経法。阿闍梨長者僧正道勝。		1	30	0
15	1264	08.04	文永	1 07.04	雷1A	東寺孔雀経法結願。昨日依雷雨今日遂之。(後略)		1	30	0
16	1265	01.26	文永	2 01.01		日食。依雨不見。(後略)		2	33	0
17	1265	02.14	文永	2 01.20	雷1A・ひょう1A	相模記。雷電雨雹。		2	34	1
18	1265	03.24	文永	2 02.28	長雨2A	被発遣止雨奉幣使。上卿侍徒中納言。		2	34	0
19	1266	03.16	文永	3 02.01		相模記。雨泥。		2	38	1
20	1266	04.18	文永	3 03.05	ひょう1A	相模記。雨雹。大如李。(後略)		2	38	1
21	1266	09.25	文永	3 08.18	暴風1A	大風。大学寮廟堂陰陽寮社壊。(中略)又西国最被害云。		2	39	0
22	1267	04.20	文永	4 03.18	強風1A	南都大風。春日若宮経所乾并北面壊。依古木折懸也。後日上奏。		2	41	0
23	1267	06.01	文永	4 05.01		(前略)但雨不見。		2	42	0
24	1267	06.14	文永	4 05.14	干ばつ2A	為祈雨遣蔵人則任掃除神泉苑。		2	42	0
25	1267	06.15	文永	4 05.15	干ばつ2A	被発遣祈雨二社。(後略)		2	42	0
26	1267	06.16	文永	4 05.16		雨。(後略)		2	42	0
27	1267	07.17	文永	4 06.17	長雨2A	又被発遣止雨奉幣使。(後略)		2	44	0
28	1267	09.23	文永	4 08.27	長雨2A	被発遣止雨奉幣使。(後略)		2	45	0
29	1267	10.02	文永	4 09.06	洪水1A	祭主三位。言本宮殿舎御垣造替六社。又宮河洪水間神事延引等事。後日奉行蔵人中宮権大進経長奏聞。		2	45	0
30	1268	07.06	文永	5 05.18	長雨2A	被発遣止雨二社奉幣使。(後略)		2	51	0
31	1268	07.12	文永	5 05.24	長雨2A	又被発遣止雨奉幣使。(後略)		2	51	0
32	1268	07.18	文永	5 05.30	長雨2A	重又被発遣止雨奉幣使。(後略)		2	51	0
33	1268	08.13	文永	5 06.26	干ばつ2A	(前略)次被発遣祈雨奉幣使。(後略)		2	52	0
34	1268	08.17	文永	5 07.01	干ばつ2A	為祈雨神泉苑掃除。勅使蔵人長清参向。		2	53	0
35	1268	08.18	文永	5 07.02		依有小雨。(後略)		2	53	0
36	1268	08.19	文永	5 07.03	雷1A	(前略)此後有雷鳴微雨。因御読経先被延引者。		2	53	0
37	1268	08.23	文永	5 07.07		(前略)自今夜五箇日。於神泉苑御読経日時。(後略)		2	53	0
38	1268	08.25	文永	5 07.09	雷1A	今朝神泉苑御読経結願。[雖不满五箇日。昨日有雷雨故也。]		2	53	0
39	1268	09.02	文永	5 07.17		被定清瀧室生龍穴御読経日時。(後略)		2	53	0
40	1268	09.08	文永	5 07.23		依権僧正定済申。清瀧御読経今日不結願。五箇日延引事。(後略)		2	53	0
41	1268	10.22	文永	5 09.08	長雨2A	又被発遣止雨奉幣使。(後略)		2	54	0
42	1268	10.29	文永	5 09.15		月食。陰雲不見。		2	55	0
43	1269	11.18	文永	6 10.16		此日。被行鎮魂祭。依雨於神祇官北門有之。		3	62	0
44	1270	12.04	文永	7 10.13		月食。雨不見。		3	65	0
45	1271	04.18	文永	8 03.01	低温1A	雨雪。	月日から低温として集計した。	3	69	0
46	1271	10.28	文永	8 09.16	暴風1A	大風。		3	71	0
47	1272	08.03	文永	9 07.01	干ばつ1A	依炎旱被始神泉苑御読経。(後略)		3	77	0
48	1272	08.08	文永	9 07.06		雨。[当御読経第六日。]		3	77	0
49	1273	03.28	文永	10 03.01	大雪1A	鎌倉大雪。	原文は「、日と。」	3	79	1
50	1273	08.01	文永	10 06.10	干ばつ1A	依炎旱被発遣祈雨奉幣使。(後略)		3	82	0
51	1273	08.15	文永	10 06.24		被始行室生龍穴。(後略)	干ばつ2A(雨乞い)の可能性あり。	3	82	0
52	1273	08.16	文永	10 06.25		被定神泉苑御読経日時僧名。上卿藤中納言。	干ばつ2A(雨乞い)の可能性あり。	3	82	0
53	1273	08.19	文永	10 06.28	雷1A	神泉苑御読経結願。有雷雨雖未遍。(後略)		3	82	0
54	1273	08.25	文永	10 07.05	干ばつ1A	依炎旱始行水天供。(後略)		3	83	0

続史愚抄

55	1273	08.30	文永	10	07.10	干ばつ2A	於神泉苑被行請雨經法。(後略)		3	83	0
56	1273	09.05	文永	10	07.16	干ばつ2A	請雨經法結願。而依未雨。二箇日可延行由。(後略)		3	83	0
57	1273	09.06	文永	10	07.17		(和暦7月17日/グレゴリヲ曆9月6日)雨。[自閏五月十二日炎旱。](後略)		3	83	0
58	1273	07.04-09.06	文永	10	閏05.12-07.17	干ばつ1B	(和暦7月17日/グレゴリヲ曆9月6日)雨。[自閏五月十二日炎旱。](後略)		3	83	0
59	1274	01.31	文永	10	12.15		月食。陰雲不見。		3	86	0
60	1274	03.13	文永	11	01.26		霽。		4	94	0
61	1274	08.23	文永	11	07.13	干ばつ1A	依炎旱被行水天供。(後略)		4	96	0
62	1275	04.08	建治	1	03.04	低温1A	雨雪。余寒尤甚。		4	100	0
63	1276	06.29	建治	2	05.09		新日吉小五月会依雨延引。		4	105	0
64	1276	06.30	建治	2	05.10		此日。新日吉小五月会。雖雨如式有之。(後略)		4	105	0
65	1277	02.12	建治	3	01.01		小朝拜拜礼等依雨延引。		4	110	0
66	1277	09.01	建治	3	07.25	干ばつ1A	依炎旱被行水天供。		4	112	0
67	1277	09.02	建治	3	07.26	雷1A	震興福寺。(後略)		4	112	0
68	1279	02.20	弘安	2	01.01		依雨所々拜礼小朝礼等延引。		5	119	0
69	1279	06.21	弘安	2	05.04	干ばつ2A	被発遣祈雨奉幣。上卿源大納言。		5	124	0
70	1279	06.22	弘安	2	05.05	干ばつ1A	為炎旱御祈被始水天供。(後略)		5	124	0
71	1279	06.26	弘安	2	05.09	干ばつ1A	為炎旱御祈。(後略)		5	124	0
72	1279	06.27	弘安	2	05.10		水天供結願。[昨今依雨也。]		5	124	0
73	1279	09.03	弘安	2	07.19	干ばつ2A	被発遣祈年穀奉幣及祈雨奉幣使等。		5	125	0
74	1280	03.27	弘安	3	02.18		於南殿有御鞠。依雨也。		5	129	0
75	1281	05.01	弘安	4	04.05	長雨2A	被発遣止雨奉幣使。(後略)		5	133	0
76	1281	05.29	弘安	4	05.03		左近荒手結依雨延引。		5	134	0
77	1281	08.23	弘安	4	閏07.01	大雨1A・暴風1A	大風雨。		5	136	0
78	1283	06.08	弘安	6	05.05		真手結依雨延引。		6	150	0
79	1283	06.19	弘安	6	05.16	長雨2A	被発遣止雨奉幣使。(後略)		6	151	0
80	1283	06.22	弘安	6	05.19	長雨2A	又被発遣止雨奉幣使。(後略)		6	151	0
81	1283	06.23	弘安	6	05.20	長雨1A	被付軒廊御下。依世間病事。霖雨等事也。		6	151	0
82	1283	08.19	弘安	6	07.18	大雨1A・洪水1A	大雨。今出川洪水。		6	152	0
83	1284	06.09	弘安	7	閏04.17	大雨1A・洪水1A	昨今大雨。洛中洪水。烏丸川。西洞院川等。水溢不通人馬。一条前関白実経。今出川第為水底。近衛殿。(後略)		6	161	0
84	1284	06.13	弘安	7	閏04.21	長雨2A	被行止雨奉幣。(後略)		6	161	0
85	1284	07.16	弘安	7	05.25	干ばつ2A	被行祈雨奉幣。(後略)		6	162	0
86	1284	07.22	弘安	7	06.02	干ばつ1A	依炎旱被掃除神泉苑。蔵人源季邦参向。依雨賜祿。		6	162	0
87	1284	08.13	弘安	7	06.24	暴風1A	昨今。伊勢大風。		6	163	0
88	1284	08.14	弘安	7	06.25		水天供結願。[廿三日廿四日等雨。]		6	163	0
89	1284	08.16	弘安	7	06.27	雷1A	雷落六条殿中門。		6	163	0
90	1284	08.12-08.13	弘安	7	06.23-06.24	暴風1A	(和暦7月13日/グレゴリヲ曆9月1日)(前略)去六月廿三日廿四日。伊勢大風。外宮西宝殿北方千木折懸。(後略)		6	164	0
91	1286	04.27	弘安	9	03.25	長雨2A	(前略)被発遣止雨奉幣使。(後略)		7	179	0
92	1286	04.29	弘安	9	03.27	大雨1A・強風1A・ひょう1A	(前略)于時暴風雨。公卿輻倒。[或記。雨雹。如橘子。供奉次將離散云。]		7	179	0
93	1286	05.16	弘安	9	04.15		月食。陰雲不見歟。		7	180	0
94	1286	05.27	弘安	9	04.26	雷1A	此日。雷落法勝寺塔。		7	180	0
95	1286	07.12	弘安	9	06.12	大雨1A・洪水1A・暴風1A	新院幸日吉社。頃之還御。依暴風雨洪水。經四条橋幸北野宮。供奉公卿已下衣裝如出水中云。		7	182	0
96	1286	10.03	弘安	9	09.07	長雨2A	被行止雨奉幣。(後略)		7	184	0
97	1286	11.04	弘安	9	10.10	長雨1A	被発遣七社奉幣使。[依霖雨有御卜者。(後略)]		7	185	0
98	1287	03.16	弘安	10	01.24	強風1A	今夜伊勢大風。内宮月読宮倒。(後略)		7	188	0
99	1287	05.09	弘安	10	03.16		月食。陰雲不見。		7	190	0
100	1287	05.12	弘安	10	03.19	長雨2A	被発遣止雨奉幣使。(後略)		7	190	0
101	1287	06.26	弘安	10	05.07	長雨2A	被発遣止雨奉幣使。(後略)		7	191	0
102	1287	06.28	弘安	10	05.09		新日吉小五月会依雨延引。		7	191	0
103	1287	06.29	弘安	10	05.10	長雨1A・洪水1A	霖雨洪水。害青苗及諸庄園。又法成寺惣社後築地流亡。		7	191	0
104	1287	07.03	弘安	10	05.14	長雨1A	被行軒廊御下。依霖雨也。		7	192	0
105	1287	07.13	弘安	10	05.24	長雨1A	依霖雨被発遣八社奉幣使。(後略)		7	192	0
106	1287	07.15	弘安	10	05.26	長雨1A	(和暦5月26日/グレゴリヲ曆7月15日)於蔵人所重被行霖雨御卜。[自去二日至今日雨。但兩日有晴歟云。]		7	192	0
107	1287	06.21-07.15	弘安	10	05.02-05.26	長雨1B	(和暦5月26日/グレゴリヲ曆7月15日)於蔵人所重被行霖雨御卜。[自去二日至今日雨。但兩日有晴歟云。]		7	192	0
108	1287	07.17	弘安	10	05.28	長雨2A	(前略)止雨可祈請旨被仰。[蓋昨今不雨。]		7	192	0
109	1287	10.11	弘安	10	08.26	長雨2A	被発遣止雨奉幣。(後略)		7	195	0
110	1287	12.04	弘安	10	10.21		晴。		8	202	0
111	1288	02.05	弘安	10	12.25	大雪1A	(正応元年1月2日)(前略)豊受大神宮司言。去年十二月廿五日子刻。依深雪当宮宝殿西方松樹倒懸于西宝殿。(後略)		8	205	0

続史愚抄

112	1287	11.14-03.06	弘安	10	冬-01.24	多雪1C	(正応元年1月24日)自去冬雨雪連日云。		8	207	0
113	1288	03.13	正応	1	02.03		此日雖可幸賀茂北野等社依雨被延引。		8	207	0
114	1288	09.02	正応	1	07.28	強風1A・雷1A	暴風雷雨。		8	217	0
115	1288	09.10	正応	1	08.06	大雨1A・暴風1A	大風雨。損人家及禾稼。被行止雨兩社。(後略)		8	217	0
116	1288	11.22	正応	1	10.20	強風1A	(和暦10月21日/グレゴリア暦11月23日)晴。有微雨。[去夜大風云。]		8	220	0
117	1288	12.21	正応	1	11.20		五節參入。[依雨密參五節所云。代始雨儀。治暦例也。]		8	222	0
118	1288	12.23	正応	1	11.22		晴。夜雨。(後略)		8	222	0
119	1289	02.24	正応	2	01.26		政始依雪延引。		8	224	0
120	1289	10.20	正応	2	09.28	長雨2A	被発遣止雨奉幣。使藏人某。[殿上。]		8	229	0
121	1290	03.26	正応	3	02.07	大雨1A	今夜主上自本院御所行幸還宮。雖是雨被用晴義云。		9	236	0
122	1290	09.12	正応	3	08.01		日食。陰雲不見歟。		9	238	0
123	1291	07.12	正応	4	06.08	干ばつ1A	依炎旱為請雨有一日造立薬師仏事。(後略)		9	243	0
124	1291	07.12	正応	4	06.08	干ばつ1A	依炎旱於東寺被行水天供。	原文は「、日とと。」	9	243	0
125	1291	07.19	正応	4	06.15	干ばつ2A	為請雨於興福寺頼寫大般若經供養千僧。此日雨。		9	243	0
126	1292	01.15	正応	4	12.17	雷1A	雷鳴。(中略)依雷雨云。		9	246	0
127	1292	01.23	正応	4	12.25		雪。(後略)		9	247	0
128	1293	07.16	永仁	1	06.04	干ばつ1A	依炎旱被修水天供。(後略)	原文は「、日とと。」	9	256	0
129	1293	08.23	永仁	1	07.13	干ばつ1A・雷1A	公卿勅使參宮日也。有雷雨。今度炎旱事被加御願間。為神応歟云。		9	257	0
130	1293	09.13	永仁	1	08.05	干ばつ3	(前略)改正應為永仁。依天変地震炎旱等。(後略)		9	257	0
131	1294	03.01	永仁	2	01.26		請印政依雨延引。		10	264	0
132	1294	03.05	永仁	2	01.30		請印政[依雨也。]等延引。		10	264	0
133	1294	06.11	永仁	2	05.09		新日吉小五月会依雨延引。		10	268	0
134	1295	04.13	永仁	3	閏02.20		(前略)依雨立蓋覆雨皮。(後略)		10	274	0
135	1295	06.13	永仁	3	04.22	干ばつ2A	可被行祈雨奉幣。而依雨被停之。		10	276	0
136	1295	06.15	永仁	3	04.24	干ばつ2A・ひょう1A	被行祈雨奉幣。上卿中宮大夫。[通重。]向晚雨。或記雨雲云。他所歟。未詳。		10	276	0
137	1295	06.19	永仁	3	04.28	干ばつ2A	被行祈雨奉幣。(後略)		10	276	0
138	1295	06.20	永仁	3	04.29	干ばつ2A	頃日兩度雖被行祈雨奉幣無其驗間。(後略)		10	276	0
139	1295	06.21	永仁	3	05.01		依雨賀茂馬馳延引。又被停水天供。依雨也。		10	276	0
140	1295	08.01	永仁	3	06.12	長雨2A	被行止雨奉幣。(後略)	原文は「、日とと。」	10	277	0
141	1295	08.04	永仁	3	06.15	洪水1A	可有新日吉馬馳。而依雨延引。昨今洪水云。		10	277	0
142	1295	08.04	永仁	3	06.15	長雨2A	重被發遣止雨奉幣使。	原文は「、日とと。」	10	277	0
143	1295	08.06	永仁	3	06.17	大雨1A・洪水1A	依大雨洪水車馬不通。(後略)		10	277	0
144	1295	08.07	永仁	3	06.18	洪水1A	鴨川洪水。出雲路川端小堂道祖神流。又所々築地破壊。		10	277	0
145	1295	08.02-08.08	永仁	3	06.13-06.19	長雨1A	(和暦6月20日/グレゴリア暦8月6日)自去十三日每日雨。而今日晴。		10	277	0
146	1295	09.26	永仁	3	08.09	長雨2A	(和暦8月9日/グレゴリア暦9月26日)可被行止雨奉幣。[自七日雨。]而依晴被停之。		10	278	0
147	1295	09.24-09.26	永仁	3	08.07-08.09		(和暦8月9日/グレゴリア暦9月26日)可被行止雨奉幣。[自七日雨。]而依晴被停之。		10	278	0
148	1295	10.09	永仁	3	08.22	長雨2A	被發遣止雨奉幣使。(後略)		10	279	0
149	1295	11.01	永仁	3	09.16	大雨1A・強風1A	大風雨云。	原文は「、日とと。」	10	280	0
150	1296	12.06	永仁	4	11.03	雷1A	鎌倉大雷電。		10	284	1
151	1297	06.10	永仁	5	05.12	ひょう1A	南都雨雹。圍八寸許。傷草木。		10	286	0
152	1298	09.06	永仁	6	07.22		晴。		10	289	0
153	1298	09.06	永仁	6	07.22		晴。		11	293	0
154	1298	11.25	永仁	6	10.13		晴。		11	296	0
155	1301	02.18	正安	3	01.01		小朝拝等依雨延引。		11	305	0
156	1301	03.09	正安	3	01.21	強風1A	晴。烈風。		12	311	0
157	1301	12.06	正安	3	10.28		晴。		12	317	0
158	1301	12.28	正安	3	11.20		晴。		12	318	0
159	1301	12.30	正安	3	11.22	大雨1A・強風1A	節会。悠紀後烈風雨。(後略)		12	319	0
160	1302	08.10	乾元	1	07.08	大雨1A・暴風1A	大風雨。		12	327	0
161	1302	-	乾元	1	-	干ばつ1C	(乾元元年12月30日)今年炎旱。		12	335	0
162	1303	02.05	嘉元	1	01.10	大雪1A	雨雪。平地一尺余。		13	339	0
163	1303	08.10	嘉元	1	06.19	干ばつ1C	(和暦6月19日/グレゴリア暦8月10日)(前略)今年。被始行臨時祭。(中略)去今年炎旱及変異等事。(後略)		13	343	0
164	1303	01.27-08.21	嘉元	1	春-夏	干ばつ1C	(和暦6月30日)今年春夏間。彗星見。及炎干。		13	343	0
165	1303	08.27	嘉元	1	07.06	干ばつ2A	為祈雨於興福寺被頼寫大般若經。		13	344	0
166	1303	09.03	嘉元	1	07.13	干ばつ1A	依炎旱於興福寺有祈雨御祈。		13	344	0
167	1303	09.24	嘉元	1	08.05	干ばつ3	(前略)依天変(中略)及炎旱。改乾元為嘉元。(後略)		13	344	0

続史愚抄

168	1304	09.25	嘉元	2	08.17	大雨1A・暴風1A	今夜。大和大風雨間。自春日社〔或作山。〕靈火出。 (後略)		13	352	0
169	1306	07.14	徳治	1	05.25	干ばつ2A	為祈雨被供養等身十一面觀音像於興福寺。	原文は「、日と と。」	14	374	0
170	1306	07.19	徳治	1	05.30	干ばつ2A	為祈雨被行水天供。(後略)		14	374	0
171	1306	08.19	徳治	1	07.02	干ばつ2A	為祈雨被行水天供。阿闍梨権僧正公紹。	原文は「、日と と。」	14	375	0
172	1310	01.03	延慶	2	11.24		陰。雖微雨忽晴。		15	400	0
173	1311	01.31	応長	1	01.03		晴。向晩雨。		15	404	0
174	1311	02.02	応長	1	01.05	強風1A	大風。発屋揚砂。		15	404	0
175	1311	05.19	応長	1	04.22		(前略)而依雨延引。(後略)		15	410	0
176	1312	07.06	正和	1	05.23	洪水1A	鴨川洪水。水至六波羅門外。又今出川第門流。人民多溺死。(後略)		15	414	0
177	1313	09.19	正和	2	08.20	干ばつ2A	(前略)次被発遣止雨奉幣使。(後略)		16	421	0
178	1313	09.22	正和	2	08.23	暴風1A	此日。大風。折木発屋。(後略)		16	421	0
179	1313	10.24	正和	2	09.26	洪水1A	院可幸石清水宮。而依洪水被罷之。(後略)		16	422	0
180	1314	02.27	正和	3	02.05		雪。〔三寸可。〕有雪山興。		16	425	0
181	1314	04.16	正和	3	03.23	洪水1A	臨時祭。還立延引。依洪水延引云。		16	426	0
182	1315	05.12	正和	4	04.01		日食。陰雲不見。		16	432	0
183	1315	05.31	正和	4	04.20	雷1A	此日。新院出御間。雷雨甚。天暗如夜云。		16	432	0
184	1315	06.06	正和	4	04.26	干ばつ1A	(和暦4月27日/グレゴリイ暦6月7日)依炎旱自頃日被行水天供。(中略)今夜甘澍下。〔修法七ヶ日之間云。〕		16	432	0
185	1315	07.30	正和	4	06.21	長雨2A	被発遣止雨奉幣於丹生。貴布祢等社。(後略)		16	433	0
186	1318	04.06	文保	2	02.26		陰。自夜半雨。		16	442	0
187	1318	04.06	文保	2	02.26		陰。夜雨。真剋地震。		17	447	0
188	1318	05.08	文保	2	03.29	大雨1A	陰。甚雨。申刻休。		17	448	0
189	1318	08.19	文保	2	07.15	干ばつ2A	被発遣祈雨二社。(後略)		17	449	0
190	1319	08.15	元応	1	07.21		於龜山殿被行孔雀経法。(後略)		17	456	0
191	1319	08.22	元応	1	07.28		龜山殿孔雀経法結願。		17	456	0
192	1319	09.01	元応	1	閏07.09	干ばつ1A	依炎旱於神泉苑有請雨御祈。(後略)		17	456	0
193	1320	x	元亨	2	閏06.01		日食。〔不見云。陰雲歟。〕	閏年ではない。	17	465	0
194	1320	09.25	元亨	2	08.15	暴風1A	鎌倉大風。		17	465	1
195	1320	10.25	元亨	2	09.15		月食。〔不見云。陰雲歟。〕		17	465	0
196	1324	05.18	正中	1	04.17		雨。		18	474	0
197	1324	09.13	正中	1	08.16	暴風1A	大風。外記庁倒。(後略)		18	476	0
198	1325	08.11	正中	2	06.24	洪水1A	大洪水。北白川殊甚。後日此川辺白砂及数十町如吹上浜。人多見物之。	原文は「、日と と。」	18	478	0
199	1331	04.20	元弘	1	03.05		依雨舞楽御覽延引。		18	495	0
200	1332	04.25	正慶	1	03.22		晴時有微雨。		19	504	0
201	1333	04.19	正慶	2	閏02.26	大雨1A・洪水1A	此日後鳥羽院御廟鳴。大雨水。梟首悉流云。		19	509	0
202	1335	08.29	建武	2	08.03	暴風1A	鎌倉大風。大仏殿壊。		20	524	1
203	1338	01.27	建武	4	12.28		晴。		21	540	0
204	1337	07.07- 08.04	暦応	4	06	干ばつ1B	今月大旱云。		21	554	0
205	1343	07.13- 08.16	康永	2	06.13- 07.18	干ばつ1B	(和暦7月19日/グレゴリイ暦8月17日)頃日炎旱。〔自去月十三日不雨。〕此日雨。		21	561	0
206	1344	04.06	康永	3	閏02.14		月食。雖晴不見。		22	566	0
207	1345	08.25	貞和	1	07.19	長雨2A	被発遣止雨奉幣使。上卿中院大納言。		22	573	0
208	1345	11.23	貞和	1	10.21	洪水3	(前略)依天変水害疾病等改康永為貞和。(後略)		22	576	0
209	1346	05.14	貞和	2	04.15	霜1A	隕霜。		22	579	0
210	1346	10.06	貞和	2	09.13	暴風1A	大風。延暦寺堂舎倒。又双岡樹折或顛。		22	582	0
211	1346	10.20	貞和	2	09.27	低温1A	今夜雪積地。秋雪頗稀云。	月日から低温として集計した。	22	582	0
212	1348	07.04	貞和	4	05.17	干ばつ2A	(和暦5月17日/グレゴリイ暦7月4日)被発遣祈雨奉幣。〔或記。今月旱云。〕上卿甘露寺中納言。〔藤長〕		22	593	0
213	1348	06.18- 07.04	貞和	4	05.01- 05.17	干ばつ1B	(和暦5月17日/グレゴリイ暦7月4日)被発遣祈雨奉幣。〔或記。今月旱云。〕上卿甘露寺中納言。〔藤長〕		22	593	0
214	1348	07.15	貞和	4	05.28	洪水1A	洪水。		22	593	0
215	1348	12.08	貞和	4	10.27		陰。有微雨。		22	596	0
216	1348	12.08	貞和	4	10.27		陰。有微雨。		23	599	0
217	1348	12.14	貞和	4	11.04	雷1A	西剋雷高鳴。		23	600	0
218	1348	11.12- 02.15	貞和	4	冬- 01.08	干ばつ1C	(貞和5年1月8日)自舊冬旱越。井水竭。汲河水用之。所々皆同。凡及三十箇日云。		23	603	0
219	1349	07.05	貞和	5	06.11	大雨1A・洪水1A	今夜。洪水。〔自今朝大雨。〕殊大炊御門西洞院辺通路絶云。		23	606	0
220	1349	09.14	貞和	5	07.23	長雨1A	為霖雨御祈於院御所有武徳楽干反。〔翌日雨止云。〕		23	607	0
221	1349	09.26	貞和	5	08.06	暴風1A	大風発屋。		23	608	0
222	1350	03.03	観応	1	01.16	雷1A・ひょう1A	或記。此日。雷鳴雨雹云。		23	611	0
223	1350	04.08	観応	1	02.23	大雨1A	今夜大雨間。五条猪隈辺天雨物如蘇芳貝。〔洪水兆云。〕		23	612	0
224	1350	07.07	観応	1	05.24	暴風1A	大風。		23	614	0
225	1350	07.11	観応	1	05.28	洪水1A	京師大水。		23	614	0
226	1350	12.13	観応	1	11.06	雷1A	雷鳴。		23	617	0

続史愚抄

227	1351	06.03	観応	2	05.01		日食。雨不見。		23	622	0
228	1351	07.07	観応	2	06.06	低温1A	冷氣。如九十月。		23	622	0
229	1352	10.03	正平	7	08.17		雨。		23	633	0
230	1352	10.03	文和	1	08.17	暴風1A	風雨。夜晴。		24	3	0
231	1352	11.16	文和	1	10.01	霜1A	隕霜如雪。		24	4	0
232	1353	04.15	文和	2	03.03	強風1A	有御灯御禊敷云。自夜烈風。凡近年水旱風損年々連続。(後略)		24	8	0
233	1353	05.16	文和	2	04.05	強風1A	大風。真言院倒。		24	8	0
234	1353	09.18	文和	2	08.12		(和曆8月12日/グレゴリヲ曆9月18日)雨。今年旱魃。民間所悦云。		24	10	0
235	1353	-	文和	2	08.12	干ばつ1A	(和曆8月12日/グレゴリヲ曆9月18日)雨。今年旱魃。民間所悦云。		24	10	0
236	1353	10.15	文和	2	09.10	大雨1A・暴風1A	美濃大風雨。(後略)		24	10	1
237	1355	08.05	文和	4	06.19	暴風1A	大風折木発屋。		24	16	0
238	1355	08.13	文和	4	06.27		神泉苑池水半涸。[于時世間頗水多。]	干ばつとの因果關係は不明。	24	16	0
239	1355	09.11	文和	4	07.26	暴風1A	大風壊屋。		24	16	0
240	1356	02.15	延文	1	01.09	強風1A・雷1A	(延文元年1月9日/グレゴリヲ曆1356年2月15日)雷鳴大風。壊牆壁自元日毎日雨雪云。		24	19	0
241	1356	02.07-02.15	延文	1	01.01-01.09	多雪1B	(延文元年1月9日/グレゴリヲ曆1356年2月15日)雷鳴大風。壊牆壁自元日毎日雨雪云。		24	19	0
242	1356	02.24	延文	1	01.15		月食皆既。(中略)雖晴不見。		24	19	0
243	1356	03.27	延文	1	02.17	雷1A	今夜子刻。興福寺東金堂塔為雷火烧亡。余炎及東金堂。		24	20	0
244	1356	09.17	延文	1	08.14	大雨1A・洪水1A・暴風1A	大風雨。官庁四足門倒。広義門院自伏見殿下御所幸上御所。依洪水溢也。宇治橋落。柱流。(中略)其外所々山崩水涌出云。		24	22	0
245	1356	09.23	延文	1	08.20	長雨2A	被発遣止雨奉幣使。(後略)		24	22	0
246	1356	10.22	延文	1	09.20	暴風1A	大風云。		24	22	0
247	1357	-	延文	2	06.06		(延文2年6月6日/グレゴリヲ曆1357年7月1日)去年水害。今年飢饉。(後略)		24	26	0
248	1357	08.12	延文	2	07.18	干ばつ1A	依炎旱被行水天供。阿闍梨無品覺誓法親王。	原文は「、日とと。」	24	26	0
249	1357	08.30	延文	2	閏07.07		雨蝗。		24	26	0
250	1358	05.21	延文	3	04.05	ひょう1A	雨雹。異日有占文。		25	31	0
251	1358	07.15	延文	3	06.01		日食。[依雨不見。]		25	32	0
252	1359	08.25	延文	4	07.23		戌刻。宇治川水忽涸。	干ばつとの因果關係は不明。	25	36	0
253	1359	08.26	延文	4	07.24		今朝。宇治川水復常云。	干ばつとの因果關係は不明。	25	36	0
254	1359	09.01	延文	4	08.01	干ばつ1A	依炎旱被始行水天供。(後略)		25	37	0
255	1359	09.24	延文	4	08.24	干ばつ1A	頃日炎旱。因為請雨御祈於諸社。(後略)	原文は「、日とと。」	25	37	0
256	1361	05.13	康安	1	04.01		日食。陰雲不見。		25	43	0
257	1362	02.16	貞治	1	01.13	雷1A	震東大寺災。		25	45	0
258	1363	08.07	貞治	2	06.19		今夜。当北及丑寅有赤氣。大旱兆歟云。		25	49	0
259	1364	10.27	貞治	3	09.29	長雨2A	此日。可被行止雨奉幣及禪師号宣下而延引。		26	59	0
260	1365	05.19	貞治	4	04.20	霜1A	隕霜。比叡山雨雪云々。		26	60	0
261	1366	07.29	貞治	5	06.13	暴風1A	大風。真言院倒。		26	63	0
262	1366	08.24	貞治	5	07.10	長雨2A	被発遣祈雨二社奉幣使。(後略)		26	63	0
263	1366	08.29	貞治	5	07.15	雷1A	雷落平野社樹。後日社司言之。		26	63	0
264	1367	05.22	貞治	6	04.15	大雨1A	大雨。		26	67	0
265	1368	06.04	応安	1	05.11	ひょう1A	石清水辺雨雹如桃子云。		26	71	0
266	1368	09.28	応安	1	08.08	長雨2A	被発遣止雨奉幣使。(後略)		26	71	0
267	1369	10.11	応安	2	09.02	暴風1A	大風。太政官庁東門及円宗寺[後三条院御建立](中略)等倒。		26	74	0
268	1369	12.29	応安	2	11.22	雷1A	雷鳴。		26	75	0
269	1370	09.13	応安	3	08.15	雷1A	今日未刻。雷落九条前関白[經教]。(後略)		26	77	0
270	1370	09.18	応安	3	08.20	洪水1A・暴風1A	(和曆8月20日/グレゴリヲ曆9月18日)昨今。駿河以東諸国大風損禾稼。相模洪水。漂没飯嶋孤嶋人家三百余宇。		26	78	1
271	1371	04.17	応安	4	03.23		陰。向夜有微雨。戌刻。地震。(後略)		26	81	0
272	1371	04.17	応安	4	03.23		陰。夜有小雨。(後略)		27	85	0
273	1371	06.07	応安	4	04.16	長雨2A	是日。又被発遣止雨奉幣使。		27	86	0
274	1372	06.17	応安	5	05.08	干ばつ2A	被発遣祈雨奉幣使。		27	90	0
275	1372	06.17	応安	5	05.08	ひょう1A	雨雹云。	原文は「、日とと。」	27	90	0
276	1373	04.01	応安	6	03.01		大和記。雨雪。	原文は「、日とと。」	27	93	0
277	1373	06.10	応安	6	05.11	ひょう1A	雨雹如橘子。		27	93	0
278	1373	09.26	応安	6	09.02	暴風1A	大風。[自酉至寅。]土御門里内高倉面棟門。及太政官庁倒。(後略)		27	94	0
279	1375	12.24	永和	1	11.23		晴。		27	108	0
280	1378	09.13	永和	4	08.13	暴風1A	大風折木発屋。春日社大木倒一切経廊上。(後略)		28	120	0
281	1379	02.02-02.03	康暦	1	01.07-01.08	大雨1A	(和曆1月7日)依甚雨及翌日。(後略)		28	122	0

続史愚抄

282	1381	04.16	永徳	1	03.13		可有三席御会而依雨延引。		28	131	0
283	1381	01.26	永徳	1	10.01		日食。〔陰雲不見。曆曰。午未刻当食。〕		28	133	0
284	1382	06.01	永徳	2	04.11		陰。午刻雨。須臾晴。		28	136	0
285	1382	06.01	永徳	2	04.11		須臾晴。		29	140	0
286	1383	02.08	永徳	2	12.28		陰晴。		29	143	0
287	1383	02.26	永徳	3	01.16	大雨1A	(前略)外弁参列間甚雨。而為晴儀云。		29	144	0
288	1385	04.20	至徳	2	03.03		雨雪。		29	151	0
289	1385	06.27	至徳	2	05.11	雷1A	震賀茂太田社辺樹。		29	151	0
290	1386	08.29	至徳	3	07.26	干ばつ1A	依炎旱被行七壇水天供。〔三十日雨。〕		29	153	0
291	1390	08.25	明徳	1	07.07	大雨1A	(和暦7月7日/グレゴリヲ曆8月25日)大雨。此後霽霖及八月。〔或作康徳元年。〕自去年至今月。天下大飢。		29	162	0
292	1390	08.25-10.16	明徳	1	07.07-08	長雨1B	(和暦7月7日/グレゴリヲ曆8月25日)大雨。此後霽霖及八月。〔或作康徳元年。〕自去年至今月。天下大飢。		29	162	0
293	1391	09.12	明徳	2	08.06	干ばつ2A	被発遣祈雨奉幣使。		30	165	0
294	1392	12.04	明徳	3	閏10.13	雷1A・ひょう1A	雷鳴雨雹。		30	168	0
295	1393	07.30	明徳	4	06.13	干ばつ1A	依炎旱沙旬為祈雨被掃除神泉苑。		30	171	0
296	1393	08.10	明徳	4	06.24	干ばつ2A	此日。左大臣〔義満將軍。〕為祈雨以前大僧正道快入仏舎利〔一粒。〕於神泉苑池。忽雨云。		30	171	0
297	1393	08.15	明徳	4	06.29	干ばつ1A	依炎旱被修水天供。		30	171	0
298	1393	07.18-08.16	明徳	4	06-07.01	干ばつ1B	(和暦7月1日/グレゴリヲ曆8月16日)自六月到今月不雨。〔按去月廿四日雨不遍敷。〕	原文は「、日とと。」	30	171	0
299	1393	10.04	明徳	4	08.20	洪水1A	洪水。	原文は「、日とと。」	30	171	0
300	1396	10.28	応永	3	09.18		依雨講堂供養又延引。		30	181	0
301	1397	-	応永	4	-	干ばつ1C	今年。旱損稼。		30	183	0
302	1398	02.14	応永	5	01.19	大雪1A	大雨雪。積地三尺可。民屋及賀茂辺人家等或倒。		30	185	0
303	1398	03.01	応永	5	02.04	強風1A	今夕暴風。倒今宮拜殿。		30	185	0
304	1399	07.28	応永	6	06.17	干ばつ1A	為炎旱祈。(後略)		31	194	0
305	1399	07.29	応永	6	06.18	干ばつ2A	可有祈雨奉幣而依雨延引。		31	194	0
306	1399	08.04	応永	6	06.24	干ばつ2A	被発遣祈雨奉幣使。(後略)		31	195	0
307	1399	08.07	応永	6	06.27		為武家沙汰自今日又行水天供。		31	195	0
308	1399	10.21	応永	6	09.14		為明日晴祈〔依塔供養也。〕		31	196	0
309	1400	04.04	応永	7	03.01		日食。雖晴不見。		31	197	0
310	1400	05.04-06.01	応永	7	04	干ばつ1B	今月。大和旱。		31	198	0
311	1401	02.13	応永	8	01.21		京師井水竭。		31	200	0
312	1401	01.24-05.22	応永	8	01-03	大雪1B	(和暦3月)(今春)徒正月大雨雪云々。〔迎陽記無所見若連日雪敷。〕		31	201	0
313	1401	08.19-09.16	応永	8	07	洪水1B	今月。洪水。		31	202	0
314	1402	07.13	応永	9	06.04	干ばつ1A	有祈雨修法。依大旱也。		31	204	0
315	1402	07.18	応永	9	06.09		於入道雨太政大臣〔義満。〕北山第始行五壇法。(後略)		31	204	0
316	1402	07.24	応永	9	06.15		北山第五壇法結願。		31	204	0
317	1402	05.12-08.07	応永	9	夏	干ばつ1C	有夏旱。		31	206	0
318	1402	08.08-11.04	応永	9	秋	洪水1C・暴風1C	秋風水。		31	206	0
319	1403	07.01	応永	10	06.03	雷1A	今夜震。相国寺大塔災。		31	207	0
320	1405	07.14	応永	12	06.09	洪水1A	京師洪水。祇園社鳥居倒。		31	212	0
321	1406	02.25	応永	13	01.28	雷1A	雷鳴。		32	216	0
322	1406	07.21	応永	13	06.27	ひょう1A	或記。雨雹云。		32	219	0
323	1406	10.15	応永	13	08.24	長雨2A	(前略)次被発遣止雨奉幣。		32	219	0
324	1406	10.15	応永	13	08.24	暴風1A	今夜。大風。〔自丑刻。至卯刻。〕太政官庁悉倒。(後略)		32	219	0
325	1406	10.22	応永	13	09.02	長雨2A	被行止雨御祈。		32	219	0
326	1406	08.23-10.31	応永	13	秋-09.11	長雨1C・暴風1C	(和暦9月11日/グレゴリヲ曆10月31日)例幣。有宣命辭別。〔今秋霽損稼穡。及大風拔木等事。被謝申事。〕		32	220	0
327	1406	-	応永	13	-	干ばつ1C	〔或記。大旱云。京師無所見。他国敷。〕	信憑性が低い?	32	221	1]
328	1407	05.03	応永	14	03.17		北山院可有入内而依雨延引。(後略)		32	222	0
329	1407	07.28	応永	14	06.15	干ばつ2A	被行請雨御祈。(後略)		32	224	0
330	1407	08.07	応永	14	06.25	雷1A	辰刻。無雲雷鳴一声云。		32	224	0
331	1408	04.14	応永	15	03.09		童舞依雨延引。		32	227	0
332	1408	06.13	応永	15	05.10	干ばつ1A	被発遣祈雨奉幣使於丹生貴布祢等社。(中略)而数日猶不雨云。	原文は「、日とと。」	32	230	0
333	1408	08.19	応永	15	07.19	暴風1A	今夜。大風。山科郷辻鳥居倒云。		32	230	0
334	1408	09.03	応永	15	08.04	暴風1A	大風。洛中外舎屋仏閣数万倒。東寺鎮守八幡宮壊。	原文は「、日とと。」	32	230	0
335	1409	05.26	応永	16	04.03	雷1A	此日。雨雹云。〔未詳。〕		32	234	0
336	1410	09.08	応永	17	08.01	暴風1A	大風。堂塔多壊。		32	237	0
337	1411	09.04	応永	18	08.07	洪水1A	(和暦8月7日/グレゴリヲ曆9月4日)昨今。洪水云。	「昨今」からタイムラグが大きい可能性がある。	32	239	0

続史愚抄

338	1412	04.15	応永	19	02.25		(和暦2月27日)(前略)[去廿五日。依雨延引。(後略)]		32	241	0
339	1412	04.20	応永	19	02.30		(前略)一曲後依雨被停之。		32	241	0
340	1413	08.08	応永	20	07.03	暴風1A	東国大風。鎌倉由井浜大鳥居笠木落。		33	249	1
341	1415	07.28	応永	22	06.13	大雨1A・暴風1A	大風雨。	原文は「、日とと。」	33	253	0
342	1415	07.16-08.13	応永	22	06	低温1B	今月。冷氣甚云。		33	253	0
343	1416	02.16	応永	23	01.09	雷1A	雷墮北山。七重大塔災。		33	256	0
344	1419	03.10	応永	26	02.05	強風1A	大風。園韓神社倒。		33	263	0
345	1419	08.30-09.28	応永	26	08	暴風1B・波浪1B	(今月)(前略)九州探題満頼等率兵拒戦。時大風揚逆浪。敵船悉漂没。		33	265	0
346	1420	06.24	応永	27	05.05	干ばつ2A	被発遣祈雨奉幣使。上卿中山大納言。		33	268	0
347	1420	06.25	応永	27	05.06		等持寺八講結願。		33	268	0
348	1420	07.10	応永	27	05.21	干ばつ2A	重被発遣祈雨奉幣使。奉行蔵人頭左中将定親朝臣。		33	268	0
349	1420	07.22	応永	27	06.03	干ばつ2A	被発遣祈雨奉幣使。奉行蔵人頭左中将定親朝臣。		33	269	0
350	1420	08.20	応永	27	07.02	干ばつ2A	為祈雨於神泉苑有孔雀經誦。阿闍利梨僧正禪信。		33	269	0
351	1420	10.26	応永	27	09.10	暴風1A	此日。伊勢大風。内宮破壊由。(後略)		33	270	0
352	1421	05.11-08.07	応永	28	夏	干ばつ1C	今年夏。旱云。		33	273	0
353	1421	10.11	応永	28	09.06	干ばつ2A	為祈雨堀賀茂池泥云。		33	273	0
354	1422	10.09	応永	29	09.15	長雨2A	為明日石清水御幸被発遣祈晴奉幣使。		33	277	0
355	1423	06.26	応永	30	05.09	暴風1A	大風発東寺不開門。(後略)		34	283	0
356	1423	09.07	応永	30	07.23	暴風1A	今暁。大風。春日社東杉樹倒。(後略)		34	284	0
357	1423	09.23	応永	30	08.10	長雨2A・洪水3	依所々洪水被発遣止雨奉幣使。(後略)		34	284	0
358	1423	10.04	応永	30	08.21	長雨2A	重被発遣止雨奉幣使。(後略)		34	284	0
359	1424	04.29	応永	31	03.21		北野一切経会依雨延引。		34	286	0
360	1424	-	応永	31	-	暴風1C	今年。大風。園韓神社倒。		34	289	0
361	1425	01.29	応永	32	01.01	大雨1A	四方拜。依甚雨被停之。院同之。		34	289	0
362	1425	05.21	応永	32	04.24		御八講依雨延引。		34	292	0
363	1425	08.05	応永	32	閏06.12	雷1A	今夜。南禅寺等为雷火焼亡。		34	293	0
364	1425	08.29	応永	32	07.07	大雨1A・暴風1A	院御遊依烈風雨延引。但召覧草花。		34	293	0
365	1425	08.29	応永	32	07.07	洪水1A	此日。有洪水。		34	294	0
366	1426	07.25	応永	33	06.12	長雨2A	被発遣止雨奉幣使。(後略)		34	301	0
367	1426	07.30	応永	33	06.17	長雨2A	重被発遣止雨奉幣使。(後略)		34	301	0
368	1426	09.13	応永	33	08.03	長雨2A	被発遣止雨奉幣使。(後略)		34	302	0
369	1427	05.22	応永	34	04.17	干ばつ2A	被発遣祈雨奉幣使於丹生貴布祢社。(後略)		34	306	0
370	1427	05.25	応永	34	04.20	干ばつ2A	重被発遣祈雨二社奉幣使。(後略)		34	306	0
371	1427	06.07	応永	34	05.04	干ばつ2A	被行祈雨奉幣。(後略)		34	307	0
372	1427	06.10	応永	34	05.07	干ばつ2A	為請雨被掃除神泉苑池。[武家催人夫云。]即雨。		34	307	0
373	1427	06.27	応永	34	05.24	長雨2A	被発遣止雨奉幣使。(後略)		34	307	0
374	1427	10.02	応永	34	09.03	洪水1A	洪水云。		34	308	0
375	1428	07.13	正長	1	05.22	洪水1A	(和暦5月22日/グレゴリヲ曆7月13日)頃日。連々洪水云。	タイムラグが大きい可能性が高い。	34	313	0
376	1428	10.02	正長	1	08.14		月食。雨不見。(後略)		35	319	0
377	1429	07.13	永享	1	06.03	干ばつ2A	被発遣祈雨奉幣使。		35	323	0
378	1429	08.09	永享	1	06.30	干ばつ2A	被発遣祈雨奉幣。上卿親修寺中納言。		35	323	0
379	1429	08.10	永享	1	07.01	干ばつ1A	自武家仰炎早禱於諸門跡。(後略)		35	323	0
380	1430	01.30	永享	1	12.27		晴。[或作陰小雨灑。]		35	326	0
381	1430	09.14	永享	2	08.18	大雨1A・暴風1A	大風雨。太政官庁及諸門倒。		35	328	0
382	1430	09.18	永享	2	08.22	洪水1A	洪水云。		35	328	0
383	1430	09.28	永享	2	09.02	洪水1A	洪水云。		35	328	0
384	1431	12.30	永享	3	11.17		鎮魂祭。[依雨於神祇官北門下有之云。]		35	333	0
385	1432	01.26	永享	3	12.14		月食。依雪不見。		35	333	0
386	1432	07.15	永享	4	06.09	干ばつ2A	為祈雨自今日三箇日掃除神泉苑池。		35	334	0
387	1433	05.28	永享	5	05.01	干ばつ2A	被発遣祈雨奉幣使。(後略)		35	339	0
388	1433	06.05	永享	5	05.09	干ばつ1A	自武家令行炎早禱于諸門跡。奉行日野中納言。[兼郷。]		35	339	0
389	1433	06.08	永享	5	05.12	干ばつ1A	(和暦5月12日)依炎早掃除神泉苑池。[翌日大雨		35	339	0
390	1433	10.08	永享	5	08.16		駒牽。[依雨於月花門下有之。]		35	340	0
391	1434	07.16	永享	6	06.01	干ばつ1A	依炎早除神泉苑池泥。		35	343	0
392	1435	08.16	永享	7	07.13	大雨1A・暴風1A	烈風雨。		35	346	0
393	1436	06.21	永享	8	05.28	干ばつ2A	為請雨自今日三箇日除神泉苑池泥。		35	347	0
394	1436	06.22	永享	8	05.29	ひょう1A	雨雹。大如梅子。		35	347	0
395	1436	07.20	永享	8	閏05.27	干ばつ2A	(閏5月27日)為祈雨重掃除神泉苑池。[自今日三ヶ日。]		35	347	0
396	1436	07.30-08.04	永享	8	06.08-06.13	干ばつ1A	(和暦6月8日)依炎早又始神泉苑池掃除。[至十三日。]		35	347	0
397	1436	08.05	永享	8	06.14	大雨1A・雷1A	暴雨雷落東寺五重乾角。(後略)		35	347	0
398	1436	08.21-08.23	永享	8	06.30-07.02	干ばつ1A	(和暦6月30日/グレゴリヲ曆8月21日)重又掃除神泉苑池。[自今日三箇日。]今年炎早故也。		35	347	0
399	1436	08.25-08.29	永享	8	07.04-07.08	大雨1A・洪水1A	(和暦7月8日/グレゴリヲ曆8月29日)自去四日至今日。大雨。洪水。四条五条橋及桂橋等流。		35	347	0

続史愚抄

400	1439	02.23	永享	11	閏01.01	大雪1A	大雨雪云。非京師歟。	原文は「、日とと。」	36	355	1]
401	1439	08.14	永享	11	06.26	干ばつ2A	被発遣祈雨奉幣使。(後略)		36	357	0
402	1439	-	永享	11	-	洪水1C	今年。洪水及度々云。		36	358	0
403	1440	08.05	永享	12	06.28	干ばつ2A	為請雨掃除神泉苑池。		36	360	0
404	1440	09.19	永享	12	08.14	暴風1A	大風云。		36	361	0
405	1441	06.18	嘉吉	1	05.20	洪水1A	鴨川洪水。四条五条橋流。		36	364	0
406	1441	06.24	嘉吉	1	05.26	長雨2A	被発遣止雨二社〔丹生貴布祢〕。(後略)		36	364	0
407	1441	07.03	嘉吉	1	06.06	ひょう1A	雨雹。壊牆壁。		36	364	0
408	1442	12.26	嘉吉	2	11.15		今夜。月食。雨不見。		36	371	0
409	1443	06.15	嘉吉	3	05.09	干ばつ2A	被発遣祈雨奉幣。(後略)		36	373	0
410	1443	06.26	嘉吉	3	05.20	長雨2A	被発遣止雨奉幣。(後略)		36	373	0
411	1443	06.26	嘉吉	3	05.20	洪水1A	大洪水。		36	373	0
412	1443	06.28	嘉吉	3	06.22	暴風1A	今夜。大風。壊牆壁。		36	374	0
413	1444	03.30	文安	1	03.02		雨穀。(後略)		37	380	0
414	1444	04.01	文安	1	03.04		又雨穀。(後略)		37	380	0
415	1444	05.06	文安	1	04.10	ひょう1A	或記。雨雹。大如棗云。		37	381	0
416	1445	05.10	文安	2	03.24		有雨水云。	原文は「、日とと。」大雨・洪水の可能性あり。	37	385	0
417	1445	07.10	文安	2	05.26	干ばつ2A	被発遣祈雨奉幣使。(後略)		37	385	0
418	1445	07.15	文安	2	06.02	暴風1A	大風倒屋。賀茂別雷社殊損由。(後略)		37	385	0
419	1445	08.04	文安	2	06.22	雷1A	雷墮左大臣〔房嗣。〕家門。		37	385	0
420	1447	07.10	文安	4	05.18	干ばつ1A	依炎旱為請雨自武家又令掃除神泉苑池云。〔已前掃除月日欠。〕		37	390	0
421	1448	08.27	文安	5	07.19	洪水1A	大洪水。		37	395	0
422	1449	02.18	宝徳	1	01.16	強風1A	或記。有大風云。	原文は「、日とと。」	37	397	0
423	1449	03.04	宝徳	1	02.01		日食。陰雲不見。(後略)		37	397	0
424	1449	03.24	宝徳	1	02.21	洪水1A	或記。有洪水云。		37	397	0
425	1449	06.28	宝徳	1	05.29	長雨2A	被発遣止雨奉幣使。		37	398	0
426	1449	07.17	宝徳	1	06.18	長雨2A	被発遣止雨奉幣使。		37	399	0
427	1449	08.25	宝徳	1	07.28	洪水3	(和暦7月28日/グレゴリヲ曆8月25日)(前略)依洪水地震疾疫等事改文安為宝徳。(後略)		37	399	0
428	1450	06.27	宝徳	2	05.09	長雨2A	此日。被発遣止雨奉幣。(後略)		37	403	0
429	1450	08.06	宝徳	2	06.20	干ばつ2A	被発遣祈雨奉幣。(後略)		37	404	0
430	1450	08.17	宝徳	2	07.01	暴風1A	烈風。折樹枝。此日。周防長門大風。壊城柳人家。害草木禾稼云。		37	404	0
431	1450	09.01	宝徳	2	07.16	大雨1A	越後大雨。(後略)		37	404	1
432	1451	07.08	宝徳	3	06.01	干ばつ2A	被発遣祈雨奉幣。	原文は「、日とと。」	37	407	0
433	1451	08.24	宝徳	3	07.19	雷1A	雷墮東大寺南大門。(後略)		37	407	0
434	1451	09.20	宝徳	3	08.16	長雨2A	次被発遣止雨奉幣使。(後略)		37	407	0
435	1451	09.30	宝徳	3	08.26	長雨2A	又被発遣止雨奉幣。(後略)		37	407	0
436	1452	06.02	享徳	1	05.06	干ばつ2A	発遣祈雨二社奉幣使。(後略)		38	413	0
437	1452	06.21	享徳	1	05.25	長雨2A	発遣止雨奉幣使。上卿久我大納言〔通尚。〕		38	413	0
438	1452	09.18	享徳	1	08.26	長雨2A	被発遣止雨奉幣。(後略)		38	414	0
439	1453	09.09	享徳	2	07.27	長雨2A	被発遣止雨奉幣使。(後略)		38	418	0
440	1453	09.12-10.11	享徳	2	08	暴風1B	(和暦9月5日)去月内宮〔別宮〕。風宮倒。(後略)		38	419	0
441	1456	02.04	康正	1	12.19	大雪1A	雨雪。平地一尺。		38	425	0
442	1456	09.06	康正	2	07.27	雷1A	雷電。洛中震所十三所云。		38	427	0
443	1457	06.15	長祿	1	05.14	干ばつ2A	被発遣祈雨奉幣使。		38	429	0
444	1457	08.19	長祿	1	07.20	干ばつ1A	依炎旱被行祈雨奉幣。(後略)		38	429	0
445	1457	09.05	長祿	1	08.08	干ばつ2A	為請雨御祈依延文四年例(後略)		38	430	0
446	1457	09.08	長祿	1	08.11	干ばつ2A	被発遣祈雨奉幣。(後略)		38	430	0
447	1459	10.15	長祿	3	09.10	大雨1A・洪水1A・暴風1A	大風雨。倒厦屋。洪水。		38	436	0
448	1460	07.06	寛正	1	06.09	長雨2A	(和暦6月9日/グレゴリヲ曆7月6日)被仰止雨御祈。〔諸社寺歟。〕自三月十五日四十日可雨云。〔日件録。今月十八日記。凡百ヶ日雨云。〕		38	437	0
449	1460	04.15-07.06	寛正	1	03.15-06.09	長雨1B	(和暦6月9日/グレゴリヲ曆7月6日)被仰止雨御祈。〔諸社寺歟。〕自三月十五日四十日可雨云。〔日件録。今月十八日記。凡百ヶ日雨云。〕		38	437	0
450	1460	07.12	寛正	1	06.15	長雨2A	為止雨御祈軼諱仁王經於東寺講堂。〔七ヶ日歟。〕		38	437	0
451	1460	07.15	寛正	1	06.18	長雨1A	鹿苑院中明堂崩。百日雨及今日小地震故云。		38	437	0
452	1461	02.10	寛正	1	12.21	干ばつ3	(寛正元年12月21日/グレゴリヲ曆1461年2月10日)(前略)依天下飢饉大旱兵革等事。改長祿為寛正。(後略)		38	438	0
453	1460	-	寛正	1	-	干ばつ1C	今年。饑饉炎旱。		38	438	0
454	1465	09.14	寛正	6	08.15	大雨1A・洪水1A・暴風1A	此日。大風雨。破稻荷旅所御輿屋。洪水云。		39	449	0
455	1468	02.17	応仁	2	01.15	大雪1A	大雨雪云。		39	460	0
456	1468	08.23	応仁	2	07.26	洪水1A・暴風1A	大風洪水。〔或作二十日。〕		39	461	0
457	1468	08.30	応仁	2	08.04	暴風1A	此日。鎌倉大風。折木発屋。寿福寺等倒。		39	461	1
458	1470	11.04	文明	2	10.03	雷1A	相国寺七重等(中略)。為雷火烧亡。		39	464	0

続史愚抄

459	1470	12.17	文明	2	11.16		当月食。而雖晴不見。		39	464	0
460	1471	06.27-08.05	文明	3	05.30-07.10	干ばつ1B	(和暦7月10日/グレゴリイ暦8月5日)頃日。炎旱。〔自五月三十日不雨歟。〕		39	468	0
461	1471	09.23	文明	3	08.30	長雨2A	被仰止雨祈事於賀茂貴布祢等社。(後略)		39	469	0
462	1471	09.17-09.27	文明	3	08.24-閏08.04	長雨1B	(閏8月5日)自去月廿四日至昨。毎日雨。		39	469	0
463	1472	06.16	文明	4	05.01	干ばつ1A	(和暦5月1日/グレゴリイ暦6月16日)頃日炎旱。〔自二月廿七日不雨歟。不記。〕		39	471	0
464	1472	04.14-06.16	文明	4	02.27-05.01	干ばつ1B	(和暦5月1日/グレゴリイ暦6月16日)頃日炎旱。〔自二月廿七日不雨歟。不記。〕		39	471	0
465	1472	07.08	文明	4	05.23	干ばつ2A	山門僧徒於日吉社為請雨有仁王講云。		39	471	0
466	1472	06.30-07.19	文明	4	05.15-06.05	干ばつ1B	(和暦6月5日)自去月十五日不雨。(後略)		39	471	0
467	1474	07.23	文明	6	06.01	干ばつ1A	依炎旱被仰祈雨御祈於諸寺。(後略)		40	477	0
468	1475	04.04	文明	7	02.19	大雨1A・強風1A	今夜。暴風雨間。自北野旅所有光飛于本社云。		40	480	0
469	1475	05.04	文明	7	03.20	ひょう1A	此日雨雹。		40	480	0
470	1475	05.12	文明	7	03.28	強風1A・ひょう1A	大風発屋。雨雹。諸国凡同。		40	480	0
471	1475	07.06-07.07	文明	7	05.24-05.27	大雨1A・洪水1A	(和暦5月27日)京師洪水。〔自廿四日雨不休云。〕東西陣中如大河。(中略)近江山崩云。大水及諸国歟。		40	481	0
472	1475	09.15	文明	7	08.06	暴風1A	大風。倒屋。(中略)摂津尼崎波濤陸云。(後略)		40	481	0
473	1476	01.06	文明	7	12.01	高温1A	頃日。和暖如春。		40	482	0
474	1476	02.22	文明	8	01.18	大雪1A	雨雪。平地一尺。		40	483	0
475	1476	03.29	文明	8	02.25	雷1A	雷落平野社。		40	483	0
476	1477	02.08	文明	9	01.16	強風1A	暴風。仮皇居所々破損。		40	487	0
477	1477	06.27	文明	9	05.08	洪水1A	昨今。洪水。		40	488	0
478	1477	09.14	文明	9	07.28		或記。雨亦雪于北陸厚一寸云。	原文は「、日とと。」	40	488	0
479	1478	06.11	文明	10	05.02		此日。有賀茂競馬足調。昨依雨延引。		40	490	0
480	1478	06.08-06.25	文明	10	04.28-05.16	長雨1B・洪水1B	(和暦5月17日)自去月廿八日霪雨至昨。〔但十一日不雨。〕所々洪水云。		40	490	0
481	1480	02.26	文明	12	01.07	大雨1A・雷1A	向夜雷鳴暴雨。		40	495	0
482	1480	03.08	文明	12	01.18	雷1A	雷鳴。		40	495	0
483	1480	03.31	文明	12	02.11	強風1A	大風発屋。(後略)		40	495	0
484	1480	05.14	文明	12	04.26	強風1A	颶風破舎屋。		40	496	0
485	1481	01.20	文明	12	12.11	大雪1A	雨雪。平地一尺。		40	497	0
486	1484	02.06	文明	16	01.01	大雪1A	今夜。雨雪。平地一尺余。		41	508	0
487	1485	02.03	文明	17	01.09	大雪1A	雨雪。平地一尺余。		41	510	0
488	1486	02.25	文明	18	01.12	大雨1A・雷1A	雷鳴暴雨。		41	512	0
489	1486	03.12	文明	18	01.27	大雪1A	雨雪。平地一尺。		41	512	0
490	1487	05.17	長享	1	04.15	ひょう1A	雨雹。召占文云。		41	515	0
491	1487	05.18	長享	1	04.16	ひょう1A	又雨雹。		41	515	0
492	1487	07.26	長享	1	06.27	大雨1A・洪水1A	大雨。〔古老云。五六十年無如斯雨。〕所々洪水。		41	515	0
493	1488	03.05	長享	2	01.13	大雪1A	雨雪。平地一尺。		41	517	0
494	1488	12.30	長享	2	11.19	大雪1A	雨雪。平地一尺。		41	520	0
495	1489	02.05	長享	2	12.26	大雪1A	雨雪。平地一尺余。〔近年無如斯雪云。〕		41	520	0
496	1489	04.29	延徳	1	03.20		雨泥于北陸云。		41	521	1
497	1489	07.17	延徳	1	06.10	雷1A	雷墮関白〔冬良〕。(後略)		41	522	0
498	1489	05.04	延徳	1	03.25		(和暦10月16日)(前略)去三月廿五日夜。黒雲八片靡降于斎場(後略)	原文は「、日とと。」	41	523	0
499	1490	09.18	延徳	2	08.25	暴風1A	大風発屋。	原文は「、日とと。」	41	526	0
500	1490	11.17	延徳	2	09.26		雨雪。平地厚一寸。〔文暦二年按四月歟。(後略)〕		41	526	0
501	1490	11.21	延徳	2	09.30	あられ1A	雨霰。		41	526	0
502	1492	01.25	延徳	3	12.17	大雪1A	雨雪。平地一尺。		41	529	0
503	1492	02.01	延徳	3	12.24	雷1A	雷鳴。		41	529	0
504	1492	07.02	明応	1	05.29	大雨1A・洪水1A	大雨。洪水。相国寺大徳院門築地破壊云。		42	533	0
505	1492	12.06	明応	1	11.08	雷1A	雷鳴。		42	534	0
506	1494	02.15	明応	3	01.01		小朝拝依雨被停之。		42	539	0
507	1494	08.19	明応	3	07.10	干ばつ1A	依炎旱被行祈雨奉幣。(後略)		42	541	0
508	1494	09.01	明応	3	07.23	干ばつ1A	(和暦7月23日/グレゴリイ暦9月1日)炎旱甚。〔自六月二日不雨至廿九日。其後又不雨云。〕		42	541	0
509	1494	07.13-09.01	明応	3	06.02-07.23	干ばつ1B	(和暦7月23日/グレゴリイ暦9月1日)炎旱甚。〔自六月二日不雨至廿九日。其後又不雨云。〕		42	541	0
510	1496	06.20	明応	5	05.01	干ばつ1A	依炎旱雖可被行祈雨奉幣。(後略)	原文は「、日とと。」	42	544	0
511	1496	06.26	明応	5	05.07	干ばつ1A	被仰炎旱御祈於諸社寺。奉行蔵人右少弁尚頭。		42	544	0
512	1499	05.06	明応	8	03.17	ひょう1A	越国大雨雹。〔或作前年。諺歟。〕	原文は「、日とと。」	42	551	1
513	1499	06.28	明応	8	05.11	ひょう1A	南都記。雨雹云。		42	551	0
514	1500	06.24	明応	9	05.18	干ばつ2A	今日於諸社有祈雨及病事御祈。(後略)		42	553	0
515	1500	10.05	明応	9	09.02	暴風1A	大風。発廬舎。(後略)		42	553	0
516	1501	02.10	文亀	1	01.13	大雪1A	雨雪。平地一尺。		43	558	0
517	1501	03.31	文亀	1	03.03	低温1A	余寒尤甚。(後略)		43	559	0
518	1501	05.18	文亀	1	04.21	ひょう1A	雨雹。如胡桃。(後略)		43	559	0
519	1501	07.14	文亀	1	06.19	暴風1A	大風。発屋。		43	560	0

続史愚抄

520	1501	09.18	文亀	1	07.26	干ばつ1A	依炎旱被仰祈雨御祈於神宮。〔他社又同被仰敷。〕		43	560	0
521	1502	10.09	文亀	2	08.29		雨水。	大雨・洪水の可能性あり。	43	563	0
522	1503	07.12	文亀	3	06.09	干ばつ2A	頃日已来。於諸社有請雨御祈。此日結願。(後略)		43	564	0
523	1503	08.01	文亀	3	06.29	干ばつ1A	炎旱甚云。		43	564	0
524	1504	01.31	永正	1	01.04	大雪1A	雨雪。平地一尺。		43	565	0
525	1504	04.03	永正	1	03.08	低温1A	雨雪。	月日から低温として集計した。	43	566	0
526	1504	04.05	永正	1	03.10	低温1A	又雨雪。	月日から低温として集計した。	43	566	0
527	1504	05.15	永正	1	閏03.21	霜1A	隕霜。		43	566	0
528	1505	03.15	永正	2	01.30	雷1A	雷墮下京法華堂。		43	568	0
529	1507	12.23	永正	4	11.10	雷1A	雷鳴。		43	575	0
530	1512	01.29-04.25	永正	9	春	強風1C	今年春。相模大風。関東大饑。		44	586	1
531	1513	12.26	永正	10	11.09		昼晦雨灰云。	原文は「、日とと。」	44	588	0
532	1514	10.28	永正	11	10.01		雨灰云。		44	589	0
533	1516	05.22	永正	13	04.11	ひょう1A	雨雹。大如梅子。殺水禽。		44	591	0
534	1517	02.05	永正	14	12.15	大雪1A	雨雪。平地一尺。		44	595	0
535	1518	02.28	永正	15	01.09	雷1A	雷鳴。		45	598	0
536	1518	03.09	永正	15	01.18		三穰打依雨延引。		45	598	0
537	1518	09.22	永正	15	08.08	長雨2A	此日。被仰止雨御祈於神宮。		45	600	0
538	1519	10.04	永正	16	09.01	干ばつ1A	大風。倒上醍醐木云。		45	602	0
539	1525	04.03	大永	5	03.01		昨今。雨雪。		45	615	0
540	1525	12.05	大永	5	11.11	強風1A	大風。壞廬舎。		45	617	0
541	1526	06.19	大永	6	04.29		陰雨交。(後略)		46	622	0
542	1528	02.03	享祿	1	01.03	大雪1A	雨雪。平地一尺。		46	628	0
543	1528	07.29	享祿	1	07.03	干ばつ1A	依炎早仰請雨御祈於諸寺。奉行蔵人右中弁兼秀。		46	630	0
544	1528	08.24	享祿	1	07.29	干ばつ1A	(和暦7月29日)炎旱甚。〔凡三四十日不雨云。〕(後略)		46	630	0
545	1528	12.01	享祿	1	10.10	ひょう1A	雨雹。如梅子。(後略)		46	631	0
546	1529	01.23	享祿	1	12.04	低温1A	(享祿元年12月4日/グレゴリヲ曆1529年1月23日)今年小寒中嚴寒。五十年来未有如斯。雖日中硯水氷下不解。近江湖辺六七町氷。宇治川氷閉云。〔大寒後和暖云。〕		46	631	0
547	1529	08.19	享祿	2	07.06	干ばつ1A	依旱仰請雨御祈於諸社寺。		46	632	0
548	1530	07.15	享祿	3	06.11	洪水1A	賀茂川洪水。〔東堤潰。水浸聖門師村。又東寺辺無通路云。〕		46	634	0
549	1531	02.05	享祿	4	01.08	大雪1A	雨雪。平地一尺。		46	635	0
550	1532	07.10	天文	1	05.27	雷1A	雷墮清水寺。滝水大涌出。巡礼堂倒。廻廊流。籠人流没。		46	638	0
551	1533	01.06	天文	1	12.01	高温1A	頃日。和暖如春。〔今年兩朝有氷。一朝雪如霜耳云。〕		46	639	0
552	1534	09.20	天文	3	08.03	大雨1A・洪水1A・暴風1A	大風雨。壞廬舎。洪水。		46	643	0
553	1534	09.27	天文	3	08.10	大雨1A・洪水1A	大雨洪水。		46	643	0
554	1535	02.26	天文	4	01.14	強風1A・雷1A	此日。暴風雷雨。(後略)		47	646	0
555	1535	03.18	天文	4	02.05	強風1A	今夜。大風。壞廬舎。又日華門及堂廊等倒。〔或作六日夜。〕		47	646	0
556	1535	03.25	天文	4	02.12	洪水1A	美濃大洪水。流人家万余。溺死者二万余云。		47	647	1
557	1535	04.06	天文	4	03.24		頃日夕日赤。〔早兆云。否。〕		47	647	0
558	1539	07.26	天文	8	閏06.01		雨水。	大雨・洪水の可能性あり。原文は「、日とと。」	47	655	0
559	1539	10.09	天文	8	08.17	大雨1A・洪水1A	大雨水。今秋蟲害禾稼。		47	655	0
560	1540	09.21	天文	9	08.11	大雨1A・洪水1A	大風。		47	656	0
561	1541	09.11	天文	10	08.11	暴風1A	大風。壞廬舎倒木。(中略)大財川及瀬多等依揚水波人步涉。古来未曾有云。		47	658	0
562	1544	08.07	天文	13	07.09	大雨1A・洪水1A	大雨。京師大洪水。如行船於陸地。(中略)撰津大水。人家大流亡。(後略)		47	664	0
563	1545	03.01	天文	14	01.08	雷1A	雷鳴。		47	665	0
564	1545	07.04	天文	14	05.16		月食。〔依雨不見云。〕		47	666	0
565	1545	09.06	天文	14	07.20	暴風1A	颶風。壞右大弁宰相〔宣信〕。(後略)		47	667	0
566	1546	04.14	天文	15	03.04	大雨1A・強風1A	(前略)〔今夜風雨甚。因及遅々云。〕		48	670	0
567	1546	09.27	天文	15	08.23		黄雲見。(後略)		48	671	0
568	1549	05.10	天文	18	04.03		撰津記。今夕。旗雲滿天云。		48	676	0
569	1550	09.09	天文	19	07.18	暴風1A	此日。暴風。壞議定所西壁及所々。		48	678	0
570	1550	09.24	天文	19	08.04	洪水1A	大洪水。〔或作二日。〕		48	678	0
571	1555	07.12	弘治	1	06.14	暴風1A	大風云。	原文は「、日とと。」	48	686	0
572	1555	09.14	弘治	1	08.19	暴風1A	大風。折木発屋或倒。及堂舎等多破壊。		48	686	0
573	1557	07.02-09.11	弘治	3	05.26-08.09	干ばつ1B	(和暦8月9日/グレゴリヲ曆9月11日)炎旱。自去五月廿六日至今日。不雨。今年饑。		48	688	0
574	1557	09.28	弘治	3	08.26	大雨1A・洪水1A・暴風1A	大風雨。倒廬舎及堂抜木。東寺塔傾。亦洪水。撰津殊甚。文明七年後大風云。		48	688	0

統史愚抄

575	1558	08.24	永祿	1	07.01	ひょう1A	西岡山崎辺雨雹。〔大雹云。〕		49	694	0
576	1558	09.30	永祿	1	08.09		山中雨雪云。〔按鞍馬貴布祢辺歟。〕		49	695	0
577	1558	-	永祿	1	-	干ばつ1C	今年大旱。		49	695	0
578	1559	07.15	永祿	2	06.01	干ばつ1A	依炎旱仰御禱於諸寺。		49	696	0
579	1559	11.25	永祿	2	10.16	雷1A	雷電。		49	697	0
580	1559	11.28	永祿	2	10.19	雷1A	又雷電。		49	697	0
581	1560	01.14	永祿	2	12.07	雷1A	雷電。如盛夏云。		49	697	0
582	1560	01.18	永祿	2	12.11		此日。可有発遣而依雨延引。		49	697	0
583	1560	01.20	永祿	2	12.13	大雪1A	雨雪。平地九寸可。凡二十余年無如斯深雪云。		49	697	0
584	1560	02.07	永祿	3	01.01		辰剋。虹見戌方。		49	697	0
585	1560	06.22	永祿	3	05.19	大雨1A・暴風1A	(前略)信長侵風雨経閉路。(後略)	桶狭間の戦い。	49	699	1
586	1560	07.02	永祿	3	05.29	干ばつ1A	依炎旱涉旬被仰御祈。〔諸社寺歟。〕		49	699	0
587	1560	09.14	永祿	3	08.14	暴風1A	大風云。	原文は「、日とと。」	49	699	0
588	1563	05.04	永祿	6	04.02	雷1A	今曉。雷墮東寺塔災。(後略)		49	702	0
589	1564	05.06	永祿	7	03.16	ひょう1A	雨雹。〔大雹云。〕		49	704	0
590	1564	05.21	永祿	7	04.01	ひょう1A	雨雹。〔大雹云。〕		49	705	0
591	1564	08.14-08.18	永祿	7	06.27-07.02	長雨1A・大雨1A・洪水1A	(和暦7月2日)依連日大雨〔自去月廿七日〕。東西河洪水。小川舟辺壞人家。又東寺塔材木漂來東寺云。	連続5日間であり、長雨としても集計した。	49	705	0
592	1566	07.05	永祿	9	06.08	霜1A	隕霜。又天下饑。人相枕。		49	708	0
593	1571	09.07	元龜	2	08.08	暴風1A	大風云。		50	718	0
594	1573	10.05	天正	1	08.29	暴風1A	昨今。大風。〔今夜殊甚。〕板木倒屋。		50	721	0
595	1577	08.02	天正	5	07.08	暴風1A	大風云。		50	727	0
596	1578	06.27	天正	6	05.12	大雨1A・洪水1A	大雨水。		50	729	0
597	1582	03.18	天正	10	02.14		夜。有赤氣。滿北天。〔或作正月十五日。諺矣。〕		50	733	0
598	1583	09.17	天正	11	08.02	暴風1A	大風。発屋。		50	736	0
599	1587	03.04	天正	15	01.25		夜。有赤氣。滿北天。		51	743	0
600	1588	05.14	天正	16	04.19	大雨1A・洪水1A	(和暦4月20日)昨。大雨。因大井川鴨川絶渡口		51	746	0
601	1591	08.17	天正	19	06.28	ひょう1A	雨雹。如瓜云。		51	750	0
602	1591	08.31	天正	19	07.13	ひょう1A	大雨雹。一時許降云。		51	750	0
603	1590	-	天正	19	09.01	暴風1C	(天正19年9月1日/1591年10月18日)(前略)近江辛崎松。是先年大風時。古松倒故云。	原文は「、日とと。」	51	750	1
604	1595	09.13	文祿	4	08.10	大雨1A・洪水1A	大雨水。		51	757	0
605	1596	05.03	慶長	1	04.06		雨雪云。	原文は「、日とと。」	51	758	0
606	1596	07.22	慶長	1	06.27		天下大霾。〔如塵如灰物降云。〕		51	759	0
607	1596	09.04	慶長	1	閏07.12		京畿関東及諸国雨毛。長四五寸。	原文は「、日とと。」	51	759	0
608	1596	09.23	慶長	1	08.02	大雨1A	大雨。地震數度。		51	759	0
609	1596	09.26	慶長	1	08.05	暴風1A	大風。〔人民恐怖云。〕		51	759	0
610	1596	10.15	慶長	1	08.24	強風1A・雷1A	風雷雨。地震度々。		51	759	0
611	1606	-	慶長	11	-		今年。天下竹結実。而自枯。		52	779	0
612	1607	09.08	慶長	12	07.17	干ばつ1A	為炎旱御祈〔於内侍所歟〕。有青海波百反及太平洋。		52	780	0
613	1608	07.12	慶長	13	06.01	干ばつ2A	(前略)祈雨奉賽云。		52	781	0
614	1608	08.04	慶長	13	06.24	暴風1A	南都記曰。頃日十余日。大風不休。古来未曾有云。		52	781	0
615	1609	09.08	慶長	14	08.10	暴風1A	大風云。		52	783	0
616	1610	09.08	慶長	15	07.21	暴風1A	大風。南都記。倒春日社辺及山林等木壞廬舎。(後略)		52	785	0
617	1612	05.24	慶長	17	04.24	ひょう1A	雨雹。		53	5	0
618	1614	06.08	慶長	19	05.01	大雨1A・洪水1A	京畿大雨洪水。鴨川堤切。民屋漂流。及近江瀬田橋南頭傾墜。	原文は「、日とと。」	53	9	0
619	1614	05.31-07.10	慶長	19	04.23-06.04	長雨1B・洪水1B	(和暦6月4日/西暦7月10日)駿河記。自去四月廿三日霪霖至今日。諸国洪水。田畠潰流。		53	9	1
620	1614	07.28	慶長	19	06.22	雷1A	(前略)雷電云。		53	9	0
621	1614	08.17	慶長	19	07.12	洪水1A	多武峯墓山崩。大水湧出。(後略)	原文は「、日とと。」	53	9	0
622	1614	10.01	慶長	19	08.28	大雨1A・洪水1A	当国及河内近江等大雨水。民屋漂流。武蔵大風。壞廬舎及等婆。〔古今未曾有風云。〕		53	10	0
623	1614	10.01	慶長	19	08.28	暴風1A	当国及河内近江等大雨水。民屋漂流。武蔵大風。壞廬舎及等婆。〔古今未曾有風云。〕		53	10	1
624	1615	11.13	元和	1	09.22	低温1A	暴寒。雨雪。		53	13	0
625	1617	06.04	元和	3	05.01	ひょう1A	雨雹。如栗云。		53	16	0
626	1617	10.06	元和	3	09.07	暴風1A	大風。壞廬舎。		53	17	0
627	1618	07.22	元和	4	06.01		日食。〔陰雲不見云。〕		53	19	0
628	1619	09.17	元和	5	08.10	暴風1A	大風壞舎屋。		53	21	0
629	1621	02.23	元和	7	01.02		依雪被停小朝拜。		54	25	0
630	1626	07.14	寛永	3	05.21	干ばつ1A	炎旱甚。(後略)		54	37	0
631	1626	07.18	寛永	3	05.25	干ばつ2A	蔵人左少弁時長為勅使向御靈社。仰祈雨御祈于社司。別儀歟。		54	37	0
632	1626	08.20-09.02	寛永	3	06.29-07.12	干ばつ1B	(和暦7月12日/西暦9月2日)頃日。炎旱尤甚。〔去月十九日後不雨。〕〔中略〕〔十三日雨。〕		54	37	0
633	1628	07.16	寛永	5	06.15		月食。〔酉戌刻。依雨不見云。〕		54	44	0
634	1628	11.11	寛永	5	10.16	ひょう1A	雨雹。(後略)		54	44	0

続史愚抄

635	1630	07.29	寛永	7	06.20	洪水1A	賀茂川洪水。三条橋石柱拔出云。		55	52	0
636	1631	04.11	寛永	8	03.10		雨灰。〔或記。如雪云。〕		55	54	0
637	1631	05.02	寛永	8	04.01	ひょう1A	甲斐連日大雨雹殺禽獸。荷擔猷閑東云。	原文は「、日とと。」	55	54	1
638	1631	05.17-05.22	寛永	8	04.16-04.21		(和暦4月21日)自去十六日至今日日赤。〔或作店赤如赫云。〕		55	54	0
639	1631	10.13	寛永	8	09.18	暴風1A	大風。抜木壞廬舍。平野小社倒。〔三十年来無如斯風云。〕		55	55	0
640	1632	08.16-02.08	寛永	9	秋-冬		今年秋冬之間。日月俱有赤氣。		55	58	0
641	1633	05.20	寛永	10	04.13	ひょう1A	大雨雹。〔埋地。大雹云。〕		55	59	0
642	1633	07.04	寛永	10	05.28	大雨1A・洪水1A	(和暦5月28日/西暦7月4日)雨水。江湖水増一丈二尺余。去今月洪水云。		55	59	0
643	1633	05.08-07.04	寛永	10	04-05.28	洪水1B	(和暦5月28日/西暦7月4日)雨水。江湖水増一丈二尺余。去今月洪水云。		55	59	0
644	1633	07.06-08.04	寛永	10	06	干ばつ1B	今月。炎旱云。〔按去月廿八日大雨水。此前後歟。〕		55	60	0
645	1633	09.13	寛永	10	08.10	大雨1A・洪水1A・暴風1A	暴風雨。損舎屋。淀大橋流。近江摂津大水云。		55	60	0
646	1633	11.21	寛永	10	10.20	ひょう1A	雨雹。〔大雹云。〕		55	60	0
647	1635	06.26	寛永	12	05.12	ひょう1A	雨雹。〔如霰云。〕		55	65	0
648	1635	07.04	寛永	12	05.20	洪水1A	鴨川洪水。〔昨風雨故云。〕人家流掛三条橋。中央十五間許流。又小川辺家流云。〕		55	65	0
649	1635	09.07	寛永	12	07.26		夜天赤。〔如火云。〕		55	66	0
650	1635	09.24	寛永	12	08.13	大雨1A・洪水1A・暴風1A	大風雨。折木或倒。鴨川洪水。(中略)淀橋流留高槻。近江多賀社倒。〔今度所新造云。〕		55	66	0
651	1636	02.23	寛永	13	01.17		舞楽御覽依雨延引。		56	70	0
652	1637	01.26-05.23	寛永	14	春		今春夕。日赤如火云。		56	73	0
653	1637	10.18-10.29	寛永	14	09.01-09.12		(和暦9月1日)朝夕日赤至九月。〔十三日後稍薄云。〕		56	74	0
654	1637	05.24-11.16	寛永	14	夏-秋		今年夏秋。日出已前。東有赤氣。兵革兆云。		56	74	0
655	1638	10.26	寛永	15	09.19	ひょう1A	江戸雷鳴大雨雹。城辺〔本丸〕。雨雪。平地五六寸。〔四五日不消云。〕		56	76	1
656	1639	01.17	寛永	15	12.14	雷1A	雷鳴。		56	76	0
657	1642	01.31	寛永	19	01.01	大雪1A	大雪云。無四方柱。		56	82	0
658	1642	04.12	寛永	19	03.13		雨雪。平地三寸余。		56	82	0
659	1644	08.31	正保	1	07.29	暴風1A	伊勢大風。兩宮正殿萱高欄等破損。(後略)		57	94	0
660	1645	04.11	正保	2	03.15		(和暦3月15日)日色紫赤無光。〔或作所糶。〕月亦同。〔翌夜亦少有赤氣云。〕		57	96	0
661	1647	06.03-09.09	正保	4	05-08.11	干ばつ1B	(和暦8月11日)自去五月炎旱。所々井水涸。		57	101	0
662	1649	06.22	慶安	2	05.13	ひょう1A	此日武蔵川越雨雹。如瓜。殺人馬。		57	106	1
663	1650	05.19	慶安	3	04.19	ひょう1A	常陸雨雹水。〔按水即雹之大者歟。〕	原文は「、日とと。」	58	111	1
664	1650	08.01	慶安	3	07.04		雨毛。(後略)		58	111	0
665	1650	10.13	慶安	3	09.18	洪水1A	洪水云。	原文は「、日とと。」	58	111	0
666	1651	07.22	慶安	4	06.05		天雨白鼈。〔鼈者毛之強曲が者也。〕三寸可。		58	115	0
667	1652	05.12	承応	1	04.05	ひょう1A	雨雹。		58	118	0
668	1652	05.27	承応	1	04.20	大雨1A	贈太政大臣〔家光〕。忌日。而依大雨征夷大將軍〔家綱内大臣〕。不能參詣。〔東叡山。〕(後略)		58	118	1
669	1653	09.14	承応	2	07.23	洪水1A	諸国大水。	原文は「、日とと。」	58	122	0
670	1654	07.30	承応	3	06.17	干ばつ1A	頃日。大和旱云。		58	124	0
671	1654	-	承応	3	-	低温1C	今年嚴寒。近年無比類云。		59	132	0
672	1658	08.31	万治	1	08.03	洪水1A	鴨川洪水堤壞云。		59	144	0
673	1659	07.26	万治	2	06.07	ひょう1A	此日。常陸雨雹。大如缶云。		59	146	1
674	1660	09.03	万治	3	07.29	洪水1A	京師洪水。此日。此日。伊勢大風。洪水。(中略)〔或作五月及八月。諺歟。〕		59	149	0
675	1660	09.24	万治	2	08.20	大雨1A・洪水1A・暴風1A	夜。大風雨。倒木。洪水。淀大橋流。又水越宇治橋。諸国同之云。		59	149	0
676	1660	10.24	万治	2	09.20	暴風1A	此日。大風。折木。武蔵江戸同之云。		59	150	0
677	1662	03.16	寛文	2	01.26		夕日赤。		59	154	0
678	1662	06.23	寛文	2	05.08		酉刻。有奇雲。(後略)		59	155	0
679	1662	07.28	寛文	2	06.13	洪水1A	下野日光稻荷川大洪水。人家三百余宇流。人多死云。		59	155	1
680	1668	-	寛文	8	-	干ばつ1C	今年諸国旱。		60	179	0
681	1669	04.03	寛文	9	03.03		依雨鬪雞延引。		60	180	0
682	1669	06.11	寛文	9	05.13	暴風1A	此日。南都大風。自酉刻至戌。		60	180	0
683	1670	10.06	寛文	10	08.23	暴風1A・砂じん1A	大風。抜木壞廬舍。摂津雨土。〔土塊云。〕及自西海洪濤上陸至枚方。人多死。		61	188	0
684	1671	08.16	寛文	11	07.12	雷1A	摂津大坂大雷電。		61	191	0
685	1671	12.02-12.30	寛文	11	11		京畿諸国草花皆発。		61	191	0

統史愚抄

686	1673	09.19	延宝	1	08.09	暴風1A	武蔵江戸大風。壞廬屋。		61	196	1
687	1673	10.27	延宝	1	09.18		頃日。每宵有赤気。(後略)		61	197	0
688	1673	12.12	延宝	1	11.05		頃日。暁東西。夕西等。雲赤如火云。		61	197	0
689	1674	05.16	延宝	2	04.11	大雨1A・洪水1A	昨今。大雨。鴨河洪水。(中略)京畿近国悉大水。		61	199	0
690	1674	07.14	延宝	2	06.11	ひょう1A	京師大雨雹。(後略)		61	199	0
691	1674	07.14	延宝	2	06.11	雷1A	此日。雷墮廬山寺堂。		61	199	0
692	1674	07.17	延宝	2	06.14	大雨1A・洪水1A	大雨水。人馬多溺死。畿内同前。		61	199	0
693	1676	06.17	延宝	4	05.06	大雨1A・洪水1A	大雨。洛中洪水。(後略)		61	206	0
694	1676	06.19	延宝	4	05.08	長雨1A・洪水1A	霪霖洪水。(中略)凡京師大水未曾有事云。		61	206	0
695	1676	06.30	延宝	4	05.19		(和曆5月19日)自今日七箇日。被仰御禱於神宮。 〔六社七寺等同被仰歎。〕		61	206	0
696	1676	07.31	延宝	4	06.21	雷1A	雷墮北野七本辺梨松樹。		61	206	0
697	1676	08.13	延宝	4	07.04	暴風1A	大風折木倒小屋。		61	206	0
698	1678	01.24	延宝	5	閏12.02	雷1A	雷電。		62	214	0
699	1678	05.20	延宝	6	03.30	ひょう1A	貴布祢辺大雨雹。如彈丸。平地五六寸。		62	215	0
700	1680	02.15	延宝	8	01.15		(和曆1月18日)(前略)[去十五日依雨延引也。]		62	223	0
701	1681	02.14	延宝	8	12.26		越前越後赤雪。平地一寸。	原文は「、日と と。」	62	228	1
702	1680	10.23- 02.18	延宝	8	09- 12.30	干ばつ1B	(延宝8年12月30日/1680年2月18日)自九月至今日 不雨。		62	228	0
703	1682	06.08	天和	2	05.03	ひょう1A	雨雹如梅子。(後略)		63	235	0
704	1685	07.03	貞享	2	06.02	暴風1A	(前略)南蛮類国[阿未加波]。船入肥前長崎津。是 伊勢商船遇大風漂寄于彼国間。為送歸故所來也 者。(後略)	タイムラグが大 きい可能性が高 い。	63	250	1
705	1686	03.17	貞享	3	02.23	雷1A	雷電。自洛中至大津大坂等多震。		63	252	0
706	1686	03.26	貞享	3	03.03		此日。雨雪。厚一寸。		63	252	0
707	1686	09.12	貞享	3	07.25	暴風1A	大風。発廬舎。		63	254	0
708	1687	03.01	貞享	4	01.18		晴。		63	257	0
709	1687	05.02	貞享	4	03.21		有微雨。		63	258	0
710	1687	06.07	貞享	4	04.28		陰晴。		64	264	0
711	1687	09.07- 10.05	貞享	4	08	暴風1B・波浪1B	(前略)商船遇大風漂着紀伊熊野浦[或作九月九 日。]		64	266	0
712	1687	10.14	貞享	4	09.09	洪水1A・暴風1A	大風。抜木壞廬舎。賀茂貴布祢等社損。春日社大 木倒。又諸国大水。人多死。		64	266	0
713	1687	11.05	貞享	4	10.01	雷1A	雷。		64	266	0
714	1687	12.20	貞享	4	11.16	雷1A	雷。		64	266	0
715	1689	08.30	元禄	2	07.16		(和曆7月18日)今夕。有諸山送火。〔去十六日。依 雨不燃。〕		64	275	0
716	1689	11.13	元禄	2	10.02	雷1A	雷墮越後五智如来災。		64	275	1
717	1690	07.13	元禄	3	06.08	干ばつ1A	依災旱被立勅使少納言長量朝臣於長岡天満宮。 〔開田也。〕有祈雨奉幣事云。違例。		64	278	0
718	1690	09.12	元禄	3	08.10	大雨1A・暴風1A	暁。暴風雨間。天色如火映云。(後略)		64	279	0
719	1690	09.17	元禄	3	08.15	大雨1A・雷1A	自夜雷電烈風大雨。〔卯刻休。〕(中略)洪水。流堀 川辺小家二十余家宇。自京師至大坂溺死者及百 人。(後略)		64	279	0
720	1691	05.19	元禄	4	04.22		日赤如火云。		64	282	0
721	1692	02.13	元禄	4	12.27	大雨1A・雷1A	暴雨雷電。〔十二月雷。四十年來無之云。〕		64	283	0
722	1692	08.22	元禄	5	07.11		伊賀嶋原村雨穀云。	原文は「、日と と。」	64	286	0
723	1692	12.18	元禄	5	11.11	雷1A	雷墮因幡国城災。		64	287	1
724	1693	02.05	元禄	6	01.01		小朝拝雖有催。依雨被停之。		65	290	0
725	1693	06.13	元禄	6	05.10	雷1A	震春日社辺杉。(後略)		65	291	0
726	1693	08.06	元禄	6	07.05	大雨1A・暴風1A	昨今。俱暴風雨云。		65	292	0
727	1693	10.04	元禄	6	09.05	雷1A	震頂妙寺。		65	292	0
728	1694	08.22	元禄	7	07.02	高潮1A・波浪1A	相模小田原浪上陸。没人家云。		65	296	1
729	1695	07.16	元禄	8	06.06		頃日。相模箱根山。丹波大江山等辺竹実多生。(後 略)		65	299	1
730	1695	08.30	元禄	8	07.21	暴風1A	暴風発屋。		65	299	0
731	1696	09.11	元禄	9	08.15	干ばつ1A	頃日炎旱甚。		65	304	0
732	1696	09.17	元禄	9	08.21	雷1A	(和曆8月21日)(前略)後日德忠朝臣言。陣儀間迅 雷。発遣時[此日也。]地震。(後略)		65	304	0
733	1696	10.04	元禄	9	09.09	暴風1A	暴風発屋。		65	304	0
734	1697	03.08	元禄	10	02.16	大雪1A	雨雪。平地凡一尺。		65	307	0
735	1697	09.15	元禄	10	08.01	低温1A	暴寒。人着厚衣。		65	310	0
736	1699	04.11	元禄	12	03.12		雨雪。平地一寸。		66	319	0
737	1700	04.19	元禄	13	03.01		伯耆雨穀云。	原文は「、日と と。」	66	322	0
738	1700	05.29	元禄	13	04.11		今明両日。夕日亦如火者。今日無余輝云。月亦赤 云。		66	323	0
739	1700	06.09	元禄	13	04.22	大雨1A・洪水1A	(和曆4月22日)(前略)[兼日大雨洪水間。可為船渡 有議。因自二条河原舟十艘引上儲之。而自昨雨休 水減。因懸橋云。]		66	323	0
740	1701	02.08	元禄	14	01.01		日食。〔(中略)而陰雲不見。〕		66	324	0
741	1701	07.25	元禄	14	06.20	大雨1A・洪水 1A・雷1A	大雨雷電。(中略)又鴨川洪水。西堤潰。激流溢入 于洛中。(後略)		66	327	0

続史愚抄

742	1702	03.01	元禄	15	02.03		日初入。有白氣。如柱可十丈。(後略)		66	330	0
743	1702	06.11	元禄	15	05.16	ひょう1A	此日。大和河内撰津大雨雹。如鷄卵。破瓦創入。		66	331	0
744	1702	10.21-11.18	元禄	15	09		今月。撰津雨絲。(後略)		66	332	0
745	1702	12.15	元禄	15	10.27	雷1A	雷電。		66	332	0
746	1704	02.09	宝永	1	01.05		(和曆1月7日)有千秋万歳猿舞等。[去五日。依雨延引。]		66	338	0
747	1704	08.04	宝永	1	07.04	長雨1A・大雨1A・洪水1A	武蔵江戸連日大雨。大洪水云。	「連日大雨」から長雨としても集計した。	66	340	1
748	1705	04.27	宝永	2	04.05		卯刻。晦如夜而雨。		67	345	0
749	1705	08.16	宝永	2	06.27	洪水1A	三河遠江大水。	原文は「、日とと。」	67	345	1
750	1706	03.02	宝永	3	01.18		三稜打依雨延引。		67	347	0
751	1706	12.19	宝永	3	11.15	強風1A	昨今撰津大風。大坂川口船破。人多死云。		67	349	0
752	1706	-	宝永	3	-		今年。諸国有年。万民撃壊云。		67	349	0
753	1707	08.16	宝永	4	07.19	暴風1A	此日。伊勢。尾張。三河等大風。		67	353	0
754	1707	11.21-11.27	宝永	4	10.28-11.04	雷1B	(和曆11月4日)昨今雷鳴。自去月廿八日夜々有電。		67	354	0
755	1708	04.06	宝永	5	02.16		陰晴。		67	357	0
756	1708	08.17	宝永	5	07.02	暴風1A	大風。折木或倒壊廬舍。或倒小屋飛瓦礫者。内侍所假殿板屋壊雨漏。(中略)京畿。近江。伊勢等同。但當国甚云。[三十年以来未曾有云。]		67	361	0
757	1709	03.25	宝永	6	02.15		月初出。色赤。		67	366	0
758	1709	08.09	宝永	6	07.04	暴風1A	此日。烈風。諸国通船多壊云。		68	374	0
759	1709	08.22	宝永	6	07.17		(和曆7月17日)今夕。燃送火于諸山。[昨依雨延引。]		68	374	0
760	1709	12.16	宝永	6	11.16		晴。		68	376	0
761	1711	02.17	正徳	1	01.01	あられ1A	晴。雪散。		68	386	0
762	1712	09.18	正徳	2	08.18	大雨1A・洪水1A・暴風1A	今夜。暴風雨。木津淀洪水。(後略)		68	396	0
763	1713	04.14	正徳	3	03.20	強風1A	申刻。自油小路押小路火起。依烈風忽至烏丸今出川。(後略)		68	400	0
764	1713	10.30	正徳	3	09.12	あられ1A・霜1A	隕霜。向晚雨霰。		68	403	0
765	1713	10.31	正徳	3	09.13	低温1A	雨雪。西北山白。	月日から低温として集計した。	68	403	0
766	1715	04.04	正徳	5	03.01	低温1A	此日。南都雨雪。平地数寸。	月日から低温として集計した。	69	410	0
767	1715	05.18	正徳	5	04.16	低温1A	暴寒。如季冬。人襲厚衣。		69	410	0
768	1716	08.07	享保	1	06.20	洪水1A	伏見宇治淀木津等洪水。		69	416	0
769	1717	06.28	享保	2	05.20	雷1A	震新日吉社瑞籬。		69	421	0
770	1717	08.19	享保	2	07.13	雷1A	雷電。(後略)		69	421	0
771	1718	08.12	享保	3	07.16		(和曆7月17日)今夕。有東山大字送火。昨依雨延引也。他山昨不避雨燃云。		69	422	0
772	1720	12.14	享保	5	11.15	干ばつ1A	頃日旱。毎日家井水涸。		69	433	0
773	1721	08.11	享保	6	07.19	雷1A	震春日社回廊坤杉[大木]。(後略)		70	438	0
774	1721	09.06	享保	6	閏07.15	洪水1A	淀八幡山崎等洪水云。		70	438	0
775	1721	10.19	享保	6	08.29	低温1A	暴寒。鞍馬真布祢辺雨雪云。		70	438	0
776	1722	10.15	享保	7	09.06		(和曆9月9日)(前略)[去六日可幸。而依雨延引于今日云。]		70	443	0
777	1724	07.20-08.18	享保	9	06	干ばつ1B	今月。旱及疫。(後略)		70	449	0
778	1725	07.13-08.25	享保	10	06.04-07.18	干ばつ1B	(和曆7月18日)自六月四日至今日不雨。草木涸涸。近年旱云。		70	452	0
779	1725	10.06	享保	10	09.01		日食。[一分半。酉刻。依雨不見。]		70	452	0
780	1725	11.17	享保	10	10.13		法皇可幸修学寺。而依雨延引。		70	453	0
781	1726	02.16	享保	11	01.15		依雨小三稜打延引。院亦同。		70	455	0
782	1729	05.28-06.25	享保	14	05		今月。法皇御所[下御所]。有甘露降樹上。有御製和歌。		71	473	0
783	1730	04.15	享保	15	02.28		月初出。赤如火。	原文は「、日とと。」	71	476	0
784	1730	07.04	享保	15	05.20	暴風1A	未刻。自上立売室町火起。依東風烈至于西北野宮東門外止。(後略)		71	476	0
785	1730	11.10	享保	15	10.01		法皇御所[下御所]。有甘露降樹上。有御製詩歌。	原文は「、日とと。」	71	477	0
786	1731	05.25	享保	16	04.20		頃日。法皇御所甘露降樹上。因有詩歌御会。		71	479	0
787	1731	11.29	享保	16	11.01	大雨1A・強風1A	(前略)祭間南都大風甚雨。(後略)		71	481	0
788	1732	06.08	享保	17	05.16		月食皆既。[女子剋云。依雨不見。]		71	483	0
789	1733	03.16	享保	18	02.01		雨。午刻晴。		71	488	0
790	1733	04.27	享保	18	03.14	ひょう1A	雨雹云。		71	488	0
791	1735	10.16	享保	20	09.01		日食。[九分余。巳午刻。陰雲不見歟。]		72	503	0
792	1735	12.16	享保	20	11.03		晴陰。有微雨。		72	504	0
793	1737	04.16	元文	2	03.17	強風1A	大風。或倒人家。		72	511	0
794	1737	08.12	元文	2	07.16		(和曆7月17日)今夕。燃。東山大字送火。去夜依雨所延引也。		72	514	0
795	1739	08.20	元文	4	07.16	雷1A	撰津大雷電云。		72	523	0

796	1740	07.02	元文	5	06.09	洪水1A	畿内大水云。		72	526	0
797	1740	07.05	元文	5	06.12	低温1A	暴寒。人或着厚衣云。		72	526	0
798	1740	09.06	元文	5	閏07.16	大雨1A・洪水1A・暴風1A	大風雨。鴨川洪水。三条橋損。其以南水入人屋。又北山岩屋山大壊云。		72	526	0
799	1742	06.23	寛保	2	05.21	洪水1A	帟屋。鳴滝。大井等河洪水云。		73	537	0
800	1743	01.01	寛保	2	12.06	大雪1A	大雨雪。平地一尺八九寸。		73	538	0
801	1744	08.30	延享	1	07.23	大雨1A・洪水1A	(和暦7月24日)去夜大雨。因堀川小川洪水。(中略)亦諸国大水云。		73	547	0
802	1745	02.01-03.28	延享	2	01.01-02.26	干ばつ1C	(和暦2月24日/グレゴリ暦3月26日)今年不雨。(中略)自今日七箇日被修請雨法。[密儀歟。]至第三日大雨云。[不及七箇日結願歟。]		73	551	0
803	1745	03.29	延享	2	02.27	大雨1A	(和暦2月24日/グレゴリ暦3月26日)今年不雨。(中略)自今日七箇日被修請雨法。[密儀歟。]至第三日大雨云。[不及七箇日結願歟。]		73	551	0
804	1746	04.09	延享	3	02.19	強風1A	烈風。禁裏平唐門倒。[按他記無烈風。若十八日歟。可考。]		73	556	0
805	1746	09.08	延享	3	07.23	暴風1A	因幡大風。		73	557	1
806	1747	10.02	延享	4	08.28	大雨1A・洪水1A・暴風1A	(和暦8月28日)依昨風雨所々洪水。故木津川増一丈六尺云。		74	566	0
807	1747	05.09-11.02	延享	4	夏-秋		今年夏秋間。有虹。(後略)		74	567	0
808	1749	08.14	寛延	2	07.02	洪水1A	播磨大水云。		74	579	0
809	1749	09.24	寛延	2	08.13	洪水1A	此日。武蔵江戸大水。		74	580	1
810	1752	01.16-02.14	宝暦	1	12		今月。北山雨雪。丈余云。		74	592	0
811	1752	09.10	宝暦	2	08.03	雷1A	震愛宕山。(後略)		75	598	0
812	1754	10.01	宝暦	4	08.15		月食。[八分云。雨不見。]		75	606	0
813	1755	07.09-07.17	宝暦	5	06.01-06.09	洪水1B	(和暦6月9日)自去一日至此日。肥後球磨川大水。		75	610	1
814	1755	09.29	宝暦	5	08.24	暴風1A	此日。九州大風。殊豊前甚云。		75	611	1
815	1756	10.09	宝暦	6	09.16	大雨1A・洪水1A・暴風1A	今夜。烈風大雨。淀川大洪水。(中略)近江。伊賀。伊勢。美濃。尾張。三河等亦大水云。		75	616	0
816	1756	10.27	宝暦	6	10.04	洪水1A	摂津大坂大水云。		75	616	0
817	1757	03.07	宝暦	7	01.18		三稜打依雨延引。[被行日欠。]		76	623	0
818	1760	01.10	宝暦	9	11.23	強風1A・雷1A	雷鳴。畿内。近江等大風云。		76	628	0
819	1760	02.17	宝暦	10	01.01		(前略)而依雨被停之。		76	629	0
820	1761	12.10	宝暦	11	11.15	雷1A	雷小鳴。		76	636	0
821	1762	08.17	宝暦	12	06.28	強風1A・雷1A	此日。摂津大坂雷電。大和紀伊大風云。	台風の可能性あり。	76	640	0
822	1762	08.28	宝暦	12	07.09	暴風1A	昨今。九州大風云。		76	640	1
823	1762	09.04	宝暦	12	07.16	洪水1A	此日。伯耆大山裂。激水涌出。人家流。人死及百余云。		76	640	1
824	1763	10.09	宝暦	13	09.03	暴風1A	大風。大坂通船壊。溺死者及千人。又播磨。東国同云。		77	650	0
825	1764	12.16	明和	1	11.24	雷1A	雷鳴。		77	658	0
826	1765	01.09	明和	1	12.18	大雪1A	雨雪。平地一尺。[陰陽頭泰邦言。去十五日変応今日雪云。不審。]		77	658	0
827	1765	06.03-06.04	明和	2	04.15-04.16	大雨1A・洪水1A	(和暦4月16日)自昨大雨。鴨川洪水。(後略)		77	660	0
828	1765	08.21	明和	2	07.05	大雨1A・洪水1A・暴風1A	大雨。伏見洪水。(中略)近江。河内。播磨。伊勢。大和。紀伊等大風雨云。		77	660	0
829	1765	09.16-09.17	明和	2	08.02-08.03	暴風1A	(和暦8月3日)自昨暴風。此日。南都大風。春日社稲垣前杉[大木]倒。(後略)		77	661	0
830	1766	05.10	明和	3	04.02		昨今。甘露降云。未詳。		77	664	0
831	1766	08.18	明和	3	07.13	ひょう1A	此日。摂津大坂雨雹云。		77	665	0
832	1766	08.06-09.03	明和	3	07	干ばつ1B	今月。淡路旱云。		77	665	0
833	1766	11.11	明和	3	10.09	雷1A	雷鳴。		77	666	0
834	1766	12.23	明和	3	11.22	雷1A	雷鳴。		77	666	0
835	1767	05.30	明和	4	05.03		(前略)而依雨於小御所有内鞠。		78	671	0
836	1767	08.07	明和	4	07.13	洪水1A	此日。尾張三河等山裂水涌。漂人家。人多死云。		78	671	1
837	1767	08.17	明和	4	07.23	雷1A	震式部卿家仁親王中筋石薬師第。		78	672	0
838	1767	09.03	明和	4	08.11	雷1A	自下鴨鼓畔蟄龍上天。[初上埃塵。後起雷雨。]所過民家壊。樹竹折。		78	672	0
839	1767	11.16	明和	4	閏09.25	霜1A	隕霜。桐尾辺雨雪云。		78	672	0
840	1768	03.05	明和	5	01.17		有舞楽御覽。二曲後雨之間。(後略)		78	674	0
841	1768	03.08	明和	5	01.20	雷1A	雷鳴。		78	674	0
842	1768	04.06	明和	5	02.19		雖有微雨忽晴。		78	674	0
843	1768	04.23	明和	5	03.07	強風1A・ひょう1A	烈風折木発屋。又雨雹。[如大豆。]		78	675	0
844	1768	07.12	明和	5	05.28	大雪1A	此日。鎌倉雨雪。平地一尺云。		78	676	1
845	1768	07.14	明和	5	06.01	低温1A・霜1A	隕霜云。昨今。暴寒。人着小袖。		78	676	0
846	1768	09.01	明和	5	07.21	大雨1A・暴風1A	大風雨。[目曉至夜。]折木発屋。桜町殿[後院]。南面仮門倒。		78	676	0
847	1769	01.08	明和	5	12.01		日食。[二分。陰雲不見。]		78	679	0
848	1769	06.06	明和	6	05.03		雨灰。(後略)		78	682	0
849	1769	07.26	明和	6	06.23	雷1A	震二条殿四脚門[今出川面。](後略)		78	682	0

統史愚抄

850	1769	08.02-08.30	明和	6	07		今月。伊勢雨毛。長五六寸。		78	682	0
851	1769	09.19	明和	6	08.20	洪水1A	洪水。淀大橋崩云。	原文は「、日とと。二十日歟。」	78	683	0
852	1769	09.25	明和	6	08.26	暴風1A	此日。江戸大風。浅草卅三間堂倒。其外所々壊。		78	683	1
853	1769	10.01	明和	6	09.02	ひょう1A	雨雹云。		78	683	0
854	1769	10.04	明和	6	09.05		雨白毛。長四五寸。〔七日。八日。九日亦同。〕		78	683	0
855	1770	01.31	明和	7	01.05		千秋万歳依雨延引。可為七日者。		78	685	0
856	1770	06.23-07.20	明和	7	06.01-06.28	干ばつ1B	(和暦6月29日)炎旱。自一日不雨。而今夜雨。		78	688	0
857	1770	07.23-09.02	明和	7	閏06-07.13	干ばつ1B	(和暦7月13日)炎旱甚。〔閏六月已来不雨。有微雨兩三度。〕〔中略〕又禾稼早損及諸国。		78	688	0
858	1770	09.13	明和	7	07.24		雨白毛如細雨。		78	689	0
859	1770	09.14	明和	7	07.25	大雨1A	大雨。〔自辰至未。〕頃日。密仰長者雨大僧正有證被行祈雨法。此日結願云。可謂法驗。		78	689	0
860	1770	10.28	明和	7	09.10	雷1A	此日。雷電。(後略)		78	689	0
861	1771	01.09	明和	7	11.24		晴。		79	694	0
862	1771	03.03	明和	8	01.17		有舞樂御覽。未始而雨。(後略)		79	696	0
863	1771	03.07	明和	8	01.21	大雪1A	雨雪。平地一尺。		79	696	0
864	1771	06.10	明和	8	04.28		晴。		79	698	0
865	1771	07.06	明和	8	05.24	干ばつ1A	又炎旱。所々水涸。農民零。		79	699	0
866	1771	06.06-07.14	明和	8	04.24-06.03	干ばつ1B	(和暦6月4日)自去四月廿四日不雨。而此日雨。		79	700	0
867	1771	07.12-09.08	明和	8	06		(今月)諸国雨金銀。花実。羽毛。菽麦等。(後略)		79	700	0
868	1771	08.14	明和	8	07.04		初昏。有白氣。〔作虹者謬矣。〕(後略)		79	700	0
869	1771	10.12	明和	8	09.05		当巽有赤氣。長数丈。濶一尺云。		79	701	0
870	1772	06.06	安永	1	05.06		京師雨蝶。(後略)		79	705	0
871	1772	07.21	安永	1	06.21	低温1A	昨今暴冷。人着小袖。		79	705	0
872	1772	08.05	安永	1	07.07	高潮1A・波浪1A	九州洪浪上陸。人民多死亡。	原文は「、日とと。」	79	706	1
873	1772	08.30	安永	1	08.02	大雨1A・暴風1A	東国大風雨。江戸壊屋倒民家。(中略)亦三河殊甚云。		79	706	1
874	1772	09.14	安永	1	08.17	暴風1A	此日。亦武蔵大風。殊征夷大將軍。〔家治。〕城内壊。或倒舍。		79	706	1
875	1772	09.18	安永	1	08.21	暴風1A	大風。折木発屋。祇園旅所大木折。因悪王寺小社及石鳥井倒。		79	706	0
876	1773	02.06	安永	2	01.15	雷1A	雷鳴。		79	709	0
877	1773	03.24	安永	2	03.02		雨雪。〔寛保三年三月有此事。〕		79	710	0
878	1773	01.23-06.02	安永	2	01.01-04.13	低温1C	(安永2年4月13日/1773年6月2日)今年冷氣未休。人着小袖。諸国有疫死。頃日。延及于当国云。		79	711	0
879	1773	07.08	安永	2	05.19	暴風1A	烈風。此日。伊勢大風。外宮北鳥居倒及五丈殿九丈殿末社〔三社。〕等壊。是大木倒故云。		79	712	0
880	1773	08.21	安永	2	07.04		雨灰云。今夜。月赤。		79	712	0
881	1773	08.28	安永	2	07.11		雨水。	大雨・洪水の可能性あり。	79	712	0
882	1774	02.08	安永	2	12.28	雷1A	有電。頃日。尾張有黒雲如帶。凡七日滅。		79	714	0
883	1774	03.13	安永	3	02.02	雷1A	雷電。烈風。壊廬舎震二条大納言〔治孝〕。今出川第及建仁寺。		80	716	0
884	1774	03.25	安永	3	02.14		此日。自院御所〔桜町殿〕。有白氣立昇云。		80	717	0
885	1774	05.06	安永	3	03.26		日暈。有黒氣及青色。(後略)		80	717	0
886	1774	05.21	安永	3	04.11	低温1A	冷氣如仲春。		80	717	0
887	1774	05.04-06.09	安永	3	03.24-05.01	干ばつ1B	(和暦5月1日)自去三月廿四日凡不雨。〔雖四月一度雨不遍。〕		80	718	0
888	1774	06.13	安永	3	05.05	大雨1A・洪水1A・強風1A・雷	此日。雲覆愛宕山。大風暴雨。山鳴巖顛。大木倒。所々崩。鳴滝邊忽平地水二尺余云。		80	718	0
889	1774	06.26	安永	3	05.18		(前略)而依雨於小御所有台奏。(後略)		80	718	0
890	1774	08.03	安永	3	06.26	暴風1A	自今日七箇日。被行御祈於七社七寺。依大風也。		80	719	0
891	1774	10.06	安永	3	09.02	暴風1A	此日。丹後。但馬等大風。壊廬舎云。		80	720	1
892	1774	11.18	安永	3	10.15	雷1A	雷電。		80	720	0
893	1775	05.19	安永	4	04.20	大雨1A・洪水1A	(和暦4月20日)(前略)昨已来大雨。鴨川水溢。(後略)		80	725	0
894	1775	06.02	安永	4	05.05	洪水1A	宇治川洪水。桂橋〔俗謂豊後橋。〕浮上云。		80	725	0
895	1775	06.06	安永	4	05.09		有白氣如柱。(後略)		80	725	0
896	1775	06.28	安永	4	06.01	洪水1A	鴨川洪水。〔増平水六七尺許云。〕下鴨南堤百余間潰流云。		80	725	0
897	1775	09.07	安永	4	08.13	洪水1A	今夜。淀川洪水。〔増常水一丈六尺云。〕(後略)		80	726	0
898	1775	12.30	安永	4	12.08	大雨1A	暴雨。(後略)		80	727	0
899	1776	02.27	安永	5	01.09		夜。有白虹。自西亘東。		80	728	0
900	1776	03.04	安永	5	01.15		今夜。御吉書三毬打依雨延引。(後略)		80	728	0
901	1776	06.07	安永	5	04.21	低温1A・霜1A	冷氣甚。或隕霜云。		80	730	0
902	1777	01.24	安永	5	12.15		月有三暈。(後略)		80	731	0
903	1777	08.14	安永	6	07.12		有月暈五色氣。(後略)		81	737	0
904	1777	09.26	安永	6	08.25	暴風1A・高潮1A・波浪1A	此日。肥前長崎大風。揚洪浪。人多死云。		81	738	0
905	1777	10.27	安永	6	09.27	雷1A・ひょう1A	雷鳴雨雹。如大豆。		81	738	0

続史愚抄

906	1777	11.05	安永	6	10.06	強風1A・雷1A・ひょう1A	烈風雷雨。雲間有物如龍云。此日。亦所々雨雹。	81	738	0
907	1777	11.26	安永	6	10.27	雷1A・ひょう1A	於南庭有猿糞。亦雷鳴雨雹。(後略)	81	738	0
908	1778	03.23	安永	7	02.25	大雪1A	雨雪。平地五寸。	81	742	0
909	1778	04.10	安永	7	03.13	あられ1A	雨霰。北嶺雪白。	81	742	0
910	1778	07.25	安永	7	07.02	大雨1A・洪水1A	大雨。洛中大水。平地三四尺。(後略)	81	743	0
911	1778	08.03	安永	7	07.11	洪水1A	淀川洪水。橋傾云。	81	743	0
912	1778	08.14	安永	7	07.22	洪水3	自今日七箇日。被行洛中洪水御祈七社七寺。奉行蔵人右少弁俊親。	81	744	0
913	1779	08.27	安永	8	07.16		依雨不燃東山送火。(後略)	81	749	0
914	1779	10.04	安永	8	08.25	洪水1A・暴風1A	此日。東国風水。田畠多流亡云。	81	750	1
915	1779	12.02	安永	8	10.25	雷1A・ひょう1A	此日。雷電。多武峯辺大雷雨雹。平地二尺許云。	81	751	0

13. 大日本野史

(1) ページは下記による。

漆山又四郎訳 1943『訳文大日本野史 一』 春秋社

(2) 地域 (“L” 列) は下記による。

0 : 近畿地方中部

1 : 近畿地方中部以外

大日本野史

No.	グレゴリイ暦		和暦		項目	記載内容	備考	該当箇所		L
	年	月	年号	日				巻	頁	
1	1384	-	至徳	1	長雨1C・洪水1C	(是の歳)霖あり、洪水す。		本紀第一	2	0
2	1385	04.20	至徳	2	大雪1A	三月三日甲子、積雪八尺。		本紀第一	2	0
3	1387	05.26-06.24	嘉慶	1	大雪1B	五月、大いに雪ふる。		本紀第一	3	0
4	1389	08.06	康応	1	大雨1A	七月癸酉、大いに雨ふり、連日歇まずして八月迄ぶ。		本紀第一	3	0
5	1389	08.06-09.27	康応	1	長雨1B・大雨1B	七月癸酉、大いに雨ふり、連日歇まずして八月迄ぶ。		本紀第一	3	0
6	1391	08.09-09.05	明德	2	長雨1B	七月霖雨す。		本紀第一	4	0
7	1393	07.18-09.14	明德	4	干ばつ1B	秋七月、六月より雨ふらずして此の月に及ぶ。		本紀第一	4	0
8	1393	10.13	明德	4	洪水1A・暴風1A	二十九日壬寅、大いに風ふき洪水あり。		本紀第一	5	0
9	1399	08.07	応永	6	干ばつ1A	十七日丙辰、旱に因り、水天供を修して雨を祈る。		本紀第一	7	0
10	1399	08.08	応永	6	大雨1A	十八日丁巳、大いに雨ふる。		本紀第一	7	0
11	1400	05.04-06.01	応永	7	干ばつ1B	夏四月、大和旱す。		本紀第一	7	0
12	1401	01.24-05.22	応永	8	大雪1C	大いに雪ふる。		本紀第一	8	0
13	1401	08.19-09.16	応永	8	洪水1B	是の月、洪水あり、星隕ち響き雷の如し。		本紀第一	8	0
14	1402	07.10-08.07	応永	9	干ばつ1B	夏六月旱す。四日丙辰、雨を祈る。		本紀第一	8	0
15	1402	07.13	応永	9	干ばつ2A	夏六月旱す。四日丙辰、雨を祈る。		本紀第一	8	0
16	1402	04.12-09.06	応永	9	干ばつ1B	秋七月、陸奥三月より雨ふらずして是の月に迄び草木皆枯る。十月に至りて雨霖ふる。民飢う。七歳以下の子を水に投ず。		本紀第一	8	1
17	1402	11.05-12.03	応永	9	長雨1B	秋七月、陸奥三月より雨ふらずして是の月に迄び草木皆枯る。十月に至りて雨霖ふる。民飢う。七歳以下の子を水に投ず。		本紀第一	8	1
18	1403	07.21	応永	10	雷1A	夏六月二十三日己巳、相国寺の塔に震して災あり。		本紀第一	8	0
19	1405	03.22	応永	12	強風1A	春二月十三日己卯、若狭、大風あり、遠敷二宮の樓門・八幡宮の鳥居倒る。		本紀第一	8	1
20	1405	07.14	応永	12	洪水1A	六月九日癸酉、洪水あり、祇園社の鳥居倒れ、圧死する者二十余人。		本紀第一	8	0
21	1406	02.25	応永	13	雷1A	二十八日己未、雷なる。		本紀第一	9	0
22	1406	08.20	応永	13	干ばつ1A・あられ1A	閏六月二十七日乙卯、霰を雨らす。大いに旱す。		本紀第一	9	0
23	1406	09.26	応永	13	洪水1A・暴風1A	秋八月五日壬辰、大いに風ふき、洪水あり。		本紀第一	9	0
24	1406	10.15	応永	13	暴風1A	二十四日辛亥、大いに風ふき、北野社の林木僵れ、拱北樓倒る。		本紀第一	9	0
25	1407	08.08	応永	14	雷1A	夏六月二十六日丁未、晴天に雷あり。		本紀第一	9	0
26	1407	10.04	応永	14	暴風1A	秋八月二十四日乙巳、大いに風ふく、咳の病流行す。		本紀第一	9	0
27	1407	10.29	応永	14	暴風1A	九月十九日庚午、大いに風ふく。		本紀第一	9	0
28	1409	05.31	応永	16	ひょう1A	夏四月八日庚戌、雹を雨らす。		本紀第一	10	0
29	1410	09.08	応永	17	大雨1A・洪水1A・暴風1A	秋八月乙未朔、大風雨水、神社仏利多く壊る。		本紀第一	10	0
30	1413	08.08	応永	20	暴風1A	七月三日庚辰、東国大風、由井浜の鳥居の笠木落つ。		本紀第二	12	0
31	1415	07.28	応永	22	強風1A・ひょう1A・低温1A	是の日大いに風ふき、雹を雨らし、寒さ冬の如し。		本紀第二	13	0
32	1418	06.09	応永	25	干ばつ2A	夏四月二十六日辛丑、雨を諸社に祈る。		本紀第二	13	0
33	1419	03.10	応永	26	強風1A	二月庚辰、大いに風ふく。		本紀第二	14	0
34	1419	03.19	応永	26	強雨1A	十四日己丑、大風社を倒せるを以て、園韓神祭罷む。	原文は「十二月」であるが「二月」の誤り?	本紀第二	14	0
35	1419	08.01-10.27	応永	26	洪水1B	(九月)七月より此の月に迄びて関東洪水あり、冬十月、関東大風、木を抜きて屋発き、地大いに震ふ。		本紀第二	14	1
36	1419	10.28-11.26	応永	26	強風1B	(九月)七月より此の月に迄びて関東洪水あり、冬十月、関東大風、木を抜きて屋発き、地大いに震ふ。		本紀第二	14	1
37	1419	-	応永	26	洪水1C	是の歳、陸奥洪水あり。関東飢う。		本紀第二	14	1

大日本野史

38	1420	06.19	応永	27	04.29	干ばつ2A	夏四月二十九日丁卯晦、松尾の祭、神人の訴に因りて之を停む。雨を祈る。		本紀第二	15	0
39	1420	07.09	応永	27	05.20	干ばつ2A	五月二十日丁亥、雨を祈る。		本紀第二	15	0
40	1420	06.20-10.16	応永	27	05-08	干ばつ1B	秋八月、陸奥五月より雨ふらずして此の月に迄ぶ。		本紀第二	15	1
41	1420	10.26	応永	27	09.10	暴風1A	九月十日丙子、大風ふき皇太神宮壊る。		本紀第二	15	0
42	1420	-	応永	27	-	干ばつ1C	是の歳、旱し琵琶湖涸ること三町、淀川徒渉すべし。歳大いに飢う。米斗直ひ千銭。		本紀第二	15	0
43	1421	05.11-08.07	応永	28	夏	干ばつ1C	是の夏旱す。		本紀第二	15	0
44	1421	-	応永	28	-	干ばつ1C	是の歳、旱す、飢ゑ疫み道に殫相枕み、(後略)。		本紀第二	15	0
45	1425	08.24	応永	32	07.02	大雨1A・暴風1A	二日己亥、又震ふ。大風雨あり。		本紀第二	16	0
46	1425	10.21-11.19	応永	32	09	暴風1B	是の月大いに風ふき地震あり。		本紀第二	17	0
47	1425	-	応永	32	-	洪水1C	是の歳水あり。		本紀第二	17	0
48	1426	07.30	応永	33	06.17	長雨2A	六月十七日己卯、幣を丹生。貴布祢に奉りて雨を止むるを祈る。		本紀第二	17	0
49	1426	09.13	応永	33	08.03	長雨2A	三日甲子、奉幣して晴を祈る。		本紀第二	17	0
50	1426	10.31	応永	33	09.22	大雨1A・洪水1A	二十二日甲子、地大いに震ふ。陸奥大雨、会津洪水あり。		本紀第二	18	1
51	1426	11.19	応永	33	10.11	雷1A	十一日辛未、雷す。		本紀第二	18	0
52	1427	02.06-05.05	応永	34	春	洪水1C	是の春、洪水あり。		本紀第二	18	0
53	1427	07.05	応永	34	06.02	洪水1A	六月二日己未、又水あり。		本紀第二	18	0
54	1427	08.02-08.31	応永	34	07	大雨1B・洪水1B	秋七月、陸奥大雨洪水あり。		本紀第二	18	1
55	1427	09.01-09.29	応永	34	08	洪水1B	八月、又水あり。		本紀第二	18	0
56	1427	10.12	応永	34	09.13	洪水1A	九月十三日戊戌、洪水あり。		本紀第二	18	0
57	1428	07.13	正長	1	05.22	洪水1A	二十二日癸酉、洪水あり。		本紀第二	18	0
58	1428	07.22	正長	1	06.01	洪水1A	六月壬午朔、洪水あり。		本紀第二	18	0
59	1429	02.14	永享	1	01.02	雷1A	二日己酉、雷なる。		本紀第三	21	0
60	1429	04.21	永享	1	03.09		三月九日乙卯、砂灰を雨らす。		本紀第三	21	0
61	1429	08.09	永享	1	06.30	干ばつ2A	夏六月乙巳晦、奉幣して雨を祈る。		本紀第三	21	0
62	1430	09.14	永享	2	08.18	大雨1A・暴風1A	秋八月十八日丙戌、大風雨あり。		本紀第三	22	0
63	1433	06.06	永享	5	05.10	干ばつ2A	夏五月十日壬戌、奉幣して雨を祈る。		本紀第三	22	0
64	1433	06.07	永享	5	05.11		十一日癸亥、雨ふる。		本紀第三	22	0
65	1435	08.16	永享	7	07.13	大雨1A・暴風1A	秋七月十三日癸未、大風雨あり、地震ふ。		本紀第三	23	0
66	1436	06.22	永享	8	05.29	ひょう1A	五月二十九日甲午、雹を雨らし、大いさ青梅の如し。		本紀第三	23	0
67	1436	04.26-08.21	永享	8	夏	干ばつ1C	是の夏旱す。		本紀第三	23	0
68	1436	04.26-11.17	永享	8	04-09	干ばつ1B	四月より雨ふらずして九月迄ぶ。地大いに震ふ。		本紀第三	23	0
69	1439	02.23-03.23	永享	11	閏01	大雪1B	永享十一年己未、春閏正月、大いに雪ふる。		本紀第三	25	0
70	1439	-	永享	11	-	洪水1C	是の歳、洪水して河溢る。		本紀第三	25	0
71	1440	09.19	永享	12	08.14	暴風1A	秋八月十四日甲申、大いに風ふく。		本紀第三	25	0
72	1440	09.21	永享	12	08.16		十六日丙戌、天色紅なり。		本紀第三	25	0
73	1441	06.18	嘉吉	1	05.20	洪水1A	二十日丙辰、洪水あり、四条・五条の橋墜つ。		本紀第三	25	0
74	1441	07.03	嘉吉	1	06.06	暴風1A	六月六日辛未、風雨。祇園会散粧則大鉾三本折る。	大雨の可能性もある。	本紀第三	25	0
75	1441	09.20	嘉吉	1	08.26	暴風1A	二十六日庚寅、大いに風ふく。		本紀第三	26	0
76	1441	10.29	嘉吉	1	閏09.06	洪水1A	閏月六日己巳、洪水あり。		本紀第三	26	0
77	1443	04.11	嘉吉	3	03.02		三月二日戊午、五穀を雨らす。		本紀第三	27	0
78	1443	06.15	嘉吉	3	05.09	干ばつ2A	九月癸亥、雨を丹生・貴布祢に祈る。	「九月」は(五月)「九日」の誤り?	本紀第三	27	0
79	1443	06.19	嘉吉	3	05.13		十三日丁卯、雨ふり、二十日甲戌、洪水あり。		本紀第三	27	0
80	1443	06.26	嘉吉	3	05.20	洪水1A	十三日丁卯、雨ふり、二十日甲戌、洪水あり。		本紀第三	27	0
81	1443	06.27	嘉吉	3	05.21	長雨2A	二十一日乙亥、幣を丹生・貴布祢に奉り、晴を祈る。		本紀第三	27	0
82	1443	06.28	嘉吉	3	05.22	洪水1A	二十二日丙子、洪水あり、人畜流死する者多し。		本紀第三	27	0
83	1443	07.30	嘉吉	3	06.24	暴風1A	二十四日戊申、大いに風ふく。		本紀第三	27	0
84	1444	04.01	文安	1	03.04		三月四日甲寅、五穀を雨らす。		本紀第三	29	0
85	1444	05.06	文安	1	04.10	ひょう1A	夏四月十日己丑、雹を雨らす、大いさ糞の如し。		本紀第三	29	0
86	1445	04.17-05.15	文安	2	03	大雨1B・洪水1B	文安二年乙丑、春三月、大いに雨ふり、洪水す。		本紀第三	30	0
87	1445	07.15	文安	2	06.02	暴風1A	夏六月二日甲辰、大いに風ふき木を抜き屋を突く。薬師寺の金堂・青巖寺の塔倒る。		本紀第三	30	0
88	1446	05.05-08.01	文安	3	夏	洪水1C	是の夏、近江大水あり。		本紀第三	30	0

大日本野史

89	1447	07.10	文安	4	05.18	干ばつ2A	五月十八日己酉、五山の僧をして雨を祈らしむ。又幕府に詔りし、神泉苑の池を浚はしむ。		本紀第三	31	0
90	1447	08.12	文安	4	06.22	暴風1A	二十二日壬午、大いに風ふく。		本紀第三	31	0
91	1447	12.30	文安	4	11.14	大雪1A	冬十一月十四日壬寅、雪深きを以鎮魂祭を神祇官の北門に行ふ。		本紀第三	31	0
92	1448	07.02	文安	5	05.22	洪水1A	五月二十二日丁未、洪水あり。		本紀第三	32	0
93	1448	08.27	文安	5	07.19	洪水1A	秋七月十九日癸卯、洪水あり、五条橋・勢多橋壊れ人多く溺死す。		本紀第三	32	0
94	1449	02.03-03.03	宝徳	1	01	強風1B	宝徳元年己巳、春正月、大風あり。		本紀第三	32	0
95	1450	06.27	宝徳	2	05.09	長雨2A	九日壬子、幣を丹生・貴布祢に奉りて晴を祈る。		本紀第三	34	0
96	1450	08.06	宝徳	2	06.20	干ばつ2A	二十日壬辰、奉幣して雨を祈る。		本紀第三	34	0
97	1450	08.17	宝徳	2	07.01	暴風1A	秋七月癸卯朔、周防・長門大いに風ふき、木を抜き屋を発生く。		本紀第三	34	1
98	1450	09.01	宝徳	2	07.16	大雨1A	十六日戊午、越中大雨あり、牛嶽光を發して良に行き、山河草木を損する者多し。		本紀第三	34	1
99	1451	08.24	宝徳	3	07.19	大雨1A・洪水1A・雷1A	十九日乙卯、東大寺の南門に震す、雨水稼を傷る。		本紀第三	34	0
100	1451	09.20	宝徳	3	08.16	長雨2A	八月十六日壬午、幣を丹生・貴布祢に奉り晴を祈る。		本紀第三	34	0
101	1451	09.30	宝徳	3	08.26	長雨2A	二十六日壬辰、又晴を祈る。		本紀第三	34	0
102	1454	08.30	享徳	3	07.27	長雨2A	二十七日丁丑、奉幣して雨を止む。		本紀第三	35	0
103	1457	08.20	長祿	1	07.21	暴風1A	秋七月二十一日癸未、吉田の社鳴動す。是の夜、諸国大風ふき木を抜き屋を発く。		本紀第三	37	0
104	1459	10.15	長祿	3	09.10	洪水1A・暴風1A	九月十日己丑、大風ありて洪水す。		本紀第三	38	0
105	1460	-	寛正	1	-	干ばつ3	二月地震す。頻年旱す。風水の災に加ふるに兵役を以てす。天下凶荒、道殣相藉す。(後略)	年を特定できない。	本紀第三	38	0
106	1460	04.01-07.21	寛正	1	03-06.24	長雨1B	夏六月二十四日己巳、三月より霖して禾稼を害ふ。		本紀第三	38	0
107	1464	10.01	寛正	5	08.22	洪水1A・暴風1A	八月二十二日甲辰、行幸あり。大いに風ふき洪水し、人多く漂没す。		本紀第四	41	0
108	1468	07.29-08.26	応仁	2	07	大雨1B・洪水1B・暴風1B	秋七月、陸奥大風雨水あり。		本紀第四	44	1
109	1470	11.04	文明	2	10.03	雷1A	冬十月三日丁未、震して相国寺の塔災あり。		本紀第四	45	0
110	1471	09.25	文明	3	閏08.02	長雨1A	閏月二日壬申、霖あり。民刈穫する能はず。		本紀第四	45	0
111	1472	02.18-08.13	文明	4	01-06	干ばつ1B	夏六月、正月より雨ふらず。是に迄びて禾稼皆枯る。		本紀第四	45	0
112	1472	-	文明	4	-	洪水1C	是の歳飢う。水災あり。		本紀第四	46	0
113	1474	07.23	文明	6	06.01	干ばつ2A	六月甲申朔、雨を祈る。		本紀第四	46	0
114	1474	07.29	文明	6	06.07		七日庚寅雨ふる。		本紀第四	46	0
115	1475	05.12	文明	7	03.28	強風1A・ひょう1A	二十八日丁丑、颶風あり、民屋多く倒る。諸国雹を雨らす。		本紀第四	47	0
116	1475	07.09	文明	7	05.27	大雨1A・洪水1A	夏五月二十七日亥乙亥、大雨水あり。		本紀第四	47	0
117	1475	09.15	文明	7	08.06	洪水1A・暴風1A・高潮1A	秋八月六日癸未、大風屋を吹き、鴨川洪水し溢れて宮垣を浸す。摂津尼崎波を揚ぐ、死亡する千人余。		本紀第四	47	0
118	1476	12.20	文明	8	11.13	強風1A	(前略)延焼す。風且つ暴く、火四脚門に移り(後略)。		本紀第四	49	0
119	1477	06.26	文明	9	05.07	洪水1A	夏五月七日癸酉、洪水あり。		本紀第四	50	0
120	1477	06.27	文明	9	05.08	洪水1A	八日甲戌、又水あり。		本紀第四	50	0
121	1477	08.18-09.16	文明	9	07		是の月、北国紅雪を雨らし積もること寸余。		本紀第四	50	1
122	1478	02.09	文明	9	12.28	雷1A	二十八日辛酉雷なる。		本紀第四	50	0
123	1479	02.01	文明	11	01.01	雷1A	是の日雷なる。		本紀第四	50	0
124	1480	02.26	文明	12	01.07	雷1A	七日戊子、雷なる。		本紀第四	51	0
125	1480	03.09	文明	12	01.18	雷1A	十八日己亥、雷なる。		本紀第四	51	0
126	1480	10.09	文明	12	08.26	暴風1A	八月二十六日甲戌、大風あり殿屋頽倒す。		本紀第四	52	0
127	1482	06.26	文明	14	06.02	大雨1A・洪水1A	六月二日己亥、雨ふり水いづ。		本紀第四	53	0
128	1482	09.11	文明	14	閏07.19	暴風1A	閏七月十九日丙戌、大風あり、門墻傾倒し、稲荷の中社倒る。		本紀第四	53	0
129	1484	02.06	文明	16	01.01		(前略)頃聞雨雪あり、(後略)		本紀第四	53	0
130	1486	02.25	文明	18	01.12	雷1A	十二日己未、雷なる。		本紀第四	54	0
131	1486	10.08	文明	18	09.02	暴風1A	九月二日甲辰、大風あり、紫闕の北門倒る。出雲の大社火く。		本紀第四	55	0
132	1487	05.18	長享	1	04.16	ひょう1A	夏四月十六日丙戌、雹を雨らす。		本紀第四	55	0
133	1487	07.26	長享	1	06.27	洪水1A	六月二十七日乙未、洪水あり。		本紀第四	55	0
134	1488	11.13	長享	2	10.01	雷1A	冬十月辛卯朔、雷なる。		本紀第四	57	0

大日本野史

135	1489	05.04	延徳	1	03.25	雷1A	(和暦10月16日)是の日、卜部兼俱密かに奏して曰く、去る三月二十五日夜亥の刻、風雨雷鳴し、黒雲八流し、吉田・斎場の両宮並びに八神殿及び太元宮の上に靡き降り、中に光氣有り、(中略)又是の月四日戌刻、天氣晴朗なるに、円光一流し、(後略)。		本紀第四	58	0
136	1490	09.18	延徳	2	08.25	暴風1A	八月二十五日乙巳、大風ふく。		本紀第四	59	0
137	1490	11.17	延徳	2	09.26	低温1A	二十六日乙巳、雪を雨らす。	雪を低温と解釈した。	本紀第四	59	0
138	1492	02.01	延徳	3	12.24	雷1A	十二月二十四日丙寅、雷なる。		本紀第四	59	0
139	1492	08.01	明応	1	06.29	洪水1A	六月二十九日戊辰、洪水あり。		本紀第四	60	0
140	1494	02.15	明応	3	01.01		明応三年甲寅、春正月辛卯朔、雨に因りて小朝拝を罷む。		本紀第四	61	0
141	1494	08.19	明応	3	07.10	干ばつ2A	十日丙申、雨を丹生・貴布祢に祈る。		本紀第四	61	0
142	1495	09.05	明応	4	08.08	洪水1A	八月八日、伊勢洪水あり、五十鈴・御裳濯の二橋壊れ墜つ、民家流亡する者五十余戸。		本紀第四	62	0
143	1496	01.25	明応	5	01.01		明応五年丙辰、春正月庚辰朔、雨に依りて小朝拝を罷め、(後略)。		本紀第四	62	0
144	1496	06.22	明応	5	05.03	干ばつ2A	夏五月三日己酉、幣を丹生・貴布祢に奉り、雨を祈る。		本紀第四	62	0
145	1496	06.26	明応	5	05.07	干ばつ2A	七日癸丑、雨を諸社寺に祈る。		本紀第四	62	0
146	1496	10.02	明応	5	08.17	大雨1A・洪水1A・暴風1A	秋八月十七日辛卯、大風雨あり洪水す。		本紀第四	62	0
147	1498	06.17	明応	7	05.19	干ばつ2A	五月十九日甲寅、雨を諸社寺に祈る。		本紀第四	63	0
148	1498	11.20	明応	7	10.28	雷1A	二十八日庚寅、雷なる。流星あり、		本紀第四	63	0
149	1499	04.30	明応	8	03.11	ひょう1A	十一日辛未、越前大いに雹雨る。		本紀第四	63	1
150	1500	07.06	明応	9	05.30	長雨1A	癸未晦、霖あり、天下疫癘あり、		本紀第四	64	0
151	1501	05.17	文亀	1	04.20	ひょう1A	二十日戊戌、雹を雨らす。大いさ檳榔子の如し、草木を損せり。之を占ふ。		本紀第五	66	0
152	1501	09.19	文亀	1	07.27		七月二十七日癸卯、月暈三層なり。之を占ふ。		本紀第五	66	0
153	1501	08.24-09.22	文亀	1	07	ひょう1B	是の月雹を雨らす。		本紀第五	66	0
154	1502	10.10	文亀	2	08.29	洪水1A・暴風1A	八月二十九日己巳、大風洪水す。		本紀第五	67	0
155	1503	07.17	文亀	3	06.14	干ばつ2A	六月十四日己酉、雨を諸社に祈る。		本紀第五	67	0
156	1505	06.12-07.11	永正	2	05	長雨1B・洪水1B	五月、雨ふり霖して洪水あり。		本紀第五	68	0
157	1505	09.09	永正	2	08.02	雷1A	八月二日甲寅、上京に震す。		本紀第五	68	0
158	1510	07.16-08.14	永正	7	06	洪水1B	六月、遠江の山崩れ水涌き、螺貝出て、浜名の橋壊れ、陸地海と為る、是を今初の渡と曰ふ。		本紀第五	70	1
159	1511	09.20	永正	8	08.18	暴風1A	十八日丙申、大風ふく。年中行事の障子壊る。		本紀第五	71	0
160	1514	07.03-07.31	永正	11	06	干ばつ1B	(六月)大いに旱す。		本紀第五	72	0
161	1516	05.22	永正	13	04.11	ひょう1A	十一日壬戌、雹を雨らす、大いさ梅子の如し。水鳥觸れ死する者多し。		本紀第五	72	0
162	1517	05.31-06.28	永正	14	05	洪水1B	五月、大水あり。		本紀第五	73	0
163	1517	08.10	永正	14	07.13	大雨1A・洪水1A	十三日丁巳、大雨あり洪水す。天下大いに饑う。		本紀第五	73	0
164	1518	09.21	永正	15	08.07	長雨2A	八月七日甲戌、止雨法を修すること七日、		本紀第五	74	0
165	1519	09.04-10.03	永正	16	08	大雨1B・洪水1B	八月、大雨水あり。		本紀第五	74	0
166	1519	10.04	永正	16	09.01	暴風1A	九月壬辰朔、大風ふく。		本紀第五	74	0
167	1524	05.14-09.07	大永	4	04-07	干ばつ1B	(七月)四月より雨ふらずして、是の月に至る。		本紀第五	76	0
168	1528	04.29-07.26	享祿	1	夏	干ばつ1C	是の夏、兵士、御菩薩池・広沢池の水を截り落し、加之災旱雨らざること四旬余、草木皆枯る。		本紀第六	79	0
169	1528	08.24	享祿	1	07.29	干ばつ2A	七月二十九日己亥晦、雨を諸寺に祈る。		本紀第六	79	0
170	1528	12.01	享祿	1	10.10	雷1A・ひょう1A	十月十日戊寅、雷なり、雹を雨らす、大いさ梅子の如く、翌町に迄りて未だ消えず。雁鹿・鹿兎雹に当りて斃る者算無し。		本紀第六	79	0
171	1528	11.22-02.18	享祿	1	冬	低温1C	是の冬、寒く、近江の湖水氷り、宇治川涸く。		本紀第六	79	0
172	1529	08.16	享祿	2	07.03	干ばつ2A	七月三日丙申、雨を祈る。		本紀第六	79	0
173	1533	05.17	天文	2	04.13	雷1A	四月十三日丙戌、晴天に雷なり、既にして霰を下らし大いさ木槵子の如く、遂に雨に和して降り、且つ震し、人多く死す。		本紀第六	81	0
174	1533	11.04	天文	2	10.08	雷1A	十月八日丁丑、雲無くて雷なり、暁に及び衆星半天に流れ、墜つる響き雷の如し。		本紀第六	81	0
175	1534	09.20	天文	3	08.03	大雨1A・洪水1A・暴風1A	八月三日丁酉、大風雨あり洪水す。		本紀第六	81	0
176	1535	03.19	天文	4	02.06	大雨1A・暴風1A	二月六日丁酉依る、大風雨あり、日華門倒る。		本紀第六	81	0

大日本野史

177	1535	03.27	天文	4	02.14	洪水1A	十四日乙巳、美濃大水、人死する者二万余、民戸流亡する数万家。		本紀第六	81	1
178	1535	03.30-08.08	天文	4	02.17-06	干ばつ1B	(二月)十七日戊申より六月に迄るも雨ふらず。		本紀第六	81	0
179	1535	09.10	天文	4	08.03	洪水1A	八月三日壬辰、大水あり。		本紀第六	81	0
180	1536	06.29-07.27	天文	5	06	洪水1B	六月陸奥の会津大水あり。		本紀第六	81	1
181	1539	10.09	天文	8	08.17	大雨1A・洪水1A・暴風1A	十七日壬午、大風雨、水あり、人民多く溺死す。		本紀第六	83	0
182	1540	05.25	天文	9	04.09	大雨1A・洪水1A	夏四月九日辛未、大雨あり洪水す。		本紀第六	83	0
183	1540	06.15-07.13	天文	9	05	洪水1B	五月、京師大水あり。		本紀第六	83	0
184	1540	09.21	天文	9	08.11	洪水1A・暴風1A	秋八月十一日庚午、大風洪水あり。		本紀第六	83	0
185	1541	09.11	天文	10	08.11	洪水1A・暴風1A	秋八月十一日乙丑、大風ふき、宜陽殿の軒廊・月華門の車寄・外庁倒れ、木を抜き屋を発き、大射川の水逆流し、行人歩して済る。		本紀第六	83	0
186	1544	08.07	天文	13	07.09	洪水1A	秋七月九日丙午、洪水あり。四条・五条の橋墜ち、祇園社の鳥居流失し、水皇居に溢れ、西垣門墻壊る。(中略)摂津・河内殊に甚しく、人畜溺死する者多し。		本紀第六	84	0
187	1546	05.10-06.08	天文	15	04	ひょう1B	是の月、京師雹を雨らす。		本紀第六	85	0
188	1546	09.27	天文	15	08.23		八月二十三日丁未、黄雲西方に見はる。(後略)		本紀第六	85	0
189	1548	04.27	天文	17	03.09		三月九日乙酉、旗雲見はる。巽より乾燥に互る。		本紀第六	86	0
190	1550	09.22	天文	19	08.02	洪水1A	秋八月二日癸亥、大水あり。		本紀第六	86	0
191	1552	05.04-06.02	天文	21	04	ひょう1B	夏四月、雹を雨らす。		本紀第六	87	0
192	1552	08.01-08.29	天文	21	07	洪水1B	秋七月、洪水あり。		本紀第六	87	0
193	1553	08.02	天文	22	06.13	干ばつ2A	六月十三日戊子、雨を諸社に祈る。		本紀第六	87	0
194	1555	03.23	弘治	1	02.20	砂じん1A	弘治元年乙卯、春二月二十日丙戌、若狭、泥を雨らす。		本紀第六	88	1
195	1555	06.29-07.28	弘治	1	06	暴風1B	夏六月、大風ふく。		本紀第六	88	0
196	1557	08.10	弘治	3	07.06	干ばつ2A	秋七月六日丁巳、雨を諸社・諸寺に祈る。		本紀第六	89	0
197	1557	09.28	弘治	3	08.26	暴風1A・高潮1A	八月二十六日丙午、大風ふく。摂津・播磨、潮溢れ、死亡する者多し。		本紀第六	89	0
198	1557	06.07-10.02	弘治	3	05-08	干ばつ1B	(八月)五月より是の月に迄るまで雨ふらず。		本紀第六	89	0
199	1557	-	弘治	3	-	干ばつ1C	是の歳、大いに旱す。飢う。餓草相望む。		本紀第七	90	0
200	1558	-	永禄	1	-	干ばつ1C	是の歳、大いに旱す。		本紀第七	91	0
201	1559	07.15-08.13	永禄	2	06	干ばつ1B	六月、旱す。		本紀第七	91	0
202	1561	01.02	永禄	3	12.07	雷1A	冬十二月七日戊戌、雷なる。		本紀第七	91	0
203	1561	12.25	永禄	4	11.09	雷1A	冬十一月九日乙未、雷なる。		本紀第七	92	0
204	1563	05.02	永禄	6	03.30	雷1A	戊申晦、東寺の塔に震す。		本紀第七	92	0
205	1566	10.16	永禄	9	閏08.23	長雨2A	二十三日辛亥、晴を諸社に祈る。		本紀第七	93	0
206	1573	10.04	天正	1	08.28	暴風1A	二十八日丙子、大風ふく。		本紀第七	95	0
207	1578	06.27	天正	6	05.12	大雨1A・洪水1A	五月十二日癸亥、大雨ふり洪水す。		本紀第七	97	0
208	1578	08.14-09.11	天正	6	07	洪水1B	秋七月、大水あり。		本紀第七	97	0
209	1580	09.20	天正	8	08.09	暴風1A	八月九日丙午、風ふく。	台風でない可能性もある。	本紀第七	98	0
210	1586	01.19	天正	13	11.30	雷1A	丙寅晦、雷なる。		本紀第七	100	0
211	1586	03.05	天正	14	01.15	雷1A	十五日辛亥、大雷なる。		本紀第七	100	0
212	1590	-	天正	18	-	ひょう1C	是の歳、雹を雨らす、大いさ栗の如し。		本紀第八	104	0
213	1591	03.23	天正	19	閏01.28	雷1A	閏月二十八日乙未、雷なる。		本紀第八	104	0
214	1591	08.07	天正	19	06.18	ひょう1A	夏六月十八日壬子、大いに雹を雨らす。		本紀第八	104	0
215	1595	09.13	文禄	4	08.10	大雨1A・洪水1A	十日庚戌、大雨ありて洪水す。		本紀第八	106	0
216	1596	01.16	文禄	4	12.17	雷1A	十七日乙卯、雷なる。		本紀第八	106	0
217	1596	04.28-05.26	慶長	1	04	低温1B	慶長四年丙申、夏四月、雪ふる。	雪を低温と解釈した。	本紀第八	106	0
218	1596	07.22	慶長	1	06.27	砂じん1A	是の日、塵霧降ること灰の如し。		本紀第八	106	0
219	1596	07.27	慶長	1	07.03	砂じん1A	三日戊辰、京畿陰りて霾り、大風沙を揚ぐ。		本紀第八	106	0
220	1598	02.12	慶長	3	01.07	大雪1A	七日癸巳、畿内大いに雪ふる。		本紀第八	107	0
221	1598	05.08	慶長	3	04.03	霜1A・低温1A	夏四月三日戊午、霜を雨らし茶枯るる。	霜を低温と解釈した。	本紀第八	107	0
222	1598	08.29	慶長	3	07.28	暴風1A	二十八日辛亥、大風ふく。		本紀第八	107	0
223	1604	01.24	慶長	8	12.23	雷1A	二十三日乙巳、雷なる。		本紀第八	110	0
224	1605	05.18-08.14	慶長	10	夏-06	干ばつ1C	是の夏、旱して六月に迄り、昆陽池涸るる。		本紀第八	111	0

大日本野史

225	1605	09.06	慶長	10	07.23	洪水1A	(七月二十三日)近江・美濃・尾張・参河大水あり。	本紀第八	111	0
226	1605	08.15-09.12	慶長	10	07	洪水1B	(七月)是の月、東海道大水あり。	本紀第八	111	0
227	1606	04.11	慶長	11	03.04	雷・ひょう1A	三月四日癸酉、東国雹を雨らず、大雷なる。	本紀第八	111	1
228	1606	09.03-10.01	慶長	11	08	暴風1B	秋八月、山陽・南海の二道大風ふきて稼を傷る。	本紀第八	111	0
229	1607	02.23	慶長	12	01.27	雷1A	二十七日辛卯、雷なる。	本紀第八	112	0
230	1607	02.24	慶長	12	01.28	雷1A	二十八日壬辰、又雷なる。	本紀第八	112	0
231	1607	08.30	慶長	12	07.08	砂じん1A	秋七月八日己亥、泥を雨らす。	本紀第八	112	0
232	1607	12.19	慶長	12	11.01	雷1A	冬十一月庚寅朔。雷なる。	本紀第八	112	0
233	1608	07.12-08.10	慶長	13	06	洪水1B	六月、大水あり。	本紀第八	112	0
234	1608	09.09	慶長	13	08.01	洪水1A	八月乙卯朔、大水あり。	本紀第八	113	0
235	1609	04.08	慶長	14	03.04	ひょう1A	駿河・上総、雹を雨らして民屋を壊る。	本紀第八	113	1
236	1609	09.14	慶長	14	08.16	洪水1A	八月十六日乙丑、大水あり。	本紀第八	114	0
237	1609	12.03	慶長	14	11.07	雷1A	十一月七日乙酉、雷なる。	本紀第八	114	0
238	1611	10.06-11.04	慶長	16	09	洪水1B	九月、奥州の二州、地陥り水涌き、死する者八千人。	本紀第九	116	1
239	1612	05.24	慶長	17	04.24	ひょう1A	夏四月二十四日戊子、雹を雨らす。	本紀第九	117	0
240	1612	07.23	慶長	17	06.25	暴風1A	(和暦6月25日)是れより先、南都大風ふき、春日山の木多く折る。(後略)	本紀第九	117	0
241	1613	08.01	慶長	18	06.15	干ばつ1A	夏六月十五日壬寅、炎旱に因り雨を伊勢に祈る。	本紀第九	118	0
242	1614	05.14	慶長	19	04.06	ひょう1A・低温1A	六日戊子、雹を雨らし寒きこと冬の如し。	本紀第九	118	0
243	1614	07.06	慶長	19	05.29	長雨2A	五月二十九日辛巳、雨を伊勢に祈り止む。	本紀第九	118	0
244	1614	07.28	慶長	19	06.22	大雨1A・洪水1A・雷1A	(前略)時に天俄然として雲起り、雷雨下る。(中略)畿内大水あり、鴨川泛滥し、民屋を漂没す。	本紀第九	118	0
245	1614	08.11	慶長	19	07.06	暴風1A	秋七月六日丁巳、東海道大風ふき屋を壊る。	本紀第九	118	0
246	1614	09.02	慶長	19	07.28	洪水1A・暴風1A	二十八日己卯、畿内東海道大水あり。江戸大風ふき、民舎を破る。	本紀第九	118	0
247	1614	09.19	慶長	19	08.16	洪水1A	八月十六日丙申、是れより先、多武峰の社洪水に因りて壊る。	本紀第九	119	0
248	1614	11.19	慶長	19	10.18	雷1A	十八日丁酉、又鳴動す。雷なる。	本紀第九	119	0
249	1614	12.15	慶長	19	11.15		十五日癸亥、旗雲見はる。	本紀第九	119	0
250	1615	07.18	元和	1	06.23	大雨1A・洪水1A	二十三日戊戌、大雨ふり洪水す。	本紀第九	119	0
251	1615	08.08	元和	1	閏06.14		閏月十四日己未、旗雲見はる。	本紀第九	119	0
252	1616	03.25	元和	2	02.08		二月八日己酉、旗雲見はる。	本紀第九	120	0
253	1617	02.12	元和	3	01.07		元和三年丁巳、春正月七日癸酉、白馬節、雨に依りて殿に御せず。立楽を廃す。	本紀第九	120	0
254	1617	02.24	元和	3	01.19		十九日乙酉、旗雲見はる。	本紀第九	120	0
255	1617	05.16	元和	3	04.12	強風1A	夏四月十二日丙午、日光、大風ふく。	本紀第九	121	1
256	1617	06.04	元和	3	05.01	ひょう1A	五月乙丑朔、大いに雹を雨らす。	本紀第九	121	0
257	1617	06.21	元和	3	05.18		十八日壬午、毛を雨らす。	本紀第九	121	0
258	1617	06.22	元和	3	05.19		十九日癸未、又毛を雨らす。	本紀第九	121	0
259	1617	10.19	元和	3	09.20		是の日、旗雲南北に見はる。	本紀第九	121	0
260	1618	03.11	元和	4	02.15		二月十五日乙巳、旗雲見はる。	本紀第九	121	0
261	1618	07.03	元和	4	05.11	洪水1A	夏五月十一日己亥、洪水す。	本紀第九	121	0
262	1618	12.07	元和	4	10.21		二十一日丙子、朝暾の色紅の如し。	本紀第九	121	0
263	1618	12.24	元和	4	11.08	雷1A	十一月八日癸巳、雷なる。	本紀第九	121	0
264	1619	02.18	元和	5	01.06		元和五年己未、春正月六日辛卯、旗雲見はる。	本紀第九	122	0
265	1620	06.21	元和	6	05.21	洪水1A	五月二十一日戊戌、洪水あり。	本紀第九	123	0
266	1620	07.07	元和	6	06.08		八日甲寅、旗雲見はる。	本紀第九	123	0
267	1621	08.07	元和	7	06.20	雷1A	夏六月二十日庚辰、上賀茂に震す。	本紀第九	124	0
268	1622	11.22	元和	8	10.20		二十日壬午、旗雲見はる。	本紀第九	124	0
269	1623	04.15	元和	9	03.16		十六日丙午、旗雲見はる。	本紀第九	124	0
270	1626	04.13	寛永	3	03.17		三月十七日甲午、旗雲見はる。	本紀第九	126	0
271	1626	06.02	寛永	3	閏04.08	暴風1A	閏四月八日庚戌、大風ふき官倉倒る。	本紀第九	126	0
272	1626	04.26-08.22	寛永	3	夏	干ばつ1C	是の夏、旱す。	本紀第九	126	0
273	1626	06.30	寛永	3	05.07	暴風1A	五月七日戊寅、大風ふき愛宕山の杉木倒る。	本紀第九	126	0
274	1626	07.10	寛永	3	05.17		十七日戊子、旗雲東西に見はる。	本紀第九	126	0
275	1626	07.15	寛永	3	05.22	干ばつ2A	二十二日癸巳、雨を伊勢に祈る。	本紀第九	126	0
276	1626	07.22	寛永	3	05.29		二十九日庚子晦、雨る。	本紀第九	126	0
277	1626	08.05	寛永	3	06.14	干ばつ1A	十四日甲寅、諸国洪水あり。夏より是に至りて大いに旱し、京師の井水竭き、江河涸れ渴き、魚鱗皆死し、草木萎れ枯るる。	本紀第九	126	0
278	1626	04.26-08.04	寛永	3	夏-06.13	干ばつ1C	(和暦6月14日)十四日甲寅、諸国洪水あり。夏より是に至りて大いに旱し、京師の井水竭き、江河涸れ渴き、魚鱗皆死し、草木萎れ枯るる。	本紀第九	126	0
279	1627	03.14	寛永	4	01.27		二十七日壬戌、旗雲南北に見はる。	本紀第九	126	0
280	1627	08.22	寛永	4	07.12	暴風1A	十二日丙子、大風ふく。	本紀第九	126	0
281	1627	08.11-11.07	寛永	4	秋	洪水1C	是の秋、諸国大水あり。	本紀第九	127	0

大日本野史

282	1628	11.11	寛永	5	10.16	雷1A	十六日癸卯、雷なる。		本紀第九	127	0
283	1629	04.14	寛永	6	閏02.21		二十一日丁丑、旗雲南北に見はる。		本紀第九	127	0
284	1629	07.06	寛永	6	05.16	洪水1A	十六日庚子、洪水あり。		本紀第九	127	0
285	1629	09.21	寛永	6	08.05	暴風1A	八月五日丁巳、大風ふく。		本紀第九	127	0
286	1630	03.29	寛永	7	02.16		十六日丙申、旗雲坤に見はる。消えざること三日。		本紀第十	130	0
287	1630	07.28	寛永	7	06.19	大雨1A・洪水1A・暴風1A	十九日丁卯、大風雨ありて洪水す。越前大水あり死亡するもの二百数十人。		本紀第十	130	0
288	1631	04.20	寛永	8	03.19		三月十九日癸巳、灰を雨らす。甘露降る。		本紀第十	131	0
289	1631	05.17-05.22	寛永	8	04.16-04.21		夏四月十六日庚申、天色赤く、廿一日乙丑に至りて消ゆ。		本紀第十	131	0
290	1631	05.17	寛永	8	04.16	ひょう1A	甲斐、大いに雹を雨らす。		本紀第十	131	1
291	1631	06.20	寛永	8	05.21	干ばつ2A	五月二十一日甲午、最胤法親王をして不動護摩を宮中に修せしめ、雨を祈ること七日。		本紀第十	131	0
292	1631	06.23	寛永	8	05.24		二十四日丁酉、雨る。		本紀第十	131	0
293	1631	10.14	寛永	8	09.19	洪水1A	九月十九日庚寅、東国大水あり。		本紀第十	131	1
294	1632	02.24	寛永	9	01.05	雷1A	五日癸丑、雷なる。		本紀第十	132	0
295	1632	09.14-02.08	寛永	9	08-冬		八月より冬に至りて日月赤氣有り。		本紀第十	132	0
296	1633	03.07	寛永	10	01.27	雷1A	二十七日庚申、雷なる。		本紀第十	132	0
297	1633	05.19	寛永	10	04.12	ひょう1A	夏四月十二日癸酉、雹を雨らす。		本紀第十	132	0
298	1633	08.11	寛永	10	07.07		秋七月七日丁酉、旗雲見はる。		本紀第十	132	0
299	1633	11.27	寛永	10	10.26		冬十月二十六日乙酉、旗雲東西に見はる。		本紀第十	132	0
300	1634	03.29	寛永	11	03.01		三月丁亥朔、日当に食すべきに、天陰りて見えず。		本紀第十	133	0
301	1634	05.10	寛永	11	04.13	ひょう1A	夏四月十三日己巳、雹を雨らす。		本紀第十	133	0
302	1635	09.07	寛永	12	07.26		秋七月二十六日甲戌、天色赤きこと火の如し。		本紀第十	133	0
303	1637	01.26-02.13	寛永	14	春-冬		是の春、夕陽の色赤きこと虹の如し。夏秋に至り暁毎に東方に赤氣有り、冬に至るも消えず。		本紀第十	134	0
304	1644	08.31	正保	1	07.29	大雨1A・暴風1A	秋七月二十九日乙卯、夜、伊勢大風雨あり、神山の樹木多く倒れ、皇太神宮の正殿毀ちて風宮倒る。		本紀第十一	138	0
305	1647	05.19	正保	4	04.15		夏四月十五日丙戌夜、月に暈有り。(後略)		本紀第十一	138	0
306	1647	05.29	正保	4	04.25	低温1A	二十五日丙寅、東国雪を雨らし、寒さ冬の如し。		本紀第十一	138	1
307	1647	08.22	正保	4	07.22	ひょう1A	二十二日辛酉、雹を雨らす、大いさ梅子の如し。		本紀第十一	138	0
308	1648	07.03	慶安	1	05.13	ひょう1A	五月十三日丁丑、武蔵の河越、雹を雨らす、大いさ瓜の如し。		本紀第十一	139	1
309	1650	05.01-05.29	慶安	3	04	ひょう1B	夏四月、常陸雹を雨らす。		本紀第十一	139	1
310	1650	07.02	慶安	3	06.04		六月四日丙戌、毛を雨らす、長さ四五寸なり。		本紀第十一	139	0
311	1650	09.26-10.24	慶安	3	09	洪水1B	秋九月、諸国大水あり。		本紀第十一	139	0
312	1653	10.03	承応	2	08.12	洪水1A	(八月十二日)諸国大水あり。		本紀第十一	140	0
313	1656	02.18	明暦	2	01.23		是の夜、赤雲西方に見はる。		本紀第十二	145	0
314	1656	10.15	明暦	2	08.28	暴風1A	秋八月二十八日癸卯、江戸大風ふく。		本紀第十二	145	1
315	1658	02.20	万治	1	01.18		十八日丙辰、日に重量有り。		本紀第十二	145	0
316	1658	08.31	万治	1	08.03	大雨1A・洪水1A・暴風1A	八月三日戊辰、大風雨あり、鴨川泛滥す。		本紀第十二	145	0
317	1659	07.26	万治	2	06.07	ひょう1A	六月七日丁酉、常陸、雹を雨らす。大いさ柿の如し。		本紀第十二	146	1
318	1660	03.21	万治	3	02.10		二月十日丙申、朝暁の色赤くして光無きこと数日、十六日壬寅、暁に月食赤く、夕陽も亦た赤し。		本紀第十二	146	0
319	1660	06.08-07.07	万治	3	05	長雨1B・洪水1B	五月、霖あり、諸国大水あり。		本紀第十二	146	0
320	1660	07.25	万治	3	06.18	雷1A	六月十八日壬寅、大坂城の銃薬倉に震し、天主樓門櫓を延焼す。		本紀第十二	146	0
321	1660	08.12	万治	3	07.07	大雨1A・洪水1A・暴風1A	秋七月七日庚申、大風雨あり、水いづ。		本紀第十二	146	0
322	1660	09.03	万治	3	07.29	洪水1A	二十九日壬午、京師水あり。		本紀第十二	146	0
323	1660	09.24	万治	3	08.20	大雨1A・洪水1A・暴風1A	是の日大風雨あり、京師・諸国水いづ。伊勢の宇治橋壊る。		本紀第十二	146	0
324	1661	06.15	寛文	1	05.19	あられ1A	五月十九日丁卯、霰を雨らす。		本紀第十二	146	0
325	1662	04.24-05.08	寛文	2	03.06-03.20		三月六日庚辰、朝陽及び月の色赤くして血の如きこと二十日に至る。		本紀第十二	147	0
326	1662	07.28	寛文	2	06.13	洪水1A	六月十三日乙卯、諸国大水あり、日光稲荷川洪水し、人多く流亡す。諸国地震ふ。		本紀第十二	147	0
327	1663	06.27	寛文	3	05.22	洪水1A	五月二十二日乙酉、大水あり。		本紀第十三	149	0
328	1665	02.16	寛文	5	01.02		寛文五年乙巳、春正月二日乙丑、大坂城に震し、天主樓災あり。		本紀第十三	150	0
329	1667	05.02	寛文	7	03.10	ひょう1A	三月十日甲寅、雹を雨らす。		本紀第十三	151	0
330	1668	02.12-04.11	寛文	8	01-02		寛文八年戊申、春正月より二月に至り、白氣西方に見はれ、形竿の如し。		本紀第十三	151	0
331	1668	-	寛文	8	-	干ばつ1C	是の歳、諸国大いに旱す。		本紀第十三	151	0

大日本野史

332	1669	06.28-07.27	寛文	9	06	洪水1B	六月、加賀・能登・越中大水ありて人多く死す。		本紀第一十三	151	1
333	1669	-	寛文	9	-	洪水1C	是の歳、四国及び出雲・豊前・筑前・肥前大水あり。		本紀第一十三	152	1
334	1670	10.06	寛文	10	08.23	暴風1A・高潮1A	秋八月二十三日丁未、摂津大風ふき土塊を雨らし、西海洪濤を揚げ、潮淀川に浜りて枚方に至り、舟多く漏れ没す。		本紀第一十三	152	0
335	1671	10.01	寛文	11	08.29	大雨1A・洪水1A・暴風1A	二十九日丁未、東海大風雨あり、水いづ。		本紀第一十三	152	0
336	1671	12.02-12.30	寛文	11	11		冬十一月、摂津伊丹の山躑躅花を発く、及び畿内の草木多く花さき、春の如し。		本紀第一十三	152	0
337	1673	06.15-07.13	延宝	1	05	洪水1B	(五月)是の月、肥前・筑後・備前・備後・播磨・因幡・美作・阿波・土佐・讃岐・伊予、大水あり。		本紀第一十三	153	0
338	1674	04.02	延宝	2	02.26		二月二十六日辛酉夜、黒雲空に架る。		本紀第一十三	153	0
339	1674	05.16	延宝	2	04.11	洪水1A	夏四月十一日乙巳、畿内洪水し、三条橋壊る。		本紀第一十三	153	0
340	1674	07.14	延宝	2	06.11	ひょう1A	六月十一日甲辰、雹を雨らす。大いさ拳の如く、觸るる者疵を被る。		本紀第一十三	153	0
341	1674	07.16	延宝	2	06.13	洪水1A	十三日丙午、畿内大水あり、人畜多く死す。歳飢う。		本紀第一十三	153	0
342	1676	08.13	延宝	4	07.04	大雨1A・洪水1A・暴風1A	秋七月四日乙酉、大風雨あり、東海道洪水す。		本紀第一十三	153	0
343	1677	11.04	延宝	5	10.09	(高潮1A)	冬十月九日癸丑、常陸の水戸・陸奥・岩城、逆浪陸を浸し、人畜溺死し、屋舎流亡せり。是の月、尾張の海、波を揚げて光を飛ばし、漁舟を傷く。		本紀第一十三	154	1
344	1678	07.11	延宝	6	05.23	ひょう1A	延宝六年戊午、夏五月二十三日壬戌、雹を雨らす。		本紀第一十三	154	0
345	1678	09.03	延宝	6	07.18	大雨1A・洪水1A・暴風1A	秋七月十八日丙辰、土佐・伊予・豊前、風雨あり洪水す。		本紀第一十三	154	0
346	1680	04.29-05.27	延宝	8	04		延宝八年庚申、夏四月、日の色赤きこと丹の如し。		本紀第一十三	154	0
347	1680	04.29-07.25	延宝	8	夏	長雨1C	是の夏、霖あり、東海道水災、人多く溺死せり。		本紀第一十三	154	0
348	1680	12.21-01.19	延宝	8	11	高温1B	是の月、駿府筍を生じ、季候夏の如し。		本紀第一十三	155	1
349	1680	07.26-02.18	延宝	8	秋-冬	干ばつ1C	是の歳大いに旱し、秋より冬に至る。		本紀第一十三	155	0
350	1682	05.08-08.02	天和	2	夏	洪水1C	是の夏、諸国大水あり、江戸の両国橋壊る。		本紀第一十三	155	0
351	1686	03.17	貞享	3	02.23	雷1A・強風1A	貞享三年丙寅、春二月二十三日戊申、京師風雨あり、雷なる。		本紀第一十三	157	0
352	1686	07.05	貞享	3	05.15	洪水1A	夏五月十五日戊戌、近江大水あり。		本紀第一十三	157	0
353	1689	11.12-02.08	元禄	2	冬	高温1C	是の冬温かにして年有り。		本紀第一十四	161	0
354	1690	09.16	元禄	3	08.14	大雨1A・洪水1A	秋八月十四日壬申、京師及び近畿、大雨洪水あり。		本紀第一十四	161	0
355	1693	03.03	元禄	6	01.27	強風1A	二十七日辛未、大風ふき、淀川の舟梁多く壊る。		本紀第一十四	162	0
356	1699	04.11	元禄	12	03.12	低温1A	三月十二日辛巳、雪を雨らす。	雪を低温と解釈した。	本紀第一十四	163	0
357	1699	04.30-05.28	元禄	12	04	ひょう1A	夏四月、雹を雨らす。		本紀第一十四	163	0
358	1701	07.24	元禄	14	06.19	洪水1A・雷1A・ひょう1A	六月十九日乙亥、京師大雷あり、百三處に震ふ。洪水し多く死す。		本紀第一十四	163	0
359	1701	08.04-09.02	元禄	14	07	暴風1B	秋七月、大風ふく。		本紀第一十四	163	0
360	1704	09.02	宝永	1	08.04	洪水1A	秋八月四日辛未、武蔵・下総大水あり、人畜多く損す。		本紀第一十四	164	1
361	1705	07.21-08.18	宝永	2	06	洪水1B	六月、参河・遠江大水あり。		本紀第一十四	164	1
362	1707	11.27	宝永	4	11.04	雷1A	十一月四日壬子、京師大いに雷雨あり。		本紀第一十四	165	0
363	1708	02.24	宝永	5	閏01.03	砂じん1A	閏月三日辛巳、武蔵・相模・駿河・参河、砂を雨らす。		本紀第一十四	165	1
364	1708	04.28	宝永	5	03.08	強風1A	三月八日乙酉、大風ふき、姊小路の民家火け、延いて皇宮に及び、(後略)。		本紀第一十四	166	0
365	1708	08.08	宝永	5	06.22	洪水1A	六月二十二日丁卯、山城大水あり。		本紀第一十四	166	0
366	1708	08.17	宝永	5	07.02	暴風1A	秋七月二日丙子、京師及び畿内大風ふく。		本紀第一十四	166	0
367	1709	08.09	宝永	6	07.04	暴風1A	四日癸酉、畿内近国大風あり、屋を抜き稼を損ふ。		本紀第一十五	168	0
368	1711	09.21	正徳	1	08.09	暴風1A	八月九日丙寅、大風ふく。		本紀第一十五	169	0
369	1712	09.28	正徳	2	08.28	洪水1A	(八月二十八日)摂津大水あり。		本紀第一十五	169	0
370	1713	09.20-10.18	正徳	3	08	洪水1B	是の月、摂津水あり。		本紀第一十五	170	0
371	1715	07.07	正徳	5	06.07	洪水1A	夏六月七日辛未、鴨川洪水あり。		本紀第一十五	170	0

大日本野史

372	1716	06.20-07.18	享保	1	05	洪水1B	五月、伏見・木津・淀、大水あり。		本紀第一十五	171	0
373	1717	09.20	享保	2	08.16	暴風1A	秋八月十六日丁酉、東国大風ふき稼を傷ふ。		本紀第一十五	171	1
374	1721	08.26	享保	6	閏07.04	大雨1A・洪水1A・暴風1A	(閏七月四日)京師及び参河・遠江・備前・伊予・信濃・近江・武蔵・下総、大風雨あり水いづ。		本紀第一十五	172	0
375	1728	08.13	享保	13	07.08	大雨1A・洪水1A・暴風1A	八日丁巳、畿内大風雨あり洪水す。		本紀第一十五	174	0
376	1728	09.04-10.02	享保	13	08	洪水1B	是の月、東西の諸国洪水あり。		本紀第一十五	174	0
377	1729	06.26-07.25	享保	14	06		六月、甘露を雨らす。		本紀第一十五	175	0
378	1731	08.15	享保	16	07.13	暴風1A・波浪1A	秋七月十三日甲戌、遠江大風ふき、波浪遽かに起り、商船沈み溺る者、三百九十八艘、人多く没す。		本紀第一十五	175	1
379	1734	05.03-10.26	享保	19	夏-秋	洪水1C	夏より秋に至り、諸国洪水あり。		本紀第一十五	176	0
380	1735	08.09	享保	20	06.21	大雨1A・洪水1A・暴風1A	二十一日己丑、畿内大風雨あり、水いづ。		本紀第一十六	178	0
381	1735	08.18-09.16	享保	20	07	暴風1B	七月、江戸大風ふく。		本紀第一十六	178	1
382	1737	04.16	元文	2	03.17	強風1A	三月十七日乙巳、京師颶風ありて屋を破る。		本紀第一十六	179	0
383	1739	08.20	元文	4	07.16	雷1A	秋七月十六日辛酉、大坂雷なり数處に震ふ、人多く損傷す。		本紀第一十六	180	0
384	1740	07.02	元文	5	06.09	洪水1A	六月九日戊寅、京師及び畿内洪水す。		本紀第一十六	180	0
385	1740	09.06	元文	5	閏07.16	大雨1A・洪水1A・暴風1A	閏七月十六日甲申、京師大風雨あり洪水す。大和又た水あり。		本紀第一十六	180	0
386	1742	08.11	寛保	2	07.11	大雨1A・暴風1A	秋七月十一日戊辰、畿内大風雨あり。三条橋壊る。		本紀第一十六	181	0
387	1742	08.30-09.28	寛保	2	08	洪水1B	是の月、東国及び北陸洪水あり、田園廬舎を漂没し、人多く死す。		本紀第一十六	181	1
388	1744	08.30	延享	1	07.23	大雨1A・洪水1A	秋七月二十三日戊戌、京師雨ふり水いづ。		本紀第一十六	182	0
389	1745	08.27-09.25	延享	2	08	洪水1B	秋八月、宇治川大水いづ。		本紀第一十六	182	0
390	1749	08.13-11.09	寛延	2	秋	大雨1C・暴風1C	是の秋、丹後・但馬大風雨あり。		本紀第一十七	185	1
391	1750	05.28	寛延	3	04.23	雷1A	是の日、江戸大雷あり、震死する者多し。陸奥・日光殊に甚し。		本紀第一十七	185	1
392	1750	09.26	寛延	3	08.26	雷1A	二十六日丙申、二条城に震し、天主樓災あり。		本紀第一十七	186	0
393	1750	09.30-10.29	寛延	3	09		九月、京師の四郊、草木皆花さき、景、春色の如し。		本紀第一十七	186	0
394	1751	03.26	宝暦	1	02.29		北国赤き雪降る。		本紀第一十七	186	1
395	1755	07.09-08.07	宝暦	5	06	洪水1B	六月、肥後洪水あり。		本紀第一十七	187	1
396	1755	08.20	宝暦	5	07.13		秋七月十三日乙酉、陸奥の津軽、雪を雨らす。		本紀第一十七	187	1
397	1755	09.29	宝暦	5	08.24	暴風1A	八月二十四日乙丑、筑紫大風ふく。		本紀第一十七	187	1
398	1756	10.09	宝暦	6	09.16	大雨1A・暴風1A	九月十六日辛巳、畿内大風雨あり。		本紀第一十七	188	0
399	1756	10.27	宝暦	6	10.04	洪水1A	冬十月四日己亥、山城洪水あり。		本紀第一十七	188	0
400	1757	05.18-06.16	宝暦	7	04	洪水1B	夏四月、東海・北陸の二道洪水あり。		本紀第一十七	188	0
401	1758	10.26	宝暦	8	09.25	ひょう1A	九月二十五日戊申、大坂雪を雨らす。		本紀第一十七	188	0
402	1760	01.12	宝暦	9	11.25	大雨1A・強風1A・雷1A	冬十一月二十五日辛未、畿内大風雨あり、雷なる。		本紀第一十七	188	0
403	1761	04.05-05.04	宝暦	11	03	大雨1B・洪水1B・強風1B	三月松前大風雨あり、水いづ。		本紀第一十七	189	1
404	1762	03.17	宝暦	12	02.22	強風1A	宝暦十二年壬午、春二月二十二日丙戌、若狭大風ふく。		本紀第一十七	189	1
405	1763	01.11	宝暦	12	11.28	雷1A	十一月二十八日丙戌、大坂雷なる。		本紀第一十八	190	0
406	1765	08.19	明和	2	07.03	大雨1A・暴風1A	秋七月三日丁丑、畿内・近江・伊勢・紀伊・播磨、大風雨あり。		本紀第一十八	191	0
407	1765	09.17	明和	2	08.03	大雨1A・暴風1A	八月三日丙午、京師大風雨あり。		本紀第一十八	191	0
408	1766	03.08	明和	3	01.28	大雪1A	明和三年丙戌、春正月二十八日戊戌、陸奥の津軽大いに雪ふり、地震ひ火起り、人多く死す。		本紀第一十八	191	1
409	1766	08.11	明和	3	07.06	洪水1A	秋七月六日甲戌、江戸水いづ。		本紀第一十八	191	1
410	1766	08.16	明和	3	07.12	ひょう1A・低温1A	十二日庚辰、大坂雪を雨らす。寒き冬の如し。淡路旱す。		本紀第一十八	191	0

大日本野史

411	1766	08.16	明和	3	07.12	干ばつ1A	十二日庚辰、大坂雪を雨らす。寒さ冬の如し。淡路旱す。		本紀第一十八	191	0
412	1767	07.27	明和	4	07.02	高潮1A	秋七月二日甲子、尾張・参河の海、波を揚げ、洪水、民家を漂蕩し、人畜多く死す。		本紀第一十八	191	1
413	1769	06.06	明和	6	05.03		夏五月三日甲申、京師及び諸国毛を雨らす。長さ七八寸、色白黒なり。		本紀第一十八	192	0
414	1769	09.25	明和	6	08.26	洪水1B	是の日、山城大水あり。		本紀第一十八	192	0
415	1769	10.01	明和	6	09.02	ひょう1A	九月二日辛巳、京師・大坂雪を雨らす。大いさ拳の如し。		本紀第一十八	192	0
416	1769	10.06	明和	6	09.07		七日丙戌、京師近国、白毛を雨らす。		本紀第一十八	192	0
417	1770	06.23-07.22	明和	7	06		明和七年庚寅、夏六月、星、月を貫く。旗雲見はる。		本紀第一十八	192	0
418	1770	06.23-10.18	明和	7	06-08	干ばつ1B	(六月)是の月より八月に迄び、京師及び畿内旱し、井澗れ野に青草無し。		本紀第一十八	192	0
419	1770	09.11	明和	7	07.22		秋七月二十二日壬申、甲斐、赤気北方に見はれ、東に亘る。夜に至りて光益甚しく、近国に映す。		本紀第一十八	192	0
420	1771	05.11	明和	8	03.27	大雨1A・洪水1A・ひょう1A	三月二十七日戊辰、大雨ふり、洪水し、鴨川の水溢る。近江雪を雨らす。畿内・近江の麦大いに稔る。		本紀第一十九	194	0
421	1771	05.17	明和	8	04.04	低温1A	四月四日甲戌、東海道雪ふる。	雪を低温と解釈した。	本紀第一十九	194	0
422	1771	06.13-07.11	明和	8	05	干ばつ1B	(五月)是の月、雨ふらずして、畿内外穀苗せず。		本紀第一十九	195	0
423	1771	09.01	明和	8	07.22	洪水1A	二十二日辛酉、畿内・伊賀・伊勢、洪水あり。		本紀第一十九	195	0
424	1772	08.01	安永	1	07.03	大雨1A・洪水1A・暴風1A	秋七月三日丙申、肥前・肥後・筑後、大風雨あり洪水し、人多く死せり。		本紀第一十九	195	1
425	1772	08.29	安永	1	08.01	大雨1A・暴風1A	八月甲子朔、遠江・駿河・伊豆・相模・武蔵、大風雨あり。		本紀第一十九	195	1
426	1772	09.18	安永	1	08.21	大雨1A・洪水1A・暴風1A	二十一日甲申、京師及び近江・美濃・備前・讃岐、大風雨あり、水いで民家倒れ樹木抜け、人畜多く死せり。		本紀第一十九	195	0
427	1773	07.20-08.17	安永	2	06	洪水1B	夏六月、伊勢・美濃洪水す。美濃砂を雨らす。淀・伏見大水あり。		本紀第一十九	195	0
428	1773	08.25	安永	2	07.08	暴風1A	秋七月八日乙丑、京師火く。風雨あり。		本紀第一十九	195	0
429	1774	07.14	安永	3	06.06	雷1A	夏六月六日戊子、江戸大雷あり。		本紀第一十九	196	1
430	1774	07.31	安永	3	06.23	大雨1A・暴風1A	二十三日乙巳、京師・摂津・近江、大風雨あり。砂を揚げ石を飛ばし、樹倒れ家倒る。		本紀第一十九	196	0
431	1775	04.30-05.28	安永	4	04	長雨1B	安永四年乙未、夏四月、霖あり。		本紀第一十九	196	0
432	1775	05.29-06.27	安永	4	05	洪水1B	五月、京師水あり。		本紀第一十九	196	0
433	1775	06.28-07.26	安永	4	06	洪水1B	六月、摂津大水あり。		本紀第一十九	196	0
434	1777	08.03-09.01	安永	6	07	洪水1B	安永六年丁酉、秋七月、陸奥・出羽・下総洪水す。		本紀第一十九	197	1
435	1778	07.19	安永	7	06.25	雷1A	大坂大雷なる。		本紀第一十九	197	0
436	1778	07.19	安永	7	06.25	高潮1A	肥後の海水溢れ、民屋を漂没す。		本紀第一十九	197	1
437	1778	07.24	安永	7	07.01	大雨1A	秋七月己未朔、京師大雨あり。		本紀第一十九	197	0
438	1778	07.25	安永	7	07.02	洪水1A	二日庚申、洪水し廬舎を漂流せり。		本紀第一十九	197	0
439	1779	05.16	安永	8	04.01	低温1A	夏四月乙卯朔、京師及び大坂・江戸、寒さ冬の如し。伊勢及び北国、雪を雨らし、三日丁巳、江戸雪を雨らす。		本紀第一十九	197	0
440	1779	05.18	安永	8	04.03	ひょう1A	夏四月乙卯朔、京師及び大坂・江戸、寒さ冬の如し。伊勢及び北国、雪を雨らし、三日丁巳、江戸雪を雨らす。		本紀第一十九	197	1
441	1779	08.12-09.09	安永	8	07	洪水1B	秋七月、畿内洪水あり。		本紀第一十九	197	0
442	1779	10.03	安永	8	08.24	洪水1A	八月二十四日乙亥、東海東山北陸の三道洪水あり。		本紀第一十九	197	0
443	1780	03.06-04.04	安永	9	02	長雨1B・低温1B	安永九年庚子二月、霖あり、天寒くして冬の如し。		本紀第二十	199	0
444	1780	07.03	安永	9	06.02	長雨1A・大雨1A・雷1A・低温1A	六月二日己酉、京の町・大坂、大雷雨あり。遂に霖し、氣候初冬の如し。		本紀第二十	199	0
445	1780	11.12	安永	9	10.16	雷1A	十月十六日辛酉、雷なる。		本紀第二十	199	0
446	1781	08.21	天明	1	07.02	大雨1A・暴風1A	秋七月二日癸卯、薩摩・大隈・日向、大風あり。		本紀第二十	200	1
447	1781	09.15	天明	1	07.27	大雨1A・暴風1A	二十七日戊辰、五畿以外大風雨あり、木を抜き屋を倒す。		本紀第二十	200	0
448	1782	03.15	天明	2	02.02	強風1A	天明二年壬寅、春二月二日己巳、五畿大風ふきて木を抜く。		本紀第二十	200	0
449	1782	07.23	天明	2	06.14	洪水1A	六月十四日己卯、賀茂川洪水あり。		本紀第二十	200	0
450	1782	08.23	天明	2	07.15		十五日庚戌、又震ふ。下総雪を雨らす。		本紀第二十	200	1

大日本野史

451	1782	09.10	天明	2	08.04	高潮1A	八月四日戊辰、江戸逆浪溢る。		本紀第二十	200	1
452	1783	05.01-05.30	天明	3	04	低温1B	四月、京師畿内、寒きこと冬の如し。		本紀第二十	200	0
453	1783	07.16	天明	3	06.17	洪水1A	六月十七日丁丑、東国大水あり。		本紀第二十	200	1
454	1783	07.27	天明	3	06.28	暴風1A	二十八日戊子、北国西国大風ふき船多く没す。		本紀第二十	200	0
455	1783	08.21	天明	3	07.24	大雨1A・洪水1A・暴風1A	二十四日癸丑、北陸・西海大風雨あり水いづ。		本紀第二十	201	1
456	1783	12.04	天明	3	11.11	雷1A	十一月十一日戊戌、大坂城門に震す。		本紀第二十	201	0
457	1785	03.07	天明	5	01.27	雷1A	天明五年乙巳、春正月二十七日丁丑、畿内大雷雨あり。		本紀第二十	201	0
458	1785	07.06-08.04	天明	5	06	干ばつ1B	夏六月、畿内及び諸国旱す。		本紀第二十	201	0
459	1785	08.05-09.03	天明	5	07	雷1A	秋七月、大坂大雷雨あり。		本紀第二十	201	0
460	1785	09.15	天明	5	08.12	大雨1A・洪水1A	八月十二日己丑、畿内・東海、大雨ふり水いづ。		本紀第二十	201	0
461	1785	12.05	天明	5	11.04	雷1A	十一月四日庚戌、畿内・尾張、大雷なる。		本紀第二十	201	0
462	1785	11.02-01.29	天明	5	冬	高温1C	是の冬、温かにして春の如し。		本紀第二十	201	0
463	1786	07.23	天明	6	06.28	洪水1A	六月二十八日庚子、京師・大坂、月光盈つ。河内大水あり。		本紀第二十	202	0
464	1786	08.05	天明	6	07.12	大雨1A・洪水1A	秋七月十二日癸丑、山東・武蔵・下総・上野・下野、大雨あり水いづ。		本紀第二十	202	1
465	1789	07.08	寛政	1	06.16	大雨1A・洪水1A	六月十六日辛丑、大雨止まざること三日、京師及び丹波・参河・近江、大水いづ。		本紀第二十	203	0
466	1790	09.09	寛政	2	08.01	大雨1A・洪水1A・暴風1A	秋八月己酉朔、大風雨あり水いづ。		本紀第二十	204	0
467	1791	09.03	寛政	3	08.06	高潮1A	秋八月六日戊申、下総逆浪ありて村舎を漂没せり。		本紀第二十	204	0
468	1791	09.17	寛政	3	08.20	暴風1A	大風ふき、木を抜き屋を発く。		本紀第二十	204	0
469	1791	09.17	寛政	3	08.20	高潮1A	是の日、尾張の海、波を揚ぐ。		本紀第二十	204	1
470	1791	10.01	寛政	3	09.04	大雨1A・洪水1A・暴風1A	九月四日丙子、山東大風雨あり、水いづ。		本紀第二十	204	1
471	1793	10.09-11.03	寛政	5	09.05-09.30	長雨1B・洪水1B	秋九月、五日より霖雨し、洪水あり。		本紀第二十	205	0
472	1795	09.02	寛政	7	07.19	洪水1A	秋七月十九日戊辰、肥前長崎火く。山壑洪水し、死する者百余人。		本紀第二十	206	1
473	1802	07.29-08.27	享和	2	07	洪水1B	秋七月、山城・近江・摂津・河内洪水あり。		本紀第二十	208	0
474	1806	07.16-09.11	文化	3	06-07	干ばつ1B	文化三年丙寅、夏六月、諸国雨ふらずして、秋七月迄。		本紀第二十	209	0
475	1808	09.15	文化	5	07.25	暴風1A	秋七月二十五日己丑、伊豆・相模・安房・駿河・近江・紀伊、大風ふき、船覆へり溺死する者多し。		本紀第二十	209	0
476	1808	09.26	文化	5	08.07	大雨1A・洪水1A	八月七日庚子、東北の諸国大雨あり水いづ。		本紀第二十	209	1
477	1812	08.07	文化	9	07.01	雷1A	秋七月辛未朔、大雷あり。		本紀第二十	210	0
478	1815	07.07-08.04	文化	12	06	洪水1B	六月、山城・大和・摂津・近江・伊勢・美濃、洪水あり。		本紀第二十	211	0
479	1816	08.25	文化	13	08.03	洪水1A	秋八月三日、畿内・東海大水あり。		本紀第二十	211	0

14. 徳川実紀

(1) ページは下記による。

- No. 1～234：黒板勝美・国史大系編修会編 1929『徳川実紀 第一篇』新訂増補/
国史大系第 38 卷 国史大系刊行会・吉川弘文館・日用書房
- No. 235～329：黒板勝美・国史大系編修会編 1930『徳川実紀 第二篇』新訂増補/
国史大系第 39 卷 国史大系刊行会・吉川弘文館・日用書房
- No. 330～487：黒板勝美・国史大系編修会編 1930『徳川実紀 第三篇』新訂増補/
国史大系第 40 卷 国史大系刊行会・吉川弘文館・日用書房
- No. 488～683：黒板勝美・国史大系編修会編 1932『徳川実紀 第四篇』新訂増補/
国史大系第 41 卷 国史大系刊行会・吉川弘文館・日用書房
- No. 684～831：黒板勝美・国史大系編修会編 1931『徳川実紀 第五篇』新訂増補/
国史大系第 42 卷 国史大系刊行会・吉川弘文館・日用書房
- No. 832～914：黒板勝美・国史大系編修会編 1931『徳川実紀 第六篇』新訂増補/
国史大系第 43 卷 国史大系刊行会・吉川弘文館・日用書房
- No. 915～952：黒板勝美・国史大系編修会編 1932『徳川実紀 第七篇』新訂増補/
国史大系第 44 卷 国史大系刊行会・吉川弘文館・日用書房
- No. 953～1059：黒板勝美・国史大系編修会編 1933『徳川実紀 第八篇』新訂増補/
国史大系第 45 卷 国史大系刊行会・吉川弘文館・日用書房
- No. 1060～1148：黒板勝美・国史大系編修会編 1934『徳川実紀 第九篇』新訂増補/
国史大系第 46 卷 国史大系刊行会・吉川弘文館・日用書房
- No. 1149～1299：黒板勝美・国史大系編修会編 1935『徳川実紀 第十篇』新訂増補/
国史大系第 47 卷 国史大系刊行会・吉川弘文館・日用書房
- なお、一覧表の“本”列は国史大系の巻数（38～47）である。

(2) 地域（“L”列）は下記による。

0：関東地方

1：関東地方以外

徳川実紀

No.	グレゴリオ暦		和暦		項目	記載内容	備考	該当箇所			L	
	年	月	年号	年 日				巻	本	頁		
1	1590	03.16	天正	18	02.11	長雨1A	関白は十一日に三河の吉田川ををし渡らんとありし時。このわたし場の奉行せし伊奈といふ男。この程日数へし長雨に。川水いたく水かさそひてうづまきながるれば。(後略)		東照宮御実紀4	38	58上	1
2	1600	09.12	慶長	5	08.05	長雨1A・洪水1A	君は小山御陣にて軍令ことごと。八月五日江戸へ帰らせ給ふべしとありしに。この頃の霖雨にて栗橋の舟橋おし流れたりと聞召。		東照宮御実紀4	38	68下	0
3	1603	03.31	慶長	8	02.19		十九日朝雨ふり未牌雨やみ。酉刻日食するが如くにして色甚赤し。今夜又月食なり。		東照宮御実紀5	38	75下	0
4	1604	01.24	慶長	8	12.23	大雪1A	廿三日此夜大雪。		東照宮御実紀7	38	98上	0
5	1604	02.01-02.07	慶長	9	01.02-01.08	大雪1A	二日昨夜より大雪。八日に至る。		東照宮御実紀8	38	103上	0
6	1604	05.21	慶長	9	04.23	大雨1A・洪水1A・強風1A	廿三日関東大風雨洪水。		東照宮御実紀8	38	110上	0
7	1604	07.13	慶長	9	06.17	高温1A	十七日いさゝか暑気におかされまして御葉の事あり。		東照宮御実紀8	38	112上	0
8	1604	07.31	慶長	9	07.05	大雨1A・雷1A	此日大雨。近江国佐和山に雷震す。(後略)		東照宮御実紀9	38	113上	1
9	1604	06.27-08.19	慶長	9	06-07.24	干ばつ1B	(和暦7月25日)この年六月より久しく旱せしにこの日暴雨。		東照宮御実紀9	38	116上	0
10	1604	08.20	慶長	9	07.25	大雨1A	(和暦7月25日)この年六月より久しく旱せしにこの日暴雨。		東照宮御実紀9	38	116上	0
11	1604	08.28	慶長	9	08.04	暴風1A	此日酉刻より大風。諸国損害多し。		東照宮御実紀9	38	117上	0
12	1604	08.29	慶長	9	08.05	暴風1A	五日大風。昨日の如し。申刻より雨ふり出る。		東照宮御実紀9	38	117上	0
13	1604	09.06	慶長	9	08.13		この日雨により豊国の社臨時祭を延らる。		東照宮御実紀9	38	117上	0
14	1604	09.07	慶長	9	08.14	暴風1A・波浪1A・高潮1A	十四日。伊勢。尾張。美濃。近江等大風。伊勢の長島は高波にて堤をやぶり暴漲田圃を害す。		東照宮御実紀9	38	117上	1
15	1605	01.09	慶長	9	11.20	大雪1A	(慶長9年11月21日)廿一日前夜大雪。この寒中信濃の諏訪湖水氷らず。世以て珍事とす。		東照宮御実紀9	38	120下	0
16	1605	-	慶長	9	寒中	高温1C	(慶長9年11月21日)廿一日前夜大雪。この寒中信濃の諏訪湖水氷らず。世以て珍事とす。		東照宮御実紀9	38	120下	1
17	1604	01.18	慶長	9	11.29	大雨1A	廿九日大雨。		東照宮御実紀9	38	120下	0
18	1605	04.01	慶長	10	02.13	霜1A	十三日昨今霜威厳酷にして草木多く潤枯る。		東照宮御実紀10	38	126上	0
19	1605	04.07	慶長	10	02.18	大雨1A	(前略)大雨により御延滞あり。		東照宮御実紀10	38	126上	0
20	1605	04.16	慶長	10	02.27		廿七日三島に着せらるゝ。雨によりこゝに三日延滞し給ふ。		東照宮御実紀10	38	127下	1
21	1605	05.02	慶長	10	03.15		十五日雨により彦根城に御滞留あり。		東照宮御実紀10	38	128上	1
22	1600	-	慶長	5	-	長雨1C	関原の戦期をつけ給ふといへども。此程秋霖を重ね。(後略)		台徳院殿御実紀1	38	382上	1
23	1605	06.02	慶長	10	04.16		この日天気快晴。二条の城に(後略)		台徳院殿御実紀1	38	384上	1
24	1605	06.15	慶長	10	04.29	大雨1A・洪水1A	またしばく雷風雨有て駿遠洪水みなぎり。島田駅の民舎を押し流す。この時より島田の地は川となり民舎を東にうつさる。		台徳院殿御実紀1	38	387上	1
25	1605	07.09	慶長	10	05.23		廿三日雨により。けふまで清洲にわたらせ給ひ。		台徳院殿御実紀1	38	388下	1
26	1605	07.10	慶長	10	05.24		廿四日雨晴ければ清洲を出たせ給ふ。		台徳院殿御実紀1	38	388下	1
27	1605	06.17-07.15	慶長	10	05	雷1B・強風1B・低温1B	此月甚雷二三度。烈風。ことにさむかりしとぞ。		台徳院殿御実紀1	38	389上	0
28	1605	07.16-08.14	慶長	10	06		この月伏見は雨ふり。洛中は雨なし。	「雨ふり」は長雨の可能性もある。	台徳院殿御実紀1	38	391上	1
29	1605	07.16-08.14	慶長	10	06	干ばつ1B	この月伏見は雨ふり。洛中は雨なし。		台徳院殿御実紀1	38	391上	1
30	1605	-	慶長	10	06	干ばつ1C	(慶長10年6月/1605年7月16日~8月14日)このとはは去年のごとく早して。撰州昆陽の池水あせ魚多く死す。		台徳院殿御実紀1	38	391下	1
31	1605	08.15	慶長	10	07.01	大雨1A	七月朔日大雨。		台徳院殿御実紀2	38	393上	0
32	1605	08.16	慶長	10	07.02	大雨1A	二日又甚雨。		台徳院殿御実紀2	38	393上	0

徳川実紀

33	1605	08.16	慶長	10	07.02	干ばつ1C	(和暦7月2日)ことし旱すといへども。三州一國は穀を損せず。		台徳院殿御実紀2	38	393上	0
34	1605	08.23	慶長	10	07.09		夕より雨ふりて暁におよぶ。		台徳院殿御実紀2	38	393上	0
35	1605	09.03	慶長	10	07.20	洪水1A	廿日美濃。尾張。伊勢。三河。遠江洪水。所々の堤防崩るゝし聞ゆ。されども京。関東は水害なかりしとぞ。		台徳院殿御実紀2	38	393下	1
36	1605	10.28	慶長	10	09.16		大御所佐和山につかせられ。二日御滞留あり。雨ふるによりて。		台徳院殿御実紀2	38	395下	1
37	1606	02.07	慶長	11	01.01	大雪1A	この日大雪。日ねもすやまず。		台徳院殿御実紀3	38	403上	0
38	1605	11.11-02.18	慶長	11	前冬-01.12	風雪1C・低温1C	(慶長11年1月12日/1606年2月18日)十二日去冬より今日まで。風雪連日やまず。寒風殊に甚し。		台徳院殿御実紀3	38	403上	0
39	1606	02.21	慶長	11	01.15	強風1A	十五日風ことに烈し。		台徳院殿御実紀3	38	403上	0
40	1606	04.04	慶長	11	02.27	強風1A	廿七日烈風。南方にあたりあやしき黒雲なびく。		台徳院殿御実紀3	38	405下	0
41	1606	04.11	慶長	11	03.04	雷1A・あられ1A	四日大に氷雨ふりて大雷す。		台徳院殿御実紀3	38	406上	0
42	1606	04.20	慶長	11	03.13		十三日 大御所御上洛の事かねて仰せさだめられしかど。雨によりて延滞したまふ。		台徳院殿御実紀3	38	406上	0
43	1606	05.04-05.05	慶長	11	03.27-03.28	大雨1A・洪水1A	廿八日昨今両日大雨。天竜川橋落て往還自由ならず。よて猶中泉にとどまらせ給ふ。		台徳院殿御実紀3	38	406下	1
44	1606	05.06	慶長	11	03.29		廿九日雨ふるといへども。御輿をうながされ。岡崎へ至り給ふ。		台徳院殿御実紀3	38	406下	1
45	1606	02.07-05.06	慶長	11	春	干ばつ1C	(この春)この頃関東雨ならず。麦畑皆枯槁す。		台徳院殿御実紀3	38	407上	0
46	1606	05.09	慶長	11	04.03	干ばつ1A	(和暦4月4日/西暦5月10日)久早けふ雨を得たり。駿州以西の諸國は麦よくみのる。		台徳院殿御実紀3	38	407上	0
47	1606	06.07-	慶長	11	05.02-	暴風1C	この日より暴風連日。		台徳院殿御実紀3	38	408上	0
48	1606	06.30	慶長	11	05.25	大雨1A・洪水1A・暴風1A	廿五日大風雨。京辺は廿年此かたの洪水といふ。(中略)関東この水害にかゝり麻大に損ず。		台徳院殿御実紀3	38	410上	0
49	1606	08.05	慶長	11	07.02	干ばつ1A・高温1A	七月二日炎暑殊に甚し。江戸近郊久しく雨降らず。		台徳院殿御実紀4	38	413上	0
50	1606	09.23	慶長	11	08.21	暴風1A	廿一日大風なり。		台徳院殿御実紀4	38	415上	0
51	1606	10.01	慶長	11	08.29	暴風1A・高潮1A	廿九日夜より大風。美濃。近江。北伊勢。四国。中国。海潮おし入たりとぞ。		台徳院殿御実紀4	38	415下	1
52	1606	10.02	慶長	11	09.01	大雨1A・暴風1A	九月朔日大風雨。		台徳院殿御実紀4	38	416上	0
53	1606	10.22	慶長	11	09.21	大雨1A	(前略)大雨によてけふに及びしなり。		台徳院殿御実紀4	38	416下	0
54	1606	10.31	慶長	11	09.30	大雨1A・暴風1A	(晦日)この日風雨甚し。		台徳院殿御実紀4	38	417上	0
55	1606	10.31	慶長	11	09.30		(晦日)また近日雪しばぐなり。		台徳院殿御実紀4	38	417上	0
56	1606	11.01	慶長	11	10.01	長雨1A	十月朔日 大御所白須賀に滞留したまふ。霖雨によりてなり。		台徳院殿御実紀4	38	417下	0
57	1606	11.01-01.27	慶長	11	冬	高温1C	今年三冬の間寒気烈しき事三五日に過ず。この外皆温暖なり。柑類枯るゝもの多し。		台徳院殿御実紀4	38	422上	0
58	1607	02.02	慶長	12	01.06	大雪1A	六日江戸大地震。又大雪。		台徳院殿御実紀5	38	423上	0
59	1607	02.07	慶長	12	01.11	高温1A	十一日立春。ことに暖和なり。		台徳院殿御実紀5	38	423下	0
60	1607	02.28-03.04	慶長	12	02.03-02.07	強風1A	三日烈風。けふより五日に及ぶ。		台徳院殿御実紀5	38	424上	0
61	1606	11.01-03.13	慶長	12	前冬-02.20	低温1C・波浪1C	(慶長12年2月20日/1607年3月13日)廿日去冬よりこの二月にいたる頃。朝鮮講和の使來るべしとて。其路々に旅館以下構造せらるゝ所。余寒はげしく海上風あれて。渡海延滞するよし聞ゆ。		台徳院殿御実紀5	38	425下	1
62	1607	04.22	慶長	12	03.26	雷1A	廿六日雷雨はげし。		台徳院殿御実紀5	38	430下	0
63	1607	04.23	慶長	12	03.27	雷1A・ひょう1A	廿七日東美濃辺雪ふり雷鳴す。この雹のために麦麻を損じ翎毛を毀つ。		台徳院殿御実紀5	38	430下	1
64	1607	04.25	慶長	12	03.29	干ばつ1A	(和暦4月1日/西暦4月26日)四月朔日久旱雨を得て衆人みなよろこぶ。		台徳院殿御実紀5	38	430下	0
65	1607	04.26	慶長	12	04.01		(和暦4月1日/西暦4月26日)四月朔日久旱雨を得て衆人みなよろこぶ。		台徳院殿御実紀5	38	430下	0
66	1607	04.29	慶長	12	04.04		四日雨ふる。		台徳院殿御実紀5	38	431上	0
67	1607	05.01	慶長	12	04.06	大雪1A	六日武州足立郡浦和辺大雪。翎毛多く是がために死せり。		台徳院殿御実紀5	38	431上	0
68	1607	05.22	慶長	12	04.27	濃霧1A	廿七日朝霧ことに深し。		台徳院殿御実紀5	38	431下	0
69	1607	05.23	慶長	12	04.28		廿八日雨ふる。		台徳院殿御実紀5	38	431下	0

徳川実紀

70	1607	07.14-07.26	慶長	12	05.21-06.03	干ばつ1B・高温1B	(和暦6月3日/西暦7月26日)三日去月下旬より大旱。暑気酷烈。衆庶病を得るもの多し。		台徳院殿御実紀5	38	438上	0
71	1607	08.04	慶長	12	06.12	干ばつ1C	(和暦6月13日/西暦8月5日)十三日大旱後雨を得て。衆庶喜悦斜ならず。駿城はこの日地震す。		台徳院殿御実紀5	38	438下	0
72	1607	08.05	慶長	12	06.13		(和暦6月13日/西暦8月5日)十三日大旱後雨を得て。衆庶喜悦斜ならず。駿城はこの日地震す。		台徳院殿御実紀5	38	438下	0
73	1607	08.05	慶長	12	06.13		この程奈良猿沢の池水渴る。これ凶兆なりといふ。		台徳院殿御実紀5	38	438下	1
74	1607	08.05	慶長	12	06.13		(和暦6月13日/西暦8月5日)この十三日雨ふりし後は。いよく雨ふらず。ふたゝび早すといふ。		台徳院殿御実紀5	38	438下	0
75	1607	08.06-	慶長	12	06.14-	干ばつ1C	(和暦6月13日/西暦8月5日)この十三日雨ふりし後は。いよく雨ふらず。ふたゝび早すといふ。		台徳院殿御実紀5	38	438下	0
76	1607	09.26	慶長	12	08.06	大雨1A	六日大雨。		台徳院殿御実紀6	38	442上	0
77	1607	09.27	慶長	12	08.07	洪水1A	七日大水。		台徳院殿御実紀6	38	442上	0
78	1607	10.04	慶長	12	08.14	暴風1A	十四日風雨。		台徳院殿御実紀6	38	442下	0
79	1607	10.05	慶長	12	08.15	大雨1A・洪水1A・暴風1A	十五日三尾濃の三国洪水。これはこの夏農民旱をうれひ。木曾川の水を田地に引入しが。大風雨を得て加納城溝の水と一になり。河戸川矢橋川ども押入て。所々堤防崩破し。民屋を押し流す。		台徳院殿御実紀6	38	442下	1
80	1608	01.06	慶長	12	11.19	大雪1A	十九日大雪。曉に徹す。		台徳院殿御実紀6	38	446上	0
81	1608	01.18	慶長	12	12.01	大雪1A	十二月朔日大雪。		台徳院殿御実紀6	38	446下	0
82	1607	-	慶長	12	-	洪水1C	(前略)毛利掃部介広次も領地水害を蒙り。軍役勤めがたきよしを申しければ。(後略)		台徳院殿御実紀6	38	451上	1
83	1607	12.15-02.28	慶長	13	10.27-01.12	干ばつ1B	(慶長13年1月13日)十三日去年より七八十日に及び雨なし。この晩雨ふる。	慶応13年1月13日(1608年2月28日)の75日前である慶応12年10月27日(1607年12月15日)をイベント開始日とした。	台徳院殿御実紀7	38	453上	0
84	1608	03.02	慶長	13	01.16		十六日雨ふる。		台徳院殿御実紀7	38	453下	0
85	1608	03.09-03.10	慶長	13	01.23-01.24	大雪1A	廿四日昨夜より大雪なり。		台徳院殿御実紀7	38	453下	0
86	1608	03.22	慶長	13	02.06		六日雪ふる。		台徳院殿御実紀7	38	455上	0
87	1608	04.13	慶長	13	02.28	大雨1A	廿八日此ころたまく雪ありといへども。わづかにうるほへるのみなりしに。此夜より大雨。衆民飲ぶことかぎりなし。		台徳院殿御実紀7	38	455下	0
88	1608	02.16-05.13	慶長	13	春	低温1C	(和暦2月28日)今年春寒深くして桃李花や遅し。		台徳院殿御実紀7	38	455下	0
89	1608	04.25	慶長	13	03.11	強風1A・雷1A	此日烈風甚雷。暫時してやみたり。		台徳院殿御実紀7	38	456上	0
90	1608	06.03	慶長	13	04.21	暴風1A	廿一日駿府烈風にて民屋傾覆するものあり。		台徳院殿御実紀7	38	456下	1
91	1608	06.03	慶長	13	04.21	洪水1A	尾濃兩州大水。		台徳院殿御実紀7	38	456下	1
92	1608	05.14-05.28	慶長	13	04.01-04.15	干ばつ1B	月半まで雨ふらず。関東麦熟せず。西国はよく熟せしとぞ。		台徳院殿御実紀7	38	457上	0
93	1608	07.02	慶長	13	05.20	洪水1A	廿日所々洪水。		台徳院殿御実紀7	38	458下	0
94	1608	07.19	慶長	13	06.08	洪水1A	此日洛中大水。河内。摂津辺堤防をこえて水おしいる。濃州より東は水害なし。		台徳院殿御実紀7	38	460下	1
95	1608	05.14-07.22	慶長	13	04-06.11	長雨1B・洪水1B	(和暦6月11日)四月より雨ふりつゞき。閩の東西とも洪水の害にかゝる。		台徳院殿御実紀7	38	460下	0
96	1608	08.05-08.07	慶長	13	06.25-06.27	暴風1A	(和暦6月27日)廿七日けふまで三日南風烈しく。西国は高潮にて泊船多く毀損す。		台徳院殿御実紀7	38	461上	0
97	1608	08.11	慶長	13	07.01	大雨1A	七月朔日大雨なり。		台徳院殿御実紀8	38	463上	0
98	1608	09.07-09.08	慶長	13	07.28-07.29	大雨1A	廿九日昨日より大雨。		台徳院殿御実紀8	38	464上	0

徳川実紀

99	1608	09.09	慶長	13	08.01	洪水1A	八月朔日中国大水。七十年来ためしなきほどの事にして。京都も水おし入。流死のものすくならず。諸国損害多し。三河より東はこの害少なく。播磨はさらに水害なし。		台徳院殿御実紀8	38	464上	1
100	1608	09.21	慶長	13	08.13	大雨1A・暴風1A	十三日大風大雨。		台徳院殿御実紀8	38	465上	0
101	1608	09.22	慶長	13	08.14	大雨1A・洪水1A	十四日一昨日よりも大雨にて。所々洪水の間えあり。		台徳院殿御実紀8	38	465上	0
102	1608	11.08-02.04	慶長	13	冬	干ばつ 1C・少雪 1C・高温 1C	(此冬)すべて今年雨多く雪少く和暖なり。		台徳院殿御実紀8	38	474下	0
103	1609	03.10	慶長	14	02.05	洪水3	(慶長14年2月5日)又美濃。尾張両国去年洪水にて毀壊せし堤防を修築すべしと令せられ。(後略)		台徳院殿御実紀9	38	480上	1
104	1609	04.05	慶長	14	03.01	あられ1A	この日駿河氷雨ふる。		台徳院殿御実紀9	38	481下	1
105	1609	04.05	慶長	14	03.01	雷1A・あられ1A	又武州葛西辺雷はげしく鳴震ひ。氷雨ふりて。農家十七八戸破れ。震死するもの多し。総州関宿にては雷杉の木に震す。		台徳院殿御実紀9	38	481下	0
106	1609	03.25-04.10	慶長	14	02.20-03.06	長雨1B・強風1B	(和暦3月6日/西暦4月10日)六日去月廿日頃より雨多く風はげしかりしが。けふこと更寒さ冬のごとし。里は雨にて山は雪ふる。		台徳院殿御実紀9	38	482上	0
107	1609	04.10	慶長	14	03.06	低温1A	(和暦3月6日/西暦4月10日)六日去月廿日頃より雨多く風はげしかりしが。けふこと更寒さ冬のごとし。里は雨にて山は雪ふる。		台徳院殿御実紀9	38	482上	0
108	1609	04.29	慶長	14	03.25	雷1A・あられ1A	廿五日雷鳴し。山近きあたりは霰ふる。		台徳院殿御実紀9	38	482上	0
109	1609	04.29	慶長	14	03.25	ひょう1A	野州那須宇都宮辺雹降り。鴈鴨等の諸鳥過半傷死す。		台徳院殿御実紀9	38	482下	0
110	1609	05.14	慶長	14	04.11	大雨1A	今夜大雨。		台徳院殿御実紀9	38	483下	0
111	1609	05.04-06.02	慶長	14	04-05.01	干ばつ 1B	(和暦5月2日/西暦6月3日)二日先月より関東西早す。今日雨を得て衆民大に喜ぶ。		台徳院殿御実紀9	38	484上	0
112	1609	06.03	慶長	14	05.02		(和暦5月2日/西暦6月3日)二日先月より関東西早す。今日雨を得て衆民大に喜ぶ。		台徳院殿御実紀9	38	484上	0
113	1609	06.09	慶長	14	05.08	大雨1A	この夜大雨。暁にいたる。		台徳院殿御実紀9	38	485上	0
114	1609	06.20-	慶長	14	05.19-	長雨1C	十九日此日より霖雨。		台徳院殿御実紀9	38	486上	0
115	1609	07.13	慶長	14	06.12	強風1A・ひょう1A	十二日三河国刈屋辺大風。城の櫓を吹落す。山中下山辺雹ふる。田圃ことごとく損亡せり。		台徳院殿御実紀9	38	487下	1
116	1609	08.15	慶長	14	07.16	洪水1A	十六日諸国大水。美濃遠江両国は水かさ去年より高き事。三尺ばかりとぞ聞えし。		台徳院殿御実紀10	38	490上	0
117	1609	09.07	慶長	14	08.09	暴風1A	九日京畿大風。		台徳院殿御実紀10	38	491下	1
118	1609	09.08	慶長	14	08.10	暴風1A	十日大風。江州にては大に禾稼を損ず。美濃。尾張。三河は。午より亥まで尤はげし。		台徳院殿御実紀10	38	491下	0
119	1609	02.05-09.25	慶長	14	01-08.27	長雨1B	(和暦8月27日/西暦9月25日)廿七日今年初春より雨多し。正月よりけふに及び。雨ふる日をかぞふるに百廿日に及べりとぞ。		台徳院殿御実紀10	38	492上	0
120	1609	11.03	慶長	14	10.07	洪水3	七日菅沼左近定芳が所領伊勢の長島洪水にて。大御所米二千石たまふ。		台徳院殿御実紀11	38	497上	1
121	1609	12.07	慶長	14	11.11	大雪1A	連日大雪。		台徳院殿御実紀11	38	500上	0
122	1610	03.15	f	15	02.20	長雨1A	(前略)よりて霖雨たりといへども。(後略)		台徳院殿御実紀12	38	508下	0
123	1610	03.16	慶長	15	02.21	大雨1A・洪水1A	廿一日ことさら暴雨にて近国水まし。川々渡る事を得ず。(後略)		台徳院殿御実紀12	38	509上	0
124	1610	03.18	慶長	15	02.23	大雨1A	廿三日大雨やまず。		台徳院殿御実紀12	38	509上	0
125	1610	03.19	慶長	15	02.24		廿四日 御所には雨を冒して駿城へ入らせ給ふ。	上洛中のイベントと解釈した。	台徳院殿御実紀12	38	509上	1
126	1610	04.08	慶長	15	閏02.15		十五日雨によりて田獵なし。	上洛中のイベントと解釈した。	台徳院殿御実紀12	38	512上	1
127	1610	04.11	慶長	15	閏02.18		十八日雨ふりければ御狩なし。	上洛中のイベントと解釈した。	台徳院殿御実紀12	38	512上	1

徳川実紀

128	1610	04.14	慶長	15	閏02.21		廿一日雨にて御狩なし。	上洛中のイベントと解釈した。	台徳院殿御実紀12	38	512下	1
129	1610	06.02	慶長	15	04.11		十一日潤雨。万民歡抃す。	上洛中のイベントと解釈した。	台徳院殿御実紀12	38	516上	1
130	1610	06.21	慶長	15	05.01		五月朔日日食。曇りければさだかならず。	上洛中のイベントと解釈した。	台徳院殿御実紀13	38	519上	1
131	1610	06.23	慶長	15	05.03	大雨1A・暴風1A	三日駿府大風大雨。民屋多く破損す。	上洛中のイベントと解釈した。	台徳院殿御実紀13	38	519上	1
132	1610	06.27	慶長	15	05.07	洪水1A	七日本曾川大水。名古屋築城の運漕の材木多く流れうせぬ。	上洛中のイベントと解釈した。	台徳院殿御実紀13	38	519上	1
133	1610	06.30	慶長	15	05.10	大雨1A・洪水1A	この日大雨。西美濃暴漲して堤防悉くくづる。されど木曾川はあふれず。	上洛中のイベントと解釈した。	台徳院殿御実紀13	38	520上	1
134	1610	07.12	慶長	15	05.22	大雨1A・洪水1A	廿二日大雨。所々洪水。	上洛中のイベントと解釈した。	台徳院殿御実紀13	38	520上	1
135	1610	07.16	慶長	15	05.26	洪水1A	廿六日駿遠三の三州大水。	上洛中のイベントと解釈した。	台徳院殿御実紀13	38	520下	1
136	1610	07.31	慶長	15	06.12	長雨1A・洪水1A	十二日霖雨にて木曾川暴漲し。尾州宮田より加賀野井辺堤防大に崩る。	上洛中のイベントと解釈した。	台徳院殿御実紀13	38	521上	1
137	1610	09.08	慶長	15	07.21	暴風1A	廿一日畿内大風。田圃損亡若干。民戸破壊もまた少なからず。(後略)	上洛中のイベントと解釈した。	台徳院殿御実紀13	38	524上	1
138	1611	03.26	慶長	16	02.12	雷1A	十二日雷声を発す。	上洛中のイベントと解釈した。	台徳院殿御実紀15	38	541下	1
139	1611	03.30	慶長	16	02.16	強風1A・低温1A	十六日烈風。余寒甚し。	上洛中のイベントと解釈した。	台徳院殿御実紀15	38	541下	1
140	1611	03.31	慶長	16	02.17	大雨1A	十七日大雨暁に徹す。	上洛中のイベントと解釈した。	台徳院殿御実紀15	38	541下	1
141	1611	04.02	慶長	16	02.19	強風1A・低温1A	十九日風烈しく。寒氣三冬の如し。	上洛中のイベントと解釈した。	台徳院殿御実紀15	38	541下	1
142	1611	04.03-04.04	慶長	16	02.20-02.21	強風1A	廿日廿一日ともに烈風。	上洛中のイベントと解釈した。	台徳院殿御実紀15	38	541下	1
143	1611	04.28	慶長	16	03.16	強風1A	此日大風。	上洛中のイベントと解釈した。	台徳院殿御実紀15	38	542上	1
144	1611	04.17-05.23	慶長	16	03.05-04.11	干ばつ1B	(和暦4月12日/西暦5月24日)昨夜より雨ふる。三月五日後ふらず。庶民雨をよるこぶ事がぎりなし。	上洛中のイベントと解釈した。	台徳院殿御実紀15	38	551上	1
145	1611	05.24	慶長	16	04.12		(和暦4月12日/西暦5月24日)昨夜より雨ふる。三月五日後ふらず。庶民雨をよるこぶ事がぎりなし。	上洛中のイベントと解釈した。	台徳院殿御実紀15	38	551上	1
146	1611	06.05	慶長	16	04.24	暴風1A	けふ風猶やまず。	上洛中のイベントと解釈した。	台徳院殿御実紀15	38	552上	1
147	1611	06.06	慶長	16	04.25	暴風1A	(前略)この程の大風に船中供方の輩皆船に酔たり。	上洛中のイベントと解釈した。	台徳院殿御実紀15	38	552上	1
148	1611	06.29	慶長	16	05.19	洪水1A	此ころ和州洪水。三輪山辺田圃一万石余損亡す。	上洛中のイベントと解釈した。	台徳院殿御実紀15	38	552下	1
149	1611	10.30	慶長	16	09.25	雷1A	廿五日雷声を発す。	上洛中のイベントと解釈した。	台徳院殿御実紀16	38	561上	1
150	1611	11.16	慶長	16	10.12		十二日相模川迄わたらせ給ひしが。雨によりて中原にかへらせ給ふ。		台徳院殿御実紀17	38	564下	0
151	1611	11.22	慶長	16	11.18	風雪1A	此日風雪はげし。		台徳院殿御実紀17	38	568下	0
152	1612	01.04	慶長	16	12.02	低温1A	二日雪ふる。寒威甚し。		台徳院殿御実紀17	38	569下	0
153	1612	01.15	慶長	16	12.13		駿府にては雨模様にて御狩なし。		台徳院殿御実紀17	38	570下	1
154	1612	01.03-02.01	慶長	16	12	干ばつ1B	(此月)又京にては前月より井水涸て衆庶艱困せしに、このごろ雨を得て水多く湧出しかば。皆人これをよるこぶ。		台徳院殿御実紀17	38	572下	1

徳川実紀

155	1612	02.11	慶長	17	01.10	強風1A・大雪1A	是夜風烈しくて雪つもる事六七寸におよぶ。		台徳院殿御実紀18	38	575下	0
156	1612	02.14	慶長	17	01.13	強風1A	十三日吉田につかせられ。城主松平玄蕃頭忠清に銀百枚給ふ。けう烈風により狩し給はず。		台徳院殿御実紀18	38	575下	0
157	1612	03.03	慶長	17	02.01		二月朔日雨ふりければ。大御所岡崎に滞在し給ふ。		台徳院殿御実紀18	38	577上	1
158	1612	03.04	慶長	17	02.02		二日けふも雨により御滞留あり。		台徳院殿御実紀18	38	577上	1
159	1612	03.05	慶長	17	02.03	大雨1A	(前略)時に大雨ふり来りければ早く帰らせ給ふ。此夕浜松にやどせらる。		台徳院殿御実紀18	38	577上	1
160	1612	03.07	慶長	17	02.05		五日甚雨にて大御所中泉に御滞座あり。		台徳院殿御実紀18	38	577上	1
161	1612	03.08	慶長	17	02.06		六日 大御所御鷹狩あり。晩に及んで雨ふる。		台徳院殿御実紀18	38	577上	0
162	1612	03.09	慶長	17	02.07		七日雨ふる。		台徳院殿御実紀18	38	577上	0
163	1612	03.10	慶長	17	02.08	強風1A	八日大風により御滞留あり。		台徳院殿御実紀18	38	577上	1
164	1612	03.12	慶長	17	02.10	長雨1A・洪水1A	十日連日の雨にて大井川水かさまさり。人馬渡る事を得ず。		台徳院殿御実紀18	38	577上	1
165	1612	03.15	慶長	17	02.13	強風1A	十三日風雨。		台徳院殿御実紀18	38	577下	0
166	1612	05.23	慶長	17	04.23	雷1A	廿三日雷雨。		台徳院殿御実紀18	38	584上	0
167	1612	05.24	慶長	17	04.24	雷1A・低温1A	廿四日けふも雷雨甚し。上方は雹ふる。寒気はげし。		台徳院殿御実紀18	38	584上	0
168	1612	05.24	慶長	17	04.24	ひょう1A	廿四日けふも雷雨甚し。上方は雹ふる。寒気はげし。		台徳院殿御実紀18	38	584上	1
169	1612	06.26	慶長	17	05.27	洪水1A	是日大水。		台徳院殿御実紀19	38	587下	0
170	1612	07.20	慶長	17	06.22	暴風1A・波浪1A	この日暴風。午刻より申の終まで吹やまず。三河。遠江。伊勢。美濃。尾張はこと更強く。勢尾の海上にて船二三十艘くつがへり。三遠の海上にて二百艘やぶる。熊野浦にて七八十艘やぶれたり。その他中国。西国辺の浦々にて破船多し。奥州会津も大風大水の聞えあり。		台徳院殿御実紀19	38	589上	0
171	1612	08.07-	慶長	17	07.11-	干ばつ1C	十一日けふより大旱。		台徳院殿御実紀19	38	591下	0
172	1612	08.25	慶長	17	07.29	大雨1A・暴風1A	廿九日大風雨。民屋傾壊するものあり。		台徳院殿御実紀19	38	593上	0
173	1612	08.27	慶長	17	08.01	洪水1A	阿部川暴漲して堤防大にくづる。彦坂光正安西衆に指揮してこれを防がしむ。美濃大垣も又大水のよきこゆ。		台徳院殿御実紀20	38	595上	1
174	1612	09.20	慶長	17	08.25	洪水1A	この頃洛中大水のよし聞ゆ。		台徳院殿御実紀20	38	597上	1
175	1612	09.26	慶長	17	09.02	暴風1A・洪水1A	二日近江。伊勢。美濃。尾張辺大風。伊賀国上野城は天守修理するとして。工人傭夫城上に登りゐたるもの百八十人。風に吹落され毀傷して死す。美作は大水暴漲して。人畜五千余溺死せしとぞ。		台徳院殿御実紀20	38	597下	1
176	1613	01.11-01.13	慶長	17	11.21-11.23		廿一日雨ふりて廿三日に至る。		台徳院殿御実紀20	38	601上	0
177	1613	01.21	慶長	17	12.01	大雪1A	十二月朔日大雪。		台徳院殿御実紀20	38	602下	0
178	1613	01.22-01.26	慶長	17	12.02-12.06		六日二日より雪ふりてけふに及ぶ。		台徳院殿御実紀20	38	602下	0
179	1612	05.01-02.19	慶長	17	夏-冬	長雨1C	この年夏秋冬雨多く。寒中暖気春のごとし。五穀みのらず。		台徳院殿御実紀20	38	604上	0
180	1612	10.24-02.19	慶長	17	冬	高温1C	この年夏秋冬雨多く。寒中暖気春のごとし。五穀みのらず。		台徳院殿御実紀20	38	604上	0
181	1613	02.25	慶長	18	01.06	高温1A	(前略)暖気にて鳥少ければその事なし。		台徳院殿御実紀21	38	608上	0
182	1613	03.02	慶長	18	01.11	大雨1A・洪水1A・あられ1A	此日大雨。震ふること翌朝にいたる。各所暴漲す。		台徳院殿御実紀21	38	608下	0
183	1613	03.06	慶長	18	01.15	強風1A・波浪1A	此日駿府にては宰相頼宣卿。清水の湊より関船にて三条へわたらせ給ふ所。東風つよく吹起り。波高く船危うかりしに。(後略)		台徳院殿御実紀21	38	609上	1
184	1613	03.13	慶長	18	01.22	長雨1A・洪水1A	廿二日連日の雨により。所々暴漲の聞えあり。		台徳院殿御実紀21	38	609下	0
185	1613	04.09	慶長	18	02.19	洪水1A	(和暦2月20日/西暦4月10日)昨日の洪水にて浅間の社祭を廃す。		台徳院殿御実紀21	38	613下	0
186	1613	02.20-06.17	慶長	18	春-夏	長雨1C	(慶長18年5月1日/1613年6月18日)去年夏秋の頃より雨多く。今年も春夏打つどきたるにて。重て国々の河水暴漲す。		台徳院殿御実紀22	38	621下	0

徳川実紀

187	1613	07.05	慶長	18	05.18	大雨1A	この日甚雨。		台徳院殿御実紀22	38	623上	0
188	1613	07.18	慶長	18	06.01	大雨1A	この日大雨。		台徳院殿御実紀22	38	624下	0
189	1613	07.22-	慶長	18	06.05-	干ばつ1C	(和暦6月5日)此頃よりして諸国炎旱。		台徳院殿御実紀22	38	624下	0
190	1613	08.05	慶長	18	06.20	干ばつ1A	このごろ連日炎暑。近年まれなところとぞ聞えし。		台徳院殿御実紀22	38	626上	0
191	1613	08.13	慶長	18	06.27	干ばつ1A	(和暦6月29日/西暦8月15日)廿九日今年諸国大旱の所。昨今兩日駿河三河兩國雨を得て。国民大によろこぶ。		台徳院殿御実紀22	38	626下	0
192	1613	08.14-08.15	慶長	18	06.28-06.29		(和暦6月29日/西暦8月15日)廿九日今年諸国大旱の所。昨今兩日駿河三河兩國雨を得て。国民大によろこぶ。		台徳院殿御実紀22	38	626下	1
193	1613	09.17	慶長	18	08.03	暴風1A・波浪1A	この日西風烈しく吹く。長崎よりの貢船十五艘沈溺す。よつて京堺の地俄に糸匱騰貴せしとぞ。		台徳院殿御実紀23	38	629上	0
194	1613	09.18	慶長	18	08.04	暴風1A	この日伊勢国大風。		台徳院殿御実紀23	38	629上	1
195	1613	09.23	慶長	18	08.09	暴風1A	この日近江国北風烈しく。志賀の湖風涛甚だ高く。商船十余艘破損す。		台徳院殿御実紀23	38	629下	1
196	1613	08.16-11.11	慶長	18	秋	高温1C	(和暦8月14日/西暦9月28日)十四日秋暑殊に甚しかりに。夜の入て風[北風ト]大に起る。		台徳院殿御実紀23	38	629下	0
197	1613	09.28	慶長	18	08.14	暴風1A	(和暦8月14日/西暦9月28日)十四日秋暑殊に甚しかりに。夜の入て風[北風ト]大に起る。		台徳院殿御実紀23	38	629下	0
198	1613	10.11	慶長	18	08.27	暴風1A	廿七日駿府大風。土民屋舎多く傾覆す。		台徳院殿御実紀23	38	631上	1
199	1613	11.01	慶長	18	09.19		大御所雨により善徳寺に御滞留ありて。此日銃もて鴻一雙運ね給ふ。		台徳院殿御実紀23	38	632下	0
200	1613	12.25	慶長	18	11.14	大雪1A	今夜大雪。		台徳院殿御実紀24	38	638上	0
201	1614	01.25	慶長	18	12.16	大雪1A・低温1A	十六日。連日大雪。寒気殊に甚し。		台徳院殿御実紀24	38	640上	0
202	1614	02.05	慶長	18	12.27	大雨1A・洪水1A	廿七日細川越中守忠興拜謁す。昨今大雨各処暴漲せり。		台徳院殿御実紀24	38	640下	0
203	1614	02.22	慶長	19	01.14		十四日雨ふりければ。大御所猶御滞留あり。		台徳院殿御実紀25	38	646上	0
204	1614	03.02	慶長	19	01.22		廿二日藤沢駅につかせ給ふ。終夜雨。		台徳院殿御実紀25	38	647上	0
205	1614	03.30	慶長	19	02.20	大雨1A	この日駿府浅間の神事あり。終夜大雨。		台徳院殿御実紀25	38	653上	1
206	1614	03.31	慶長	19	02.21	大雨1A	今夜また大雨。		台徳院殿御実紀25	38	653上	1
207	1614	04.22	慶長	19	03.14	雷1A	この夕雷はじめて声を発す。		台徳院殿御実紀25	38	655下	0
208	1614	05.14	慶長	19	04.06	あられ1A・低温1A	六日午牌霰降。寒気冬の如し。		台徳院殿御実紀26	38	659下	0
209	1614	05.17	慶長	19	04.09	大雨1A	けふ終日大雨。夜に至てはれず。諸人これを悦ぶ。	干ばつ直後の可能性がある。	台徳院殿御実紀26	38	659下	0
210	1614	05.31	慶長	19	04.23	長雨1A・洪水1A	(和暦4月27日)此廿三日霖雨。摂河兩國近年類なき洪水なりとぞ。		台徳院殿御実紀26	38	662上	1
211	1614	06.06	慶長	19	04.29	洪水1A	廿九日美濃大水。尾張はことに甚しく。田圃損亡あげてかぞふべからずとなり。		台徳院殿御実紀26	38	662下	1
212	1614	06.12-06.13	慶長	19	05.05-05.06	大雨1A・洪水1A	(和暦5月6日/西暦6月13日)六日昨日より大雨。所々暴漲す。		台徳院殿御実紀26	38	663上	0
213	1614	06.16	慶長	19	05.09	大雨1A・暴風1A	九日大風雨。		台徳院殿御実紀26	38	663下	0
214	1614	06.18	慶長	19	05.11	長雨1A・大雨1A	昨今連日大雨。	「連日」より長期に及ぶと判断した。	台徳院殿御実紀26	38	663下	0
215	1614	06.19	慶長	19	05.12	洪水1A	十二日諸国洪水。天文十三年甲辰以来七十一年が間。いまだ例なき事とぞ。		台徳院殿御実紀26	38	663下	0
216	1614	06.21	慶長	19	05.14		十四日雨猶やまず。		台徳院殿御実紀26	38	664上	0
217	1614	06.26	慶長	19	05.19	洪水1A	京職板倉伊賀守勝重脚力もて畿内洪水。鴨河堤崩れ民屋流亡し。瀬田橋傾落の旨注進す。堤防橋梁速に修理すべしと。其二子内膳正重昌もて仰下さる。		台徳院殿御実紀26	38	664上	1
218	1614	07.09	慶長	19	06.03	洪水1A	此日濃州大水。曾根の堤崩れたりとぞ。		台徳院殿御実紀26	38	666上	1

徳川実紀

219	1614	06.30-07.10	慶長	19	05.23-06.04	長雨1B	(和暦6月4日/西暦7月10日)諸国洪水。撰津。河内。美濃。尤甚し。田圃。民家。堤[堤防ト]。橋梁多く損亡す。去月廿三日より霖雨の致す所なり。		台徳院殿御実紀26	38	666上	0
220	1614	07.10	慶長	19	06.04	洪水1A	(和暦6月4日/西暦7月10日)諸国洪水。撰津。河内。美濃。尤甚し。田圃。民家。堤[堤防ト]。橋梁多く損亡す。去月廿三日より霖雨の致す所なり。		台徳院殿御実紀26	38	666上	0
221	1614	07.17	慶長	19	06.11	雷1A	雷鳴連日。		台徳院殿御実紀26	38	666下	0
222	1614	07.29	慶長	19	06.23	大雨1A・雷1A	(前略)この廿三日。禁廷にて猿楽催されしに。(中略)甚雷大雨。諸人みな奇異の想をなせりとぞ。		台徳院殿御実紀26	38	668下	0
223	1614	08.09-08.14	慶長	19	07.04-07.09	長雨1B	(和暦7月9日/西暦8月14日)この四日より霖雨晴やらず。		台徳院殿御実紀27	38	669下	0
224	1614	08.22	慶長	19	07.17	暴風1A	此日大風。		台徳院殿御実紀27	38	671下	0
225	1614	09.13	慶長	19	08.10	長雨1A	此ころ昼夜一日も雨ふらざる事なし。		台徳院殿御実紀27	38	675下	0
226	1614	10.01	慶長	19	08.28	大雨1A・洪水1A・暴風1A	この日江戸大風雨。洪水各所。諸侯邸宅門戸破倒す。伊勢甚雷大風。駿遠二国風なし。		台徳院殿御実紀27	38	678上	0
227	1614	10.01	慶長	19	08.28	大雨1A・洪水1A	(和暦9月4日)去月廿八日大雨にて。山城。河内。近江辺洪水。民家堤防所々崩破し。溺死のものすくなからざる旨京より注進す。		台徳院殿御実紀27	38	678下	1
228	1614	11.02	慶長	19	10.01		((前略)夜べより雨いたうふりて。舞台の湿ければ。(後略))		台徳院殿御実紀28	38	687上	0
229	1614	11.15	慶長	19	10.14		十四日雨ふる。(後略)		台徳院殿御実紀28	38	695下	0
230	1614	11.19	慶長	19	10.18		十八日雨にて名古屋に御滞留あり。(後略)	「大阪冬の陣」に伴う記載と判断した。	台徳院殿御実紀29	38	700下	1
231	1614	12.27	慶長	19	11.27		又夕にかけては雨降でしかば。(後略)	「大阪冬の陣」に伴う記載と判断した。	台徳院殿御実紀31	38	735下	1
232	1615	01.12	慶長	19	12.13	大雨1A・強風1A	十三日大風雨による。(後略)	「大阪冬の陣」に伴う記載と判断した。	台徳院殿御実紀32	38	749上	1
233	1615	01.13	慶長	19	12.14	大雨1A・強風1A	十四日けふも雨風烈し。未刻にいたり雨はふりやみぬれど。風はいよく吹やまず。岡山の御營より板倉周防守重宗御使して。御気色をうかゞはる。	「大阪冬の陣」に伴う記載と判断した。	台徳院殿御実紀32	38	749上	1
234	1615	01.14	慶長	19	12.15		十五日けふも風猶やまず。	「大阪冬の陣」に伴う記載と判断した。	台徳院殿御実紀32	38	749下	1
235	1615	01.31	元和	1	01.03		三日快晴。		台徳院殿御実紀34	39	1上	1
236	1614	11.02-02.17	元和	1	前冬-01.20	低温1C	(元和元年1月20日)すべて去冬より今春にいたり。寒威の烈しきこと例年を超たり。		台徳院殿御実紀34	39	3下	1
237	1615	02.23	元和	1	01.26	強風1A	此日大風。		台徳院殿御実紀34	39	4上	1
238	1615	03.10	元和	1	02.11		十一日雨により御延留あり。		台徳院殿御実紀34	39	5下	1
239	1614	-	元和	1	03.15	干ばつ1C	(元和元年3月15日/1615年4月12日)(前略)つぎに大坂所領河撰両国。去年大旱の上兵乱にて土民逃散し。(後略)		台徳院殿御実紀34	39	8下	1
240	1615	04.17	元和	1	03.20		此夕雨ふる。		台徳院殿御実紀34	39	9上	1
241	1614	-	元和	1	04.20	洪水1C	(元和元年4月20日/1615年5月17日)(前略)この日大坂より青木民部少輔一重を使として御入洛を賀し。其上撰河両州去年の兵乱及洪水にて。土民逃散し賦税納まらず。(後略)	「大阪夏の陣」等に伴う記載と判断した。	台徳院殿御実紀35	39	17上	1
242	1615	05.24	元和	1	04.27		廿七日雨ふる。	「大阪夏の陣」等に伴う記載と判断した。	台徳院殿御実紀35	39	20下	1
243	1615	09.27	元和	1	08.05	長雨1B	又霖雨により此所に御輿をとどめらる。	「大阪夏の陣」等に伴う記載と判断した。	台徳院殿御実紀40	39	69上	1

徳川実紀

244	1615	09.28	元和	1	08.06		六日雨により御滞留あり。	「大阪夏の陣」等に伴う記載と判断した。	台徳院殿御実紀40	39	69上	1
245	1615	09.29	元和	1	08.07		七日雨猶やまねば。けふも御延滞あり。	「大阪夏の陣」等に伴う記載と判断した。	台徳院殿御実紀40	39	69上	1
246	1615	09.30	元和	1	08.08		八日けふも雨により御発輿なし。	「大阪夏の陣」等に伴う記載と判断した。	台徳院殿御実紀40	39	69上	1
247	1615	10.01	元和	1	08.09		九日雨晴ければ水口を出たせ給ひ。亀山に渡わせらる。	「大阪夏の陣」等に伴う記載と判断した。	台徳院殿御実紀40	39	69下	1
248	1615	10.04	元和	1	08.12		十二日雨ふりければ。大御所けふも名古屋にとまらせ給ふ。	「大阪夏の陣」等に伴う記載と判断した。	台徳院殿御実紀40	39	70上	1
249	1615	10.05	元和	1	08.13		十三日雨はるれば。大御所名古屋を御発輿ありて。岡崎に至られたまふ。	「大阪夏の陣」等に伴う記載と判断した。	台徳院殿御実紀40	39	70上	1
250	1615	11.26	元和	1	10.06		六日雨にて中原に御滞留あり。	「大阪夏の陣」等に伴う記載と判断した。	台徳院殿御実紀40	39	73上	1
251	1616	06.01	元和	2	04.17		是夜微雨そゞぐ。		台徳院殿御実紀42	39	95下	0
252	1617	02.06	元和	3	01.01	強風1A	この日大風。		台徳院殿御実紀45	39	119上	0
253	1617	03.20	元和	3	02.13	強風1A	十三日申刻大風。砂塵を吹たてすべて闇夜のごとし。江戸。京ともに民家若干吹倒す。		台徳院殿御実紀45	39	119下	0
254	1617	05.14	元和	3	04.10	大雨1A・洪水1A・強風1A	(和暦4月10日)十日昨夜より大風雨。所々暴漲す。		台徳院殿御実紀45	39	123下	0
255	1617	05.16	元和	3	04.12	大雨1A・洪水1A・強風1A	十二日風雨猶やまず。この日日光山御参詣の御首途あり。入馬川洪水して千寿の大川みなぎり。大橋も既におしながされんとす。(後略)		台徳院殿御実紀45	39	123下	0
256	1617	05.17	元和	3	04.13	大雨1A・洪水1A	十三日連日の大風雨に。栗橋の渡りに架せし船橋流失す。		台徳院殿御実紀45	39	124上	0
257	1617	06.04	元和	3	05.01	ひょう1A	此日大雹。諸国の麦圃大に損ず。		台徳院殿御実紀46	39	127上	0
258	1618	01.27	元和	4	01.01	強風1A	今日巳後雪はれて大風。		台徳院殿御実紀48	39	145上	0
259	1619	02.15	元和	5	01.01		この夜微雨。		台徳院殿御実紀50	39	161上	0
260	1619	06.13-09.07	元和	5	05.02-07	干ばつ1B	五月二日今日より七月にいたるまで久旱。田穀みな枯る。		台徳院殿御実紀50	39	162下	0
261	1619	09.17	元和	5	08.10	洪水1A	十日諸国洪水。田圃大に損害し。人畜これのために。災にかゝるもの若干なり。		台徳院殿御実紀51	39	173下	0
262	1619	12.31	元和	5	11.26	低温1A	(前略)折ふし寒気酷烈なりしかば。(後略)		台徳院殿御実紀51	39	180下	0
263	1620	01.09	元和	5	12.05	高温1A	この日極熱暑中のごとし。		台徳院殿御実紀51	39	181上	0
264	1620	01.16	元和	5	12.12	大雪1A	この日大雪。		台徳院殿御実紀51	39	181上	0
265	1620	06.09	元和	6	05.09	洪水3	九日河内国洪水の注進あり。		台徳院殿御実紀52	39	190下	1
266	1620	06.20	元和	6	05.20	洪水1A	廿日大和河内洪水。大和川の堤潰へ二万石余の地を損ず。摂州柏原千四百石の地荒廃するにより。代官末吉孫左衛門長方水路を開き平野川へ通じ。舟七十艘を造り運漕を便にしければ。其地漸々繁栄し。荒田年を逐て始に復せしとぞ。		台徳院殿御実紀52	39	191上	1
267	1620	06.01-06.29	元和	6	05	洪水1B	(和暦8月6日)六日浅野但馬守長晟が安芸国広島城の城。此五月水害にかゝり。二丸角櫓并石垣崩れ。二三丸総溝破損せしよし。(後略)		台徳院殿御実紀53	39	198上	1
268	1620	08.28-09.25	元和	6	08	洪水1B	是月畿内西国洪水。		台徳院殿御実紀53	39	198下	1
269	1620	12.03-12.15	元和	6	11.10-11.22	多雪1A	(和暦11月22日)十日より今日にいたるまで。雪ふる事連日。		台徳院殿御実紀53	39	201下	0
270	1621	04.28	元和	7	03.07	大雨1A・強風1A・雷1A	七日大風雨。雷なる事甚し。豆腐の海上大に荒て渡海の船覆没し。溺死者数百人に及ぶ。		台徳院殿御実紀54	39	210下	0
271	1621	09.18	元和	7	08.03	暴風1A	三日大風。増上寺門を吹倒す。		台徳院殿御実紀55	39	215上	0

徳川実紀

272	1622	01.09	元和	7	11.28		(和暦11月28日)廿八日昨日雨ふりければ。けふ東金の御狩場につかせ給ふ。(後略)	台徳院殿御実紀55	39	218下	0
273	1622	07.09-08.06	元和	8	06	長雨1B・低温1B	(是月)この程霖雨日をかさねてはれず。冷気秋のごとし。(後略)	台徳院殿御実紀56	39	229下	0
274	1620	08.30	元和	6	08.03	暴風1A	(元和8年10月15日/1622年)十五日増上寺山門再構にて供養行はる。こは元和六年八月三日の大風にて破壊せし故なり。	台徳院殿御実紀57	39	237上	0
275	1623	01.30-01.31	元和	9	前 12.30-01.01	大雪1A	(元和9年1月1日/1623年1月31日)昨夜より終日大雪やまず。	台徳院殿御実紀59	39	245上	0
276	1623	10.02	元和	9	閏08.08		(前略)御出京ありて江府に赴かせ給ふ。今朝雨ふりしが午前にはたりてはる。(後略)	大猷院殿御実紀1	39	304下	0
277	1624	03.11-03.12	寛永	1	01.22-01.23	大雪1A	廿三日 大御所けふ紀伊中納言頼宣卿の邸に臨駕あり。前日より雪ふかくして。ならせ給ふほどいさゝかやみたり。	大猷院殿御実紀2	39	315下	0
278	1625	02.06-02.07	寛永	2	前 12.29-01.01	大雪1A	(寛永2年1月1日/1625年2月7日)正月元旦。大雪昨夜よりやまず。	大猷院殿御実紀3	39	337上	0
279	1626	07.11	寛永	3	06.07		七日昨今両日雨により。駿府に滞留し給ふ。	大猷院殿御実紀7	39	369上	1
280	1626	08.16	寛永	3	07.14		十四日雨降ければ藤沢御滞留なり。	大猷院殿御実紀7	39	373下	0
281	1626	10.07	寛永	3	09.06		六日昨夜より微雨。今日昼前に至て晴る。	大猷院殿御実紀7	39	377下	0
282	1626	10.08	寛永	3	09.07		七日快晴。	大猷院殿御実紀7	39	384下	0
283	1626	10.09	寛永	3	09.08		(前略)御遊の間いきりに雨ふり出てものづかなり。(後略)	大猷院殿御実紀8	39	391上	0
284	1627	07.15	寛永	4	06.03		三日大風雨。	大猷院殿御実紀9	39	410下	0
285	1628	05.12	寛永	5	04.09		(前略)御炭あそばされ。雨ふりければ。(後略)	大猷院殿御実紀11	39	431下	0
286	1628	05.21	寛永	5	04.18		(前略)事はてゝ雷雨滂沱たり。(後略)	大猷院殿御実紀11	39	432下	0
287	1628	05.30	寛永	5	04.27	雷1A・ひょう1A	(前略)法会の間雷雨甚だしく雹ふる。(後略)	大猷院殿御実紀11	39	433下	0
288	1628	06.19-	寛永	5	05.18-	長雨1C	この日大地震の後霖雨になる。	大猷院殿御実紀11	39	435下	0
289	1630	-	寛永	7	-	洪水3	(是年)曾根源左衛門吉次東国を巡見し。関西洪水の地も巡見し。加恩ありて関東勘定頭になり。	大猷院殿御実紀16	39	500下	1
290	1631	02.07	寛永	8	01.07	大雪1A	此日大雪なり。	大猷院殿御実紀17	39	503下	0
291	1631	02.18	寛永	8	01.18	大雪1A・雷1A	十八日大雪つもる事七寸。又雷鳴る。	大猷院殿御実紀17	39	504上	0
292	1631	04.02	寛永	8	03.01	強風1A	この日北風烈く。その上風の御心地にて御滞留あれば。(後略)	大猷院殿御実紀17	39	508下	0
293	1631	04.02-05.01	寛永	8	03		是月甘露ふる。又諸国の竹ゆへなくてをのづから破裂す。	大猷院殿御実紀17	39	510上	0
294	1631	05.26	寛永	8	04.25	干ばつ1A	此頃連日旱して日色赤し。	大猷院殿御実紀17	39	512上	0
295	1631	10.23	寛永	8	09.28	大雨1A	この日大雨。	大猷院殿御実紀18	39	524下	0
296	1631	07.29-10.24	寛永	8	秋	洪水1C	此秋関東大水。堤防若干崩破し。人畜の溺死かぞふるにいとまあらず。	大猷院殿御実紀18	39	524下	0
297	1631	10.25-11.23	寛永	8	10	大雨1B・暴風1B	(是月)また関西大風雨のよしなり。	大猷院殿御実紀18	39	525上	1
298	1632	03.09	寛永	9	01.19	雷1A	此日雷雨。	大猷院殿御実紀19	39	532下	0
299	1632	09.08	寛永	9	07.24	長雨1A・大雨1A	此ころ連日雨ふりしが。御法会の間やみて。還御の後又大雨なりしかば。(後略)	大猷院殿御実紀20	39	556下	0
300	1632	09.10	寛永	9	07.26	長雨1A・大雨1A・洪水1A	連日の大雨にて各所洪水の聞えあり。	大猷院殿御実紀20	39	557上	0
301	1632	11.02	寛永	9	09.20	雷1A・ひょう1A	この日雷電。雹ふる。	大猷院殿御実紀21	39	566下	0
302	1632	12.01	寛永	9	10.20		此日雨ふりてやまず。	大猷院殿御実紀21	39	569下	0
303	1632	12.02	寛永	9	10.21	大雨1A・雷1A・あられ1A	廿一日暴雨雷電。雹ふる。	大猷院殿御実紀21	39	569下	0
304	1633	01.06	寛永	9	11.26		廿六日初雪。地につもる事三寸。	大猷院殿御実紀21	39	574下	0
305	1633	01.11	寛永	9	12.02		二日雪ふる。	大猷院殿御実紀21	39	575上	0
306	1633	01.13	寛永	9	12.04	大雪1A・低温1A	四日雪。平地五寸。寒気ことにはげしければ。(後略)	「五寸」から大雪とした。 大猷院殿御実紀21	39	575下	0
307	1633	01.18-01.19	寛永	9	12.09-12.10	大雪1A	(寛永9年12月10日/1633年1月19日)十日昨夜より大雪。地につもる事一尺。終日ふりやまず。	大猷院殿御実紀21	39	575下	0
308	1633	01.25	寛永	9	12.16	大雪1A	十六日雪つもる事二寸。	大猷院殿御実紀21	39	576上	0

徳川実紀

309	1633	01.28-01.29	寛永	9	12.19-12.20		(寛永9年12月20日/1633年1月29日)廿日昨夜より雪つもる事三寸。		大猷院殿御実紀21	39	576下	0
310	1633	02.16-02.17	寛永	10	01.08-01.09	大雪1A	(和暦1月9日)九日昨夜より雪。地につもる事一尺。	「一尺」から大雪とした。	大猷院殿御実紀22	39	581上	0
311	1633	03.18	寛永	10	02.09		九日春雨もしめやかにふり。當中もつれぐなればとて。(後略)		大猷院殿御実紀22	39	585上	0
312	1633	04.08	寛永	10	02.30	強風1A	晦日大風。		大猷院殿御実紀22	39	591上	0
313	1633	05.07	寛永	10	03.29	雷1A	この日甚雷ありて白毛ふる。		大猷院殿御実紀22	39	594上	0
314	1633	05.17	寛永	10	04.10	大雨1A・雷1A	この日地震。また暴雨甚雷。		大猷院殿御実紀22	39	594下	0
315	1633	07.17	寛永	10	06.12	長雨1A	連日の霖雨にて千寿。浅草の辺洪水の聞えあり。(後略)		大猷院殿御実紀22	39	600下	0
316	1633	07.16	寛永	10	06.11	洪水1A	(和暦6月13日/西暦7月18日)一昨日城溝も水溢れ西城の石垣崩れたり。(後略)		大猷院殿御実紀22	39	600下	0
317	1633	07.24	寛永	10	06.19	雷1A	この曉甚雷。鷹坊に震す。		大猷院殿御実紀22	39	601上	0
318	1633	07.23	寛永	10	06.18	雷1A	(和暦6月19日/西暦7月24日)九条前関白旅館へ。土井大炊頭利勝御使して。昨夜の雷雨により起居をとほせ給ふ。		大猷院殿御実紀22	39	601上	0
319	1633	08.08	寛永	10	07.04	洪水3	菅沼織部正芳江州膳所の所領水害を蒙る。よて銀三百貫目恩賜あり。		大猷院殿御実紀23	39	603上	1
320	1633	08.09	寛永	10	07.05	洪水3	又松平紀伊守家信が所領摂津高槻水害にかかりければ金をくださる。		大猷院殿御実紀23	39	603下	1
321	1634	01.30	寛永	11	01.02		(和暦1月3日)昨夜雪ふる。地につもること五寸余。	「五寸」から大雪とした。	大猷院殿御実紀24	39	619上	0
322	1634	02.10	寛永	11	01.13	強風1A・大火	今日中橋の北の町より失火し。風烈しかりしかば。所々延焼せしとぞ。		大猷院殿御実紀24	39	619下	0
323	1634	07.16	寛永	11	06.21		廿一日藤沢にやどらせ給ふ。白雨す。		大猷院殿御実紀25	39	638下	0
324	1634	08.11	寛永	11	07.18		十八日快晴なり。		大猷院殿御実紀25	39	643下	0
325	1634	08.27	寛永	11	閏07.04	大雨1A	(前略)還御の後大雨滂沱たり。		大猷院殿御実紀26	39	653上	0
326	1634	11.06	寛永	11	09.16		十六日日光山につかせ給ふ。この日雨ふる。		大猷院殿御実紀26	39	661上	0
327	1634	-	寛永	11	-	洪水3	(是年)又松平美作守定房封地水害にかかりしかば。堤防修治の費用を賜ふ。		大猷院殿御実紀26	39	668下	1
328	1635	02.20	寛永	12	01.03		三日岩淵の辺に御鷹狩にならせ給ひしが、雨降しかば王子村より御帰城あり。		大猷院殿御実紀27	39	672上	0
329	1635	08.15-08.16	寛永	12	07.03-07.04	雷1A	(和暦7月4日)前夜より雷雨しきりなり。		大猷院殿御実紀29	39	691上	0
330	1636	02.26-02.27	寛永	13	01.20-01.21	大雨1A・強風1A	(和暦1月21日)廿一日外郎經營親巡し給ふべき旨出されしかど。前夜より大風暴雨によりて延引し給ふ。昨夜の大雨によりて。細川越中守忠利があづかる所石壁。多半崩頽すといふ。		大猷院殿御実紀30	40	3下	0
331	1636	05.26	寛永	13	04.22		廿二日午刻雨いさかふりにしに。江戸城に還御ならせ給ふ。		大猷院殿御実紀30	40	12下	0
332	1636	09.03-09.04	寛永	13	08.04-08.05	暴風1A	五日昨夜より大風。寅刻地震によて。(後略)		大猷院殿御実紀32	40	30下	0
333	1637	07.01	寛永	14	05.09		九日紀邸に三浦志摩守正次御使し。楊梅一籠つかはさる。けふ雨中ゆへ。一きは病躰御心元なく思召とはせ給ふ旨を伝ふ。		大猷院殿御実紀34	40	54下	0
334	1637	08.20	寛永	14	07.01	大雨1A	この日大雨。		大猷院殿御実紀35	40	57上	0
335	1637	09.15	寛永	14	07.27	大雨1A・雷1A	夜中。大雨。雷電。地震。		大猷院殿御実紀35	40	59上	0
336	1637	09.25	寛永	14	08.07	大雨1A・暴風1A	此日大風雨。		大猷院殿御実紀35	40	60上	0
337	1637	09.27	寛永	14	08.09	大雨3・暴風3	先日大風雨により惣曲輪の石垣土居崩頽せし各所。松平伊豆守信綱。阿部豊後守忠秋して巡視せしめらる。		大猷院殿御実紀35	40	60上	0
338	1637	09.27	寛永	14	08.09	洪水3	城東浅草辺洪水。荒川。利根川秋漲さかんなるよし。群代伊奈半十郎忠治注進し。		大猷院殿御実紀35	40	60上	0
339	1637	09.25	寛永	14	08.07	暴風1A	(和暦8月9日/西暦9月27日)駿府よりは七日の大風にて。城中の堀并民屋百三十軒余吹倒したるよし注進す。		大猷院殿御実紀35	40	60上	1
340	1637	-	寛永	14	08.25	大雨1C・暴風1C	(和暦8月25日/西暦10月13日)今年大風雨により。諸国秋稼の巡視命ぜらる。(後略)		大猷院殿御実紀35	40	61上	0

徳川実紀

341	1637	10.23	寛永	14	09.06	雷1A	此日地震し。夜に入て雷雨甚し。		大猷院殿御実紀35	40	62下	0
342	1637	12.14	寛永	14	10.28		兼てけふは土井大炊頭利勝の別荘に渡御仰出されしかど。雨によりとどめられ。二丸にて猿楽あり。		大猷院殿御実紀36	40	71下	0
343	1637	12.16	寛永	14	10.30		晦日雪にて紀伊垂相の病をとほせられ。狩場に奉書をつかはさる。		大猷院殿御実紀36	40	71下	0
344	1637	12.16	寛永	14	10.30		初雪により宮中伺候の輩に鶴もて饗膳を下さる。		大猷院殿御実紀36	40	71下	0
345	1637	12.26-01.14	寛永	14	11.10-11.29		この月十日頃より日輝赤き事常にこえたり。		大猷院殿御実紀36	40	77下	0
346	1638	02.14	寛永	15	01.01	強風1A	この暁より黄昏まで烈風。天地晦冥。		大猷院殿御実紀37	40	83上	0
347	1638	02.02	寛永	14	12.19	大雨1A・強風1A	(寛永15年1月1日)(前略)十九日大坂川口出船せしに。折ふし大風雨にて出船しがたく。心ならず遅緩し。(後略)		大猷院殿御実紀37	40	83上	1
348	1638	03.02	寛永	15	01.17		十七日御病後こと更雨ふるがゆへに。(後略)		大猷院殿御実紀37	40	86下	0
349	1637	-	寛永	15	04.16	洪水1C	(寛永15年4月16日/1638年5月29日)松平越前守忠宗所領陸奥の国仙台。去年年度水害にかゝりたるをもて。銀五千貫目恩貸せらる。		大猷院殿御実紀38	40	100下	1
350	1638	05.30	寛永	15	04.17	大雨1A・強風1A	此夜大風暴雨。屋を倒し樹を抜く。		大猷院殿御実紀38	40	100下	0
351	1638	05.31	寛永	15	04.18		十八日けふも雨やまず。		大猷院殿御実紀38	40	100下	0
352	1638	07.22	寛永	15	06.11	高温1A	紀伊垂相狩場より使して。此ほど炎熱なるに御けしきうるはしくわたらせ給ふを賀せられ。かつ久しく狩場にありとて謝せらる。		大猷院殿御実紀38	40	105下	0
353	1638	08.21	寛永	15	07.12	大雨1A・暴風1A	(和暦7月13日/西暦8月20日)十三日昨夜大風雨により紀水両卿まうのぼり御気色うかゞはる。		大猷院殿御実紀38	40	107下	0
354	1638	10.06	寛永	15	08.29	大雨1A	廿九日品川へならせ給ひしが。大雨により帰らせ給ひて後。(後略)		大猷院殿御実紀38	40	110上	0
355	1638	10.25	寛永	15	09.18	あられ1A	黄昏霰降ければ。紀邸より使出し御気色伺はる。		大猷院殿御実紀39	40	112下	0
356	1639	01.25	寛永	15	12.22	大雪1A	廿二日連日の大雪にて。(後略)		大猷院殿御実紀39	40	121下	0
357	1639	03.26	寛永	16	02.22	強風1A	(和暦2月23日)廿三日きのふ大風により。三家まうのぼり御気色を伺はる。		大猷院殿御実紀40	40	128上	0
358	1639	04.19	寛永	16	03.16	強風1A	十六日南風烈し。紀水両卿御使して御けしきうかゞはる。		大猷院殿御実紀40	40	130下	0
359	1639	04.20	寛永	16	03.17	強風1A	けふもひねもす風やまず。塵埃を吹きあげて天地晦冥なるがごとし。(後略)		大猷院殿御実紀40	40	130下	0
360	1639	05.26	寛永	16	04.24		廿四日雨ふりければ。(後略)		大猷院殿御実紀40	40	135上	0
361	1639	06.09	寛永	16	05.08	暴風1A	(前略)烈風により出御なし。(後略)		大猷院殿御実紀40	40	136上	0
362	1639	09.01	寛永	16	08.04	大雨1A・暴風1A	この夜大風雨。		大猷院殿御実紀41	40	147下	0
363	1639	09.08	寛永	16	08.11	大雨1A	十一日辰刻より雨甚しくふるに。巳刻ばかり奥の厨より火おこり。(後略)		大猷院殿御実紀41	40	148上	0
364	1640	01.09	寛永	16	閏11.16	低温1A	このほど寒威烈しければ。(後略)		大猷院殿御実紀42	40	162下	0
365	1640	01.30	寛永	16	12.08	大雨1A	(寛永16年12月9日/1640年1月31日)九日昨日は大風。けふは烈風により。日光山に駅をはせて。山中のさまとはせらる。		大猷院殿御実紀42	40	165上	0
366	1640	01.31	寛永	16	12.09	強風1A	(寛永16年12月9日/1640年1月31日)九日昨日は大風。けふは烈風により。日光山に駅をはせて。山中のさまとはせらる。		大猷院殿御実紀42	40	165上	0
367	1640	02.02	寛永	16	12.11		十一日初雪ふりければ。三家使をもて御気色伺はる。		大猷院殿御実紀42	40	165下	0
368	1640	02.26	寛永	17	01.05	強風1A・低温1A	この日烈風。余寒甚し。		大猷院殿御実紀43	40	169下	0
369	1640	04.08	寛永	17	02.17		十七日東叡山 御宮御参るべき旨。兼日仰出されしが。雨によりて御参なし。		大猷院殿御実紀43	40	174上	0
370	1640	06.06	寛永	17	04.17	大雨1A	十七日大雨により御参并御祭禮延滞あり。		大猷院殿御実紀43	40	182下	0
371	1640	06.11	寛永	17	04.22		廿二日雨により岩槻城に御滞留あり。午後晴に属しければ。(後略)		大猷院殿御実紀43	40	185下	0
372	1640	06.23	寛永	17	05.04	大雨1A・雷1A	四日大雨雷電。		大猷院殿御実紀44	40	187上	0
373	1640	10.30	寛永	17	09.16		(前略)きのふ雨降しかば共けふ晴たりけるを秀元。(後略)		大猷院殿御実紀45	40	206下	0
374	1640	12.15	寛永	17	11.03	強風1A	三日風雨なり。		大猷院殿御実紀45	40	210下	0

徳川実紀

375	1641	02.17	寛永	18	01.08	大雪1A	八日大雪。		大猷院殿御実紀46	40	215下	0
376	1641	03.08	寛永	18	01.27	あられ1A	けふ雪霽終日。		大猷院殿御実紀46	40	216下	0
377	1641	04.08	寛永	18	02.28	大雪1A	この日大雪。		大猷院殿御実紀46	40	219上	0
378	1641	04.13	寛永	18	03.04	大雨1A・雷1A	此夜大雷甚雨。		大猷院殿御実紀46	40	219上	0
379	1641	04.26	寛永	18	03.17	雷1A	十七日雷雨。地震。		大猷院殿御実紀46	40	221上	0
380	1641	10.13	寛永	18	09.09		(前略)雨ふりければ市人等へ傘を授らる。		大猷院殿御実紀47	40	237下	0
381	1641	11.28	寛永	18	10.26	大雪1A	廿六日大雪なり。三家より使もて初雪の御けしきうかどはる。		大猷院殿御実紀47	40	242上	0
382	1642	01.30-01.31	寛永	19	01.01	大雪1A	(寛永19日1月1日/1642年1月31日)昨夜より終日大雪。		大猷院殿御実紀48	40	251上	0
383	1642	02.10	寛永	19	01.11	大雪1A	(和暦1月11日)昨夜より大雪により三家使出し。		大猷院殿御実紀48	40	251下	0
384	1642	05.15	寛永	19	04.17		十七日雨ふりければ御参御祭禮延滞せらる。		大猷院殿御実紀50	40	266上	0
385	1642	09.03	寛永	19	08.09	大雨1A	此日甚雨により日光山に駅をはせて山中のさまをとほせらる。		大猷院殿御実紀51	40	283上	0
386	1643	01.07	寛永	19	11.17		(和暦11月17日)またきのふ雪ふりければ。三家使して伺はる。		大猷院殿御実紀52	40	299上	0
387	1643	04.02	寛永	20	02.14	強風1A	(前略)また烈風による。狩場より使もて御けしきうかどはる。		大猷院殿御実紀53	40	307上	0
388	1643	05.25	寛永	20	04.08	大雨1A・強風1A	八日風雨烈しかりければ。(後略)		大猷院殿御実紀53	40	311上	0
389	1643	07.28	寛永	20	06.13	大雨1A・雷1A	この日甚雷大雨。		大猷院殿御実紀53	40	317上	0
390	1643	08.20	寛永	20	07.06		けふ雨ふりければ韓使神奈川駅に滞留の注進あり。		大猷院殿御実紀54	40	319下	0
391	1643	08.20	寛永	20	07.06	洪水3	又利根川并玉川辺洪水のより注進す。		大猷院殿御実紀54	40	319下	0
392	1643	08.30	寛永	20	07.16		十六日雨ふりければ。聘禮延滞あり。		大猷院殿御実紀54	40	321上	0
393	1643	08.31	寛永	20	07.17		十七日いさゝか御中暑により御宮参なし。		大猷院殿御実紀54	40	321上	0
394	1644	02.10	正保	1	01.03		(前略)雨によりて其事なし。		大猷院殿御実紀56	40	341下	0
395	1644	04.15	正保	1	03.09		奈良奉行中坊長兵衛時祐謁見し。奈良の神事打つゞき晴天にて。薪の能以下事なくはてし旨聞えあぐる。		大猷院殿御実紀56	40	349上	1
396	1644	04.16	正保	1	03.10	強風1A	十日風雨により鹿狩停廢あり。		大猷院殿御実紀56	40	349上	0
397	1644	07.02	正保	1	05.28		廿八日御頭痛。ことに雨ふりければ表に出まざる。		大猷院殿御実紀57	40	357上	0
398	1644	07.24	正保	1	06.21		廿一日雨ふりければ琉球人引見なし。		大猷院殿御実紀57	40	358下	0
399	1644	08.19	正保	1	07.17	高温1A	十七日炎暑。		大猷院殿御実紀58	40	364上	0
400	1644	08.27	正保	1	07.25	長雨1A・洪水1A	(前略)其事はてゝかへるさ小仏峠を過しに。折ふし霖雨にて山崩れ。源左衛門并に徒者二人。馬人ともにうち殺されしよし注進す。		大猷院殿御実紀58	40	364下	0
401	1644	08.28-09.01	正保	1	07.26-08.01	大雨1A	(和暦8月1日/西暦9月1日)この日終日甚雨。つみに五日におよぶ。		大猷院殿御実紀58	40	365上	0
402	1644	09.04	正保	1	08.04	長雨1A・洪水1A	四日連日霖雨により六郷。千寿洪水の注進ありければ。徒士をつかはし品川。板橋。王子。浅草。下谷。千住。高田。目黒。六郷。戸田。市川辺を巡察せしむ。		大猷院殿御実紀58	40	365上	0
403	1644	09.04	正保	1	08.04	長雨1A	尾張垂相駅路霖雨により起居をとほせられ。菓子つかはさる。書院番頭池田帯刀長賢御使奉る。		大猷院殿御実紀58	40	365下	0
404	1644	09.04	正保	1	08.04	暴風1A	紀伊垂相もけう発程あるべしといへども。風雨なれば。延滞あるべきむね。老臣より奉書をもてその家司に仰つかはさる。		大猷院殿御実紀58	40	365下	0
405	1644	09.30	正保	1	08.30		(晦日)(前略)山中風雨の有さま聞えあぐる。		大猷院殿御実紀58	40	367上	0
406	1644	09.30	正保	1	08.30	長雨3	(晦日)正友。正重は直に日光山に赴かしめらる。これ霖雨にて山中各所破損ある由にてなり。		大猷院殿御実紀58	40	367上	0
407	1644	10.03	正保	1	09.03	長雨3	このほど霖雨により紅葉山の御宮破損しければ。(後略)		大猷院殿御実紀58	40	367下	0
408	1645	01.09	正保	1	12.12		けふ雪ふる。		大猷院殿御実紀59	40	377上	0
409	1644	-	正保	1	-	干ばつ3・洪水3	(是年)(前略)及び旱水の損傷あるべき地。または村民の家居。又は民の疲労。田地の肥瘦等。委曲に記して上しむべしとなり。		大猷院殿御実紀59	40	379下	0
410	1645	02.09	正保	2	01.13	低温1A	(前略)余寒甚しければ。(後略)		大猷院殿御実紀60	40	382上	0
411	1645	04.11	正保	2	03.15		今夜月赤し丹のごとし。		大猷院殿御実紀60	40	386上	0
412	1645	04.12	正保	2	03.16		今夜の月昨夜の如し。		大猷院殿御実紀60	40	386上	0

徳川実紀

413	1645	07.16	正保	2	閏05.23	高温1A	この月下旬井伊掃部頭直孝が別業にならせたまふべき旨。兼て仰下されしかど。追日炎熱甚しければ。御延滞あるべき事を直孝聞え上る。		大猷院殿御実紀61	40	402下	0
414	1645	07.20	正保	2	閏05.27	大雨1A・強風1A・雷1A	此夜大風雷雨鳴。数か所に震して震死する者あり。		大猷院殿御実紀61	40	403上	0
415	1645	07.21	正保	2	閏05.28	大雨1A・強風1A・雷1A	此日また大風雷雨鳴。		大猷院殿御実紀61	40	403上	0
416	1645	09.10	正保	2	07.20	大雨3・暴風3	廿日作事奉行船越三郎四郎永景日光山に遣はさる。こは一兩日大風雨にて。山中のさま巡視せしめられむとてなり。松平右衛門大夫正綱も明日赴くべしと命ぜらる。		大猷院殿御実紀61	40	408上	0
417	1645	09.18	正保	2	07.28	暴風1A	この日中国。九州。北国并出羽国大風にて城郭多く破損せりとぞ。		大猷院殿御実紀61	40	409上	1
418	1646	01.20	正保	2	12.04		(前略)雪ふりければ延引したまふ旨。(後略)		大猷院殿御実紀62	40	423下	0
419	1646	02.18	正保	3	01.03	大雪1A	三日大雪にて朝会停廢せらる。		大猷院殿御実紀63	40	427上	0
420	1646	03.20	正保	3	02.04	雷1A・ひょう1A	四日青山辺御放鷹あり。雷鳴雹ふりければ。いそぎかへらせ給ふ。		大猷院殿御実紀63	40	430下	0
421	1646	05.14	正保	3	03.30	大雨1A・強風1A・雷1A	此日大風雨。雷鳴。		大猷院殿御実紀63	40	432下	0
422	1646	05.17	正保	3	04.03	雷1A・ひょう1A	雷鳴。雹ふる。		大猷院殿御実紀63	40	435上	0
423	1646	06.11	正保	3	04.28		(前略)また雨天なれば。(後略)		大猷院殿御実紀63	40	439上	0
424	1646	08.12	正保	3	07.02	高温1A	(前略)残暑の折からかこに赴かれん事しかるべからず。(後略)		大猷院殿御実紀64	40	448上	0
425	1646	08.19	正保	3	07.09	雷1A	けふ雷雨甚し。		大猷院殿御実紀64	40	449上	0
426	1646	09.09	正保	3	07.30	長雨3	このほど霖雨により各所堤防破損せしかば。大番鈴木作兵衛某。天野麦右衛門重利修築奉行命ぜらる。		大猷院殿御実紀64	40	450上	0
427	1646	09.10	正保	3	08.01	大雨1A・暴風1A	けふ大風雨により尾張垂相旅中御心元なしとて。(後略)		大猷院殿御実紀64	40	451下	0
428	1646	09.11	正保	3	08.02	大雨3・暴風3	二日留守居杉浦内蔵允正友を日光山につかはさる。大風雨により山中巡視すべしとてなり。		大猷院殿御実紀64	40	451下	0
429	1646	09.12	正保	3	08.03	大雨1A・暴風1A	尾張垂相発程後連日大風雨により。大磯まで奉書つかはしとはせらる。		大猷院殿御実紀64	40	451下	0
430	1644	-	正保	3	08.07	暴風1C	(正保3年8月7日/1646年9月16日)一昨年の越前の商人海上にて颶風にあひ。(後略)		大猷院殿御実紀64	40	452上	0
431	1647	02.07	正保	4	01.03	大雪1A	三日深雪により今朝の朝会停廢せらる。		大猷院殿御実紀66	40	473上	0
432	1647	02.24-02.25	正保	4	01.20-01.21		(和暦1月21日)昨夜より雪ふりければ。(後略)		大猷院殿御実紀66	40	474下	0
433	1647	03.31	正保	4	02.25	強風1A	この夕暮桶町より出火し。折ふし烈風により材木町。(後略)		大猷院殿御実紀66	40	477上	0
434	1647	03.30	正保	4	02.24	強風1A	(和暦2月26日/西暦4月1日)日光山中この廿四日大風ふきおこりて大木を吹倒し。御殿。坊舎。市屋。所々破損の注進あり。(後略)		大猷院殿御実紀66	40	477上	0
435	1647	08.01	正保	4	07.01	高温1A	朔日暑気甚しく。(後略)		大猷院殿御実紀67	40	491上	0
436	1647	08.01-08.21	正保	4	秋-07.21	高温1B	(前略)秋暑烈しければ。(後略)	「秋」であるが、和暦7月21日の記載であることからBとした。	大猷院殿御実紀67	40	493上	0
437	1647	09.14	正保	4	08.16	大雨1A・暴風1A	今夜大風雨。		大猷院殿御実紀67	40	495上	0
438	1647	09.23	正保	4	08.25	大雨1A・暴風1A	今夜烈風雨。		大猷院殿御実紀67	40	497上	0
439	1648	02.13	慶安	1	01.20	大雨1A・強風1A	此日大風雨。		大猷院殿御実紀69	40	518上	0
440	1648	04.19	慶安	1	02.27	強風1A	廿七日烈風にて大納言殿牛近の御遊を停らる。		大猷院殿御実紀69	40	521上	0
441	1648	04.27	慶安	1	03.05	雷1A	この日雷鳴。		大猷院殿御実紀69	40	523上	0
442	1648	06.07	慶安	1	04.16		十六日微雨。		大猷院殿御実紀70	40	537上	0
443	1648	06.14	慶安	1	04.23		(前略)この日雨もよひなりしが。(後略)		大猷院殿御実紀70	40	543下	0
444	1648	06.15	慶安	1	04.24	大雨1A・雷1A・ひょう1A	此夜大雷雨。所々に雹ふる。		大猷院殿御実紀70	40	544上	0

徳川実紀

445	1648	06.15	慶安	1	04.24	大雨1A・強風1A	(和暦4月25日)又昨夜大風雨により。(後略)		大猷院殿御実紀70	40	544上	0
446	1648	08.31	慶安	1	07.13	大雨1A・暴風1A	十三日烈風雨にて。當中の輩へ酒を給ふ。		大猷院殿御実紀71	40	557上	0
447	1648	08.31	慶安	1	07.13	暴風1A	(和暦7月14日)十四日きのふの風雨に六郷橋柱三脚をしながし。往還を得ざるよし注進す。		大猷院殿御実紀71	40	557下	0
448	1648	09.07	慶安	1	07.20	大雨3・暴風3	廿日このたびの大風雨にて。王子并に高田の御離館破損せしかば。(後略)	和暦7月14日/西暦8月31日のイベントへの措置と解釈した。	大猷院殿御実紀71	40	559上	0
449	1649	02.28	慶安	2	01.17		けふ還御の時雪ふりければ。(後略)		大猷院殿御実紀73	40	576上	0
450	1649	03.02	慶安	2	01.19		十九日雨ふりければ。(後略)		大猷院殿御実紀73	40	576下	0
451	1649	03.05	慶安	2	01.22	長雨1A	このほど連日雨降ば。(後略)		大猷院殿御実紀73	40	576下	0
452	1649	03.05	慶安	2	01.22	長雨1A	紀伊垂相病後の起居いぶかしく思召とて。牧野佐渡守親成をつかはさる。これも霖雨によりてなり。		大猷院殿御実紀73	40	576下	0
453	1649	03.05	慶安	2	01.22		(和暦1月23日)廿三日昨夜雪ふりしかば。(後略)		大猷院殿御実紀73	40	577上	0
454	1649	03.11	慶安	2	01.28		廿八日家門。諸大名老臣に謁し退く。御病後こと更雨天ゆへ。外殿に出たまはずとなり。		大猷院殿御実紀73	40	577上	0
455	1649	03.17	慶安	2	02.05	大雨1A	五日大雨により三家より使もて。御けしき伺はる。		大猷院殿御実紀73	40	577下	0
456	1649	04.01	慶安	2	02.20	大雨1A・強風1A	(和暦2月21日)昨夜大風雨により家門使出して。両御所の御けしき伺はる。		大猷院殿御実紀73	40	579上	0
457	1649	04.20	慶安	2	03.09	強風1A	九日烈風により紀邸より。両御所に葛一箱づゝさゝげ御気色伺はる。		大猷院殿御実紀74	40	589上	0
458	1649	05.02	慶安	2	03.21	長雨1A	廿一日紀邸へ御側内田信濃守正信御使し。枝柿一箱つかはさる。連日雨ふりければとはせたまふなり。		大猷院殿御実紀74	40	590下	0
459	1649	05.15	慶安	2	04.04	大雨1A・強風1A	(和暦4月5日)昨夜大風雨。けふも曇天なれば。(後略)		大猷院殿御実紀74	40	593上	0
460	1649	05.22	慶安	2	04.11	大雨1A	大納言殿には。けふ大雨によりて。千寿御旅館御滞留あり。		大猷院殿御実紀74	40	595下	0
461	1649	05.26	慶安	2	04.15	雷1A	此日 大納言殿には。雷雨なりしかば。(後略)		大猷院殿御実紀74	40	596下	0
462	1649	05.28	慶安	2	04.17	雷1A・濃霧1A	大納言殿には。巳刻朝霧ふかゝりに。今市を outcome。(中略)けさ朝霧の名残雨となりしが。此時雷鳴して空晴わたる。(後略)		大猷院殿御実紀74	40	597上	0
463	1649	05.28	慶安	2	04.17	ひょう1A	けふ今市辺大雨雹ふる。しかりといへども 御宮のときは快晴なり。衆人以て 神感とす。		大猷院殿御実紀74	40	598上	0
464	1649	06.03	慶安	2	04.23	大雨1A	廿三日大雨なり。		大猷院殿御実紀74	40	599上	0
465	1649	06.22	慶安	2	05.13	ひょう1A	中山。三田。八王子。前沢。河越辺大雹ふる。その重さ五六十日あり。人畜これがために損害するもの少からずとぞ。		大猷院殿御実紀74	40	601下	0
466	1649	06.28	慶安	2	05.19	大雨1A・強風1A・雷1A・ひょう1A	十九日西方より大風吹おこり。甚雨大雷。雹ふる。		大猷院殿御実紀74	40	602下	0
467	1649	09.01	慶安	2	07.25	大雨1A	今朝大雨。午刻又大地震。		大猷院殿御実紀75	40	610下	0
468	1649	09.03	慶安	2	07.27		廿七日卯刻大震ありて。其後も時々地震雨降。(後略)		大猷院殿御実紀75	40	611上	0
469	1649	09.04	慶安	2	07.28	暴風1A	今朝卯刻天赤くして火の如し。少しく地震し。午より烈風ふき。夜中時々地震あり。		大猷院殿御実紀75	40	611上	0
470	1649	09.25-09.27	慶安	2	08.19-08.21	大雨1A・洪水1A	この十九日より廿一日まで大坂大雨にて大和川暴漲し。河内の赤井堤崩れ。田畝二万八千石損害すとぞ聞えし。		大猷院殿御実紀75	40	614下	1
471	1650	03.03	慶安	3	02.01	強風1A	(前略)烈風によりて延滞し給ふ。		大猷院殿御実紀77	40	634下	0
472	1650	05.06	慶安	3	04.06	強風1A・大火	この日烈風にて各所失火あり。		大猷院殿御実紀77	40	639上	0
473	1650	06.11	慶安	3	05.13		十三日尾張宰相光友卿今朝雨中に発輿せられしかば。(後略)		大猷院殿御実紀77	40	642下	0
474	1650	07.29	慶安	3	07.01	高温1A	朔日御病後暑氣甚しければ外殿にのぞみ給はず。(後略)		大猷院殿御実紀78	40	649上	0
475	1650	08.05	慶安	3	07.08	高温1A	暑中雨湿なれば。御けしき伺はるゝとてなり。		大猷院殿御実紀78	40	649上	0
476	1650	08.11	慶安	3	07.14	高温1A	十四日暑氣烈しければ。(後略)		大猷院殿御実紀78	40	649下	0

徳川実紀

477	1650	08.04-08.05	慶安	3	07.07-07.08	洪水1A・暴風1A	(和暦8月3日/西暦8月29日)京辺は去月七八日の夜風烈しく。加茂。淀川辺暴漲のよし注進す。		大猷院殿御実紀78	40	651上	1
478	1650	08.30	慶安	3	08.04	洪水3	四日淀。伏見。大坂。高槻より。所々洪水のよし注進あり。		大猷院殿御実紀78	40	651上	1
479	1650	08.24-08.25	慶安	3	07.27-07.28	暴風1A・高潮1A	(和暦9月10日/西暦10月5日)この七月廿七八両日の大風にて。畿内所々堤崩れ水をしあげ。八月十二日風雨に長崎。天草の海浜に播州。石州はじめ中国辺損害する所多し。廿九日より九月二日迄の霖雨に摂州南北中島堤くづれ。山城淀。河内堤みな破れ。江州も田園多く損じ。勢州四日市。神戸。庄野。三重。鈴鹿。川林の郡堤崩れ。民家人畜損害少からず。駅々の橋梁ををし流し。三日より旅人往來を得ず。美濃は多芸。不破を始め。十一郡この害を蒙り。人馬多く傷損し。亀山の城中は錢庫一。其外城門。塀櫓等。人馬ともにをし流す。勢州の人家四百五十戸。男女十八人。牛馬廿三疋。肥州は三百六十人。牛馬六百疋。家四千二百四十二戸流失せしとぞ。		大猷院殿御実紀78	40	657下	1
480	1650	09.07	慶安	3	08.12	暴風1A	(和暦9月10日/西暦10月5日)この七月廿七八両日の大風にて。畿内所々堤崩れ水をしあげ。八月十二日風雨に長崎。天草の海浜に播州。石州はじめ中国辺損害する所多し。廿九日より九月二日迄の霖雨に摂州南北中島堤くづれ。山城淀。河内堤みな破れ。江州も田園多く損じ。勢州四日市。神戸。庄野。三重。鈴鹿。川林の郡堤崩れ。民家人畜損害少からず。駅々の橋梁ををし流し。三日より旅人往來を得ず。美濃は多芸。不破を始め。十一郡この害を蒙り。人馬多く傷損し。亀山の城中は錢庫一。其外城門。塀櫓等。人馬ともにをし流す。勢州の人家四百五十戸。男女十八人。牛馬廿三疋。肥州は三百六十人。牛馬六百疋。家四千二百四十二戸流失せしとぞ。		大猷院殿御実紀78	40	657下	1
481	1650	09.24-09.27	慶安	3	08.29-09.02	長雨1A・洪水1A	(和暦9月10日/西暦10月5日)この七月廿七八両日の大風にて。畿内所々堤崩れ水をしあげ。八月十二日風雨に長崎。天草の海浜に播州。石州はじめ中国辺損害する所多し。廿九日より九月二日迄の霖雨に摂州南北中島堤くづれ。山城淀。河内堤みな破れ。江州も田園多く損じ。勢州四日市。神戸。庄野。三重。鈴鹿。川林の郡堤崩れ。民家人畜損害少からず。駅々の橋梁ををし流し。三日より旅人往來を得ず。美濃は多芸。不破を始め。十一郡この害を蒙り。人馬多く傷損し。亀山の城中は錢庫一。其外城門。塀櫓等。人馬ともにをし流す。勢州の人家四百五十戸。男女十八人。牛馬廿三疋。肥州は三百六十人。牛馬六百疋。家四千二百四十二戸流失せしとぞ。		大猷院殿御実紀78	40	657下	1
482	1650	-	慶安	3	閏10.03	洪水1C	(閏10月3日/西暦11月26日)三日今年洪水により五畿内并に江州巡視命ぜられたる伏見奉行水野石見守忠貞。濃州。勢州巡視にさゝられたる山田奉行石川大隅守政次いとまたまふ。		大猷院殿御実紀79	40	672下	1
483	1650	12.03	慶安	3	閏10.10	洪水3	五畿内及江州水害の巡視命ぜられし先手頭石谷十蔵貞清。(後略)		大猷院殿御実紀79	40	673下	1
484	1651	02.17	慶安	3	12.27	洪水3	先に濃勢両州水害の地巡視にまかりたる大目付宮城越前守和甫。(中略)かの地堤防修築の事命ぜらる。		大猷院殿御実紀79	40	680上	1
485	1651	04.01	慶安	4	02.11		十一日雨ふりければ。(後略)		大猷院殿御実紀80	40	683下	0
486	1651	04.12	慶安	4	02.22	強風1A	(前略)この日烈風にて御けしきうかゞはるとてなり。		大猷院殿御実紀80	40	684下	0

徳川実紀

487	1651	06.18-07.13	慶安	4	05-05.26	長雨1B	(和暦5月26日/西暦7月13日)(前略)折ふし五月雨はれまなくふりしかば。(後略)	大猷院殿御実紀80	40	695下	0
488	1651	06.16	慶安	4	04.28	暴風1A	今朝より空曇りかども雨ふらず。御極着せ給ひし後風雨せり。	厳有院殿御実紀1	41	5上	0
489	1651	08.15	慶安	4	06.29	雷1A	この夜大雷。府内十八ヶ所に震せりとぞ。	厳有院殿御実紀1	41	14下	0
490	1651	08.18	慶安	4	07.03	雷1A	この日雷雨甚し。	厳有院殿御実紀1	41	15上	0
491	1651	08.25	慶安	4	07.10	高温1A	このほど暑炎甚ければ。(後略)	厳有院殿御実紀1	41	15下	0
492	1651	11.25	慶安	4	10.13	大雨1A・洪水1A・強風1A	是日大風雨にて戸塚。神奈川。川崎の諸駅并に葛西。行徳の辺。民家数千軒傾覆せしとぞ。	厳有院殿御実紀2	41	31上	0
493	1652	01.19	慶安	4	12.09	強風1A	頃日烈風により警火の事を。巡夜の輩に令せらる。	厳有院殿御実紀2	41	35下	0
494	1652	02.20	承応	1	01.11	大雪1A	又大雪により諸大名より。使奉り御氣しき伺ふ。	厳有院殿御実紀3	41	42下	0
495	1652	03.19	承応	1	02.10	強風3・波浪3	この十日紀伊の国大風ありて。新宮湊の泊三十七艘くつがえり。舟人三百人ばかり溺死のよし注進あり。	厳有院殿御実紀3	41	46上	1
496	1652	05.27	承応	1	04.20	大雨1A	廿日大雨により御詣をのべらる。	厳有院殿御実紀3	41	50上	0
497	1652	06.16-06.17	承応	1	05.11-05.12	大雨1A・洪水1A	(和暦5月19日)此十一二日暴雨にて。淀。大坂大水出よし注進あり。	厳有院殿御実紀3	41	51下	1
498	1652	10.01	承応	1	08.29	大雨1A・暴風1A	夜に大風雨。城中各所破損す。	厳有院殿御実紀4	41	59上	0
499	1652	11.03	承応	1	10.03	低温1A	三日曇天にて寒冷なれば。諸大名使して御けしき伺ふ。	厳有院殿御実紀4	41	61上	0
500	1653	01.06	承応	1	12.07		昨夜雪ふりければ。紀邸より延命酒献せらる。	厳有院殿御実紀4	41	64下	0
501	1653	01.19	承応	1	12.20	低温1A	今朝雪ふる寒氣甚ければ。三家使もて御けしき伺はる。	厳有院殿御実紀4	41	65上	0
502	1653	01.22	承応	1	12.23		廿三日雪ふりければ。紀邸より粘漬鮑を献せらる。	厳有院殿御実紀4	41	65下	0
503	1653	02.01	承応	2	01.04		(和暦1月5日)昨夜雪ふりければ。三家使して御けしき伺はる。	厳有院殿御実紀5	41	67上	0
504	1653	01.10-01.11	承応	1	12.11-12.12	大雨1A・強風1A	(承応2年1月13日/1653年2月10日)去年の十二月十一二日大風雨にて。出羽庄内の城櫓土屋等過半破損せし旨。酒井撰津守忠富より注進す。	厳有院殿御実紀5	41	67下	1
505	1653	03.15	承応	2	02.16	大雨1A・強風1A	夜中暴風雨にて。三家使もて御けしき伺はる。	厳有院殿御実紀5	41	70下	0
506	1653	04.01-04.02	承応	2	03.04-03.05		(和暦3月5日)五日昨夜より雪ふりければ。三家使もて御氣しき伺はる。	厳有院殿御実紀5	41	72上	0
507	1653	04.03	承応	2	03.06		六日雪なをやまず。	厳有院殿御実紀5	41	72上	0
508	1653	06.16-06.17	承応	2	05.21-05.22	大雨1A	(和暦5月25日)廿五日此廿一廿二日兩日暴雨にて城堡破壊せしかば。(後略)	厳有院殿御実紀5	41	78上	0
509	1653	07.01	承応	2	06.07	大雨1A・暴風1A	七日暴風雨により。三家もて御氣色伺はる。	厳有院殿御実紀5	41	78下	0
510	1653	06.30	承応	2	06.06	大雨1A・暴風1A・波浪1A	(和暦6月22日/西暦7月16日)此六日大風雨にて。紀州熊野浦にかゝりし貢米の船五艘。その外浦々の船二百五十艘やぶれ。材木六万千八百本流失し。紀勢兩州民家千五百三十崩れ。毎川出水し。堤防四千五百五十間壊れ。男女二十七人溺死せし注進あり。	厳有院殿御実紀5	41	80上	1
511	1653	07.17	承応	2	06.23	大雨1A	(和暦6月27日)廿七日この廿三日禁中より失火し。(中略)かつ其夜大雨。築地のうち頗洪水のごとと注進す。	厳有院殿御実紀5	41	80下	0
512	1653	10.04	承応	2	08.13	洪水3	肥後熊本洪水注進あり。八万四千百六十石程其害蒙り。人畜多く溺死せりとぞ。	厳有院殿御実紀6	41	88下	1
513	1653	10.17	承応	2	08.26	洪水3	廿六日安芸広島。長門の萩。このほど洪水の注進あり。	厳有院殿御実紀6	41	89下	1
514	1652	-	承応	2	09.18	大雨1C	(承応2年9月18日/1653年11月8日)(前略)去年 前代小祥の御忌に。東叡山 靈廟に詣させたまはん盛慮なりしが。大雨により停廃せられ。(後略)	厳有院殿御実紀6	41	91下	0
515	1653	11.10	承応	2	09.20	大雨1A	廿日甚雨により御詣なし。	厳有院殿御実紀6	41	92上	0
516	1654	01.29	承応	2	12.11		十一日昨夜より雪ふりければ。三家もの奉り御けしき伺はる。	厳有院殿御実紀6	41	97下	0
517	1654	02.11	承応	2	12.24		雪にて。紀邸より葛一匣献せらる。	厳有院殿御実紀6	41	99上	0

徳川実紀

518	1654	02.19	承応	3	01.03		(和暦1月4日)四日前夜雪ふりければ。三家使もて御けしき伺はる。		厳有院殿御実紀7	41	101上	0
519	1654	06.06	承応	3	04.21	大雨1A・ 暴風1A	この夜風雨烈しかりければ。三家使もて御けしき伺はる。		厳有院殿御実紀7	41	110上	0
520	1654	07.11	承応	3	05.27	干ばつ1A	(和暦5月28日/西暦7月12日)此頃久旱なりしが。今夕雷雨甚しく。衆人大に悦ぶ。又初更に及で地震す。		厳有院殿御実紀7	41	113下	0
521	1654	07.12	承応	3	05.28	雷1A	(和暦5月28日/西暦7月12日)此頃久旱なりしが。今夕雷雨甚しく。衆人大に悦ぶ。又初更に及で地震す。		厳有院殿御実紀7	41	113下	0
522	1654	07.30	承応	3	06.17	雷1A	この日甚雷ありて水戸邸に震し。圧死する者三人。		厳有院殿御実紀7	41	114下	0
523	1654	07.24	承応	3	06.11	洪水1A	(和暦6月26日)此十一日頃奥州仙台洪水にて。十五万石ばかり流失せしよし注進あり。		厳有院殿御実紀7	41	115下	1
524	1654	08.03	承応	3	06.21	雷1A	(和暦7月20日)毛利日向守就隆が封地の第宅去月廿一日雷火に焼たるよし聞え上るにより。舊規の如く構造營すべしと命ぜらる。		厳有院殿御実紀8	41	118下	1
525	1654	09.14	承応	3	08.04	暴風3	四日左馬頭綱重卿封地新墾の田圃五千石。大風のために損失のよし注進あり。		厳有院殿御実紀8	41	119上	1
526	1654	08.30- 09.01	承応	3	07.18- 07.20	大雨1A・ 洪水1A	(和暦8月6日)去月十八日より廿日まで。西国大雨洪水にて。水野美作守勝俊所領備後福山の地一万石ばかり損亡のよし注進あり。		厳有院殿御実紀8	41	119下	1
527	1654	10.06	承応	3	08.26	長雨1A	(和暦8月26日/西暦10月6日)このほど霖雨かつ昨夜風雨烈しかりければ。紀邸より使もて御気けしきうかゞはれ。大和柿一箱献ぜらる。		厳有院殿御実紀8	41	121下	0
528	1654	10.05- 10.06	承応	3	08.25- 08.26	大雨1A・ 暴風1A	(和暦8月26日/西暦10月6日)このほど霖雨かつ昨夜風雨烈しかりければ。紀邸より使もて御気けしきうかゞはれ。大和柿一箱献ぜらる。		厳有院殿御実紀8	41	121下	0
529	1654	10.09	承応	3	08.29	洪水3	また松平新太郎光政が備前の封地。洪水域内までをし入。城門橋并に士民屋舎千四五百軒。かつ田圃若干流失し。男女百五十人。牛馬二百匹溺死せしよし注進あり。		厳有院殿御実紀8	41	121下	1
530	1654	09.09	承応	3	07.28	大雨1A・ 暴風1A	(和暦8月29日)又伊東大和守祐久所領日向の地も。去月廿八日大風雨により。水出て屋舎四千軒そこなはれ。城郭も破壊せしよし聞え上たり。		厳有院殿御実紀8	41	122上	1
531	1654	11.24	承応	3	10.16		今日は曇天寒威なれば。(後略)		厳有院殿御実紀8	41	126下	0
532	1654	01.02	承応	3	11.25		又雪ふりければ。三家使もて御気色伺はれ。水邸よりは一種さげらる。		厳有院殿御実紀8	41	129下	0
533	1655	01.06	承応	3	11.29	大雪1A	此夜より大雪尺にみちければ。(後略)		厳有院殿御実紀8	41	129下	0
534	1655	01.05- 01.07	承応	3	11.28- 11.30	風雪1A	(承応3年11月30日/1655年1月7日)此廿八日より。けふまで雪風甚しく。近郊の民屋くづれ。竹木をたをしければ。川越辺は死傷する者少なからず。		厳有院殿御実紀8	41	130上	0
535	1655	04.11	明暦	1	03.05	大雨1A・ 強風1A	此夕大風雨にて。家門使奉り御気色うかゞはる。		厳有院殿御実紀9	41	140上	0
536	1655	06.02	明暦	1	04.28		(和暦5月5日)青山大膳亮幸利所領尼が崎の地。先月廿八日堤防崩壊せし旨注進す。	洪水と断定できない。	厳有院殿御実紀9	41	143上	1
537	1655	09.02	明暦	1	08.03	大雨1A・ 暴風1A	四日昨夜暴風雨にて。家門使もて御けしき伺はる。		厳有院殿御実紀10	41	152上	0
538	1655	09.09	明暦	1	08.10	大雨1A・ 暴風1A	この日大風雨にて。家門使奉り御けしきを伺ふ。		厳有院殿御実紀10	41	152上	0
539	1655	09.09	明暦	1	08.10	大雨1A・ 暴風1A	(和暦8月14日)駿府より。この十日大風雨にて。城内破壊せし注進あり。		厳有院殿御実紀10	41	152上	1
540	1655	09.27	明暦	1	08.28	暴風3	此程紀伊国大風ありて。民屋二千余軒。堤一万間余崩倒し。材木七万余り流失したる旨を注進す。		厳有院殿御実紀10	41	153下	1
541	1655	09.27	明暦	1	08.28	暴風3	また執政の奉書を宗対馬守義成につかはさる。ことば韓使海陸所々風雨に阻滞し。ことさら艱困すべければ。よく慰勞せよとの御旨を伝ふ。		厳有院殿御実紀10	41	153下	1
542	1656	01.01	明暦	1	12.05		五日雪ふりければ。諸大名まうのぼり御気しき伺ふ。		厳有院殿御実紀10	41	166上	0

徳川実紀

543	1656	02.04	明暦	2	01.09		十日昨夜雪ふりければ。三家使もて御けしき伺はる。	厳有院殿御実紀11	41	169下	0
544	1656	02.26	明暦	2	02.02	雷1A	今朝雨ふりて雷鳴。	厳有院殿御実紀11	41	171上	0
545	1656	03.04	明暦	2	02.09		九日雪ふりければ。三家使もて御けしきうかゞはる。	厳有院殿御実紀11	41	172上	0
546	1656	04.13	明暦	2	02.18	大雪1A	十九日前夜大雪により。家門使もて御けしきうかゞはる。	厳有院殿御実紀11	41	172下	0
547	1656	08.12	明暦	2	06.22	大雨1A	(前略)芝居に群参せしが。昼より暴雨により。その半より放ちかへされ。(後略)	厳有院殿御実紀11	41	187上	0
548	1656	08.21	明暦	2	07.02	暴風1A	(和暦7月24日)此二日肥前長崎の辺大風にて。唐商の船二三艘破損の注進あり。	厳有院殿御実紀12	41	191上	1
549	1656	10.02	明暦	2	08.15	暴風1A	十六日昨夜大風により家門使奉られ。(後略)	厳有院殿御実紀12	41	193上	0
550	1656	10.09	明暦	2	08.22	大雨1A・暴風1A	(和暦8月25日)この廿二日の大風雨にて。松平伊豆守信綱が川越城櫓三まで吹頼し。二人圧死せり。また駿府も大風雨にて城郭市井敗損多し。久能の御宮も破壊のよし注進す。	厳有院殿御実紀12	41	194上	0
551	1656	10.02	明暦	2	08.15	暴風1A	(和暦9月6日)此八月十五日筑前の国大風して。民屋八千余傾覆せしよし注進あり。	厳有院殿御実紀12	41	195上	1
552	1656	11.06	明暦	2	09.20	大雨1A・強風1A	廿日紅葉山 大猷院殿靈廟御詣の事兼日仰出されしが。大風雨にて。酒井雅楽頭忠清をもて東叡山の靈廟に代参せしめらる。	厳有院殿御実紀12	41	196上	0
553	1656	12.09	明暦	2	10.24	暴風3	駿府城番以下の官宅風雨にて破れしかば。修造の費用を給ふ。市人にも恩貸せらる。	厳有院殿御実紀12	41	198上	1
554	1657	01.02	明暦	2	11.18	強風1A	十八日常盤橋鎌倉河岸の辺へ放鷹の御遊あり。大風により早く還御なる。鴨三得たまふ。	厳有院殿御実紀12	41	201上	0
555	1657	02.08	明暦	2	12.25	強風1A	此日烈風により。三家使もて御けしきうかゞはる。	厳有院殿御実紀12	41	204上	0
556	1657	03.02	明暦	3	01.18	強風1A・大火	(明暦3年1月18日)この暁より乾の風甚しく。塵土を吹あげて咫尺もみえわかず。夜あけてもなを夜のごとし。しかるに昼後。本郷丸山本妙寺より火おこる。去年より早うちつづき。ことに冬より春にいたり。また一雨もなかりしかば。泉井ほとんど涸て。消防のたよりを失ひしにより。一瞬の間に大火となり。(後略)	厳有院殿御実紀13	41	208下	0
557	1657	03.03	明暦	3	01.19	強風1A・砂じん1A	十九日大風なをやまず砂土を吹揚たり。(後略)	厳有院殿御実紀13	41	209上	0
558	1657	03.04	明暦	3	01.20	大雪1A	(明暦3年1月20日/1657年3月4日)廿日去年十一月の後。今朝にいたり風しづまりて。大雪ふり出しければ。一昨夜より火をさけて曠野に露坐せし細民等。凍死するもの又少なからず。	厳有院殿御実紀13	41	210下	0
559	1657	03.05	明暦	3	01.21		廿一日雨あり。群臣まうのぼり御けいしきうかゞふ。	厳有院殿御実紀13	41	210下	0
560	1657	03.11	明暦	3	01.27	大雪1A	廿七日けふよりまた大雪あり。いまだ家居なき細民凍死する者多し。	厳有院殿御実紀13	41	212上	0
561	1657	03.14	明暦	3	01.30		晦日又雪ふる。	厳有院殿御実紀13	41	212下	0
562	1657	04.14	明暦	3	03.01	大雨1A・強風1A	二日昨夜大風雨により。三家使もて御気色うかゞはる。	厳有院殿御実紀13	41	219上	0
563	1657	04.29	明暦	3	03.16	強風1A	此日風雨により。水邸より使もて御気色伺はる。	厳有院殿御実紀13	41	220下	0
564	1657	07.07	明暦	3	05.26		連日露により。家門使もて御気色伺はる。	厳有院殿御実紀13	41	228下	0
565	1657	08.11	明暦	3	07.02	雷1A	夕ぐれ大雷雨ありて毛をふらす。	厳有院殿御実紀14	41	233上	0
566	1657	08.16	明暦	3	07.07	雷1A	けふも雷雨あり。	厳有院殿御実紀14	41	233下	0
567	1657	08.27	明暦	3	07.18	雷1A	昼後甚雷ありて。左典廐の青山別邸に震し。屋舎一軒やけたり。	厳有院殿御実紀14	41	234下	0
568	1657	08.30	明暦	3	07.21	大雨3・暴風3	又大風雨によりて。歩行士を芝上野の両山につかはし。諸廟を巡察せしむ。これ盛意に出る所なり。	厳有院殿御実紀14	41	235上	0
569	1657	12.01	明暦	3	10.26	大雨1A・強風1A	この日風雨甚し。	厳有院殿御実紀14	41	245上	0
570	1658	01.05	明暦	3	12.02		昨夜初雪ふりければ。(後略)	厳有院殿御実紀14	41	248下	0
571	1658	02.14	万治	1	01.12	強風1A	十二日烈風により。両山防火の員八人を増加せらる。	厳有院殿御実紀15	41	256上	0

徳川実紀

572	1658	03.16	万治	1	02.13	強風1A	(和暦2月16日)十六日新番頭駒井右京親昌日光山の巡察命ぜらる。これはこの十三日。かの地大風にて各所破損の注進有しにてなり。		厳有院殿御実紀15	41	259上	0
573	1658	06.17	万治	1	05.17		十七日雨により紅葉山 御宮参なし。		厳有院殿御実紀15	41	268上	0
574	1658	06.20	万治	1	05.20		廿日雨により紅葉山御詣なし。		厳有院殿御実紀15	41	268上	0
575	1658	07.18	万治	1	06.18	高温1A	(前略)各炎暑の折からなれば。(後略)		厳有院殿御実紀15	41	270下	0
576	1658	07.27-07.28	万治	1	06.27-06.28	大雨1A・暴風1A	(和暦7月18日)去月廿七日廿八両日。長崎の港大風雨にて数船破損し。三十人ほど踪跡しれずと注進あり。		厳有院殿御実紀16	41	275上	0
577	1658	08.15	万治	1	07.17	洪水1A・暴風1A	(和暦7月30日)この十七日大風により。美濃国洪水のよし聞ゆ。		厳有院殿御実紀16	41	275下	1
578	1658	08.31-09.01	万治	1	08.03-08.04	大雨1A・洪水1A・暴風1A・高潮1A	(和暦8月13日)またこの三日四日両日の大風雨にて。大坂。駿河。その他撰河播丹の公料田高汐をし入。洪水にて田圃。屋舎破損の注進あり。		厳有院殿御実紀16	41	276下	1
579	1658	08.31-09.01	万治	1	08.03-08.04	大雨1A・洪水1A・暴風1A	(和暦8月14日)十四日三四両日の風雨つよく。洛の中外。淀。伏見洪水のむね。京職より注進あり。		厳有院殿御実紀16	41	276下	0
580	1658	09.19	万治	1	08.22	大雨1A	昨夜大雨にて。家門使奉り御けしき伺はる。		厳有院殿御実紀16	41	277上	0
581	1658	09.16-09.17	万治	1	08.19-08.20	大雨1A・洪水1A・暴風1A	(和暦8月28日)この十九日廿日の大風雨にて。肥後。豊後の辺洪水のよし聞ゆ。		厳有院殿御実紀16	41	277下	1
582	1659	02.20	万治	1	12.29		昨夜初雪により。両典より蒸籠を献ぜらる。		厳有院殿御実紀16	41	288下	0
583	1659	05.04	万治	2	03.13		十三日麻布辺放鷹御遊あり。供奉のまさ例にかはらず。雨ふりければ途中より還御なる。		厳有院殿御実紀17	41	301下	0
584	1659	07.10-07.11	万治	2	05.21-05.22	大雨1A・洪水1A	(和暦5月29日)この廿一日。廿二日京大雨にて。鴨河。桂川出漲し。各所堤防破損せし旨注進す。		厳有院殿御実紀17	41	309上	1
585	1659	06.20-07.19	万治	2	05	洪水1B	この月仙台。南部の地洪水のよし聞ゆ。		厳有院殿御実紀17	41	309上	1
586	1659	07.25	万治	2	06.06	ひょう1A	此程常陸国大雹ふりて稼を損ず。大さ大柿のごとし。		厳有院殿御実紀17	41	309上	0
587	1659	08.19	万治	2	07.02	大雨1A・暴風1A	二日大風雨。		厳有院殿御実紀18	41	313上	0
588	1659	08.20	万治	2	07.03	洪水1A	三日大水にて。府内各所の橋を押し往來を得ず。船にて行人を渡す。		厳有院殿御実紀18	41	313上	0
589	1659	08.18-08.19	万治	2	07.01-07.02	大雨1A・暴風1A	(和暦7月4日)四日この朔日。二日大風雨にて。日光山所々破損の注進あり。		厳有院殿御実紀18	41	313上	0
590	1659	09.01	万治	2	07.15	大雨1A・暴風1A	十六日昨夜大風雨により。家門使もて御けしき伺はる。		厳有院殿御実紀18	41	315上	0
591	1659	09.14	万治	2	07.28	大雨3・暴風3	さきの大風雨にて。日光山 御宮神橋。其他各所破損により。修理の助役を奥平美作守忠昌に仰付らる。		厳有院殿御実紀18	41	317上	0
592	1660	01.09	万治	2	11.27	雷1A	この夜雪ふる。又雷鳴兩三声。		厳有院殿御実紀18	41	335上	0
593	1660	03.05	万治	3	01.24		廿四日雪により三縁山 台徳院殿靈廟御詣なし。		厳有院殿御実紀19	41	343上	0
594	1660	03.07	万治	3	01.26	強風1A・大火	廿六日台所町より失火しけるに。北風烈しく。(後略)		厳有院殿御実紀19	41	343上	0
595	1660	06.12	万治	3	05.05	大雨1A・暴風1A	五日南風暴雨あり。		厳有院殿御実紀19	41	350上	0
596	1660	07.25	万治	3	06.18	雷1A	(和暦6月23日)けふ大坂より注進ありしは。この十八日大雷雨にて。西下刻青屋口火薬庫へ雷震し。(後略)		厳有院殿御実紀19	41	353下	1
597	1660	08.11	万治	3	07.06	大雨1A・雷1A	六日大雨甚雷。		厳有院殿御実紀20	41	355下	0
598	1660	08.12	万治	3	07.07	雷1A	七日大雷雨にて。大広間に出たまはず。		厳有院殿御実紀20	41	355下	0
599	1660	08.11	万治	3	07.06	大雨1A・洪水1A・暴風1A	(和暦7月15日)この六日京大風雨。二条城所々破損し。宇治。木津。淀川洪水。淀大橋破壊せしむね注進あり。		厳有院殿御実紀20	41	356下	1
600	1660	09.02	万治	3	07.28	大雨1A・洪水1A	(和暦8月2日)日光山より。先月廿八日夜暴雨にて山中洪水。各所石垣破損の注進あり。		厳有院殿御実紀20	41	359上	0
601	1660	09.03	万治	3	07.29	洪水1A	(和暦8月2日)又伊勢国。廿九日洪水にて。民屋二百軒流失し。溺死の者二百人余なりと聞ゆ。		厳有院殿御実紀20	41	359下	1

徳川実紀

602	1660	07.08-08.18	万治	3	06.01-07.13	干ばつ1B	(和暦8月2日/西暦9月6日)又長崎は六月初旬より早し。七月十四日雨ふりし旨注進す。		厳有院殿御実紀20	41	359下	1
603	1660	09.08	万治	3	08.04	雷1A	この日大雷雨。松平右衛門佐光之が中屋敷はじめ各所に震す。		厳有院殿御実紀20	41	359下	0
604	1660	09.24	万治	3	08.20	大雨1A・洪水1A・暴風1A	けふ大風雨にて城中各所壊崩す。家門。諸大名より使奉り御けしき伺ふ。また東海道は勢州まで。関東は奥州まで洪水のよし聞ゆ。		厳有院殿御実紀20	41	360下	0
605	1660	-	万治	3	08.23	長雨1C・洪水1C	(万治3年8月23日/1660年9月27日)廿三日令せらるゝは。戌より亥まで醸酒累年の半額たるべきねふれられしが。今年もうちつゞき霖雨にて。水害をかうぶる地あれば。猥に米を費すべからず。(後略)		厳有院殿御実紀20	41	361上	0
606	1660	09.21	万治	3	08.17	大雨1A	(和暦8月24日)大坂より。この十七日甚雨。十八日城中市正曲輪。加番小屋の後。青屋口より南方の石垣四十二三間土崩れ。石垣。塀とも頽壊せし注進あり。		厳有院殿御実紀20	41	361上	1
607	1660	09.24	万治	3	08.20	大雨1A・洪水1A・暴風1A	(和暦8月27日)京よりこの廿日大風雨出水し。木津川大橋七十間余落て。同所并に淀。宇治の堤破壊せし注進す。		厳有院殿御実紀20	41	362上	1
608	1660	10.24	万治	3	09.20	大雨1A・洪水1A・暴風1A・波浪1A	廿日紅葉山 大猷院殿靈廟御参拝あるべき所。御不例かつ大風雨により。松平伊豆守信綱代参す。よて家門使もて御けしき伺はる。この大風雨により。諸国に大洪水。勢州尤甚し。豆州下田浦にて舟百五十艘くつがへり。江戸辺まで浦々百五六十艘。其他を合して七百艘やぶるといへり。		厳有院殿御実紀20	41	363下	0
609	1661	01.17	万治	3	12.17	低温1A	十七日紅葉山 御宮に酒井雅楽頭忠清代参す。嚴寒により御参なきゆへなり。		厳有院殿御実紀20	41	372上	0
610	1661	02.27	寛文	1	01.28	大雪1A	今夜春雪地につもる事五六寸。	「五六寸」から大雪とした。	厳有院殿御実紀21	41	379上	0
611	1661	03.15	寛文	1	02.15	大雪1A	けふ大雪尺に盈り。		厳有院殿御実紀21	41	380上	0
612	1661	07.28	寛文	1	07.03	高温1A	此程酷暑により。三家使もてうかゞはる。		厳有院殿御実紀22	41	391上	0
613	1661	08.03	寛文	1	07.09	長雨1A	連日雨天により。家門。国持使もて御けしき伺ひ奉る。		厳有院殿御実紀22	41	391下	0
614	1661	08.09	寛文	1	07.15	高温1A	十五日残暑強ければ。紅葉山御詣なし。		厳有院殿御実紀22	41	392上	0
615	1661	08.11	寛文	1	07.17	高温1A	石見国代官山高孫兵衛信保銀山奉行命ぜられ赴くにより。残暑酷烈の折からなればとて。こと更慰勞の御旨をつたへ。銀州枚たまふ。		厳有院殿御実紀22	41	392上	0
616	1661	07.26-11.21	寛文	1	秋		(この秋)(前略)すべて毎国の稲五尺に超たり。豊年の瑞と聞ゆ。		厳有院殿御実紀22	41	400上	0
617	1661	12.14	寛文	1	10.23		廿三日初雪により家門。国持大名使奉る。		厳有院殿御実紀22	41	401下	0
618	1662	01.21	寛文	1	12.02		雪ふりければ。紀邸より使もて御けしき伺ふ。		厳有院殿御実紀22	41	404下	0
619	1662	02.05	寛文	1	12.17		(前略)雪ふりければ。供奉の輩みな笠をゆるされ着す。		厳有院殿御実紀22	41	405下	0
620	1662	03.05	寛文	2	01.15		十五日御平愈といへども。雪ふりければ表にわたらせ給はず。出仕の輩老臣に謁す。		厳有院殿御実紀23	41	409下	0
621	1662	04.01	寛文	2	02.13	雷1A・ひょう1A	十三日電降雷鳴一声。		厳有院殿御実紀23	41	411上	0
622	1662	04.23	寛文	2	03.05		五日西城の内園櫻花盛開により。花見の御遊をもよほさる。		厳有院殿御実紀23	41	413上	0
623	1662	04.24-05.08	寛文	2	03.06-03.20		(和暦3月20日)三月六日よりけふ迄。日月の光赤く。血色のごとし。		厳有院殿御実紀23	41	416下	0
624	1662	05.12	寛文	2	03.24		又夕陽の影赤丹のごとし。二輪を生ず。		厳有院殿御実紀23	41	416下	0
625	1662	06.16	寛文	2	05.01		この日大雨。地震。		厳有院殿御実紀23	41	421上	0
626	1662	07.28	寛文	2	06.13	大雨1A・暴風1A	十四日昨夜大風雨により。家門。国持使もて御気色うかゞふ。		厳有院殿御実紀23	41	425上	0
627	1662	07.23-07.28	寛文	2	06.08-06.13	大雨1A・暴風1A	(和暦6月15日)日光山この八日より十三日までの大風雨にて。山水押し石垣崩壊し。(後略)		厳有院殿御実紀23	41	425上	0

徳川実紀

628	1662	07.30	寛文	2	06.15	洪水1A	此外東海道関東大水の聞えあり。	7月28日ごろのイベントに対応？	厳有院殿御実紀23	41	425上	0
629	1662	07.28	寛文	2	06.13	大雨1A・洪水1A・暴風1A	(和暦6月21日)五畿内。近江。三河。遠江の国々。この十三日の大風雨によって洪水の聞えあり。		厳有院殿御実紀23	41	426下	1
630	1662	09.06	寛文	2	08.04	洪水3	四日さきの洪水にて。薩埵山崩れしかば。(後略)	7月28日ごろのイベントに対応？	厳有院殿御実紀24	41	431上	0
631	1662	11.18	寛文	2	11.08		八日雪ふりければ。家門使もて御気色うかどはる。		厳有院殿御実紀24	41	439上	0
632	1663	02.01	寛文	2	12.23	洪水3	廿三日先の洪水にて。日光山の貧民六十人に金六兩づつ。(後略)		厳有院殿御実紀24	41	443下	0
633	1663	02.10	寛文	3	01.03		御病後且雪にて御乗馬なし。		厳有院殿御実紀25	41	445上	0
634	1663	02.27	寛文	3	01.20	大雪1A	廿日東叡山 大猷院殿靈廟あるべかりしかど。深雪にて紅葉山の 廟殿へ詣給ふ。(後略)		厳有院殿御実紀25	41	446下	0
635	1663	06.28	寛文	3	05.23	洪水1A	(和暦6月3日)この五月廿三日京鴨川洪水。堤破損のよし注進す。		厳有院殿御実紀26	41	468下	0
636	1663	05.08-09.01	寛文	3	04-07	干ばつ1B	(和暦7月)四月より此月まで旱す。		厳有院殿御実紀26	41	471上	0
637	1663	08.28	寛文	3	07.26	大雨1A・暴風1A	(和暦8月10日)先月廿六日三時ほどの間。九州大風雨。薩肥ことさらはげしく。長崎にては人家傾倒し。唐商の舟も損ぜしよし注進あり。		厳有院殿御実紀26	41	473上	1
638	1663	09.23	寛文	3	08.22	大雨1A・暴風1A	廿二日大風雨にて。諸大名使し御けしきを伺ふ。		厳有院殿御実紀26	41	474上	0
639	1664	07.23-08.20	寛文	4	06	暴風3	此月令せらるゝは。烈風にて廻々の屋脊破損し。(後略)		厳有院殿御実紀28	41	506下	0
640	1664	11.04	寛文	4	09.17		十七日紅葉山 御宮雨により御参なし。		厳有院殿御実紀29	41	512上	0
641	1664	12.16	寛文	4	10.29		廿九日新雪にて国持。普第の徒使出し御けしき伺ふ。		厳有院殿御実紀29	41	516上	0
642	1665	02.08	寛文	4	12.24		廿四日雪により三縁山 台徳院殿靈廟御詣なし。		厳有院殿御実紀29	41	521上	0
643	1665	02.16	寛文	5	01.02	雷1A	(和暦1月6日)けふ大坂より御脚をはせて。この二日坂城の天守へ雷震し。(後略)		厳有院殿御実紀30	41	523上	1
644	1665	03.06	寛文	5	01.20		廿日雨ふりければ。東叡山の御詣なし。		厳有院殿御実紀30	41	524上	0
645	1665	03.11	寛文	5	01.25	強風1A	廿五日烈風により火を戒むべしと仰出さる。		厳有院殿御実紀30	41	524下	0
646	1665	07.13	寛文	5	06.01	雷1A	二日尾邸井に高田御方第宅及松平新太郎光政。井上河内守正利の宅をはじめ。すべて甘か所雷震し。死傷するものあまたあり。		厳有院殿御実紀30	41	538上	0
647	1665	07.08	寛文	5	05.25	洪水1A	(和暦6月13日)十三日此五月廿五日より京淀川洪水の注進あり。		厳有院殿御実紀30	41	539上	1
648	1665	10.07	寛文	5	08.29	大雨1A・暴風1A	廿九日大風雨にて日光山へ駆使を立らる。		厳有院殿御実紀31	41	546上	0
649	1665	09.09-10.08	寛文	5	08	大雨1B・暴風1B	(和暦9月2日/西暦10月10日)二日女院より重陽の賀使に進らせられたる窪田左治右衛門。先月大風雨の夜町谷村梅雲寺に旅宿せしが。(後略)	10月7日のイベントに対応？	厳有院殿御実紀31	41	546上	0
650	1665	10.14	寛文	5	09.06	大雨3・暴風3	小姓組高木忠右衛門定清。書院番天野甚左衛門康好。三宅弥治兵衛正休。松平次郎大夫正貞。こたび大風雨にて破損せし外郭修理奉行にさる。	10月7日のイベントに対応？	厳有院殿御実紀31	41	546下	0
651	1666	01.23	寛文	5	12.18		十八日墨田川辺御放鷹あり。この日雨雪。供奉の衣裳みな濡湿す。		厳有院殿御実紀31	41	555下	0
652	1666	02.06	寛文	6	01.03		雪ふる。		厳有院殿御実紀32	41	559上	0
653	1666	02.06	寛文	6	01.03		(前略)雪降積るにより。府の市人とおなじく待らしむ。		厳有院殿御実紀32	41	559上	0
654	1666	02.21-02.22	寛文	6	01.18-01.19		十八十九日連日雪降りければ。家門使して御けしき伺はる。		厳有院殿御実紀32	41	560上	0
655	1666	02.23	寛文	6	01.20		廿日雪により紅葉山 大猷院殿靈廟に酒井雅楽頭忠清代参す。		厳有院殿御実紀32	41	560上	0
656	1666	02.27	寛文	6	01.24		廿四日雪により。三縁山御詣なし。台徳院殿靈廟に酒井雅楽頭忠清代参す。(後略)		厳有院殿御実紀32	41	560上	0
657	1666	02.28	寛文	6	01.25	大雪1A	また大雪により。日光山に駆使をはせて。山中の様をとほせ給ふ。		厳有院殿御実紀32	41	560下	0

徳川実紀

658	1666	08.03-06.04	寛文	6	05.01-05.02	大雨1A・暴風1A	二日昨夜より大風雨にて。家門使して伺はる。	厳有院殿御実紀32	41	570下	0
659	1666	06.05	寛文	6	05.03	長雨1A・洪水1A	近日霖雨にて浅草川水かさ常よりまし。両国橋杭おしながしたり。	厳有院殿御実紀32	41	571上	0
660	1666	05.12	寛文	6	04.09	あられ1A	(和暦7月8日)水戸の地この四月九日。十六日氷雨ふり。五月二日大雨にて。中川。久茲[慈]川出水し。橋七十。堰。水門等二千五百をしやぶり。田畠これが為に損害し。六月朔日大風雨。城辺あまた破壊し。廿一日又雷雨。大水出て。人馬も死傷せしよし。水邸より注進す。	厳有院殿御実紀33	41	577下	0
661	1666	05.15	寛文	6	04.16	あられ1A	(和暦7月8日)水戸の地この四月九日。十六日氷雨ふり。五月二日大雨にて。中川。久茲[慈]川出水し。橋七十。堰。水門等二千五百をしやぶり。田畠これが為に損害し。六月朔日大風雨。城辺あまた破壊し。廿一日又雷雨。大水出て。人馬も死傷せしよし。水邸より注進す。	厳有院殿御実紀33	41	577下	0
662	1666	06.04	寛文	6	05.02	大雨1A・洪水1A	(和暦7月8日)水戸の地この四月九日。十六日氷雨ふり。五月二日大雨にて。中川。久茲[慈]川出水し。橋七十。堰。水門等二千五百をしやぶり。田畠これが為に損害し。六月朔日大風雨。城辺あまた破壊し。廿一日又雷雨。大水出て。人馬も死傷せしよし。水邸より注進す。	厳有院殿御実紀33	41	577下	0
663	1666	07.02	寛文	6	06.01	大雨1A・暴風1A	(和暦7月8日)水戸の地この四月九日。十六日氷雨ふり。五月二日大雨にて。中川。久茲[慈]川出水し。橋七十。堰。水門等二千五百をしやぶり。田畠これが為に損害し。六月朔日大風雨。城辺あまた破壊し。廿一日又雷雨。大水出て。人馬も死傷せしよし。水邸より注進す。	厳有院殿御実紀33	41	577下	0
664	1666	07.22	寛文	6	06.21	洪水1A・雷1A	(和暦7月8日)水戸の地この四月九日。十六日氷雨ふり。五月二日大雨にて。中川。久茲[慈]川出水し。橋七十。堰。水門等二千五百をしやぶり。田畠これが為に損害し。六月朔日大風雨。城辺あまた破壊し。廿一日又雷雨。大水出て。人馬も死傷せしよし。水邸より注進す。	厳有院殿御実紀33	41	577下	0
665	1666	04.08	寛文	6	03.04	洪水1A	(和暦7月19日/西暦8月16日)加藤出羽守泰興が所領伊予国大洲三月四日洪水。土佐九日も二三四日大水。人馬死傷し。伊勢桑名も大水のよし注進す。	厳有院殿御実紀33	41	578下	1
666	1666	04.06-04.08	寛文	6	03.02-03.04	洪水1A	(和暦7月19日/西暦8月16日)加藤出羽守泰興が所領伊予国大洲三月四日洪水。土佐九日も二三四日大水。人馬死傷し。伊勢桑名も大水のよし注進す。	厳有院殿御実紀33	41	578下	1
667	1666	08.03-08.04	寛文	6	07.03-07.04	大雨1A・暴風1A	(和暦8月10日)七月三日四日両日。松平左近将監忠昭が封地豊後国府内大風雨にて。民屋五百三十軒顛倒せし旨注進あり。	厳有院殿御実紀33	41	580上	1
668	1666	08.16-08.17	寛文	6	07.16-07.17	大雨1A・洪水1A	(和暦8月18日)尾州名古屋の地七月十六七。二十八九日。大雨。各所水溢し。八月朔日又風雨にて木曾川洪水し。濃尾両国の間十五万五千三百五十石水害を蒙り。堤防十八里余。橋梁百廿八。屋舎二百四十五軒。材木五万流失し。男女六人。馬四疋溺没せし旨尾邸より注進あり。	厳有院殿御実紀33	41	580下	1
669	1666	08.28-08.29	寛文	6	07.28-07.29	大雨1A・洪水1A	(和暦8月18日)尾州名古屋の地七月十六七。二十八九日。大雨。各所水溢し。八月朔日又風雨にて木曾川洪水し。濃尾両国の間十五万五千三百五十石水害を蒙り。堤防十八里余。橋梁百廿八。屋舎二百四十五軒。材木五万流失し。男女六人。馬四疋溺没せし旨尾邸より注進あり。	厳有院殿御実紀33	41	580下	1

徳川実紀

670	1666	08.30	寛文	6	08.01	大雨1A・洪水1A・暴風1A	(和暦8月18日)尾州名古屋の地七月十六七。二十八九日。大雨。各所水溢し。八月朔日又風雨にて木曾川洪水し。濃尾両国の間十五万五千三百五十石水害を蒙り。堤防十八里余。橋梁百廿八。屋舎二百四十五軒。材木五万流失し。男女六人。馬四疋溺没せし旨尾郎より注進あり。		嚴有院殿御実紀33	41	580下	1
671	1666	08.04	寛文	6	07.04	洪水1A	(和暦8月22日)廿二日山内修理亮忠直所領土佐中村の地。七月四日。十一日。十五日洪水。田畝三万石水害を蒙り。男十人。女廿七人。牛馬五百七十九疋溺死し。民屋二千三十七軒。船十七流失せるよし注進す。		嚴有院殿御実紀33	41	580下	1
672	1666	08.11	寛文	6	07.11	洪水1A	(和暦8月22日)廿二日山内修理亮忠直所領土佐中村の地。七月四日。十一日。十五日洪水。田畝三万石水害を蒙り。男十人。女廿七人。牛馬五百七十九疋溺死し。民屋二千三十七軒。船十七流失せるよし注進す。		嚴有院殿御実紀33	41	580下	1
673	1666	08.15	寛文	6	07.15	洪水1A	(和暦8月22日)廿二日山内修理亮忠直所領土佐中村の地。七月四日。十一日。十五日洪水。田畝三万石水害を蒙り。男十人。女廿七人。牛馬五百七十九疋溺死し。民屋二千三十七軒。船十七流失せるよし注進す。		嚴有院殿御実紀33	41	580下	1
674	1666	08.30	寛文	6	08.01		(和暦8月29日)この朔日但馬国蛇山大山鳴動し。地裂る事五六十間。民屋十九軒顛覆し。人多く圧死せる旨代官より注進す。		嚴有院殿御実紀33	41	581下	0
675	1666	10.10	寛文	6	09.12	洪水3	(前略)大目付高木伊勢守守久。作事奉行保田若狭守宗雪常陸国谷原新田水害にかゝるにより巡察命ぜられ。ともにいとま給ふ。属吏も同じ。		嚴有院殿御実紀33	41	582下	0
676	1666	10.12	寛文	6	09.14	大雨3・洪水3・暴風3	十四日老臣西城下を巡視す。さきの風雨洪水にて。石垣崩壊せしゆへなり。		嚴有院殿御実紀33	41	582下	0
677	1666	-	寛文	6	09.15	洪水1C	(和暦9月15日/西暦10月13日)又大番幸田半左衛門孝治。八木五郎左衛門某は武威。相模。駿河。三河。森川左衛門重勝。山田太郎右衛門直房は伊勢。美濃。近江の地。今年の洪水により。東海道堤防破壊の所を巡察せしめらる。勘定の徒も同じ。		嚴有院殿御実紀33	41	582下	0
678	1666	10.18	寛文	6	09.20		廿日雨ふり。(後略)		嚴有院殿御実紀33	41	582下	0
679	1667	01.06	寛文	6	12.12	強風1A・大火	十二日この七日大坂雑魚場より失火し。その翌日娼街路より焼出したるに。烈風にて焼ひろがり。九日に及びて燵たり。凡市井百四十二町。市屋千九百三十三軒焼し旨注進あり。		嚴有院殿御実紀33	41	591上	0
680	1667	02.14	寛文	7	01.22	強風1A	(和暦1月24日)日光山より廿二日山中大風の注進あり。		嚴有院殿御実紀34	41	596上	0
681	1667	03.11	寛文	7	02.17		雪ふりければ。家門使もて御けしきうかゞはる。		嚴有院殿御実紀34	41	597下	0
682	1667	07.27	寛文	7	06.07		七日昨日西城よりかへらせ給ふとき雨ふり。(後略)		嚴有院殿御実紀34	41	613下	0
683	1667	12.03	寛文	7	10.18	雷1A	(和暦10月25日)此十八日越後村上城雷震し。天守井に櫓六焼失せし旨注進あり。		嚴有院殿御実紀35	41	624下	1
684	1668	03.03	寛文	8	01.21	大雪1A	廿一日大雪にて。家門使奉り御けしき伺はる。		嚴有院殿御実紀36	42	2上	0
685	1668	05.01-05.02	寛文	8	03.20-03.21	強風1A	(和暦3月22日)日光山廿日より翌日に及ぶまで。大風の注進あり。		嚴有院殿御実紀36	42	12上	0
686	1668	07.19-07.20	寛文	8	06.11-06.12	洪水1A	(和暦6月30日)この十一二日加州金沢洪水。民屋二百廿三戸流失。男女七十人溺死の注進あり。		嚴有院殿御実紀36	42	18下	1
687	1669	07.14-07.20	寛文	9	06.17-06.23	大雨1A・暴風1A	(和暦7月10日)松平出羽守綱隆所領出雲国六月十七日より廿三日まで大風雨にて。田畝三万六千五百石余損失の注進あり。		嚴有院殿御実紀39	42	47下	1
688	1669	07.09-07.19	寛文	9	06.12-06.22	大雨1A・洪水1A	(和暦7月24日)この六月十二日より廿二日まで加賀。能登。越中三国大雨洪水。田圃四万八千六百石損失し。男女十人。民屋九十三戸流没せし旨注進す。		嚴有院殿御実紀39	42	49上	1

徳川実紀

689	1669	08.31	寛文	9	08.05	洪水3	五日分部隼人正信政領所水害にかゝりしかば。米三千石恩貸せらる。		厳有院殿御実紀39	42	49下	1
690	1669	09.04	寛文	9	08.09	洪水1A・ 暴風1A・ 高潮1A	(和暦8月28日)又此八月九日より小笠原内匠頭長勝所領豊前の中津洪水。十二日の夕より大風にて水かさそひ。士民屋舎六十余流失し。男女十三人溺死せし注進あり。	高潮が原因の洪水?	厳有院殿御実紀39	42	51上	1
691	1669	09.06	寛文	9	08.11	大雨1A・ 洪水1A・ 暴風1A	(和暦9月5日)去月十一日細川越中守綱利所領熊本の地大風雨。洪水。屋舎千四百三十二戸。船十六艘流失し。男女十一人。馬二疋溺死し。其他崩破の各所若干のよし注進し。又松平主殿頭忠房が領する肥前島原も。同日の風雨にて。屋舎九百廿三。本丸二三の丸破損の注進す。		厳有院殿御実紀39	42	52上	1
692	1669	09.06- 09.07	寛文	9	08.11- 08.12	大雨1A・ 洪水1A・ 暴風1A	(和暦9月12日)松平丹後守光茂が所封肥前佐賀。この八月十一二日の大風雨。洪水にて。屋舎八千五百十七戸顛覆し。田圃十二万五千石余。有馬中務大輔頼元が筑後久留米領。家舎二千六百六戸倒れ。田圃八万八千四百石余。大久保加賀守忠職が所領肥前唐津も。屋舎五百九十五戸倒れ。田圃一万三千石余皆水害蒙りたるよし注進す。		厳有院殿御実紀39	42	52下	1
693	1669	09.08	寛文	9	09.13	洪水3	十三日国巡目付二人をつかはし。佐渡国水害の地を巡察せしめ給ふ。		厳有院殿御実紀39	42	55上	1
694	1670	02.12	寛文	9	12.22		廿二日初雪ふりければ。家門使もて御けしき伺はる。		厳有院殿御実紀39	42	61上	0
695	1670	07.19	寛文	10	06.03	大雨1A・ 暴風1A	四日昨夜大風雨により。家門。諸大名使出し御けしき伺ひ奉る。		厳有院殿御実紀40	42	73下	0
696	1670	07.19	寛文	10	06.03	大雨1A・ 暴風1A	(和暦6月8日)久世大和守広之所領下総関宿并に相模の地。この三日風雨にて洪水のよし聞ゆ。		厳有院殿御実紀40	42	73下	0
697	1670	-	寛文	10	07.02	大雨1C・ 暴風1C	(和暦7月2日/西暦8月17日)二日今秋関東の国々へ檢使をつかはる事兼て仰出されしが。連日の大風雨により。来年三月までのべらる。		厳有院殿御実紀41	42	77上	0
698	1670	08.22	寛文	10	07.07	洪水3	大番戸田左五右衛門某。浅井伝八郎忠能并に勘定一人。駿遠水害の地を巡察せしめらる。		厳有院殿御実紀41	42	77上	0
699	1670	09.23	寛文	10	07.29	大雨1A・ 暴風1A	廿九日大風雨により。三家使もて御けしき伺はる。		厳有院殿御実紀41	42	78下	0
700	1670	10.05- 10.06	寛文	10	08.22- 08.23	大雨1A・ 暴風1A・ 高潮1A	(和暦8月29日)廿九日大坂の地此廿二三日西南風強く。木津川口より高潮おしあげ。官船并に諸大名の船をはじめ。諸国の船数千艘破損し。堤防。橋梁。屋舎あまた毀ち流され。船奉行与力。水主。男女下部百廿三人。そのほか人畜若干溺死し。城の櫓魚虎も多く落。船庫も倒れたるよし注進す。		厳有院殿御実紀41	42	81下	1
701	1670	10.05- 10.06	寛文	10	08.22- 08.23	大雨1A・ 暴風1A	(和暦9月3日)松平日向守信之所領播州明石。この八月廿三日の大風雨にて。本丸二三の丸破損し。櫓。多門。そのほか土屋五百軒。高屋七十八。浦民の家三百七十一潰れ。男女十一人死し。船百九十二艘損じたるよし注進す。		厳有院殿御実紀41	42	82上	1
702	1671	01.30	寛文	10	12.20		廿日雪ふりければ紅葉山 大猷院殿 靈廟御詣なし。		厳有院殿御実紀41	42	88下	0
703	1671	03.05	寛文	11	01.24		廿四日雪ふりければ。三縁山御詣なし。		厳有院殿御実紀42	42	92上	0
704	1671	06.26	寛文	11	05.20		廿日雨ふりければ紅葉山御詣なし。		厳有院殿御実紀42	42	102下	0
705	1671	09.29	寛文	11	08.27	大雨1A・ 暴風1A	(和暦8月28日)昨日大風雨により。脚力をはせて日光山のさまを尋給ふ。		厳有院殿御実紀43	42	111上	0
706	1671	09.29	寛文	11	08.27	大雨1A・ 暴風1A	(和暦8月29日)廿九日一昨夜の大風雨により。浅草川出水したるをもて。(後略)		厳有院殿御実紀43	42	111上	0
707	1671	10.02	寛文	11	08.30	洪水3	晦日東海道洪水にて。六郷橋押流したるよし注進あり。		厳有院殿御実紀43	42	111上	0

徳川実紀

708	1671	09.29	寛文	11	08.27	暴風1A・波浪1A	(和暦9月3日)三日琉使前月廿七日伊勢の桑名渡海する折から大風にあひ。船ども勢尾の海浦各所へ漂着せしかど。皆つゝがなきよし注進あり。		厳有院殿御実紀43	42	111下	1
709	1671	10.12	寛文	11	09.10	大雨1A・洪水1A・暴風1A	十日近日の風雨にて。水府の地八万石ばかり其害を蒙る由注進す。		厳有院殿御実紀43	42	111下	0
710	1671	11.02-12.01	寛文	11	10	大雨3・暴風3	この月令せらるゝは。こたび大風雨の時。(後略)		厳有院殿御実紀43	42	114下	0
711	1672	01.23	寛文	11	12.24		廿四日雨により。紅葉山台徳院殿霊廟に御詣なし。		厳有院殿御実紀43	42	119下	0
712	1672	02.29	寛文	12	02.01	強風1A	今日大風煙塵を吹きて。ひとへに火災のごとし。		厳有院殿御実紀44	42	122下	0
713	1672	03.18	寛文	12	02.19	雷1A	(和暦3月3日)先月十九日細川越中守綱利が肥後八代の城雷震多し。(後略)		厳有院殿御実紀44	42	126下	1
714	1672	05.31	寛文	12	05.05	大雨1A・洪水1A・強風1A	この日大風雨洪水して。六郷の仮橋やぶれをちたり。		厳有院殿御実紀44	42	130下	0
715	1672	07.09	寛文	12	06.15		十五日雨ふりければ。山王祭禮停廃あり。		厳有院殿御実紀44	42	135下	0
716	1672	12.31	寛文	12	11.13		この日地震かつ雪ふる。		厳有院殿御実紀45	42	145下	0
717	1673	01.02	寛文	12	11.15		紀伊中納言光貞駒狩場より使出し。初雪の御けしき伺ひ奉らる。		厳有院殿御実紀45	42	145下	0
718	1673	01.10	寛文	12	11.23		廿三日昨夜雪により。三家使奉らる。		厳有院殿御実紀45	42	145下	0
719	1673	02.24	延宝	1	01.08	雷1A	八日甚雷により。三家使出し御けしきうかどふ。		厳有院殿御実紀46	42	151上	0
720	1673	06.05	延宝	1	04.20		廿日雨により。紅葉山御詣なし。		厳有院殿御実紀46	42	156下	0
721	1673	06.23	延宝	1	05.09	強風1A・大火	(和暦5月12日)十二日この九日京師火あり。大風にて 大内をはじめ。(後略)		厳有院殿御実紀46	42	157下	0
722	1673	07.01-07.02	延宝	1	05.17-05.18	洪水1A	(和暦6月10日)十日前月十七八日松平丹後守光茂。有馬中務大輔頼元。大村因幡守純長所領洪水の注進あり。		厳有院殿御実紀46	42	160下	1
723	1673	09.18	延宝	1	08.08	大雨1A・雷1A	此日暴風甚雨。申刻より酉刻にいたる。		厳有院殿御実紀47	42	165上	0
724	1673	09.19	延宝	1	08.09	大雨1A・暴風1A	(和暦8月13日)十三日駿府より。この九日大風雨にて。城内多く破損の注進す。		厳有院殿御実紀47	42	165下	1
725	1673	09.19	延宝	1	08.09	大雨1A・暴風1A	(和暦8月17日)この九日の大風雨にて町奉行の両庁破壊せしかば。修理費とて銀廿貫目つゝ下さる。		厳有院殿御実紀47	42	165下	0
726	1674	02.28	延宝	2	01.23	大雨1A・強風1A	廿三日暴風雨。		厳有院殿御実紀48	42	176下	0
727	1674	03.04	延宝	2	01.27	大雪1A・低温1A	廿七日連朝大雪。春寒甚し。よて三家使出し御けしきうかどはせらる。		厳有院殿御実紀48	42	176下	0
728	1674	05.15-05.16	延宝	2	04.10-04.11	大雨1A・洪水1A・強風1A	(和暦4月17日)京よりこの十日。十一日の大風雨にて。賀茂川洪水。三条橋押流したるよし注進す。		厳有院殿御実紀48	42	182下	1
729	1674	04.06-05.05	延宝	2	03	大雨1A・洪水1A	(和暦5月10日)尾張名古屋封内にかゝりし美濃の地。この三月の大雨にて水をし入しが。前月の十一日の大風にて。又其所より水あふれ。民屋八十四傾覆し。馬一匹溺死せし注進あり。		厳有院殿御実紀48	42	184下	1
730	1674	05.16	延宝	2	04.11	暴風1A	(和暦5月10日)尾張名古屋封内にかゝりし美濃の地。この三月の大雨にて水をし入しが。前月の十一日の大風にて。又其所より水あふれ。民屋八十四傾覆し。馬一匹溺死せし注進あり。		厳有院殿御実紀48	42	184下	1
731	1674	07.16	延宝	2	06.13	大雨1A・雷1A	十三日この夜大雷。暴雨。		厳有院殿御実紀48	42	186下	0
732	1674	07.16-07.17	延宝	2	06.13-06.14	洪水1A	(和暦6月22日)この十三十四日両日大風雨にて。淀。大和川洪水。天満橋。京橋。天神橋落て。摂河両国各所堤防破損の旨大坂より注進す。		厳有院殿御実紀48	42	187下	1
733	1674	07.28-07.29	延宝	2	06.25-06.26	洪水1A	(和暦7月16日)十六日松平出羽守綱隆が雲州松江の所領。先月廿五日より廿八日まで洪水。田圃損害せしよし注進す。		厳有院殿御実紀49	42	190上	1

徳川実紀

734	1674	08.19	延宝	2	07.18	洪水3	目付岡部左近勝重五畿水害の地巡察命ぜられいとまたまふ。勘定の徒もおなじ。		厳有院殿御実紀49	42	190上	1
735	1674	08.31	延宝	2	08.01	洪水3	(和暦8月13日)松平丹波守光永所領美濃の加納。この朔日洪水にて堤防八百間破れ。田圃二万七千石この害にかゝりしよし注進あり。		厳有院殿御実紀49	42	192上	1
736	1674	09.15	延宝	2	08.16	大雨1A・ 暴風1A	(和暦8月20日)この十六日大風雨。水戸の領内田圃若干損失の注進あり。		厳有院殿御実紀49	42	192下	0
737	1674	09.07- 09.09	延宝	2	08.08- 08.10	大雨1A・ 洪水1A	(和暦8月23日)この八日より十日まで大雨にて天竜川洪水。十六日常州大風にて。利根川洪水のよし注進す。		厳有院殿御実紀49	42	192下	1
738	1674	09.15	延宝	2	08.16	洪水1A	(和暦8月23日)この八日より十日まで大雨にて天竜川洪水。十六日常州大風にて。利根川洪水のよし注進す。		厳有院殿御実紀49	42	192下	0
739	1674	09.15- 09.16	延宝	2	08.16- 08.17	暴風1A	(和暦8月30日)小笠原遠江守忠雄が豊前小倉の所領。この十六七日大風にて。石垣。橋梁。屋舎若干破損したるよし注進す。		厳有院殿御実紀49	42	193上	1
740	1674	09.15	延宝	2	08.16	暴風1A・ 洪水1A	(和暦9月4日)松平安芸守綱長。永井市井正直時。小笠原内匠頭長勝。水野民部勝種。松平市正英親。一柳対馬守末禮が各領。此十六日大風にて。洪水城内に漲り入。田圃も多く損失せし注進あり。		厳有院殿御実紀49	42	194上	1
741	1674	09.16	延宝	2	08.17	大雨1A・ 暴風1A	(和暦9月6日)松平讃岐守頼常が所領。この十七日大風雨にて。田圃損害の注進あり。		厳有院殿御実紀49	42	194上	1
742	1674	10.14	延宝	2	09.15	洪水3	けふ令せらるゝは。各国の洪水にて田圃荒耗するにより。いよくことしも。寒釀の米額去年のごとくつくるべし。凶荒による米額を減ずるは。その心にまかすべしとぞ。その他は去年八月十日の令におなじ。		厳有院殿御実紀49	42	194下	0
743	1675	03.01	延宝	3	02.05		五日春雪により。三家使して御けしき伺はる。		厳有院殿御実紀50	42	202下	0
744	1675	03.09	延宝	3	02.13		十三日雪により。三家使出し御けしき伺はる。		厳有院殿御実紀50	42	203上	0
745	1674	-	延宝	3	02.15	洪水1C	(延宝3年2月15日/1675年3月11日)この日令せらるゝは。去年各国水害により。衆民艱困するゆへに。(後略)		厳有院殿御実紀50	42	203上	0
746	1675	03.20	延宝	3	02.24		雪により。尾張中將綱誠卿より使出し御けしき伺はる。紀水両卿よりは征中より使奉られず。		厳有院殿御実紀50	42	203下	0
747	1675	07.25	延宝	3	06.03	大雨1A・ 暴風1A	三日この暁大風雨により。三家使して御けしき伺はる。		厳有院殿御実紀50	42	214上	0
748	1675	12.25	延宝	3	11.09		九日昨夜雪ふりければ。家門。諸大名使出し御けしきうかゞふ。		厳有院殿御実紀51	42	223下	0
749	1676	01.09	延宝	3	11.24		(和暦11月24日)昨夜雪ふりければ。家門使して御けしきうかゞはる。		厳有院殿御実紀51	42	224下	0
750	1676	02.27	延宝	4	01.14		十四日雪ふりければ。三家使して御けしき伺はる。		厳有院殿御実紀52	42	229下	0
751	1676	03.04	延宝	4	01.20		(前略)雨ふりければ。尾水両卿も陪拝なし。(後略)		厳有院殿御実紀52	42	230上	0
752	1676	05.12	延宝	4	03.30	強風1A・ 大火	(和暦4月5日)松平越後守光長が所領越後国高田城先月卅日下邑より出荷し。南風烈しく。土屋二百四十。市街卅七町焼たるよし注進す。		厳有院殿御実紀52	42	235下	1
753	1676	06.16	延宝	4	05.05	大雨1A	(和暦5月14日/西暦6月25日)京より此五日大雨。七日鴨河洪水。堤防。橋梁破壊せし旨注進あり。大坂も洪水のよし聞ゆ。		厳有院殿御実紀52	42	237上	1
754	1676	06.18	延宝	4	05.07	洪水1A	(和暦5月14日/西暦6月25日)京より此五日大雨。七日鴨河洪水。堤防。橋梁破壊せし旨注進あり。大坂も洪水のよし聞ゆ。		厳有院殿御実紀52	42	237上	1
755	1676	09.04	延宝	4	07.26	長雨1A・ 大雨1A	昨今連日地震かつ大雨。	「連日」から長雨とした。	厳有院殿御実紀53	42	242下	0

徳川実紀

756	1676	08.13	延宝	4	07.04	洪水1A・ 暴風1A	(和暦7月28日)尾張中納言光友卿所領この四日大風。洪水にて。田四方二千六百三十四石。圃二千廿三町その書をかふむり。屋舎二千四百十七流失し。男女十八人。馬三十疋溺死せし注進あり。		厳有院殿御実紀53	42	242下	1
757	1676	09.19	延宝	4	08.12	大雨1A・ 暴風1A	この夕甚雨大風。		厳有院殿御実紀53	42	244上	0
758	1676	09.19	延宝	4	08.12	大雨1A・ 暴風1A	(和暦8月13日)十三日昨夜の大風雨にて。護国院法場破壊せしかば御法事をのべらる。		厳有院殿御実紀53	42	244上	0
759	1676	09.23	延宝	4	08.16	長雨1A・ 大雨1A	連日甚雨。	「連日」から 長雨とした。	厳有院殿御実紀53	42	244下	0
760	1677	01.29	延宝	4	12.26		この暁筋違橋より失火し。烈風にて日本橋小舟町まで焼たり。		厳有院殿御実紀53	42	252上	0
761	1677	02.02- 02.19	延宝	5	春- 01.18	低温1B	(和暦1月18日/西暦2月19日)十八日春寒甚により。家門使して御けしき伺はる。	「春」とある が日付が1 月18日なの でBとした。	厳有院殿御実紀54	42	254上	0
762	1677	11.04	延宝	5	10.09	強風1A・ 波浪1A	(和暦10月15日)此九日水府の各浦風涛のために頽破し。民家百八十九戸破損し。男女三十六人溺死。船五十三艘やぶれ。殺千四百俵流失せし注進あり。		厳有院殿御実紀55	42	269下	0
763	1677	10.29	延宝	5	10.03	洪水1A・ 暴風1A	(和暦11月30日)晦日秋月佐渡守種信所領日向高鍋。この十月三日大風洪水。田畝人畜損害し。松平大隅守光久日向の所領。并に伊東出雲守祐実所領日向飢肥も。この害にかかりし由注進す。		厳有院殿御実紀55	42	271下	1
764	1678	09.19- 09.20	延宝	6	08.04- 08.05	大雨1A・ 洪水1A・ 暴風1A	(和暦8月18日)京大坂此四五日大風雨。鴨。淀。桂。宇治。大和河洪水の注進あり。		厳有院殿御実紀57	42	293下	1
765	1678	09.20	延宝	6	08.05	大雨1A・ 暴風1A	(和暦8月25日)この五日九州大風雨。福岡。佐賀。熊本。柳川。久留米。島原。小倉。唐津。平戸。天草等の地大に頽破し。長崎も出島をはじめ。土人の屋舎そこなはれし由注進す。		厳有院殿御実紀57	42	294上	1
766	1678	09.03	延宝	6	07.18	大雨1A・ 暴風1A	(和暦8月27日)松平左京大夫頼純所領伊予の地。先月十八日風雨にて。堤防に百五十五間。監浜二百八十六間。新田堤八百六十間破れ。民屋二百九十三軒倒れ。またこの五日六日の風雨にも。堤二百七十八間。屋舎二百七十七戸顛覆せし注進あり。		厳有院殿御実紀57	42	294上	1
767	1678	09.20- 09.21	延宝	6	08.05- 08.06	大雨1A・ 暴風1A	(和暦8月27日)松平左京大夫頼純所領伊予の地。先月十八日風雨にて。堤防に百五十五間。監浜二百八十六間。新田堤八百六十間破れ。民屋二百九十三軒倒れ。またこの五日六日の風雨にも。堤二百七十八間。屋舎二百七十七戸顛覆せし注進あり。		厳有院殿御実紀57	42	294上	1
768	1678	09.20- 09.21	延宝	6	08.05- 08.06	大雨1A・ 暴風1A	(和暦8月30日)卅日小笠原遠江守忠雄所領豊前の小倉。此五六日大風雨。田圃八百十町。海堤一万百十四間。屋舎二千八百四十二戸損害し。松平隠岐守定直が伊予の松山は。前月十八日の大風にて。城下市邑八百三戸。郷里千五百九十四戸潰たるよし注進あり。		厳有院殿御実紀57	42	294下	1
769	1678	09.03	延宝	6	07.18	暴風1A	(和暦8月30日)卅日小笠原遠江守忠雄所領豊前の小倉。此五六日大風雨。田圃八百十町。海堤一万百十四間。屋舎二千八百四十二戸損害し。松平隠岐守定直が伊予の松山は。前月十八日の大風にて。城下市邑八百三戸。郷里千五百九十四戸潰たるよし注進あり。		厳有院殿御実紀57	42	294下	1

徳川実紀

770	1678	09.19-09.21	延宝	6	08.04-08.06	大雨1A・洪水1A	(和暦9月7日)七日此八月四日より六日まで。尾濃両州大雨洪水。尾張黄門封地田畝八万五千六百石余。大堤三百四十三間。小堤二千二百十二間。家屋六十八戸損害し。男女三人。馬三匹溺死の注進あり。		厳有院殿御実紀57	42	294下	1
771	1678	10.24-10.25	延宝	6	09.09-09.10	あられ1A	(和暦9月25日)廿五日この九日十日連日水戸の地水雨ふりて。田圃損害せしよし注進す。		厳有院殿御実紀57	42	295下	0
772	1679	01.17	延宝	6	12.05		五日初雪ふりければ。家門使奉らる。		厳有院殿御実紀57	42	298下	0
773	1679	02.14	延宝	7	02.03		三日春雪ふりければ。家門使出し御けしきうかがはる。		厳有院殿御実紀58	42	304下	0
774	1679	06.25	延宝	7	05.17		十七日雨ふりければ紅葉山御参なし。		厳有院殿御実紀58	42	312上	0
775	1679	06.23-06.24	延宝	7	05.15-05.16	大雨1A・洪水1A	(和暦5月21日)廿一日この十五日京大雨にて。十六日より加茂。桂川洪水の注進あり。		厳有院殿御実紀58	42	312上	0
776	1679	08.26	延宝	7	07.20		廿日雨ふりければ。(後略)		厳有院殿御実紀59	42	318上	0
777	1679	09.26	延宝	7	08.22	大雨1A・暴風1A	(和暦8月25日)前月廿二日風雨にて。水戸の封内田圃五万八千百石余損害し。民家。堤防。橋梁も若干頽破し。大木三百五十倒れたり注進あり。		厳有院殿御実紀59	42	320下	0
778	1679	12.21	延宝	7	11.19		十九日新雪により。家門并に四位以上の輩使もて伺はる。		厳有院殿御実紀59	42	327上	0
779	1679	12.23	延宝	7	11.22		けふは雪ふりければ家門使奉らる。		厳有院殿御実紀59	42	327上	0
780	1680	01.18	延宝	7	12.17	低温1A	十七日寒気酷烈により。紅葉山御宮に酒井雅楽頭忠清代参す。		厳有院殿御実紀59	42	329上	0
781	1680	02.28	延宝	8	01.28	低温1A	廿八日余寒烈しければ。外殿に給はず。月次出仕のともがら幸臣に謁して退く。		厳有院殿御実紀60	42	331下	0
782	1680	03.14	延宝	8	02.14	低温1A	十五日昨日雪ふりて春寒烈しければ。外殿に出まざる。		厳有院殿御実紀60	42	332上	0
783	1680	04.29-05.27	延宝	8	04		此月はじめより。日の光赤くして朱のごとし。		厳有院殿御実紀60	42	337上	0
784	1680	09.27	延宝	8	閏08.05	大雨1A・暴風1A・高潮1A	(閏8月6日)昨夜大風雨やまず。屋より黄蝶かずしらすむらがり飛で。夜におよんで散せず。また南風はげしく。城中諸門の瓦をおとし壁を落す。まして武家。商屋傾覆すること数しらず。地震ひ海鳴こと甚し。芝浦のあたりより高潮をしあげ。深川永代。両国辺水涯の邸宅。民屋悉破損し。溺死もの多し。よて家門の輩使もて御けしきうかどふ。		常憲院殿御実紀2	42	376上	0
785	1680	09.27	延宝	8	閏08.05	暴風1A	(閏8月6日)目付高木善左衛門守養日光山につかはさる。昨日の風雨にて。廟殿の安否を檢察せられんためなり。		常憲院殿御実紀2	42	376下	0
786	1680	10.06	延宝	8	閏08.14	大雨1A・暴風1A	十四日けふの慶会あるべくかねて仰出されしが。暴風雨によてとどめらる。深夜に及んで京橋より失火あり。		常憲院殿御実紀2	42	377下	0
787	1680	09.28	延宝	8	閏08.06	大雨1A・暴風1A	(閏8月16日)本多越前守利長が所領遠州横須賀の地。この六日暴風雨のために。城の櫓一。土民の家六千余ながれうせ。溺死のもの三百余のよし注進す。		常憲院殿御実紀2	42	378上	1
788	1680	11.21	延宝	8	10.01	大雨3・暴風3	(和暦10月1日)使番村瀬伊左衛門重房前月の風雨にて。諸道のさま巡察命ぜられ暇たまふ。勘定の輩もおなじ。		常憲院殿御実紀2	42	385上	0
789	1680	04.29-07.25	延宝	8	夏	長雨1C・洪水1C	ことし夏霖雨にて。東海道の国々民屋流失し。死傷するものすくなからず。秋冬大旱せしとぞ。		常憲院殿御実紀2	42	393下	0
790	1680	07.26-02.18	延宝	8	秋-冬	干ばつ1C	ことし夏霖雨にて。東海道の国々民屋流失し。死傷するものすくなからず。秋冬大旱せしとぞ。		常憲院殿御実紀2	42	393下	0
791	1680	10.23-03.07	天和	1	前09-01.17	干ばつ1C	(天和元年1月18日)去年の九月より旱せしが。このよ初て大雨すといへり。		常憲院殿御実紀3	42	397下	0
792	1680	03.08	天和	1	01.18	大雨1A	(天和元年1月18日)去年の九月より旱せしが。このよ初て大雨すといへり。		常憲院殿御実紀3	42	397下	0
793	1681	07.09	天和	1	05.24	大雨1A	廿四日大雨により紅葉山御参なし。		常憲院殿御実紀3	42	412上	0

徳川実紀

794	1681	09.19	天和	1	08.08	大雨1A・ 暴風1A	(和暦8月8日)昨夜雨風はげしかりしゆへ。三家并四品以上使もて御けしき伺ふ。		常憲院殿御実紀4	42	422下	0
795	1681	09.12- 10.11	天和	1	08	暴風1B	(和暦9月27日)(前略)さりし八月風雨のとき。(後略)		常憲院殿御実紀4	42	427上	0
796	1682	01.08	天和	1	11.30		三十日初雪ふりければ。四品以上使もて御けしき伺ふ。		常憲院殿御実紀4	42	431上	0
797	1682	01.13	天和	1	12.05	低温1A	五日雪中寒気ことにはげしければ。家門の輩使もて御けしき伺ふ。		常憲院殿御実紀4	42	431下	0
798	1682	01.25	天和	1	12.17	低温1A	十七日紅葉山 御宮に堀田筑前守正俊代参す。御不例なれば。寒気烈しとて御詣なきゆへなり。		常憲院殿御実紀4	42	433上	0
799	1682	02.15	天和	2	01.08		八日前夜の雪もて東叡山御詣なし。		常憲院殿御実紀5	42	435上	0
800	1682	06.13	天和	2	05.08		(和暦5月9日)又昨日雨ふり。(後略)		常憲院殿御実紀5	42	447上	0
801	1682	08.03	天和	2	07.01	雷1A	申より酉まで雷はげしきをもて。宿老。少老。御則みなまうのぼる。		常憲院殿御実紀6	42	453上	0
802	1682	08.04	天和	2	07.02	雷1A	二日家門使奉り御けしき伺はる。此日迅雷によてなり。けふも又雷烈しく。梅林坂。監見坂。神田橋初め。四十六か所に震して。番人等死するものあり。		常憲院殿御実紀6	42	453上	0
803	1682	08.26	天和	2	07.24	大雨1A	廿四日暴雨により紅葉山御詣なし。		常憲院殿御実紀6	42	454下	0
804	1682	10.08	天和	2	09.08		八日雨により紅葉山御詣なし。		常憲院殿御実紀6	42	461下	0
805	1683	01.15	天和	2	12.18		十八日昨夜雪ふりければ。三家使もて御家色伺はる。		常憲院殿御実紀6	42	467下	0
806	1683	01.28	天和	3	01.01	大雨1A・ 洪水1A	この日大雨。水溢る。		常憲院殿御実紀7	42	468上	0
807	1683	05.13	天和	3	04.17		十七日雨により紅葉山御参なし。		常憲院殿御実紀7	42	478下	0
808	1683	08.17	天和	3	06.25	洪水1A	(和暦6月27日)日光山より。この廿五日山中洪水の注進あり。		常憲院殿御実紀7	42	487下	0
809	1683	10.13	天和	3	08.23	大雨1A・ 暴風1A	(和暦8月24日)廿四日昨夜大雨風により。三家并に甲府邸より使もて御気色伺はる。		常憲院殿御実紀8	42	494下	0
810	1683	11.05	天和	3	09.17		十七日雨ふりければ紅葉山御詣なし。		常憲院殿御実紀8	42	496下	0
811	1683	11.12	天和	3	09.24		廿四日紅葉山 台徳院殿靈廟に堀田筑前守正俊代参す。雨により御詣なきゆへなり。		常憲院殿御実紀8	42	497上	0
812	1683	12.07	天和	3	10.19		十九日万石以上の輩に。連年豊熟をもて。此時凶荒の備をなすべき旨仰出さる。		常憲院殿御実紀8	42	498上	0
813	1684	02.11	天和	3	12.26		廿六日昨夜雪ふりければ。三家。甲府并四品以上の輩。使して御気色うかゞふ。		常憲院殿御実紀8	42	503上	0
814	1684	04.15- 05.14	貞享	1	03		この月令せられしは。山城。大和。摂津。河内。近江の公料。私領の諸山。草木の根を連々掘るとるによて。風雨の折から川筋へ土砂を流出し。水雍塞すれば。今より後草木の根掘とる事をかたく禁ずべし。河筋左右の山。樹木なき所土砂出れば。今春より木苗。草根など植て。河中へ土砂の流墜ざらんやうにすべし。(後略)	大阪平野東部の遺跡調査で裏付けられる。	常憲院殿御実紀9	42	511下	1
815	1684	08.18	貞享	1	07.08	雷1A	(和暦7月9日)九日前夜大雷によて。諸老臣。御側御けしき伺ふ。		常憲院殿御実紀10	42	517上	0
816	1684	08.25	貞享	1	07.15		十五日雨により紅葉山御詣なし。堀田筑前守正俊代参す。		常憲院殿御実紀10	42	518上	0
817	1684	09.10- 10.08	貞享	1	08		此月藤堂和泉守高久等に令せられしは。淀川。大和川に落会ふ水源の山々は。古畑。新畑ともに禁ぜらる。領内あるいはその近辺。公料。私料ともに。一年に兩三度づゝ家人つかはし。怠らず樹林長茂の事命ずべし。山割并に奉行の輩命ずべきことは。勘定頭に伺ふべしとなり。		常憲院殿御実紀10	42	522下	1
818	1685	02.03- 02.04	貞享	1	12.31- 01.01	大雪1A	(貞享2年1月1日/1685年2月3日)前夜より大雪。盈尺といふ。		常憲院殿御実紀11	42	535上	0
819	1685	02.20	貞享	2	01.17		(和暦1月18日)十八日昨夜の雪により家門使奉り。御けしき伺はる。		常憲院殿御実紀11	42	535下	0
820	1685	12.08	貞享	2	11.13		(和暦11月14日)十四日前夜初雪ふりければ。家門より使奉り。御けしき伺はる。		常憲院殿御実紀12	42	559上	0
821	1686	01.12	貞享	2	12.18		十八日雪によて家門使奉らる。		常憲院殿御実紀12	42	561下	0
822	1686	02.25	貞享	3	02.03		(和暦2月4日)四日昨日の雪によて。家門使奉られ御けしきうかゞはる。		常憲院殿御実紀13	42	566下	0

徳川実紀

823	1686	05.17	貞享	3	閏03.25	雷1A	(和暦4月6日)去月廿五日亀井能登守茲親石州津和野城。雷火にて焼しよし注進あり。	常憲院殿御実紀13	42	572下	1
824	1687	01.13	貞享	3	12.10		この日初雪により。家門使奉られ物献せらる。	常憲院殿御実紀14	42	590下	0
825	1687	02.12	貞享	4	01.01	大雪1A	今夜大雪ふる。	常憲院殿御実紀15	42	593上	0
826	1687	05.15	貞享	4	04.05	雷1A・ひょう1A	(和暦4月7日)日光山この五日雹ふり大雷し。神橋の内へ雷震せるむね。かの地の目付より注進あり。	常憲院殿御実紀15	42	598上	0
827	1687	06.17	貞享	4	05.08		八日雨ふりければ東叡山御詣なし。	常憲院殿御実紀15	42	600上	0
828	1687	10.02	貞享	4	08.26	大雨1A・暴風1A	この日大風雨。	常憲院殿御実紀16	42	609上	0
829	1687	10.14	貞享	4	09.09	大雨1A・暴風1A	(和暦9月10日)昨夜大風雨により。家門使奉り御けしきうかゞはる。	常憲院殿御実紀16	42	610上	0
830	1687	10.14	貞享	4	09.09	大雨1A・暴風1A	(和暦9月18日)この九日。京。南都大風雨にて。賀茂。貴布祢。稲荷山。祇園。鞍馬寺等大木顛倒し。春日社崩頽せしよし各所の注進あり。	常憲院殿御実紀16	42	610上	1
831	1687	12.08	貞享	4	11.04		初雪ふりければ。家門使もて肴を献せらる。	常憲院殿御実紀16	42	615下	0
832	1688	02.09	元禄	1	01.08		今朝大雪ふりければ。供奉の輩笠免許の旨仰出さる。	常憲院殿御実紀17	43	1下	0
833	1688	05.16	元禄	1	04.17		(前略)雨ふりければ御太刀。御刀はかはるぐ役す。	常憲院殿御実紀17	43	9下	0
834	1688	06.17	元禄	1	05.20		二十日雨ふりければ紅葉山 御宮に御参なし。	常憲院殿御実紀17	43	13下	0
835	1689	02.06	元禄	2	01.15		また春雪ふりければ。家門より魚物献らる。	常憲院殿御実紀19	43	33下	0
836	1689	07.10	元禄	2	05.24		廿四日雨により。紅葉山 台徳院殿 霊廟御詣なし。	常憲院殿御実紀19	43	44下	0
837	1689	07.17-08.14	元禄	2	06	洪水1B	(和暦7月27日)この日去月甲府宰相綱豊卿封地の内十四万石余。水損のよし注進あり。	常憲院殿御実紀20	43	51上	0
838	1690	12.07	元禄	3	11.07		七日新雪により。家門よりもの奉らる。	常憲院殿御実紀22	43	89下	0
839	1691	07.10	元禄	4	06.15		十五日雨により山王の祭祀をのべらる。	常憲院殿御実紀23	43	110上	0
840	1691	07.30	元禄	4	07.06	雷1A	(和暦7月8日)八日この六日。日光山本地堂前に雷震せる注進ありしをもて。(後略)	常憲院殿御実紀24	43	113上	0
841	1691	01.04	元禄	4	11.16		十六日初雪により。家門使して魚物献せらる。	常憲院殿御実紀24	43	125下	0
842	1692	01.25	元禄	4	12.08		八日雪により紅葉山御詣なし。	常憲院殿御実紀24	43	128上	0
843	1692	02.01-02.02	元禄	4	12.15-12.16	大雪1A	(和暦12月15日)けふ大雪。翌朝に及んでやまず。	常憲院殿御実紀24	43	128下	0
844	1692	02.24	元禄	5	01.08		八日雨ふりければ東叡山御詣なし。	常憲院殿御実紀25	43	131上	0
845	1692	03.20	元禄	5	02.03		三日雪ふりければ。三家魚物奉り御けしき何はる。	常憲院殿御実紀25	43	132上	0
846	1692	07.30	元禄	5	06.17	雷1A	けふ大雷雨により。三山に徒士つかはされ見せしめらる。	常憲院殿御実紀25	43	144上	0
847	1693	01.15	元禄	5	12.10		十日初雪ふりしかば。三家物奉り御けしき何はる。	常憲院殿御実紀26	43	157上	0
848	1693	02.28	元禄	6	01.24		廿四日雪ふりければ三縁山御詣なし。	常憲院殿御実紀27	43	162上	0
849	1693	04.19	元禄	6	03.14		(前略)雨ふりければその事なし。	常憲院殿御実紀27	43	165下	0
850	1694	02.25	元禄	7	02.02		二日雪降ければ。家門使して御けしきうかゞはる。	常憲院殿御実紀29	43	189上	0
851	1694	06.23-07.21	元禄	7	閏05	大雨1B・暴風1B	(和暦7月26日)去る閏五月大風雨により。松平淡路守綱矩が領邑。三万五千石傷損のよし注進あり。	常憲院殿御実紀30	43	206下	1
852	1695	01.29	元禄	7	12.15		けさ初雪ふりければ。家門の方々よりもの奉り。御けしきうかゞはる。	常憲院殿御実紀30	43	216上	0
853	1695	03.02	元禄	8	01.18		十八日雪ふりければ。家門一種づゝ捧げらる。	常憲院殿御実紀31	43	220上	0
854	1695	03.22	元禄	8	02.08	強風1A・大火	けふ四谷伝馬町より失火しけるに。風烈しくて焼ひろがり。(後略)	常憲院殿御実紀31	43	221下	0
855	1695	08.03	元禄	8	06.24	大雨1A・雷1A	今夜大雷甚雨せり。	常憲院殿御実紀31	43	234下	0
856	1695	10.15	元禄	8	09.08		八日紅葉山 諸廟御詣。雨によりて廢せられ。(後略)	常憲院殿御実紀32	43	239下	0
857	1696	01.20	元禄	8	12.16		十六日雪降ければ。家門もの奉り。御けしきうかゞはる。	常憲院殿御実紀32	43	247下	0
858	1696	02.06	元禄	9	01.04	強風1A	四日頃烈風によりて警火の令を下さる。	常憲院殿御実紀33	43	249上	0

徳川実紀

859	1696	02.09	元禄	9	01.07		雪降ければ。家門使奉り御気色う かゞはる。	常憲院殿御実紀33	43	249上	0
860	1696	02.27	元禄	9	01.25	強風1A・ 大火	(和暦2月3日)三日火消役に。去月 廿五日の火災風烈かりしを。心いれ 速に消滅せしとて褒詞を加へらる。	常憲院殿御実紀33	43	251上	0
861	1696	07.17	元禄	9	06.19	長雨1A	(和暦6月19日)この程連夜淫雨。今 夜より廿一日の夜にいたり地震す。	常憲院殿御実紀33	43	263上	0
862	1697	01.23	元禄	10	01.01		春雪により三家もの奉り。御気色う かゞはる。	常憲院殿御実紀35	43	281上	0
863	1698	01.03	元禄	10	11.22		廿二日雪ふりければ。家門使してもの 奉らる。	常憲院殿御実紀36	43	313下	0
864	1698	07.16	元禄	11	06.09	雷1A	(和暦6月10日)十日昨夜大雷により 家門使奉り。御けしきうかゞはる。	常憲院殿御実紀37	43	331下	0
865	1698	10.09	元禄	11	09.06	大雨1A・ 暴風1A	(前略)数寄屋橋の辺南鍋町の商家 より火起り。おりふし南風はげしく。た ちまち四町ばかりひろがり。(中略)子 の時ばかりに暴雨ふり出て焼やみたり。	常憲院殿御実紀38	43	344上	0
866	1698	12.17	元禄	11	11.16		十六日烈風の日は。いよく火をいま しむべしと令せらる。	常憲院殿御実紀38	43	350下	0
867	1699	02.19	元禄	12	01.20		春雪ふりければ。家門ものたてまつり 御けしきうかゞはる。	常憲院殿御実紀39	43	355下	0
868	1699	07.11	元禄	12	06.15		十五日雨により山王祭をのべらる。	常憲院殿御実紀39	43	370上	0
869	1699	08.10	元禄	12	07.15	暴風1A	(和暦7月16日)十六日昨夜烈風によ て。家門使奉り御けしき伺はる。	常憲院殿御実紀40	43	376下	0
870	1699	07.27- 11.20	元禄	12	秋	暴風1C	(閏9月7日/西暦10月29日)今日諸 官長。諸有司へ仰下さるゝは。粳米 を采邑へかへ賜はる輩。返納米の 事。この秋風雨にて。税額なかばも 損亡せしは。今年ゆるされ。明年 十二月に上納すべしとなり。	常憲院殿御実紀40	43	381上	0
871	1699	11.09	元禄	12	閏09.18		(前略)雨ふりければ其事なし。よて 柳沢出羽守保明をつかはさる。	常憲院殿御実紀40	43	383上	0
872	1699	11.24	元禄	12	10.04		四日初雪ふりければ。家門もの奉ら る。	常憲院殿御実紀40	43	384下	0
873	1700	01.08	元禄	12	11.19		十九日雪ふりければ。家門もの奉り 御けしきうかゞはる。	常憲院殿御実紀40	43	387上	0
874	1699	-	元禄	12	12.19	暴風1C	(元禄12年12月19日/1700年2月7 日)十九日ことし風損により。醸酒米 去年の五分の一たるべしと先に令せ らるれば。弥此むね守り。其他一切 造るべからずとふれらる。	常憲院殿御実紀40	43	390下	0
875	1700	03.07	元禄	13	01.17		今朝雪ふりければ。家門もの奉り御 けしき伺はる。	常憲院殿御実紀41	43	394上	0
876	1700	04.14	元禄	13	02.25	雷1A	(和暦3月8日)去月廿五日大坂城に 雷震せしよし注進あり。	常憲院殿御実紀41	43	398上	1
877	1701	01.20	元禄	13	12.12		雪ふりければ家門もの奉らる。	常憲院殿御実紀42	43	425上	0
878	1701	03.08	元禄	14	01.29	強風1A	(前略)烈風によて急ぎ消防すべきむ ね少老よりつたふ。(後略)	常憲院殿御実紀43	43	429上	0
879	1701	03.14	元禄	14	02.05	強風1A	又近日風烈により警火の令を下さ る。	常憲院殿御実紀43	43	429下	0
880	1701	12.01	元禄	14	11.02	強風1A	また烈風によて警火の命あり。	常憲院殿御実紀44	43	454上	0
881	1702	01.31	元禄	15	01.04		(和暦1月4日)四日昨夜春雪によて。 家門物献じ御けしき伺はる。	常憲院殿御実紀45	43	461上	0
882	1702	03.05	元禄	15	02.07	強風1A	七日烈風によて警火の令を下さる。	常憲院殿御実紀45	43	463下	0
883	1702	03.18	元禄	15	02.20	強風1A	このごろ烈風により警火の事を令し 下さる。	常憲院殿御実紀45	43	464下	0
884	1702	06.15	元禄	15	05.20		廿日紅葉山御詣雨により停廢あり。	常憲院殿御実紀45	43	474上	0
885	1703	01.15	元禄	15	11.28		けふ雪ふりければ。家門もの奉らる。	常憲院殿御実紀46	43	490上	0
886	1703	01.31	元禄	15	12.15		(前略)此日も大友近江守義孝を招 き茶会を催すよし聞ゆ。おりふし連日 大雪なりしをよき折をおもひ立。遂に 夜中に吉良が宅にをしかけ。(後略)	常憲院殿御実紀46	43	494上	0
887	1703	02.16	元禄	16	01.01		(和暦1月2日)昨夜雪ふりければ家 門もの奉らる。	常憲院殿御実紀47	43	497上	0
888	1704	01.06	元禄	16	11.29		けふ小石川水戸の邸より失火しける に。風はげしく。(後略)	常憲院殿御実紀48	43	521上	0
889	1703	-	元禄	16	12.10	干ばつ 1C	(元禄16年12月10日/1704年1月16 日)十日ことし早して久しく雨ふらず。 地震。火災いちづいけば。護持院大 僧正奉り。けふより水天供を修す。	常憲院殿御実紀48	43	522下	0

徳川実紀

890	1704	08.03	宝永	1	07.03	長雨1A・ 洪水1A	又このごろ霖雨により。利根川水かさそひ。猿股の堤をやぶる。葛西。亀戸。本所。深川の辺一円に出水し。人家床上六七尺に及ぶ。下総古河より東は行徳。西は浅草まで。水害の及ぶ所広く。溺死の者あまたあり。		常憲院殿御実紀50	43	543上	0
891	1704	08.05	宝永	1	07.05	洪水3	五日こたびの洪水による。本所辺水害にかかりし輩は。廿日の中休息すべしと命ぜらる。		常憲院殿御実紀50	43	543上	0
892	1704	08.08	宝永	1	07.08	洪水1A	此頃諸国洪水あり。又府内日々地震やまず。(後略)		常憲院殿御実紀50	43	543下	0
893	1704	11.27	宝永	1	11.01		けふ申刻日食なりしが。巳時計より天くもり。午前より雨になりて。職するさまあらはれず。(後略)		常憲院殿御実紀50	43	552下	0
894	1704	12.20	宝永	1	11.24	強風1A	頃日烈風により。警火の令を下さる。		常憲院殿御実紀50	43	553下	0
895	1705	01.20	宝永	1	12.25		この日雪ふりければ。三家もの奉らる。		常憲院殿御実紀50	43	560上	0
896	1705	01.29	宝永	2	01.05	強風1A	又烈風により警火の事を令し給ふ。		常憲院殿御実紀51	43	563上	0
897	1705	05.23	宝永	2	閏04.01	雷1A	今朝大雷あり。		常憲院殿御実紀51	43	577下	0
898	1705	08.04	宝永	2	06.15		(和暦6月16日)(前略)これ昨日雨ふりければ。(後略)		常憲院殿御実紀51	43	584上	0
899	1706	01.19	宝永	2	12.05		また雪ふりければ家門物献せらる。		常憲院殿御実紀52	43	604上	0
900	1707	01.17	宝永	3	12.14		(和暦12月15日)昨夜初雪ふりければ。三家よりもの奉らる。		常憲院殿御実紀54	43	634下	0
901	1707	03.11	宝永	4	02.08		春雪ふりければ。三家もの奉り御けしき伺はる。西城。後闇にも同じ。		常憲院殿御実紀55	43	646下	0
902	1707	09.14	宝永	4	08.19	大雨1A・ 暴風1A・ 高潮1A	十九日暴風雨あり。深川鉄砲洲の辺高汐をし上たり。		常憲院殿御実紀56	43	667上	0
903	1707	10.07	宝永	4	09.12	大雨1A・ 暴風1A	(和暦9月13日)けふ令せらるゝは。頃日風も烈しく。やゝ寒天にいたれば。(中略)昨夜の暴風雨にて。(後略)		常憲院殿御実紀56	43	670上	0
904	1707	10.08	宝永	4	09.13	暴風1A・ 低温1A	(和暦9月13日)けふ令せらるゝは。頃日風も烈しく。やゝ寒天にいたれば。(中略)昨夜の暴風雨にて。(後略)		常憲院殿御実紀56	43	670上	0
905	1708	01.02	宝永	4	12.10		初雪により家門もの奉らる。		常憲院殿御実紀56	43	676下	0
906	1708	01.23	宝永	5	01.01	大雨1A	元日の夜大雨よのつねならず。		常憲院殿御実紀57	43	679上	0
907	1708	02.21	宝永	5	01.30		春雪ふりければ三家もの奉らる。		常憲院殿御実紀57	43	681下	0
908	1708	05.07	宝永	5	03.17	強風1A	けふも烈風により警火の令を下さる。		常憲院殿御実紀57	43	691上	0
909	1708	06.08	宝永	5	04.20		廿日雨により御詣なし。		常憲院殿御実紀57	43	695上	0
910	1708	06.25	宝永	5	05.08		八日雨ふりければ。(後略)		常憲院殿御実紀57	43	695下	0
911	1708	08.05	宝永	5	06.19	洪水3	(前略)先に命ぜられし有馬玄蕃頭則維所領水害にかゝりしとてめさるゝにより。		常憲院殿御実紀57	43	698下	1
912	1708	08.17	宝永	5	07.02	大雨1A・ 暴風1A	(和暦7月9日)此二日京地風雨烈しかりし聞えあれば。駅書もて 大内御方々の御けしきうかゞはせ給ふ。		常憲院殿御実紀58	43	703下	1
913	1708	09.17	宝永	5	08.04	洪水3	四日分部若狭守信政所領水害にかゝるをもて。(後略)		常憲院殿御実紀58	43	705下	1
914	1708	-	宝永	5	-		すべて此年正月元日大雨よの常ならず。三四月ごろにいたり。地上白毛を生ずること諸国ともに皆同じ。すべて天変地妖やむ時なく。秋風たちし頃よりは麻疹流行して。貴賤ともになやみ。天札するもの数少なからず。富士山焼。京撰辺大火洪水うちつづき。歳暮にいたり。工商等大錢通用の事を難ずる者多きよしにて。富も貧しきも。老少男女一人も残らず。大錢用ゆべき由の證状を奉るべきむね日々催促あり。		常憲院殿御実紀58	43	719下	0
915	1708	12.01- 02.18	宝永	6	前 10.20- 01.09	干ばつ 1B	(宝永6年1月10日/1709年2月19日)この夜大雨。去年十月廿日後はじめてふりしところなり。		文昭院殿御実紀1	44	4上	0
916	1709	02.19	宝永	6	01.10	大雨1A	(宝永6年1月10日/1709年2月19日)この夜大雨。去年十月廿日後はじめてふりしところなり。		文昭院殿御実紀1	44	4上	0
917	1709	02.20	宝永	6	01.11	大雨1A	今夜又大雨暁にいたれり。		文昭院殿御実紀1	44	4上	0
918	1709	02.28	宝永	6	01.19	長雨1A	けふはかねてより御出棺あるべしとふれられしが。霖雨により延引せらる。		文昭院殿御実紀1	44	6上	0
919	1709	11.04	宝永	6	10.03	雷1A	奥能。柏崎。雷電をまはせ給ふ。		文昭院殿御実紀4	44	57上	1

徳川実紀

920	1709	11.09	宝永	6	10.08	強風1A	近日風はげしければ。各火をいましむべきよし令せらる。		文昭院殿御実紀4	44	58上	0
921	1709	11.13	宝永	6	10.12	暴風3	また増山対馬守正任の所領伊勢長嶋の地。うちつゞき大風。地震。高潮にて破損しければ。一万石の地を転ぜらる。		文昭院殿御実紀4	44	58下	1
922	1709	11.20	宝永	6	10.19	高潮3	交代寄合近藤藤殿助用由所領遠江国引佐郡気賀村。地震高潮にて損亡せしかば。復舊するほどの間。二千六百五十石の地をかへ下さる。	津波の可能性もある。	文昭院殿御実紀4	44	60上	1
923	1710	01.24	宝永	6	12.25		雪ふりければ。水紀兩卿よりもの献らる。御台所にも同じ。		文昭院殿御実紀4	44	74上	0
924	1710	03.01	宝永	7	02.02		二日雪ふりければ。水紀兩卿もの奉り。御けしきうかゞはる。		文昭院殿御実紀5	44	82上	0
925	1711	02.26	正徳	1	01.10		十日昨夜より御病あり。其上雪ふりければ。東叡山の御詣なし。		文昭院殿御実紀9	44	141下	0
926	1711	06.23	正徳	1	05.08		八日雨により上野の御詣なし。		文昭院殿御実紀10	44	160上	0
927	1711	09.04	正徳	1	07.22	大雨1A・暴風1A	廿二日西国このほど大風雨あり。朝鮮副使の供船洋中にて破れたるよし。宗対馬守義方より注進す。		文昭院殿御実紀10	44	171下	1
928	1711	10.11	正徳	1	08.29	大雨1A・暴風1A	この頃東海道大風雨にて。舟船并に橋杭。仮橋など。のこりなく流失すといふ。		文昭院殿御実紀10	44	172下	0
929	1711	12.08	正徳	1	10.29		廿九日雨ふりければ。韓使の引見をのべらる。		文昭院殿御実紀11	44	186下	0
930	1711	12.14	正徳	1	11.05		五日雪ふりければ。水紀兩卿よりものさげ御けしきうかゞはる。		文昭院殿御実紀12	44	193上	0
931	1712	02.08	正徳	2	01.02		春雪ふりければ。水戸中納言綱条卿。紀伊中納言吉宗卿より。ものたてまつり御けしきうかゞはる。		文昭院殿御実紀13	44	207上	0
932	1712	03.29	正徳	2	02.23	強風1A・大火	この夕新材木町より火おこり。風烈しくて。(後略)		文昭院殿御実紀13	44	211下	0
933	1712	05.25	正徳	2	04.20		廿日東叡山 大猷院殿靈廟に阿部豊後守正喬代参す。雨により御詣なきをもてなり。		文昭院殿御実紀14	44	214下	0
934	1712	09.01-09.30	正徳	2	08	大雨1A・暴風1A	又薩摩国日置郡串木野より五里ばかりへだてし海浜。蜚船隠見せしかば。鹿兒島より警衛の備せむと設しかど。風雨つよくその事あたはざりしに。船もこのまぎれに。いづれへかのり行しよしを。松平薩摩守吉貴より注進あり。		文昭院殿御実紀15	44	242上	1
935	1712	08.02-09.30	正徳	2	07-08	大雨1B・洪水1B・暴風1B	又七八月両月。中国はじめ其外大風雨。宇治川筋水溢れ。伏見のあたり水患にかゝり。大和路も洪水なり。		文昭院殿御実紀15	44	242下	1
936	1712	10.01-10.29	正徳	2	09	長雨1B・洪水1B	この月また霖雨にて。京。五畿。西国。中国。東海道水患にかゝり。松平丹波守光熙淀の城石垣をくつし。家人の家屋のこらず水にひたし。藤堂和泉守高敏が領地も民屋。人畜とも水患にかゝりしといへり。		文昭院殿御実紀15	44	247上	1
937	1713	04.14	正徳	3	03.20	強風1A・大火	(和暦3月23日)去廿日京榎木町油小路より出火し。風強くして延焼数里に及ぶ。		有章院殿御実紀2	44	305下	1
938	1713	06.07	正徳	3	05.15	洪水3	本田弾正少弼忠晴が所領遠江国榛原郡の内しばく水害ありと愁へ聞るにより。村替せしめらる。		有章院殿御実紀4	44	330上	1
939	1713	08.13	正徳	3	06.23	雷1A	今夜甚雷。諸老臣出仕して御けしきを伺ふ。		有章院殿御実紀4	44	337上	0
940	1714	01.15	正徳	3	11.29		雪ふりければ。三家もの奉り伺はる。		有章院殿御実紀6	44	360下	0
941	1714	02.17	正徳	4	01.03		春雪ふりければ。三家もの奉り伺はる。		有章院殿御実紀7	44	365上	0
942	1714	07.18	正徳	4	06.08	雷1A	けき迅雷あり。(後略)		有章院殿御実紀8	44	383上	0
943	1714	10.29	正徳	4	09.21		(前略)よべ雨ふりければ祭祀をばのべらる。(後略)		有章院殿御実紀9	44	396下	0
944	1715	03.05	正徳	5	01.30		晦日雪ふりければ。三家もの奉らる。		有章院殿御実紀11	44	418下	0
945	1715	06.28	正徳	5	05.27	雷1A	今夜雷鳴あり。		有章院殿御実紀12	44	429下	0
946	1715	07.01	正徳	5	06.01		朔日月次なり。暑気烈しければ表に出まらず。		有章院殿御実紀12	44	430上	0
947	1715	07.30	正徳	5	07.01	高温1A	朔日暑甚しきにより表に出御なし。		有章院殿御実紀12	44	433上	0
948	1715	07.28	正徳	5	07.26	雷1A	今夜雷鳴により宿老。少老出て御けしきを伺ふ。		有章院殿御実紀12	44	435下	0
949	1715	12.23	正徳	5	11.28	低温1A	廿八日寒気烈しきをもて。朝会にのぞみたまはず。		有章院殿御実紀13	44	444下	0

徳川実紀

950	1716	01.12	正徳	5	12.18		初雪ふりければ三家進らせものあり。		有章院殿御実紀13	44	447下	0
951	1716	04.20	正徳	6	03.28		雨湿により表に出まらず。		有章院殿御実紀15	44	461上	0
952	1716	06.17	正徳	6	04.28		雨湿により朝会にのぞみ給はず。		有章院殿御実紀15	44	464上	0
953	1716	08.30	享保	1	07.14		十四日雨により紅葉山に詣たまはず。		有徳院殿御実紀2	45	21下	0
954	1717	01.31	享保	1	12.19		(和暦12月20日)昨夜初雪ふりしかば。(後略)		有徳院殿御実紀3	45	48下	0
955	1717	03.16	享保	2	02.04		四日春雪ふりければ。(後略)		有徳院殿御実紀4	45	57上	0
956	1717	06.16	享保	2	05.08		八日雨にて東叡山の御詣なし。		有徳院殿御実紀4	45	71下	0
957	1717	08.12-08.13	享保	2	07.06-07.07	高温1A	(和暦7月7日)(前略)昨夜より秋暑に御なやみあれば。省かせ給ひしなり。		有徳院殿御実紀5	45	79上	0
958	1717	09.20	享保	2	08.16	大雨1A・暴風1A	この頃烈風雨日をへてやまず。武家民屋多く破壊すといへり。		有徳院殿御実紀5	45	83下	0
959	1717	09.22	享保	2	08.18	大雨1A・暴風1A	この頃の大風雨にて。新大橋の往還をとどむ。		有徳院殿御実紀5	45	83下	0
960	1717	09.26	享保	2	08.22	大雨1A・暴風1A	廿二日大風雨に城内の屋舎多く破壊せしかば。(後略)		有徳院殿御実紀5	45	84上	0
961	1718	01.27	享保	2	12.26		(和暦12月27日)昨夜初雪ふりしかば。(後略)		有徳院殿御実紀5	45	98上	0
962	1718	01.29	享保	2	12.28	強風1A・大火	廿八日牛込元天龍寺前より失火し。市谷坂上まで焼けひろごりに。風はげしく。火勢表六番待ちに及び。(後略)		有徳院殿御実紀5	45	98上	0
963	1718	02.07	享保	3	01.08		けふは梅雨期にて。紀伊中納言宗直卿もの奉り御気色伺はる。		有徳院殿御実紀6	45	101上	0
964	1718	02.23	享保	3	01.24		廿四日雨ふりしかば御詣なし。		有徳院殿御実紀6	45	102下	0
965	1718	06.12	享保	3	05.14		十四日雨ふりしをもて紅葉山に詣給はず。		有徳院殿御実紀6	45	116上	0
966	1719	02.17	享保	3	12.29		(和暦12月30日)よべ初雪ふりしかば。尾張。水戸の両卿より。ものさへけて御気色うかゞはる。		有徳院殿御実紀7	45	142下	0
967	1719	02.28	享保	4	01.10		十日雨ふりければ。東叡山の御詣なし。		有徳院殿御実紀8	45	143上	0
968	1719	03.10	享保	4	01.20	長雨1A	廿日露雨によりて東叡山に詣たまはず。		有徳院殿御実紀8	45	144上	0
969	1719	03.14	享保	4	01.24		廿四日雪をもて三縁山に御詣なし。		有徳院殿御実紀8	45	144下	0
970	1719	12.03	享保	4	10.22		廿二日初雪ふりければ。(後略)		有徳院殿御実紀9	45	173下	0
971	1720	02.25	享保	5	01.18		十八日春の雪ふりしかば。三家の方々より。もの奉り御気色伺うかゞはる。		有徳院殿御実紀10	45	182下	0
972	1720	05.04	享保	5	03.27	強風1A・大火	(前略)通町。中橋の辺に火起りて。南の風烈しく。(後略)		有徳院殿御実紀10	45	187下	0
973	1720	06.19	享保	5	05.14		十四日雨ふりければ。紅葉山 諸廟に御参なし。		有徳院殿御実紀10	45	194下	0
974	1721	01.15	享保	5	12.18		きのふ初雪ふりしかば。(後略)		有徳院殿御実紀11	45	215下	0
975	1721	02.08	享保	6	01.12	低温1A	けふいさゝか雪うち散て。寒気又はげしかりければ。(後略)		有徳院殿御実紀12	45	217下	0
976	1721	02.20	享保	6	01.24		廿四日雨ふりければ。三縁山に御詣なし。		有徳院殿御実紀12	45	218下	0
977	1721	03.30	享保	6	03.03	強風1A・大火	この日三河町より火を出し。南風つよく。(後略)		有徳院殿御実紀12	45	222下	0
978	1721	03.31	享保	6	03.04	低温1A	四日けふも又南風は烈しかりしに。(後略)		有徳院殿御実紀12	45	222下	0
979	1721	06.24	享保	6	05.30		府内に一二丈の白気立たりとぞ。颯風の徴とす。		有徳院殿御実紀12	45	232上	0
980	1721	08.23	享保	6	閏07.01	大雨1A・暴風1A	此夜疾風暴雨せしかば。紅葉山。寛永寺。増上寺及山王祠。昌平坂の孔廟に徒士をさせらる。		有徳院殿御実紀13	45	239上	0
981	1721	08.23-09.20	享保	6	閏07	洪水1B	是月江戸大風雨。信濃。常陸。下総。上野。下野陸奥洪水。河内。備中。備後。伊予。但馬。播磨。近江。美濃。伊勢。三河。遠江も水害多かりしとぞ。		有徳院殿御実紀13	45	243下	0
982	1722	01.18	享保	6	12.02		二日初雪ふりしかば。(後略)		有徳院殿御実紀13	45	254下	0
983	1722	01.28	享保	6	12.12		また雪ふりければ。紀水両卿よりもの奉らる。		有徳院殿御実紀13	45	256下	0
984	1722	03.05	享保	7	01.18		十八日春雪ふりしかば。(後略)		有徳院殿御実紀14	45	260下	0
985	1722	12.08	享保	7	11.01		けふ初雪ふりしかば。(後略)		有徳院殿御実紀15	45	287上	0
986	1723	01.20	享保	7	12.14		雪ふりしかば。尾水両卿ものさへけて御けしき伺はる。		有徳院殿御実紀15	45	290下	0
987	1723	10.08	享保	8	09.10	洪水3	またこのほど国々水害かうぶりし地を。勘定の徒をして監視せしめらる。		有徳院殿御実紀17	45	315上	0

徳川実紀

988	1723	11.15	享保	8	10.18	洪水3	十八日関東の国国こたび水害かうぶり村里賑救の事命ぜられし徒目付六人に。各銀三枚をたまふ。		有徳院殿御実紀17	45	317上	0
989	1723	12.18	享保	8	11.21		廿一日よべ初雪ふりければ。(後略)		有徳院殿御実紀17	45	318下	0
990	1725	02.13	享保	10	01.01		今朝雪ふりしかば。三家使して御けしき伺はる。		有徳院殿御実紀20	45	359上	0
991	1725	03.28	享保	10	02.14	強風1A・ 大火	この日未の刻青山窪町より出火せしに。南風はげしかりければ。(後略)		有徳院殿御実紀20	45	361下	0
992	1725	06.10	享保	10	04.30		晦日雨にて三縁山の御詣なし。		有徳院殿御実紀20	45	370上	0
993	1725	10.22	享保	10	09.17		十七日雨ふりければ紅葉山 御宮に御参なし。		有徳院殿御実紀21	45	383下	0
994	1725	05.12- 10.05	享保	10	夏	洪水1C	(和暦11月10日/西暦12月13日)諏訪安芸守忠虎こたび領内地震し。城郭破壊におよび。江戸の邸宅も近年ふたたび焼失し。この夏又所領水害にかゝりしかば。修理とゞのひがきよしうれひ申によりて。金三千両恩貸あり。		有徳院殿御実紀21	45	391下	0
995	1726	02.25	享保	11	01.24		廿五日春雪ふりければ。(後略)		有徳院殿御実紀22	45	396下	0
996	1726	05.18	享保	11	04.17		十七日雨ふりければ。紅葉山の御詣なし。		有徳院殿御実紀22	45	403下	0
997	1726	06.16	享保	11	05.17		十七日雨ふりければ。紅葉山の御宮に御詣なし。		有徳院殿御実紀22	45	405下	0
998	1726	10.05	享保	11	09.10		十日紅葉山の諸廟に詣給ふべしと仰出されしが。雨降ければ其事なし。		有徳院殿御実紀23	45	412下	0
999	1727	01.17	享保	11	12.26		廿六日初雪ふりければ。尾水両卿より物さげ御けしき伺ふ。		有徳院殿御実紀23	45	419下	0
1000	1727	02.05	享保	12	01.15		けふ春雪ふりしかば。(後略)		有徳院殿御実紀24	45	421下	0
1001	1727	06.09	享保	12	04.20		廿日雨ふりければ。(後略)		有徳院殿御実紀24	45	427上	0
1002	1727	07.24	享保	12	06.06	雷1A	未のとき過るころより雷雨甚し。西城の山里吹上の御園に震す。		有徳院殿御実紀24	45	430上	0
1003	1728	01.16	享保	12	12.06	強風1A	六日一橋門外の閑地に御かりあるべかりしに。烈風なるをもて。路次よりかへらせ給ふ。		有徳院殿御実紀25	45	443下	0
1004	1728	01.17	享保	12	12.07	低温1A	七日寒気を候して日門。増上寺に檜重つかはさる。		有徳院殿御実紀25	45	443下	0
1005	1728	05.08	享保	13	03.30		三十日雨ふりければ。三縁山に御詣なし。		有徳院殿御実紀26	45	456上	0
1006	1728	05.21	享保	13	04.13		(前略)雨ふりければ。(後略)		有徳院殿御実紀27	45	460下	0
1007	1728	06.21	享保	13	05.14		十四日紅葉山 御宮に御参あるべき所。雨によてとゞめられ。		有徳院殿御実紀27	45	471下	0
1008	1728	08.20	享保	13	07.15		けふ 大納言殿の川逍遥。雨ふりければその事なし。		有徳院殿御実紀28	45	477下	0
1009	1728	10.04	享保	13	09.02	大雨1A・ 洪水1A・ 暴風1A	二日未の刻ばかり。俄に疾風暴雨して。小日向。小石川。下谷。浅草。本所のほとり。水溢れ出る事実上丈余に及べり。両国橋及神田川の橋梁残なく落ち。土商の家居も水害かうぶるもの多し。大手門下乗橋の溝渠も水あふれて。朝参のみちを妨しといへり。すべて関東の国々この害にかゝりしとぞ聞えし。		有徳院殿御実紀28	45	480上	0
1010	1729	02.09	享保	14	01.12		十二日春雪降しをもて。三家より御けしきうかゞはる。		有徳院殿御実紀29	45	491下	0
1011	1729	05.27	享保	14	04.30		晦日雨降しかば増上寺の御詣なし。		有徳院殿御実紀29	45	499上	0
1012	1729	12.19	享保	14	10.29		けふ初雪ふりしかば。紀伊水戸両卿物奉らる。		有徳院殿御実紀30	45	514下	0
1013	1730	01.02	享保	14	11.14		雪ふりしかば三家より物奉らる。		有徳院殿御実紀30	45	515上	0
1014	1729	07.26- 11.20	享保	14	秋	大雨1C・ 暴風1C	今年の秋中国西海大風雨。東国は疫癘病おほく行はれしとぞ。		有徳院殿御実紀30	45	522上	1
1015	1730	02.18	享保	15	01.02		夜べ雪ふりしをもて。三家より使さげ御けしきを伺はる。		有徳院殿御実紀31	45	523上	0
1016	1731	01.24	享保	15	12.17		十七日雪ふりければ。紅葉山 御宮に御参なし。		有徳院殿御実紀32	45	549上	0
1017	1731	02.25	享保	16	01.19		此夜雪ふりしかば。三家よりもの献り御けしきうかゞはる。		有徳院殿御実紀33	45	554上	0
1018	1731	04.24	享保	16	03.18		十八日鼠山にならせたまひ。(中略)俄に雨そほふり出ければ。(後略)		有徳院殿御実紀33	45	559下	0
1019	1731	06.12	享保	16	05.08		八日東叡山 厳有院殿靈廟に。御詣の事仰出されしかど。雨ふりければ。松平右京大夫輝貞代参す。		有徳院殿御実紀33	45	565下	0
1020	1731	10.17	享保	16	09.17		十七日雨ふりければ紅葉山 御宮に御参なし。		有徳院殿御実紀34	45	576上	0
1021	1731	12.31	享保	16	12.03		又初雪により三家よりもの奉らる。		有徳院殿御実紀34	45	583下	0

徳川実紀

1022	1732	01.20	享保	16	12.23	強風1A	廿三日葛西の辺に御狩としてならせたまひしに。風烈しかりしかば。とみにかへらせたまふ。		有徳院殿御実紀34	45	586上	0
1023	1732	01.30	享保	17	01.04		四日春雪ふりければ。三家使進させて御気色伺はる。		有徳院殿御実紀35	45	589上	0
1024	1732	03.08	享保	17	02.12	強風1A・ 大火	十二日午の刻過るころ。愛宕下青松寺より火おこり。折しも南風つよくふき立。(後略)		有徳院殿御実紀35	45	591下	0
1025	1732	04.22	享保	17	03.28	強風1A・ 大火	けふ巳の刻なかば。浅草新寺町より火おこり。折しも西北風立て。(後略)		有徳院殿御実紀35	45	595上	0
1026	1732	06.10	享保	17	05.18	洪水3	又松平伊賀守忠愛が所領信濃の国上田の城。千曲川の水害にかゝりしをもて。金三千兩恩貸せらる。		有徳院殿御実紀35	45	599下	1
1027	1732	09.01	享保	17	07.13	暴風1A	十三日砂川のほとりに御狩あり。両国のかたへより御船めして。堅川を過ぎりたまひ。中川につかせらる。けふ水馬を御覧あるべしとかねて仰出されしかど。風強く吹立しかば其事なし。(後略)		有徳院殿御実紀36	45	605下	0
1028	1732	11.26	享保	17	10.10		十日雨降れば。(後略)		有徳院殿御実紀36	45	613上	0
1029	1733	01.29	享保	17	12.14		また初雪ふりければ。三家物奉り御けしき伺はる。		有徳院殿御実紀36	45	617上	0
1030	1733	03.14	享保	18	01.29		春雪ふりしかば。尾水兩邸より物奉らる。		有徳院殿御実紀37	45	623下	0
1031	1734	01.01	享保	18	11.27		廿七日はつ雪ふりければ。(後略)		有徳院殿御実紀38	45	644下	0
1032	1734	02.10	享保	19	01.07		此日春雪ふりければ。三家使して物奉して御けしき伺はる。		有徳院殿御実紀39	45	649上	0
1033	1734	02.27	享保	19	01.24		廿四日雪ふりければ。三縁山御詣なし。		有徳院殿御実紀39	45	650上	0
1034	1734	06.28	享保	19	05.17		十七日雨により。紅葉山の御詣なし。		有徳院殿御実紀39	45	657上	0
1035	1734	07.09	享保	19	06.09		九日 浮円院殿の正忌なり。天気晴ざるをもて。(後略)		有徳院殿御実紀39	45	658下	0
1036	1735	02.05	享保	20	01.13		十三日雪により三家御けしき伺ひもの奉らる。		有徳院殿御実紀41	45	673下	0
1037	1735	04.10	享保	20	03.18		(前略)雨ふりければ。高田放生よりかへらせたまふ。		有徳院殿御実紀41	45	677上	0
1038	1735	05.05	享保	20	閏03.13		(前略)雨にさはり日数度々のびたるをもて。別に銀十枚下さる。		有徳院殿御実紀41	45	679上	0
1039	1735	06.28	享保	20	05.08		八日雨により。東叡山の御詣なし。		有徳院殿御実紀41	45	683下	0
1040	1735	08.20	享保	20	07.03		(前略)今朝にはかに徒士等の水泳を御覧し給ふべかりしが。雨によりてその事なし。		有徳院殿御実紀42	45	689上	0
1041	1736	01.27	享保	20	12.15		雪ふりしかば三家使して御けしき伺はる。		有徳院殿御実紀42	45	709下	0
1042	1736	05.30	元文	1	04.20		二十日雨ふりければ。(後略)		有徳院殿御実紀43	45	721上	0
1043	1736	06.16	元文	1	05.08		八日雨により東叡山御詣なし。		有徳院殿御実紀43	45	723上	0
1044	1736	07.17	元文	1	06.09		九日 浄円院殿の忌辰なれど。雨ふりければ東叡山 御牌所御詣なし。		有徳院殿御実紀43	45	725下	0
1045	1737	02.07	元文	2	01.08		(和暦1月8日)よべ雪ふりしかば。三家より使さげ御けしき伺はる。		有徳院殿御実紀45	45	743上	0
1046	1737	07.06	元文	2	06.09		九日浄円院殿忌辰なり。雨により寛永寺に詣たまはず。		有徳院殿御実紀45	45	759上	0
1047	1737	08.10	元文	2	07.14		十四日雨ふりしをもて。紅葉山に詣たまはず。		有徳院殿御実紀46	45	764上	0
1048	1737	12.24	元文	2	閏11.03		三日は梅雨期ふりしかば。三家より物ささげ。御気色うかがはる。		有徳院殿御実紀46	45	779上	0
1049	1738	06.07	元文	3	04.20		二十日雨により東叡山の御詣なし。		有徳院殿御実紀47	45	794下	0
1050	1739	01.06	元文	3	11.27	低温1A	二十七日寒気を候して。三家よりもの奉らる。		有徳院殿御実紀48	45	811上	0
1051	1739	02.09	元文	4	01.02		この日雪ふりければ。尾水兩邸より御気色うかがひもの奉らる。		有徳院殿御実紀49	45	817上	0
1052	1739	02.22	元文	4	01.15		(和暦1月15日)(前略)当座の祿をたまふ。例は十一日に行はるれど。雪によてけふにおよびしなり。		有徳院殿御実紀49	45	818上	0
1053	1739	05.27	元文	4	04.20		二十日雨ふりければ東叡山御詣なし。		有徳院殿御実紀49	45	824下	0
1054	1740	01.02	元文	4	12.04		四日初雪ふりければ。(後略)		有徳院殿御実紀50	45	838下	0
1055	1740	02.14	元文	5	01.17		けふ雪ふりければ。紀水兩邸より使もてもの奉り。御けしきうかどはる。		有徳院殿御実紀51	45	842下	0
1056	1740	08.24	元文	5	閏07.03	大雨1A・ 洪水1A・ 暴風1A	(閏7月29日)この三日大坂風雨甚しく洪水あり。また十六日には京風雨して水害をかゝる。その他同じく災にかゝる地多しといふ。		有徳院殿御実紀52	45	855下	1

徳川実紀

1057	1740	09.06	元文	5	閏07.16	大雨1A・洪水1A・暴風1A	(閏7月29日)この三日大坂風雨甚しく洪水あり。また十六日には京風雨して水害をかうぶる。その他同じく災にかゝる地多しといふ。		有徳院殿御実紀52	45	855下	1
1058	1740	12.02	元文	5	10.14		十四日雨ふりければ。増上寺御詣なし。		有徳院殿御実紀52	45	860上	0
1059	1741	02.04	元文	5	12.19		十九日前夜雪ふりければ。三家使しても奉り。御気色うかゞはる。		有徳院殿御実紀52	45	863下	0
1060	1741	03.01	寛保	1	01.14		けふ雪ふりければ。三家物献り御けしき伺はる。		有徳院殿御実紀53	46	2上	0
1061	1741	03.08	寛保	1	01.21		(前略)御宮に詣給ふべきを。雨によりてそのことなし。		有徳院殿御実紀53	46	2上	0
1062	1742	08.30	寛保	2	08.01	大雨1A・洪水1A	此日雨降しきりて。処々の川水溢。其害かうぶる地多し。		有徳院殿御実紀56	46	44下	0
1063	1742	09.06	寛保	2	08.08	洪水3	けふ令せられしは。こたび洪水にて新大橋破壊せしにより。まづ仮に補ひて。深川。本所の人々。水害を避るたよりを得せしめしに。(後略)	以後、賑給記事多し。	有徳院殿御実紀56	46	45上	0
1064	1742	09.06	寛保	2	08.08	大雨1A・洪水1A・暴風1A	此日また疾風暴雨ありて。浅草。下谷の地。平地水のたかさ一丈にあまり。官船数多出して溺民をすくはる。また巻頭の国々あまた所出水し。浅間山崩れ。松代。小諸。忍。河越。関宿の城みな大破しぬ。		有徳院殿御実紀56	46	45上	0
1065	1742	08.30-09.28	寛保	2	08	洪水3	又勘定奉行に令せらるゝは。本所筋水害のきこえあり。先年猿ヶ股の堤防崩れ。水溢れし時。鶴飛驒に助船出さしめ。老幼。病者など救はしめられしなれば。こたびもすみやかに船出さしむべしとなり。		有徳院殿御実紀56	46	46下	0
1066	1742	08.30	寛保	2	08.01	大雨1A・暴風1A	また此月朔日の夜。暴風雨の折から。品川沖に繋ぎ置し摂州西の宮の市人兩人の船破壊し。酒。醤油。粕。水油。銃。材木。其他の荷物流出せるにより。拾ひあげしものあらば。南北新掘廻船問屋兩人のもとへつかはずべしとなり。		有徳院殿御実紀56	46	47上	0
1067	1742	12.31	寛保	2	12.05		五月初雪降りければ。三家使して物奉らるゝ事例のごとし。		有徳院殿御実紀56	46	54上	0
1068	1743	01.11	寛保	2	12.16	洪水3	(寛保2年12月16日/1743年1月11日)十六日巻頭の国々及び信濃の国にて水害にかゝり税額半を減ぜしは万石以下の輩にも恩貸せらるべしと仰下さる。		有徳院殿御実紀56	46	55上	1
1069	1743	02.01	寛保	3	01.07		(和暦1月8日)昨夜雪ふりしかば。三家もの奉り御けいしきうかゞふ。		有徳院殿御実紀57	46	57上	0
1070	1743	02.21	寛保	3	01.27		廿七日東葛西に御放鷹あり。雨ふりければ糞をめされ。(後略)		有徳院殿御実紀57	46	58下	0
1071	1743	04.30	寛保	3	04.07		七日戸田川の辺に追鳥狩あり。雨ふりければ。御狩場までははいらせ給はずして帰らせたまふ。		有徳院殿御実紀57	46	65上	0
1072	1743	08.20-09.17	寛保	3	07		此月令せらるゝは。城州淀川の辺。年々水損するに由て。山城。摂津。河内の国民等。水害防禦の事を前々よりこひ出れば。それにつき査検の心得を諭せらる。(後略)		有徳院殿御実紀58	46	74下	1
1073	1744	02.23	延享	1	01.10		十日雨により東叡山の御詣なし。		有徳院殿御実紀59	46	85上	0
1074	1744	05.31	延享	1	04.20		廿日雨ふりければ東叡山の御詣なし。		有徳院殿御実紀59	46	90上	0
1075	1744	07.20	延享	1	06.11	高温1A	増上寺より暑気を候しても奉る。		有徳院殿御実紀59	46	92下	0
1076	1744	08.08	延享	1	07.01	高温1A	七月朔日月次なり。暑はげしきをもて。右大将のみ朝儀にのぞみたまふ。		有徳院殿御実紀60	46	95上	0
1077	1745	02.09	延享	2	01.09		雪ふりければ。三家より物奉らる。		有徳院殿御実紀61	46	109上	0
1078	1745	02.10	延享	2	01.10		十日雪により東叡山に御詣なし。		有徳院殿御実紀61	46	109上	0
1079	1745	02.22	延享	2	01.22		(和暦1月22日)(前略)射手十人。祿例の如し。これ雪によてけふに及びしなり。		有徳院殿御実紀61	46	110上	0
1080	1745	03.08	延享	2	02.06	洪水3	(延享2年2月6日/1745年3月8日)六日関東の国々水害にかゝりし地。修築奉りまかる勘定のともがら暇くださる。		有徳院殿御実紀61	46	110下	0
1081	1745	05.30	延享	2	04.29		廿九日雨ふりければ。三縁山御詣なし。		有徳院殿御実紀61	46	121下	0

徳川実紀

1082	1746	03.11	延享	3	01.20		(和暦1月21日)よべ春雪ふりしかば。三家の方々使してもの奉られ。御けしき伺はる。西城にもおなじ。		惇信院殿御実紀3	46	373上	0
1083	1746	06.18	延享	3	04.30		三十日雨ふりければ増上寺に御詣なし。		惇信院殿御実紀3	46	385上	0
1084	1746	11.26	延享	3	10.14		十四日三縁山 文昭院殿靈廟に。御詣あるべかりしが。雨ふりてその事なし。(後略)		惇信院殿御実紀4	46	404上	0
1085	1746	12.09	延享	3	11.27		はじめて雪降れば。三家物奉られて御けしき伺はる。		惇信院殿御実紀4	46	408上	0
1086	1747	06.07	延享	4	04.30		晦日雨により三縁山に御詣なし。		惇信院殿御実紀5	46	425上	0
1087	1748	01.16	延享	4	12.16		また初雪ふりければ。三家よりものさげらる。		惇信院殿御実紀6	46	443下	0
1088	1748	01.17	延享	4	12.17		十七日雪により紅葉山 御宮に詣たまはず。		惇信院殿御実紀6	46	443下	0
1089	1748	06.03	寛延	1	05.08		八日雨により東叡山に御詣なし。		惇信院殿御実紀7	46	455下	0
1090	1748	07.01	寛延	1	06.06	大雨1A・ 暴風1A	(和暦6月8日)この六日日光山疾風暴雨により。使番大久保喜六郎忠周を山に赴かしめらる。		惇信院殿御実紀7	46	461上	0
1091	1749	03.01	寛延	2	01.13		けふ春雪ふりしかば。三家使進らせて物奉らる。		惇信院殿御実紀9	46	481上	0
1092	1749	07.01	寛延	2	05.17		十七日雨ふりて紅葉山御詣なし。		惇信院殿御実紀9	46	489上	0
1093	1749	09.24	寛延	2	08.13	大雨1A・ 洪水1A・ 暴風1A	十三日大風雨。小日向。小石川。浅草のほとり水あふれ。橋あまた流れおつ。		惇信院殿御実紀10	46	495下	0
1094	1749	09.27	寛延	2	08.16	大雨3・洪 水3・暴風 3	十六日小日向のほとり水あふれ。其害かうぶりし家々。又溺死せしやから。御家人などにもあるならば。其所管より糺察し聞えあくべきよし。少老松平宮内少輔忠恒して令せらる。		惇信院殿御実紀10	46	495下	0
1095	1750	03.01	寛延	3	01.23		廿三日春雪ふりければ。三家使してものさげ御けしき伺はる。		惇信院殿御実紀11	46	508下	0
1096	1750	06.03	寛延	3	04.29		廿九日雨ふりければ三縁山御詣なし。		惇信院殿御実紀11	46	514下	0
1097	1750	05.30- 06.03	寛延	3	04末 (04.25- 04.29)	ひょう1A	(和暦4月)此月の末(失日)夕立はげしく。雹ふる事おびただし。城外の屋舎をはじめ本所の地まで。これがためにうちそこなはるもの多し。秩父。川越あたりは。表をことごとくそこなひしとぞ。	「末」を25日以降とした。	惇信院殿御実紀11	46	514下	0
1098	1750	09.27	寛延	3	08.26	雷1A	(和暦9月3日)三日前月廿六日の夜京二条城天守に雷震せるよし注進あり。		惇信院殿御実紀12	46	521上	1
1099	1750	10.16	寛延	3	09.17		十七日雨ふりければ紅葉山に御詣なし。		惇信院殿御実紀12	46	521下	0
1100	1751	01.25	寛延	3	12.28		けふ雪ふりければ。三家使して物奉り御気色伺はる。		惇信院殿御実紀12	46	528下	0
1101	1751	02.19	宝暦	1	01.24		廿四日より三縁山に御詣なし。		惇信院殿御実紀12	46	530上	0
1102	1751	12.17	宝暦	1	11.10		十日初雪ふりければ。三家使して物さげられ。御けしき伺はる。		惇信院殿御実紀14	46	553下	0
1103	1752	02.22	宝暦	2	01.08		けふ雪ふりしかば例のかたよぐり使たてまつる。		惇信院殿御実紀15	46	559上	0
1104	1752	03.11	宝暦	2	01.26		廿六日 大納言殿この日東叡山 至心院殿盃牌所に詣給ふべかりしが。雨ふりしかば秋元但馬守涼朝代参す。		惇信院殿御実紀15	46	560上	0
1105	1752	06.19	宝暦	2	05.08		八日雨ふりければ東叡山御詣なし。		惇信院殿御実紀15	46	566下	0
1106	1752	10.23	宝暦	2	09.17		十七日雨により紅葉山に詣たまはず。		惇信院殿御実紀16	46	574上	0
1107	1752	12.21	宝暦	2	11.16		十六日初雪ふりしかば。三家使さげらる。		惇信院殿御実紀16	46	577下	0
1108	1753	02.06	宝暦	3	01.04		四日春雪ふりければ。三家使もて御けしき伺はる。		惇信院殿御実紀17	46	583上	0
1109	1753	02.26	宝暦	3	01.24		廿四日雪により三縁山御まうでなし。		惇信院殿御実紀17	46	584上	0
1110	1753	03.04	宝暦	3	01.30		三十日雨により三縁山御詣なし。		惇信院殿御実紀17	46	584上	0
1111	1753	04.01	宝暦	3	02.28		廿八日雨により三縁山御詣なし。		惇信院殿御実紀17	46	586上	0
1112	1753	06.01	宝暦	3	04.30		三十日雨ふりしかば三縁山御詣なし。		惇信院殿御実紀17	46	590下	0
1113	1753	11.08	宝暦	3	10.14		十四日雨ふりしかば。増上寺御詣なし。		惇信院殿御実紀18	46	602下	0
1114	1753	11.18	宝暦	3	10.24		廿四日雨ふり。かつ風の御こちにより東叡山御詣なし。		惇信院殿御実紀18	46	603下	0
1115	1754	02.11	宝暦	4	01.20		廿日雪ふりければ。東叡山に御詣なし。		惇信院殿御実紀19	46	609下	0
1116	1754	02.15	宝暦	4	01.24		廿四日雪により三縁山に御詣なし。		惇信院殿御実紀19	46	609下	0

徳川実紀

1117	1754	06.10	宝暦	4	04.20		廿日雨ふりければ東叡山に御詣なし。		惇信院殿御実紀19	46	615下	0
1118	1754	06.28	宝暦	4	05.08		八日雨をもて東叡山の御詣なし。		惇信院殿御実紀19	46	616上	0
1119	1755	01.29	宝暦	4	12.18		この日初雪ふりければ。(後略)		惇信院殿御実紀20	46	631下	0
1120	1755	03.06	宝暦	5	01.24		廿四日雨ふりて三縁山御詣なし。		惇信院殿御実紀21	46	634上	0
1121	1755	03.10	宝暦	5	01.28		雪ふりしかば例のかたぐりよりさげ物あり。		惇信院殿御実紀21	46	634下	0
1122	1755	10.06-11.03	宝暦	5	09	雷1B	この月下野国足利学校雷火にかゝりて焼失せしにより。(後略)		惇信院殿御実紀22	46	647下	0
1123	1755	11.17	宝暦	5	10.14		十四日雨ふりて三縁山 文昭院殿靈廟に詣たまはず。		惇信院殿御実紀22	46	647下	0
1124	1756	01.02	宝暦	5	12.01		雪ふりければ例のたかぐり使奉らる。		惇信院殿御実紀22	46	650下	0
1125	1756	01.07	宝暦	5	12.06	低温1A	寒気を候して日門薯蕷を献ぜられ。(後略)		惇信院殿御実紀22	46	651上	0
1126	1756	02.23	宝暦	6	01.24		廿四日よべ雪ふりければ。増上寺に詣給はず。		惇信院殿御実紀23	46	654上	0
1127	1756	06.05	宝暦	6	05.08		八日雨ふりて東叡山御詣なし。		惇信院殿御実紀23	46	661上	0
1128	1756	10.10	宝暦	6	09.17		十七日雨ふりてをもて紅葉山に御参なし。		惇信院殿御実紀24	46	669下	0
1129	1756	12.30	宝暦	6	閏11.09		九日初雪ふりしかば。三家より物さげ御気色伺はる。		惇信院殿御実紀24	46	673下	0
1130	1757	02.27	宝暦	7	01.10		十日雪ふりければ寛永寺御詣なし。		惇信院殿御実紀25	46	677上	0
1131	1757	02.28	宝暦	7	01.11		(和暦1月13日)(前略)射手の士十人。祿例のごとし。十一日の雪をもてけふにをよびしなり。		惇信院殿御実紀25	46	677下	0
1132	1757	03.28	宝暦	7	02.09		(和暦2月9日)さきに雪ふりて東叡山歳首の御詣なかりしをもて。けふこゝに詣たまへり。		惇信院殿御実紀25	46	679上	0
1133	1757	06.16	宝暦	7	04.30		三十日雨ふりければ三縁山御詣なし。		惇信院殿御実紀25	46	683上	0
1134	1757	08.03	宝暦	7	06.19	洪水3	使番京極兵部高直。松平藤九郎正淳。勘定吟味役細井九助政昌。青山三右衛門宣長に暇給はり。こたび水害にかゝりし河渠堤防を巡覧せしめらる。		惇信院殿御実紀25	46	686上	0
1135	1757	08.04	宝暦	7	06.20		廿日雨ふりければ東叡山 有徳院殿靈廟に御詣なし。		惇信院殿御実紀25	46	686上	0
1136	1757	08.28	宝暦	7	07.14		十四日雨ふりしかば紅葉山に御詣なし。		惇信院殿御実紀26	46	689下	0
1137	1757	12.05	宝暦	7	10.24		廿四日雨により東叡山 深徳院殿靈牌所御詣なし。		惇信院殿御実紀26	46	695下	0
1138	1757	05.18-08.14	宝暦	7	夏	洪水1C	(和暦10月25日/西暦12月6日)廿五日令せられしは。この夏関東をよびその他国々に。万石以下采邑。水害にかゝりて邑下半を減ぜしは。みな書付ていはずべしとなり。		惇信院殿御実紀26	46	695下	0
1139	1757	05.18-08.14	宝暦	7	夏	洪水1C	(宝暦7年12月21日/1758年1月30日)またこの夏水害にかかりて。所領凶荒せし万石以上に金をかしたまはる。真田伊豆守幸弘には一万両。牧野駿河守忠寛には七千両。久世出雲守広明には五千両。松平中務大輔義敏。松平山城守信将。増山対馬守正賢には各三千両。米津越中守政宗には二千両なり。また万石以下同じ災に逢て邑入半を減ぜしは。恩貸の金あるべきよし仰出さる。		惇信院殿御実紀26	46	695下	1
1140	1757	05.18-08.14	宝暦	7	夏	洪水1C	(宝暦7年12月22日/1758年1月31日)けふ令せられしは。さきに国用不止縮して。三年の間は専ら省減にしたがふべき旨令せられしにより。諸局ともそのしるしもありしに。この夏国々の水害にて。河堤の修費少からず。よて農民を賑救せられ。また其地しる輩にも若干の金かし給はり。国費少なからざるをもて。なを諸局考へはかり。専ら支用をはぶくべしとなり。		惇信院殿御実紀26	46	695下	0
1141	1758	02.17	宝暦	8	01.10		十日雨ふりければ東叡山御詣なし。		惇信院殿御実紀27	46	701上	0
1142	1758	05.23	宝暦	8	04.17	長雨1A	十七日淫雨により紅葉山に詣たまはず。		惇信院殿御実紀27	46	707上	0
1143	1758	05.26	宝暦	8	04.20	長雨1A	廿日淫雨により東叡山に詣給はず。		惇信院殿御実紀27	46	707上	0

徳川実紀

1144	1758	08.04-09.01	宝暦	8	07		(宝暦8年7月/1758年8月4日～9月1日)此月勘定奉行。同じ吟味役に令せられしは。租税の事豊凶に随ひ。年々代官検視前。その属使に疎脱なきように申さとすにより。今年は諸国共に豊稔なるに由て。去し癸酉年より丁丑年の水害にいたるまで減租多ければ。こたび貢税の納方力を用ふべきやう。厳に諭すべしとなり。	癸酉年:宝暦3年。丁丑年:宝暦7年。	惇信院殿御実紀28	46	714下	0
1145	1759	01.11	宝暦	8	12.13		雪ふりしかば三家使してものまいらせられ。(後略)		惇信院殿御実紀28	46	722上	0
1146	1759	02.21	宝暦	9	01.24		廿四日雨ふりければ三縁山御詣なし。		惇信院殿御実紀29	46	728上	0
1147	1759	07.14	宝暦	9	06.20		廿日雨降ければ紅葉山に御詣なし。		惇信院殿御実紀29	46	736上	0
1148	1760	03.21	宝暦	10	02.05	強風1A	夜戌の刻ごろに神田の辺より火をこりしが。折ふし戌亥の風つよく。(後略)		惇信院殿御実紀31	46	754下	0
1149	1761	01.08	宝暦	10	12.03		(和暦12月4日)昨夜初雪ふりしによりて。三家進らせ物ありて御気色伺はる。		浚明院殿御実紀2	47	29上	0
1150	1761	01.22	宝暦	10	12.17		十七日雨ふりければ。紅葉山に松平右近将監武元代参す。		浚明院殿御実紀2	47	29下	0
1151	1761	01.25	宝暦	10	12.20		雪ふりしにより三家献りものせらる。		浚明院殿御実紀2	47	29下	0
1152	1761	03.19	宝暦	11	02.13		十三日雪ふりしによりて。三家進らせものあり。		浚明院殿御実紀3	47	37上	0
1153	1761	04.01	宝暦	11	02.26		廿六日東叡山 至心院殿霊牌所へ。秋元但馬守涼朝代参す。是雨によりて御詣なければなり。		浚明院殿御実紀3	47	39下	0
1154	1761	10.09	宝暦	11	09.12	長雨1A	(和暦9月23日)(前略)大岡主水正忠近御沓の役す。これは去十二日霖雨なしにより。代参使のみ向はしめられしとて。けふ御詣あるなり。		浚明院殿御実紀4	47	61下	0
1155	1761	12.18	宝暦	11	11.23	強風1A	廿三日下野国大風ふき。日光山堂社破壊有よし聞召。使番浅草織部豊芳をして巡視せしむ。		浚明院殿御実紀4	47	67下	0
1156	1762	02.05	宝暦	12	01.12		今朝雪ふりしかば。三家使もて品々進らせ。御気色伺はる。		浚明院殿御実紀5	47	73下	0
1157	1762	03.11	宝暦	12	02.16	強風1A・ 大火	けふ午の時より南風はげしく吹立しに。芝浦のほとりより火おこり。(後略)		浚明院殿御実紀5	47	75上	0
1158	1762	03.17	宝暦	12	02.22	強風1A・ 大火	この薄暮に田安邸より火おこりに。おりしも南風つよく吹立。(後略)		浚明院殿御実紀5	47	75下	0
1159	1761	11.26-12.25	宝暦	11	11	強風1B	(宝暦12年6月1日)又松平越中守定賢が陸奥白川の居城。去年十一月大風に城壘夥しく破損し。修理とのひがたきよし聞召。金七千両かし給ふ。		浚明院殿御実紀5	47	83上	1
1160	1762	08.09	宝暦	12	06.20	長雨1A	廿日東叡山 有徳院殿霊廟に。御詣あるべかりしかど。淫雨により。松平右京大夫輝高代参す。		浚明院殿御実紀5	47	85上	0
1161	1763	01.10	宝暦	12	11.27		初雪降しかば三家酒肴進らせて御気色を伺ふ。		浚明院殿御実紀6	47	101下	0
1162	1763	02.16	宝暦	13	01.04		四日春雪降しかば。三家使もて御気色を候せらる。		浚明院殿御実紀7	47	107上	0
1163	1763	04.07	宝暦	13	02.24	長雨1A	廿四日御法会はてしかば。三縁山御詣あるべかりしが。淫雨によりて秋元但馬守涼朝代参す。		浚明院殿御実紀7	47	110上	0
1164	1763	06.27	宝暦	13	05.17	長雨1A	十七日紅葉山に松平右京大夫輝高代参す。此日霖雨により御詣なければなり。		浚明院殿御実紀7	47	118上	0
1165	1764	01.25	宝暦	13	12.23		けふ初雪降しかば。三家進らせ物あり。御気色伺はる事例の如し。		浚明院殿御実紀8	47	139下	0
1166	1764	02.14	明和	1	01.13		十三日雪ふりしかば。(後略)		浚明院殿御実紀9	47	141下	0
1167	1764	03.22	明和	1	02.20		けふ申刻すぐるところ神田新白銀町より火をこり。折しも西北の風吹て。(後略)		浚明院殿御実紀9	47	144下	0
1168	1764	06.16	明和	1	05.17		十七日雨ふりければ紅葉山に御詣なし。		浚明院殿御実紀9	47	154下	0
1169	1764	10.12	明和	1	09.17		十七日雨ふりて紅葉山の御詣なければ。松平周防守康福代参す。		浚明院殿御実紀10	47	163上	0
1170	1765	01.07	明和	1	12.16		この日初雪ふりければ。三家より使進らせて御けしき伺ふ。日門も同じ。		浚明院殿御実紀10	47	173下	0
1171	1765	03.04	明和	2	01.13		十三日雪ふりしかば。(後略)		浚明院殿御実紀11	47	177下	0
1172	1765	03.15	明和	2	01.24		廿四日雨ふりければ。三縁山に詣たまはず。		浚明院殿御実紀11	47	178上	0

徳川実紀

1173	1765	06.25	明和	2	05.08		八日雨ふりければ。(後略)		浚明院殿御実紀11	47	188上	0
1174	1765	12.12	明和	2	10.30		晦日きのふ初雪ふりこしより。三家より使も御けしきうかゞはれ。さゞげもの例の如し。		浚明院殿御実紀12	47	201上	0
1175	1766	02.18	明和	3	01.10		十日雪ふりければ。(後略)		浚明院殿御実紀13	47	209上	0
1176	1766	07.18	明和	3	06.12		十二日雨により三縁山御詣なし。		浚明院殿御実紀13	47	225上	0
1177	1766	09.02	明和	3	07.28	大雨1A・ 暴風1A	けふことに風雨はげしかりければ。外殿に出たまはず。出仕の輩は。宿老より聞えあぐべしと。松平周防守康福に伝ふ。また西城には。さらに出仕するに及ばずと仰出さる。是も暴雨によりてなり。		浚明院殿御実紀14	47	228下	0
1178	1767	01.25	明和	3	12.25		廿五日初雪ふりければ。尾水両卿より使奉り。御気色伺はる。		浚明院殿御実紀14	47	237下	0
1179	1767	06.04	明和	4	05.08	長雨1A	八日東叡山 嚴有院殿靈廟に。阿部伊予守正右代参す。淫雨によりて御詣なければなり。		浚明院殿御実紀15	47	247下	0
1180	1767	07.07	明和	4	06.12	長雨1A	十二日三縁山 樟信院殿靈廟に。御詣あるべかりしに。淫雨なれば。松平右京大夫輝高衣冠して代参し。(後略)		浚明院殿御実紀15	47	249上	0
1181	1767	11.06	明和	4	閏09.15	洪水3	松平大和守朝矩が上野国麩橋の城。連年利根川の水害を被り。寛延の頃酒井雅楽頭忠恭が此城にありし程。既に櫓取くづし。本丸の住みを三の曲輪に引うつしたれど。其後いよく河道あしくなり。その患絶えず。近き程は住がたきよし。なげき申せしにより。(後略)		浚明院殿御実紀16	47	259下	0
1182	1768	01.19	明和	4	11.30		(和暦12月1日)きのふの夜初雪ふりしかば。(後略)		浚明院殿御実紀16	47	264上	0
1183	1768	01.21	明和	4	12.02	洪水3	又尾張中納言宗睦卿封境水害うちつゞき凶荒により。自らの力にて河渠堤防を修理し。農民を賑給せられん事なりがたしと聞ゆる事切なれば。別義をもて金三万両をかし給ふ。		浚明院殿御実紀16	47	264下	1
1184	1768	03.02	明和	5	01.14		けふ春雪ふりしかば。三家進らせ物あり。御けしきうかゞはること例のごとし。		浚明院殿御実紀17	47	271下	0
1185	1768	06.01	明和	5	04.17		十七日雨ふりしかど。紅葉山の 御宮も御詣あり。		浚明院殿御実紀17	47	277下	0
1186	1768	06.04	明和	5	04.20	長雨1A	けふ 大猷院殿忌辰なりしかど。淫雨によりて御詣なし。		浚明院殿御実紀17	47	278上	0
1187	1768	06.14	明和	5	04.30	長雨1A	三十日三縁山 有章院殿靈廟に。阿部伊予守正右代参す。霖雨によりて御詣なし。		浚明院殿御実紀17	47	279上	0
1188	1768	06.22	明和	5	05.08		八日雨ふりければ。東叡山 嚴有院殿靈廟に御詣なし。		浚明院殿御実紀17	47	279下	0
1189	1768	06.30	明和	5	06.16	雷1A	この夜大雷ありて竹橋門に震し。九十三間の多門やけうせたり。		浚明院殿御実紀17	47	282上	0
1190	1768	10.15	明和	5	09.05	暴風1A	日光奉行浅野美作守氏従さきに日光山の堂社暴風破損せしを修理せしかば。時服三賜ひ賞せらる。		浚明院殿御実紀18	47	287上	0
1191	1768	12.13	明和	5	11.05		五日初雪ふりしかば。(後略)		浚明院殿御実紀18	47	290下	0
1192	1769	01.08	明和	5	12.01		十二月朔日日食なりしかば。拜賀辰の時と定められて群臣出仕す。されど雨ふりて食さだかならず。		浚明院殿御実紀18	47	291下	0
1193	1769	02.16	明和	6	01.10		十日雨ふりければ。東叡山にならせたまはず。		浚明院殿御実紀19	47	297上	0
1194	1769	02.23	明和	6	01.17		十七日紅葉山に御詣あり。雨ふりければ轎にめされ。(後略)		浚明院殿御実紀19	47	297下	0
1195	1769	03.02	明和	6	01.24		廿四日雨雪によりて三縁山に詣給はず。		浚明院殿御実紀19	47	298上	0
1196	1769	06.03	明和	6	04.29		廿九日雨により三縁山御詣なし。		浚明院殿御実紀19	47	305下	0
1197	1769	06.11	明和	6	05.08		八日雨により東叡山御詣なし。		浚明院殿御実紀19	47	305下	0
1198	1770	02.05	明和	7	01.10	大雪1A	大雪によりて東叡山御詣なし。		浚明院殿御実紀21	47	323上	0
1199	1770	02.15	明和	7	01.20	大雨1A	廿日大雨にて東叡山御詣なし。		浚明院殿御実紀21	47	324上	0
1200	1770	04.26- 09.18	明和	7	夏-秋 の初め (07)	干ばつ 1C	今年の夏。孛星中天に出。四辺に暈あし。大き一尺ばかり。夏より秋のはじめまで亢旱し。都鄙水涸れて。四民艱困せり。	秋の初めを 和暦7月とし た。	浚明院殿御実紀21	47	335下	0
1201	1771	01.04	明和	7	11.19		(和暦11月20日)昨夜初雪ふりしかば。出仕して御気色うかゞふ。		浚明院殿御実紀22	47	345下	0
1202	1771	03.10	明和	8	01.24		廿四日雨ふりければ三縁山に御詣なし。		浚明院殿御実紀23	47	350上	0

徳川実紀

1203	1771	08.24	明和	8	07.14		十四日雨ふりければ。紅葉山の御参なし。		浚明院殿御実紀24	47	364上	0
1204	1772	01.22	明和	8	12.18		けふ初雪ふりしかば。三家使してさげものあり。		浚明院殿御実紀24	47	376上	0
1205	1772	03.08	安永	1	02.05		五日春雪ふりければ。三家物進らせて。御けしきうかどはる。		浚明院殿御実紀25	47	380下	0
1206	1772	04.01	安永	1	02.29	強風1A・大火	此日未刻すぐるほど。城西目黒行人坂大円寺といへる寺より失火し。折ふし南風つよく吹おこり。(後略)		浚明院殿御実紀25	47	381下	0
1207	1772	05.31	安永	1	04.29		廿九日紅葉山 有章院殿霊廟に。詣させ給ふべしと仰出されしが。雨によりて三縁山 霊廟に。松平周防守康福代参す。		浚明院殿御実紀25	47	387上	0
1208	1772	06.08	安永	1	05.08	長雨1A	八日淫雨によりて東叡山御詣なし。		浚明院殿御実紀25	47	387下	0
1209	1772	07.21	安永	1	06.21		(安永元年6月21日/1772年7月21日)又こたびの火災にて。城門多く焼失しかば。例かかる造作の時には。万石以上の人して経費を助しめらる事なれど。近年は打つとき早し。こたびの火災に焼し人人少からず。(後略)		浚明院殿御実紀25	47	389下	0
1210	1772	08.30	安永	1	08.02	暴風1A	酉の刻辰巳の方より風つよくふきいで。戌刻にいたりてはいよくはげしく。雨さへそひて。大木をぬくばかりなり。この春の災後。家々の邸宅やうやう営作とのひしに。屋舎。塀垣など。のこりもなく吹潰し。此夜永代の橋もかたぶき。深川地には潮をしのぼり。近年にはいと稀なる事とぞ聞えし。		浚明院殿御実紀26	47	393上	0
1211	1772	09.14	安永	1	08.17	暴風1A	この日また北風つよく吹て。さきにまぬがれし家宅を吹潰す事数かぎりなし。		浚明院殿御実紀26	47	394上	0
1212	1772	10.06	安永	1	09.10	大雨3・暴風3	京町奉行大田播磨守正房さきに随自意院宮を護送のときに。遠江国奥川にて風雨はげしかりし折から。よく指揮せし事を勞せられて。時服四を給ふ。		浚明院殿御実紀26	47	395下	0
1213	1772	12.18	安永	1	11.24		廿四日初雪ふりしかば。(後略)		浚明院殿御実紀26	47	400上	0
1214	1773	02.15	安永	2	01.24		廿四日雨ふりければ。三縁山に詣給はず。		浚明院殿御実紀27	47	406上	0
1215	1773	04.11	安永	2	03.20		廿日紅葉山に詣たまふ。(中略)これはさきに。三縁山歳首の御詣雨ふりて果し給はざるほどに。乗台院御方の御喪に籠りたまひしにより。けふこゝに御詣ありしとぞ。		浚明院殿御実紀27	47	409下	0
1216	1773	06.19	安永	2	04.30		晦日雨ふりければ。三縁山に御詣なし。		浚明院殿御実紀27	47	413下	0
1217	1773	08.08	安永	2	06.20		廿日雨ふりければ。東叡山に御詣なし。		浚明院殿御実紀27	47	418上	0
1218	1772	07.30-10.25	安永	2	秋	大雨1C・暴風1C・波浪1C	(安永2年8月1日/1773年9月17日)立花左近将監鑑通に金五千両恩貸あり。これは封地ごの秋疾風暴雨ありしに。もとより沿海なれば。狂濤騰溢して城郭破壊しけるが。近年頻に凶荒の後なれば修理すべき力たらずとて。こひしをもてなり。		浚明院殿御実紀28	47	420下	1
1219	1772	07.30-10.25	安永	2	秋	大雨1C・暴風1C	(安永2年8月2日/1773年9月18日)又備中国阿賀郡実村の民伊助。中野村伊右衛門。川上郡吹屋村定次郎。小田郡笠岡町定兵衛等に銀若干を給はる。(中略)去秋風雨の変にも。納租滞る事なかりしを。代官より聞え褒せられしなり。		浚明院殿御実紀28	47	421上	1
1220	1773	07.20-	安永	2	06-	洪水1C	(和暦10月13日)十三日松平下総守忠啓が乞を允して。金五千両を借し下し給ふ。これ所領伊勢国桑名この六月より。しばく洪水し城郭破れ。はた比年損耗せるのみならず。城辺火災もありて艱困せるをもてなり。		浚明院殿御実紀28	47	425上	1
1221	1774	01.23	安永	2	12.12		この日初雪ふりければ。水戸紀伊の兩卿より使して御けしきうかどはれ。さげもの例のごとし。		浚明院殿御実紀28	47	428下	0
1222	1774	02.15	安永	3	01.05		五日春雪ふりしかば。三家使参らせ御氣色を伺ふ。		浚明院殿御実紀29	47	433上	0

徳川実紀

1223	1774	02.20	安永	3	01.10		十日雨ふりければ。東叡山 常憲院殿に。田沼主殿頭意次代参す。		浚明院殿御実紀29	47	433上	0
1224	1774	02.21	安永	3	01.11	長雨1A	(和暦1月14日)けふ吹上の御庭にて。弓場始式行はる。射手十人。禄例のごとし。この十一日淫雨によりて。けふにのべられしなり。		浚明院殿御実紀29	47	433下	0
1225	1774	04.06	安永	3	02.26		廿六日雨ふりければ。東叡山 至心院殿靈牌所に御詣なし。		浚明院殿御実紀29	47	436上	0
1226	1774	07.21	安永	3	06.13	大雨1A・暴風1A・波浪1A	けふ京。大坂。堺大風雨して海あれ。舟多く覆溺せしといふ。		浚明院殿御実紀29	47	443上	1
1227	1774	07.28	安永	3	06.20		廿日淫雨により東叡山 有徳院殿靈廟に詣給はず。		浚明院殿御実紀29	47	443上	0
1228	1774	07.09-08.06	安永	3	06	大雨1A・暴風1A	(和暦9月21日)廿一日稲葉兵部正謀が山城国淀の城。六月の大風雨によりて川水あふれ。城墻をはじめ。民家迄破壊せしかば。其乞を允され。金五千兩をかして。修理の費に充らる。	7月21日のイベントに対応?	浚明院殿御実紀30	47	449下	1
1229	1775	01.22	安永	3	12.21		初雪降ければ。(後略)		浚明院殿御実紀30	47	454下	0
1230	1775	02.05	安永	4	01.06		けふ雪ふりしかば。三家使して御けしきうかどはる。		浚明院殿御実紀31	47	457上	0
1231	1775	02.09	安永	4	01.10	大雪1A	十日大雪により東叡山御詣なし。		浚明院殿御実紀31	47	457上	0
1232	1775	05.19	安永	4	04.20		廿日東叡山 大猷院殿。有徳院殿靈廟に。板倉佐渡守勝清代参す。これ淫雨により御詣なければなり。		浚明院殿御実紀31	47	465下	0
1233	1775	06.05	安永	4	05.08		八日東叡山 厳有院殿靈廟に御詣あるべかりしに。雨によりて松平右京大夫輝高代参せしめらる。		浚明院殿御実紀31	47	466下	0
1234	1775	06.21	安永	4	05.24	干ばつ3	(安永4年5月24日/1775年6月21日)けふ令せらるゝは。東海。中山。美濃。佐屋の宿駅近ごろ打つぎ早し。又天行病にて窮追せるよしたへなげくにより。去年より七年の間は。人馬の賞銭を増加へらるゝとなり。		浚明院殿御実紀31	47	468上	0
1235	1776	01.23	安永	4	閏12.03		三日初雪ふりしかば。高家。鷹間詰。奏者番出仕して御けしき伺ふ。		浚明院殿御実紀32	47	483上	0
1236	1776	03.13	安永	5	01.24	長雨1A	廿四日淫雨によりて三縁山御詣なし。		浚明院殿御実紀33	47	488下	0
1237	1776	03.19	安永	5	01.30		三十日雪ふりければ。三縁山に詣たまはず。		浚明院殿御実紀33	47	490上	0
1238	1776	02.19-03.19	安永	5	01		(和暦2月12日)(前略)この正月増上寺に御詣あるべき日。雪ふりければ。けふ 諸廟の詣たまひしなり。		浚明院殿御実紀33	47	491上	0
1239	1776	04.14	安永	5	02.26	長雨1A	廿六日霖雨によりて東叡山に詣たまはず。		浚明院殿御実紀33	47	492上	0
1240	1777	01.21	安永	5	12.12		また初雪ふりしかば三家使して物まいらせ。御けしき伺はるゝ例のごとし。		浚明院殿御実紀35	47	531下	0
1241	1777	02.20	安永	6	01.13		十三日春雪ふりしかば。三家使もて物まいらせ。御けしきうかどはる。		浚明院殿御実紀36	47	535下	0
1242	1777	06.13	安永	6	05.08		八日雨ふりければ。東叡山御詣なし。		浚明院殿御実紀36	47	543上	0
1243	1777	11.13	安永	6	10.14	長雨1A	十四日淫雨により三縁山に御詣でなし。		浚明院殿御実紀37	47	553下	0
1244	1778	01.05	安永	6	12.07		七日尾張中納言宗陸卿の封内患絶ず。窮乏に及べるよし聞え上られしにより。特旨もて金二万両恩賞せらる。		浚明院殿御実紀37	47	558上	0
1245	1778	01.09	安永	6	12.11	強風1A・大火	十一日亥刻に田安の邸火を誤り。折ふし西北の風つよく吹立しにより。		浚明院殿御実紀37	47	558下	0
1246	1778	01.11	安永	6	12.13		初雪ふりしかば三家使して御気色伺はる。		浚明院殿御実紀37	47	558下	0
1247	1777	08.03-10.30	安永	6	秋	暴風1C	(安永7年4月5日/1778年)松平飛騨守忠恕所領肥前国島原比年凶荒するのみならず。去秋烈風にて居城破壊せしをもて請をゆるされ金六千兩借し給ふ。		浚明院殿御実紀38	47	569下	1
1248	1778	07.20	安永	7	06.26	大雨1A・雷1A	この夜摂津国大坂甚雨迅雷して。四天王寺の五重の塔に震すといふ。		浚明院殿御実紀38	47	574下	1
1249	1778	07.25	安永	7	07.02	大雨1A・雷1A	二日京甚雨迅雷して比叡山より泥水騰沸し。崖崩れ屋頽れて死すもの六百余人。		浚明院殿御実紀39	47	577上	1
1250	1778	12.25	安永	7	11.07		七日初雪ふりしかば。(後略)		浚明院殿御実紀39	47	585上	0
1251	1779	03.11	安永	8	01.24	長雨1A	廿四日淫雨なれば三縁山御詣なし。		浚明院殿御実紀40	47	592上	0

徳川実紀

1252	1779	06.21	安永	8	05.08		八日雨ふりければ。東叡山御詣なし。		浚明院殿御実紀40	47	603下	0
1253	1779	10.04	安永	8	08.25	大雨1A・洪水1A・暴風1A	廿五日此夜疾風甚雨。目白関口の水道溢れて。その雪小日向。小石川におよぶ。本所もまた出水せり。		浚明院殿御実紀41	47	609下	0
1254	1779	-	安永	8	09.23	洪水1C	(和暦9月23日/西暦11月1日)廿三日京所司代久世出雲守広明重職にありて。その労費少からざるに。所領の地荐りに凶荒し。ことしも水災にかゝりしきこえあれば。(後略)		浚明院殿御実紀41	47	613上	1
1255	1779	11.21	安永	8	10.14		十四日雨ふりければ。三縁山に御詣なし。		浚明院殿御実紀41	47	614上	0
1256	1779	12.12	安永	8	11.05		五日初雪ふりしかば。(後略)		浚明院殿御実紀41	47	615上	0
1257	1780	02.08	安永	9	01.04		四日雪ふりしかば。三家使進らせて御気色伺はる。		浚明院殿御実紀42	47	621上	0
1258	1780	04.23	安永	9	03.19	洪水3	(安永9年3月19日/1780年4月23日)信濃国高井郡小見村の農民木島太右衛門は。(中略)千曲川の水患たびくなりしに。その度ごとに。米粟あまた出して。貧民の亡散せざるはからひなどを旌せられて銀たまはり。その身一代刀帯ることをゆるされ。苗字はながく名乗るべしと命ぜらる。		浚明院殿御実紀42	47	625下	1
1259	1780	07.16-07.31	安永	9	06.15-06.30	長雨1A・洪水1A	此月なかばより雨ふりつゞきて。武蔵。上総。下総。上野。下野。常陸の国々に水あふれ。漂溺の民屋あまた有しによりて。関東郡代伊奈半左衛門忠尊に仰せて。窮民を賑救せらるといふ。		浚明院殿御実紀42	47	631下	0
1260	1780	1208	安永	9	11.13		十三日内藤丹波守学文が所領三河の国學母の城しばく水害あるにより。同国樹木台に。城及び家人の宅地うつさんこと願聞えしをゆるされ。金二千両恩貸し給ひ。その経費に充しめらる。		浚明院殿御実紀43	47	644下	0
1261	1781	01.27	天明	1	01.04	低温1A	この日寒気甚しく。河水氷り。船通じがたきをもて。役夫あまたしてこれを打くたかしめ。船を通しけるとなり。		浚明院殿御実紀44	47	651上	0
1262	1781	02.08	天明	1	01.16		十六日雪ふりしかば。三家使もてまいらせ物し。御けしき伺はる。		浚明院殿御実紀44	47	652上	0
1263	1782	03.06	天明	2	01.23		廿三日紀伊中納言治貞卿封内連年凶荒し。沿海の地漁政の利少きをもて。金二万両をかし給ふ。これ特旨とぞ聞えし。		浚明院殿御実紀46	47	686上	0
1264	1782	03.08	天明	2	01.25		廿五日雪ふりければ。三家使して進らせものあり。		浚明院殿御実紀46	47	686下	0
1265	1782	04.08	天明	2	02.26	長雨1A	廿六日東叡山 至心院殿靈牌所に御詣あるべかりしかど。淫雨によりて水野出羽守忠友代参す。		浚明院殿御実紀46	47	688上	0
1266	1782	06.18	天明	2	05.08	長雨1A	八日東叡山 巖有院殿靈廟に詣たまふべかりしが。淫雨によりて其事なし。		浚明院殿御実紀46	47	695下	0
1267	1782	02.12-08.08	天明	2	春-夏	長雨1C・洪水1C	さてことし春のほどより夏にいたり淫雨やまず。諸国洪水の患少なからず。そが中にも伊予。土佐の地は。別で風雨はげしく。人畜。田畝。水患にかゝる事多し。海洋は風雨常よりつよく。船破るゝこと。百をもて数へつべし。又関東も日ごとに曇陰して。五月の末より暑氣蒸がごとし。人みなくなるしめりといふ。		浚明院殿御実紀46	47	698下	0
1268	1782	02.12-08.08	天明	2	春-夏	大雨1C・暴風1C・波浪1C	さてことし春のほどより夏にいたり淫雨やまず。諸国洪水の患少なからず。そが中にも伊予。土佐の地は。別で風雨はげしく。人畜。田畝。水患にかゝる事多し。海洋は風雨常よりつよく。船破るゝこと。百をもて数へつべし。又関東も日ごとに曇陰して。五月の末より暑氣蒸がごとし。人みなくなるしめりといふ。		浚明院殿御実紀46	47	698下	1

徳川実紀

1269	1782	07.05-08.08	天明	2	05.25-夏	高温1C	さてことし春のほどより夏にいたり淫雨やまず。諸国洪水の患少なからず。そが中にも伊予。土佐の地は。別で風雨はげしく。人畜。田畝。水患にかゝる事多し。海洋は風雨常よりつよく。船破ること。百をもて数へつべし。又関東も日ごとに曇陰して。五月の末より暑気蒸がごとし。人みなくるしめりといふ。	「末」を25日以降とした。	浚明院殿御実紀46	47	698下	1
1270	1782	10.15	天明	2	09.09	大雨1A・洪水1A・暴風1A	こほのほど暴風雨あり。大川の水溢る。よりて新大橋。永代橋の往来を停禁せらる。		浚明院殿御実紀47	47	703上	0
1271	1783	01.05	天明	2	12.03		けふ初雪ふりしかば。(後略)		浚明院殿御実紀47	47	708下	0
1272	1783	02.09	天明	3	01.08		けふ春雪ふりしかば。三家より使進らせて御気色うかゞはる。		浚明院殿御実紀48	47	713上	0
1273	1783	02.11	天明	3	01.10		十日雪ふりしかば東叡山御詣なし。		浚明院殿御実紀48	47	713上	0
1274	1783	02.12	天明	3	01.11		(和暦1月13日)十三日吹上の御庭にて弓場はじめあり。射手十人。禄給ふ事例のごとし。例年十一日なれど。雪によりて延びしなり。		浚明院殿御実紀48	47	713下	0
1275	1782	08.09-11.04	天明	2	秋	大雨1C・暴風1C	(天明3年2月12日/1783年)この日中川修理大夫久貞が領地豊後国岡去秋風雨つよく。城櫓やぶれ。民屋ふき倒され。田畝耗損せしをもて。乞まゝに金三千両かし給はる。		浚明院殿御実紀48	47	715上	1
1276	1783	08.03	天明	3	07.06		この夜更たけて。西北の方鳴動すること雷のごとし。		浚明院殿御実紀49	47	725下	0
1277	1783	08.04	天明	3	07.07		此日天色ほのぐらくして。風吹き。砂を降すこと甚し。午の刻すぐるころ風漸々静まり。砂降ることも少しくやみぬ。黄昏よりまた震動し。よもすがらやまず。		浚明院殿御実紀49	47	725下	0
1278	1783	08.05	天明	3	07.08		この日鳴動ますます甚しく。砂礫を降らす。大き粟のごとし。これな信濃国浅間山このほどもえ上がりて。砂礫を飛すこと夥しきをもて。かく府内まで及びしとぞ聞えし。(後略)		浚明院殿御実紀49	47	725下	0
1279	1783	09.21	天明	3	08.25		廿五日勘定吟味役根岸九郎左衛門鎮衛信濃国浅間山焼しにより。砂に埋し田畑。ふたゝび墾開のこと。彼の地に行てはからふべしと命ぜられいとま給ふ。	以降、浅間山開連の賑給記事多し。	浚明院殿御実紀49	47	727下	0
1280	1784	01.11	天明	3	12.19		けふ雪降しをもて。(後略)		浚明院殿御実紀49	47	736下	0
1281	1784	03.22	天明	4	02.02		二日公卿饗宴の猿楽あるべきなれども。雪ふりしかばやみぬ。(後略)		浚明院殿御実紀50	47	742下	0
1282	1784	08.16	天明	4	07.01		七月朔日辰二刻日食をもて。巳刻朝参せり。この日曇天によりてそのさまさだかならず。		浚明院殿御実紀51	47	753上	0
1283	1785	02.05	天明	4	12.26	強風1A・大火	此夜亥の刻ばかり。鍛冶橋の内西尾隠岐守忠移が邸火を失す。折しも西北風はげしく。(後略)		浚明院殿御実紀51	47	764上	0
1284	1784	05.19-11.12	天明	4	夏-秋		此年の夏秋国々凶荒して米価騰貴し。諸民飢餓にせまるものおほし。その中にも。奥羽の地はことに甚しく。草根木皮はさらなり。あらぬものまでとりくらひしが。秋の半より疫癘大に行はれ。又其患にかゝりて死せしもの少からずといへり。		浚明院殿御実紀51	47	764下	0
1285	1785	02.12	天明	5	01.04		(和暦1月5日)五日きのふ雪ふりければ。(後略)		浚明院殿御実紀52	47	765上	0
1286	1785	04.05	天明	5	02.26		廿六日東叡山 至心殿院霊牌所に。御詣あるべかりしに。雨降りて詣給はず。		浚明院殿御実紀52	47	769下	0
1287	1785	05.25	天明	5	04.17	長雨1A	十七日霪雨により紅葉山御参なし。		浚明院殿御実紀52	47	773上	0
1288	1785	10.03	天明	5	09.01	暴風3	西城徒頭山口勘兵衛直良新番頭となる。また松平薩摩守重豪に米一万石。金一万両をかけたまはる。これは琉球国近年凶荒し。あまさへ大風吹て穀禾さらにみのらず。賤人あまたあるによりて賑救とゞのひがたきをもて乞奉るいよりてなり。		浚明院殿御実紀53	47	781上	1
1289	1785	12.30	天明	5	11.29		初雪ふりければ三家使してもの奉られ。(後略)		浚明院殿御実紀53	47	786上	0
1290	1786	02.05	天明	6	01.07	大雪1A	けさ大雪ふりければ。三家使もてもの奉り御けしき伺はる。		浚明院殿御実紀54	47	791上	0

徳川実紀

1291	1786	02.15-03.05	天明	6	01.17-02.06	干ばつ1B・強風1B	(和暦2月6日)未牌より白山権現祠の辺出火して。夜にいり水道橋までやけて火やみぬ。去月十六日にいさゝか雪ふりし後はたえて雨なく。日々風烈しく火災のみしげきをもて。これいかなるゆへにやと人々うれひなげき。貴賤たゞ雲霓をのぞむの外他なし。国々も雨ふらず。		浚明院殿御実紀54	47	794上	0
1292	1786	04.03-04.04	天明	6	03.05-03.06	大雪1A	(和暦3月6日)昨夜より今朝にいたり大雪尺に盈たり。		浚明院殿御実紀54	47	796下	0
1293	1786	01.30-04.27	天明	6	春	干ばつ1C・強風1C・大火	(和暦7月17日/和暦8月10日)ことしの春は日ごとに風烈しく。火災しげきこと常にこえしかば。四民たゞ雨をのいのぞみしが。	「雨をのいのぞみしが」から干ばつと解釈した。	浚明院殿御実紀55	47	805下	0
1294	1786	04.28-07.24	天明	6	夏	長雨1C・強風1C・低温1C	(和暦7月17日/和暦8月10日)ことしの春は日ごとに風烈しく。火災しげきこと常にこえしかば。四民たゞ雨をのいのぞみしが。夏のほどより連日雨ふり風つよく不時の冷氣にて。時の衣をきるものなし。のちには雨をやみなく神なりはためき。おどろおどろぐしかりしかば。又いかなることやいで来らんと。人ごとに安きこゝろもなかりしに。		浚明院殿御実紀55	47	805下	0
1295	1786	08.05-08.10	天明	6	07.12-07.17	大雨1A・洪水1A・暴風1A	(和暦7月17日/和暦8月10日)ことしの春は日ごとに風烈しく。火災しげきこと常にこえしかば。四民たゞ雨をのいのぞみしが。夏のほどより連日雨ふり風つよく不時の冷氣にて。時の衣をきるものなし。のちには雨をやみなく神なりはためき。おどろおどろぐしかりしかば。又いかなることやいで来らんと。人ごとに安きこゝろもなかりしに。この月十二日より。わけて雨風はげしく。昨日の夕よりにはかに川々の水みなぎり来りて。両国。永代をはじめ橋梁ををしながし。(中略)これまでは寛保二年をもて大水と称せしが。こたびはなほそれにも十倍せりといへり。ことし春のほどより。空中にあやしき物音することありしかば。天にて楽を奏すなりと人々いひあへり。また古にいはゆる鼓妖といふものなるべしとて。をそれしものもありけるが。かゝる希有の災害ある先徴にやありけんと申ける。		浚明院殿御実紀55	47	805下	0
1296	1786	08.16	天明	6	07.23		廿三日水害漸くしづまりしかば。両国橋のほとり船にて往来を通ぜしむ。されど馬。車は猶禁ぜらる。		浚明院殿御実紀55	47	806下	0
1297	1786	08.25	天明	6	08.02		二日こたび水災にかゝり屋舎破壊せし御家人。各其禄秩の差次をもて修葺の費をかしたまはる。(後略)		浚明院殿御実紀55	47	807上	0
1298	1786	08.27	天明	6	08.04	洪水3	けふ令せらるゝは。こたび関東洪水にて糧食乏しければ。水殃にかゝらざる国々より米麦はさらにもいはず。すべて糧となるべきものは運送すべし。かゝるときにのぞみて価をむさぼるべからず。其品にかなふ価もてうりひさぐべき旨商人共に諭すべしとなり。		浚明院殿御実紀55	47	807上	0
1299	1786	09.21	天明	6	08.29	洪水3	廿九日こたび水害にかゝりし国々。河渠。堤防修治せしめらるゝの令下る。		浚明院殿御実紀55	47	809下	0

15. 続徳川実紀

(1) ページは下記による。

No. 1～192 : 黒板勝美・国史大系編修会編 1933『続徳川実紀 第一篇』新訂増補
/国史大系第48巻 国史大系刊行会・吉川弘文館・日用書房

No. 193～262 : 黒板勝美・国史大系編修会編 1934『続徳川実紀 第二篇』新訂増
補/国史大系第49巻 国史大系刊行会・吉川弘文館・日用書房

No. 263～285 : 黒板勝美・国史大系編修会編 1935『続徳川実紀 第三篇』新訂増
補/国史大系第50巻 国史大系刊行会・吉川弘文館・日用書房

No. 286～299 : 黒板勝美・国史大系編修会編 1936『続徳川実紀 第四篇』新訂増
補/国史大系第51巻 国史大系刊行会・吉川弘文館・日用書房

No. 300～301 : 黒板勝美・国史大系編修会編 1936『続徳川実紀 第五篇』新訂増
補/国史大系第52巻 国史大系刊行会・吉川弘文館・日用書房

なお、一覧表の“本”列は国史大系の巻数(48～52)である。

(2) 地域(“L”列)は下記による。

0 : 関東地方

1 : 関東地方以外

続徳川実紀

No.	グレゴリヲ曆		和曆			項目	記載内容	備考	該当箇所			L
	年	月	年号	年	日				巻	本	頁	
1	1786	12.23	天明	6	11.03	洪水3・暴風3	けふ令せらるゝは。万石以下関東に采地ある人々。出水風損にて半毛以下収納の分に金かし給はるべければ。勘定奉行にとひはかるべし。此旨宿老。少老の邸に至りて謝すべしとなり。	以降、水害関連の賑給記事多し。	文恭院殿御実紀1	48	7上	0
2	1787	01.05	天明	6	11.16		又初雪により日光門主公延法親王使して御けしきうかゞはる。		文恭院殿御実紀1	48	8下	0
3	1787	01.20	天明	6	12.02		二日雪ふるにより高家。詰衆。奏者番まうのぼり御気色伺ふ。		文恭院殿御実紀1	48	9下	0
4	1787	01.27	天明	6	12.09	低温1A	(前略)御継統にて時服給はる僧徒。神主二十六人。けふ寒気を問せられ。三家の方々及び世子并松平加賀守治脩に檜重をくらせらる。		文恭院殿御実紀1	48	10下	0
5	1787	01.28	天明	6	12.10		十日紅葉山 諸廟御詣雪降により延らる。(後略)		文恭院殿御実紀1	48	10下	0
6	1787	02.26	天明	7	01.09		(和暦1月9日)九日昨夜雪ふりしいより。(後略)		文恭院殿御実紀2	48	17下	0
7	1787	03.06	天明	7	01.17	強風1A・大火	けふ午の刻過る頃。青山より火起り西南の風烈しく。権田原。蛟が橋。千太田にまで延焼す。		文恭院殿御実紀2	48	19上	0
8	1787	12.19	天明	7	11.10		けふ初雪降しかば三家より使して御気色うかゞはる。		文恭院殿御実紀3	48	49下	0
9	1787	12.24	天明	7	11.15		又雪降しかば紀邸より使もて御気色を伺はる。		文恭院殿御実紀3	48	50下	0
10	1788	02.11	天明	8	01.05		五日春雪により。三家より使進らせて御けしきを伺はる。		文恭院殿御実紀4	48	57上	0
11	1788	02.15	天明	8	01.09		九日再雪降しかば。(後略)		文恭院殿御実紀4	48	57上	0
12	1788	02.15-02.16	天明	8	01.09-01.10		十日東叡山 諸廟に御詣の御あらましなりしが。よべよりの雨もよひにて延滞せらる。よて阿部伊勢守正倫代参す。		文恭院殿御実紀4	48	57上	0
13	1788	02.16	天明	8	01.10		再雪により餅酒を賜ふ事例に同じ。		文恭院殿御実紀4	48	57上	0
14	1788	06.03	天明	8	04.29		廿九日三縁山 安国殿及 有章院殿 靈廟御詣の事。雨により松平伊豆守信明代参す。		文恭院殿御実紀4	48	66下	0
15	1788	07.23	天明	8	06.20		二十日東叡山 有徳院殿靈廟御詣。雨により松平伊豆守信明代参す。		文恭院殿御実紀4	48	69上	0
16	1789	01.18	天明	8	12.23		三家の方々及び世子より。初雪によりもの献じ御気色伺ふ。		文恭院殿御実紀5	48	83上	0
17	1789	01.31	寛政	1	01.06		此日春雪降しにより。三家并世子の方々より使して御気色伺ふ。		文恭院殿御実紀6	48	85上	0
18	1789	02.27	寛政	1	02.03		けふふたゝび雪降るにて。三家のかたぐ使して物たてまつり。御けしきうかゞはる。		文恭院殿御実紀6	48	87下	0
19	1789	02.25-03.26	寛政	1	02		此月甘露降る。吹上花圃殊に多しといへり。		文恭院殿御実紀6	48	89下	0
20	1789	05.14	寛政	1	04.20		二十日東叡山 有徳院殿靈廟に御詣あるべかりしが。雨により松平伊豆守信明代参す。		文恭院殿御実紀6	48	97下	0
21	1789	04.25-08.20	寛政	1	夏	大雨1C・洪水1C	(和暦11月15日)松平出雲守利久ことし夏中。領分度々大雨にて居城破損し。堤防もまた水難夥しく。かつ春中助役をもつとめぬれば。特旨をもて金五千両恩賞あり。		文恭院殿御実紀7	48	110上	1
22	1790	01.11	寛政	1	11.26		この日初雪降しにより。三家使して御けしきうかゞはしめらる。		文恭院殿御実紀7	48	110下	0
23	1790	02.04	寛政	1	12.21		この日昏より夜に入再甘露ふる。		文恭院殿御実紀7	48	113上	0
24	1790	02.27	寛政	2	01.14		春雪降しかば。三家并世子より使して御けしき伺ふ。		文恭院殿御実紀8	48	115上	0
25	1790	06.02	寛政	2	04.20		二十日東叡山 大猷院殿靈廟。心観院殿靈牌所御詣。雨によりて延らる。		文恭院殿御実紀8	48	122上	0
26	1790	06.20	寛政	2	05.08		八日東叡山 蔵有院殿靈廟御詣。雨ふりければ淹滞せられ。松平伊豆守信明をして代参せしめらる。		文恭院殿御実紀8	48	123上	0
27	1790	09.28	寛政	2	08.20	大雨1A・暴風1A	此日大風雨。天闇夜のごとし。		文恭院殿御実紀9	48	130上	0
28	1790	10.24	寛政	2	09.17		十七日紅葉山 御宮に御詣雨により延らる。		文恭院殿御実紀9	48	132上	0
29	1791	01.06	寛政	2	12.02		この夜甘露降る。		文恭院殿御実紀9	48	139上	0
30	1791	01.07	寛政	2	12.03		又甘露降る事きのふに同じ。		文恭院殿御実紀9	48	139上	0
31	1791	01.15	寛政	2	12.11		日門より使僧をもて。初雪の御起居を伺はせらる。		文恭院殿御実紀9	48	140上	0

続徳川実紀

32	1791	01.16	寛政	2	12.12		初雪降りしかば日門より使僧。三家及び世子より使して御気色伺ふ。	文恭院殿御実紀9	48	140上	0
33	1791	02.18	寛政	3	01.16		けふ春雪降りしかば。三家の方々使して御気色うかゞはる。	文恭院殿御実紀10	48	144上	0
34	1791	02.23	寛政	3	01.21		廿一日又雪ふりしにより。尾紀水の三卿并世子使進らせ。御けしきうかがはる。	文恭院殿御実紀10	48	144下	0
35	1791	03.05-04.02	寛政	3	02	洪水3	是月摂津国西成郡下新庄村の農民太助が継子しも。さきに伊兵衛といふ者を聲にとりて子四人ありしが。伊兵衛子細ありて出ゆきし後。二親も病がちなるを。寛政のはじめ神崎川水まして加島村といふ所の堤をくづし。水溢れて床の上まで湛へしかど。難なく父母を養へり。(後略)	文恭院殿御実紀10	48	147下	1
36	1791	05.19	寛政	3	04.17		十七日紅葉山 御宮参[参詣力]雨にて延らる。	文恭院殿御実紀10	48	151下	0
37	1791	06.16	寛政	3	05.15	ひょう1A	この夜子過る比大雨雹交る。	文恭院殿御実紀10	48	153下	0
38	1791	06.18	寛政	3	05.17		十七日紅葉山 御宮并 諸廟へ詣給ふべかりしかど。雨によって本田弾正大弼忠齋代参す。	文恭院殿御実紀10	48	153下	0
39	1791	09.03	寛政	3	08.06	大雨1A・暴風1A・高潮1A	(和暦8月6日)きのふより雨降出し。けふもやまず。風もまた吹しが。日くれごろより風はげしくありしが。遂に深川。洲崎。永代島の辺ことぐく水災をかぶりぬ。その他近在の湿地すべて皆同じ。小田原駅より江府まで海浜高潮上るとぞ。	文恭院殿御実紀11	48	159上	0
40	1791	09.17	寛政	3	08.20	大雨1A・暴風1A	(和暦8月20日)夕暮より雲出て海鳴揺し。酉過る比より大風雨車軸を流して。明寅の刻に鎮る。	文恭院殿御実紀11	48	161下	0
41	1791	10.01	寛政	3	09.04	大雨1A・暴風1A・高潮1A	此日大嵐。昨夜中より大雨南風烈しく。巳牌高潮深川洲崎へ漲て。哀むべし入船町。久右衛門町台貳町目を唱へし吉祥寺門前に建つらなる町家。住居の人数と共に一時に海へ流れて行方を知らず。弁財天祠損じ。拝殿別当所その外流失。その返し浪に行徳船橋鹽浜一円に潰れ民家流失す。他家屋吹損じ。川々水溢る。午時に至り潮引く。関東筋すべて洪水あふる。(諺にいふ。蟹陸へ多く這上るは津浪の兆なりと。このとき既にしかりといへり。心得べし)。洲崎の地その後高波の変計がたしとて。西は入船町を限。東ははらひ。轟地になし置る。	文恭院殿御実紀11	48	162下	0
42	1791	07.31-10.26	寛政	3	秋	洪水1C・暴風1C	(寛政3年12月24日/1792年1月17日)ことし秋中の大風出水にて。関東及び東海国々川々修浚の事あるに。その事にあづかる人々に儉約を立るよういたすべく令せらる。	文恭院殿御実紀11	48	172下	0
43	1792	01.23	寛政	3	12.30	強風1A・大火	晦日申の牌西北大風。筋違御門より火起り。(後略)	文恭院殿御実紀11	48	173下	0
44	1792	01.29	寛政	4	01.06		春雪ふりしかば。三家のかたぐ使して御けしき伺はる。	文恭院殿御実紀12	48	175上	0
45	1792	02.02	寛政	4	01.10		ふたたび雪ふりしにより。三家使して御気色候せらる。	文恭院殿御実紀12	48	175上	0
46	1792	05.21	寛政	4	04.01		この日肥前国島原の地。酉の刻過る頃海上より津波をし上げ。肥前島原。肥後熊本の地。家屋の流失男女の死亡又甚し。	文恭院殿御実紀12	48	181下	1
47	1793	01.01	寛政	4	11.19		けふ初雪ふりしかば。三家使して御気色うかゞはる。	文恭院殿御実紀13	48	201上	0
48	1793	01.09	寛政	4	11.27		この日再雪ふりしかば。三家のかたぐ使して御気色うかゞはる。	文恭院殿御実紀13	48	202上	0
49	1793	01.15	寛政	4	12.04		四日又雪ふりしかば。三家使して御気色伺はる。	文恭院殿御実紀13	48	202下	0
50	1793	01.24	寛政	4	12.13		又雪ふりしかば。三家のかたぐ使して御気色伺はる。	文恭院殿御実紀13	48	203上	0
51	1793	02.12	寛政	5	01.02		春雪ふりしかば。三家使もて御気色候せらる。	文恭院殿御実紀14	48	207上	0
52	1793	05.08	寛政	5	03.28		廿八日浜の御園に成らせらるべきを。雨によりて延滞せらる。	文恭院殿御実紀14	48	212上	0

続徳川実紀

53	1793	09.14	寛政	5	08.10	洪水3	十日令せらるゝは。近き頃国々出水して。としぐ修理の費用多く。此たび関東川々大水。これまで修整の地も破損し。公私寺社領とも。舊例により修補請ふとても。願いかのふまじく。黙視せしめ破損多き村々。又は采邑のものゝ自力に及ばず。公領にさほりある場所あらば。査検し修理かのふべし。左までもあらぬ損所。又は堤往還。道橋。樋など損じありて修補請ふとも不允ゆへ。願出まじと示さる。		文恭院殿御実紀15	48	223上	0
54	1793	11.28	寛政	5	10.25	強風1A・ 大火	此日申の中牌湯島松平出雲守利謙別墅より出火。折ふし北の風烈しくて。(後略)		文恭院殿御実紀15	48	230上	0
55	1793	06.09- 11.03	寛政	5	05-09	長雨1B・ 洪水1B	此年五月より九月に至り。江戸霖雨。大川洪水すといふ。		文恭院殿御実紀15	48	237上	0
56	1794	02.09	寛政	6	01.10	強風1A・ 大火	この日未の半より糺町五丁目なる秋田屋何某といへる酒店より火起り。折ふし西北の風烈しく。(後略)		文恭院殿御実紀16	48	239下	0
57	1794	05.19	寛政	6	04.20	長雨1A	廿日東叡山靈廟御詣のところが霖雨により。大猷院殿靈廟に戸田采女正教をして代参せしめらる。		文恭院殿御実紀16	48	246上	0
58	1794	11.05	寛政	6	10.13		(和暦10月14日)十四日三縁山 文昭院殿靈廟に御参あるべく処。よべ雨にて淹滞せらるれば。太田微鈕守資愛代参す。		文恭院殿御実紀17	48	261下	0
59	1795	01.14	寛政	6	閏11.24		此日初雪降りしかば。(後略)		文恭院殿御実紀17	48	268上	0
60	1795	01.17	寛政	6	閏11.27		廿七日再雪ふりしかば。三家使して物献じ御けしき伺ふ。		文恭院殿御実紀17	48	268上	0
61	1795	01.25	寛政	6	12.05		けふも雪により三家の方々使して御けしき伺ふ。尾邸よりは志津幾鬘辛一壺をさげらる。		文恭院殿御実紀17	48	268下	0
62	1795	02.23	寛政	7	01.05		五日春雪降りしかば。三家使して御起居を候し奉る。		文恭院殿御実紀18	48	273上	0
63	1795	02.28	寛政	7	01.10	強風1A・ 大火	この日西北風烈しくて。市谷柳町より火起り焼失多し。		文恭院殿御実紀18	48	273上	0
64	1795	03.09	寛政	7	01.19		十九日春雪降るに。三家のかたぐ使して物まいらせ。御けしきうかどはる。		文恭院殿御実紀18	48	273下	0
65	1795	04.12- 04.13	寛政	7	02.23- 02.24		(和暦2月24日)廿四日東叡山 孝恭平院殿靈廟御詣あるべきが。よべより雨ふりしかば松平伊豆守信明代参す。		文恭院殿御実紀18	48	275下	0
66	1795	04.16	寛政	7	02.27		御台所及淑姫のかたは。浜の庭園へ御遊の御あらましなりしが。雨降れば淹滞せらる。		文恭院殿御実紀18	48	276上	0
67	1795	12.21	寛政	7	11.11		十一日初雪ふりしにより。(後略)		文恭院殿御実紀19	48	297下	0
68	1796	02.10	寛政	8	01.02		二日又同じ。けふ春雪降りしかば。三家の方々。水戸少将治紀朝臣使して御けしきうかどはる。		文恭院殿御実紀20	48	305上	0
69	1796	02.19	寛政	8	01.11		再雪ふりしかば。三家の方々使してものたてまつり御けしき伺はる。		文恭院殿御実紀20	48	305上	0
70	1796	03.03	寛政	8	01.24		廿四日三縁山 台徳院殿靈廟に詣給ふべかりしを。雨によりて延滞せらる。		文恭院殿御実紀20	48	306上	0
71	1796	07.19	寛政	8	06.15		十五日山王祭祀雨により延滞せられしにより。代参使立られず。		文恭院殿御実紀20	48	318上	0
72	1796	07.22	寛政	8	06.18		徒頭して神輿を護送す。本日雨によりけふに及びしなり。		文恭院殿御実紀20	48	318下	0
73	1797	01.26	寛政	8	12.29		廿九日初雪により。三家使して物さげ御起居を候し奉る。		文恭院殿御実紀21	48	336下	0
74	1797	02.16	寛政	9	01.20		春雪によりて三家并に水世子より御起居を候し奉る。		文恭院殿御実紀22	48	339下	0
75	1797	02.23	寛政	9	01.27		廿七日又雪ふりしかば。三家使して御けしき伺はる。		文恭院殿御実紀22	48	340下	0
76	1797	06.02	寛政	9	05.08		八日東叡山 蔽有院殿靈廟御詣雨ふりしかば本多弾正大弼忠壽代参す。		文恭院殿御実紀22	48	353下	0
77	1797	06.11	寛政	9	05.17		十七日紅葉山 御宮御詣雨降しかば戸田采女正氏教代参す。		文恭院殿御実紀22	48	354上	0
78	1797	07.29	寛政	9	07.06	雷1A	大雷。所々に震す。		文恭院殿御実紀23	48	357上	0

続徳川実紀

79	1798	01.19	寛政	9	12.03	干ばつ1A	この日令せらるゝは。此ころ雨少く。繁々火災ありしにて。火の元末々までも心入。もしいさゝかにも怪敷者見及ばゞ速に召捕。官長へも申聞ず。直に町奉行の序に引渡すべしとなり。	文恭院殿御実紀23	48	367下	0
80	1798	01.23	寛政	9	12.07		この日初雪ふりしかば。(後略)	文恭院殿御実紀23	48	367下	0
81	1798	02.07	寛政	9	12.22		初雪降りしかば。例のまゝ三家献りものして御起居を候せらる。	文恭院殿御実紀23	48	369下	0
82	1798	02.25	寛政	10	01.10		十日東叡山御詣雨にて延滞せらる。	文恭院殿御実紀24	48	371上	0
83	1798	06.14	寛政	10	05.01	大雨1A・ 暴風1A	(和暦5月4日)去りし朔日の夜雨ふり風つよかりしが。品川の沖にして鯨を所の漁者どもとらへ得たり。(後略)	文恭院殿御実紀24	48	378下	0
84	1798	08.12	寛政	10	07.01	雷1A	此日京師大仏雷震にて焼失す。	文恭院殿御実紀25	48	385上	1
85	1798	08.25	寛政	10	07.14		紅葉山 霊廟御詣雨にてなし。	文恭院殿御実紀25	48	385下	0
86	1798	10.27	寛政	10	09.18		十八日六郷の辺へ御狩の処雨にて延らる。	文恭院殿御実紀25	48	390上	0
87	1798	12.29	寛政	10	11.23		廿三日初雪ふりしかば。(後略)	文恭院殿御実紀25	48	394下	0
88	1799	01.08	寛政	10	12.03		この日再雪ふりしかば。三家のかたぐ使進らす。	文恭院殿御実紀25	48	395下	0
89	1799	02.15	寛政	11	01.11		この日吹上にして御弓場始行はるべかりを雨により淹滞せらる。	文恭院殿御実紀26	48	399上	0
90	1799	02.16	寛政	11	01.12		此日春雪降りしかば。例の如く三家のかたぐ。及び世子とも使進らせらる。	文恭院殿御実紀26	48	399下	0
91	1799	02.27	寛政	11	01.23	強風1A・ 砂じん1A	廿三日風烈しくて砂石を吹あげ。天色常に異なり。日のかけも見えわかぬまでになりしとぞ。	文恭院殿御実紀26	48	400上	0
92	1799	03.06	寛政	11	02.01	あられ1A	この日けさより雪降り出て。ひねもす止す。夜にいりては霰まじりに雨ふり。長閑にぞ思へる。	文恭院殿御実紀26	48	401上	0
93	1799	06.20	寛政	11	05.17		十七日紅葉山 御宮。 霊廟御詣雨により延らる。	文恭院殿御実紀26	48	408下	0
94	1799	08.06	寛政	11	07.06	雷1A	此夜大雷。子の牌より大雷降る。	文恭院殿御実紀27	48	411上	0
95	1799	12.16	寛政	11	11.20	大雨1A・ 雷1A	此夜亥の牌頃より大雨大雷数か所へ震す。	文恭院殿御実紀27	48	419下	0
96	1800	02.04	寛政	12	01.11		此日春雪降りしかば。三家使してものさゞげ。御起居を候し奉る。	文恭院殿御実紀28	48	425下	0
97	1800	08.02	寛政	12	06.12		十二日三縁山 惇信院殿霊廟御詣雨にて延滞せらる。	文恭院殿御実紀28	48	436下	0
98	1801	01.29	寛政	12	12.15		日門使して初雪により御けいき伺ふ。	文恭院殿御実紀29	48	448下	0
99	1801	01.30	寛政	12	12.16		けふ初雪降りしかば。三家の方々。及び水世子使して物献じ御けしき伺ふ。	文恭院殿御実紀29	48	449上	0
100	1801	01.15- 02.12	寛政	12	12	雷1B	此月摂州四天王寺雷火悉く焼失。	文恭院殿御実紀29	48	450下	1
101	1801	02.22	享和	1	01.10		十日東叡山 諸廟御詣雨にて延らる。	文恭院殿御実紀30	48	451上	0
102	1801	03.09	享和	1	01.25		廿五日春雪ふりしかば。三家のかたぐ使して御けしきうかゞはる。	文恭院殿御実紀30	48	452上	0
103	1801	03.14	享和	1	01.30		三十日三縁山御詣雪ふりしかば延滞せらる。(後略)	文恭院殿御実紀30	48	452上	0
104	1802	02.03	享和	2	01.01		この日亥の牌頃麻布永坂辺より火起り西北の風烈しく。(後略)	文恭院殿御実紀32	48	475上	0
105	1802	02.10	享和	2	01.08		けふ春雪降しにより。(後略)	文恭院殿御実紀32	48	475上	0
106	1802	02.28	享和	2	01.26		廿七日よべ再雪ふりしかば。三家のかたぐ使して御けしきうかゞはる。	文恭院殿御実紀32	48	476上	0
107	1802	02.03- 05.01	享和	2	01-03	強風1B・ 大火	(和暦1月)この月より三月に至りしばく風烈しくて日毎に火災多し。	文恭院殿御実紀32	48	476下	0
108	1802	03.28	享和	2	02.25		廿五日又雪ふりしにより。三家のかたぐ使して御けしきうかゞはる。	文恭院殿御実紀32	48	478上	0
109	1802	05.30	享和	2	04.29		廿九日三縁山有章院殿霊廟御詣雨にてなし。	文恭院殿御実紀32	48	482下	0
110	1802	06.16	享和	2	05.17		十七日紅葉山 御宮。 諸廟御詣雨により安藤対馬守信成代参す。	文恭院殿御実紀32	48	483下	0
111	1802	06.21	享和	2	05.22		(和暦5月23日)廿三日紅葉山御宮。 霊廟に御参あるべかりしが。よべの雨にて延滞せらる。	文恭院殿御実紀32	48	484上	0
112	1802	06.30- 07.28	享和	2	06	長雨1B・ 洪水1B	この月江府近郊霖雨。この害に罹り箱根山温泉場流失す。	文恭院殿御実紀32	48	485下	0
113	1802	11.15	享和	2	10.20		二十日初雪ふりしかば。(後略)	文恭院殿御実紀33	48	494下	0
114	1803	01.10	享和	2	12.17		十七日紅葉山 御宮御詣雨により延滞せらる。	文恭院殿御実紀33	48	499上	0

続徳川実紀

115	1803	01.11	享和	2	12.18		けふ雪により。三家及び世子より使して御起居候し奉らる。		文恭院殿御実紀33	48	499上	0
116	1803	02.29	享和	3	01.07		春雪により。三家の方々使して御気色伺はる。後閑へも同じ。		文恭院殿御実紀34	48	501上	0
117	1803	02.21	享和	3	01.30		(晦日)この日再雪降りにしより。三家使出し御起居を伺ふ。		文恭院殿御実紀34	48	502下	0
118	1803	01.23-02.21	享和	3	01	干ばつ1B・強風1B	この月連日雨降らず。風烈しく火災しばくなり。		文恭院殿御実紀34	48	502下	0
119	1804	01.12	享和	3	11.30		けふ初雪のふりしかば。三家のかたぐ。同じ世子より使まいらせ。御けしきうかどふ。		文恭院殿御実紀35	48	523上	0
120	1804	01.28	享和	3	12.16		再雪降りしにより。三家使して御起居を候し奉る。		文恭院殿御実紀35	48	525上	0
121	1804	03.02	文化	1	01.21		廿一日また雪ふりしかば。三家の方々使して物まいらせ御けしきうかどはる。		文恭院殿御実紀36	48	528上	0
122	1804	02.11-04.09	文化	1	01-02	干ばつ1B	(和暦1月)此月より二月に至り。雪ふる事数度に及んで雨降らず。火災繁し。		文恭院殿御実紀36	48	528下	0
123	1804	03.28	文化	1	02.17		この日巳の牌過る頃西南より東北へ白き旗雲たなびく(皆人何たる事をしらず。続王代一覽には正月とす。何れかは是なるや。)		文恭院殿御実紀36	48	529下	0
124	1804	06.15	文化	1	05.08		八日東叡山 嚴有殿院靈廟に御詣雨にて延滞せらる。		文恭院殿御実紀36	48	535下	0
125	1804	07.07	文化	1	06.01	大雨1A・雷1A	この日申の牌頃より天俄に曇り大雨車軸を流し。また霊震大にしてみな人魂を飛ばす。この時音羽町の辺にして七歳の女兒を空中へまきあげ。翌日江戸川より死骸上りしとぞ。		文恭院殿御実紀36	48	536下	0
126	1804	08.19	文化	1	07.14	雷1A	此日大雷。都下卅七ヶ所に雷すといふ。		文恭院殿御実紀37	48	539下	0
127	1804	10.20	文化	1	09.17		十七日紅葉山 御宮詣雨ふりしかば淹滞せらる。		文恭院殿御実紀37	48	543下	0
128	1805	01.26	文化	1	12.26		此日初雪降しかば。(後略)		文恭院殿御実紀37	48	552下	0
129	1805	01.28	文化	1	12.28		再雪ふりしかば。紀尾のかたぐ使まいらせ御けしきうかどはる。		文恭院殿御実紀37	48	553下	0
130	1804	-	文化	1	-		この年諸国豊熟するの聞へあり。	文化2年1月1日~6月23日(1805年1月31日~7月19日)は記載なし。	文恭院殿御実紀37	48	553下	0
131	1806	02.04	文化	2	12.16		此日初雪により三家使して物献り御起居を伺ふ。	文化2年1月1日~6月23日(1805年1月31日~7月19日)は記載なし。	文恭院殿御実紀39	48	569上	0
132	1806	02.09	文化	2	12.21		この日再雪により三家使して物献じ御けしき伺ふ。		文恭院殿御実紀39	48	569下	0
133	1805	06.27-08.23	文化	2	06-07	干ばつ1B	この年六七両月雨一滴も下らず。		文恭院殿御実紀39	48	571下	0
134	1806	05.23	文化	3	04.06		六日中野のほとりへ放鷹として成らせられべく仰出されしが。雨により延らる。		文恭院殿御実紀40	48	575上	0
135	1806	06.24-06.27	文化	3	05.08-05.11	暴風1A	(和暦5月)この月八日頃より十一日まで江戸及び近国大南風あり。		文恭院殿御実紀40	48	578上	0
136	1806	07.27-07.28	文化	3	06.12-06.13	大雨1A	(和暦6月)この月二十三両日江府及び近国大雨。		文恭院殿御実紀40	48	579下	0
137	1806	08.28	文化	3	07.15	高温1A	この日 大納言殿んひあ浜園にならせ給ふ御あらましなりしが。残の暑強かりしをもて。延滞の旨を本城より仰下されしとぞ。		文恭院殿御実紀41	48	581下	0
138	1807	02.06	文化	3	12.29		廿九日雪降りしかば。三家のかたぐ使して御けしきうかどはる。		文恭院殿御実紀41	48	593下	0
139	1808	02.03	文化	5	01.07		けふ春雪ふりしかば。(後略)	卷42(文化4年)(1807年2月7日~1808年1月27日)は欠落。	文恭院殿御実紀43	48	595上	0

統徳川実紀

140	1808	02.05	文化	5	01.09	大雪1A	九日江府及び近国五十年このかたの大雪。二尺あまりしとぞ。諸木の枝折るゝ事若干と聞へし。		文恭院殿御実紀43	48	595上	0
141	1808	02.06	文化	5	01.10		又雪ふりしかば。三家のかたぐ使して御けしきうかゞはる。		文恭院殿御実紀43	48	595下	0
142	1808	06.24-07.22	文化	5	06	大雨1A・洪水1A	〔ト傍注武江年表〕〔六月ト抹〕(和暦6月)この月六月はじめより雨日毎に降り。十六日より十八日に至り。江府及ぶ近国洪水米穀騰貴す。貧民へ御救の米銭を施さる。		文恭院殿御実紀43	48	605下	0
143	1808	08.09-08.11	文化	5	閏06.18-閏06.20	大雨1A・洪水1A	〔ト傍注武江年表〕十八日けふより二十日に至り大雨降出し再洪水せしとぞ。		文恭院殿御実紀43	48	606上	0
144	1808	09.11	文化	5	07.21	大雨1A・雷1A	廿一日黄昏の頃雷少しく発声す。酉牌過より大雨夥し。		文恭院殿御実紀43	48	607上	0
145	1808	09.15	文化	5	07.25	大雨1A・洪水1A・暴風1A	廿五日午牌より申牌まで大風雨。浦賀三浦三崎あたり。房遠駿三国。紀の国若浦等通船漂没し人多亡す。江戸近国洪水の聞へあり。		文恭院殿御実紀43	48	607下	0
146	1809	01.05	文化	5	11.20		(和暦11月20日)よべ初雪のふりしかば。(後略)		文恭院殿御実紀43	48	612下	0
147	1809	01.09-01.25	文化	5	11.24-12上(12.10)		(和暦11月)此月廿四日より十二月月上旬に至り。日出天甚赤く。日の入西天また赤し。		文恭院殿御実紀43	48	614上	0
148	1809	01.20	文化	5	12.05		再雪ふりしかば三家のかたぐ使し。献り物して御けしきうかゞはる。		文恭院殿御実紀43	48	614下	0
149	1809	01.25	文化	5	12.10		また雪ふりしかば。三家のかたぐ使して御けしきうかゞはる。		文恭院殿御実紀43	48	615上	0
150	1809	02.02	文化	5	12.18		雪ふりしかば三家のかたぐ使して御けしきうかゞはる。		文恭院殿御実紀43	48	616下	0
151	1809	02.22	文化	6	01.09		九日春雪ふりしかば。三家のかたぐ使して御けしきうかゞはる。		文恭院殿御実紀44	48	619上	0
152	1809	02.23	文化	6	01.10	強風1A・大火	この日未の中牌頃糶町五丁目秋田屋といへる酒肆より火起り。折節西北風烈しく。(後略)		文恭院殿御実紀44	48	619上	0
153	1809	02.14-03.15	文化	6	01	干ばつ1B	この月雨一滴もなくして日毎に烈風。火災屢屋ありと聞ゆ。		文恭院殿御実紀44	48	620下	0
154	1809	03.23	文化	6	02.08		此日巳刻頃俄に大南風吹起り。土煙空に満て。午刻に至り風止て雨となる。		文恭院殿御実紀44	48	621上	0
155	1809	06.20	文化	6	05.08		八日東叡山 嚴有院殿。浚明院殿靈廟御詣の事雨によてなし。		文恭院殿御実紀44	48	627上	0
156	1809	08.28	文化	6	07.18	大雨1A・雷1A	此日子の牌頃より丑の牌に至る迄江府大雷強雨。本所浅草下谷青山辺震すといへり。		文恭院殿御実紀44	48	631上	0
157	1809	09.02-09.03	文化	6	07.23-07.24	大雨1A・暴風1A	廿三日此夜亥の牌頃より翌日に至るまで。大風雨の家屋を損る事夥し。火の見の半鐘を吹落したるといふ。		文恭院殿御実紀44	48	631下	0
158	1809	09.18	文化	6	08.09	雷1A	この日大雷雨。数ヶ所に落雷あり。		文恭院殿御実紀44	48	632上	0
159	1809	10.02-10.03	文化	6	08.23-08.24	大雨1A・暴風1A・波浪1A	(和暦8月23日)午の刻頃江府大雨。西北の風吹起り。翌廿四日に至り頗る大風となる。神祠。仏閣。武家。市街民屋大に破損して。大樹を吹倒す事若干なり。その他近国も同じさまにして人民死亡数多く。諸州廻船漂没せしとぞ。		文恭院殿御実紀44	48	632下	0
160	1809	12.04	文化	6	10.27		廿七月初雪ふりしかば。(後略)		文恭院殿御実紀44	48	636下	0
161	1809	12.19	文化	6	11.13		また雪ふりしかば。三家のかたぐ使して御けしきうかゞはる。(中略)この日雪積る事尺に充たり。明の月まで解やらず。近国も同じ。		文恭院殿御実紀44	48	637上	0
162	1810	01.18-01.19	文化	6	12.13-12.14	大雪1A	(文化6年12月13日)けふ雪ふりしかば。三家のかたぐ使して御けしきうかゞはる。江戸及び近国大雪。あけの十四日までやみなくふり。積る事尺あるは其余に及びしとぞ。		文恭院殿御実紀44	48	640下	0
163	1810	01.27	文化	6	12.22	大雪1A	江戸近国大雪。		文恭院殿御実紀44	48	643上	0
164	1810	01.28	文化	6	12.23		雪ふりしかば三家のかたぐ使して御けしき同ふ。		文恭院殿御実紀44	48	643上	0
165	1809	12.07-02.03	文化	6	11-12	低温1B	十一十二両月江府并近国大に寒うして。この頃の積雪にて道程の往来たへ。諸人困窮すること夥し。また怪我人あるは死亡に及べり。京辺より西国は殊更暖和なりしとぞ。		文恭院殿御実紀44	48	644上	0

続徳川実紀

166	1809	12.07-02.03	文化	6	11-12	高温1B	十一十二両月江府并近国大に寒うして。この頃の積雪にて道程の往来たへ。諸人困窮すること夥し。また怪我人あるは死亡に及べり。京辺より西国は殊更暖和なりしとぞ。		文恭院殿御実紀44	48	644上	1
167	1809	-	文化	6	-		この年諸国豊作の聞へあり。		文恭院殿御実紀44	48	644下	0
168	1810	02.06	文化	7	01.03		雪ふりしかば三家のかたぐ使して御けしきうかゞふ。		文恭院殿御実紀45	48	645上	0
169	1810	12.20	文化	7	11.24		けふ初雪のふりしかば。(後略)		文恭院殿御実紀45	48	659上	0
170	1811	01.15	文化	7	12.21		東叡三縁両山に寒気を問はせられて。使して樽重をおくらせる。		文恭院殿御実紀45	48	661下	0
171	1811	02.11	文化	8	01.18		十八日雪ふりしかば。三家のかたぐ使して御けしきうかゞはる。		文恭院殿御実紀46	48	663下	0
172	1812	01.09	文化	8	11.25		(和暦11月26日)廿六日よべ初雪のふりしかば。(後略)		文恭院殿御実紀46	48	678下	0
173	1812	02.23	文化	9	01.11		春初雪ふりしかば。三家のかたぐ使して御けしきうかゞはる。		文恭院殿御実紀47	48	683上	0
174	1812	02.26	文化	9	01.14		雪ふりしかば。三家のかたぐ使して御けしきうかゞふ。		文恭院殿御実紀47	48	683下	0
175	1812	04.06	文化	9	02.25		廿五日雪ふりしかば。三家の方々使して御けしきうかゞふ。		文恭院殿御実紀47	48	685上	0
176	1813	01.14	文化	9	12.12		雪ふりしかば。三家のかたぐ使して御けしきうかゞふ。		文恭院殿御実紀47	48	696下	0
177	1813	02.02	文化	10	01.02		二日又同じ。春初雪のふりしかば。三家の方々使して御けしきうかゞはる。		文恭院殿御実紀48	48	699上	0
178	1813	02.13	文化	10	01.13		また雪ふりしかば。おなじく三家のかたぐ使まいらせる。		文恭院殿御実紀48	48	699下	0
179	1814	01.27	文化	10	12.07		雪ふりしかば。三家のかたぐ使して御けしきうかゞふ。		文恭院殿御実紀48	48	717上	0
180	1814	02.05	文化	10	12.16		けふ雪ふりしかば。三家のかたぐ使して御けしきうかゞはる。		文恭院殿御実紀48	48	718上	0
181	1814	03.08	文化	11	01.17		(和暦1月18日)十八日きのふ雪ふりしかば。三家のかたぐ使して御けしきうかゞふ。		文恭院殿御実紀49	48	721下	0
182	1814	12.18	文化	11	11.07		七月初雪により。(後略)		文恭院殿御実紀49	48	736下	0
183	1814	12.23	文化	11	11.12		雪ふりしかば三家のかたぐ使まいらせる。		文恭院殿御実紀49	48	736下	0
184	1815	02.10	文化	12	01.02		雪ふりしかば。三家のかたぐ使して御けしきうかゞふ。		文恭院殿御実紀50	48	743上	0
185	1815	11.30	文化	12	10.30		晦日雪ふりしかば。三家のかたぐ使して御けしきうかゞはる。		文恭院殿御実紀50	48	759下	0
186	1816	02.06	文化	13	01.09		九日春はじめて雪ふりしかば。三家のかたぐ使して御けしきうかゞふ。		文恭院殿御実紀51	48	764上	0
187	1816	09.25	文化	13	閏08.04	大雨1A・洪水1A・暴風1A	此日大風雨。本所。深川の地出水あり。		文恭院殿御実紀51	48	773下	0
188	1816	09.25	文化	13	閏08.04	暴風1A	(閏8月10日)去りし四日の風雨により所々破損も多かりしかば。大工。屋根葺その他の賃金。かつ材木等の価みだり引上まじくと市中へ令せらる。		文恭院殿御実紀51	48	774上	0
189	1817	02.24	文化	14	01.09		九日初雪のふりしかば。(後略)		文恭院殿御実紀52	48	783上	0
190	1817	03.01	文化	14	01.14		十四日雪ふりしかば。三家のかたぐ使して御けしきうかゞふ。		文恭院殿御実紀52	48	783下	0
191	1817	12.27	文化	14	11.20		けふ初雪のふりしかば。(後略)		文恭院殿御実紀52	48	795上	0
192	1818	01.21	文化	14	12.15		けふ雪ふりしかば。紀尾のかたぐ使して御けしきうかゞはる。		文恭院殿御実紀52	48	796上	0
193	1818	02.17	文政	1	01.13		十三日雪ふりしにて。三家のかたぐ使して御けしきうかゞはる。		文恭院殿御実紀53	49	1下	0
194	1818	03.17	文政	1	02.11		十一日雪ふりしかば。三家の方々使して御けしきうかゞはる。		文恭院殿御実紀53	49	2上	0
195	1818	10.16	文政	1	09.17		十七日紅葉山御詣雨によてなし。		文恭院殿御実紀53	49	10上	0
196	1818	12.06	文政	1	11.09		けさ初雪ふりしかば。(後略)		文恭院殿御実紀53	49	12上	0
197	1819	01.08	文政	1	12.13		けふ雪ふりしかば。		文恭院殿御実紀53	49	13上	0
198	1819	02.18	文政	2	01.24		(和暦1月25日)廿五日きのふ雪ふりしかば。三家のかたぐ使して御けしきうかゞはる。		文恭院殿御実紀54	49	17上	0
199	1820	09.26	文政	3	08.20		二十日東叡山 心観院殿霊牌所御詣雨によてなし。		文恭院殿御実紀55	49	44上	0
200	1820	10.14	文政	3	09.08		八日東叡山 湊明院殿霊廟御詣雨によりなし。		文恭院殿御実紀55	49	44下	0
201	1820	10.23	文政	3	09.17		十七日紅葉山 御宮。諸廟御詣雨によてなし。		文恭院殿御実紀55	49	45上	0

続徳川実紀

202	1820	12.21	文政	3	11.16		けふ雪ふりしかば三家の方々使して御けしきうかゞふ。		文恭院殿御実紀55	49	47下	0
203	1821	01.02	文政	3	11.28		廿八日けふまた雪ふりしかば。三家のかたぐ使しておのく一種まいらせらる。		文恭院殿御実紀55	49	48上	0
204	1821	03.10	文政	4	02.07		七日雪ふりしかば。(後略)		文恭院殿御実紀56	49	54上	0
205	1822	01.23	文政	5	01.01		雪ふりしかば。三家のかたぐ使して御けしきうかゞはる。		文恭院殿御実紀57	49	69上	0
206	1823	02.24	文政	6	01.14		春初雪のふりしかば。三家のかたぐ使して御けしきうかゞはる。		文恭院殿御実紀58	49	83下	0
207	1824	02.17	文政	7	01.18		十八日初雪ふりしかば。(後略)		文恭院殿御実紀59	49	103下	0
208	1824	02.19	文政	7	01.20		また雪ふりしかば。三家のかたぐ使まいらせらる。		文恭院殿御実紀59	49	103下	0
209	1824	06.04	文政	7	05.08		八日東叡山御詣雨によてなし。		文恭院殿御実紀59	49	107下	0
210	1824	09.07	文政	7	08.15		この月十五日丹羽左京大夫領地陸奥国安達郡温泉場の北のかた鎮山崩落し。湯坪押埋め。男女六十五人死すと聞えし。		文恭院殿御実紀59	49	111下	1
211	1825	01.22	文政	7	12.04		けふ初雪のふりしかば。(後略)		文恭院殿御実紀59	49	116上	0
212	1825	03.04	文政	8	01.15		この春はじめて雪ふりしかば。尾張[大納言力]使して物まいらせ御けしきうかゞふ。		文恭院殿御実紀60	49	119下	0
213	1825	06.03	文政	8	04.17		十七日紅葉山 御宮御詣雨によてなし。		文恭院殿御実紀60	49	124上	0
214	1825	06.16	文政	8	05.01		(前略)雨により拝覧はなし。		文恭院殿御実紀60	49	125上	0
215	1825	10.19	文政	8	09.08		八日東叡山 俊明院殿靈廟御詣雨によてなし。		文恭院殿御実紀60	49	130下	0
216	1826	01.15	文政	8	12.08		けふ雪ふりしかば三家のかたぐ使し。高家。詰衆。奏者番まうのぼり御けしきうかゞふ。		文恭院殿御実紀60	49	136上	0
217	1826	02.07	文政	9	01.01		けふ雪ふりしかば。尾州紀州両家使まいらせ御けしきうかゞふ。		文恭院殿御実紀61	49	139上	0
218	1826	02.18	文政	9	01.12		けふ雪ふりしかば。三家のかたぐ使して御けしきうかゞはる。		文恭院殿御実紀61	49	139下	0
219	1827	01.07	文政	9	12.10		けふ初雪ふりしかば。三家のかたぐよりまた使まいらす。		文恭院殿御実紀61	49	154上	0
220	1827	01.10	文政	9	12.13		雪ふりしかば。三家のかたぐ使して御けしきうかゞふ。		文恭院殿御実紀61	49	154上	0
221	1827	01.12	文政	9	12.15		けふ雪ふりしかば。三家のかたぐ使まいらせ御けしきうかゞふ。		文恭院殿御実紀61	49	154上	0
222	1828	05.11	文政	11	03.28		この日寄合小堀織部が所領伊豆国田方郡年川村の山崩れ。大見川へをし出し。流れ堰留め。隣村火消役本多修理が所領田代村へ跨り一新山を涌出し。田畑は川となる。		文恭院殿御実紀63	49	183下	1
223	1828	05.30	文政	11	04.17		十七日紅葉山 御宮御詣雨によてなし。		文恭院殿御実紀63	49	185下	0
224	1828	08.10	文政	11	06.30	大雨1A・洪水1A	(和暦6月30日)此日大雨。東海道すだ出水あり。流失死亡少なからず。またこのころ西国。北国ともに水あり。ことし国々風濤によて諸家損毛。松平加賀守が七十八万三千二百石をはじめとして。併せて五百六十三万五千七百二十石九斗八升一合一タ五才とかきこゆ。		文恭院殿御実紀63	49	188下	0
225	1828	08.11-11.06	文政	11	秋	暴風1C	(文政11年12月25日/1829年1月30日)松平肥前守ことし秋の風雨により。領地損毛かつ崎港警衛の地破損によりて金一万兩の恩賞あり。		文恭院殿御実紀63	49	197下	1
226	1829	02.15	文政	12	01.12		けふ雪降りしかば。(後略)		文恭院殿御実紀64	49	199下	0
227	1829	02.17	文政	12	01.14		又雪ふりしかば。三家のかたぐ使して御けしきうかゞふ。		文恭院殿御実紀64	49	199下	0
228	1830	02.26	天保	1	02.04		雪ふりしかば。三家のかたぐはじめ。在府四位以下のともがら使して御けしきうかゞふ。		文恭院殿御実紀65	49	224上	0
229	1830	03.12	天保	1	02.18		十八日雪降りしかば。三家の方々はじめ使して御けしきうかゞはる。		文恭院殿御実紀65	49	225上	0
230	1831	02.09	天保	1	12.27		廿七日雪ふりしかば。三家のかたぐ使しものまいらせ。在府四位以上のともがらおなじく使して御けしきうかゞふ。		文恭院殿御実紀65	49	240上	0
231	1831	03.08	天保	2	01.24		けふ雪ふりしかば。三家のかたぐ使して御けしきうかゞはる。		文恭院殿御実紀66	49	241下	0
232	1832	01.05	天保	2	12.03		けふ雪ふりしかば。(後略)		文恭院殿御実紀66	49	255上	0

続徳川実紀

233	1832	02.05	天保	3	01.04		四日雪ふりしかば。定使にかねて御けしきうかゞはる。	卷67～70: 天保3年7月15日～天保6年12月30日(1832年8月10日～1836年2月16日)は欠落。	文恭院殿御実紀67	49	259上	0
234	1836	02.20	天保	7	01.04		四日歳首の規式済ませられ。かつ初雪ふりしかば。三家のかたがた使して御けしきうかゞはる。	卷67～70: 天保3年7月15日～天保6年12月30日(1832年8月10日～1836年2月16日)は欠落。	文恭院殿御実紀71	49	267上	0
235	1837	01.12	天保	7	12.06		六日雪ふりしかば。三家のかたぐ。および在府四位以上のともがら使まいらせ御けしきうかゞはる。		文恭院殿御実紀71	49	282上	0
236	1837	01.22	天保	7	12.16		十六日雪ふりしかば。三家のかたぐ使まいらせ御けしきうかゞはる。		文恭院殿御実紀71	49	282下	0
237	1837	11.11	天保	8	10.14		十四日増上寺 文昭院殿靈廟御詣雨によてなし。		愼徳院殿御実紀1	49	341下	0
238	1838	02.04	天保	9	01.10		雪降りしかば。三家のかたぐ使して御けしきうかゞはる。		愼徳院殿御実紀2	49	347上	0
239	1838	02.10	天保	9	01.16		十六日雪降りしにより。三家のかたぐ使して御けしきうかゞはる。		愼徳院殿御実紀2	49	347下	0
240	1839	02.20	天保	10	01.07		けふ雪ふりしかば。三家のかたぐ使して御けしきうかゞはる。		愼徳院殿御実紀3	49	375上	0
241	1839	04.21	天保	10	03.08		(前略)大御所御詣雨によてなし。松平伯耆守代参す。		愼徳院殿御実紀3	49	378上	0
242	1840	02.22	天保	11	01.20		雪ふりしかば。三家のかたぐ使して御けしきうかゞはる。尾張家よりは一種まいらせらる。		愼徳院殿御実紀4	49	397下	0
243	1842	07.07	天保	13	05.29	大雨1A・洪水1A	この日摂津国のうち大雨洪水あり。		愼徳院殿御実紀6	49	464上	1
244	1843	03.01-03.30	天保	14	02		(和暦2月)この月白気申酉のかたに現はる。		愼徳院殿御実紀7	49	485上	0
245	1844	02.16	天保	14	12.28	強風1A・大火	この日暁丑の刻ばかり松平三河守鍛冶橋の邸より火いでゝ風烈しく。		愼徳院殿御実紀7	49	513下	0
246	1844	06.25	弘化	1	05.10		十日雨ふる。真の下刻ばかり平川広舗より火出でゝ。本城ごとく焼うせて。卯の下刻ばかりに熄ぬ。		愼徳院殿御実紀8	49	520上	0
247	1845	02.22	弘化	2	01.16		十六日雪ふりしかば。三家のかたぐ使して御けしきうかゞはる。		愼徳院殿御実紀9	49	535下	0
248	1845	03.02	弘化	2	01.24		この日申の刻ばかり。青山権田原より火いでゝ西風烈しく。(後略)		愼徳院殿御実紀9	49	536上	0
249	1845	12.06	弘化	2	11.08		雪ふりしかば三家のかたぐ使して御けしきうかゞはる。		愼徳院殿御実紀9	49	551下	0
250	1846	02.10	弘化	3	01.15	強風1A・大火	この日未の刻ばかり小石川馬場のほとりより火いでゝ西北の風烈しく。		愼徳院殿御実紀10	49	557下	0
251	1846	07.23-08.21	弘化	3	06	洪水1B	(和暦6月)この月戸田川。六郷川。其他川々出水あり。		愼徳院殿御実紀10	49	564下	0
252	1846	08.22-09.20	弘化	3	07	洪水1B	(和暦7月)此月本所。深川。亀井戸。亀有。小梅。柳島。隅田村のあたり出水あり。		愼徳院殿御実紀10	49	566下	0
253	1847	06.10	弘化	4	04.28	洪水1A	真田信濃守所領信濃国松代地震によて城内亭宅大破。家中在町破損。領内出水等により。請ふまゝに金一万両の恩貸あり。(後略)	前後に「善光寺地震」関連の賑給記事あり。	愼徳院殿御実紀11	49	585上	1
254	1848	06.01-06.30	嘉永	1	05	長雨1B	(和暦5月)此月霖雨。三河。遠江の国洪水にて矢作橋損じ往来を絶す。		愼徳院殿御実紀12	49	605上	0
255	1848	06.01-06.30	嘉永	1	05	長雨1B・洪水1B	(和暦5月)此月霖雨。三河。遠江の国洪水にて矢作橋損じ往来を絶す。		愼徳院殿御実紀12	49	605上	1
256	1848	07.05	嘉永	1	06.05	大雨1A・洪水1A	此日山城国大雨にて 桓武天皇の深草御陵の山崩れ。あなたこなた大水にて宇治橋流失す。		愼徳院殿御実紀12	49	605下	1
257	1849	01.28	嘉永	2	01.05		五日雪ふりしかば。三家のかたぐ使して御けしきうかゞはる。		愼徳院殿御実紀13	49	619下	0
258	1850	03.18	嘉永	3	02.05	強風1A・大火	この日西北の大風なりしが。巳の刻過るころ麴町四丁目より火いでゝ一丁目に至り。(後略)		愼徳院殿御実紀14	49	644上	0

続徳川実紀

259	1851	01.07	嘉永	3	12.06		けふ雪降りしかば。三家のかたぐ使して御けしきうかゞはる。		慎徳院殿御実紀14	49	660下	0
260	1852	02.21	嘉永	5	02.02		二日雪ふりしかば。三家のかたぐ使して御けしきうかゞはる。		慎徳院殿御実紀16	49	684上	0
261	1853	01.14	嘉永	5	12.05		五日初雪のふりしかば。三家のかたぐ使し。高家。詰衆。奏者番まうのぼり御けしきうかゞふ。		慎徳院殿御実紀16	49	698上	0
262	1853	02.24	嘉永	6	01.17		十七日紅葉山 御宮。諸廟に御詣の事雪降りしかばなし。(後略)		慎徳院殿御実紀17	49	703下	0
263	1854	01.22	嘉永	6	12.24		雪降伺御機嫌。三家。并諸家。		温恭院殿御実紀	50	102下	0
264	1854	02.10	安政	1	01.13		十三日 雪降。伺御機嫌。		温恭院殿御実紀	50	122下	0
265	1855	01.05	安政	1	11.17		雪降。御機嫌伺。	安政2年5月～12月(1855年6月14日～1856年2月5日)は欠落。	温恭院殿御実紀	50	232下	0
266	1856	05.25	安政	3	04.22		廿二日 大手。内桜田。西丸大手下馬前。雨天無之節。供之者笠相用候令。	安政2年5月～12月(1855年6月14日～1856年2月5日)は欠落。	温恭院殿御実紀	50	289下	0
267	1856	09.26	安政	3	08.28	大雨3・暴風3	廿八日 大風雨 _二 付材木其外諸色直段。并諸職人手間賃銀引上不申様。町奉行より市中へ相觸候趣。諸向 _上 令。		温恭院殿御実紀	50	299上	0
268	1856	10.01	安政	3	09.03	大雨3・暴風3	三日 江戸表大風雨材木諸色払底 _二 付。積送り方の令。大風雨居宅皆潰れ。及大破之向。当冬御切米御扶持取越之令。		温恭院殿御実紀	50	299下	0
269	1856	10.24	安政	3	09.26	大雨3・暴風3	廿六日 御代替 _二 付。諸国巡見之儀。地震。大風雨 _二 付年延之令。		温恭院殿御実紀	50	301上	0
270	1857	01.27	安政	4	01.02	雷1A	大雷。		温恭院殿御実紀	50	323上	0
271	1857	01.28	安政	4	01.03		雪降。三家伺御機嫌。		温恭院殿御実紀	50	323上	0
272	1857	12.06	安政	4	10.20		二十日 雪降。御機嫌伺。		温恭院殿御実紀	50	430下	0
273	1857	12.28	安政	4	11.13		雪降。三家伺御機嫌。	安政4年12月17日～30日(1858年1月31日～2月13日)は欠落。	温恭院殿御実紀	50	452下	0
274	1858	02.16	安政	5	01.03		雪降。三家御機嫌伺。	安政4年12月17日～30日(1858年1月31日～2月13日)は欠落。	温恭院殿御実紀	50	465上	0
275	1859	02.03-03.04	安政	6	01		一雪降候 _二 付。為伺御機嫌。御三家方使者被差出之。	和暦1月1日または2日か？	昭徳院殿御実紀	50	585上	0
276	1859	08.28-09.25	安政	6	08	洪水3	(和暦8月)(前略)右領分洪水 _二 。居城家中迄水押入。領内一円水腐致候 _二 付。拜借之儀被相願可。為難儀 _二 被思召。当時御事多 _二 者候得共。格別之訳を以金五千両拜借被仰付之。		昭徳院殿御実紀	50	615下	0
277	1860	01.11	安政	6	12.19		(前略)右者雪降候 _二 付。為伺御機嫌被差上旨。和泉守被申聞。美作守承之言上。		昭徳院殿御実紀	50	664下	0
278	1860	02.13	万延	1	01.22		(前略)右者雪降候 _二 付。為伺御機嫌被差上旨。和泉守被申聞。加賀守承之言上。		昭徳院殿御実紀	50	697上	0
279	1860	02.29	万延	1	02.08		一雪降候 _二 付。為伺御機嫌。御三家方より使者被差出候段。対馬守殿被申聞。加賀殿被承之言上。		昭徳院殿御実紀	50	713下	0
280	1860	03.16	万延	1	02.24		一雪降候 _二 付。為伺御機嫌。御三家方より使者被差出候段。対馬守被申聞。美作守承之言上。		昭徳院殿御実紀	50	720上	0
281	1859	07.30-10.25	万延	1	秋	洪水1C	(万延元年3月26日/1860年4月16日)廿六日 馬入川出水賃銭増令。一東海道藤沢。平塚兩宿之間馬入川。去秋出水 _二 瀬相成。(後略)		昭徳院殿御実紀	50	734下	0

続徳川実紀

282	1860	06.23	万延	1	05.05		一明後八日東叡山 嚴有院様御霊前 _江 御参詣之儀。御道之内筋違御門内道普請之處。雨天統 _ニ 路次悪敷候 _ニ 付。此度ハ紅葉山 御霊前 _江 可被遊御参詣候。		昭徳院殿御実紀	50	766下	0
283	1860	10.24	万延	1	09.11		(前略) 諸国酒造之儀。三分一相減。三分二酒造可致旨。天保十二丑年相觸置候處。去去年閏東筋出水等 _ニ 。米価引上げ候 _ニ 付。閏八州酒造半高造相觸候處。当申年上方東海道筋度々出水等有之。引統米穀高直之趣相互間候間。追 _ニ 及沙汰候まで。諸国酒造之儀。銘々鑑札高之内半高相減。半高酒造可致候。尤隠造。過造等無之様。取締方都 _ニ 是迄之用通相心得。弥嚴重改方可申付候。(後略)		昭徳院殿御実紀	50	803上	0
284	1860	12.27	万延	1	11.16		十六日 初雪御機嫌伺。		昭徳院殿御実紀	50	827下	0
285	1861	01.13	万延	1	12.03		再雪御機嫌伺。		昭徳院殿御実紀	50	834下	0
286	1861	02.13	文久	1	01.04		一雪降 _ニ 付。為伺御機嫌。御三家方より使者被差出之。於同席謁同人。		昭徳院殿御実紀	51	2上	0
287	1861	02.16	文久	1	01.07		一雪降 _ニ 付。為伺御機嫌。御同所より使者被差出之。於同席謁同人。		昭徳院殿御実紀	51	3上	0
288	1861	12.20	文久	1	11.19		一雪降 _ニ 付。為伺御機嫌。御三家方より使者被差出之。於同席謁同人。		昭徳院殿御実紀	51	202下	0
289	1862	06.05	文久	2	05.08		八日 上野御参詣依雨御延滞。為御名代内藤紀伊守代拝。		昭徳院殿御実紀	51	311上	0
290	1862	11.08	文久	2	09.17		十七日 紅葉山御参詣依雨延引。御代拝。		昭徳院殿御実紀	51	397上	0
291	1862	12.24	文久	2	11.04		四日 初雪御起居伺。		昭徳院殿御実紀	51	427上	0
292	1863	01.06	文久	2	11.17		寒入并再雪 _ニ 付伺御起居。		昭徳院殿御実紀	51	435上	0
293	1863	02.22	文久	3	01.05		春雪御起居伺。		昭徳院殿御実紀	51	501上	0
294	1863	03.12	文久	3	01.23		(和暦1月23日)明廿四日御参詣依雨延引。		昭徳院殿御実紀	51	518下	0
295	1864	05.23	元治	1	04.18		(和暦4月29日(p.644下))常野激徒事件。(前略)今日終日雨天 _ニ 付一人も参候由。(後略)	文久3年6月17日~12月30日(1863年8月1日~1864年2月7日)は欠落。	昭徳院殿御実紀	51	648上	0
296	1865	06.11	慶応	1	05.18		(和暦5月18日(p.680下:程ヶ谷御発途。藤沢清浄光寺御旅館。))一着後雷氣 _ニ 付。非番之御小性。御小納戸御機嫌伺 _ニ 罷出 御目見致。無程下宿致す。	元治元年6月1日~慶応元年5月15日(1864年7月4日~1865年7月7日)は欠落。	昭徳院殿御実紀	51	681上	0
297	1865	06.24	慶応	1	閏05.02		二日 依天龍川水増御逗留。		昭徳院殿御実紀	51	691上	0
298	1865	07.16	慶応	1	閏05.24	雷1A	(伏見奉行御役宅)一夜五ツ時過雷鳴 _ニ 付。出羽守殿。壹岐守殿 御機嫌被相伺候旨。御同人より承り入御聴。其後追々大雷 _ニ 相成。御前 _江 被 召出 御機嫌被相伺。追々雷鳴相止。四ツ時迄被引申候。		昭徳院殿御実紀	51	713上	0
299	1866	01.09	慶応	1	11.23		依雪降。紀伊殿始御機嫌伺。		昭徳院殿御在坂日次記	51	816下	0
300	1868	01.01	慶応	3	12.07		初雪御機嫌伺御両家御使。		慶喜公御実紀	52	307下	0
301	1868	02.14	明治	1	01.21		依雪降御三家方御機嫌伺御使者。		慶喜公御実紀	52	365上	0

16. 武江年表

(1) ページは下記による。

No. 1～178 : 金子光晴校訂 1968『増訂 武江年表 1』東洋文庫 116 平凡社

No. 179～579 : 金子光晴校訂 1968『増訂 武江年表 2』東洋文庫 118 平凡社

(2) 地域 (“L” 列) は下記を示す。

0 : 関東地方

1 : 関東地方以外

武江年表

No.	グレゴリイ暦		和暦		項目	記載内容	備考	頁	L
	年	月日	年号	年 月日					
1	1594	-	文禄	3 -		今年米穀豊饒なり。		6下	0
2	1596	07.07	慶長	1 06.12		六月十二日、京師畿内関東諸国大霾、又氷毛降る(毛長さ四、五寸)。		7上	0
3	1612	08.20	慶長	17 07.24	あられ1A	七月二十四日、大霰降る。		15下	0
4	1614	10.01	慶長	19 08.28	暴風1A	八月二十八日未の刻、大風。増上寺山門、誓願寺山門倒れ、人家損ず。品川九品寺五重の塔倒る。文安三丙寅年成就せし所にして、百六十九年を経て滅するよし、「見聞集」に見ゆ(後略)。		16下	0
5	1619	06.12-10.07	元和	5 05-08	干ばつ1B	五月より八月まで大旱。五穀登らず、人馬多く死す。		24下	0
6	1626	05.07-10.01	寛永	3 04-08	干ばつ1B	四月より八月迄、諸国旱魃。		28上	0
7	1633	05.08-08.04	寛永	10 04-06	洪水1B	四月より六月まで洪水。		33上	0
8	1635	07.26	寛永	12 06.13	暴風1A・波浪1A	六月十三日、大風遠州豆州渡海の船八百艘破損す。		34下	1
9	1636	06.04-07.31	寛永	13 05-06	干ばつ1B	五月、六月の間、更に雨降らず(西国北国は大雨、紀州其外南海にて海鳴る事九ヶ度)。		35下	0
10	1641	09.05	寛永	18 08.01	暴風1A	八月朔日、大風。数十艘の石船品川沖に沈む(後略)。		39上	0
11	1642	01.31	寛永	19 01.01	大雪1A	正月朔日、大雪。		39上	0
12	1642	03.01-03.30	寛永	19 02	大雪1B	二月、大雪。		39上	0
13	1642	04.12	寛永	19 03.13	大雪1A	三月十三日、深雪。		39下	0
14	1647	08.22	正保	4 07.22	ひょう1A	七月二十二日、氷降る(大きき梅の実ごとし)。		48上	0
15	1649	06.22	慶安	2 05.13	あられ1A	五月十三日、河越大霰降る。		50下	0
16	1650	05.30-06.28	慶安	3 05	洪水1B	五月、国々洪水。		51上	0
17	1650	09.02	慶安	3 08.07	ひょう1A	八月七日、秩父郡辺大風雨、氷降る(大きき八、九匁より十匁位)。		51上	0
18	1652	02.20	承応	1 01.11		十一日暁雪降る、巳時晴る。		52上	0
19	1652	09.30	承応	1 08.28	大雨1A・暴風1A	八月二十八日夜、江戸大風雨。		52下	0
20	1656	02.18	明暦	2 01.23		正月二十三日夜、赤雲西に出づる。		58下	0
21	1656	07.22-08.19	明暦	2 06		六月、赤氣西方に見ゆる、竿の如く二本あり。		58下	0
22	1656	12.01	明暦	2 10.16	強風1A・大火	十月十六日夜、呉服町より出火、北風強く、中橋南鍛冶町、横町辺類焼。		58下	0
23	1657	03.02	明暦	3 01.18	強風1A・大火	正月十八日、乾大風。未刻より本郷五丁目裏本妙寺より出火、(後略)。		59上	0
24	1656	12.16-03.02	明暦	3 前11-01.18	干ばつ1B	(明暦3年1月18日/1656年3月2日)(前略)(去年十一月より当年正月に及ぶ迄、雨更になし。二十一日に至りて大雪降る。米価一時に登揚して、賤民の困苦甚しく、道路に悲泣す)。		59下	0
25	1656	03.05	明暦	3 01.21	大雪1A	(明暦3年1月18日/1656年3月2日)(前略)(去年十一月より当年正月に及ぶ迄、雨更になし。二十一日に至りて大雪降る。米価一時に登揚して、賤民の困苦甚しく、道路に悲泣す)。		59下	0
26	1659	08.19	万治	2 07.02	大雨1A・洪水1A・暴風1A	七月二日、大風雨、洪水(浅草御蔵二俵通り水に浸る。よつて五尺ほど築き上るといふ)。		64上	0
27	1660	06.08-07.07	万治	3 05	長雨1B・洪水1B	五月、霖雨出水。		66上	0
28	1668	03.10	寛文	8 01.28		正月二十八日、乾の方より巽の方に竿の如き白氣立ち、夜四つ時頃消ゆる。		71下	0
29	1668	03.14	寛文	8 02.02		二月二日、日輪ニツ出づるが如く見ゆる。		72上	0
30	1668	05.11-08.07	寛文	8 夏	干ばつ1C	夏、諸国旱。		72下	0
31	1670	06.29	寛文	10 05.12		五月十二日、辰下刻より巳半刻まで、炭の如く成る物降る(手に取り上げて見れば砂のごとし)。		73下	0
32	1670	09.14-10.13	寛文	10 08	暴風1B	八月、大風。		73下	0
33	1671	10.01	寛文	11 08.29	大雨1A・洪水1A・暴風1A	八月二十九日、南大風雨、洪水(浅草、下谷、小日向其の外低き所、人家床上へ水乗る。本所辺の家に軒端迄水にひたる。六郷橋杭五十間余ながる)。		73下	0
34	1674	04.02	延宝	2 02.26		二月二十六日夜、幅一丈許の黒雲、東より西に棚引き、空中橋を渡すが如し。		77下	0
35	1674	08.31-09.29	延宝	2 08	洪水1B	(八月)国々洪水。		77下	0
36	1676	08.13-08.14	延宝	4 07.04-07.05	大雨1A・洪水1A・暴風1A	七月四日、五日、風雨。関東洪水。		78下	0
37	1676	10.08-11.05	延宝	4 09		九月、鉄砲洲築地にて宝生大夫勳進能興行(一本に春ともいへり)。○この間、度々雨降る。		78下	0

武江年表

38	1677	09.02	延宝	5	08.06	大雨1A・ 暴風1A・ 高潮1A	八月六日、大風雨、木挽町、芝辺、所々高潮上る。		79下	0
39	1679	05.10- 08.06	延宝	7	夏	洪水1C	夏、大雨、大川筋其の外出水。		80上	0
40	1680	09.28	延宝	8	閏08.06	大雨1A・ 暴風1A・ 高潮1A	閏八月六日、大風雨。深川、本所浜町、霊巖島、鉄砲洲、八丁堀海水漲り上りて家を損し、人溺る。両国橋損し往來止まる。谷中法恩寺本堂梁折れて半ば傾く(了翁僧都再建のちからを助く)。東海道筋所々、浩波あふれて民家を溺らす。		81上	0
41	1682	08.04	天和	2	07.02	雷1A	七月二日、大雷、四十余所へ墮つ。		84上	0
42	1683	01.28	天和	3	01.01	大雨1A・ 洪水1A	正月元日、大雨洪水。		85上	0
43	1683	04.27- 08.21	天和	3	夏	干ばつ1C	夏、江戸大旱久し。		85下	0
44	1684	10.09- 11.06	貞享	1	09	大雨1B・ 暴風1B	九月、大風家屋を吹き倒す。		89上	0
45	1686	07.23	貞享	3	06.04	大雨1A・ 洪水1A	貞享中洪水あり、六郷橋流る(誠云ふ。六郷橋流れたるは、貞享三年寅六月四日、十二日、両度の雨に損じたるよし「一話一言」に見ゆ。)		90下	0
46	1686	07.31	貞享	3	06.12	大雨1A・ 洪水1A	貞享中洪水あり、六郷橋流る(誠云ふ。六郷橋流れたるは、貞享三年寅六月四日、十二日、両度の雨に損じたるよし「一話一言」に見ゆ。)		90下	0
47	1689	07.02	元禄	2	05.16		五月十六日、雨天。三十三間堂にて伊達家の臣福井浅右衛門、矢貫五千三百六本を射て江戸の天下一と成る。		92下	0
48	1693	07.30	元禄	6	06.28	干ばつ1A	(和暦6月28日/西暦7月30日)六月二十八日、俳師其角三圃社辺に雨乞ひの句を吟ず(「奇跡考」に、挙一堂の記を引き、ことし天下旱魃にして田面水なし。其角雨乞ひの句を作り、須臾にして雨降るといへり。其の草、当社に伝へてあり)。		95下	0
49	1695	03.22	元禄	8	02.08	強風1A・ 大火	二月八日未刻、大風。四谷伝馬町より出火、芝札の辻海まで焼亡。		96下	0
50	1699	09.12	元禄	12	08.19	暴風1A	八月十九日、大風。		100下	0
51	1704	01.01	元禄	16	11.24		二十四日夜より雨ふり、明け方に及びゆる止む。	「元禄地震」に前後した記載。	103下	0
52	1704	01.06	元禄	16	11.29	強風1A・ 大火	十一月二十九日夜、大風。本郷追分より出火して谷中まで焼く。又小石川より出火して北風に成り、(後略)		104上	0
53	1704	07.16- 08.02	宝永	1	06.15- 07.02	長雨1B・ 大雨1B・ 洪水1B	六月十五日より七月朔日二日、江戸近辺大雨。大川筋の外大水。八月四日より山水出で、下総猿が股土手押し崩し、田畑在家過半破壊して、死亡人数を知らず。本所、深川、浅草、山谷、下谷辺屋宇をひたす。(後略)		108下	0
54	1704	09.02	宝永	1	08.04	洪水1A	六月十五日より七月朔日二日、江戸近辺大雨。大川筋の外大水。八月四日より山水出で、下総猿が股土手押し崩し、田畑在家過半破壊して、死亡人数を知らず。本所、深川、浅草、山谷、下谷辺屋宇をひたす。(後略)		108下	0
55	1706	08.29	宝永	3	07.22	雷1A	七月二十二日、大雷数ヶ所に落つる。		111上	0
56	1708	01.23	宝永	5	01.01	大雨1A	正月元日、大雨。		112下	0
57	1708	02.24	宝永	5	閏01.03		閏正月三日、武蔵、相模、三河国々砂降る。		112下	0
58	1708	12.01- 02.19	宝永	6	前 10.20- 01.10	干ばつ1B	(宝永6年1月)去年十月二十日の後、雨降らず。正月十一日、夜に至りて雨降る(「折焚柴」にいへり)。		113下	0
59	1711	02.06	宝永	7	12.19	強風1A・ 大火	十二月十九日、未下刻、神田小柳町続き真田家御中屋敷より出火、北西風烈しく、(後略)。		114下	0
60	1711	03.07	正徳	1	01.19	強風1A・ 大火	正月十九日、新和泉町より出火、乾風烈しく霊巖島にいたる(後略)。		116上	0
61	1711	04.18- 05.17	正徳	1	03	強風1B・ 大火	三月不忍池の辺より出火。西北風烈し。延焼万家に及べり(「折焚柴」に出づる)。		116上	0
62	1711	09.21	正徳	1	08.09	暴風1A	八月九日、大風。		116下	0
63	1712	01.18	正徳	1	12.11	強風1A・ 大火	十二月十一日、申刻、連雀町より出火、乾の風烈しく、(後略)。		117上	0
64	1713	05.23	正徳	3	04.29		四月晦日、江戸中白き花降る。又舍利の如き物ふる。		117下	0
65	1714	10.29	正徳	4	09.21		(和暦9月22日)九月二十二日、根津権現祭礼、江戸町中より練物出る(二十一日なりしが、雨天成りし故今日に延びたり。(後略))。		118下	0
66	1717	09.20	享保	2	08.16	大雨1A・ 暴風1A	八月十六日、大風雨家屋を損す。		121下	0
67	1720	05.04	享保	5	03.27	強風1A・ 大火	三月二十七日、午半刻箔屋町より出火、南風烈しく、(後略)。		123上	0
68	1720	09.03- 10.01	享保	5	08	洪水1B	八月、関東洪水。		123下	0
69	1720	10.05	享保	5	09.04	暴風1A	九月四日、大風。		123下	0
70	1721	07.24- 10.18	享保	6	秋	洪水1C	秋、関東洪水。		124下	0
71	1723	03.22	享保	8	02.16	強風1A・ 大火	二月十六日、赤坂伝馬町より出火、西北風烈しく、(後略)。		126下	0
72	1724	08.13	享保	9	06.25		六月二十五日、東都毛降る。(後略)		127下	0

武江年表

73	1728	??-10.05	享保	13	08.30-09.03	大雨1A・洪水1A・暴風1A・雷1A	八月三十日夜より九月二日三日、北大風、甚雨にして洪水溢れ、昌平橋、和泉橋、新し橋、柳橋、二日の夕方流れ落雷つる。三日朝、両国橋中程三十六間切れ流れ、新大橋の方四十二間程切る。永代橋は普請の中にて古橋杭流る。下谷浅草の内低き所は軒端水にひたる。小石川龍慶橋其の外小橋流れ、目白山崩れて上水の白堀埋まる。筋違御門昌平橋の二橋流損によって、神田祭礼十一月に延びる。(後略)	和暦8月は29日まで(30日は存在しない。)	130下	0
74	1729	04.22	享保	14	03.25	低温1A・霜1A	[筠補]此の年三月二十五日己巳穀雨の節にて、二十八日壬申寒気はげしく、此の夜霜つよく降りて、秩父のあたりは桑の葉皆枯れたりとかや。		132上	0
75	1730	10.10	享保	15	08.29	大雨1A・洪水1A・暴風1A	八月二十九日、大風雨、深川三十三間堂吹き潰す。築地、大水出る。		132下	0
76	1730	10.12-11.09	享保	15	09	洪水1B	筠補云ふ。去る戊申九月の大水、郭北尤も甚だし。(後略)		133上	0
77	1731	05.20	享保	16	04.15	強風1A・大火	四月十五日、西北大風、午下刻目白台武家方より出火、(後略)。		133下	0
78	1731	09.11-09.12	享保	16	08.11-08.12	暴風1A	八月十一日夜より十二日昼八時まで、大風、十七日夜並びに九月二日、大風雨。		133下	0
79	1731	09.17	享保	16	08.17	大雨1A・暴風1A	八月十一日夜より十二日昼八時まで、大風、十七日夜並びに九月二日、大風雨。		133下	0
80	1731	10.02	享保	16	09.02	大雨1A・暴風1A	八月十一日夜より十二日昼八時まで、大風、十七日夜並びに九月二日、大風雨。		133下	0
81	1731	12.11	享保	16	11.13		十一月十三日、甘露降る。		134上	0
82	1735	08.20	享保	20	07.03	雷1A(竜巻)	七月三日、黒雲天を覆ひ、大風瓦を飛ばし所々家屋を損す。竜巻なりといふ。		137上	0
83	1735	-	享保	20	-		関東豊作。		137上	0
84	1737	01.01-01.30	元文	1	12	雷1A	十二月、江戸大雷(「合運」に出づ)。		141上	0
85	1737	05.24	元文	2	04.25	雷1A(竜巻)	四月二十五日、昼時外山の辺より竜巻出で、馬場下より早稲田町通を巻き、人家等損す。		141上	0
86	1737	11.28	元文	2	11.07	高温1A	十一月七日、世上一同に煙のやう成る物吹出し火事の如し。此の節、暖気にして、筍生じ桜花咲く。		141下	0
87	1742	08.28-08.30	寛保	2	07.28-08.01	大雨1A・洪水1A・暴風1A	七月二十八日より雨降り続く。八月朔日、昼八時半より大風雨、夜通し止む事なし。近郊大水漲り出で、本所深川人家を浸し、大川通り水勢烈しく、両国橋は御普請中にて杭を流し、永代橋、新大橋損じ、隅田川土手切れ、葛西へ水押し入り、千住土手切れる。五日、又利根川堤切れ、次第に水かさ増さり、溺死多し。官府よりは御助船を出されて救はれ、小屋を建て食物を給はる。八月九日、又大風雨にて水増さり、下旬に至りて引く。関東筋都て洪水にて御普請あり(翌年亥五月、刀禰上流以南修治告成の碑文、服元喬これを撰す)。		144下	0
88	1742	09.03	寛保	2	08.05	洪水1A	七月二十八日より雨降り続く。八月朔日、昼八時半より大風雨、夜通し止む事なし。近郊大水漲り出で、本所深川人家を浸し、大川通り水勢烈しく、両国橋は御普請中にて杭を流し、永代橋、新大橋損じ、隅田川土手切れ、葛西へ水押し入り、千住土手切れる。五日、又利根川堤切れ、次第に水かさ増さり、溺死多し。官府よりは御助船を出されて救はれ、小屋を建て食物を給はる。八月九日、又大風雨にて水増さり、下旬に至りて引く。関東筋都て洪水にて御普請あり(翌年亥五月、刀禰上流以南修治告成の碑文、服元喬これを撰す)。		144下	0
89	1742	09.07	寛保	2	08.09	大雨1A・洪水1A・暴風1A	七月二十八日より雨降り続く。八月朔日、昼八時半より大風雨、夜通し止む事なし。近郊大水漲り出で、本所深川人家を浸し、大川通り水勢烈しく、両国橋は御普請中にて杭を流し、永代橋、新大橋損じ、隅田川土手切れ、葛西へ水押し入り、千住土手切れる。五日、又利根川堤切れ、次第に水かさ増さり、溺死多し。官府よりは御助船を出されて救はれ、小屋を建て食物を給はる。八月九日、又大風雨にて水増さり、下旬に至りて引く。関東筋都て洪水にて御普請あり(翌年亥五月、刀禰上流以南修治告成の碑文、服元喬これを撰す)。		144下	0
90	1745	09.14	延享	2	08.19	大雨1A・暴風1A・雷1A(竜巻)	八月十九日、大風雨、芝海辺、竜巻あり。		148下	0
91	1745	10.09	延享	2	09.14	暴風1A	九月十四日、大風、家屋を損す(浅草福井町銀杏八幡の銀杏古樹吹き折れる)。		148下	0
92	1746	05.20-06.18	延享	3	04		牛込原町経王寺にて、京上鳥羽実相寺、雨祈日蓮上人像開帳。		149下	0
93	1747	05.09	延享	4	04.01	霜1A	四月朔日、大霜降り積もる。		150下	0
94	1747	07.07	延享	4	05.30		(延享4年5月晦日)浅草大護院八幡宮修復助成の為、三年の間、晴天八日づゝの寄進能興行あり。		150下	0

武江年表

95	1749	05.16-08.12	寛延	2	夏	長雨1C	当夏中より雨繁く降りて、七月も晴間なく、二十五日に至り大風雨あり。夫より雨降り続き、八朔、大風起り、時々雨降る。八月十三日の暁より北風大嵐となりて牛込小日向出水、下谷浅草辺迄溢れ出、高田、関口辺の家を流し人を溺らす。江戸川通り橋々押流し、小石川通り大水、神田上水掛樋流れ、昌平橋、筋違橋其の外神田橋々流る。両国橋大橋恙なし。本所、深川水乗らず。九月にいたり漸く晴天となる。	154下	0
96	1749	08.13-09.11	寛延	2	07	長雨1B	当夏中より雨繁く降りて、七月も晴間なく、二十五日に至り大風雨あり。夫より雨降り続き、八朔、大風起り、時々雨降る。八月十三日の暁より北風大嵐となりて牛込小日向出水、下谷浅草辺迄溢れ出、高田、関口辺の家を流し人を溺らす。江戸川通り橋々押流し、小石川通り大水、神田上水掛樋流れ、昌平橋、筋違橋其の外神田橋々流る。両国橋大橋恙なし。本所、深川水乗らず。九月にいたり漸く晴天となる。	154下	0
97	1749	09.06	寛延	2	07.25	大雨1A・暴風1A	当夏中より雨繁く降りて、七月も晴間なく、二十五日に至り大風雨あり。夫より雨降り続き、八朔、大風起り、時々雨降る。八月十三日の暁より北風大嵐となりて牛込小日向出水、下谷浅草辺迄溢れ出、高田、関口辺の家を流し人を溺らす。江戸川通り橋々押流し、小石川通り大水、神田上水掛樋流れ、昌平橋、筋違橋其の外神田橋々流る。両国橋大橋恙なし。本所、深川水乗らず。九月にいたり漸く晴天となる。	154下	0
98	1749	09.06-09.12	寛延	2	07.25-08.01	長雨1B	当夏中より雨繁く降りて、七月も晴間なく、二十五日に至り大風雨あり。夫より雨降り続き、八朔、大風起り、時々雨降る。八月十三日の暁より北風大嵐となりて牛込小日向出水、下谷浅草辺迄溢れ出、高田、関口辺の家を流し人を溺らす。江戸川通り橋々押流し、小石川通り大水、神田上水掛樋流れ、昌平橋、筋違橋其の外神田橋々流る。両国橋大橋恙なし。本所、深川水乗らず。九月にいたり漸く晴天となる。	154下	0
99	1749	09.12	寛延	2	08.01	暴風1A	当夏中より雨繁く降りて、七月も晴間なく、二十五日に至り大風雨あり。夫より雨降り続き、八朔、大風起り、時々雨降る。八月十三日の暁より北風大嵐となりて牛込小日向出水、下谷浅草辺迄溢れ出、高田、関口辺の家を流し人を溺らす。江戸川通り橋々押流し、小石川通り大水、神田上水掛樋流れ、昌平橋、筋違橋其の外神田橋々流る。両国橋大橋恙なし。本所、深川水乗らず。九月にいたり漸く晴天となる。	154下	0
100	1749	09.24	寛延	2	08.13	洪水1A・暴風1A	当夏中より雨繁く降りて、七月も晴間なく、二十五日に至り大風雨あり。夫より雨降り続き、八朔、大風起り、時々雨降る。八月十三日の暁より北風大嵐となりて牛込小日向出水、下谷浅草辺迄溢れ出、高田、関口辺の家を流し人を溺らす。江戸川通り橋々押流し、小石川通り大水、神田上水掛樋流れ、昌平橋、筋違橋其の外神田橋々流る。両国橋大橋恙なし。本所、深川水乗らず。九月にいたり漸く晴天となる。	154下	0
101	1750	04.24-05.09	寛延	3	03.18-04.04		三月十八日より、晴天十五日、筋違法橋御門外畠地に於いて(俗にいふ加賀原)親世大夫勸進能興行あり。	155下	0
102	1750	05.28	寛延	3	04.23	大雨1A・強風1A・雷1A(竜巻)	四月二十三日、朝曇り、八ツ時過ぎ、西北大風雨、大雹降る。(本所辺、凡そ三十匁、四十匁位、竜巻とて家を潰す。(後略。))	155下	0
103	1753	02.06	宝暦	3	01.04	大雪1A	正月四日、五日、八日、大雪。九日、十七日、十八日、雨。二十二日、雪。二十四日、大雪。三十日、雨。二月朔日、二日、三日、五日、九日、十日、十三日、十四日、雨。十六日、地震。十七日、雨。十九日、大雪、二十日朝迄。二十三日、二十八日、二十九日、三十日雨。三月三日、大風雨。暁、七時より雷鳴り、大雹降る。六時晴る。此の春の氣候、此くの如し(「大江戸春秋」に出づ。)	159下	0
104	1753	02.07	宝暦	3	01.05	大雪1A	正月四日、五日、八日、大雪。九日、十七日、十八日、雨。二十二日、雪。二十四日、大雪。三十日、雨。二月朔日、二日、三日、五日、九日、十日、十三日、十四日、雨。十六日、地震。十七日、雨。十九日、大雪、二十日朝迄。二十三日、二十八日、二十九日、三十日雨。三月三日、大風雨。暁、七時より雷鳴り、大雹降る。六時晴る。此の春の氣候、此くの如し(「大江戸春秋」に出づ。)	159下	0
105	1753	02.10	宝暦	3	01.08	大雪1A	正月四日、五日、八日、大雪。九日、十七日、十八日、雨。二十二日、雪。二十四日、大雪。三十日、雨。二月朔日、二日、三日、五日、九日、十日、十三日、十四日、雨。十六日、地震。十七日、雨。十九日、大雪、二十日朝迄。二十三日、二十八日、二十九日、三十日雨。三月三日、大風雨。暁、七時より雷鳴り、大雹降る。六時晴る。此の春の氣候、此くの如し(「大江戸春秋」に出づ。)	159下	0

武江年表

126	1753	04.06	宝暦	3	03.03	大雨1A・ 強風1A・ 雷1A・ひよ う1A	正月四日, 五日, 八日, 大雪。九日, 十七日, 十八日, 雨。二十 二日, 雪。二十四日, 大雪。三十日, 雨。二月朔日, 二日, 三日, 五日, 九日, 十日, 十三日, 十四日, 雨。十六日, 地震。 十七日, 雨。十九日, 大雪, 二十日朝迄。二十三日, 二十八 日, 二十九日, 三十日雨。三月三日, 大風雨。暁, 七時より雷 鳴り, 大雹降る。六時晴る。此の春の気候, 此くの如し(「大江 戸春秋」に出づ。)	159下	0
127	1756	03.31- 04.28	宝暦	6	03	強風1B・ 大火	三月中, 烈風吹き続き, 度々火災有り。	162下	0
128	1756	12.14	宝暦	6	11.23	強風1A・ 大火	十一月二十三日暁, 八代洲河岸より出火, 大風にして, 諸侯 藩邸数字焼亡。(後略)	163上	0
129	1757	05.18- 07.15	宝暦	7	04-05	長雨1B・ 洪水1B	四月より五月迄, 霖雨。関東洪水, 奥州飢饉にて, 江戸の米 価も次第に登揚せり。	164上	0
130	1757	08.15- 09.12	宝暦	7	07	洪水1B	七月, 関東, 中国, 洪水。	164上	0
131	1758	10.21- 10.30	宝暦	8	09.20- 09.29	雷1B・ひよ う1B	九月二十日より二十九日迄, 雷鳴り, 雹降る。	165上	0
132	1759	04.27- 05.25	宝暦	9	04		(和暦4月)米穀豊饒なり。	165下	0
133	1760	03.22	宝暦	10	02.06	強風1A・ 大火	同月六日戌刻, 神田旅籠町一丁目明石屋といへる足袋屋より 出火, 乾大風, (後略)。	166下	0
134	1760	05.15- 10.08	宝暦	10	04-08	干ばつ1B	四月より, 八月迄旱天。	167上	0
135	1764	03.22	明和	1	02.20	強風1A・ 大火	二月二十日夕, 七ツ時, 神田新銀町より出火, 北風烈しく, (後 略)。	173上	0
136	1765	09.17	明和	2	08.03	大雨1A・ 洪水1A・ 暴風1A	八月三日, 大風雨, 深川辺其の余, 床上へ水乗る。	177上	0
137	1765	10.15- 11.12	明和	2	09	長雨1B	九月, 雨降り続き, 神田明神祭礼九月二十三日に渡る。	177下	0
138	1766	04.08	明和	3	02.29	強風1A	二月二十九日, 堺町鬻付油の店(音羽屋)より失火して両座の 芝居類焼し, 大風にて焼け広がり, (後略)。	177下	0
139	1766	08.11	明和	3	07.06	洪水1A	七月六日, 洪水。小日向, 小石川, 本所の辺, 分けて水嵩増 れり。	178上	0
140	1768	05.21	明和	5	04.06	強風1A・ 大火	四月六日, 暁八ツ時, 吉原江戸町貳丁目より出火, 大風にて 廊残らず, 五十軒まで焼亡す(後略)。	180下	0
141	1768	06.30	明和	5	06.16	大雨1A・ 雷1A	六月十六日, 夜四ツ時過ぎ, 大雨大雷(ハツ時, 竹橋御多門 焼ける)。	180下	0
142	1769	09.25	明和	6	08.26	大雨1A・ 暴風1A・ 雷1A	八月二十六日, 未刻より大風雨, 雷鳴あり。人家を傷損す。深 川三十三間堂倒る。	181下	0
143	1770	05.25- 10.18	明和	7	05-08	干ばつ1B	五月より八月迄, 諸国大旱(近年, 稲に虫つき, 江戸も虫飛び 歩行。俗に此の虫をカチと云ふ。麦稗も貴し。野菜物, 着の価 より貴し。閏月, 神奈川の鯛三千喉余り死す。海は苦塩と云ふ もの出で, 魚ことごとく死す)。	183上	0
144	1770	09.17	明和	7	07.28		七月二十八日, 夜乾の空赤き事丹の如し。又, 幡雲出る。	183下	0
145	1771	09.09- 10.07	明和	8	08	大雨1B・ 暴風1B	八月, 大風。人家多く倒れ, 廻船もやひ切れて永代橋へ当り, 大橋前にて止まる, 又, 一艘佃島と石川島の間へ吹上げ, 人 夫を以て出す(筠庭云ふ, あたるのみに非ず, 永代橋を突破り たるにこそ, 両国橋左右の欄干を吹き倒す。又, 三千七百両に て出来しといふ東本願寺御堂も, 梁破れて柱倒れ, 平地に狼 藉たりと云へり。芝浦津浪, 本所辺風雨つよく, 死人数を知らず といひ伝ふ。八月朔日大風, 翌二日の変也。)	185下	0
146	1772	04.01	安永	1	02.29	強風1A・ 大火	二月二十九日, 乾より西南の風烈しく, 土烟天を覆ひ日光朦 朧たり。午の刻, 目黒行人坂大門寺(天台)より出火して, (後 略)	188上	0
147	1772	08.29- 08.30	安永	1	08.01- 08.02	大雨1A・ 暴風1A	八月朔日二日, 大風雨, 家屋を吹潰す。当春類焼の小屋吹き 倒るゝもの多く, 賤民の困苦甚だし。	190上	0
148	1772	09.14	安永	1	08.17	大雨1A・ 洪水1A・ 暴風1A	八月十七日, 大風雨再度小屋を覆す。本所深川出水, 床上迄 乗る。大船永代橋を損す。(筠補云ふ, 八月朔日, 二日の大風 雨, 又十七日の大風雨に吹潰されたる民屋御府内は数しれ ず)。	190上	0
149	1773	11.14- 02.10	安永	2	冬	低温1C	冬厳寒, 川々の氷厚く, 通ひ船自由ならざる由にて諸物の価 甚だ貴かりし。これによつて正月門飾の松竹商ふ事なく, 名に あふ両国川も氷閉て, 通ひ船絶えし日も有りし由, 「後見草」 に云へり。	191下	0
150	1774	04.15	安永	3	03.05	強風1A・ 大火	三月五日, 下槇町より出火, 大風にて数町類焼すと云ふ。	192上	0
151	1774	07.14	安永	3	06.06	雷1A	六月六日, 大雷三十七ヶ所に落つる。	193上	0
152	1774	07.31	安永	3	06.23	大雨1A・ 暴風1A	六月二十三日, 大風雨家屋を損じ樹木を倒す。	193上	0
153	1774	11.04- 01.30	安永	3	冬	低温1C	[筠補]この冬寒気つよく, 両国川氷りて日刻まで船の往来絶 えし事あり。駿河は暖国なるにより氷は六, 七十年も見し人な かりしに, 今年は御城堀氷とどたりとなむ。	193下	0

武江年表

154	1778	03.10	安永	7	02.12	強風1A・ 大火	二月十二日、俄に大風起り本石町より出火、靈巖島深川迄延焼。		199上	0
155	1779	05.16- 05.17	安永	8	04.01- 04.02	低温1A	四月朔日、二日、大いに寒し。三日、大雹降る。		202上	0
156	1779	05.18	安永	8	04.03	ひょう1A	四月朔日、二日、大いに寒し。三日、大雹降る。		202上	0
157	1779	10.04	安永	8	08.25	大雨1A・ 洪水1A・ 暴風1A	八月二十五日、大風雨洪水。和泉橋落ち、目白下水道掛樋の岸二十間程崩る(小日向水道町辺往来水五尺ほど出る。)		202下	0
158	1780	07.04	安永	9	06.03	雷1A	六月三日、大雷雨。		204上	0
159	1780	07.02- 07.31	安永	9	06	長雨1B・ 大雨1B	六月、大雨降り続き、二十六日より江戸近在、利根川荒川戸田川洪水。村々人家を流し、永代橋新大橋落つる。助け船を以て此の難を救はせらる。七月より米価貴し(筠庭云ふ、「人に難義のこの水は、忘れまいぞや子の年だんのふ」といふことを、童謡にもうたへり)。		204上	0
160	1780	07.27	安永	9	06.26	大雨1A・ 洪水1A	六月、大雨降り続き、二十六日より江戸近在、利根川荒川戸田川洪水。村々人家を流し、永代橋新大橋落つる。助け船を以て此の難を救はせらる。七月より米価貴し(筠庭云ふ、「人に難義のこの水は、忘れまいぞや子の年だんのふ」といふことを、童謡にもうたへり)。		204上	0
161	1781	08.20- 11.15	天明	1	秋	洪水1C	秋、関東洪水、江戸橋々損ず。		208上	0
162	1783	02.02-	天明	3	春-	長雨1C	春より霖雨、晴天は稀也。	記載は和暦6月 15日・16日間。	210上	0
163	1783	07.15- 07.16	天明	3	06.16- 06.17	大雨1A・ 洪水1A	六月十六日より大雨降り続き、十七日別けて大雨。千住浅草小石川辺出水、大川端柳橋墜つる。小日向大洗堰石垣崩れ、神田上水切る。		210上	0
164	1783	05.01- 10.25	天明	3	夏-秋	長雨1C・ 洪水1C	夏より秋迄霖雨、冷気にして帷子を着る日少し(大かた袷衣綿入衣を着る日多かりし)。		212下	0
165	1783	11.22	天明	3	10.28	強風1A・ 大火	十月二十八日暁八時、小伝馬町より出火、大風にして大伝馬町通り、(中略)其の外数町焼亡。同日午刻鎮まる。		213上	0
166	1783	10.26- 01.21	天明	3	冬	長雨1C	秋の角力冬に延びて、寒中に興行する事今年より始まる。(筠庭云ふ、冬の角力興行は雨ふり続きで、日数後れたるより、遂にかくなりたる也)。		213下	0
167	1785	02.05	天明	4	12.26	強風1A・ 大火	十二月二十六日夜、戌下刻、八代洲川岸より出火、西北風烈しく、(後略)		215上	0
168	1785	05.09- 11.01	天明	5	夏-秋	干ばつ1C	夏より秋迄、旱。凶作。		216上	0
169	1786	02.13-	天明	6	01.15-	強風1C・ 大火	(筠補)正月半ば頃より、日毎に風あらく、物のかはくこと火にてあぶるが如しといへり。		216下	0
170	1786	02.20	天明	6	01.22	強風1A・ 大火	正月二十二日昼九時、湯島天神袈門前、牡丹長家より出火、西北風烈しく、(中略)翌二十三日暁鎮まる。聖堂、神田明神は本社計り残る。		216下	0
171	1786	02.21	天明	6	01.23	強風1A・ 大火	同二十三日、風烈しく、午刻、西久保大養寺門前より出火、(中略)申中刻鎮まる。幅三町、長さ十五町といふ。		217上	0
172	1786	03.05	天明	6	02.06	強風1A・ 大火	二月六日、午刻過ぎ、小石川蓮華寺前、神谷町一丁目より出火、乾風強く、(中略)夜五時頃鎮まる。		217上	0
173	1786	04.13	天明	6	03.15		三月十五日、夜中雪降り桜の花に積る。		217上	0
174	1786	05.28-	天明	6	05-	長雨1C	五月の頃より、雨繁く隔日の様なりしが、七月十二日より別けて大雨降り続き、山水あふれて洪水と成れり(十三日、十四日より牛込小日向出水。石切橋辺武家方、壁際迄、人々乳丈も水あり。小石川辺尤も洪水にて、柳町、戸崎町家潰れ、江戸川水勢すさまじく、橋の流れたるも有り。神田上水掛樋危ふく、大勢の人夫を以て防がしむ。後には樋の上一尺程水乗りしが、十七日十八日頃より少しづつ減じたり。目白下、山崩れ、上水樋つぶれ、水道一月の余絶えたり。昌平橋、筋違橋危ふく、和泉橋は仮橋故流れたり。十五日より、大川千住出水。小塚原は水五尺もあるべし。千位大輪往来留り、掃部宿軒迄水あり。本所深川は家屋を流す。平井受地辺、水一丈三尺と云ふ。大川橋、両国橋危ふく、十六日往来留る。十七日昼、新大橋中の間四間放失。永代橋、二十間程流失。隅田堤三間程式ヶ所押し切れ、男女江戸へ向け、両国橋を渡り遠け来たり、浅草辺は船にて往来せり。吉原は床へ水上る。雑司谷、大水にて怪我人多し。四谷、牛込辺は高き所なれども、一兩日水たたへて、難義せり。其の余、石垣、土手の崩れしは数ふるにいとまあらず。官府よりは、助け船を出し、危難を救はしめられ、十八日、両国西広小路へ御救小屋を建てられ、賤民を救はせらる。十九日より晴天となり。二十日より、水少しづつ落ちて、本所、深川へ船渡しになる。関八州近在近国の洪水はことに甚だしく、筆紙に尽しがたしとぞ。比の水久しくたいへたりしかば、奥羽の船路絶えて、物価弥貴かりしとぞ。筠補云ふ、御入国後、洪水も度々ありしかども、寛保二戌年を、殊に大いなる事にいひしが、今年の水勢は夫より四、五尺も深しといへり。今は聊かの物までも沈れ失ひ、人々困苦甚だし。		217下	0

武江年表

175	1787	08.24-08.30	天明	7	07.12-07.18	長雨1A・大雨1A・洪水1A	五月の頃より、雨繁く隔日の様なりしが、七月十二日より別けて大雨降り続き、山水あふれて洪水と成れり(十三日、十四日より牛込小日向出水。石切橋辺武家方、壁際迄、人々乳文も水あり。小石川辺尤も洪水にて、柳町、戸崎町家潰れ、江戸川水勢すさまじく、橋の流れたるも有り。神田上水掛樋危ふく、大勢の夫を以て防がしむ。後には樋の上一尺程水乗りしが、十七日十八日頃より少しづつ減じたり。目白下、山崩れ、上水樋つぶれ、水道一月の余絶えたり。昌平橋、筋違橋危ふく、和泉橋は仮橋故流れたり。十五日より、大川千住出水。小塚原は水五尺もあるべし。千位大輪往来留り、掃部宿軒迄水あり。本所深川は家屋を流す。平井受地辺、水一丈三尺と云ふ。大川橋、両国橋危ふく、十六日往来留る。十七日昼、新大橋中の間四間放失。永代橋、二十間程流失。隅田堤三間程式ヶ所押し切れ、男女江戸へ向け、両国橋を渡り遠け来たり、浅草辺は船にて往来せり。吉原は床へ水上げる。雑司谷、大水にて怪我人多し。四谷、牛込辺は高き所なれども、一兩日水たたへて、難義せり。其の余、石垣、土手の崩れしは数ふるにいとまあらず。官府よりは、助け船を出し、危難を救はしめられ、十八日、両国西広小路へ御救小屋を建てられ、賤民を救はせらる。十九日より晴天となり。二十日より、水少しづつ落ちて、本所、深川へ船渡しになる。関八州近在近国の洪水はことに甚だしく、筆紙に尽しがたしとぞ。比の水久しくたゞへたりしかば、奥羽の船路絶えて、物価弥貴かりしとぞ。筠桶云ふ、御入国後、洪水も度々ありしかども、寛保二戌年を、殊に大いなる事にいひしが、今年の水勢は夫より四、五尺も深しといへり。今は聊かの物までも沈れ失ひ、人々困苦甚だし。	8月24日～30日までイベントが連続したと解釈した。	217下	0
176	1787	03.06	天明	7	01.17	強風1A・大火	正月十七日、昼八時、青山より出火、西南大風、権太原、鮫が橋、千太谷辺迄類焼。		218下	0
177	1788	01.10	天明	7	12.03		神田明神祭礼、十一月に延びる。再び延引して、十二月三日に渡る。昼時より、雨降る。		220上	0
178	1788	02.07	天明	8	01.01	大雪1A	正月元日、大雪降る。		220上	0
179	1789	02.25-03.26	寛政	1	02		二月、甘露降る。		3上	0
180	1789	-	寛政	1	-		米穀豊饒なり。	記載は和暦2月・5月19日	3上	0
181	1789	09.26	寛政	1	08.08	大雨1A・洪水1A・暴風1A	八月八日、大風雨家屋を損ず。深川辺大水。		3上	0
182	1790	09.28	寛政	2	08.20	大雨1A・洪水1A・暴風1A	八月二十日、大風雨、深川出水、所々家を吹流す。		4上	0
183	1791	01.06-01.07	寛政	2	12.02-12.03		十二月二日、三日夜、甘露降る。		5上	0
184	1791	06.16	寛政	3	05.15	ひょう1A	五月十五日夜、九ツ時分、大雨雹交る(筠庭云ふ、比の筋二つ目辺裏屋残らず風に放られ、柳原には日数立ちたる死人落ちてあり)。		5下	0
185	1791	09.03	寛政	3	08.06	大雨1A・洪水1A・暴風1A・高潮1A	八月六日、大風雨、小田原辺より江戸迄海辺高潮上る。筠庭云ふ、八月六日、大雨、夜に入りて大嵐、深川大水、廻船三艘相川町の河岸に吹上げらる。海辺橋落つる。洲崎辺家流れ人死あり。行徳、船橋辺までも人多く死す。大川筋大水、新大橋の杭二本抜けたり。利根川筋堤切れて東葛西大水。この大あらし諸国おなじ。日本橋西河岸岸なども往来辺に水上げる。同月二十日朝曇り、昼より晴、暮より雲起り海鳴り、夫より大風雨、人みないわず、明七ツ時より風雨止む。		6上	0
186	1791	09.17-09.18	寛政	3	08.20-08.21	大雨1A・暴風1A	八月二十日暮前より雲出で海鳴り、暮過ぎより大風雨、明七時止む。		6下	0
187	1791	09.30-10.01	寛政	3	09.03-09.04	大雨1A・洪水1A・暴風1A・高潮1A	九月四日大嵐、昨夜中より大雨、南風烈しく、八月より強し。巳刻高潮深川洲崎へ溢りて、あはれむべし。入船町、久右衛門町壱丁目式丁目と唱へし、吉祥寺門前に建てつらわたる町家、住居の人数と共に、一時に海へ流れて行方を知らず。弁才天社損じ、拜殿別当非の外流失、のかへしの浪行徳、船橋、塩浜一円につぶれ、民家流失す。其の外諸方家屋吹机じ、川々水溢る。昼時にいたり潮引く、関東筋すべて洪水あふる。		6下	0
188	1791	09.30-10.01	寛政	3	09.03-09.04	大雨1A・洪水1A・暴風1A・高潮1A	筠庭云ふ、九月三日、雨ふり、其の夜大風雨、同四日雨小ぶりになりしかど、風猶はげしく、巳刻ごろ大降りとなり、八月六日夜よりは強く、昼より晴。此の節廻船三艘吹流し、永代橋を突抜けへ、一艘は横間にかゝり、二艘は中洲まで流る。橋脚にかゝりし船は、八月六日相川河岸に吹上げられたるが、深みに出し兼ねてありしを、又々風波の爲めに深みに出たり。足ればかりはこぼれ幸といふべし。又新堀御船蔵吹潰し、洲崎辺は先の嵐に残りたる人家残らず流失、八月の水より一尺高し。関東上方も大風雨にて、米価俄に騰貴しけるに、公より厳しく命ぜられ、両に七斗より高く売買致す間敷とあり、御蔵にて諸士へ御借米之有り、白米小売発百文に九合、一兩日はど光りしが、一升一合になる。此の節、御仕法諸人有難がりしなり。		7上	0

武江年表

189	1791	09.03	寛政	3	08.06	大雨1A・洪水1A・暴風1A	筠庭云ふ、九月三日、雨ふり、其の夜大風雨、同四日雨小ぶりになりしかど、風猶はげしく、巳刻ごろ大降りとなり、八月六日夜よりは強く、昼より晴。此の節廻船三艘吹流し、永代橋を突抜けへ、一艘は横間にかゝり、二艘は中洲まで流る。橋脚にかゝりし船は、八月六日相川河岸に吹上げられたるが、深みに出し兼ねてありしを、又々風波の為に深みに出たり。足ればかりはこぼれ幸といふべし。又新堀御船蔵吹潰し、洲崎辺は先の嵐に残りたる人家残らず流失、八月の水より一尺高し。関東上方も大風雨にて、米価俄に騰貴しけるに、公より厳しく命ぜられ、兩に七斗より高く売買致す間敷とあり、御蔵にて諸士へ御借米之有り、白米小売発百文に九合、一兩日はど光りが、一升一合になる。此の節、御仕法諸人有難がりしなり。	7上	0
190	1793	06.09-11.03	寛政	5	05-09	長雨1B・洪水1B	五月より九月まで、江戸霖雨大川出水。	9下	0
191	1794	02.09	寛政	6	01.10	強風1A・大火	正月十日未中刻、靴町五丁目秋田屋何某といへる酒屋より出火、烈風にて山王御社、(中略)一円焼亡せり。	10上	0
192	1794	07.27-08.24	寛政	6	07	大雨1B・強風1B・雷1B	[筠補]当七月(日を失す)、昼九ツ時より大風雨、下谷池之端別けて風強く電光夥し。不忍池の上真くろなる雲起り、其中より火の玉飛び走りたり。(中略)皆人龍の巻きたるならんといひあへり。	10下	0
193	1795	03.04	寛政	7	01.14	強風1A・大火	正月十四日、西北大風、市谷柳町より出火、類焼多し。	11下	0
194	1795	07.30	寛政	7	06.15	雷1A	六月十五日、夜大雷二十六ヶ所へ落つると云ふ。	12上	0
195	1796	03.12	寛政	8	02.04	雷1A	[筠補]二月四日改正、夕七ツ時頃俄に空かきくもり、雨はふらず唯雷鳴の如く、辰巳の方より西方へ鳴りわたる。	13上	0
196	1797	07.29	寛政	9	07.06	雷1A	七月六日、大雷所々に落つる。	14上	0
197	1799	08.06	寛政	11	07.06	雷1A・ひょう1A	七月六日夜、大雷、子刻より大雹降る。	16下	0
198	1799	12.05	寛政	11	11.09	大雨1A・雷1A	十一月九日、夜四ツ時頃より大雨大雷数か所へ落ちる。	17上	0
199	1801	06.14	享和	1	05.04	雷1A	五月四日、大雷所々へ落ちる。	21上	0
200	1802	06.30-07.28	享和	2	06	長雨1B	六月、霖雨、七月に至り本所深川辺洪水(所々橋落ちる。大川は両国橋のみ通行成る。武州権現堂堤押切といふ。)	22下	0
201	1802	07.29-08.27	享和	2	07	洪水1B	六月、霖雨、七月に至り本所深川辺洪水(所々橋落ちる。大川は両国橋のみ通行成る。武州権現堂堤押切といふ。)	22下	0
202	1803	06.23	享和	3	05.05		五月五日黄昏、西より東へ一筋の赤雲横たはる。	23下	0
203	1804	07.07	文化	1	06.01	大雨1A・雷1A	六月朔日夕七時へ俄に大雨降る。霹靂大にして人々魂を飛ばす(此の時音羽町にて七歳の女児を空中へ巻上げ、直日死骸江戸川より上る)。	30下	0
204	1804	-	文化	1	-		今年、諸国豊熟也。	31上	0
205	1805	06.27-08.23	文化	2	06-07	干ばつ1B	六月、七月雨なし。	32下	0
206	1806	04.22	文化	3	03.04	強風1A・大火	三月四日昼九ツ時芝車町より出火、坤烈風にして高和田町の通り、(後略)。	33上	0
207	1807	01.10	文化	3	12.02	大雪1C・低温1C	(前略)(琉球人比喜親雲上十二月二日終れり。此の年、関東きわめて寒気はげしく雪尺に満つ。(後略))	34下	0
208	1807	02.08-05.07	文化	4	春	干ばつ1C	春雨少なく烈風の火多く、所々火事有り。	35下	0
209	1807	05.08-08.03	文化	4	夏		当夏両国橋辺夕涼み少し。	37上	0
210	1807	09.17	文化	4	08.15		八月十五日、(中略)雨天にて十九日に延びる。	37下	0
211	1808	02.05-02.06	文化	5	01.09-01.10	大雪1A	正月九、十日、大雪降る。五十年來の雪といふ。所々松折れる。	39上	0
212	1808	02.26	文化	5	02.01	大雨1A・雷1A	二月朔日夜、大雨大雷。	39上	0
213	1808	06.24-	文化	5	06.01-	長雨1C	六月初旬より雨繁く降り、十六日より十八日迄、江戸及び近国洪水溢る。米穀価貴し。	39下	0
214	1808	07.09-07.11	文化	5	06.16-06.18	洪水1A	六月初旬より雨繁く降り、十六日より十八日迄、江戸及び近国洪水溢る。米穀価貴し。	39下	0
215	1808	08.09-08.11	文化	5	閏06.18-閏06.20	大雨1A・洪水1A	閏六月十八日より二十日迄大雨降る。再び洪水溢る。	40下	0
216	1808	09.11	文化	5	07.21	大雨1A・雷1A	七月二十一日、夜に入り雷少し鳴る。暮六時より大雨盆をくるが如し。	40下	0
217	1808	09.15	文化	5	07.25	大雨1A・暴風1A	七月二十五日、昼九ツ時より南大風雨、家屋を損じ怪我人多し。豆州獵船七十餘艘覆える。又酒船入津絶えて市中酒なし。	40下	0
218	1808	09.20-10.19	文化	5	08	長雨1B	八月に至りて雨繁く降り、七日、八日、大雨、江戸諸国洪水溢る。	40下	0
219	1808	09.26-09.27	文化	5	08.07-08.08	大雨1A・洪水1A	八月に至りて雨繁く降り、七日、八日、大雨、江戸諸国洪水溢る。	40下	0
220	1809	02.14	文化	6	01.01	強風1A・大火	正月元日、大風、暮六時過ぎに左内町より出火して、(中略)夜九ツ時半鎮まる。(筠庭云ふ、此の火事の翌日昼過ぎに大	41上	0
221	1809	02.14-03.15	文化	6	01	干ばつ1B	正月、雨降らず、日々烈風にして、火事度々あり。	41上	0

武江年表

222	1809	10.02-10.03	文化	6	08.23-08.24	大雨1A・暴風1A	八月二十三日夜、亥の刻より二十四日迄大風雨、家屋を損ずる事夥しく、火の見半鐘を吹落す。伊豆房総漁人多く溺死す。		41下	0
223	1809	12.09-12.10	文化	6	11.03-11.04	大雪1A	十一月三日、四日、大雪、十二月迄解けず。		42上	0
224	1810	10.28-01.24	文化	7	冬		此の冬、マグロの漁ある事夥し。総豆相の三州にて一日一万本を獲るといへり。		43下	0
225	1810	10.28-02.06	文化	8	前冬-01.13	干ばつ1C	(文化8年/1811年)旧冬より雨降らず。正月十四日、雪、十七日、大雪。		43下	0
226	1811	02.07	文化	8	01.14		(文化8年/1811年)旧冬より雨降らず。正月十四日、雪、十七日、大雪。		43下	0
227	1811	02.08	文化	8	01.15	大雪1A	(文化8年/1811年)旧冬より雨降らず。正月十四日、雪、十七日、大雪。		43下	0
228	1811	03.05	文化	8	02.11	強風1A・大火	二月十一日、烈風申刻市谷町念仏坂より出火、(後略)。		43下	0
229	1811	04.10	文化	8	閏02.18		同十八日より、護国寺山内にて、秩父札所観世音惣開帳(開帳中雨繁し)。		44上	0
230	1811	10.19	文化	8	09.03	強風1A・大火	九月三日、品川本宿新武蔵屋といふ旅店より失火、烈風にして南側五丁程焼亡。		45上	0
231	1811	12.31	文化	8	11.16	強風1A・大火	十一月十六日、暮六時過ぎ、南伝馬町より出火、乾風にて中通りへ出、(後略)		45下	0
232	1812	01.24	文化	8	12.11	強風1A・大火	十二月十一日、夜九時過ぎ、浅草柳稲荷裏通りより出火、西北風強く新堀阿部川町より三筋町鳥越に至る。西福寺唯念寺焼くる。		45下	0
233	1812	08.07-09.05	文化	9	07	洪水1B	七月、大水、所々切所あり。		46上	0
234	1812	12.24	文化	9	11.21	強風1A・大火	十一月二十一日夜五時過ぎ、龍泉寺村より出火、南烈風にて吉原新町へ火移り、(後略)。		46下	0
235	1813	01.03-01.31	文化	9	12	低温1B	十二月、厳寒、両国川氷あり。		47上	0
236	1813	01.31	文化	9	12.29	強風1A・大火	十二月二十九日夜五ツ時前、樋町より出火、西北烈風、南伝馬町より京橋竹川岸金六町迄焼亡。		47上	0
237	1813	03.17	文化	10	02.15	強風1A・大火	同十五日夜亥半刻、下谷御成道黒田豊前侯の南隅長屋より出火、烈風にして石川侯御屋敷を吹越し、(後略)。		47下	0
238	1813	12.21	文化	10	11.29	強風1A・大火	同月廿九日夜、高砂町西川より出火、西風烈しく竈河岸へ出、又北風にかはり、(中略)翌朝六時過ぎに鎮火す。		48下	0
239	1813	12.02-01.22	文化	10	11.10-12.02	干ばつ1B	(文化10年12月2日/1814年1月22日)十二月二日、暮六時より、花川戸町、去年焼け残りたる家々吾妻橋際迄焼亡。此の節、五十余日雨無く、日々小火有り。	イベント期間を1月22日までの51日間とした。	49上	0
240	1814	03.02	文化	11	01.11	強風1A・大火	正月十一日、夕七時過ぎより、俄かに大風吹発り、所所家屋を損ず。(後略)		49下	0
241	1814	04.25	文化	11	03.06	大雨1A・雷1A	三月六日、大雨、大雷所々へ墮つ。		50上	0
242	1814	05.20-09.03	文化	11	04-07中(07.20)	干ばつ1A	四月より七月中旬、江戸及び諸国大旱魃(都下、門に松竹を建て疫を禳ふといふ。初春のごとし)。		50下	0
243	1814	11.17-03.14	文化	12	前10.06-02.04	大雪1B	(文化12年)正月、去る十月六日より雪度々降る(二月四日迄二十八度に及ぶ。大雪や江戸と越路の入たがひ皆人毎にちぢみおるなり 曳尾庵)。		51下	0
244	1816	09.24-09.25	文化	13	閏08.03-閏08.04	大雨1A・暴風1A	閏八月三日、四日、大風雨人家を損じ、樹木を倒す。江戸中其の外出水(東本願寺鐘楼倒れ、本所深川の辺家々床上へ水乗る)。		54上	0
245	1817	02.27	文化	14	01.12	強風1A・大火	正月十二日、暁八ツ時雨中、新乗物町南側より出火、(後略)		54下	0
246	1817	06.15-09.10	文化	14	05-07	干ばつ1B	五月より七月に至り、江戸並びに諸国大旱。		55下	0
247	1817	12.29	文化	14	11.22		十一月二十二日、晴天未刻頃、江戸市中雷鳴の如き響して、光り物空中を飛ぶ(後略)。		56上	0
248	1818	-	文政	1	-		(文政元年)米穀去年より豊饒なりしかば、市中の者へ分限に応じ買入れ貯へ置くべき旨を命ぜらる。		60上	0
249	1818	11.15	文政	1	10.17	強風1A・大火	十月十七日、西北大風、夕八ツ時半過ぎ、浅草隨身門前曼荼羅堂より出火、(後略)。		61上	0
250	1818	10.30-11.27	文政	1	10		(和暦10月)[筠補]是の月、諸国豊作米価下落に付き、買持米仰せ付けられる。		61下	0
251	1819	02.15	文政	2	01.21	大雪1A	正月二十一日、大雪。		61下	0
252	1820	02.09	文政	2	12.25	強風1A・大火	十二月二十五日、乾烈風、未中刻、三味線堀佐竹侯御屋敷より出火、(後略)。		64下	0
253	1820	07.15	文政	3	06.06	雷1A	六月六日夕方、大雷所々へ墜つる。		65下	0
254	1820	10.14	文政	3	09.08	大雨1A・暴風1A	九月八日、大風雨所々破損す。		66下	0
255	1821	02.03-07.28	文政	4	春-夏	干ばつ1C	春より夏にたつて大旱、米価登揚す。七月七日夜、たまく雨降る。八日夜、大雨漸く降る。正月より七月に至り二十一度りし迄なし。		69上	0
256	1821	08.04	文政	4	07.07		春より夏にたつて大旱、米価登揚す。七月七日夜、たまく雨降る。八日夜、大雨漸く降る。正月より七月に至り二十一度りし迄なし。		69上	0

武江年表

257	1821	08.05	文政	4	07.08	大雨1A	春より夏にたつて大旱、米価登揚す。七月七日夜、たまく雨降る。八日夜、大雨漸く降る。正月より七月に至り二十一度りし迄なし。		69上	0
258	1822	01.23	文政	5	01.01	大雪1A	正月元日、雪尺に満つ。		69下	0
259	1822	02.12	文政	5	01.21		正月二十一日辰中刻、日傘再び重なり、両傍に虹あり。		69下	0
260	1822	07.18-	文政	5	06-	長雨1C・洪水1C	六月より霖雨、戸田川出水。		70下	0
261	1822	10.05	文政	5	08.21	大雨1A・暴風1A・高潮1A	八月二十一日、大風雨、夕方津涛、深川木場辺三尺陸へ上る。		71上	0
262	1822	10.15-11.13	文政	5	09		九月、小石川赤城明神祭礼、産子町々より出し練物多く出す(十八日晴天にて十九日当日雨天。二十四日に延びる。其の後絶す。)		71上	0
263	1823	05.11-07.07	文政	6	04-05	干ばつ1B	四月五月旱天、五月下旬より霖雨。		72上	0
264	1823	06.29-	文政	6	05.21-	長雨1C	四月五月旱天、五月下旬より霖雨。		72上	0
265	1823	06.27-	文政	6	05.19-	洪水1C	五月十九日より近在出水。大川筋大水(熊谷堤切れ、久保村と云ふ処百余軒流れ、戸田川の渡し通路を止む)。両国橋危く新大橋は半くぼみたり。小柄原地藏尊膝の上迄水あり。		72上	0
266	1823	09.21	文政	6	08.17	大雨1A・暴風1A・高潮1A	八月十七日、夜八時より南大風雨、所々家を損ず。怪我人死亡の者多し。晶川高輪鮫洲大浪、家を没したる所少なからず。		72下	0
267	1823	11.10	文政	6	10.08	雷1A	[筠補]十月八日夜、牛込辺へ大きき一間半程なる石零つ。昼雷鳴あり。夜に入り光り物通る。		72下	0
268	1824	01.25	文政	6	12.25	強風1A・大火	十二月二十五日夜、麴町三丁目より出火、折節西北の風烈しく、(後略)。		72下	0
269	1823	-	文政	6	-	少雪1A	今年更に雪なし。		73上	0
270	1824	01.31-11.20	文政	7	春-秋	干ばつ1C	春より麻疹流行、夏、秋に至る。引続き風行はる。此の節雨更に降らず。(麻疹は東海道筋よりはやり来たれり)。		73上	0
271	1824	03.01	文政	7	02.01	強風1A・大火	二月朔日、昼八時過ぎ、三河町一丁目南角茶漬屋より失火して、西北の風烈しきにつれ、(後略)。		73上	0
272	1824	08.18	文政	7	07.24	大雨1A・暴風1A	七月二十四日、八月十三日、十四日大風雨。		74上	0
273	1824	09.05-09.06	文政	7	08.13-08.14	大雨1A・暴風1A	七月二十四日、八月十三日、十四日大風雨。		74上	0
274	1824	08.24-09.22	文政	7	08	長雨1B・洪水1B	八月中霖雨。関東洪水。		74上	0
275	1824	09.07	文政	7	08.15		八月十五日夜、雨中牛の如き怪獣二疋、北より南へ空中を飛行。光あり。		74上	0
276	1825	02.18-11.09	文政	8	春-秋	長雨1C	春より秋にかけて連雨止む時なし。		75上	0
277	1826	03.09-04.06	文政	9	02	大雪1B	二月、大雪二度降る。		76上	0
278	1826	08.12	文政	9	07.09	強風1A・大火	七月九日、暮時神田松田町より出火、南風にて東神田町々類焼す。		77上	0
279	1828	03.20	文政	11	02.05	強風1A・大火	二月五日、暮六時、神田多町二丁目より失火し、東風にて西神田町々一円に類焼し、又北風になりて本銀町、(後略)。		77下	0
280	1829	02.21	文政	12	01.18	大雪1A	正月十八日、大雪。		78下	0
281	1829	03.21	文政	12	02.17	強風1A・大火	二月十七日、大風、音羽より出火、巢鴨の辺迄焼亡せり。		78下	0
282	1829	04.24	文政	12	03.21	強風1A・大火	三月二十一日、北風烈しく、巳の刻過ぎ神田佐久間町二丁目河岸の材木小屋より火出で、(後略)。		78下	0
283	1829	05.08	文政	12	04.06	強風1A・大火	四月六日、未刻、南風、麻布長坂より出火、(中略)夕方雨降る。		79上	0
284	1830	05.21	天保	1	閏03.29	ひょう1A	閏三月晦日、雹降る(下谷の辺は殊に大きく、目方二十匁或ひは三十匁位也)。		81下	0
285	1830	11.30	天保	1	10.16		幸橋御門外に於いて、親世太夫勸進興行あり。十月十六日を初日として、晴天十五日の間興行の定なりしが、雨天其の外にて翌年へかゝり、(後略)。		84上	0
286	1833	01.06	天保	3	11.16		十一月、琉球人来聘、(中略)(十六日、江戸到着の日初雪降り、雪中管弦にて行列す)。		85下	0
287	1833	09.14	天保	4	08.01	大雨1A・暴風1A	八月朔日、大風雨家屋を損じ樹木を折る。深川三十三間堂半分倒る。所々怪我人多し。		87上	0
288	1834	03.16	天保	5	02.07	強風1A・大火	二月七日、北風烈しくて、昼八時、神田佐久間町二丁目琴師の家より出火して、(後略)。		88上	0
289	1834	03.18	天保	5	02.09	強風1A・大火	(和暦2月)同月九日、烈風にてありしが、暮時檜物町より出火、西河岸通り一丁目迄類焼す。		88上	0
290	1834	03.22	天保	5	02.13	干ばつ1A・強風1A・大火	(和暦2月13日)此の節雨少く風ふきて、火災度々あり。人々安き心なし。		88下	0
291	1835	04.28-11.19	天保	6	夏-秋	干ばつ1C	夏より秋かけて、旱。		88下	0

武江年表

292	1836	05.15-07.13	天保	7	04-05	長雨1B・低温1B	今年四月より日々雨降る。又曇天にて五月に至り霖雨止む時なく、菜蔬生ふる事なし。嵯峨開帳、詣人少く、看せ物あまた出したれども見物なし。両国橋畔納涼また寂莫たり。七月十八日、二百十日に当り、且より大風雨家屋を傷損す。大川通出水あり。是より米価一時に登揚し、夫のみならず八月朔日、先に倍せる大嵐朝より烈しく、屋宇を破り樹木を折り、怪我人あまたあり。近在は水溢る。是れによつて米穀弥乏しく、諸人困苦甚だし。(後略)	91上	0	
293	1836	08.29	天保	7	07.18	大雨1A・洪水1A・暴風1A	今年四月より日々雨降る。又曇天にて五月に至り霖雨止む時なく、菜蔬生ふる事なし。嵯峨開帳、詣人少く、看せ物あまた出したれども見物なし。両国橋畔納涼また寂莫たり。七月十八日、二百十日に当り、且より大風雨家屋を傷損す。大川通出水あり。是より米価一時に登揚し、夫のみならず八月朔日、先に倍せる大嵐朝より烈しく、屋宇を破り樹木を折り、怪我人あまたあり。近在は水溢る。是れによつて米穀弥乏しく、諸人困苦甚だし。(後略)	91上	0	
294	1836	09.11	天保	7	08.01	大雨1A・洪水1A・暴風1A	今年四月より日々雨降る。又曇天にて五月に至り霖雨止む時なく、菜蔬生ふる事なし。嵯峨開帳、詣人少く、看せ物あまた出したれども見物なし。両国橋畔納涼また寂莫たり。七月十八日、二百十日に当り、且より大風雨家屋を傷損す。大川通出水あり。是より米価一時に登揚し、夫のみならず八月朔日、先に倍せる大嵐朝より烈しく、屋宇を破り樹木を折り、怪我人あまたあり。近在は水溢る。是れによつて米穀弥乏しく、諸人困苦甚だし。(後略)	91上	0	
295	1837	09.13	天保	8	08.14	大雨1A・暴風1A	八月十四日、朝より大風雨。人家を損じ樹木を折り怪我人多し。夕方至りて鎮まる。	92上	0	
296	1838	05.10	天保	9	04.17	強風1A・大火	四月十七日、大風午の刻過ぎ、小田原町一丁目湯屋より失火し、始めは北風なしりが南風にかはり、(後略)。	93上	0	
297	1838	10.13	天保	9	08.25	大雨1A・暴風1A	八月二十五日、大風雨地震。	93上	0	
298	1838	12.02	天保	9	10.16	強風1A・波浪1A	十月十六日、大風、朝浅草御厩河岸渡し船一艘覆りて人多く死す。	93下	0	
299	1839	02.24	天保	10	01.11	大雪1A	正月十一日、雪二尺五寸程積る。	93下	0	
300	1839	04.15	天保	10	03.02	強風1A・大火	三月二日、西南大風土砂を飛ばす。夕七ツ時、小石川茗荷谷より出火、(後略)。	94上	0	
301	1840	01.05	天保	10	12.01	強風1A・大火	十二月朔日、大風昼時過ぎ、四谷泰宗寺門前より出火、青山まで延焼に及ぶ。	94上	0	
302	1840	09.26	天保	11	09.01	大雨1A・暴風1A	九月十日朝、大風雨。	95上	0	
303	1842	01.28	天保	12	12.17	大雪1A	十二月十七日、大雪三尺程積る。浅草寺年の詣人少し。	97下	0	
304	1842	03.08	天保	13	01.27	強風1A・大火	正月二十七日、大風明方、深川山本町花屋(酒樓)より失火、近辺類焼あり。	97下	0	
305	1842	04.17	天保	13	03.07	強風1A・大火	三月七日、西大風昼時過ぎ、牛込通寺町より出火にて、(後略)。	98上	0	
306	1842	05.02	天保	13	03.22	強風1A・大火	三月二十二日、北大風昼時、高輪稲荷門前より出火、品川新宿北品川宿類焼す。	98下	0	
307	1842	05.10-11.02	天保	13	夏-秋	干ばつ1C	夏より秋へかけ旱天、泉水の水枯れて池中の魚死したる所多し。	99下	0	
308	1843	01.27	天保	13	12.27	大雨1A・雷1A	十二月二十七日、大雨雷鳴あり。	100上	0	
309	1843	02.09-03.30	天保	14	01.11-02		(前略) 筠補云ふ。正月中旬より白気西方に顕はれ、毎夜宵の内見えしが、二月末に至りて見えずなれり。駿河にては、阿部川の向ひなる、徳願寺山の方に当りて出ると云ふ。	100下	0	
310	1843	06.30	天保	14	06.03	大雨1A・雷1A	六月三日、夜大雨大雷。	101上	0	
311	1844	02.15-02.16	天保	14	12.27-12.28	強風1A・大火	十二月二十七日夜、西風丑時頃、鍛冶橋内より出火、(中略) 二十八日朝東風に替り、(中略) 夕七ツ時過ぎ鎮まる。	101上	0	
312	1845	03.02	弘化	2	01.24	強風1A・大火	正月二十四日、北大風砂石を飛ばす。昼八時過ぎ、青山権太原続三軒屋町より出火して、(後略)。	105上	0	
313	1846	02.10	弘化	3	01.15	強風1A・大火	正月十五日、北風烈しく砂石を飛ばす。夕八時過ぎ、小石川片町の来た武家地より出火して、(後略)。	107下	0	
314	1846	05.25-	弘化	3	夏の半ば(05-)	長雨1C	夏の半ばより雨繁くして晴るゝ事稀なり。(後略)	夏は閏5月を含むため、西暦では4月26日~8月21日となる。	109上	0

武江年表

315	1846	08.12-09.04	弘化	3	06.21-07.14	長雨1B・大雨1B・洪水1B	夏の半ばより雨繁くして晴るゝ事稀なり。六月下旬、大雨弥降り続き、洪水溢れ出て、下総羽生領利根川通り堤の辺九尺余りと聞きしが、二十八日子上刻葛飾郡権現堂村より六里上、本川股村堤切れ洪水漲り出、千住辺家屋を浸し、小原の石地蔵尊肩より上のみあらはる。箕輪の辺一時に水溢れ、床の上三尺ばかりに及ぶ。住居ならずして外へ逃退くとて、溺死のものもありとぞ。日本堤より見るに蒼海の如し。筠補云ふ。六月二十四日、此の節利根川満水、二合半堤切れ小合の溜防ぎで居れど、土手覚束なきよし。二十七日、二十八日、本所北割下水辺少々づゝ出水、二十九日水増し来る。床低き処は皆水つく。石原町御勘定方五味善右衛門へ注進。権現堂堤防切れ水溢るゝより。此の時晦日なり。七月朔日、或る人話に云ふ、(中略)同月三日暁前時分、早鐘太鼓の音頻りに聞え、此の節毎夜いづことしらず。鐘の声聞ゆれども、今暁はいと近き程なり。夜あけて止む。是れは中川六間の辺切れて水入り、亀戸小村井などにて騒ぎたるなり。(中略)七月十五日、水大方引く。(中略)利根川添の処は作物損じたれども、当夏麦作いづれも宜しく、上方東国すべて豊作のよし、諸民安堵の思ひをなす。	「七月十五日、水大方引く。」からイベント期間を和暦7月14日までとした。	109上	0
316	1846	08.15-08.24	弘化	3	06.24-07.03	長雨1B・大雨1B・洪水1B	夏の半ばより雨繁くして晴るゝ事稀なり。六月下旬、大雨弥降り続き、洪水溢れ出て、下総羽生領利根川通り堤の辺九尺余りと聞きしが、二十八日子上刻葛飾郡権現堂村より六里上、本川股村堤切れ洪水漲り出、千住辺家屋を浸し、小原の石地蔵尊肩より上のみあらはる。箕輪の辺一時に水溢れ、床の上三尺ばかりに及ぶ。住居ならずして外へ逃退くとて、溺死のものもありとぞ。日本堤より見るに蒼海の如し。筠補云ふ。六月二十四日、此の節利根川満水、二合半堤切れ小合の溜防ぎで居れど、土手覚束なきよし。二十七日、二十八日、本所北割下水辺少々づゝ出水、二十九日水増し来る。床低き処は皆水つく。石原町御勘定方五味善右衛門へ注進。権現堂堤防切れ水溢るゝより。此の時晦日なり。七月朔日、或る人話に云ふ、(中略)同月三日暁前時分、早鐘太鼓の音頻りに聞え、此の節毎夜いづことしらず。鐘の声聞ゆれども、今暁はいと近き程なり。夜あけて止む。是れは中川六間の辺切れて水入り、亀戸小村井などにて騒ぎたるなり。(中略)七月十五日、水大方引く。(中略)利根川添の処は作物損じたれども、当夏麦作いづれも宜しく、上方東国すべて豊作のよし、諸民安堵の思ひをなす。		109上	0
317	1846	09.21	弘化	3	08.01	強風1A・大火	[筠補]八月朔日、風なく美日なり。先月十一日も二十十日なりしかど穏なりき。		110上	0
318	1846	10.01	弘化	3	08.11	強風1A・大火	[筠補]八月朔日、風なく美日なり。先月十一日も二十十日なりしかど穏なりき。		110上	0
319	1846	08.06-08.20	弘化	3	06.15-06.29	洪水1B	六月十五日、山王御祭礼社頭御修復役により、同月二十九日に延ぶる。比の節洪水未だ減ぜず。七月にいたり弥大雨件。七月八日より再び水増して、大川水勢すさまじく、大川橋、新大橋、永代橋損じて往来止り、両国橋のみ通行なれり。本所辺所によりで水軒端に付く。本所の土民夜中俄に江戸をさして逃げ来る人有り、共の混雑いはんかたなし。夫より船持もに命ぜられて、日々助船数艘を出されて、これを救はしめらる(後略)。		110下	0
320	1846	08.22-09.20	弘化	3	07	長雨1B・大雨1B	六月十五日、山王御祭礼社頭御修復役により、同月二十九日に延ぶる。比の節洪水未だ減ぜず。七月にいたり弥大雨件。七月八日より再び水増して、大川水勢すさまじく、大川橋、新大橋、永代橋損じて往来止り、両国橋のみ通行なれり。本所辺所によりで水軒端に付く。本所の土民夜中俄に江戸をさして逃げ来る人有り、共の混雑いはんかたなし。夫より船持もに命ぜられて、日々助船数艘を出されて、これを救はしめらる(後略)。		110下	0
321	1846	08.29	弘化	3	07.08	洪水1A	六月十五日、山王御祭礼社頭御修復役により、同月二十九日に延ぶる。比の節洪水未だ減ぜず。七月にいたり弥大雨件。七月八日より再び水増して、大川水勢すさまじく、大川橋、新大橋、永代橋損じて往来止り、両国橋のみ通行なれり。本所辺所によりで水軒端に付く。本所の土民夜中俄に江戸をさして逃げ来る人有り、共の混雑いはんかたなし。夫より船持もに命ぜられて、日々助船数艘を出されて、これを救はしめらる(後略)。		110下	0
322	1847	05.08	弘化	4	03.24		(前略)三月二十四日昼夜快晴にてありしが、夜四時頃俄に大地震ひ出し、(後略)。		111下	0
323	1848	03.10-03.24	嘉永	1	02.06-02.20		二月六日より晴天十五日の間、(後略)。		113下	0
324	1848	07.01-	嘉永	1	06.01-	干ばつ1C	六月初旬より旱。		114上	0
325	1849	05.22-07.19	嘉永	2	閏04-05	長雨1B・低温1B	閏四月より五月まで、霖雨冷気を催せり。		118上	0
326	1849	07.08	嘉永	2	05.19	大雨1A・暴風1A	五月十九日、大風雨家屋を損ふ。		118上	0

武江年表

327	1849	08.05-08.06	嘉永	2	06.17-06.18	大雨1A・暴風1A	六月十七日、十八日、大風雨。		118上	0
328	1849	08.10	嘉永	2	06.22	雷1A	二十二日、雷鳴。夜五時より深夜迄止む時なく数ヶ所へ墜つる。		118上	0
329	1849	08.18-09.16	嘉永	2	07	長雨1B・大雨1B・洪水1B	(和暦7月)同月、大雨度々降り、常陸下総洪水溢し、人家溺る。	「同月、大雨度々降り、」から長雨とも解釈した。	118下	0
330	1849	12.14	嘉永	2	10.30	大雨1A・強風1A・雷1A	(和暦10月)同晦日、暮時より雨降り出し、夜子刻より大風雨雷鳴あり。		119下	0
331	1850	02.18	嘉永	3	01.07		(和暦1月)同七日、昨夜中より雪降り出し十年ぶりにて積る。		120下	0
332	1850	03.18	嘉永	3	02.05	強風1A・大火	五日晴天(彼岸の入りなり)、乾大風土砂を飛ばす。巳刻麴町五丁目続き岩城升屋の後なる、高田放生寺の拝借地に在る見守番人の家(炭団屋)より出火して、(後略)。		121上	0
333	1850	07.19	嘉永	3	06.11-	低温1B・寡照1B	六月中旬より曇天多く、冷氣にて病者多し。		122下	0
334	1850	09.13	嘉永	3	08.08	大雨1A・雷1A	八月八日、夕七時頃、又夜五時頃より大雨大雷、暁に至りて江戸並びに近辺百余所へ墜ちける由也、諸人恐怖す。		123上	0
335	1850	09.30	嘉永	3	08末(08.25)		八月末、桜樹の返り花咲きたる所あり。	8月末を8月25日とした(和暦)。	123上	0
336	1850	12.03	嘉永	3	10.30		(和暦10月)晦日雨降る。琉球恩赦の使節江戸へ着す(後略)。		123上	0
337	1851	02.14-02.17	嘉永	4	01.14-01.17		[無補]正月十四日より十七日迄降雪。		124上	0
338	1851	03.18-05.15	嘉永	4	02.16-04.15	長雨1B	二月十六日より六十日の間、真先稲荷社開帳。雨天続きて詣人少し。		124下	0
339	1851	02.01-07.27	嘉永	4	春-夏	長雨1C	此の春より雨しばく降り、夏の末より秋へかけて炎威殊にして疫病行はる。七月の頃は東海道大井川砂礫やけて涉りがたく、数日川どめのことありしとぞ。		125上	0
340	1851	06.29-08.26	嘉永	4	夏末(06)-07	高温1C	此の春より雨しばく降り、夏の末より秋へかけて炎威殊にして疫病行はる。七月の頃は東海道大井川砂礫やけて涉りがたく、数日川どめのことありしとぞ。	夏末を6月とした。	125上	0
341	1851	05.03	嘉永	4	04.03	強風1A・大火	(和暦4月)同三日、北大風未刻、四谷塩町二丁目続き北寺町辺武家地より出火、(後略)。		125上	0
342	1851	08.16	嘉永	4	07.20	雷1A	(和暦7月)同二十日夜雨、大雷所々へ墜つる。凡そ三十余といふ(其れ以来晴天二十五日つき、八月十六日に至りて雨ふる)。		126上	0
343	1851	08.17-09.10	嘉永	4	07.21-08.15	干ばつ1B	(和暦7月)同二十日夜雨、大雷所々へ墜つる。凡そ三十余といふ(其れ以来晴天二十五日つき、八月十六日に至りて雨ふる)。		126上	0
344	1851	10.11	嘉永	4	09.17	強風1A・大火	九月十七日、夜子中刻北大風、浅草門跡添地長泉寺より出火、(後略)。		126下	0
345	1851	11.11	嘉永	4	10.18		十月十八日晴天、浅草寺輪蔵再建新始の式あり(後略)。		126下	0
346	1851	10.25-11.22	嘉永	4	10		十月、桜花所々に咲く。		126下	0
347	1851	10.25-01.20	嘉永	4	冬	干ばつ1C	当冬、更に雨なし。春へかけ度々火災あり。		127下	0
348	1851	10.25-02.04	嘉永	5	前冬-01.15	干ばつ1C	(嘉永5年)去年冬より更に雨降らず、火災度々に及ぶ。依りて正月十五日より、火の元守方嚴重の御沙汰あり。(後略)		128上	0
349	1852	02.20	嘉永	5	02.01	大雪1A・低温1A	二月朔日、大雪、寒気強し。		128上	0
350	1852	03.21-04.18	嘉永	5	閏02	低温1B	(閏2月)彼岸の頃迄春寒去らず、雪度々降る。		128下	0
351	1852	05.04	嘉永	5	03.16	強風1A・大火	(和暦3月)同十六日、夜子下刻、北品川宿より出火、南風烈しく二町ほど焼亡す(東海寺門前並びに耗舎多く焼くる)。		129上	0
352	1852	04.19-05.18	嘉永	5	03	長雨1B	三月、霖雨。		129上	0
353	1852	08.24	嘉永	5	07.10		七月十日曇、(後略)。		130下	0
354	1852	09.03-09.05	嘉永	5	07.20-07.22	大雨1A・洪水1A	(和暦7月)同二十日、二十一日、二十二日、大雨。千住辺出水、三日湛へたり。		131上	0
355	1852	09.23	嘉永	5	08.10	大雨1A・暴風1A	八月十日、朝五時半より九時頃迄大風雨、家屋を破り樹木を折る。永代橋へ大船流れ当りて橋を傷ふ。所々に怪我人あり。		131下	0
356	1853	02.23-02.25	嘉永	6	01.16-01.18	大雪1A	(和暦1月)同十六日、朝より大雪、尺に満つ。翌十七日より十八日まで、三日の間大雪降りつもる(十八日申刻に止む。但し十七日より夜へかけて降りたり。七旬の老翁もかゝることは見ず)。春、寒殊に烈しく火災度々あり。		132下	0
357	1853	04.08-05.07	嘉永	6	03	長雨1B	(和暦2月20日)同日より六日の間、王子権現同稲荷社開帳(三月雨天の日多く詣人少し。五月二十二日迄の日延べあり)。		133上	0
358	1853	06.27-07.16	嘉永	6	05.21-06.11	干ばつ1B	五月下旬より七月中旬に至り、炎旱数旬を躑へたり(五月二十一日より六月十一日迄、同十三日より七月十日迄なり。同十一日、十二日の両日雨降る)。		134下	0

武江年表

359	1853	07.18-08.14	嘉永	6	06.13-07.10	干ばつ1B	五月下旬より七月中旬に至り、炎旱数旬を躰へたり(五月二十一日より六月十一日迄、同十三日より七月十日迄なり。同十一日、十二日の両日雨降る)。		134下	0
360	1854	01.19	嘉永	6	12.21	雷1A	(嘉永6年12月21日)同二十一日、暁雨雷鳴あり。季冬より春へかけ暖気にて氷なし。		137上	0
361	1853	12.30-04.26	嘉永	6	12-翌春	高温1C	(嘉永6年12月21日)同二十一日、暁雨雷鳴あり。季冬より春へかけ暖気にて氷なし。		137上	0
362	1854	01.29-02.26	安政	1	01	高温1B	正月暖気なり。		140下	0
363	1854	04.23	安政	1	03.26	雷1A	三月二十六日夜、雷鳴、翌二十七日、昼又雷鳴、所々へ落つ。		140下	0
364	1854	06.07	安政	1	05.12	雷1A	五月十二日、雷雨、深川扇橋細川侯中屋敷へ墮ち、雷火にて焼くる。		141上	0
365	1854	09.15	安政	1	閏07.23		(閏7月)山王権現祭礼延びて閏七月二十三日に執行(前日より快霽。例よりは涼し。(後略))		141下	0
366	1854	12.24	安政	1	11.05	強風1A・大火	(和暦11月)同五日、亥刻、浅草聖天町より出火、西風烈しく猿岩町三丁目へ移り、(後略)。		142下	0
367	1855	02.14	安政	1	12.28	強風1A・大火	(和暦12月)同二十八日、酉下刻、神田多町二丁目北側なる乾物屋三河屋半次郎が宅より出火して、始めは北西の風強く、(中略)北風に替りて須田町二丁目、(後略)。		142下	0
368	1854	11.20-02.16	安政	1	冬	干ばつ1C	此の冬、更に雨なし。		143上	0
369	1855	02.17-03.17	安政	2	01	干ばつ1B	正月、日々晴天。	「日々晴天」を干ばつと解釈した。	143下	0
370	1855	02.17-02.21	安政	2	01初(01.01-01.05)		正月初旬、所々梅花開く。	1月初旬を1月1日～1月5日とした。	143下	0
371	1855	03.17	安政	2	01.29	強風1A・大火	(和暦1月)同二十九日、初午の宿宮にあたりしが、同夜子刻、本所駒留端北なる松前侯屋敷より出火、大風にして三宅侯其の余武家地多く焼け、(後略)。		143下	0
372	1855	03.81-04.16	安政	2	02	低温1B	(安政2年2月)二月、余寒強く、去年より雪更に降らず。		143下	0
373	1854	11.20-04.16	安政	2	前冬-02	少雪1C	(安政2年2月)二月、余寒強く、去年より雪更に降らず。		143下	0
374	1855	04.07	安政	2	02.21	雷1A	(和暦2月)同二十一日、夜雷雨。		144下	0
375	1855	04.17	安政	2	03.01	強風1A・大火	(和暦3月)同朔日夜、子下刻、小網町壹丁目と堀江町四丁目との地尻境より出火、坤の風熾にて、(後略)。		144下	0
376	1855	06.14-07.13	安政	2	05		(和暦5月)同月、元数奇屋町二丁目に盆種の桜花咲く。		145下	0
377	1855	07.24	安政	2	06.11	雷1A	六月十一日、夕七時過ぎ雨、雷所々へ落つる。		145下	0
378	1855	08.13-09.10	安政	2	07		(和暦7月)同月南の方、月下に白気現はる。十一日夜四時、殊に鮮なり。		146上	0
379	1855	11.11	安政	2	10.02		十月二日、細雨時々降る。夜に至りて雨なく天色朦朧たりしが、亥の二点大地俄に震ふ事甚だしく、(後略)。	「安政大地震」	147上	0
380	1855	01.14	安政	2	12.07		(安政2年12月)同七日夕七時より、雪降り出して少しく積れり(地震後飯の繕ひしたる家々、小屋がけ野宿の賤民、その困苦いふばかりなしとぞ)。		153下	0
381	1855	01.13	安政	2	12.20	大雪1A	(安政2年12月)同二十日、雪降りて尺に満つ。		153下	0
382	1856	03.07-04.04	安政	3	02		二月、旋風吹くこと度々なり。		154上	0
383	1856	03.21	安政	3	02.15	強風1A・大火	(和暦2月)同十五日、丑中刻、北西大風なりしが、下谷広徳寺向おたふく横町の武家地より出火して、(後略)。		154上	0
384	1856	07.16	安政	3	06.15	雷1A	六月十五日、山王権現祭礼、恒例の通興行列車衆計り御城内へ入る。附祭の伎踊遶物と御屋大神楽、同じく独楽廻しは今年更に比さず。午刻、驟雨雷鳴あり。神輿の行列のみは跡に残りて雨にあひたり。		155下	0
385	1856	09.23	安政	3	08.25	大雨1A・暴風1A	八月九日より、深川永代寺に於いて、相州江の島本宮岩屋弁才天開帳始まりしが、更に詣人少し。然るに同月二十五日の大風雨に仮家潰れて、境内にある所の小堂に移し、程なく帰国あり。		155下	0
386	1856	09.21-09.22	安政	3	08.23-08.24		八月二十三日、微雨。二十四日、二十五日、続いて微雨。二十五日、暮れて次第に降りしきり、南風烈しく、戌の下刻より殊に甚だしく、近来稀なる大風雨にて、喬木を折り、家屋塀壁を損ふ。又海嘯により逆浪漲りて、大小の船を覆し、或ひは岸に打上げ、石垣を損じ、洪波陸へ溢蓋して家屋を傷ふ。(後略)。	関連記載はp.157上に続く。	156上	0
387	1856	09.23	安政	3	08.25	大雨1A・暴風1A・高潮1A	八月二十三日、微雨。二十四日、二十五日、続いて微雨。二十五日、暮れて次第に降りしきり、南風烈しく、戌の下刻より殊に甚だしく、近来稀なる大風雨にて、喬木を折り、家屋塀壁を損ふ。又海嘯により逆浪漲りて、大小の船を覆し、或ひは岸に打上げ、石垣を損じ、洪波陸へ溢蓋して家屋を傷ふ。(後略)。	関連記載はp.157上に続く。	156上	0
388	1857	01.28	安政	4	01.03		正月三日、暁より雪降りつもる。去年の冬より火災は少し。		159上	0
389	1857	02.26	安政	4	02.03	大雪1A	二月三日、大雪降り積る。		159下	0
390	1857	06.18-06.19	安政	4	05.27-05.28	大雨1A・洪水1A	(和暦5月)[無補]同二十七、八日、大雨、芝愛宕下出水、溺死四人あり。千住洪水。往來の出水の乳を越ゆ。		161上	0

武江年表

391	1857	09.10	安政	4	07.22	大雨1A・洪水1A・暴風1A・雷1A	(和暦7月)同二十二日、夜風雷雨鳴あり。川々出水。家屋を傷損す。	162上	0	
392	1857	09.14	安政	4	07.26	大雨1A	(和暦7月)同二十六日、夜に入りて大雨降る(二十六夜)。(後略)	162上	0	
393	1857	11.28	安政	4	10.12	強風1A・大火	(和暦10月)同十二日、朝より北風烈しかりしが、夜九時過ぎ駒込浅嘉町より出火して、(後略)	163上	0	
394	1857	12.10	安政	4	10.24	大雨1A	(和暦10月)同二十四日、夜四時前大雨中、浅草三間町火事。	163下	0	
395	1858	02.16	安政	5	01.03	大雪1A	正月三日、暁より雪降積り、尺に余れり。	164上	0	
396	1858	02.06	安政	5	01.21		(和暦1月)同二十一日雪、亜墨利加の使節、江戸を立ち、芝より乗船して豆州下田に赴く。	164上	0	
397	1858	03.24	安政	5	02.10	強風1A・大火	(和暦2月10日)(前略)朝より北風烈しかりしが、日暮れてより少しく鎮まりぬ。然るに戌国安針町長浜町二丁目の境、魚店の納屋より火出て一時に焼広がり、(後略)。	164上	0	
398	1858	04.16	安政	5	03.03	大雨1A・強風1A・大火	(和暦3月)同三日、猛雨中暁七時半時、通新石町西裏御通卸し菓子屋伊之助宅より出火、(中略)夜明けて後風雨猶烈し。	165上	0	
399	1858	06.02-06.10	安政	5	04.21-04.29	低温1B	(和暦4月)同下旬、甚だ冷気を催す。	165下	0	
400	1858	05.26	安政	5	04.14	雷1A	(和暦4月)十四日夜雷鳴(本郷へ二ヶ所へ落つ)。	165下	0	
401	1858	07.16	安政	5	06.06	大雨1A・雷1A	同六日、夕八時過ぎ驟雨降出し、七時より猛雷雨鳴強くて、深夜迄に数ヶ所に墜つる(江戸の内計も凡そ四十余ヶ所と云ふ。近郊にも及ぼせりとぞ。)	165下	0	
402	1858	07.21-	安政	5	06.11-		同十一日より日々雨降る(十四日は山王祭前日にて、朝は雨ふり後止みて曇り、宵より晴れて月晴朗なり)。	166上	0	
403	1858	07.25	安政	5	06.15	大雨1A・洪水1A・雷1A	同十五日、(中略)今日快晴にてありしが、日暮過ぎより夜に至り大雨盆を傾くるが如し。又雷鳴あり(出し計りは大抵其の町内へ曳入れし頃なり)。神輿行列山下御門の内より此の強雨にあひ、壕塹の水陸地へ溢れ、膝下より水に浸りて各迷惑せしとぞ。又所々に出水あり。	166上	0	
404	1858	08.05-08.06	安政	5	06.26-06.27	大雨1A・洪水1A	同二十六日、快晴にてありしが、申下刻より雨降出し、夜中降りつき暁にいたりて尚大雨に成る。(中略)翌日、又大雨にて所々大水溢れ出たり。	166下	0	
405	1858	05.13-11.05	安政	5	夏-秋	長雨1C・低温1C	夏中、雨多くして炎威烈しからず。秋にいたりても天顔快晴の日少し。冷気がちにて眩暈、逆上、眼病、頭痛をやむ人多し。	166下	0	
406	1858	10.07-12.04	安政	5	09-10	強風1A・大火	九月、十月、雨少し。	169下	0	
407	1858	12.16	安政	5	11.12	強風1A・大火	同月十二日、朝より乾大風、砂石を飛ばす。未下刻、赤坂三分坂上専福寺門前の町やより失火せり。(後略)	169下	0	
408	1858	12.19	安政	5	11.15	強風1A・大火	同十五日暁丑刻、神田相生町の北なる若林氏や式より失火し、始めは乾の風烈しく、(中略)又東の風になりて神田町々一円に焼けた(後略)。	169下	0	
409	1858	11.06-02.02	安政	5	冬	干ばつ1C	此の冬、更に雨なし。	171上	0	
410	1859	03.03	安政	6	01.01		正月元日、節分、快晴。	171上	0	
411	1859	02.04	安政	6	01.02		同二日、雪降る。	171上	0	
412	1859	03.13	安政	6	01.11	強風1A・大火	同十一日、申下刻、小石川戸崎祥雲寺より出火、北風にて戸崎町、(中略)長さ三町焼くる。(後略)	171上	0	
413	1859	03.09	安政	6	02.05		二月五日、初午快晴、所々稲荷祭花出し等出して賑へり。	171下	0	
414	1859	03.09	安政	6	02.05		(和暦2月5日)此の頃、梅花漸く開き初む。	171下	0	
415	1859	03.18-	安政	6	02.14-		(和暦2月)同十四日より、彼岸中七日の間快晴続きたり。近年かゝることを見ず。	171下	0	
416	1859	03.25	安政	6	02.21	強風1A・大火	同二十一日、亥の刻より南風烈しかりしが、二十二日暁弥烈しく坤の方より扇ぎ、丑の五点、青山穩田芸州侯下屋敷内、松平江州侯屋敷内より出火、(後略)。	172上	0	
417	1859	04.05	安政	6	03.03	雷1A・ひょう1A	三月三日、上巳佳節、快霧、此の頃上野彼岸桜盛なり。夜に入りて雷鳴氷雨降る。	174上	0	
418	1859	04.17	安政	6	03.15	強風1A・大火	同十五日、夜西北大風戌刻、神田仲町一丁目葉屋富之助宅より失火して、(後略)。	174上	0	
419	1859	04.28-06.29	安政	6	03末(03.26)-05	低温1B	(和暦3月)同月末より四月五月冷氣なり。	3月末を3月26日からとした。	174下	0
420	1859	08.23	安政	6	07.25	大雨1A・洪水1A・暴風1A	同二十五日、朝より大風雨、家屋牆塼を損じ、樹木を折り、所々出水あり。近在も又出水ありて、堤を崩し、田圃を傷ふ。	175下	0	
421	1859	09.08-09.09	安政	6	08.12-08.13	大雨1A・暴風1A	八月十二日夕方より、翌十三日にかけて大風雨。	175下	0	
422	1859	09.26-11.23	安政	6	09-10	高温1B	九月、十月、甚だ暖気なり。眼病煩ふ人多し。	176上	0	
423	1859	10.08-10.10	安政	6	09.13-09.15		(前略)(十三日より快晴にして見物殊に夥しかりし。十五日夜、神輿帰社の後雨降る)。	176上	0	
424	1859	11.03-11.04	安政	6	10.09-10.10	大雨1A	(前略)九日宿宮の日、大雨降りければ、十日を宵宮とし、曇天にわたし、又十日に大雨降りしかど雨中にわたせり。(後略)	176下	0	
425	1859	11.26	安政	6	11.03	強風1A・大火	十一月三日、申刻、麻布龍土伊達遠州侯邸より出火、北風にして龍土亥村木町御先手組屋敷焼ける。(後略)	176下	0	

武江年表

426	1859	12.01	安政	6	11.08	大雨1A	(和暦11月8日/西暦12月1日)同月八日大雨。昼時過ぎより霧に属す。此の日酉の日にてありしが、驚大明神社参詣少し。これより晴天続き、更に雨なし。十二月小火屋あり。		177上	0
427	1859	12.02-	安政	6	11.09-	干ばつ1C	(和暦11月8日/西暦12月1日)同月八日大雨。昼時過ぎより霧に属す。此の日酉の日にてありしが、驚大明神社参詣少し。これより晴天続き、更に雨なし。十二月小火屋あり。		177上	0
428	1859	11.25-01.23	万延	1	前11-01.01	干ばつ1B	(万延元年1月1日/1860年1月23日)元日、晴天(去年十一月以来雨雪甚だ少し。火災屢あり)。		177下	0
429	1860	01.23	万延	1	01.01	強風1A・大火	(万延元年1月1日/1860年1月23日)元日、晴天(去年十一月以来雨雪甚だ少し。火災屢あり)。		177下	0
430	1860	02.22-04.20	万延	1	02-03	長雨1B	二月より三月迄、霖雨つゞきて繁盛の場淋しかりし。下旬、単桜咲き始む。		178上	0
431	1860	04.11-04.20	万延	1	03.21-03.30		二月より三月迄、霖雨つゞきて繁盛の場淋しかりし。下旬、単桜咲き始む。		178上	0
432	1860	04.14	万延	1	03.24		角力興行も雨天にて延び、三月より興行す。三月二十四日、漸く霽に属す。		178下	0
433	1860	03.24	万延	1	03.03		同三日、上巳、佳節、朝より雪降り積る。外桜田に於いて恩劇の事あり(他書に見えればこゝにさす)。	「桜田門外の変」	178下	0
434	1860	09.07-09.09	万延	1	07.22-07.24	大雨1A・暴風1A・波浪1A	同二十二日より雨、二十四日朝より北大風雨終日止まず。家屋を損じ、塙牆を倒し、樹木を折り、海上には覆破漂蕩の船多かりしと聞ゆ。夜に入りて鎮まる(後略)。		180下	0
435	1860	09.29	万延	1	08.15		八月十五日夜、月清光一点の雲なし。諸人月宴を催し、河辺殊に賑へり。		181上	0
436	1860	10.11	万延	1	08.27	強風1A・大火	同二十七日曇り、南風烈しく扇ぎしが、暮六時、猿若町一丁目勤三郎が芝居の後茶屋奴利屋栄助宅より失火して、(中略)(火事の間宵り時々雨ふりしかば、諸人の困苦いふ計なしとぞ)。(後略)		181上	0
437	1861	01.31-02.09	万延	1	12.21-12.30		(万延元年12月/1861年1月11日~2月9日)下旬、度々雪降る。		182上	0
438	1861	02.10	文久	1	01.01	強風1A・大火	元日快晴、早春雨多し。		182下	0
439	1861	02.10-03.10	文久	1	早春(01)	長雨1C	元日快晴、早春雨多し。	「早春」を1月とした。	182下	0
440	1861	02.10-08.05	文久	1	早春-夏	長雨1C	早春より夏にかけ雨天多し。		183上	0
441	1861	03.18-04.27	文久	1	02.08-03.18	長雨1B	(和暦2月)同八日より三月十八日まで、(中略)(此の頃雨多くして詣人少し)。		183上	0
442	1861	?	文久	1	03		三月上巳、雨。		183下	0
443	1861	04.13	文久	1	03.04	雷1A	同四日、暮時雷雨。		183下	0
444	1861	04.26	文久	1	03.17	雷1A	同十七日、夕八時頃雷雨。又黄昏雷鳴ありて所々へ墮つる。(聞所ばかり凡二十余所なり)。		183下	0
445	1861	06.08-07.27	文久	1	05-06.20	干ばつ1B	(和暦5月)同月、炎旱数旬をわたり、六月下旬やうやく雨降る。	イベント期間を和暦6月中旬(6月20日)までとした。	184下	0
446	1861	08.06-11.02	文久	1	秋		当秋、五穀豊饒にして近年稀の事といふ。		184下	0
447	1861	10.19	文久	1	09.16		(前略)(十六日の礼参雨ふりて十七日に参詣多し)。		185上	0
448	1861	11.07-	文久	1	10.05-	大雨1A・強風1A	同五日夜より暁迄、大風雨、家屋を損す。		185上	0
449	1861	11.11	文久	1	10.09		同十日、湯島天満宮祭礼、産子町々車楽遊物等出て、九日には群集せしが、当日雨天にて渡らず。		185上	0
450	1861	12.02	文久	1	11.01	大雨1A	十一月朔日、酉の祭参る。終日終夜の大雨にて詣人少し(後略)。		186上	0
451	1861	11.03-01.29	文久	1	冬	干ばつ1C・少雪1C	冬、雨少く、雪更に降らず。	早春を1月とした。	186上	0
452	1862	01.30	文久	2	01.01	大雪1A	正月元日、雪降り積り、尺に余る(二十日頃迄消えず)。		187上	0
453	1862	01.30-	文久	2	01-	干ばつ1C	正月より雨少く、日々風吹く。		187上	0
454	1862	02.28	文久	2	01.30	強風1A・大火	(和暦1月)晦日、南大風、夕八時過ぎ、小石川指谷南片町続き武家地、木村某宅より出火し、(後略)。		187上	0
455	1862	03.11	文久	2	02.11	強風1A・大火	同十一日、暁七時過ぎ、下谷町一丁目続き常在寺より出火、(中略)雨少し降る。		187下	0
456	1862	03.19	文久	2	02.19	強風1A・大火	同十九日、北風烈しく戌中刻、江戸橋蔵屋敷の内、同橋際の見守番屋番人文蔵万助の床店より失火して、(後略)。		188上	0
457	1862	01.30-03.29	文久	2	01-02	干ばつ1A・大火	(和暦2月)正月より雨なく、日々風扇りて火災度々あり。	記載日は和暦2月20日と2月25日の間。	188上	0
458	1862	05.19-05.23	文久	2	04.21-04.25	長雨1A	(前略)(去年十一月の延びたるなり。二十一日より二十五日迄日々雨降る)。	5日連続で雨が降ったということから「長雨」とした。	189上	0
459	1862	06.27-07.26	文久	2	06	干ばつ1B	六月、炎旱数旬に及べり。		189上	0
460	1862	-	文久	2	-		(和暦6月)今年米穀豊饒にして、八朔二百十日僉日和なり。然れども諸物の価尚貴踊し、(後略)。		190下	0

武江年表

461	1862	08.25-	文久	2	08-	長雨1C	八月以来、雨多くして晴天の日稀なり。		191上	0
462	1863	01.24	文久	2	12.05	強風1A・ 大火	同五日、大風夕八時、青山百人町辺火事。		192上	0
463	1863	01.26	文久	2	12.06	強風1A・ 大火	同六日、昼四時過ぎ、西北大風、大千住五丁目火事。		192上	0
464	1863	02.18- 03.18	文久	3	01	干ばつ 1B・高温 1B・少雪 1B	正月暖気、雨雪なし。去歳より所々の梅開く。正月火事少し。		192下	0
465	1863	02.26	文久	3	01.09	強風1A・ 大火	同九日、夜四時、小石川極楽水松平駿州侯下屋敷より出火、北風強く類焼もあり。		192下	0
466	1863	03.19-	文久	3	02		二月初旬より桜花咲く。		192下	0
467	1863	07.18	文久	3	06.03	強風1A・ 大火	同三日、南大風今暁八時頃、飯倉町続き芝永井町代地(赤羽なり)明家より出火して、(後略)。		194上	0
468	1863	11.13	文久	3	10.03	強風1A・ 大火	十月三日、暁寅刻、赤坂紀の国坂下町屋より出火。北風にて火消屋敷迄焼込み、元赤坂町等都て長さ二町余焼ける。		195上	0
469	1863	12.11- 01.24	文久	3	11.01- 12.16	干ばつ1B	十一月朔日以来更に雨降らず、火災度々あり。十二月十七日、浅草寺年の市の日たまく雨ふる。夫より正月に至るまで雨更になし。年内より梅花咲く。		195下	0
470	1864	01.26- 03.07	文久	3	12.18- 01	干ばつ1B	十一月朔日以来更に雨降らず、火災度々あり。十二月十七日、浅草寺年の市の日たまく雨ふる。夫より正月に至るまで雨更になし。年内より梅花咲く。		195下	0
471	1864	02.10	元治	1	01.03	強風1A・ 大火	正月三日、青山玉窓寺より失火して、南大風吹、今井谷まで焼ける。		196上	0
472	1864	02.16	元治	1	01.09	強風1A・ 大火	同九日、暁八時過ぎ、北東風烈しく、深川永代寺門前仲町より失火して、(後略)。		196上	0
473	1863	12.11- 02.15	元治	1	前11- 01.08	干ばつ1B	(元治元年)去冬十一月、十二月、雨降らず。正月九日にいたり、曇り小雪ふり間もなく止む。		196下	0
474	1864	03.10	元治	1	02.03	強風1A・ 大火	二月三日、北大風夜に入り少し穏なり。しかるに夜五時前、本銀町四軒屋敷の明家より出火して、(後略)。		196下	0
475	1864	09.09	元治	1	08.09	大雨1A・ 暴風1A	同九日、夜前より雨、夜明より大風雨、南風扇ぎ、後西北風に替り、屋上塀牆等大破に及ぶ所多し。		198下	0
476	1864	09.14-	元治	1	08.14-	長雨1C	同十四日、十五日雨。良夜看月空し。夫より雨しげく、彼岸中も晴天一日なり。		198下	0
477	1864	10.01- 10.30	元治	1	09	高温1B	九月、暖気にて単衣を着し、笠、日傘等を用ふる人多し。		199下	0
478	1865	01.11	元治	1	12.14		十二月十四日暁風、牛込揚場町河岸通り町屋焼くる。一丁程なり。		199下	0
479	1864	10.31- 01.26	慶応	1	前冬- 早春の 直前	干ばつ 1C・高温 1C・少雪 1C	(慶応元年)去冬より暖気にて、雨少く雪更になし。早春、雨多く降り、火災少し。	早春の直前まで(元治元年12月29日/1865年1月26日)をイベント期間とした。	200下	0
480	1865	01.27- 02.25	慶応	1	早春 (01)	長雨1B・ 高温1B	(慶応元年)去冬より暖気にて、雨少く雪更になし。早春、雨多く降り、火災少し。	早春を1月とした。	200下	0
481	1865	04.13	慶応	1	03.18		同十八日、浅草三社権現祭礼、町々より車違物多く出る(前日雨降り、当日は半日雨降る)。		200下	0
482	1865	04.28	慶応	1	04.04		四月四日、暁七時、神田明神下御台所町続き武家地、吉田某宅より出火、(中略)夜明鎮まり、雨降る。		200下	0
483	1865	06.19- 07.22	慶応	1	05末 (05.26) ~閏05	長雨1B	(和暦5月)同月末より閏月に至り、雨多し。	5月末を5月26日からとした。	201上	0
484	1865	08.06	慶応	1	06.15	大雨1A・ 暴風1A・ 高潮1A	(和暦6月15日)同日夜、風雨烈しく、明方弥強く、深川辺高潮漲りて、低き所床の上へ五尺計り水乗る。近在村々洪水。溢濫す。溺死の者多し。		201上	0
485	1865	08.14	慶応	1	06.23	大雨1A・ 雷1A	同二十三日夜、雨強く降り、雷霆あり。神田川の辺、柳原、本所松倉町、浅草三好町等へ落つる。		201上	0
486	1865	10.04	慶応	1	08.15		同十五日、夜晴天、月清光を見る。珍らしき事也(十四日はくもる)。		201下	0
487	1866	01.07	慶応	1	11.21	強風1A・ 大火	十一月二十一日夜大風、橋場町より出火、二町余焼く(拍戸川口某が舗もやけたり)。		202上	0
488	1866	01.08	慶応	1	11.22	強風1A・ 大火	同二十二日、夕八時過ぎ北風強く、小石川桜木町続き御踏方組屋敷より出火、二町計焼失。		202上	0
489	1866	01.28	慶応	1	12.12	強風1A・ 大火	同十二日、夜四半時ごろ、浅草田原町一丁目より失火、北大風、(後略)。		202下	0
490	1865	11.18- 02.14	慶応	1	冬	干ばつ 1C・少雪 1C	冬、雪更になし。雨少し。		202下	0
491	1866	02.15	慶応	2	01.01	強風1A・ 大火	正月元日、晴天、昼九時頃、四谷伝馬町二丁目より出火して、風もあらざりしが延焼に及び、四谷通り三町余幅一町ほど組屋敷へも焼込みたり。		203上	0
492	1866	02.24	慶応	2	01.10	強風1A・ 大火	十日、風雨、明六時頃、霞が関火事。		203上	0

武江年表

493	1865	11.18-03.16	慶応	2	前冬-01	少雪1C	(慶応2年1月)去冬より雪更に降らず。		203上	0
494	1866	04.23	慶応	2	03.09	大雨1A・強風1A・大火	三月九日, 大風雨止みて後, 夜中, 神田九軒町御鉄砲台師大塚某宅より出火, (後略)。		203下	0
495	1866	05.15-06.12	慶応	2	04	低温1B	四月, 涼気にて諸人袷衣を着す。病者多し。		204上	0
496	1866	07.12-08.09	慶応	2	06	長雨1B・寡照1B	六月, 日々曇りて雨多し。		206下	0
497	1866	09.07	慶応	2	07.29	強風1A・大火	同二十九日暁, 橋本町四丁目火事, 北風にて長さ二町半余, 幅五十間計り焼亡せり。		206下	0
498	1866	09.14-09.15	慶応	2	08.06-08.07	大雨1A・洪水1A・暴風1A	同六日朝, 七日終日, 大雨, 夜に入り大風雨にて大川出水。		207上	0
499	1866	09.20-09.26	慶応	2	08.12-08.18	長雨1B	彼岸中雨多し。	彼岸は, 春分・秋分を中日とし, 前後各3日を合わせた7日間のこと。慶応2年の秋分は8月15日(西暦では9月23日)。	207上	0
500	1866	11.18-01.06	慶応	2	10.12-12.01	干ばつ1B・大火	(和暦10月)同十二日の後十一月に至り, 更に雨降らず。火災度々あり。十二月二日, 五十日目にして雨降る。		209下	0
501	1866	12.15	慶応	2	11.09	強風1A・大火	同九日, 夜子半刻, (中略)同町は更なり北風にて焼けひろがり, (後略)。		209下	0
502	1866	12.17	慶応	2	11.11	強風1A・大火	同十一日, 明六時過ぎ, 吉原江戸町一丁目娼家大柵屋いちが家より火出で, 西北風にて同二丁目, (後略)。		211上	0
503	1867	02.01	慶応	2	12.27	強風1A・大火	同二十七日, 暁北大風寅刻, 北品川歩行新宿銭湯の家より出火して, 南品川まで旅舎の大廈大抵焼亡す。長さ九町半程也。		211下	0
504	1866	11.07-02.04	慶応	2	冬	少雪1C	冬, 雪更に降らず。		212上	0
505	1867	02.05	慶応	3	01.01		正月元日, 晴天, (後略)。		212下	0
506	1867	02.06	慶応	3	01.02		同二日, 夜酉刻, 細雨中, 辰の口松平内蔵頭殿屋敷火事(後略)。		212下	0
507	1867	02.05-03.05	慶応	3	01	干ばつ1B・強風1B	正月, 雨少く日日烈風扇ぐ。		213上	0
508	1867	02.11	慶応	3	01.07	強風1A・大火	同七日, 夜亥下刻, 橋場総泉寺より出火, 本堂僧坊焼く。西北風烈しくして大川を越え, 牛島小梅村へ飛んで民家数軒焼けたり。		213上	0
509	1867	02.17	慶応	3	01.13		同十三日, 夕八時頃より初雪降り積る。十七日, 又雪。		213上	0
510	1867	02.21	慶応	3	01.17		同十三日, 夕八時頃より初雪降り積る。十七日, 又雪。		213上	0
511	1867	03.06-04.04	慶応	3	02	強風1B	二月, 日々烈風。		213上	0
512	1867	04.08	慶応	3	03.04		同四日, 雪。		213下	0
513	1867	04.13	慶応	3	03.09	雷1A	同九日, 雷雨。		213下	0
514	1867	05.04-06.02	慶応	3	04	低温1B	四月, 冷気の日多し。		214上	0
515	1867	07.02-07.06	慶応	3	06初(06.01-06.05)	低温1B	六月初旬, 冷気催し諸人袷衣を着す。風邪熱病行はる。	6月初旬を6月1日~5日とした。	214下	0
516	1867	07.02-07.30	慶応	3	06	干ばつ1B	六月, 旱天(井水涸る)。		214下	0
517	1867	07.12-09.27	慶応	3	06中(06.11)-08	干ばつ1B	(和暦6月)中旬より八月へかけ, 雨少し。		214下	0
518	1867	09.20-09.26	慶応	3	08.23-08.29	長雨1B	八月二十三日より彼岸に入り, 七日の間日々雨降り, 六らみだ参礼所観音参り等甚だ少し。		214下	0
519	1867	09.28-10.26	慶応	3	09	高温1B	同月, 暖気にして単衣着する人多し。		214下	0
520	1867	10.12	慶応	3	09.15	高温1A	同十五日, 快晴暖気, 神田明神祭礼神輿行列のみにして, (後略)。		215下	0
521	1868	01.25	明治	1	01.01		正月元日, 快晴。		217上	0
522	1868	04.05	明治	1	03.13	雷1A・あられ1A	同十三日昼過ぎ, 雷鳴り霰降る。		219上	0
523	1868	05.10	明治	1	04.18	強風1A・大火	同十八日暁丑刻, 南西大風, 本郷春木町三丁目より失火して, (後略)。		219下	0
524	1868	05.22-07.19	明治	1	閏04-05	長雨1B・洪水1B	閏四月より五月に至り, 霖雨所々出水あり。		219下	0
525	1868	06.27	明治	1	05.08	大雨1A・洪水1A・暴風1A	五月八日夜, 大風雨あり。大川筋満水, 所々出水, 神田明神後の方並びは湯島の崖崩れ落ちて, 下なる家を毀ち怪人あり。		219下	0
526	1868	07.04	明治	1	05.15		同十五日, 雨天, 暁より官軍東叡山に向はれ, (後略)。		220上	0

武江年表

527	1868	08.02	明治	1	06.14	雷1A	同十四日夕七時過ぎ、雷雨鳴あり所々へ墮つ。この頃、大雨屢ありて快晴の日は稀なり。本所の辺は人家を浸すこと度々なりし。七月八日も又霖雨つゞき(大雨の日多し)、菜蔬生ずる事稀なり。よつて佃登揚せる事甚だしく、近来かゝる事を知らず。		221上	0
528	1868	08.02	明治	1	06.14	大雨1B・洪水1B	同十四日夕七時過ぎ、雷雨鳴あり所々へ墮つ。この頃、大雨屢ありて快晴の日は稀なり。本所の辺は人家を浸すこと度々なりし。七月八日も又霖雨つゞき(大雨の日多し)、菜蔬生ずる事稀なり。よつて佃登揚せる事甚だしく、近来かゝる事を知らず。	「この頃」「屢」からBとした。	221上	0
529	1868	08.25	明治	1	07.08	長雨1A・大雨1A	同十四日夕七時過ぎ、雷雨鳴あり所々へ墮つ。この頃、大雨屢ありて快晴の日は稀なり。本所の辺は人家を浸すこと度々なりし。七月八日も又霖雨つゞき(大雨の日多し)、菜蔬生ずる事稀なり。よつて佃登揚せる事甚だしく、近来かゝる事を知らず。		221上	0
530	1868	08.31	明治	1	07.14	大雨1A・雷1A	七月十四日夜九時半頃、雷鳴強大雨降る。		221下	0
531	1868	09.16-10.15	明治	1	08	長雨1B・寡照1B	(和暦8月)此の月、雨天多く晴天の日稀なり。同五日雨、深夜に至り大雨盆を傾るが如し。		222上	0
532	1868	09.20	明治	1	08.05	大雨1A	(和暦8月)此の月、雨天多く晴天の日稀なり。同五日雨、深夜に至り大雨盆を傾るが如し。		222上	0
533	1868	10.16-11.13	明治	1	09	寡照1B	九月、曇天の日多し。		223上	0
534	1868	11.26	明治	1	10.13		十月十三日、快晴、今日、御鳳輦東京に着き賜ふ(後略)。		223上	0
535	1868	12.17	明治	1	11.04		同月四日、快晴。(後略)		224上	0
536	1868	12.14-01.12	明治	1	11	高温1B	(和暦11月)寒中、あたたかにして雨稀なり。		225上	0
537	1869	02.11-03.12	明治	2	01	高温1B	正月暖和、早春梅花開き、中旬紅梅開く。去歳より火事なし。		225下	0
538	1869	06.10-10.04	明治	2	05-08	長雨1B・低温1B・寡照1B	五月より六月に至り、日々曇り又は雨降り、快晴の日稀にして冷気なり。七月、八月も同じ。		228上	0
539	1869	08.20	明治	2	07.13	大雨1A・暴風1A	同十三日朝五半時頃より、大風雨にて家屋破損多し(新島原家潰れ、怪人あり。九段坂上にては長屋潰れ、丸の内笠原家中長屋潰れ、往來人迄怪人あり)。		228下	0
540	1869	05.12-09.05	明治	2	夏-07	長雨1C・低温1C	(和暦7月)夏より、冷気にて雨多く、大川通り之雨量の船更に少し。		229上	0
541	1869	09.02	明治	2	07.26		同二十六日夜、雨降る(二十六日夜の月待ちの場所甚だ淋し)。		229上	0
542	1869	09.16-09.25	明治	2	08中(08.11-08.20)	長雨1B・寡照1B	八月中旬も曇雨、十五夜月を看ず。		229上	0
543	1869	10.19	明治	2	09.15		同十五日、神田大明神祭礼、晴天にして五半時出興、(後略)。		229下	0
544	1870	01.18	明治	2	12.17		同十七日、十八日、浅草寺年の市快晴なれど、例よりは商物売れず。食店も是れに同じ。		230上	0
545	1870	01.02-01.31	明治	2	12	干ばつ1B	十二月、雨少し。十一月五日雨降りし後も日照のみなり。		230上	0
546	1869	12.03-02.01	明治	3	前11-01.01	干ばつ1B・低温1B	(明治3年1月1日/1869年2月1日)正月元日、晴天。去年十一月より雨更に降らず、寒気烈し。		231上	0
547	1870	02.07	明治	3	01.07		正月七日、初雪少し降る。		231上	0
548	1870	02.19	明治	3	01.19		十九日、又雪降り積る。		231上	0
549	1870	06.16	明治	3	05.18		(前略)十八日相撲、夜花火の処雨降る。(後略)		233上	0
550	1870	08.15	明治	3	07.19	大雨1A・暴風1A	同十九日、朝より雨降り、昼後大風雨。		235上	0
551	1870	09.25-10.24	明治	3	09	高温1B	九月に至り、残暑さらず、諸人単衣を着するもの多し。		235下	0
552	1870	10.02	明治	3	09.08	大雨1A・暴風1A	同八日、黎明より天赤き事紅の如し。今日、深川越中島に於いて練兵天覧の処、五時頃より風吹き、雨少しく降り出しけるが、巴下刻より大風雨と成り、大川通り家屋を損ひ、大船永代橋に流れ当りて橋をも毀ち、船をもそこなひけるよしなり。新島原中万字屋潰れ、遊女八人程、其の外重き瑕を受け、三階は残れり。其の外所々に怪人あり(御船蔵には馬上の人馬ともに即死と聞けり)。		235下	0
553	1870	10.11-10.12	明治	3	09.17-09.18	大雨1A・暴風1A	同十七日、終日雨、十八日、終日風雨、家屋を損ふ。	10月14日の洪水と関連していることみられることから、「大雨」も加えた。	236上	0
554	1870	10.14	明治	3	09.20	洪水1A	二十日、大川満水、浅草橋の辺水陸同様に成り、往來止る。		236上	0
555	1871	03.10-	明治	4	01.20-	長雨1C	同日より、雨多し(二十日彼岸の入りなり)。		238上	0
556	1871	04.04	明治	4	02.(02.15)		同月半ば、隅田川堤花咲く。	2月半ばを2月15日とした。	238下	0

武江年表

557	1871	06.06	明治	4	04.19		同十九日、昼より雨降りしが、(中略)雷撃か未か詳ならず。諸人奇として見物す。		239下	0
558	1871	07.05-07.06	明治	4	05.18-05.19		(前略)十八日、十九日、雨天にて延び、二十日、昼夜花火、この間競馬花火あり。		240上	0
559	1871	07.15	明治	4	05.28		二十八日、大川通り花火揚げ始む(暮六時より雨)。		240上	0
560	1871	07.24	明治	4	06.07	雷1A	六月七日雨、雷鳴所々へ墮つ(後略)。		240上	0
561	1871	07.18-08.15	明治	4	06	干ばつ1B	同月、炎荒数旬に亘り、近年稀なりといふ。		240下	0
562	1871	09.03	明治	4	07.19	大雨1A・暴風1A	同十九日朝より、大風雨、深川鉄砲洲沙村、逆井、堀江、猫ざね、行徳海嘯、今井村人家八拾余宇流失すと云々。御府内も所々潰家多く、即死怪人多加りし。凡そ捨里四方の荒なり。未頃より漸く静になりぬ。		240下	0
563	1871	09.04	明治	4	07.20	大雨1A・洪水1A	同二十日、道灌山田畑村の辺一奇事あり。同日夕方洪雨降り出し、此の辺一朶の烏雲覆ひ掛り、雷霆の如き響きありて、田畑村の内与楽寺(六阿弥陀の内)後の方東の涯の俄に崩れ、落涯の下に長さ一町幅二間余り、高さ二丈余の深谷を生じ、百間四方程の所樹木を顛倒し、或ひは根より掘られて遥の田圃へ飛し、畝圃二反計あれたりとぞ。(後略)。		240下	0
564	1871	10.28	明治	4	09.15		同十五日、神田大神祭礼。(中略)今日晴天(十四日は雨、夕がたに止む)、(中略)(十六日雨中なれど、例の通り福参りとして詣人多かりし)。		241下	0
565	1871	12.29	明治	4	11.18		十八日朝、雨、後曇る。(中略)十九日、晴天にて朝より曳渡す。(後略)		243上	0
566	1872	02.09	明治	5	01.01		正月元日、快晴。		244上	0
567	1872	02.13	明治	5	01.05		五日、雪、赤坂水天宮開門あり(雪故詣人少し)。		244上	0
568	1872	03.05	明治	5	01.26	強風1A・大火	同二十六日、大風、未半刻和田倉御門内元会津侯邸、当時兵部省添屋敷より出火す。(後略)		245上	0
569	1872	04.24	明治	5	03.17		同十七日、曇、夕方雨。浅草三社祭礼(車楽をどり等出、十八日雨、十九日同、二十日大風雨に付き、二十一日に渡す)。		246下	0
570	1872	04.25-04.27	明治	5	03.18-03.20	大雨1A・強風1A	同十七日、曇、夕方雨。浅草三社祭礼(車楽をどり等出、十八日雨、十九日同、二十日大風雨に付き、二十一日に渡す)。		246下	0
571	1872	06.24	明治	5	05.19	強風1A・大火	同十九日暁雨、後、深川木場町火事、一町程焼く。		247下	0
572	1872	07.20	明治	5	06.15	雷1A	六月十五日、日枝大神祭礼、(中略)当日曇天、後雨、雷鳴有り。		248下	0
573	1872	10.23	明治	5	09.21		同二十一日、雨降る。招魂社御祭礼、二十五日、競馬あり。		251下	0
574	1873	01.01	明治	6	01.01		一月一日、晴。		253下	0
575	1873	03.26	明治	6	03.26	強風1A・大火	同二十六日、牛込納戸町より出火、日暮、雨少し降り、夜へかけて焼く。		254下	0
576	1873	06.01-08.31	明治	6	06-08	干ばつ1B	六月以来、炎旱数回にわたりしが、九月よりは霖雨つづく。		258上	0
577	1873	09.01-	明治	6	09-	長雨1C	六月以来、炎旱数回にわたりしが、九月よりは霖雨つづく。		258上	0
578	1873	09.16	明治	6	09.16		同十六日より、上野東照宮庶人参詣する事始まる((中略)十六日晴、十七日雨)。		258下	0
579	1873	09.23	明治	6	09.23	暴風1A	同二十三日、風雨、家屋垣塙を倒す。高田外山の邸中出水。林泉をも損ふ(怪人もありし由なり)。		258下	0

17. 泰平年表

(1) ページは下記による。

竹内秀雄校訂 1974『泰平年表』 続群書類従完成会

(2) 地域（“L”列）のうち“関”列は下記による。

0：関東地方

1：関東地方以外

(3) 地域（“L”列）のうち“近”列は下記による。

0：近畿地方中部

1：近畿地方中部以外

泰平年表

No.	グレゴリヲ曆		和曆			項目	記載内容	備考	頁	L	
	年	月日	年号	年	月日					関	近
1	1641	03.09	寛永	18	01.28	強風1A	寛永十八年正月廿八日江戸榎町より出火、風烈敷八千余家焼失す、		54	1	0
2	1647	05.29	正保	4	04.25	強風1A・ 低温1A	同廿五日北風烈く吹雪降、〔寒き事如極寒、〕		57	1	0
3	1647	08.22	正保	4	07.22	ひょう1A	同廿二日氷降、〔大サ梅の如し、〕		57	1	0
4	1649	06.22	慶安	2	05.13	ひょう1A	同五月十三日川越に大雹降、〔其重サ二斤、或四十目、〕		58	1	0
5	1652	09.30	承応	1	08.28	大雨1A・ 暴風1A	同年八月廿八日夜江戸大風雨、		62	1	0
6	1659	08.19	万治	2	07.02	大雨1A・ 洪水1A	同七月二日江戸大雨洪水、		64	1	0
7	1660	06.08- 07.07	万治	3	05	長雨1B・ 大雨1B・ 洪水1B	万治三年五月連日大雨、諸国洪水、		65	1	1
8	1660	07.25	万治	3	06.18	雷1A	同六月十八日大雷、〔大坂城に落雷、(後略)〕		65	0	1
9	1662	07.28	寛文	2	06.13	洪水1A	同六月十三日光山洪水、石垣崩、人民多死す、		66	1	0
10	1663	09.06	寛文	3	08.05	洪水1A	此日京都洪水、加茂川満水、水除破損、		66	0	1
11	1665	02.16	寛文	5	01.02	雷1A	寛文五年正月二日大坂城の御天守雷火にて炎上、		67	0	1
12	1668	-	寛文	8	-	干ばつ1C	是年諸国大旱、		69	1	1
13	1669	-	寛文	9	-	洪水1C	此年西国・出雲・豊前・肥前洪水、		69	0	1
14	1670	09.16	寛文	10	08.03	暴風1A・ 波浪1A	同八月廿三日摂州大風洪涛、忽起船没溺死多、		70	0	1
15	1671	10.01	寛文	11	08.29	大雨1A・ 洪水1A・ 暴風1A	同八月廿九日大風雨、〔浅草川大水、東海道筋大水、六郷の橋九十間余流失、〕		70	1	0
16	1674	05.26	延宝	2	04.21	大雨1A・ 洪水1A	同四月廿〔十〕一日畿内洪水、〔加茂川・桂川大水、三条大橋崩流、〕		70	0	1
17	1676	08.13- 08.14	延宝	4	07.04- 07.05	大雨1A・ 洪水1A・ 暴風1A	延宝四年七月四日・五日大風雨、東海道洪水、		71	1	0
18	1678	09.03	延宝	6	07.18	大雨1A・ 洪水1A・ 暴風1A	同七月十八日伊予・土佐・豊前大風雨、洪水、		71	0	0
19	1683	01.28	天和	3	01.01	大雨1A・ 洪水1A	天和三年正月朔日大雨、洪水、		76	1	0
20	1687	04.05	貞享	3	02.23	大雨1A・ 強風1A・ 雷1A	貞享三年二月廿三日京都大風雨、雷数ヶ所に落、		78	0	1
21	1690	09.16	元禄	3	08.14	大雨1A・ 洪水1A	同八月十四日京都及近郷暴雨、洪水山を崩、		80	0	1
22	1693	03.03	元禄	6	01.27	強風1A	元禄六年正月廿七日大風、淀川の船破損、		83	0	1
23	1702	07.14	元禄	15	06.20	洪水1A・ 雷1A	同六月廿日洛中洪水、大雷九十八ヶ所に落、河水溢、人多死す、		87	0	1
24	1704	09.02	宝永	1	08.04	洪水1A	同八月四日江戸及近国洪水、〔利根川・八条川・中川・綾瀬川・荒川大水、(後略)〕		88	1	0
25	1705	08.19- 09.17	宝永	2	07	洪水1B	同七月三州・遠州大水、		89	0	0
26	1707	11.27	宝永	4	11.04	雷1A	同十一月四日未刻大雷雨、		90	1	0
27	1708	08.06	宝永	5	06.20	洪水1A	同六月廿日山州伏見洪水、		90	0	1
28	1708	08.17	宝永	5	07.02	暴風1A	同七月二日巳刻より酉刻に至て京師及畿内大風、神社仏閣多破倒、禁裡・仙洞御普請始、		90	0	1
29	1709	08.09	宝永	6	07.04	暴風1A	同七月四日京都及畿内・近国大風、民破倒す、		94	0	1
30	1712	09.01- 09.30	正徳	2	08	洪水1B	正徳三〔二カ〕年(中略)同八月摂州洪水、	竹内(1974)にしたがい正徳2年とした。	99	0	1
31	1713	08.15	正徳	3	06.25	雷1A	同六月廿五日大坂大雷雨、		102	0	1
32	1716	06.20- 07.18	享保	1	05	洪水1B	是月山州淀・伏見・宇治・木津・其余諸州洪水、		105	0	1
33	1717	09.20	享保	2	08.16	大雨1A・ 暴風1A	同十六日関東諸国大風雨、田畑損毛、江戸武家・町家多破損す、		106	1	0
34	1721	10.05	享保	6	08.15	大雨1A・ 洪水1A・ 暴風1A	同十五日大風雨、淀・八幡洪水、		109	0	1
35	1726	04.01	享保	11	02.29	大雨1A・ 洪水1A・ 強風1A	同廿九日越前勝山嶺山津浪、大風雨、震動して民家・田畑を没し泥水涌出、平地大河の如く、人畜多溺死す、		112	0	0
36	1728	08.13	享保	13	07.08	大雨1A・ 洪水1A・ 暴風1A	同七月八日大風雨、畿内洪水、		113	0	1
37	1728	09.04- 10.02	享保	13	08	洪水1B	同八月東国・西国洪水、		114	1	1
38	1728	10.03- 10.05	享保	13	09.01- 09.03	洪水1A	同九月朔日・二日・三日江戸洪水、		114	1	0

泰平年表

39	1732	08.20-09.18	享保	17	07		同七月遠州海上商船数百艘破損,	116	0	0
40	1734	05.03-10.26	享保	19	夏-秋	洪水1C	是年夏より秋に至て諸国洪水,	116	1	1
41	1735	08.09	享保	20	06.21	洪水1A	同六月廿一日五畿内大風雨, 洪水,	117	0	1
42	1735	08.20	享保	20	07.03	暴風1A	同七月三日江戸大風,	117	1	0
43	1737	04.16	元文	2	03.17	強風1A	同三月十七日京都大風, 所と破損,	119	0	1
44	1737	06.01	元文	2	05.03	強風1A	同五月三日下谷八軒町方出火, 南風烈敷, (後略)	119	1	0
45	1739	08.20	元文	4	07.16	雷1A	同七月十六日大坂大雷, 人多死,	120	0	1
46	1740	07.02	元文	5	06.09	洪水1A	同六月九日五畿内洪水,	120	0	1
47	1740	08.08	元文	5	07.16	大雨1A・洪水1A・暴風1A	同七月十六日京都大風雨, 洪水, [三条大橋破損,]	120	0	1
48	1742	08.27-08.30	寛保	2	07.27-08.01	大雨1A・洪水1A・暴風1A	同七月廿七日方八月朔日二至, 五畿内大風雨, 洛三条大橋流落, 堀川石垣崩, 淀・伏見洪水,	121	0	1
49	1742	08.30-09.28	寛保	2	08	洪水1B	同八月関八州・北国筋洪水, [江戸赤坂御門堀水溢, 本所・深川町支配の諸村・町家漂流人多死, ○信州川中島・善光寺辺水高き事二丈余, 上野・下野・武蔵等の田畑水損, 凡八十万石余, 東海道神奈川辺, 其外中山道・北陸道田畑流失,]	121	1	0
50	1742	10.28-11.26	寛保	2	10	洪水3	同十月関東諸国水損所御修復,	121	1	0
51	1744	08.10	延享	1	07.03	大雨1A・洪水1A	延享元年七月三日京都大雨洪水,	122	0	1
52	1745	08.27-09.25	延享	2	08	洪水1B	同八月山州宇治川洪水,	123	0	1
53	1749	08.13-09.11	寛延	2	07	大雨1A・暴風1A	此月丹後・但馬大風雨,	127	1	0
54	1750	05.28	寛延	3	04.23		同廿三日江戸雪降, 人馬多損す,	128	1	0
55	1750	09.26	寛延	3	08.26	大雨1A・強風1A・雷1A	同八月廿六日洛中大風雨, 大雷数ヶ所に落, 二条城天守雷火にて炎上,	128	0	1
56	1751	03.26	宝暦	1	02.29		此頃北国赤雪降,	128	0	0
57	1755	07.09-08.07	宝暦	5	06	洪水1B	此月肥後国洪水,	128	0	0
58	1755	08.20	宝暦	5	07.13		同十三日奥州津軽領雪降事三尺余,	129	0	0
59	1755	09.29	宝暦	5	08.24	大雨1A・暴風1A	同八月廿四日九州大風雨, 所と破損,	129	0	0
60	1756	03.31-04.28	宝暦	6	03	強風1B	同三月中江戸諸所連日出火, 烈風続甚物騒し,	129	1	0
61	1756	10.09	宝暦	6	09.16	大雨1A・洪水1A・暴風1A	同九月十六日上方大風雨, 淀・伏見辺洪水,	129	0	1
62	1756	10.27	宝暦	6	10.04	洪水1A	同十月四日山州宇治川・木津川・大坂辺洪水,	129	0	1
63	1757	06.07-06.16	宝暦	7	04下	洪水1B	宝暦七年四月下旬東海道并北国筋洪水,	129	1	0
64	1758	10.26-10.30	宝暦	8	09.25-09.29	雷1A・ひょう1A	宝暦八年九月廿五日方廿九日に至, 大坂毎日雷鳴, 雹降,	129	0	1
65	1760	01.12	宝暦	9	11.25	大雨1A・強風1A・雷1A	同十一月廿五日五畿内大風雨, 大雷鳴,	129	0	1
66	1761	04.05-05.04	宝暦	11	03	大雨1B・強風1B	同三月奥州・松前大風雨, 商船七十艘破損,	132	1	0
67	1762	03.17	宝暦	12	02.22	強風1A	宝暦十二年二月廿二日若州大風, 宇治大火, 南都大火,	132	0	1
68	1765	08.19	明和	2	07.03	大雨1A・暴風1A	七月三日五畿内・近江・伊勢・紀伊・播磨大風雨,	133	0	1
69	1765	09.17	明和	2	08.03	大雨1A・暴風1A	同八月三日又大風雨,	133	0	1
70	1766	03.08	明和	3	01.28	大雪1A	明和三年正月廿八日奥州津軽・青森辺, 大雪・大地震・大火にて, 人馬多く損す,	134	1	0
71	1766	08.11	明和	3	07.06	洪水1A	同七月六日江戸洪水,	134	1	0
72	1766	08.17	明和	3	07.12	ひょう1A・低温1A	同十二日大坂雹降, [季候如嚴寒,]此頃淡路国大旱魃,	134	0	1
73	1766	08.17	明和	3	07.12	干ばつ1A	同十二日大坂雹降, [季候如嚴寒,]此頃淡路国大旱魃,	134	0	1
74	1767	07.27	明和	4	07.02	洪水1A	同七月二日尾州・三州山津浪, 洪水・人馬多溺死, 東海道宮(愛知郡)・鳴海駅(同上)多損,	134	0	0
75	1768	04.30	明和	5	03.14	洪水1A	同日山州鳥羽(紀伊郡)・東寺辺洪水,	135	0	1
76	1768	07.29	明和	5	06.16	雷1A	同六月十六日竹橋御門御多門[聞]雷火,	135	1	0
77	1769	10.06	明和	6	08.26	大雨1A・洪水1A・強風1A・雷1A	同月廿六日江戸大風雨, 大雷, 深川三十三間崩倒,	135	1	0
78	1769	10.06	明和	6	08.26	洪水1A	同日山州木津(相楽郡)及淀洪水, 京・大坂・江戸及諸国風邪流行, 人多死,	135	0	1

泰平年表

79	1769	10.01	明和	6	09.02		同九月二日京・大坂大雪降,		135	1	1
80	1770	05.25-10.18	明和	7	05上-08下	干ばつ1B	同五月上旬より八月下旬迄、凡百有余日諸国大旱魃、京・大坂・江戸及諸国池川・井水悉枯渴ス、		135	1	1
81	1771	05.11	明和	8	03.27	大雨1A・洪水1A	同廿七日大雨、加茂川洪水、江州彦根(犬上郡)大雹降、		135	0	1
82	1771	05.17-05.18	明和	8	04.04-04.05	低温1A	同四月四日・五日大雪、〔相州大山(中郡)辺殊に甚し、〕		135	1	0
83	1771	09.01	明和	8	07.22	大雨1A・洪水1A・暴風1A	同七月廿二日大風雨、京・大坂・伊勢・伊賀洪水、淀(久世郡)大橋落、水車破損、		136	0	1
84	1772	08.01	安永	1	07.03	大雨1A・洪水1A・暴風1A	同七月三日肥前・肥後・筑後大風雨、洪水、人多死、		136	0	0
85	1772	08.29	安永	1	08.01	大雨1A・暴風1A	同八月朔日より武州に至、大風雨、		136	1	0
86	1772	08.31	安永	1	08.03	暴風1A	同三日江戸巽方より天風吹起樹木を倒し、民家破損船覆人多死す、		137	1	0
87	1772	09.18	安永	1	08.21	大雨1A・暴風1A	同廿一日東は濃州、西は備前・讃岐等大風雨、民家破損、京都も大風雨、		137	0	1
88	1773	07.20-08.17	安永	2	06	大雨1B・洪水1B	同六月伊勢路桑名(桑名郡)辺洪水、美濃土砂降、淀・伏見洪水、		137	0	1
89	1773	08.25-08.29	安永	2	07.08-07.12	大雨1A・洪水1A・暴風1A	同七月八日より十二日に至大風雨、山州諸州洪水、十五日迄往来止る、		137	0	1
90	1774	07.14	安永	3	06.06	雷1A	安永三年六月六日大雷、三十七ヶ所に落、		137	1	0
91	1774	07.31	安永	3	06.23	大雨1A・暴風1A	同廿三日大風雨、瓦石を飛ばし樹木倒、〔京・大坂・播州・江州殊に甚し、川口の泊船覆、溺死多し、〕		137	0	1
92	1775	04.30-05.28	安永	4	04	長雨1B	(和暦4月)同月京都霖雨打続、五月に至洪水、		138	0	1
93	1775	05.29-06.27	安永	4	05	洪水1B	(和暦4月)同月京都霖雨打続、五月に至洪水、		138	0	1
94	1775	06.28-07.26	安永	4	06	長雨1B	同六月摂州洪水、		138	0	1
95	1776	12.11-02.07	安永	5	11-12	低温1B	同十一月より十二月に至て近年未曾有の大寒也、		139	1	0
96	1777	08.03-09.01	安永	6	07	洪水1B	安永六年七月奥羽両州洪水、下総印幡〔旗〕洪水、		139	1	0
97	1778	03.10	安永	7	02.12	強風1A	安永七年二月十二日江戸俄颶風起伝馬町出火、		139	1	0
98	1778	06.25-07.23	安永	7	06	雷1A	同六月大坂大雷二十ヶ所に落、		139	0	1
99	1778	06.25-07.23	安永	7	06		(同六月)肥後国大津浪海舶・民家多損、		139	0	0
100	1778	07.24	安永	7	07.01	大雨1A	同七月朔日京都大雨、同二日夜洪水、禁裡築地辺堂上方殿舎・門塀多崩、		139	0	1
101	1778	07.25	安永	7	07.02	洪水1A	同七月朔日京都大雨、同二日夜洪水、禁裡築地辺堂上方殿舎・門塀多崩、		139	0	1
102	1779	05.16-05.17	安永	8	04.01-04.02	低温1A・大雪1A	同四月朔日・二日京・大坂・江戸大寒す、北国辺及勢州大雪降、		139	1	1
103	1779	05.18	安永	8	04.03	低温1A・大雪1A	同三日江戸大雪降、		139	1	0
104	1779	05.16-09.09	安永	8	04-07	洪水1B	同四月より七月に至五畿内洪水、		139	0	1
105	1779	09.10-10.09	安永	8	08	洪水1B	同八月東海道・関東筋・北国洪水、		139	1	0
106	1779	10.04	安永	8	08.25	大雨1A・暴風1A	同廿五日野州日光山大風雨、		139	1	0
107	1779	11.04	安永	8	09.26	低温1A	同九月廿六日京都大火、此頃大に寒く、阿州馬山雪降、		139	0	1
108	1780	04.05-05.03	安永	9	03	低温1B	安永九年三月氣候大寒、日と時雨降、		140	1	0
109	1780	07.03	安永	9	06.02	雷1A	同六月二日京・大坂大雷雨、		140	1	0
110	1780	07.04	安永	9	06.03	雷1A	同三日江戸大雷雨、		140	1	0
111	1780	07.11	安永	9	06.10	長雨1A・低温1A	同十日頃毎日時雨降続、氣候初冬の如く寒し、同廿六日江戸洪水、		140	1	0
112	1780	07.27	安永	9	06.26	洪水1A	同十日頃毎日時雨降続、氣候初冬の如く寒し、同廿六日江戸洪水、		140	1	0
113	1780	11.12	安永	9	10.16	雷1A	同十月十六日京都大雷雨、		140	0	1
114	1781	08.21	天明	1	07.02	暴風1A	同七月二日薩摩・大隅・日向大風、		141	0	0
115	1781	09.15	天明	1	07.27	大雨1A・暴風1A	同廿七日五畿内及近国大風雨、		141	0	1
116	1782	03.15	天明	2	02.02	大雨1A・強風1A	同二月二日五畿内大風雨、		141	0	1
117	1782	07.01-07.09	天明	2	05下	洪水1A・暴風1A	同月下旬勢州松坂(飯重郡)大風洪水、		141	0	1
118	1782	07.23	天明	2	06.14	洪水1A	同六月十四日京賀茂川洪水、		141	0	1
119	1782	08.09-09.06	天明	2	07		是月下総国に雪降、		141	1	0

泰平年表

120	1782	09.10	天明	2	08.04		同八月四日『江戸海辺津浪、(後略)		141	1	0
121	1783	05.10	天明	3	04.10	低温1A	(和暦4月10日)〔都而此春より初夏に至て火災甚多し、此頃京都五畿内寒き事申冬之如く、毎日時雨降続く、〕		141	0	1
122	1783	07.16	天明	3	06.17	洪水1A	同六月十七日関東及諸国洪水、〔同十八日大井川を始、其余川と往来留、京都大風雨二付、四条納涼相休、関東共気候季冬の如く、依て米価俄に高直に成、(後略)〕		141	1	0
123	1783	07.17	天明	3	06.18	大雨1A・ 暴風1A	同六月十七日関東及諸国洪水、〔同十八日大井川を始、其余川と往来留、京都大風雨二付、四条納涼相休、関東共気候季冬の如く、依て米価俄に高直に成、(後略)〕		141	0	1
124	1783	07.17	天明	3	06.18	低温1A	同六月十七日関東及諸国洪水、〔同十八日大井川を始、其余川と往来留、京都大風雨二付、四条納涼相休、関東共気候季冬の如く、依て米価俄に高直に成、(後略)〕		141	1	0
125	1783	08.21	天明	3	07.24	大雨1A・ 暴風1A	同廿四日北国・西国海上大風雨、		142	0	1
126	1783	10.20	天明	3	09.25	暴風1A	同九月廿五日北国洋中大風、往来商船多破損、		142	0	0
127	1783	10.27	天明	3	10.02	暴風1A	同十月二日北国及九州洋中大風、		142	0	0
128	1783	11.05	天明	3	10.11	雷1A	同十一(十)月十一日大坂城大手御門雷火にて焼失、		142	1	0
129	1785	03.07	天明	5	01.27	雷1A	天明五年正月廿七日五畿内大雷雨、		142	0	1
130	1785	07.10	天明	5	06.05	干ばつ1A	同六月五日五畿内及諸州旱魃、農民雨乞、		142	0	1
131	1785	08.15	天明	5	07.11	雷1A	同七月十一日大坂大雷雨、		143	0	1
132	1785	09.15	天明	5	08.12	大雨1A・ 洪水1A	同八月十二日五畿内・東海道筋大雨洪水、		143	0	1
133	1785	12.05	天明	5	11.04	大雪1A	同十一月四日五畿内及び尾州辺大雪、		143	0	1
134	1785	11.02- 01.29	天明	5	10-12	低温1B・ 高温1B・ 少雪1B	同十月より十二月に至、五畿内寒気甚敷し、〔暖和にして雪少く、気候中春啓蟄半頃の如しといふ、〕		143	0	1
135	1786	05.29- 06.25	天明	6	05	長雨1B	同五月中江戸霖雨甚し、		143	1	0
136	1786	06.26- 07.24	天明	6	06	洪水1B	同六月河内洪水、		143	0	1
137	1786	08.05	天明	6	07.12	大雨1A	同七月十二日江戸并近国大雨、		143	1	0
138	1786	08.07- 08.11	天明	6	07.14- 07.18	大雨1A・ 洪水1A	同十四日江戸洪水、〔上野・下野・秩父等の山と暴発して、和暦8月2日に 鳥川・神流川・戸田川・利根川坂東太郎等の川と大水漲事 数十丈、目白下関口大洗堰崩、(中略)此頃東海道筋大 水、酒匂川・馬入川・六郷川等往来を絶す、鶴見橋流落、 神奈川新町・藤沢宿等満水往来留、同十九日に至て雨止 み諸方の水勢漸減、(後略)〕 賑救記載。		143	1	0
139	1789	07.08- 07.10	寛政	1	06.16- 06.18	大雨1A・ 洪水1A	同十六日及十八日に至大雨、京都嵯峨辺加茂川大水、丹波・三河・遠江・美濃洪水、		150	0	1
140	1790	09.09- 09.10	寛政	2	08.01- 08.02	大雨1A・ 洪水1A・ 暴風1A	同八月朔日・二日大風雨、洪水、		153	1	0
141	1790	12.07- 12.08	寛政	2	11.02- 11.03		同十一月二日・三日夜江戸甘露降、		153	1	0
142	1791	09.03	寛政	3	08.06	大雨1A・ 暴風1A	同八月六日関東大風雨、〔後略〕		154	1	0
143	1791	10.01	寛政	3	09.04	大雨1A・ 洪水1A・ 暴風1A	同四日関東大風雨、諸国洪水、		154	1	0
144	1793	06.29- 10.14	寛政	5	05下- 09上	長雨1B・ 洪水1B	今年五月下旬及九月上旬に至、江戸霖雨、近国洪水、		157	1	0
145	1795	07.30	寛政	7	06.15	雷1A	同六月十五日江戸大雷、〔(後略)〕		158	1	0
146	1797	07.29	寛政	9	07.06	雷1A	寛政九年七月六日江戸大雷雨、諸所に落、		158	1	0
147	1798	08.12	寛政	10	07.01	雷1A	同七月朔日京都大仏殿及本尊雷火にて焼亡、		158	0	1
148	1801	01.15- 02.12	寛政	12	12	雷1B	寛政十三(二)年(中略)同十二月摂州四天王寺雷火二而悉焼失、		159	0	1
149	1802	06.30- 07.28	享和	2	06	長雨1B・ 洪水1B	同六月霖雨、洪水、〔江戸近郷大水、田畑損、箱根山温泉場流失、〕		160	1	0
150	1806	07.16- 09.11	文化	3	06-07	干ばつ1B	同六月及七月二至、諸国大旱、		165	1	0
151	1808	07.09- 07.11	文化	5	06.16- 06.18	大雨1A・ 洪水1A	同六月十六日及十八日二至、江戸及近国大雨、諸所洪水、		174	1	0
152	1808	08.09- 08.11	文化	5	閏 06.18- 閏06.20	大雨1A	同閏六月十八日及廿日に至、江戸及近国大雨、		174	1	0
153	1808	08.20- 08.21	文化	5	閏 06.29- 閏06.30	暴風1A	同廿九日・晦日諸国大風、		174	1	0
154	1808	09.25	文化	5	07.25	洪水1A・ 暴風1A	同七月廿五日大嵐、豆〔相力〕浦賀・相州三浦・三崎・七里浜〔鎌倉〕・房州・駿州・遠州灘・紀州和歌浦等通船漂没、人多死、江戸近国洪水、田畑損、		174	1	0
155	1808	09.26	文化	5	08.07	大雨1A・ 洪水1A	同八月七日・八日大雨、江戸及東北諸国洪水、		174	1	0

泰平年表

156	1809	10.02-10.03	文化	6	08.23-08.24	大雨1A・暴風1A	同八月廿三日及廿四日迄、江戸近国・関八州大風雨、〔神社仏閣・武家・町家・民家多破損、大木数多吹倒、廻船漂没甚多し、〕	176	1	0
157	1814	05.20-09.03	文化	11	04上-07中	干ばつ1B	当四月上旬及七月中旬に至、江戸及諸国大旱魃、	185	1	0
158	1815	08.25-09.02	文化	12	07下	洪水1B	同七月下旬畿内〔山城・大和・摂津〕・東海道〔近江・美濃・伊勢・尾張〕洪水田畑多損、	189	0	1
159	1816	09.24-09.25	文化	13	閏08.03-閏08.04	大雨1A・洪水1A・暴風1A	同閏八月三日・四日大風雨、江戸及東海道筋・五畿内所々洪水、	191	1	1
160	1817	02.06	文化	13	12.21		同十二月廿一日夜豆州松崎山津浪、民家漂没、人多死す、	191	0	0
161	1817	07.05-08.22	文化	14	05下-07上	干ばつ1B	此頃江戸及諸国大旱、〔五月下旬及七月上旬迄、〕	191	1	1
162	1820	07.26	文政	3	06.17	長雨1A・洪水1A	同六月十七日肥前国島原〔松平主殿頭領分〕洪水、山岳崩、山水涌出、田畑押流、溺死多、肥前・肥後・筑前・筑後霖雨洪水、	193	0	0
163	1821	08.31	文政	4	08.04	洪水1A・暴風1A	同八月四日五畿内・近江・美濃・丹波・丹後大嵐、所々洪水、	194	0	1
164	1822	06.19-07.17	文政	5	(05)	長雨1B・洪水1B	(和暦5月)此頃京・江戸及諸国霖雨、洪水、	195	1	1
165	1824	10.03-10.12	文政	7	08中	長雨1B・大雨1B・洪水1B	八月中旬連日強雨、奥州山津浪、上州・総州辺洪水、〔十五日夜増々強雨、(後略)〕	196	0	0
166	1824	10.07	文政	7	08.15	大雨1A	八月中旬連日強雨、奥州山津浪、上州・総州辺洪水、〔十五日夜増々強雨、(後略)〕	196	1	0
167	1825	09.23-10.02	文政	8	08中	長雨1B・大雨1B・洪水1B	同八月中旬連日大雨、東海道諸川洪水二而往来止、	197	1	0
168	1826	06.11	文政	9	05.06	洪水1A	同六日雲州松江領・予州大洲領洪水、	197	0	0
169	1826	06.06-08.03	文政	9	05-06	干ばつ1B・高温1B	東国大旱炎暑、〔五六月入梅中大旱、〕	197	1	0
170	1828	10.09-11.06	文政	11	09	洪水1B	同九月西国筋洪水、中国虫付不作、長崎洪水、	198	0	1
171	1831	09.18	天保	2	08.13	洪水1A	同八月十三日酒井左衛門尉領分羽州庄内洪水、	200	0	0
172	1833	06.23	天保	4	(05.06)	低温1A	(和暦5月6日)此頃奥州氣候寒冷田畑不毛、	201	0	0
173	1833	09.14	天保	4	08.01	暴風1A	同八月朔日江戸近在大嵐、	201	1	0

18. 三国史記

ページは下記による。

金 思燁訳 1997『完訳 三国史記』 明石書店

No.	グレゴリオ暦		旧暦		項目	記載内容	備考	該当箇所	
	年	月日	年号	年 月日				本紀	巻 頁
1	3	10.12-11.09	始祖	60 09	雷1B	暴雷雨。震城南門。		新羅本紀	1 34上
2	11	02.20-08.15	南解次次雄	8 春-夏	干ばつ1C	春夏旱。		新羅本紀	1 34下
3	18	-	南解次次雄	15 -	干ばつ1C	京城旱。秋七月。蝗。民饑。発倉廩救之。		新羅本紀	1 34下
4	22	12.11-01.08	南解次次雄	19 11	高温1B	無水。	「無水」を高温と解釈した。	新羅本紀	1 34下
5	34	07.04-08.01	儒理尼師今	11 06	洪水1B	大水。		新羅本紀	1 35上
6	56	05.02-05.30	儒理尼師今	33 04	大雨1B	有頃暴雨自西北来。		新羅本紀	1 35下
7	56	05.31-06.29	儒理尼師今	33 05	暴風1B	大風拔木。		新羅本紀	1 35下
8	64	12.26-01.23	脱解尼師今	8 12	少雪1B	地震。無雪。		新羅本紀	1 36上
9	75	-	脱解尼師今	19 -	干ばつ1C	大旱。民饑。発倉賑給。		新羅本紀	1 36上
10	80	05.07-06.04	脱解尼師今	24 04	強風1B	京都大風。金城東門自壞。		新羅本紀	1 36下
11	84	-	婆娑尼師今	5 -		大有年。		新羅本紀	1 36下
12	96	08.05-09.03	婆娑尼師今	17 07	暴風1B	暴風自南。拔金城南大樹。		新羅本紀	1 37上
13	98	05.17-06.15	婆娑尼師今	19 04	干ばつ1B	京都旱。		新羅本紀	1 37上
14	100	08.22-09.19	婆娑尼師今	21 07	ひょう1B	雨雹。飛鳥死。		新羅本紀	1 37上
15	105	03.03-03.31	婆娑尼師今	26 02	大雪1B	京都雪三尺。		新羅本紀	1 37上
16	108	05.27-06.24	婆娑尼師今	29 05	洪水1B	大水。民飢。発使十道。開倉賑給。		新羅本紀	1 37下
17	111	06.23-09.19	婆娑尼師今	32 05-07	干ばつ1B	自五月至秋七月。不雨。		新羅本紀	1 37下
18	114	03.23-04.21	祇摩尼師今	3 02	ひょう1B	雨雹。麦苗傷。		新羅本紀	1 37下
19	114	05.21-06.19	祇摩尼師今	3 04	洪水1B	大水。慮囚。除死罪余悉原		新羅本紀	1 37下
20	116	08.25-09.23	祇摩尼師今	5 08	長雨1B	遣將侵加耶。王師精兵一万以繼之。加耶嬰城固守。会久雨乃還。		新羅本紀	1 37下
21	122	05.23-06.20	祇摩尼師今	11 04	強風1B	大風東来。折木飛瓦。至夕而止。		新羅本紀	1 38上
22	123	05.12-06.10	祇摩尼師今	12 04	霜1B	隕霜。		新羅本紀	1 38上
23	128	12.09-01.06	祇摩尼師今	17 11	雷1B	雷。		新羅本紀	1 38上
24	131	06.12-07.11	祇摩尼師今	20 05	大雨1B・洪水1B	大雨。漂没民戸。		新羅本紀	1 38上
25	134	02.11-08.06	祇摩尼師今	23 春-夏	干ばつ1C	春夏旱。		新羅本紀	1 38上
26	139	08.12-09.09	逸聖尼師今	6 07	霜1B	隕霜殺菽。		新羅本紀	1 38下
27	139	11.08-12.07	逸聖尼師今	6 10	雷1B	雷甚。		新羅本紀	1 38下
28	143	12.24-01.21	逸聖尼師今	10 11	雷1B	雷。		新羅本紀	1 38下
29	145	02.09-08.04	逸聖尼師今	12 春-夏	干ばつ1C	春夏旱。南地最甚。民飢。移其粟賑給之。		新羅本紀	1 38下
30	149	12.17-01.14	逸聖尼師今	16 11	雷1B	雷。		新羅本紀	1 38下
31	150	05.13-08.09	逸聖尼師今	17 04-06	干ばつ1B	自夏四月不雨。至秋七月。乃雨。		新羅本紀	1 38下
32	151	04.03-05.02	逸聖尼師今	18 03	ひょう1B	雨雹。		新羅本紀	1 38下
33	156	05.07-06.04	阿達羅尼師今	3 04	霜1B	隕霜。		新羅本紀	2 53上
34	160	05.22-06.20	阿達羅尼師今	7 04	大雨1B・洪水1B	暴雨。閼川水溢。漂流人家。金城北門自毀。		新羅本紀	2 53上
35	170	07.30-08.28	阿達羅尼師今	17 07	ひょう1B・霜1B	京都地震。霜雹害穀。		新羅本紀	2 53下
36	174	02.19-03.19	阿達羅尼師今	21 01	砂じん	雨土。	黄砂？	新羅本紀	2 53下
37	174	03.20-04.18	阿達羅尼師今	21 02	干ばつ1B	旱。井泉渴。		新羅本紀	2 53下
38	187	11.18-12.16	伐休尼師今	4 10	大雪1B	北地大雪。深一丈。		新羅本紀	2 53下
39	192	04.29-05.27	伐休尼師今	9 04	大雪1B	京都雪。深三尺。		新羅本紀	2 54上
40	192	05.28-06.26	伐休尼師今	9 05	洪水1B	大水。山崩十余所。		新羅本紀	2 54上
41	196	04.15-05.13	伐休尼師今	13 03	干ばつ1B	旱。		新羅本紀	2 54上
42	196	05.14-06.12	伐休尼師今	13 04	雷1B	震宮南大樹。		新羅本紀	2 54上
43	196	02.16-06.12	奈解尼師今	1 01-04	大雨1B・干ばつ1B	是年。自正月至四月不雨。及王即位之日大雨。百姓歡慶。		新羅本紀	2 54上
44	198	06.21-07.20	奈解尼師今	3 05	洪水1B	国西大水。免遭水州累一年租調。		新羅本紀	2 54上
45	200	07.29-08.27	奈解尼師今	5 07	霜1B	隕霜殺草。		新羅本紀	2 54上
46	201	04.21-05.19	奈解尼師今	6 03	干ばつ1B	大旱。録内外繫囚。原輕罪。		新羅本紀	2 54上
47	203	11.22-12.20	奈解尼師今	8 10		桃李華。人大疫。		新羅本紀	2 54上
48	205	08.03-09.01	奈解尼師今	10 07	霜1B・ひょう1B	霜雹殺穀。		新羅本紀	2 54下
49	210	02.12-08.07	奈解尼師今	15 春-夏	干ばつ1C	春夏旱。発使録郡邑獄囚。除二死余悉原之。		新羅本紀	2 54下
50	212	06.17-07.16	奈解尼師今	17 05	大雨1B・洪水1B	大雨。漂毀民屋。		新羅本紀	2 54下
51	214	03.29-04.26	奈解尼師今	19 03	強風1B	大風折木。		新羅本紀	2 54下
52	215	01.18-02.16	奈解尼師今	19 12	雷1B	雷。		新羅本紀	2 54下
53	219	05.02-05.31	奈解尼師今	24 04	ひょう1B	雹傷菽麥。		新羅本紀	2 54下
54	226	02.15-08.10	奈解尼師今	31 春-06	干ばつ1C	春不雨。至秋七月乃雨。民飢。発倉賑給。		新羅本紀	2 54下
55	229	11.04-12.03	奈解尼師今	34 10	大雪1B	大雪深五尺。		新羅本紀	2 55上

56	233	04.27-05.26	助賁尼師今	4	04	強風1B	大風飛屋瓦。		新羅本紀	2	55上
57	242	-	助賁尼師今	13	-		秋。大有年。		新羅本紀	2	55下
58	253	06.14-09.09	沾解尼師今	7	05-07	干ばつ1B	自五月至秋七月不雨。禱祀祖廟及名山。乃雨。年饑多盜賊。		新羅本紀	2	55下
59	259	08.06-09.03	沾解尼師今	13	07	干ばつ1B	旱蝗。年荒多盜。		新羅本紀	2	56上
60	260	04.28-07.24	沾解尼師今	14	夏	大雨1C	大雨。山崩四十余所。		新羅本紀	2	56上
61	268	02.01-07.26	味鄒尼師今	7	春-夏	干ばつ1C	春夏不雨。会群臣於南堂。親問政刑得失。又遣使五人。巡問百姓苦患。		新羅本紀	2	56上
62	272	08.11-09.09	味鄒尼師今	11	07	霜1B	霜害穀。		新羅本紀	2	56下
63	278	05.09-06.07	味鄒尼師今	17	04	強風1B	暴風拔木。		新羅本紀	2	56下
64	280	05.16-06.14	味鄒尼師今	19	04	干ばつ1B	旱。録囚。		新羅本紀	2	56下
65	286	04.11-05.10	儒禮尼師今	3	03	干ばつ1B	旱。		新羅本紀	2	56下
66	290	05.26-06.24	儒禮尼師今	7	05	洪水1B	大水。月城頽毀。		新羅本紀	2	56下
67	292	07.31-08.29	儒禮尼師今	9	07	干ばつ1B	旱蝗。		新羅本紀	2	57上
68	298	02.28-03.29	儒禮尼師今	15	02	濃霧1B	京都大霧不弁人。五日而霽。		新羅本紀	2	57上
69	302	02.15-08.10	其臨尼師今	5	春-夏	干ばつ1C	春夏旱。		新羅本紀	2	57下
70	313	08.09-09.07	訖解尼師今	4	07	干ばつ1B	旱蝗。民飢。免使救恤之。		新羅本紀	2	57下
71	314	03.04-04.01	訖解尼師今	5	02	干ばつ1B	重修宮闕。不雨乃止。		新羅本紀	2	57下
72	317	01.30-07.25	訖解尼師今	8	春-夏	干ばつ1C	春夏旱。		新羅本紀	2	57下
73	318	03.20-04.17	訖解尼師今	9	02	干ばつ1B	下令。向以旱災。(後略)		新羅本紀	2	57下
74	337	04.18-05.16	訖解尼師今	28	03	ひょう1B	雨雹。		新羅本紀	2	57下
75	337	05.17-06.15	訖解尼師今	28	04	霜1B	隕霜。		新羅本紀	2	57下
76	344	04.30-05.29	訖解尼師今	35	04	強風1B	暴風拔宮南大樹。		新羅本紀	2	57下
77	350	05.24-06.21	訖解尼師今	41	04	長雨1B・大雨1B・洪水1B	大雨決旬。平地水三四尺。漂流官私屋舍。山崩十三所。		新羅本紀	2	58上
78	366	04.27-05.26	奈勿尼師今	11	04	洪水1B	大水。山崩十三所。		新羅本紀	3	72下
79	373	02.10-08.05	奈勿尼師今	17	春-夏	干ばつ1C	春夏大旱。年荒。民飢多流亡。免使開倉廩賑之。		新羅本紀	3	72下
80	376	-	奈勿尼師今	21	-		大有年。		新羅本紀	3	72下
81	381	02.11-08.07	奈勿尼師今	26	春-夏	干ばつ1C	春夏大旱。年荒民飢。(後略)		新羅本紀	3	72下
82	388	11.16-02.12	奈勿尼師今	33	冬	高温1C	無水。		新羅本紀	3	72下
83	401	01.31-07.27	奈勿尼師今	46	春-夏	干ばつ1C	春夏旱。		新羅本紀	3	73上
84	406	11.28-12.26	実聖尼師今	5	11	高温1B	無水。		新羅本紀	3	73下
85	420	02.01-07.26	訖祇麻立干	4	春-夏	干ばつ1C	春夏大旱。		新羅本紀	3	74上
86	420	07.27-08.25	訖祇麻立干	4	07	霜1B	隕霜。民飢有売子孫者。慮囚原罪。		新羅本紀	3	74上
87	431	08.25-09.23	訖祇麻立干	15	07	ひょう1B・霜1B	霜雹殺穀。		新羅本紀	3	74上
88	435	02.15-03.15	訖祇麻立干	19	01	強風1B	大風拔木。		新羅本紀	3	74上
89	436	05.03-05.31	訖祇麻立干	20	04	ひょう1B	雨雹。慮囚。		新羅本紀	3	74上
90	438	05.11-06.09	訖祇麻立干	22	04	洪水1B・強風1B・ひょう1B	牛頭郡山水暴至。漂流五十余家。京都大風雨雹。教民牛車之法。		新羅本紀	3	74上
91	453	01.27-08.20	訖祇麻立干	37	春-夏	干ばつ1C	春夏旱。		新羅本紀	3	74下
92	454	08.11-09.08	訖祇麻立干	38	07	ひょう1B	霜雹害穀。		新羅本紀	3	74下
93	457	03.13-04.10	訖祇麻立干	41	02	強風1B	大風拔木。		新羅本紀	3	74下
94	457	05.11-06.08	訖祇麻立干	41	04	霜1B	隕霜傷麥。		新羅本紀	3	74下
95	465	05.12-06.10	慈悲麻立干	8	04	洪水1B	大水。山崩一十七所。		新羅本紀	3	75上
96	469	04.28-05.27	慈悲麻立干	12	04	洪水1B	国西大水。漂流民戶。		新羅本紀	3	75上
97	480	05.26-06.24	照知麻立干	2	05	干ばつ1B	京都旱。		新羅本紀	3	75下
98	482	03.07-04.04	照知麻立干	4	02	強風1B	大風拔木。金城南門火。		新羅本紀	3	75下
99	483	04.24-05.23	照知麻立干	5	04	洪水1B	大水。		新羅本紀	3	75下
100	483	08.20-09.18	照知麻立干	5	07	洪水1B	大水。		新羅本紀	3	75下
101	483	12.16-01.14	照知麻立干	5	11	雷1B	雷。京都大疫。		新羅本紀	3	75下
102	484	04.12-05.11	照知麻立干	6	03	ひょう1B	雨雹。		新羅本紀	3	75下
103	487	11.03-12.01	照知麻立干	9	10	雷1B	雷。		新羅本紀	3	76上
104	492	02.15-08.09	照知麻立干	14	春-夏	干ばつ1C	春夏旱。王賁己減常膳。		新羅本紀	3	76上
105	494	04.22-05.20	照知麻立干	16	04	洪水1B	大水。		新羅本紀	3	76上
106	496	05.29-06.27	照知麻立干	18	05	大雨1B・洪水1B	大雨。闕川水漲。漂流二百余家。		新羅本紀	3	76上
107	497	08.15-09.13	照知麻立干	19	07	干ばつ1B	旱蝗。		新羅本紀	3	76下
108	500	05.16-06.14	照知麻立干	22	04	強風1B	暴風拔木。		新羅本紀	3	76下
109	500	05.16-06.14	照知麻立干	22	04	砂じん1B	京都黃霧四塞。	黄砂?	新羅本紀	3	76下
110	506	02.11-08.06	智證麻立干	7	春-夏	干ばつ1C	春夏旱。民饑。免倉賑救。		新羅本紀	4	94下
111	509	08.04-09.01	智證麻立干	10	07	霜1B	隕霜殺穀。		新羅本紀	4	94下
112	510	11.19-12.18	智證麻立干	11	10	雷1B	雷。		新羅本紀	4	94下
113	540	11.17-12.15	真興王	1	10		地震。桃李華。		新羅本紀	4	96上
114	541	04.14-05.12	真興王	2	03	大雪1B	雪三尺。		新羅本紀	4	96上
115	575	01.29-07.24	真興王	36	春-夏	干ばつ1C	春夏旱。		新羅本紀	4	97上
116	585	04.07-05.06	真平王	7	03	干ばつ1B	旱。王避正殿減常膳。御南堂親録囚人。		新羅本紀	4	98上
117	586	05.26-06.23	真平王	8	05	雷1B	雷震。星隕如雨。		新羅本紀	4	98上

118	589	08.19-09.17	真平王	11	07	洪水1B	国西大水。漂没人戸三万三百六十。死者二百余人。王発使賑恤之。		新羅本紀	4	98下
119	613	01.30-04.27	真平王	35	春	干ばつ1C	春。旱。		新羅本紀	4	99上
120	613	04.28-05.27	真平王	35	04	霜1B	降霜。		新羅本紀	4	99上
121	627	03.26-04.23	真平王	49	03	強風1B・砂じん1B	大風雨土。過五日。	黄砂？	新羅本紀	4	99下
122	627	09.18-10.17	真平王	49	08	霜1B	隕霜殺穀。		新羅本紀	4	99下
123	628	05.12-08.07	真平王	50	夏	干ばつ1C	夏大旱。移市。畫竜祈雨。秋冬民飢。売子女。		新羅本紀	4	99下
124	632	05.28-06.25	善徳王	1	05	干ばつ1B	夏五月。旱。至六月乃雨。		新羅本紀	5	119上
125	634	04.07-05.05	善徳王	3	03	ひょう1B	雹大如栗。		新羅本紀	5	119上
126	637	04.04-05.02	真徳王	6	03	大雪1B	京都大雪。		新羅本紀	5	122上
127	657	08.18-09.16	太宗武烈王	4	07	洪水1B	一善郡大水。溺死者三百余人。		新羅本紀	5	123上
128	661	06.14 or 06.16	太宗武烈王	8	05.09 or 05.11	雷1A	(前略)及雷雨以震。(後略)		新羅本紀	5	125上
129	662	02.27	文武	2	02.01	風雪1A・低温1A	是日風雪寒沍。人馬多凍死。		新羅本紀	6	141下
130	662	09.21-10.20	文武	2	08	雷1B	(前略)沙浪如冬打母。天雷雨震死。		新羅本紀	6	142上
131	663	06.14-07.13	文武	3	05	雷1B	震靈廟寺門。		新羅本紀	6	142上
132	671	05.17-06.14	文武	11	04	雷1B	震輿輪寺南門。		新羅本紀	7	168上
133	674	08.10-09.08	文武	14	07	暴風1B	大風毀為大書省。		新羅本紀	7	173上
134	683	05.05-06.03	神文王	3	04	大雪1B	平地雪三尺。		新羅本紀	8	194上
135	687	03.22-04.20	神文王	7	02	雷1B	是日陰沉味暗。大雷電。		新羅本紀	8	194下
136	696	05.10-06.07	孝昭王	5	04	干ばつ1B	国西旱。		新羅本紀	8	195上
137	698	03.21-04.18	孝昭王	7	02	強風1B	京都地動。大風折木。		新羅本紀	8	195下
138	698	08.15-09.12	孝昭王	7	07	洪水1B	京都大水。		新羅本紀	8	195下
139	703	07.23-08.20	聖徳王	2	07	洪水1B	靈廟寺災。京都大水。溺死者衆。		新羅本紀	8	195下
140	705	05.31-06.29	聖徳王	4	05	干ばつ1B	旱。		新羅本紀	8	196上
141	709	06.16-07.15	聖徳王	8	05	干ばつ1B	旱。		新羅本紀	8	196上
142	711	03.28-04.26	聖徳王	10	03	大雪1B	大雪。		新羅本紀	8	196上
143	714	05.22-08.18	聖徳王	13	夏	干ばつ1C	旱。人多疾病。		新羅本紀	8	196下
144	715	07.10-08.07	聖徳王	14	06	干ばつ1B	大旱。王河西州竜鳴嶽居士理暎。祈雨於林泉寺池上。則雨決旬。		新羅本紀	8	196下
145	716	04.01-04.30	聖徳王	15	03	強風1B	大風拔木飛瓦。崇禮殿毀。		新羅本紀	8	196下
146	716	06.28-07.27	聖徳王	15	06	干ばつ1B	旱。又召居士理暎祈禱。則雨。赦罪人。		新羅本紀	8	196下
147	718	07.07-08.04	聖徳王	17	06	雷1B	震皇竜寺塔。始造漏刻。		新羅本紀	8	197上
148	719	10.22-11.19	聖徳王	18	09	雷1B	震金馬郡弥勒寺。		新羅本紀	8	197上
149	720	05.16-06.14	聖徳王	19	04	大雨1B・洪水1B・ひょう1B	大雨。山崩十三所。雨雹傷禾苗。		新羅本紀	8	197上
150	721	10.30-01.25	聖徳王	20	冬	少雪1C	冬無雪。		新羅本紀	8	197上
151	725	04.22-05.20	聖徳王	24	03	低温1B	雪。	降雪を低温と解釈した。	新羅本紀	8	197下
152	725	05.21-06.18	聖徳王	24	04	ひょう1B	雹。		新羅本紀	8	197下
153	733	08.18-09.16	聖徳王	32	07	(大雪1B)	(前略)発兵撃鞮鞞南部。会大雪丈余。山路阻隘。(後略)	「大雪」となるが、季節的に疑わしい。	新羅本紀	8	198上
154	745	05.10-06.10	景德王	4	04	ひょう1B	京都雹。大如雞子。		新羅本紀	9	214上
155	745	06.09-07.07	景德王	4	05	干ばつ1B	旱。		新羅本紀	9	214上
156	747	08.15-11.10	景德王	6	秋	干ばつ1C	秋。旱。		新羅本紀	9	214上
157	748	11.11-02.07	景德王	6	冬	少雪1C	冬。無雪。		新羅本紀	9	214上
158	749	03.27-04.25	景德王	8	03	強風1B	暴風拔木。		新羅本紀	9	214上
159	754	05.01-05.30	景德王	13	04	ひょう1B	京都雹。大如雞卵。		新羅本紀	9	214上
160	754	08.27-09.24	景德王	13	08	干ばつ1B	旱。蝗。		新羅本紀	9	214下
161	756	05.08-06.06	景德王	15	04	ひょう1B	大雹。		新羅本紀	9	214下
162	758	08.13-09.10	景德王	17	07	雷1B	大雷電。震仏寺十六所。		新羅本紀	9	215上
163	763	08.18-09.15	景德王	22	07	暴風1B	京都大風飛瓦拔樹。		新羅本紀	9	215下
164	767	07.05-08.02	恵恭王	3	06	雷1B・ひょう1B	京都雷雹傷草木。		新羅本紀	9	216上
165	769	06.13-07.11	恵恭王	5	05	干ばつ1B	蝗旱。命百官各拳所知。		新羅本紀	9	216上
166	769	12.07-01.05	恵恭王	5	11	少雪1B	無雪。		新羅本紀	9	216上
167	770	04.05-05.02	恵恭王	6	03	砂じん1B	雨土。	黄砂？	新羅本紀	9	216上
168	780	02.15-03.14	恵恭王	16	01	砂じん1B	黄霧。	黄砂？	新羅本紀	9	216下
169	780	03.12-04.13	恵恭王	16	02	砂じん1B	雨土。	黄砂？	新羅本紀	9	216下
170	783	03.12-04.10	宣徳王	4	02	大雪1B	京都雪三尺。		新羅本紀	9	217上
171	786	05.07-06.04	元聖王	2	04	ひょう1B	国東雨雹。桑麦皆傷。遣金元全入唐進奉方物。		新羅本紀	10	237上
172	786	08.03-08.31	元聖王	2	07	干ばつ1B	旱。		新羅本紀	10	237下
173	788	08.10-11.06	元聖王	4	秋	干ばつ1C	国西旱蝗。多盜賊。王発使安撫之。		新羅本紀	10	237下

174	789	07.31-08.28	元聖王	5	07	霜1B	隕霜傷穀。		新羅本紀	10	237下
175	790	03.25-04.22	元聖王	6	03	干ばつ1B	大旱。		新羅本紀	10	238上
176	791	11.05-12.03	元聖王	7	10	大雪1B	京都雪三尺。人有凍死。		新羅本紀	10	238上
177	793	09.14-10.13	元聖王	9	08	暴風1B	大風折木偃禾。		新羅本紀	10	238上
178	795	04.28-05.26	元聖王	11	04	干ばつ1B	夏四月。旱。親録囚。至六月乃雨。		新羅本紀	10	238下
179	795	08.23-09.21	元聖王	11	08	霜1B	隕霜害穀。		新羅本紀	10	238下
180	797	09.29-10.28	元聖王	13	09	洪水1B	国東蝗害。大水山崩。		新羅本紀	10	238下
181	798	07.22-08.19	元聖王	14	06	干ばつ1B	旱。		新羅本紀	10	238下
182	800	05.02-05.30	昭聖王	2	04	強風1B	暴風折木蜚瓦。瑞蘭殿簾飛不知處。臨海・仁化二門壞。		新羅本紀	10	238下
183	807	09.10-10.08	哀莊王	8	08	大雪1B	大雪。		新羅本紀	10	239下
184	809	08.19-09.16	哀莊王	10	07	干ばつ1B	大旱。		新羅本紀	10	239下
185	814	05.27-06.24	憲德王	6	05	洪水1B	国西大水。発使撫門經水州郡人民。復一年調。		新羅本紀	10	240上
186	814	08.23-09.21	憲德王	6	08	濃霧1B	京都風霧如夜。		新羅本紀	10	240上
187	817	05.24-06.22	憲德王	9	05	干ばつ1B	夏五月。不雨。遍祈山川。至秋七月乃雨。		新羅本紀	10	240下
188	820	02.22-08.16	憲德王	12	春-夏	干ばつ1C	春夏。旱。		新羅本紀	10	240下
189	822	01.29	憲德王	13	12.29	雷1A	大雷。		新羅本紀	10	240下
190	822	03.02-03.30	憲德王	14	02	大雪1B	雪五尺。樹木枯。		新羅本紀	10	241上
191	823	08.14-09.12	憲德王	15	07		雪。	降雪は季節的に疑わしい。	新羅本紀	10	241下
192	825	03.28-04.25	憲德王	17	03	雷1B	武珍州馬弥知果女人産兒。二頭二身四腎。産時天大雷。		新羅本紀	10	241下
193	827	06.03-07.01	興徳王	2	05	霜1B	降雪。		新羅本紀	10	242上
194	827	08.30-09.28	興徳王	2	08	干ばつ1B	京都大旱。		新羅本紀	10	242上
195	828	04.22-05.21	興徳王	3	03	雷1B・大雪1B	雪震三尺。		新羅本紀	10	242上
196	832	02.10-08.03	興徳王	7	春-夏	干ばつ1C	春夏。旱。赤池。王避正殿。減常膳。赦内外獄囚。秋七月乃雨。		新羅本紀	10	242上
197	833	11.19-12.18	興徳王	8	10		桃李再華。		新羅本紀	10	242下
198	840	05.10-08.05	文聖王	2	04-06	干ばつ1B	不雨。		新羅本紀	11	258下
199	844	03.27-04.25	文聖王	6	03	ひょう1B	京都雨雹。		新羅本紀	11	259上
200	845	12.07-01.05	文聖王	7	11	雷1B	雷。無雪。		新羅本紀	11	259上
201	848	02.13-08.06	文聖王	10	春-夏	干ばつ1C	春夏。旱。		新羅本紀	11	259上
202	850	02.20-03.21	文聖王	12	01	強風1B・砂じん1B	京都雨土。大風拔木。	黄砂？	新羅本紀	11	259上
203	851	05.09-06.07	文聖王	13	04	霜1B	隕霜。		新羅本紀	11	259下
204	853	07.14-08.12	文聖王	15	06	洪水1B	大水。		新羅本紀	11	259下
205	858	05.21-06.18	憲安王	2	04	霜1B	降雪。		新羅本紀	11	259下
206	858	06.19-09.14	憲安王	2	05-07	干ばつ1B	自五月至秋七月不雨。		新羅本紀	11	259下
207	863	11.19-12.18	景文王	3	10		桃李華。		新羅本紀	11	260下
208	863	12.19-01.16	景文王	3	11	少雪1B	無雪。		新羅本紀	11	260下
209	867	09.06-10.05	景文王	7	08	洪水1B	大水。穀不登。		新羅本紀	11	260下
210	868	06.28-07.26	景文王	8	06	雷1B	震皇竜寺塔。		新羅本紀	11	260下
211	870	08.05-09.03	景文王	10	07	洪水1B	大水。		新羅本紀	11	261上
212	870	11.01-01.28	景文王	10	冬	少雪1C	冬。無雪。国人多疫。		新羅本紀	11	261上
213	880	-	憲康王	6	-		陰陽和。風雨順。歲有年。		新羅本紀	11	261下
214	886	09.06-10.05	定康王	1	08	干ばつ1B	国西旱且荒。		新羅本紀	11	262上
215	887	10.25-02.19	眞聖王	1	冬	少雪1C	冬。無雪。		新羅本紀	11	262下
216	888	06.17-07.16	眞聖王	2	05	干ばつ1B	旱。		新羅本紀	11	262下
217	902	04.16-05.15	孝恭王	6	03	霜1B	降雪。		新羅本紀	12	276下
218	905	05.12-06.10	孝恭王	9	04	霜1B	降雪。		新羅本紀	12	276下
219	906	05.01-06.29	孝恭王	10	04-05	干ばつ1B	自夏四月至五月不雨。		新羅本紀	12	277上
220	907	02.20-08.16	孝恭王	11	春-夏	干ばつ1C	春夏。無雨。		新羅本紀	12	277上
221	908	04.09-05.07	孝恭王	12	03	霜1B	隕霜。		新羅本紀	12	277上
222	908	05.08-06.06	孝恭王	12	04	ひょう1B	雨雹。		新羅本紀	12	277上
223	913	05.14-06.11	神徳王	2	04	霜1B	隕霜。地震。		新羅本紀	12	277上
224	914	04.04-05.02	神徳王	3	03	霜1B	隕霜。		新羅本紀	12	277上
225	915	07.20-08.18	神徳王	4	06	波浪1B	槩浦水與東海水相擊。浪高二丈許。三日而止。		新羅本紀	12	277上
226	921	05.16-06.13	景明王	5	04	強風1B	京都大風拔樹。		新羅本紀	12	278上
227	921	09.10-10.08	景明王	5	08	干ばつ1B	蝗。旱。		新羅本紀	12	278上
228	-34		東明聖王	4	07	濃霧1B	雲霧四起。人不弁色七日。		高句麗本紀	13	295下
229	-1		琉璃明王	14	11	大雪1B・低温1B	大雪。人多凍死。		高句麗本紀	13	296下
230	22	03.20-04.17	大武神王	5	02	濃霧1B	(前略)乃乞靈於天。忽大霧。咫尺不弁人物。		高句麗本紀	14	308下
231	31	12.02-12.30	大武神王	14	11	雷1B・少雪1B	有雷無雪。		高句麗本紀	14	309下
232	41	04.18-05.17	大武神王	24	03	ひょう1B	京都雨雹。		高句麗本紀	14	310上
233	41	08.14-09.12	大武神王	24	07	霜1B	隕霜殺穀。		高句麗本紀	14	310上
234	41	09.13-10.11	大武神王	24	08		梅花発。		高句麗本紀	14	310上
235	45	06.02-07.01	閔中王	2	05	洪水1B	国東大水。民饑。発倉賑給。		高句麗本紀	14	310下

三国史記

236	47	01.14-02.11	閔中王	3	12	少雪1B	京都無雪。		高句麗本紀	14	310下
237	48	08.26-09.24	慕本王	1	08	洪水1B	大水, 山崩二十余所。		高句麗本紀	14	310下
238	48	04.01-04.29	慕本王	1	03	強風1B	暴風拔樹。		高句麗本紀	14	310下
239	48	04.30-05.29	慕本王	1	04	ひょう1B・霜1B	隕霜雨雹。		高句麗本紀	14	310下
240	59	07.27-08.25	太祖大王	7	07	洪水1B	京都大水。漂没民屋。		高句麗本紀	15	321上
241	68	11.12-12.11	太祖大王	16	10	雷1B	雷。		高句麗本紀	15	321上
242	72	05.05-06.02	太祖大王	20	04	干ばつ1B	京都旱。		高句麗本紀	15	321上
243	77	12.03-12.31	太祖大王	25	11	大雪1B	京都雪三尺。		高句麗本紀	15	321下
244	108	01.30-07.24	太祖大王	56	春-夏	干ばつ1C	春。大旱。至夏。赤地。民饑。王兇使賑恤。		高句麗本紀	15	321下
245	117	01.20-02.17	太祖大王	64	12	大雪1B	雪五尺。		高句麗本紀	15	321下
246	118	08.04-09.01	太祖大王	66	07	ひょう1B	蝗雹害穀。		高句麗本紀	15	321下
247	153	07.08-08.06	次大王	8	06	霜1B	隕霜。		高句麗本紀	15	323下
248	154	01.01-01.30	次大王	8	12	雷1B	雷。地震。		高句麗本紀	15	323下
249	190	10.18-11.13	故国川王	12	09	大雪1B	京都雪六尺。		高句麗本紀	16	336下
250	194	08.04-09.01	故国川王	16	07	霜1B	墜霜殺穀。民飢。開倉賑給。		高句麗本紀	16	337上
251	199	11.05-12.04	故国川王	21	10	雷1B	雷。地震。星孛于東北。		高句麗本紀	16	338下
252	257	01.03-01.31	中川王	9	12	少雪1B	無雪。大疫。		高句麗本紀	17	354上
253	262	11.29-12.27	中川王	15	11	雷1B	雷。地震。		高句麗本紀	17	354上
254	272	05.15-06.12	西川王	3	04	霜1B	隕霜害麥。		高句麗本紀	17	354下
255	272	07.13-08.10	西川王	3	06	干ばつ1B	大旱。		高句麗本紀	17	354下
256	298	10.22-11.20	烽上王	7	09	ひょう1B・霜1B	霜雹殺穀。		高句麗本紀	17	355上
257	300	01.08-02.06	烽上王	8	12	雷1B	雷。地震。		高句麗本紀	17	355上
258	300	03.08-08.31	烽上王	9	02-07	干ばつ1B	自二月至秋七月不雨。年饑民相食。		高句麗本紀	17	355上
259	300	10.31-11.28	美川王	1?	10	砂じん1B	黄霧四塞。	黄砂?	高句麗本紀	17	356上
260	300	11.29-12.28	美川王	1?	11		風徒西北來。飛沙走石六日。		高句麗本紀	17	356上
261	335	01.12-02.10	故国原王	4	12	少雪1B	無雪。		高句麗本紀	18	370下
262	335	08.07-09.04	故国原王	5	07	霜1B	隕霜殺穀。		高句麗本紀	18	370下
263	343	12.04-01.02	故国原王	13	11	大雪1B	雪五尺。		高句麗本紀	18	371上
264	377	11.18-12.17	小獸林王	7	10	雷1B・少雪1B	無雪。雷。民疫。		高句麗本紀	18	371下
265	378	-	小獸林王	8	-	干ばつ1C	旱。民饑相食。		高句麗本紀	18	372上
266	386	11.09-12.08	故国壤王	3	10		桃李華。		高句麗本紀	18	372上
267	388	05.23-06.21	故国壤王	5	04	干ばつ1B	大旱。		高句麗本紀	18	372上
268	405	08.12-09.10	広開土王	15	07	干ばつ1B	蝗。旱。		高句麗本紀	18	372下
269	414	12.29-01.26	長寿王	2	12	大雪1B	王都雪五尺。		高句麗本紀	18	373上
270	419	06.10-07.08	長寿王	7	05	洪水1B	国東大水。王遣使存問。		高句麗本紀	18	373上
271	424	10.10-11.07	長寿王	12	09		大有年。		高句麗本紀	18	373上
272	494	11.15-12.13	文咨王	3	10		桃李華。		高句麗本紀	19	386上
273	495	03.13-04.11	文咨王	4	02	干ばつ1B	大旱。		高句麗本紀	19	386上
274	506	12.03-01.01	文咨王	15	11	大雪1B・低温1B	遣將伐百濟。大雪。士卒凍斃而還。		高句麗本紀	19	386下
275	518	03.29-04.27	文咨王	27	03	強風1B	暴風拔木。王宮南門毀。		高句麗本紀	19	387上
276	535	02.20-05.19	安滅王	5	春	干ばつ1C	旱。		高句麗本紀	19	387下
277	535	06.18-07.17	安原王	5	05	洪水1B	国南大水。漂没民屋。死者二百余人。		高句麗本紀	19	387下
278	536	01.11-02.09	安原王	5	12	雷1B	雷。大疫病。		高句麗本紀	19	387下
279	536	02.10-08.04	安原王	6	春-夏	干ばつ1C	春夏。大旱。兇使無恤饑民。		高句麗本紀	19	387下
280	540	11.17-12.15	安原王	10	10		桃李華。		高句麗本紀	19	388上
281	542	04.03-05.01	安原王	12	03	強風1B	大風。拔木飛瓦。		高句麗本紀	19	388上
282	542	05.02-05.31	安原王	12	04	ひょう1B	雹。		高句麗本紀	19	388上
283	546	05.18-06.15	陽原王	2	04	ひょう1B	雹。		高句麗本紀	19	388上
284	555	01.11-02.08	陽原王	10	12	高温1B	無冰。		高句麗本紀	19	388下
285	561	06.30-07.29	平原王	3	06	洪水1B	大水。		高句麗本紀	19	388下
286	563	05.10-08.06	平原王	5	夏	干ばつ1C	大旱。王減常膳。祈禱山川。		高句麗本紀	19	388下
287	571	09.07-10.06	平原王	13	08	干ばつ1B	蝗。旱。罷役。		高句麗本紀	19	389上
288	581	08.18-09.15	平原王	23	07	ひょう1B・霜1B	霜雹殺穀。		高句麗本紀	19	389上
289	640	09.24-10.23	荣留王	23	09		日無光。		高句麗本紀	20	409上
290	645	10.29-11.26	宝蔵王	4	10	風雪1B	帝至蒲溝駐馬。督填道。諸軍渡渤鍇水。暴風雪。士卒沾湿。多死者。(後略)		高句麗本紀	21	428上
291	650	08.06-09.03	宝蔵王	9	07	霜1B・ひょう1B	霜雹害穀。民饑。		高句麗本紀	22	441上
292	661	06.06-07.05	宝蔵王	20	05	雷1B	(前略)又雷雨震聲。惱音信等疑駭引退。		高句麗本紀	22	441下
293	662	01.28-02.26	宝蔵王	21	01	大雪1B	(前略)蘇定方圍平壤。会大雪。解而退。		高句麗本紀	22	441下
294	-16		温祚王	3	10	雷1B	雷。桃李華。		百濟本紀	23	457下
295	-15		温祚王	4	春-夏	干ばつ1C	春夏。旱。饑疫。		百濟本紀	23	457下
296	-1		温祚王	18	11	大雪1B	王欲襲桑浪牛頭山城。至曰谷。遇大雪乃還。		百濟本紀	23	458上
297	10	05.01-05.29	温祚王	28	04	霜1B	隕霜害麥。		百濟本紀	23	458下

三国史記

298	13	04.27-05.26	温祚王	31	04	ひょう1B	雹。		百濟本紀	23	458下
299	15	02.06-08.01	温祚王	33	春-夏	干ばつ1C	春夏。大旱。民饑相会。盜賊大起。王撫安之。		百濟本紀	23	458下
300	19	04.22-05.20	温祚王	37	03	ひょう1B	雹。大如雞子。烏雀遇者死。		百濟本紀	23	459上
301	19	05.21-07.18	温祚王	37	04-05	干ばつ1B	夏四月。旱。至六月乃雨。漢水東北部落饑荒。(後略)		百濟本紀	23	459上
302	25	02.15-08.10	温祚王	43	春-夏	干ばつ1C	春夏。大旱。草木焦枯。		百濟本紀	23	459上
303	34	05.05-06.03	多婁王	7	04		東方有赤氣。		百濟本紀	23	459下
304	55	02.14-08.09	多婁王	28	春-夏	干ばつ1C	春夏。旱。慮囚赦死罪。		百濟本紀	23	459下
305	90	04.16-05.15	己婁王	14	03	干ばつ1B	大旱。無麥。		百濟本紀	23	460上
306	90	07.14-08.11	己婁王	14	06	暴風1B	大風拔木。		百濟本紀	23	460上
307	99	09.02-09.30	己婁王	23	08	霜1B	隕霜殺菽。		百濟本紀	23	460上
308	99	10.31-11.28	己婁王	23	10	ひょう1B	雨雹。		百濟本紀	23	460上
309	107	11.02-01.29	己婁王	31	冬	高温1C	無冰。		百濟本紀	23	460上
310	108	01.30-07.24	己婁王	32	春-夏	干ばつ1C	春夏。旱。年饑民相食。		百濟本紀	23	460上
311	116	06.27-07.26	己婁王	40	06	長雨1B・大雨1B・洪水1B	大雨決旬。漢江水漲。漂毀民屋。	大雨が長期にわたっていることから、長雨という解釈も成り立つ。	百濟本紀	23	460上
312	186	10.30-11.27	肖古王	21	10	雷1B	無雲(雪)而雷。		百濟本紀	23	460下
313	208	07.31-10.26	肖古王	43	秋	干ばつ1C	蝗。旱。穀不順成。盜賊多起。王撫安之。		百濟本紀	23	461上
314	209	11.15-12.14	肖古王	44	10	強風1B	大風拔木。		百濟本紀	23	461上
315	211	12.23-01.20	肖古王	46	11	高温1B	無冰。		百濟本紀	23	461上
316	221	06.08-07.07	仇首王	8	05	洪水1B	國東大水。山崩四十余所。		百濟本紀	24	471下
317	227	04.04-05.03	仇首王	14	03	ひょう1B	雨雹。		百濟本紀	24	472上
318	227	05.04-06.01	仇首王	14	04	干ばつ1B	大旱。王祈東明廟。乃雨。		百濟本紀	24	472上
319	231	05.19-06.17	仇首王	18	04	ひょう1B	雨雹。大如栗。烏雀中者死。		百濟本紀	24	472上
320	239	02.21-06.18	古尔王	6	01-04	干ばつ1B	春正月。不雨。至夏五月乃雨。		百濟本紀	24	472上
321	246	05.03-07.30	古尔王	13	夏	干ばつ1C	大旱。無麥。		百濟本紀	24	472上
322	248	02.12-08.06	古尔王	15	春-夏	干ばつ1C	春夏。旱。冬。民饑。発倉賑恤。又復一年租調。		百濟本紀	24	472下
323	257	02.01-03.02	古尔王	24	01	干ばつ1B	大旱。樹木皆枯。		百濟本紀	24	472下
324	316	02.11-05.08	比流王	13	春	干ばつ1C	旱。		百濟本紀	24	473下
325	316	05.09-06.07	比流王	13	04		王都井水溢。黒竜見其中。		百濟本紀	24	473下
326	331	01.26-08.20	比流王	28	春-06	干ばつ1C	春夏。大旱。草木枯。江水竭。至秋七月乃雨。年饑。人相食。		百濟本紀	24	473下
327	331	08.21-09.18	比流王	28	07	雨21B	春夏。大旱。草木枯。江水竭。至秋七月乃雨。年饑。人相食。		百濟本紀	24	473下
328	334	01.23-02.20	比流王	30	12	雷1B	雷。		百濟本紀	24	473下
329	379	05.04-06.01	近仇首王	5	04	砂じん1B	雨土竟日。	黄砂?	百濟本紀	24	474下
330	382	02.01-07.27	近仇首王	8	春-06	干ばつ1C	春。不雨至六月。民饑。至有鬻子者。王出官穀贖之。		百濟本紀	24	474下
331	382	06.28-07.27	近仇首王	8	06	干ばつ1B	春。不雨至六月。民饑。至有鬻子者。王出官穀贖之。	「不雨至六月。」から「六月」を干ばつ1Bとして集計した。	百濟本紀	24	474下
332	386	08.12-09.10	辰新王	2	07	霜1B	隕霜害穀。		百濟本紀	25	488上
333	395	10.31-11.29	阿莘王	4	10	大雪1B・低温1B	(前略)次於青木嶺下。会大雪。士卒多凍死。(後略)		百濟本紀	25	488下
334	402	05.19-08.15	阿莘王	11	夏	干ばつ1C	夏。大旱。禾苗焦枯。王親祭横岳。乃雨。		百濟本紀	25	489上
335	417	05.03-06.01	腆支王	13	04	干ばつ1B	旱。民饑。		百濟本紀	25	489下
336	429	12.13-01.10	毘有王	3	11	強風1B	地震。大風飛瓦。		百濟本紀	25	489下
337	430	01.11-02.09	毘有王	3	12	高温1B	無水。		百濟本紀	25	489下
338	433	02.07-08.02	毘有王	7	春-夏	干ばつ1C	春夏。不雨。		百濟本紀	25	489下
339	447	07.30-08.27	毘有王	21	07	干ばつ1B	旱。穀不熟。民饑。流入新羅者多。		百濟本紀	25	490上
340	479	02.08-08.04	三斤王	3	春-夏	干ばつ1C	春夏。大旱。		百濟本紀	26	503上
341	480	11.19-12.18	東城王	4	10	大雪1B	大雪。大旱。		百濟本紀	26	503上
342	489	08.13-11.09	東城王	11	秋		大有年。		百濟本紀	26	503下
343	490	11.29-12.27	東城王	12	11	高温1B	無水。		百濟本紀	26	503下
344	491	06.24-07.22	東城王	13	06	洪水1B	熊川水漲。漂没王都二百余家。		百濟本紀	26	503下
345	492	04.14-05.13	東城王	14	03	低温1B	雪。	降雪を低温と解釈した。	百濟本紀	26	503下
346	492	05.14-06.11	東城王	14	04	強風1B	大風拔木。		百濟本紀	26	503下
347	495	07.09-08.07	東城王	19	06	大雨1B・洪水1B	大雨。漂毀民屋。		百濟本紀	26	504上

348	499	04.27-07.24	東城王	21	夏	干ばつ1C	大旱。民饑相食。盜賊多起。臣寮請發倉賑救。王不聽。漢山人亡入高句麗者二千。		百濟本紀	26	504上
349	500	06.15-07.13	東城王	22	05	干ばつ1B	旱。王與左右宴臨流閣。終夜極飲。		百濟本紀	26	504上
350	501	04.06-05.04	東城王	23	03	霜1B	降霜害麥。		百濟本紀	26	504上
351	501	06.04-10.29	東城王	23	05-秋	干ばつ1C	夏五月。不雨至秋。		百濟本紀	26	504上
352	501	06.04-07.02	東城王	23	05	干ばつ1B	夏五月。不雨至秋。		百濟本紀	26	504上
353	501	11.28-12.27	東城王	23	11	大雪1B	獵於熊川北原。又田於泗泚西原。阻大雪。宿於馬原村。(後略)		百濟本紀	26	504上
354	503	11.07-02.02	武寧王	3	冬	高温1C	無冰。		百濟本紀	26	504下
355	506	04.11-07.07	武寧王	6	03-05	干ばつ1B	三月至五月。不雨，川沢竭。民饑。發倉賑救。		百濟本紀	26	504下
356	521	05.24-06.22	武寧王	21	05	洪水1B	大水。		百濟本紀	26	505上
357	600	01.24-02.22	法王	2	01	干ばつ1B	大旱。王幸漆岳寺祈雨。		百濟本紀	27	514上
358	606	04.16-05.15	武王	7	03	砂じん1B	王都雨土。	黃砂？	百濟本紀	27	514下
359	606	05.16-06.13	武王	7	04	干ばつ1B	大旱。年饑。		百濟本紀	27	514下
360	612	05.09-06.06	武王	13	04	雷1B	震宮南門。		百濟本紀	27	514下
361	612	06.07-07.06	武王	13	05	洪水1B	大水。漂没人家。		百濟本紀	27	514下
362	630	05.21-06.18	武王	31	夏	干ばつ1C	夏。旱。停泗泚之役。		百濟本紀	27	515上
363	636	07.11-08.09	武王	37	06	干ばつ1B	旱。		百濟本紀	27	515下
364	649	12.13-01.10	義慈王	9	11	雷1B・高温1B	雷。無冰。		百濟本紀	28	527下
365	653	02.06-05.05	義慈王	13	春	干ばつ1C	大旱。民饑。		百濟本紀	28	528上
366	657	05.21-06.19	義慈王	17	04	干ばつ1B	大旱。赤地。		百濟本紀	28	528上
367	660	06.17-07.15	義慈王	20	05	大雨1B・強風1B・雷1B	風雨暴至。震天王，道讓二寺塔。又震白石寺講堂。玄雲如竜。東西相闕於空中。		百濟本紀	28	528下